的場遺跡

第２・３次発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第126集

２００４

財団法人　山形県埋蔵文化財センター

的場遺跡

（まとば）

第２・３次発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第126集

平成16年

財団法人　山形県埋蔵文化財センター

的場遺跡　第２次発掘調査区全景（南側上空から）

的場遺跡　第３次発掘調査区全景（北側上空から）

ＳＴ795　竪穴建物跡　カマド

ＳＴ795　出土遺物

ＳＴ751　竪穴建物跡　カマド

ＳＴ1127　竪穴建物跡　カマド

ＳＴ2004　竪穴建物跡　焼失部材検出状況

ＳＣ5001　平地式建物跡

ＳＢ107　掘立柱建物跡

ＳＫ3023　土坑　土師器出土状況

土師器（古墳時代）甕底部　輪台ケズリ飛ばし痕

土師器（古墳時代）坏底部　輪台ケズリ飛ばし痕

須恵器（古墳時代）高坏

須恵器（古墳時代）坏身・坏蓋・高坏等

土師器（平安時代）高坏　坏部内面

土師器（平安時代）高坏　坏部外面

序

本書は、財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した、的場遺跡の調査成果をまとめたものです。

的場遺跡は、天童市の北西部・成生地区に位置します。付近は田園および果樹園が広がる農業地帯ですが周辺には国指定史跡の西沼田遺跡をはじめ、板橋１遺跡・板橋２遺跡・蔵増押切遺跡など縄文時代から中世にかけての遺跡が数多く存在し、古くからこの地で人々の生活が営まれていたことがうかがえます。

このたび、東北中央自動車道相馬・尾花沢線建設事業に伴い、工事に先立って的場遺跡の発掘調査を実施しました。調査では古墳時代の竪穴建物跡・平地式建物跡や、平安時代の井戸跡などが検出され、古墳時代の土師器・須恵器や平安時代の土師器・須恵器などの遺物が出土しました。

埋蔵文化財は、祖先が長い歴史の中で創造し、育んできた貴重な国民的財産といえます。この祖先から伝えられた文化財を大切に保護するとともに、祖先の足跡を学び、子孫へと伝えていくことが私たちの重要な責務と考えます。その意味で、本書が文化財保護活動の啓発・普及、学術研究、教育活動などの一助になれば幸いです。

最後になりましたが、調査においてご協力いただいた関係各位に心から感謝申しあげます。

平成16年３月

財団法人　山形県埋蔵文化財センター

理事長　　木　村　宰

例　　言

1　本書は、平成10～11年度の東北中央自動車道相馬・尾花沢線建設事業に係る「的場遺跡」の第２次・第３次発掘調査報告書である。

なお、的場遺跡第１次調査については『東北中央自動車道相馬・尾花沢線関係予備調査報告書（１）』（山形県埋蔵文化財センター調査報告書第60集）が、また第２次・第３次調査時には『的場遺跡第２次（第３次）調査説明資料』が、それぞれ財団法人山形県埋蔵文化財センターから刊行されているが、本報告書の記載内容はそれらに優先する。

2　調査は日本道路公団東北支社の委託を受けて、財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。

3　調査要綱は下記の通りである。

遺　跡　名　　的場（まとば）遺跡

遺 跡 番 号　　295（山形県遺跡番号）

所　在　地　　山形県天童市大字成生字的場

事業委託者　　日本道路公団東北支社

調 査 主 体　　財団法人山形県埋蔵文化財センター

理　　事　　長　　木場　清耕（平成10～11年度）

理　　事　　長　　木村　　宰（平成13～15年度）

第２次調査

受 託 期 間　　平成10年４月１日～平成11年３月31日

現 地 調 査　　平成10年４月13日～平成10年６月26日

平成10年７月６日～平成10年７月31日（補足調査）

調査担当者　　研究課長（兼）

調査第一課長　　佐藤　庄一

主任調査研究員　　佐藤　正俊

調 査 研 究 員　　森谷　昌央（調査主任）

調 査 研 究 員　　押切　智紀

調　　査　　員　　黒沼　幹男

調　　査　　員　　高柳　健一

第３次調査

受 託 期 間　　平成11年４月１日～平成12年３月31日

現 地 調 査　　平成11年７月19日～平成11年11月19日

平成11年11月22日～平成11年11月30日（補足調査）

調査担当者　　調査第三課長　　佐藤　正俊

主任調査研究員　　氏家　信行

調 査 研 究 員　　齋藤　　健（調査主任）

調　　査　　員　　大泉壽太郎

調　　査　　員　　宮地　文七

平成13年度整理作業

整 理 期 間　　平成13年４月１日～平成14年３月31日

整理担当者　　調査第三課長　　佐藤　正俊

主任調査研究員　　氏家　信行

調 査 研 究 員　　齋藤　　健

平成14年度整理作業

整 理 期 間　　平成14年４月１日～平成15年３月31日

整理担当者　　調査第三課長　　阿部　明彦

主任調査研究員　　氏家　信行

調 査 研 究 員　　犬飼　　透

調　　査　　員　　黒坂　広美

平成15年度整理作業

整 理 期 間　　平成15年４月１日～平成16年３月31日

整理担当者　　調査第三課長　　阿部　明彦

主任調査研究員　　齊藤　主税

調 査 研 究 員　　齋藤　　健

調 査 研 究 員　　犬飼　　透

調　　査　　員　　黒坂　広美

4　本書の作成は犬飼　透・齋藤　健・黒坂広美が、執筆は犬飼　透（Ⅰ～Ⅳ・Ⅵ）が担当し、阿部明彦が監修した。「Ⅴ・自然科学的分析」は株式会社吉田生物研究所に執筆を依頼した。

5　委託業務は下記のとおりである。

基準点測量	株式会社大洋測量設計社
地形、遺構の写真測量・実測	アジア航測株式会社
木製品の樹種同定・保存処理	株式会社吉田生物研究所
図版編集	株式会社セビアス

6　出土遺物、調査記録類については、財団法人山形県埋蔵文化財センターが一括保管している。

7　発掘調査及び本書を作成するにあたり、下記の方々からご協力、ご助言をいただいた。（公所・団体名は順不同、個人名は五十音順。敬称略。）

山形県教育庁文化財課（現山形県教育庁社会教育課埋蔵文化財保護室）、山形県土木部高速道路整備推進室、山形県山形建設事務所高速道路用地対策課、東南村山教育事務所、天童市建設部建設課、天童市教育委員会、天童土地改良区、石井克己、田嶋明人、辻秀人、萩本勝、若狭徹。

凡　　例

1　本書で使用した遺構・遺物の分類記号は次の通りである。

ＳＴ…竪穴建物跡　　ＳＣ…平地式建物跡　　ＳＢ…掘立柱建物跡　　ＳＡ…柵列

ＳＫ…土坑　　ＳＤ…溝状遺構・畝跡　　ＳＧ…河川跡等　　ＳＰ…ピット

ＳＸ…性格不明遺構　　ＥＬ…遺構内カマド跡あるいは炉跡　　ＥＰ…遺構内柱穴

ＥＢ…掘立柱　　ＥＫ…遺構内土坑　　ＥＤ…遺構内溝跡

ＲＰ…登録土器　　ＲＱ…登録石器・石製品

ＲＷ…登録木製品　　Ｐ…土器片　　Ｓ…礫　　Ｗ…木製品・木

2　遺構番号は、基本的に現地調査段階での番号を踏襲しているが、一部に報告書作成時に新たに番号を付したものがある。

3　遺跡位置の緯度・経度は世界測地系による。また、遺構図に付す座標値は、平面直角座標系第Ｘ系（日本測地系）により、高さは東京湾平均海面を基準とする海抜高で表す。

4　遺跡図中の方位は真北を示している。グリッドの南北軸は、Ｎ－12°－Ｗを測る。

5　遺構実測図は１／30・１／40・１／50・１／60・１／80の縮図で採録し、各々スケールを付した。

6　遺物実測図・拓影図は１／３・１／４・１／５・１／６・１／８で採録し、各々スケールを付した。

7　遺構・遺物実測図中のアミはそれぞれ、以下の意味を示す。

■…須恵器断面　　▨…遺構断面図地山　　■…遺構内炭化物

■…土器内面・外面の黒色処理　　▒…遺構内焼土　　□…土師器底部削り範囲

8　遺物の写真図版中の縮尺は任意による。

9　遺物番号は、遺物実測図・遺物計測表・遺物の写真図版ともに共通したものである。

10　土層断面中の色調の記載は、1997年度農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帳」に拠った。

目　　次

Ⅰ　調査の経緯……1
Ⅱ　遺跡の立地と環境……4
Ⅲ　遺跡の概要
　1　遺跡の層序……7
　2　遺構と遺物の分布……7
Ⅳ　出土した遺構と遺物
　1　竪穴建物跡……9
　2　平地式建物跡……18
　3　掘立柱建物跡……19
　4　土坑……22
　5　井戸跡……24
　6　溝状遺構・畝跡等……25
　7　河川跡等……27
　8　その他の遺構……28
Ⅴ　自然科学的分析……29
Ⅵ　考察とまとめ……34

報告書抄録……巻末

表

表１　山形県的場遺跡出土木製品同定表 ……33
表２　古墳時代土師器分類表 ……35
表３　遺物計測表（１）……40
表４　遺物計測表（２）……41
表５　遺物計測表（３）……42
表６　遺物計測表（４）……43
表７　遺物計測表（５）……44
表８　遺物計測表（６）……45
表９　遺物計測表（７）……46
表10　遺物計測表（８）……47
表11　遺物計測表（９）……48
表12　遺物計測表（10）……49
表13　遺物計測表（11）……50
表14　遺物計測表（12）……51
表15　遺物計測表（13）……52
表16　遺物計測表（14）……53
表17　遺物計測表（15）……54

図　版

第 1 図　遺跡位置図 …… 5
第 2 図　調査区概要図 …… 6
第 3 図　基本層序 …… 7
第 4 図　遺構配置図（全体） ……55～56
第 5 図　遺構配置図（部分１） ……57
第 6 図　遺構配置図（部分２） ……58
第 7 図　遺構配置図（部分３） ……59
第 8 図　遺構配置図（部分４） ……60
第 9 図　遺構配置図（部分５） ……61
第 10 図　遺構配置図（部分６） ……62
第 11 図　ＳＴ687 ……63
第 12 図　ＳＴ716 ……64
第 13 図　ＳＴ735 ……65
第 14 図　ＳＴ751 ……66
第 15 図　ＳＴ751カマド ……67
第 16 図　ＳＴ777 ……68
第 17 図　ＳＴ789・ＳＴ792 ……69
第 18 図　ＳＴ795 ……70
第 19 図　ＳＴ795カマド ……71
第 20 図　ＳＴ1110・ＳＴ1112 ……72
第 21 図　ＳＴ1127 ……73
第 22 図　ＳＴ2002 ……74
第 23 図　ＳＴ2002カマド ……75
第 24 図　ＳＴ2004 ……76
第 25 図　ＳＴ2006・ＳＴ2007 ……77
第 26 図　ＳＴ2008 ……78
第 27 図　ＳＴ2009 ……79
第 28 図　ＳＴ2010・ＳＴ2011 ……80
第 29 図　ＳＴ2012 ……81
第 30 図　ＳＴ2014 ……82
第 31 図　ＳＴ2014遺物出土状況 ……83
第 32 図　ＳＴ2016 ……84
第 33 図　ＳＴ2017 ……85
第 34 図　ＳＴ2019 ……86
第 35 図　ＳＴ2020・ＳＴ4002 ……87
第 36 図　ＳＴ4003 ……88
第 37 図　ＳＴ4003遺物出土状況 ……89
第 38 図　ＳＴ4004 ……90
第 39 図　ＳＴ4004カマド ……91
第 40 図　ＳＴ4005・ＳＴ4006 ……92
第 41 図　ＳＴ4005カマド ……93
第 42 図　ＳＣ5001 ……94
第 43 図　ＳＣ5002 ……95
第 44 図　ＳＢ107/ＳＢ672出土遺物 ……96
第 45 図　ＳＢ457・ＳＢ672 ……97
第 46 図　ＳＢ879・ＳＢ1620 ……98
第 47 図　ＳＢ1601/ＳＢ1601・ＳＢ879出土遺物 ……99
第 48 図　ＳＢ3501・ＳＡ3508 ……100
第 49 図　ＳＢ3501出土遺物 ……101
第 50 図　ＳＢ3502/ＳＢ3502出土遺物 ……102
第 51 図　ＳＢ3503/ＳＢ3503出土遺物 ……103
第 52 図　ＳＢ3505・ＳＢ3506 ……104
第 53 図　ＳＢ3507/ＳＢ3507出土遺物 ……105
第 54 図　ＳＫ1097・ＳＤ186 ……106
第 55 図　ＳＴ3023・ＳＫ3030/ＳＫ3030
遺物出土状況 ……107
第 56 図　ＳＫ2112・ＳＫ2260・ＳＫ2294・ＳＫ2308・
ＳＫ2320 ……108
第 57 図　ＳＫ2539・ＳＫ3024・ＳＫ2477・ＳＫ2478・
ＳＫ3665・ＳＥ2419 ……109
第 58 図　ＳＥ2420・ＳＥ2420出土木製品（１） ……110
第 59 図　ＳＥ2420出土木製品（２） ……111
第 60 図　ＳＫ2182・ＳＥ2871/ＳＥ2871出土木製品 ……112
第 61 図　ＳＤ89・ＳＤ95・ＳＫ1532 ……113
第 62 図　畝跡（１） ……114
第 63 図　畝跡（２） ……115
第 64 図　ＳＤ2054・ＳＤ2056 ……116
第 65 図　ＳＧ1157/3000 ……117
第 66 図　ＳＤ2481・ＳＤ3560・ＳＸ2524・ＳＫ658・
ＳＰ660・ＳＰ661 ……118
第 67 図　ＳＸ149/ＳＸ149遺物出土状況 ……119
第 68 図　ＳＸ679・ＳＸ170・ＳＸ2541 ……120
第 69 図　ＳＰ2021～2028・2037・3590・3677 ……121
第 70 図　ＳＴ687出土遺物（１） ……122
第 71 図　ＳＴ687出土遺物（２） ……123
第 72 図　ＳＴ687出土遺物（３）・ＳＴ716出土遺物（１）…124
第 73 図　ＳＴ716出土遺物（２）・ＳＴ735出土遺物（１）…125
第 74 図　ＳＴ735出土遺物（２） ……126

第 75 図　ＳＴ751出土遺物 ……127
第 76 図　ＳＴ777出土遺物・ＳＴ789出土遺物（１） …128
第 77 図　ＳＴ789出土遺物（２）・ＳＴ792出土遺物 …129
第 78 図　ＳＴ795出土遺物（１） ……130
第 79 図　ＳＴ795出土遺物（２） ……131
第 80 図　ＳＴ795出土遺物（３） ……132
第 81 図　ＳＴ795出土遺物（４）・ＳＴ1110出土遺物（１）
……133
第 82 図　ＳＴ1110出土遺物（２）・ＳＴ1112出土遺物・
ＳＴ1127出土遺物（１） ……134
第 83 図　ＳＴ1127出土遺物（２） ……135
第 84 図　ＳＴ1127出土遺物（３） ……136
第 85 図　ＳＴ1127出土遺物（４） ……137
第 86 図　ＳＴ2002出土遺物（１） ……138
第 87 図　ＳＴ2002出土遺物（２）・ＳＴ2004出土遺物…139
第 88 図　ＳＴ2006出土遺物・ＳＴ2007出土遺物（１）…140
第 89 図　ＳＴ2007出土遺物（２） ……141
第 90 図　ＳＴ2008出土遺物・ＳＴ2009出土遺物（１）…142
第 91 図　ＳＴ2009出土遺物（２） ……143
第 92 図　ＳＴ2010出土遺物・ＳＴ2011出土遺物・
ＳＴ2012出土遺物（１） ……144
第 93 図　ＳＴ2012出土遺物（２）・ＳＴ2014出土遺物（１）
……145
第 94 図　ＳＴ2014出土遺物（２） ……146
第 95 図　ＳＴ2016出土遺物・ＳＴ2017出土遺物 ……147
第 96 図　ＳＴ2019出土遺物（１） ……148
第 97 図　ＳＴ2019出土遺物（２） ……149
第 98 図　ＳＴ2020出土遺物・ＳＴ4002出土遺物・
ＳＴ4003出土遺物（１） ……150
第 99 図　ＳＴ4003出土遺物（２） ……151
第 100 図　ＳＴ4003出土遺物（３） ……152
第 101 図　ＳＴ4003出土遺物（４） ……153
第 102 図　ＳＴ4004出土遺物（１） ……154
第 103 図　ＳＴ4004出土遺物（２） ……155
第 104 図　ＳＴ4005出土遺物（１） ……156
第 105 図　ＳＴ4005出土遺物（２） ……157
第 106 図　ＳＴ4006出土遺物・ＳＣ5001出土遺物・
ＳＣ5002出土遺物……158
第 107 図　ＳＫ2182出土遺物 ……159
第 108 図　ＳＫ3665出土遺物・ＳＫ3030出土遺物（１）…160
第 109 図　ＳＫ3030出土遺物（２） ……161
第 110 図　ＳＫ3023出土遺物（１） ……162
第 111 図　ＳＫ3023出土遺物（２） ……163
第 112 図　ＳＫ3023出土遺物（３） ……164
第 113 図　ＳＫ3023出土遺物（４） ……165
第 114 図　ＳＫ3032出土遺物（１） ……166
第 115 図　ＳＫ3032出土遺物（２）・ＳＫ2184出土遺物…167
第 116 図　ＳＫ3668出土遺物・ＳＫ2885出土遺物・
ＳＫ2740出土遺物（１） ……168
第 117 図　ＳＫ2740出土遺物（２）・ＳＫ902・ＳＫ2188・
ＳＫ2294・ＳＫ2895・ＳＫ3031出土遺物 ……169
第 118 図　ＳＫ出土遺物・ＳＥ出土遺物 ……170
第 119 図　ＳＧ1157出土遺物 ……171
第 120 図　ＳＧ2639出土遺物 ……172
第 121 図　ＳＧ3000出土遺物 ……173
第 122 図　ＳＤ829出土遺物 ……174
第 123 図　ＳＤ2481出土遺物・ＳＤ186出土遺物・
ＳＤ624出土遺物 ……175
第 124 図　ＳＤ6025出土遺物・ＳＤ出土遺物 ……176
第 125 図　ＳＰ出土遺物（１） ……177
第 126 図　ＳＰ出土遺物（２）・ＳＸ出土遺物（１）……178
第 127 図　ＳＸ出土遺物（２） ……179
第 128 図　ＳＸ出土遺物（３）・遺構外出土遺物（１）…180
第 129 図　遺構外出土遺物（２） ……181
第 130 図　遺構外出土遺物（３） ……182
第 131 図　遺構外出土遺物（４） ……183
第 132 図　遺構外出土遺物（５） ……184

写真図版

巻頭写真１　的場遺跡　第２次発掘調査区全景
的場遺跡　第３次発掘調査区全景
巻頭写真２　ＳＴ795　竪穴建物跡　カマド
ＳＴ795　出土遺物
巻頭写真３　ＳＴ751　竪穴建物跡　カマド
ＳＴ1127　竪穴建物跡　カマド
巻頭写真４　ＳＴ2004　竪穴建物跡（焼失建物）
ＳＣ5001　平地式建物跡
巻頭写真５　ＳＢ107　掘立柱建物跡
ＳＫ3023　土坑　土師器出土状況
巻頭写真６　土師器甕　輪台ケズリ飛ばしの底部
土師器坏　輪台ケズリ飛ばしの底部
巻頭写真７　古墳時代の須恵器（１）
古墳時代の須恵器（２）
巻頭写真８　土師器高坏　坏部（平安時代）
写真図版１　ＳＢ107　掘立柱建物跡
写真図版２　第２次調査区（東側道部）・第３次調査区
写真図版３　ＳＴ687・ＳＴ716・ＳＴ735・ＳＴ777・
ＳＴ789，ＳＴ792・ＳＴ1110・ＳＴ1112
写真図版４　ＳＴ751
写真図版５　ＳＴ795
写真図版６　ＳＴ1127
写真図版７　ＳＴ2002
写真図版８　ＳＴ2004・ＳＴ2006・ＳＴ2007・ＳＴ2010・
ＳＴ2011・ＳＴ2012・ＳＴ2014・ＳＴ2019
写真図版９　ＳＴ2020・ＳＴ4002・ＳＴ4003・
ＳＴ4004・ＳＴ4005・ＳＴ4006
写真図版10　ＳＣ5001
写真図版11　ＳＣ5002・ＳＢ107・ＳＢ457・ＳＢ672・
ＳＢ1601
写真図版12　ＳＢ1601・ＳＢ3501・ＳＢ3502・
ＳＢ3505・ＳＢ3507・ＳＡ3508
写真図版13　ＳＢ3503・ＳＢ3506
写真図版14　ＳＫ1097・ＳＸ149・ＳＧ1157・
ＳＧ3000・ＳＫ3023
写真図版15　ＳＫ3030・ＳＫ3665・ＳＫ3668・
ＳＥ2419・ＳＥ2871
写真図版16　ＳＥ2420
写真図版17　ＳＴ2014出土遺物・ＳＫ3023出土遺物
写真図版18　古墳時代　土師器　坏（１）
写真図版19　古墳時代　土師器　坏（２）
写真図版20　古墳時代　土師器　坏（３）
写真図版21　古墳時代　土師器　坏（４）
写真図版22　古墳時代　土師器　坏（５）
写真図版23　古墳時代　土師器　坏（６）
写真図版24　古墳時代　土師器　坏（７）
写真図版25　古墳時代　土師器　高坏（１）
写真図版26　古墳時代　土師器　高坏（２）・坏・壷（１）
写真図版27　古墳時代　土師器　坏・壷（２）
写真図版28　古墳時代　土師器　壷（３）・甕（１）
写真図版29　古墳時代　土師器　甕（２）
写真図版30　古墳時代　土師器　甕（３）
写真図版31　古墳時代　土師器　甕（４）
写真図版32　古墳時代　土師器　甕（５）
写真図版33　古墳時代　土師器　甕（６）
写真図版34　古墳時代　土師器　甕（７）
写真図版35　古墳時代　土師器　甕（８）
写真図版36　古墳時代　土師器　甕（９）
写真図版37　古墳時代　土師器　甕（10）・甑（１）
写真図版38　古墳時代　土師器　甑（２）・有孔鉢（１）
写真図版39　古墳時代　土師器　有孔鉢（２）・
坏破片資料・手づくね土器等
写真図版40　古墳時代　土師器　坏・甕
（底部　輪台ケズリ飛ばし）
写真図版41　古墳時代　須恵器（１）坏・蓋・高坏等
写真図版42　古墳時代　須恵器（２）破片資料
平安時代　土師器（１）坏
写真図版43　平安時代　土師器（２）坏・須恵器（１）坏
写真図版44　平安時代　須恵器（２）墨書土器等
写真図版45　平安時代　土師器（３）菊花状ナデ・
須恵器（３）墨書土器等
写真図版46　平安時代　土師器（４）高坏・
須恵器（４）転用硯・灯明皿等
写真図版47　平安時代　土師器（５）双耳坏片等
須恵器（５）双耳坏片・高台付坏等
写真図版48　平安時代　土師器（６）箆書文字等
写真図版49　平安時代　土師器（７）甕等・
灰釉陶器（１）壷等

写真図版50　平安時代　須恵器（６）壷・甕・灰釉陶器（２）
写真図版51　縄文土器・中世の磁器・近世・近代の陶器
写真図版52　石製品（１）
写真図版53　石製品（２）
写真図版54　石製品（３）・石器
写真図版55　石製品（４）
写真図版56　石製品（５）・土製品
写真図版57　木製品（１）曲物等
写真図版58　木製品（２）柱痕等
写真図版59　木製品（３）柱痕等
写真図版60　木製品（４）柱痕等
写真図版61　木製品　顕微鏡写真（１）
写真図版62　木製品　顕微鏡写真（２）
写真図版63　木製品　顕微鏡写真（３）
写真図版64　木製品　顕微鏡写真（４）

Ⅰ　調査の経緯

1　調査に至る経過

的場遺跡の発掘調査は、日本道路公団の東北中央自動車道相馬・尾花沢線の建設事業に伴って実施されたものである。

東北中央自動車道相馬・尾花沢線の建設事業は、平成２年度に県土木事業の上山～東根間都市計画道路整備事業として計画された。その後国幹審より打ち出された高速道路整備路線計画を受けて平成５年度に施行命令が発令され、平成８年度から本格的に事業が開始されている。

この間、山形県教育委員会では山形県土木部等の関係機関と協議を図りながら、平成２年度から遺跡詳細分布調査を実施し、平成７年度には建設路線決定を受けてさらに遺跡の所在を確認した。その結果、上山～東根間の路線内には周知の遺跡17箇所に加え遺跡可能性地16箇所の33箇所が位置していることが明らかになった。これに基づいて、埋蔵文化財の取り扱いについて山形県教育委員会が事業主体である日本道路公団と協議を行った結果、建設工事着手前の第一次調査とその後の本発掘調査を計画的に進めることになり、財団法人山形県埋蔵文化財センターが日本道路公団の委託を受けて平成９年度から発掘調査を実施している。

的場遺跡は以前からその存在が知られており、平成２年度の遺跡詳細分布調査では平安時代の須恵器・赤焼土器（土師器）が確認された。その後平成９年７月24日の県教育委員会文化財課による試掘調査では遺跡範囲を東西350m・南北400mと推定し、それを受けて平成９年10月22日～11月19日に財団法人山形県埋蔵文化財センターによって行われた第１次調査では奈良・平安時代の集落跡や中世の遺構等が確認され、事業区域にかかる遺跡範囲について引き続き第２・３次の発掘調査が実施されることになった。

発掘調査に至るまでの協議等は以下のとおりである。

◆日本道路公団東北支社管理課長より財団法人山形県埋蔵文化財センター調査第一課長（当時）あてに埋蔵文化財発掘調査に係る費用積算調書の作成の依頼。（第２次調査……平成10年１月19日。第３次調査……平成11年１月19日。）

◆財団法人山形県埋蔵文化財センター理事長より日本道路公団東北支社長あてに、発掘調査を実施すること及び経費見積もりの回答。（第２次調査……平成10年２月10日。第３次調査……平成11年２月12日。）

◆日本道路公団東北支社長より、財団法人山形県埋蔵文化財センター理事長あてに「東北中央自動車道相馬・尾花沢線（上山～東根間）の建設工事に伴う平成10（11）年度埋蔵文化財発掘調査」の依頼。（第２次調査……平成10年４月１日。第３次調査……平成11年４月１日）

◆日本道路公団東北支社と財団法人山形県埋蔵文化財センターとで、「埋蔵物発掘調査業務の委託契約」を締結。（第２次調査……平成10年４月１日。第３次調査……平成11年４月１日）

2　調査の経過

第１次調査　⑴　第１次調査

第１次調査は平成９年10月22日から11月19日までのあいだの実質11日間実施されている。調査は遺跡範囲内の自動車道予定地に２×20mを基本の単位としたトレンチを48本設定し、遺構・遺物の所在を確認した。その結果、竪穴建物跡や柱穴等の遺構が多数検出されたほか、奈良・平安時代の土師器・須恵器、中世の磁器等の遺物が出土している。

この調査の時点では出土遺物の性格から、遺構は主に奈良・平安時代に属するものと推測されていた。

第２次調査　⑵　第２次調査

第２次調査は、事業区域内の遺跡範囲中、自動車道の側道部にあたる9,500㎡について平成10年４月13日から６月26日までと、補足調査（同年７月６日～31日）を加えた実質70日間にわたって実施された。以下に経過を略記する。

４月13日

調査開始。器材搬入。

４月15日

鍬入式。

４月16日～23日

重機による表土除去。

４月16日～５月８日

遺構検出。

４月27～30日

調査区内にグリッドを設定。

（自動車道予定地のセンター杭を基準に、５×５ｍを一区間とした。Ｘ軸はＡ～Ｏ、Ｙ軸は１～75の範囲。）

５月２日～６月26日

遺構精査。

精査が終了した遺構から実測図を採り、写真撮影を行う。

５月14日～15日

調査区に隣接する水田からの調査区内への漏水が著しかったため、それを防止する作業のために重機を導入。調査区西側端部の長さ約240m・幅約2.5mの範囲を埋め戻す。

６月23日

調査説明会。54名の参加者を得られた。

６月24日

空中写真撮影測量（委託業務）。

６月26日

第２次調査終了・器材撤収。この日までに精査・記録が未了の遺構に対しては補足調査を実施することになった。

７月６日

補足調査開始。器材搬入。

７月６日～31日

遺構精査。

７月31日

器材撤収。補足調査終了。

⑶　第３次調査

第３次調査

第３次調査は、第２次調査の調査区に挟まれた自動車道の本線部分のうち暫定２車線の部分が対象となったが、そのうち第２次調査で遺構・遺物の検出・出土数に乏しかったＹ＝31～35Ｇ以北を除いた8,200㎡について平成11年７月19日から11月19日までと、補足調査（11月22日～30日）を加えた実質85日間にわたって実施された。以下に経過を略記する。

７月19日

調査開始。器材搬入。

７月26日～８月３日

重機による表土除去。（８月４日に重機による残土整理。）

８月４日

基準点測量（委託業務）。

８月５日～９月10日

遺構検出。

９月14日～11月19日

遺構精査。

精査が終了した遺構から実測図を採り、写真撮影を行う。

11月６日

調査説明会。89名の参加者を得られた。

11月19日

調査終了。器材の一部を撤収。この日までに精査・記録が未了の遺構に対しては11月22日から補足調査を実施することになった。

11月25日

空中写真撮影測量（委託業務）。

11月30日

補足調査終了。器材撤収。

Ⅱ　遺跡の立地と環境

1　地理的環境

天童市は山形県のほぼ中心部を占める山形盆地の中心からやや東よりに位置する。東は奥羽山脈、西は最上川と接し、南は山形市と接する立谷川扇状地に、北は東根市まで続く乱川扇状地によって囲まれている。

このうち、的場遺跡の立地と関連が深いものは最上川とその東岸の地形および乱川扇状地である。最上川に接する市西部域には、幅0.5～１㎞ほどの氾濫原の東側に位置する自然堤防上に寺津・藤内新田・蔵増などの集落が立地し、さらにその東側には天童低地と呼ばれる後背湿地が広がっている。乱川扇状地は白水川・村山野川・乱川・押切川などの河川による複合扇状地で、扇頂は関山付近に位置し扇端部は東根市長瀞から天童市成生にかけての弧状の地域に広がり半径は約11㎞に及び、天童市域の北半を占める大規模な扇状地である。扇端部の天童市高木・大清水・成生などには著名な涌泉があり、その豊富な水源を利用して古くから人々の生活と密接に関わっていたと考えられる。

的場遺跡は天童市の市街地から北西に約３㎞にある同市成生（なりう）地区の西側に所在する。前述の乱川扇状地の扇端に位置し、西部の低湿地と隣接している。標高は89～90mを測り、周辺は水田および果樹園が広がっている。本遺跡の今次調査区も、調査の直前までは水田あるいは果樹園として用いられていた土地である。

2　歴史的環境

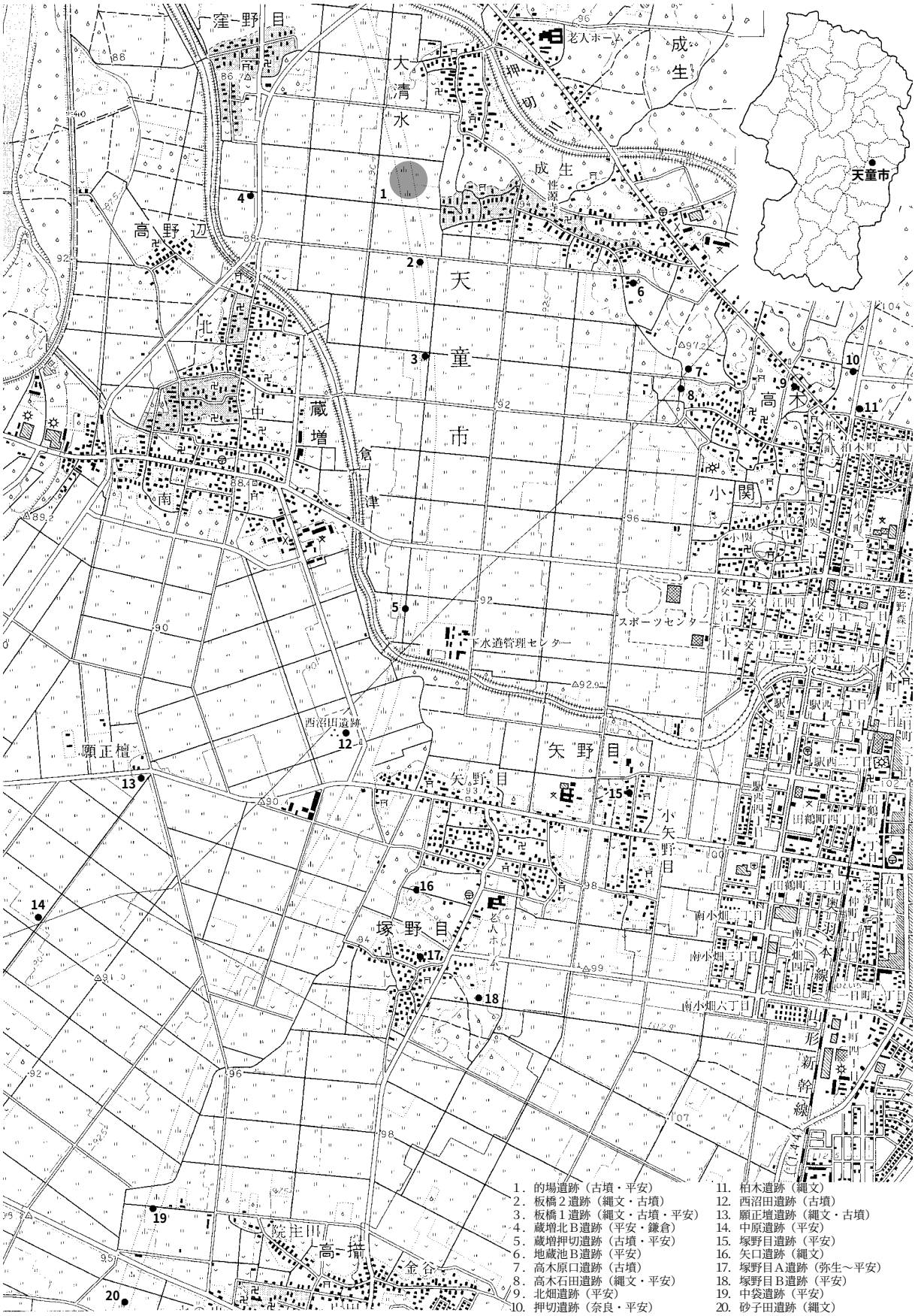
天童市を含む山形盆地中心部からやや東側の地域は、縄文時代中期以降の各時代の遺跡が広範囲に分布している。市東部の山麓部から平地の境界域では渡戸遺跡等縄文時代の遺跡が多く見られるが、市西部の扇状地の先端部から最上川の自然堤防・後背湿地にかけては古墳時代以降の遺跡が主体となる。

この地域における古墳時代の遺跡はその初期・中期にかけては扇端部や自然堤防上の微高地に多く、塚野目Ａ遺跡（４世紀後半）や高木原口遺跡（５世紀代）、それに本遺跡やその南に隣接する板橋２遺跡等はこれに該当するものと思われる。

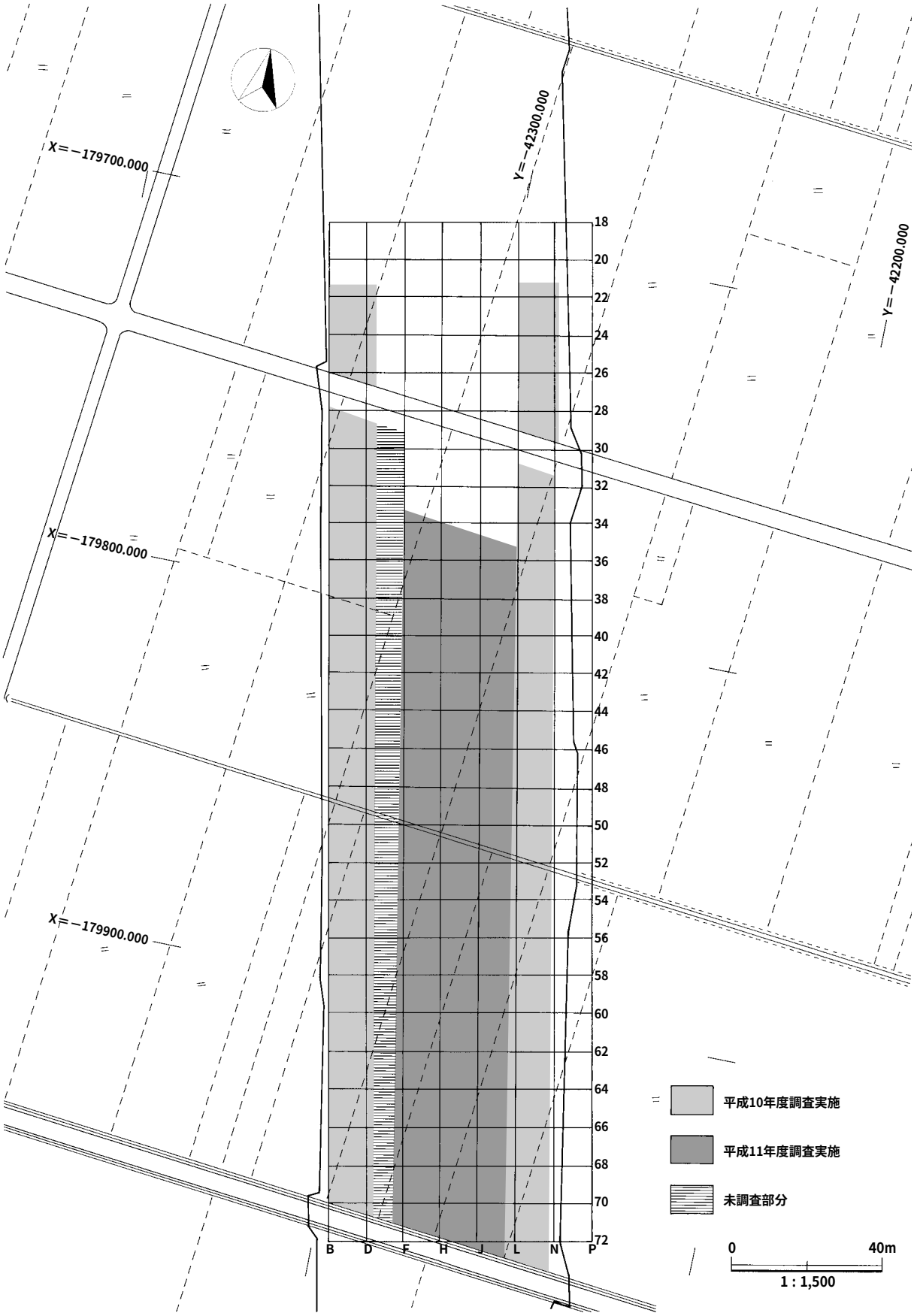
その後古墳時代後期に入ると集落はより広い範囲に点在するようになり、微高地から低湿地に進出し規模も大きくなる傾向が認められるが、その典型例は本遺跡の南方約２㎞に位置する西沼田遺跡（国指定史跡）である。天童市西部の遺跡では最もよく知られておりまた重要な意味を有する同遺跡では６世紀の建物跡や水田跡等の遺構が検出されたほか建築部材や農機具等の木製品が多数出土し、当時の集落や農耕の様相を知る上で貴重な存在となっている。

西沼田遺跡

近年、東北中央自動車道の建設工事に関連して本遺跡のほかに板橋１・板橋２・蔵増押切等の遺跡で発掘調査が実施された。これらの多くは古墳時代の遺構・遺物を伴っており、各遺跡の性格およびその相互の関連を明らかにすることで、当時のこの地域の様子がより明確になってくることが期待される。



第１図　遺跡位置図（国土地理院発行２万５千分の１地形図「寒河江」（H12・12・１）使用）


X=−179700.000
X=−179800.000
X=−179900.000
Y=−42300.000
Y=−42200.000
18
20
22
24
26
28
30
32
34
36
38
40
42
44
46
48
50
52
54
56
58
60
62
64
66
68
70
72
B
D
F
H
J
L
N
P
平成10年度調査実施
平成11年度調査実施
未調査部分
0
40m
1 : 1,500

第２図　調査区概要図

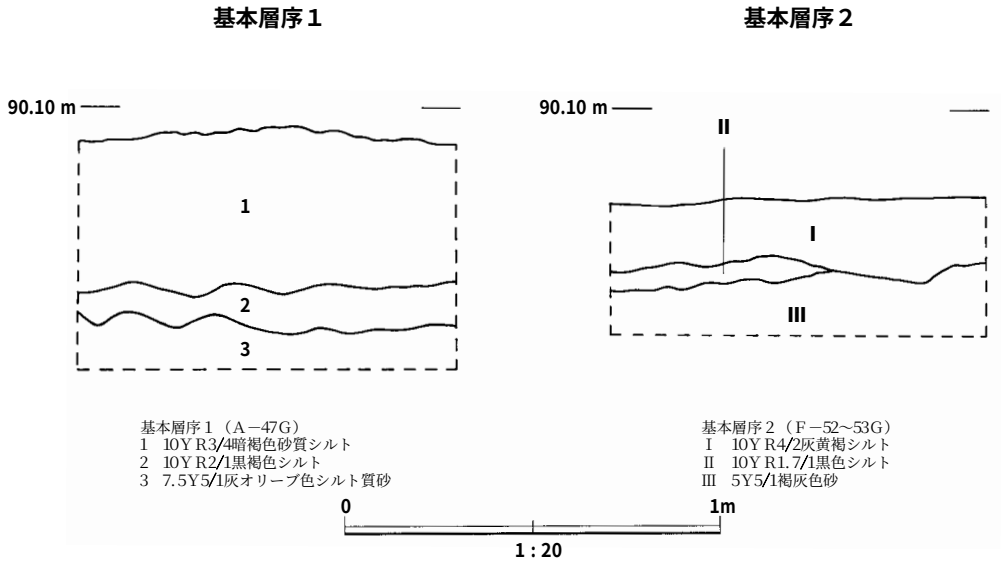
Ⅲ　遺跡の概要

1　遺跡の層序

的場遺跡は東から広がる乱川扇状地の前縁部に位置し、西に広がる最上川の後背湿地と隣接する。標高は約89～90mを測る。

第３図の「基本層序１」は第２次調査区西側のＡ―47Ｇ、「基本層序２」は第３次調査区西側のＦ－52～53Ｇを示す。いずれも基本的にはグライ化した砂あるいはシルト質砂の地山層が昭和50年代の県営ほ場整備事業等によって削平されたあとに、耕作土が堆積している状態であったが、「２」の第Ⅱ層は、地山削平以前の遺構埋没時の覆土と思われる。

基本層序



第３図　基本層序

2　遺構と遺物の分布

今回の発掘調査は第２次・第３次発掘調査計17,700㎡を対象としたものである。

「Ⅰ－２　調査の経過」で既述の事情により、遺構・遺物とも検出・出土の数量は調査区全体で見ると南側に偏った分布となっているが、実際にはその範囲（以下「遺構密集区域」と記す）がかつて本遺跡で営まれていた集落の中心であったと推測する。

遺構は竪穴建物跡30棟・平地式建物跡２棟・掘立柱建物跡12棟等大規模なものに加え、小規模なものも含めると約3,000基が検出された。下記あるいは後述のように様々な時期の遺構が存在すると思われるが、検出された面は時代による差はなくほぼ同一である。本遺跡の主体である古墳時代の遺構は遺構密集区域の西側～中央部に位置するものが多く、次いで数の多い平安時代に帰属すると思われる遺構は中央部から南東よりに位置している。

遺物は整理箱にして第２次調査で79箱、第３次調査で230箱の計309箱が出土した。縄文時代から近世に至るまでの様々な時期の土器・陶磁器・石器・石製品・木製品・金属製品などがあるが、中心となるのは古墳時代の土師器であり、下記あるいは後述のように多くは竪穴建物跡や土坑などの遺構内から出土している。

次に主な遺構の分布と状況について簡単に述べる。

竪穴建物跡　竪穴建物跡（ＳＴ）は検出された30棟のうち25棟が、遺構密集区域の中央から北西寄りにあたるＡ～Ｊ－41～60Ｇの範囲に位置している。７棟からカマド跡が、その他の建物跡の多くからは炉跡と思われる屋内施設が検出されているが、建物全体を含めて検出時の遺存状態は各遺構によって差が大きい。主に古墳時代中期の土師器が出土しているほか一部の建物跡からは同時期の須恵器も出土しており、建物跡の多くはこの時代に帰属するものと考えられるが、重なり合った状況で検出されたものがあることや遺構の向き・カマドの位置・出土遺物の様相等を考慮すると、各建物跡が使用された時期には微妙な違いがあるものと思われる。

平地式建物跡　平地式建物跡（ＳＣ）は遺構密集区域中央部からやや北寄りのＩ～Ｋ－50～52Ｇ（ＳＣ5002）とＪ～Ｌ－46～48Ｇ（ＳＣ5001）で検出された。竪穴建物跡の密集地よりもやや東よりに位置しており、地山面での検出・確認である。遺物の出土数は少ない。

掘立柱建物跡　掘立柱建物跡（ＳＢ）は12棟中７棟が、遺構密集区域の中央から東側にかけて検出されており、西側では確認されなかった。規模・構造・向きは各遺構で多少異なっているが、全般的に出土遺物が少なく、帰属時期の詳細については未確認のものが多い。また柱穴から柱痕を検出したものもある。

土坑（ＳＫ）は遺構密集区域の全般に広く分布している。竪穴建物跡が集中している区域から検出された土坑には覆土中からは古墳時代の土師器が多量に出土したもの（ＳＫ3023・ＳＫ3030など）がある。

井戸跡とした遺構（ＳＥ）も遺構密集区域全般に分布しているが土坑よりも数量は少なく、遺存状態のよかったものは僅かであり出土遺物も少ない。素掘りのものが多いが、底部から木枠や曲物の側板が出土したものもある。

溝跡・溝状遺構（ＳＤ）は調査区内の集落を区画していたと思われるもの（ＳＤ2054・2056・2481）と、Ｄ～Ｎ－46～56Ｇで竪穴建物跡等の他の遺構を浅めに切って南北に走る耕作時の畝跡と思われるものとに大別される。これらの遺構からは主に平安時代前期に属すると思われる土器が出土している。

河川跡（ＳＧ）等自然遺構と思われるものでは、ＳＧ1157／3000（調査次によって番号が異なるが同一の遺構）がＹ＝37～41Ｇで東西に流れているが、この遺構を境に北と南とでは質・量とも各遺構の検出状況は大きく異なっている。この遺構からは古墳時代の土師器のほか、須恵器高坏等が出土している。また遺構密集区域の中央部やや東よりに位置するＳＧ2639（河川跡というよりは池沼跡と思われる）からは平安時代前期の土器が出土している。

なお、調査区の西端での竪穴建物跡・東端での溝跡等の検出状況などから、本遺跡に位置していた集落跡の範囲は調査区外の東西に広がるものと推測される。

Ⅳ　出土した遺構と遺物

1　竪穴建物跡（ＳＴ）

竪穴建物跡は第２次調査で11棟、第３次調査で19棟、計30棟が確認された。以下に概略を述べる。

ＳＴ687（遺構平面・断面図＝第11図、出土遺物実測図＝第70～72図） ＳＴ687

【位置】Ａ～Ｂ－66～67Ｇ。【長軸】360㎝（東西）。【短軸】315㎝（南北）。【平面プラン】方形。【長軸方向】Ｎ－67°－Ｗ。【重複関係】溝状遺構（ＳＤ693）に南西部を切られている。【遺存状態】全体としては良好。【壁の立ち上がり】南北壁は垂直に、東壁はやや緩やかに立ち上がる。【確認面からの深さ】20㎝。【床面】貼床を有する。炭化物を多く含み、固くしまる。グライ化している。【柱穴・ピット等】ＥＰ１～４の４基を確認。径28～36㎝・深さ４～20㎝。位置的には主柱穴の可能性があるがＥＰ２以外の深さは５㎝未満で掘り込みの浅いものが多い。【周溝】南西隅を除きほぼ全周を廻る。（ＥＤ５）。幅12㎝・深さ８㎝。東側は壁からやや離れる。【炉・カマド】プランほぼ中央の床面に焼土・炭化物が集中して検出された部分があり、地床炉を有していたと考えられる。【その他の屋内施設】未確認。【遺物】土師器坏（１～５）・高坏（６～８）・甕（10～16）等古墳時代に属する土器のほか、石製品（17）（石棒か）等が出土。土器は細片が多かったが床面に張り付くような状態で出土している。

【帰属時期】出土遺物および出土状況より、古墳時代中期（５世紀中葉～後葉）と思われる。

ＳＴ716（遺構平面・断面図＝第12図、出土遺物実測図＝第72・73図） ＳＴ716

【位置】Ａ～Ｂ－57～59Ｇ。南西部は調査区外に広がり、検出したプランは全体の３分の１程度の範囲と思われる。【長軸】690㎝（南北・検出部分のみ）【短軸】420㎝（東西・検出部分のみ）【平面プラン】長方形と思われる。【長軸方向】Ｎ－11°－Ｅ【重複関係】検出された部分にはない。【遺存状態】やや不良。上面は後世に削平されたと思われ、特に西側の残存状態は悪い。【壁の立ち上がり】やや急な角度。【確認面からの深さ】30㎝。【床面】貼床を有する。黒褐色土で炭化物を多く含む。【柱穴・ピット等】未確認。【周溝】未確認。【炉・カマド】プラン中央からやや北寄りに床面の一部に焼土・炭化物が分布した部分があり、地床炉を有していた可能性がある。【その他の屋内施設】未確認。【遺物】土師器坏（18）・高坏（21）・有孔鉢（19）・甕（20・22・23）、石製品（24～26）等古墳時代に属する土器が出土しているが全体的に出土量は少なかった。

【帰属時期】出土遺物および出土状況より、古墳時代中期（５世紀中葉～後葉）と思われる。

ＳＴ735（遺構平面・断面図＝第13図、出土遺物実測図＝第73・74図） ＳＴ735

【位置】Ａ～Ｃ－55～57Ｇ。西部は調査区外に広がる。【長軸】900㎝（東西・検出部分のみ）。【短軸】880㎝（南北）【平面プラン】正方形に近い隅丸方形。【主軸方向】Ｎ－８°－Ｗ【重複関係】なし。【遺存状態】良好。【壁の立ち上がり】ほぼ垂直。【確認面からの深さ】20㎝。【床面】貼床を有する。炭化物を多く含み、グライ化している。【柱穴・ピット等】ＥＰ１～４の

４基を確認。径50～60㎝・深さ30～36㎝。位置的には主柱穴の可能性がある。【周溝】未確認。

カマドを持つ　【炉・カマド】南壁やや東寄りにカマドを有するが、遺存状態は不良で袖部は確認できず、燃焼部の壁面・底面に焼土が検出されたのみである。主軸方向はＮ－15°－Ｗである。【その他の屋内施設】未確認。【遺物】土師器坏（28～30）・高坏（32～37）・甕（40～45）、須恵器坏（27）等古墳時代に属する土器が出土している。

【帰属時期】出土遺物および出土状況より、古墳時代中期（５世紀中葉～後葉）と思われる。

ＳＴ751　**ＳＴ751（遺構平面・断面図＝第14・15図、出土遺物実測図＝第75図）**

【位置】Ａ～Ｃ－53～54Ｇ。西部は調査区外に広がる。【長軸】730㎝（南北）。【短軸】500㎝（東西・検出部分のみ）【平面プラン】正方形に近い隅丸方形と思われる。【主軸方向】Ｎ－20°－Ｗ【重複関係】北東でＳＴ777と重複（ＳＴ751→ＳＴ777）。【遺存状態】良好。【壁の立ち上がり】ややゆるやかな角度。【確認面からの深さ】30㎝。【床面】貼床を有する。グライ化しており固くしまる。【柱穴・ピット等】ＥＰ１～２の２基を確認。径80～100㎝、深さ35～50㎝。調査区外にこれらと対応するピットが所在するとしたら、位置的には主柱穴の可能性がある。【周溝】未確認。

カマドを持つ　【炉・カマド】南壁中央からやや東側にカマド跡を検出。主軸からの振れはＮ－20°－Ｗ。本体は長さ50㎝・幅90㎝、袖は長さ50㎝を測る。東側の袖は後世の削平を受けている。西側袖の先端部からは構築材と思われる礫が出土している。燃焼部は壁面が焼け、焼土の堆積があり底面も焼けている。【その他の屋内施設】未確認。【遺物】土師器坏（46～48）・高坏（50）・壷（49）・甕（51～55）等古墳時代に属する土器が出土している。高坏は逆位でカマド近くから出土しており、カマドの構築材であった可能性がある。

【帰属時期】出土遺物および出土状況より、古墳時代中期（５世紀中葉～後葉）と思われる。

ＳＴ777　**ＳＴ777（遺構平面・断面図＝第16図、出土遺物実測図＝第76図）**

【位置】Ｂ～Ｃ－51～53Ｇ。【長軸】760㎝。【短軸】760㎝。【平面プラン】ほぼ正方形。【長軸方向】Ｎ－48°－Ｗ【重複関係】ＳＴ751と重複（ＳＴ751→ＳＴ777）。【遺存状態】良好。【壁の立ち上がり】ゆるやかな角度。【確認面からの深さ】10㎝。【床面】直床と思われる。覆土直下に粘土質シルトの床面がある。【柱穴・ピット等】ＥＰ１～４の４基を確認。径30～35㎝・深さ35～40㎝。径は大きくないがほぼ等間隔に配置され掘り込みもしっかりしており、主柱穴の可能性が高い。【周溝】未確認。【炉・カマド】未確認。プラン南隅に焼土が検出されたが詳細は不明である。【その他の屋内施設】未確認。【遺物】土師器坏（56～60）・甕（61～62）等古墳時代の土器のほか、平安時代の須恵器坏（63）、等が出土している。決して量は多くないがいずれも出土時の遺存状況は良好であった。

【帰属時期】出土遺物および出土状況より、古墳時代中期（５世紀中葉～後葉）と思われる。

ＳＴ789　**ＳＴ789（遺構平面・断面図＝第17図、出土遺物実測図＝第76・77図）**

【位置】Ｃ～Ｄ－51～52Ｇ。東側の一部は調査区外。【長軸】415㎝（南北）。【短軸】400㎝（東西）。【平面プラン】正方形に近い隅丸方形。【長軸方向】Ｎ－20°－Ｅ【重複関係】ＳＴ792と重複。本遺構の北西側がＳＴ792を切る（ＳＴ792→ＳＴ789）【遺存状態】良好。【壁の立ち上がり】ほぼ垂直に立ち上がる。【確認面からの深さ】20㎝。【床面】直床と思われる。覆土直下に灰黄色の地山がある。【柱穴・ピット等】ＥＰ１～４の４基を確認。径35～45㎝・深さ12～18㎝。【周溝】未確認。【炉・カマド】プラン中央からやや南東寄りに焼土・炭化物が分布して

おり、地床炉を有していた可能性がある。【その他の屋内施設】未確認。【遺物】土師器坏（65）・有孔鉢（68）・甕（69・70）等古墳時代に属する土器が出土している。

【帰属時期】出土遺物および出土状況より、古墳時代中期（５世紀中葉～後葉）と思われる。

ＳＴ792（遺構平面・断面図＝第17図、出土遺物実測図＝第77図） **ＳＴ792**

【位置】Ｃ～Ｄ－50～51Ｇ。東側の一部は調査区外。【長軸】650㎝（南北）。【短軸】570㎝（東西・検出部分のみ）【平面プラン】方形。【長軸方向】Ｎ－25°－Ｗ【重複関係】ＳＴ789と重複（ＳＴ792→ＳＴ789）。【遺存状態】良好。【壁の立ち上がり】やや緩やかな角度。【確認面からの深さ】10㎝。【床面】直床と思われる。グライ化し、炭化物が多く混入している覆土直下に灰黄色の床面あり。【柱穴・ピット等】ＥＰ１～４の４基を確認。径30～40㎝・深さ15～25㎝。【周溝】南西隅にＬ字状に残存（ＥＤ５）。幅15㎝・深さ４㎝。【炉・カマド】未確認。【その他の屋内施設】未確認。【遺物】土師器坏（73～74）・甕（75～77）、須恵器坏蓋（71）等古墳時代に属する土器が出土している。

【帰属時期】出土遺物および出土状況より、古墳時代中期（５世紀中葉～後葉）と思われる。

ＳＴ795（遺構平面・断面図＝第18・19図、出土遺物実測図＝第78～81図） **ＳＴ795**

【位置】Ａ～Ｃ－49～50Ｇ。　西部は調査区外に広がる。【長軸】780㎝（東西・検出部分のみ）。【短軸】720㎝（南北）【平面プラン】方形。【主軸方向】Ｎ－65°－Ｅ【重複関係】なし。【遺存状態】プラン西側で圃場整備の削平を受けている。【壁の立ち上がり】急な角度。【確認面からの深さ】18㎝。【床面】直床と思われる。灰黄色の地山上に炭化物が点々と貼り付いている。【柱穴・ピット等】ＥＰ１～２の２基を確認。径45～60㎝・深さ30～34㎝。【周溝】未確認。【炉・カマド】東壁中央からやや北側にカマド跡（ＥＬ１）を検出。主軸からの振れはＮ－110°－Ｅ。 **カマドを持つ**
本体は長さ185㎝・幅105㎝・残存高35㎝、袖の検出部分は長さ90㎝・幅90㎝・深さ19㎝を測る。燃焼部は壁面が焼け、焼土の堆積があり底面も焼けている。袖は両側とも残存しており、先端から土師器やカマド石が集中して検出されている。煙道部は若干残存しているものの吹出口までは残っていなかった。【その他の屋内施設】ＥＫ６およびカマド北東側の土坑は貯蔵穴の可能性がある。【遺物】土師器坏（78～85）・有孔鉢（87～88）・壷（89）・甕（90～95､97～102）・甑（96）等、古墳時代に属する土器、平安時代の土師器（103）や、石製品数点（104～107）が出土している。多くの遺物はカマドとその周辺に集中した状態で出土しており、一部の土器はカマドの構築材として使用されていたものと思われる。

【帰属時期】出土遺物および出土状況より、古墳時代中期（５世紀後葉）と思われる。

ＳＴ1110（遺構平面・断面図＝第20図、出土遺物実測図＝第81～82図） **ＳＴ1110**

【位置】Ｃ～Ｄ－44～46Ｇ。東部は調査区外に広がる。【長軸】550㎝（南北）。【短軸】520㎝（東西・検出部分のみ）【平面プラン】正方形に近い。【長軸方向】Ｎ－13°－Ｅ【重複関係】なし。【遺存状態】良好。【壁の立ち上がり】ゆるやかな角度。【確認面からの深さ】25㎝。【床面】直床と思われる。【柱穴・ピット等】ＥＰ１～３の３基を確認。径25～40㎝・深さ10～25㎝。位置的にはいずれも主柱穴の可能性が考えられるが、ＥＰ１を除いて掘り込みは浅い。【周溝】検出されたプランのほぼ全周にわたって確認（ＥＤ１）。幅15～20㎝・深さ６㎝。掘り込みはしっかりしている。【炉・カマド】プラン東側床面で焼土が検出されている。詳細は未確認である。【その他の屋内施設】未確認。【遺物】土師器坏（108～111）・甑（113）・甕（117・118）

等古墳時代に属する土師器と須恵器（115）の坏身、平安時代の土師器（112）と須恵器（114）、そのほか、石棒と思われる石製品（119）等が出土している。プラン東～南東側床面の焼土の近くで土器出土が多く、本遺構が調査区外の範囲にカマドを有していた可能性を示唆するものでもあるが、カマドの有無の詳細は不明である。なお、須恵器坏身は床面からの出土である。

【帰属時期】出土遺物および出土状況より、古墳時代中期（５世紀中葉～後葉）と思われる。

ＳＴ1112　**ＳＴ1112（遺構平面・断面図＝第20図、出土遺物実測図＝第82図）**

【位置】Ａ～Ｂ－43～44Ｇ。東部は調査区外に広がる。【長軸】400㎝（南北）。【短軸】380㎝（東西・検出部分のみ）【平面プラン】正方形に近い。【長軸方向】Ｎ－31°－Ｗ【重複関係】なし。【遺存状態】良好。【壁の立ち上がり】緩やかに立ち上がったあと垂直に上がる。【確認面からの深さ】20㎝。【床面】直床と思われる。固くしまる。【柱穴・ピット等】ＥＰ１～３の３基を確認。径25～40㎝・深さ８～10㎝。掘り込みは浅く位置的に見ても柱穴かどうかは疑問が残る。【周溝】検出されたプランのほぼ全周にわたって確認（ＥＤ１）。幅15㎝・深さ２㎝。【炉・カマド】未確認。【その他の屋内施設】未確認。【遺物】土師器坏（120）・甕（121）等古墳時代の土器や、石製品（122）が出土しているが全体的に点数は少ない。なお（120）の坏の底部外面には輪台技法を用いたと思われる痕跡が残っている。

【帰属時期】出土遺物および出土状況より、古墳時代中期（５世紀中葉～後葉）と思われる。

ＳＴ1127　**ＳＴ1127（遺構平面・断面図＝第21図、出土遺物実測図＝第82～85図）**

【位置】Ａ～Ｂ－42～43Ｇ。北西部は調査区外に広がる。【長軸】520㎝。【短軸】500㎝。【平面プラン】方形。【主軸方向】Ｎ－26°－Ｗ【重複関係】なし。【遺存状態】良好。【壁の立ち上がり】緩やかな角度。【確認面からの深さ】20㎝。【床面】直床と思われる。固くしまる。【柱穴・ピット等】ＥＰ１～４の４基を確認。径30～40㎝・深さ15～20㎝。【周溝】未確認。【炉・カマド】南壁の東側にカマド検出。主軸からの振れはＮ－39°－Ｗ。本体は長さ120㎝・幅100㎝・現存高45㎝、袖の検出部分は幅40㎝・高さ45㎝を測る。全体的な遺存状況は良好である。【その他の屋内施設】未検出。【遺物】土師器坏（123～125）・甕（126～139）等古墳時代に属する土器や、カマド石を含む石製品（140～142）が出土している。カマドとその周辺から多量の土器が出土した。土師器のうち（125）と（138）の底部外面には輪台技法を用いて成形された痕跡が残っている。

カマドを持つ

【帰属時期】出土遺物および出土状況より、古墳時代中期（５世紀中葉～後葉）と思われる。

ＳＴ2002　**ＳＴ2002（遺構平面・断面図＝第22～23図、出土遺物実測図＝第86～87図）**

【位置】Ｅ～Ｆ－60～61Ｇ。【長軸】580㎝（南北）。【短軸】560㎝（東西）。【平面プラン】方形。【主軸方向】Ｎ－20°－Ｗ【重複関係】西でＳＸ3667に切られる。【遺存状態】良好。【壁の立ち上がり】ゆるやかな角度。【確認面からの深さ】30㎝。【床面】直床と思われる。【柱穴・ピット等】ＥＰ１～４の４基を確認。径50～70㎝・深さ30～36㎝。位置的には主柱穴の可能性がある。【周溝】未確認。【炉・カマド】南壁の東側にカマド（ＥＬ１）検出。主軸からの振れはＮ－28°－Ｗ。本体は長さ195㎝・幅100㎝を測る。煙道は判然としない。袖の検出部分は長さ120㎝・幅40㎝・深さ23㎝を測る。【その他の屋内施設】未確認。【遺物】土師器坏（147）・高坏（148・149）・甕（150～152）須恵器坏蓋（143～145）・坏身（146）等古墳時代に属する土器のほか、砥石と思われる石製品（154・155）が出土している。土師器は主にカマドおよび

カマドを持つ

その周辺の床面近くから、須恵器はプラン北西部の覆土中から出土している。

【帰属時期】出土遺物および出土状況より、古墳時代中期（５世紀中葉～後葉）と思われる。

ＳＴ2004（遺構平面・断面図＝第24図、出土遺物実測図＝第87図） **ＳＴ2004**

【位置】Ｈ～Ｉ－59～60Ｇ。【長軸】440㎝（南北）。【短軸】380㎝（東西）。【平面プラン】長方形。【長軸方向】Ｎ－13°－Ｗ【重複関係】南西隅でＳＰ2196を切り、南隅でＳＰ2202に切られ、ＳＰ2204を切る。【遺存状態】良好。【壁の立ち上がり】やや急な角度。【確認面からの深さ】30㎝。【床面】直床と思われる。焼けた木材が折り重なるように多数検出されており、焼失建物の可能性が考えられる。【柱穴・ピット等】ＥＰ１～４の４基を確認。径32～60㎝・深さ17～31㎝。位置的には主柱穴と考えられる。【周溝】未確認。【炉・カマド】未確認。【その他の屋内施設】未確認【遺物】土師器坏（156）・有孔鉢（157）・甕（158・159）等古墳時代に属する土器のほか、縄文土器片（160）や石器の剥片（161）が出土している。 **焼失建物跡か**

【帰属時期】出土遺物および出土状況より、古墳時代中期（５世紀中葉～後葉）と思われる。

ＳＴ2006（遺構平面・断面図＝第25図、出土遺物実測図＝第88図） **ＳＴ2006**

【位置】Ｆ～Ｇ－54～55Ｇ。【長軸】430㎝（東西）。【短軸】260㎝（南北）。【平面プラン】不明。【長軸方向】Ｎ－83°－Ｅ【重複関係】北側をＳＴ2007に切られる（ＳＴ2006→ＳＴ2007）【遺存状態】やや不良。【壁の立ち上がり】ゆるやかな角度。【確認面からの深さ】10㎝。【床面】直床と思われる。【柱穴・ピット等】未確認。【周溝】未確認。【炉・カマド】未確認。【その他の屋内施設】未確認。【遺物】土師器坏（162～164）・高坏（165～169）・甕（170～172）等古墳時代に属する土器が出土している。

【帰属時期】出土遺物および出土状況より、古墳時代中期（５世紀中葉）と思われる。

ＳＴ2007（遺構平面・断面図＝第25図、出土遺物実測図＝第88～89図） **ＳＴ2007**

【位置】Ｆ～Ｇ－54Ｇ。【長軸】360㎝（南北）。【短軸】350㎝（東西）。【平面プラン】ほぼ正方形。【長軸方向】Ｎ－17°－Ｗ【重複関係】南側でＳＴ2006を切る（ＳＴ2006→ＳＴ2007）【遺存状態】やや不良。【壁の立ち上がり】ゆるやかな角度。【確認面からの深さ】10㎝。【床面】貼床を有すると思われる。【柱穴・ピット等】未確認。【周溝】未確認。【炉・カマド】未確認。【その他の屋内施設】未確認。【遺物】土師器甕・壷（173～181）・甑（182）等、古墳時代に属する土器が出土している。

【帰属時期】出土遺物および出土状況より、古墳時代中期（５世紀中葉～後葉）と思われる。

ＳＴ2008（遺構平面・断面図＝第26図、出土遺物実測図＝第90図） **ＳＴ2008**

【位置】Ｆ～Ｈ－64～65Ｇ。【長軸】660㎝（東西）。【短軸】520㎝（南北・検出部分のみ）。【平面プラン】方形。【長軸方向】Ｎ－90‐Ｅ°【重複関係】南側でＳＴ2009に、南東でＳＥ3985に切られる。（ＳＴ2008→ＳＴ2009）【遺存状態】不良。【壁の立ち上がり】急な角度。【確認面からの深さ】30㎝。【床面】貼床の有無等については判然としない。【柱穴・ピット等】未確認。【周溝】未確認。【炉・カマド】未確認。【その他の屋内施設】未確認。【遺物】土師器坏（184）・高坏（185）・甕（186・187）等古墳時代に属する土器のほか、平安時代の須恵器甕（183）や、砥石と思われる石製品（188）が出土している。

【帰属時期】遺物の出土量が少ないこともあり詳細は不明。古墳時代中期～平安時代前期までの範囲内の可能性がある。

ＳＴ2009　**ＳＴ2009（遺構平面・断面図＝第27図、出土遺物実測図＝第90～91図）**

【位置】Ｆ～Ｈ－65～67Ｇ。【長軸】800㎝（南北）。【短軸】700㎝（東西）。【平面プラン】方形。【長軸方向】Ｎ－８°－Ｗ【重複関係】北側でＳＴ2008を切り、北東隅をＳＥ3985に切られる（ＳＴ2008→ＳＴ2009）。またプラン全体が性格不明の別遺構を切っている。【遺存状態】不良。【壁の立ち上がり】やや急な角度。【確認面からの深さ】40㎝。【床面】貼床の有無等については判然としない。【柱穴・ピット等】未確認。【周溝】未確認。【炉・カマド】未確認。【その他の屋内施設】未確認。【遺物】土師器高坏（189～191）・甕（192）等古墳時代に属する土器、土師器坏（199）・高台付坏（194・200）・甕（193）、須恵器坏（195～197）・甕（198）等平安時代に属する土器、そのほか性格不明の木製品（201～203）等が出土している。平安時代の土器の一部には外面に墨書が確認されるものがある（197・199）ほか、坏類の底部にはすべて回転糸切の痕が見られる。また木製品のうち（201）には穿孔があり、（203）は片面が炭化している。

平安前期の竪穴か　【帰属時期】遺物およびその出土状況より、平安時代前期（９世紀第２～第３四半期）と思われる。

ＳＴ2010　**ＳＴ2010（遺構平面・断面図＝第28図、出土遺物実測図＝第92図）**

【位置】Ｅ～Ｆ－52～53Ｇ。【長軸】440㎝（東西・推定）。【短軸】420㎝（南北・推定）。【平面プラン】方形と思われる。西側は不明確。【長軸方向】Ｎ－60°－Ｅ【重複関係】北側でＳＴ2011に、南東隅をＳＰ3676に、西をＳＤ2447に、東をＳＢ3503に切られる（ＳＴ2010→ＳＴ2011→ＳＢ3503）。【遺存状態】不良。特に西側は後世の削平の影響を大きく受けている。【壁の立ち上がり】ゆるやかな角度。【確認面からの深さ】14㎝。【床面】直床と思われる。【柱穴・ピット等】ＥＰ１の１基を確認。径45㎝・深さ30㎝。【周溝】未確認。【炉・カマド】未確認。【その他の屋内施設】未確認。【遺物】土師器坏（206・207）・壷（209）・甕（208・210）等古墳時代に属する土器、須恵器壷・蓋（204～205）等平安時代に属する土器が出土しているが、遺構自体の遺存状態が良くない上に床面出土の遺物は少ない。

【帰属時期】出土遺物からは古墳時代中期（５世紀中葉～後葉）と思われる。

ＳＴ2011　**ＳＴ2011（遺構平面・断面図＝第28図、出土遺物実測図＝第92図）**

【位置】Ｅ～Ｆ－51～52Ｇ。【長軸】580㎝（南北・推定）。【短軸】570㎝（東西・推定）。【平面プラン】方形と思われる。北～北西側は不明確。【長軸方向】Ｎ‐28°－Ｗ。【重複関係】南側でＳＴ2011を切り、ＳＤ6074に切られる。東でＳＢ3503に切られる（ＳＴ2010→ＳＴ2011→ＳＢ3503）。【遺存状態】不良。特に北～西側は後世の削平の影響を大きく受けている。【壁の立ち上がり】ゆるやかな角度。【確認面からの深さ】10㎝。【床面】直床と思われる。【柱穴・ピット等】ＥＰ２の１基を確認したが、本遺構と重複するＳＴ2010に属するピットである可能性もある。径35㎝・深さ35㎝。【周溝】未確認。【炉・カマド】未確認。【その他の屋内施設】未確認。【遺物】土師器坏（211～213）・高坏（214）・甕（215・216）等古墳時代に属する土器が出土している。

【帰属時期】出土遺物および出土状況より、古墳時代中期（５世紀中葉～後葉）と思われる。

ＳＴ2012　**ＳＴ2012（遺構平面・断面図＝第29図、出土遺物実測図＝第92～93図）**

【位置】Ｇ～Ｈ－53～54Ｇ。【長軸】380㎝（南北）。【短軸】370㎝（東西）。【平面プラン】正

方形に近い方形。【長軸方向】Ｎ－５°－Ｗ。【重複関係】全体をＳＢ3503に切られる（ＳＴ2012→ＳＢ3503）。【遺存状態】良好。【壁の立ち上がり】急な角度。【確認面からの深さ】14㎝。【床面】貼床を有する。【柱穴・ピット等】未確認。【周溝】南側の壁近くの床面にはわずかに溝状に掘り込まれたような部分があるが詳細は不明である。【炉・カマド】プラン中央やや北側に地床炉と思われる焼土分布があるが詳細は不明である。【その他の屋内施設】未確認。【遺物】土師器坏（217・218）・壷（221）・甕（219・220・222・223）等古墳時代に属する土器が出土している。

【帰属時期】出土遺物および出土状況より、古墳時代中期（５世紀中葉～後葉）と思われる。

ＳＴ2014（遺構平面・断面図＝第30～31図、出土遺物実測図＝第93～94図）　**ＳＴ2014**

【位置】Ｆ～Ｇ－56～57Ｇ。【長軸】840㎝。【短軸】840㎝。【平面プラン】正方形。【長軸方向】Ｎ－13°－Ｗ【重複関係】なし。【遺存状態】良好。【壁の立ち上がり】急な角度。【確認面からの深さ】30㎝。【床面】貼床を有する。【柱穴・ピット等】ＥＰ１～４の４基を確認。径72～90㎝・深さ32～40㎝。位置的には主柱穴の可能性が考えられる。【周溝】壁近くの床面はいずれも若干掘り込まれているが詳細は不明。【炉・カマド】地床炉を確認。長さ60㎝・幅60㎝　Ｎ－15°－Ｗ。【その他の屋内施設】未確認。【遺物】土師器坏（224～237）・高坏（240～243）・壷（245・246・248）・甕（244・247・249）、須恵器坏蓋（238）・壷（239）等古墳時代に属する土器のほか、縄文土器（250・251）、石器・石製品（252～254）等が出土している。土師器のうち（230）と（244）の底部外面は輪台を用いて成形されたあとそれを削り飛ばしたと思われる痕跡がある。

【帰属時期】出土遺物および出土状況より、古墳時代中期（５世紀中葉～後葉）と思われる。

ＳＴ2016（遺構平面・断面図＝第32図、出土遺物実測図＝第95図）　**ＳＴ2016**

【位置】Ｈ～Ｋ－57～59Ｇ。【長軸】670㎝（南北）。【短軸】590㎝（東西・検出部分のみ）。【平面プラン】方形。【長軸方向】Ｎ－15°－Ｅ【重複関係】北東をＳＸ2480に、南東をＳＤ2628に切られる。【遺存状態】やや不良。【壁の立ち上がり】ゆるやかな角度。【確認面からの深さ】12㎝。【床面】直床と思われる。【柱穴・ピット等】未確認。【周溝】未確認。【炉・カマド】未確認【その他の屋内施設】未確認。【遺物】土師器高台付皿（256）・須恵器壷（255）等の、平安時代に属する土器が出土しているが全体的に数量は少ない。

【帰属時期】遺物の出土量が少ないこともあり詳細は不明。古墳時代中期～平安時代前期までの範囲内の可能性がある。

ＳＴ2017（遺構平面・断面図＝第33図、出土遺物実測図＝第95図）　**ＳＴ2017**

【位置】Ｄ～Ｆ－49～50Ｇ。南西は調査区外に広がる。【長軸】480㎝（東西・検出部分のみ）。【短軸】450㎝（南北・検出部分のみ）。【平面プラン】方形。【長軸方向】Ｎ－48°－Ｅ【重複関係】なし。【遺存状態】不良。【壁の立ち上がり】ゆるやかな角度。【確認面からの深さ】10㎝。【床面】直床と思われる。【柱穴・ピット等】未確認。【周溝】未確認。【炉・カマド】未確認【その他の屋内施設】未確認。【遺物】土師器鉢（257）・甕（258～260）等古墳時代に属する土器や、数点の石製品（261～263）が出土しているが全体的に点数は少ない。

【帰属時期】出土遺物および出土状況より、古墳時代中期（５世紀中葉～後葉）と思われるが詳細は不明。

ＳＴ2019　**ＳＴ2019（遺構平面・断面図＝第34図、出土遺物実測図＝第96～97図）**

【位置】Ｉ～Ｊ－54～55Ｇ。【長軸】440㎝（東西）。【短軸】380㎝（南北）。【平面プラン】方形。【長軸方向】Ｎ－71°－Ｅ【重複関係】なし。【遺存状態】良好。【壁の立ち上がり】急な角度。【確認面からの深さ】24㎝。【床面】貼床を有する。プラン西側に炭化した木材が多数検出

焼失建物跡か

され、焼失建物の可能性あり。【柱穴・ピット等】ＥＰ１～６の六基を確認。１・２は径25㎝・深さ35㎝、３～６は径15㎝・深さ10～15㎝。【周溝】未確認。【炉・カマド】未確認。【その他の屋内施設】未確認。【遺物】土師器坏（264～267）・高坏（268～270）・壷（271・278）・甕（272～275・277・279・280）・甑（276）等古墳時代に属する土器のほか、土製品の紡錘車（281）・砥石と思われる石製品（282）。土師器のうち（267）の底部外面は輪台技法を用いて成形されたあとその輪台を削り飛ばしたと思われる痕跡がある。

【帰属時期】出土遺物および出土状況より、古墳時代中期（５世紀中葉～後葉）と思われる。

ＳＴ2020　**ＳＴ2020（遺構平面・断面図＝第35図、出土遺物実測図＝第98図）**

【位置】Ｈ－51～52Ｇ。【長軸】470㎝（東西・検出部分のみ）。【短軸】340㎝（南北・検出部分のみ）。【平面プラン】方形と思われる。【長軸方向】Ｎ－30°－Ｅ【重複関係】北東をＳＣ5002に、南東をＳＸ2760に、南西をＳＢ3502に切られる。【遺存状態】良くない。【壁の立ち上がり】やや急な角度。【確認面からの深さ】10㎝。【床面】貼床の有無等は判然としない。【柱穴・ピット等】未確認。【周溝】未確認。【炉・カマド】北東隅に焼土が検出されているが詳細は不明。【その他の屋内施設】未確認。【遺物】土師器坏（284・285）・甕（286・287）等古墳時代に属する土器のほか、平安時代に属する須恵器双耳坏の破片（283）等が出土しているが全体的に点数は少ない。土師器のうち（285）の底部外面は輪台を用いて成形されたあとそれを削り飛ばしたと思われる痕跡がある。

【帰属時期】出土遺物および出土状況より、古墳時代中期（５世紀中葉～後葉）と思われるが詳細は不明。

ＳＴ4002　**ＳＴ4002（遺構平面・断面図＝第35図、出土遺物実測図＝第98図）**

【位置】Ｉ～Ｋ－45～46Ｇ。【長軸】520㎝。【短軸】520㎝。【平面プラン】ほぼ正方形。【長軸方向】Ｎ－10°－Ｅ【重複関係】南西隅をＳＫ3030に切られる。【遺存状態】不良。上部は後世の削塀の悪影響が大きく、壁面はほとんど残っていない状態であった。【壁の立ち上がり】確認面の高さが床面と同一と思われるため判然としない。【確認面からの深さ】確認面が床面と思われる。【床面】直床と思われる。【柱穴・ピット等】未確認。【周溝】未確認。【炉・カマド】プラン中央部に焼土・炭化物が集中しており、地床炉があった可能性があるが詳細は不明。【その他の屋内施設】ＳＫ3030からは多量の土師器が出土し、ＳＴ4002と何らかの関連のある施設であった可能性があるが詳細は不明である。【遺物】ＳＴ4002としたプラン内から出土した遺物は遺存状態が良くなく、図化したものは古墳時代に属する土師器甕（288）１点のみである。なおＳＫ3030からは古墳時代に属する土師器坏・高坏・壷・甕等が出土している。

【帰属時期】出土遺物および出土状況より、古墳時代中期（５世紀中葉～後葉）と思われる。

ＳＴ4003　**ＳＴ4003（遺構平面・断面図＝第36～37図、出土遺物実測図＝第98～101図）**

【位置】Ｄ～Ｆ－46～48Ｇ。【長軸】810㎝（南北）。【短軸】720㎝（東西）。【平面プラン】方形。【長軸方向】Ｎ－40°－Ｗ【重複関係】畝跡と思われる溝状遺構に覆土を切られている。【遺

存状態】良好。【壁の立ち上がり】やや急な角度。【確認面からの深さ】18㎝。【床面】直床と思われる。【柱穴・ピット等】ＥＰ１～３の３基を確認したが、位置や深さから見て主柱穴であった可能性があるのはＥＰ３のみと思われる。径70～100㎝・深さ15～30㎝。【周溝】未確認。【炉・カマド】プラン中央からやや南東寄りに石囲を伴う炉（ＥＬ１）を検出した。主軸からの振れはＮ－41°－Ｅ。40㎝×20㎝程度の大きさの石が４個組まれている。煙道は長さ50㎝・幅50㎝が残存している。【その他の屋内施設】未確認。【遺物】土師器坏（295～300）・壷（301～303）・甕（304～324）・甑（325）等古墳時代に属する土器多数のほか、模造石製品（290～293）・砥石（294）・土製品の紡錘車（289）等が出土している。

【帰属時期】出土遺物および出土状況より、古墳時代中期（５世紀中葉～後葉）と思われる。

ＳＴ4004（遺構平面・断面図＝第38～39図、出土遺物実測図＝第102～103図）　**ＳＴ4004**

【位置】Ｇ～Ｈ－48～50Ｇ。【長軸】760㎝（東西）。【短軸】750㎝（南北）。【平面プラン】ほぼ正方形。【主軸方向】Ｎ－35°－Ｗ【重複関係】平安時代の畝跡と思われる溝状遺構に覆土を切られる。また、南西隅を近代の用水路によって切られる。【遺存状態】良好。【壁の立ち上がり】ゆるやかな角度。【確認面からの深さ】12㎝。【床面】直床と思われる。【柱穴・ピット等】ＥＰ１～５の５基を確認。径68～84㎝・深さ20～30㎝。ＥＰ５を除いた４基は位置的には主柱穴の可能性が考えられる。【周溝】未確認。【炉・カマド】北壁ほぼ中央にカマド跡（ＥＬ１）を検出した。主軸からの振れはＮ－30°－Ｗ。本体は長さ80㎝・幅90㎝を測る。煙道は未検出である。袖の検出部分は長さ80㎝・幅30㎝を測る。【その他の屋内施設】。未検出。【遺物】土師器坏（326～332）・壷（334）・甕（333・335・341～349）等古墳時代に属する土器のほか、畝跡が覆土を切った際の流れ込みと思われる平安時代の土師器坏（336・337）・高台付坏（338）等が出土している。古墳時代の土師器のうち（328）（349）の底部外面は輪台を用いて成形された痕跡が見られ、（328）にはその輪台を削り飛ばしたと思われる痕跡もある。

【帰属時期】出土遺物および出土状況より、古墳時代中期（５世紀後葉）と思われる。

ＳＴ4005（遺構平面・断面図＝第40～41図、出土遺物実測図＝第104～105図）　**ＳＴ4005**

【位置】Ｆ～Ｈ－44～45Ｇ。【長軸】680㎝（南北）。【短軸】630㎝（東西）。【平面プラン】方形。【主軸方向】Ｎ－38°－Ｗ【重複関係】西でＳＴ4006を切る（ＳＴ4006→ＳＴ4005）。南西隅でＳＥ3001に切られる。【遺存状態】良好。【壁の立ち上がり】ゆるやかな角度。【確認面からの深さ】24㎝。【床面】直床と思われる。【柱穴・ピット等】ＥＰ１～５の５基を確認。径70～90㎝・深さ26～32㎝。ＥＰ１～４の４基は位置的に見て主柱穴の可能性が考えられる。【周溝】未確認。【炉・カマド】北壁ほぼ中央にカマド跡（ＥＬ１）を検出。主軸からの振れはＮ－37°－Ｗ。本体は長さ180㎝・幅230㎝を測る。煙道は未検出である。袖の検出部分は長さ100㎝・幅36㎝・深さ８㎝を測る。【その他の屋内施設】未確認。【遺物】土師器坏（350～352）・壷（353）・甕（354～358・361～364）等古墳時代に属する土器のほか、土製品の紡錘車（359・360）・性格不明の石製品（365）等が出土している。古墳時代の土師器のうち（355）の底部外面には成形時の輪台を削り飛ばしたと思われる痕跡がある。

【帰属時期】出土遺物および出土状況より、古墳時代中期（５世紀後葉）と思われる。

ＳＴ4006（遺構平面・断面図＝第40図、出土遺物実測図＝第106図）　**ＳＴ4006**

【位置】Ｆ～Ｇ－44～45Ｇ。【長軸】400㎝（南北）。【短軸】190㎝（東西・検出部分のみ）。【平

面プラン】方形と思われる。【主軸方向】Ｎ－50°－W。【重複関係】東をＳＴ4005に、南をＳＥ3001に切られる。（ＳＴ4006→ＳＴ4005）【遺存状態】やや不良。【壁の立ち上がり】やや急な角度。【確認面からの深さ】15㎝。【床面】直床と思われる。【柱穴・ピット等】未確認。【周溝】未確認。【炉・カマド】未確認。【その他の屋内施設】。未確認。【出土した遺物】土師器坏（366・367）・甕（369・370）等古墳時代に属する土器が出土しているが全体的に点数は少ない。

【帰属時期】出土遺物および出土状況より、古墳時代中期（５世紀中葉～後葉）と思われる。

2　平地式建物跡（ＳＣ）

第３次調査で２棟が検出された。以下に概要を述べる。

ＳＣ5001　**ＳＣ5001（遺構平面・断面図＝第42図、出土遺物実測図＝第106図）**

【位置】Ｊ～Ｌ－46～48Ｇ。プラン東側の一部は調査区外に連続するものと思われる。

【長軸】1080㎝（東西・検出部分のみ）。【短軸】840㎝。（南北）【平面プラン】隅丸方形に近い。【長軸方向】Ｎ－０°【重複関係】本遺構のＥＤ１の南西隅が、ＳＤ6062にわずかに切られている。【遺存状態】良好ではない。【壁】壁そのものに相当する構造物あるいは部位は遺存していないと思われる。ただ、後述のＥＤ２が、壁を支える役割を果たしていた遺構と考えられる。【床面】不明。遺構確認面が地山面のため、後世の圃場整備による削平等により遺存していないと思われる。【柱穴・ピット等】ＥＰ１～２の２基を確認。径30～40㎝・確認面からの深さ30～35㎝。平面上の大きさが同程度のピットはほかにも本遺構内から数基検出されているが、掘り込みが浅いながらもしっかりしているこの２基については柱穴と考える。【溝】プラン外側（外縁）のＥＤ１と、内側のＥＤ２の２条を確認。ＥＤ１は排水用に設けられたと思われ、幅40～180㎝・深さ20～36㎝を測り、遺構の西・北・東を巡るが東側では未検出の部分が多い。また、南側ではこの溝が途切れている。ＥＤ２は壁を支える構造の一部と思われ、幅16～60㎝・深さ５～８㎝を測り、長辺490㎝・短辺340㎝の方形を成すが、北と南にそれぞれ溝跡が未検出で方形が途切れる部分がある。【その他の屋内施設】ＥＤ１の南側の「開口部」は、この向き・位置に本建物跡の出入り口に相当する施設があったことをうかがわせるが詳細は不明である。【遺物】土師器高坏（372・373）・甕（374～376）等古墳時代の土器や、須恵器坏（371）等平安時代の土器が出土しているが全体としての出土量は少ない。【帰属時期】古墳時代と思われる。

ＳＣ5002　**ＳＣ5002（遺構平面・断面図＝第43図、出土遺物実測図＝第106図）**

【位置】Ｈ～Ｋ－50～52Ｇ。

【長軸】1110㎝（東西）。【短軸】980㎝（南北）。【平面プラン】隅丸方形に近い。【長軸方向】Ｎ－４°－W【重複関係】ＳＤ6063～6068・6078・6082・6084・6085や、ＳＥ2986・ＳＫ2320等の遺構に切られるほか、プラン中央部を近現代の用水路によって切られる。また、ＳＴ2020を切る。【遺存状態】良好ではない。【壁】壁そのものに相当する構造物あるいは部位は遺存していないと思われる。ただ、後述のＥＤ２が、壁を支える役割を果たしていた遺構と考えられる。【床面】不明。遺構確認面が地山面のため、後世の圃場整備による削平等により遺存していないと思われる。【柱穴・ピット等】ＳＰ3072・2820・2819等は本遺構に従属する柱穴であ

る可能性も考えられるが、検出時の状況ではいずれも掘り込みが浅い。【溝】プラン外側（外縁）のＥＤ１と、内側のＥＤ２の２条を確認。ＥＤ１は排水用に設けられたものと思われ、幅50～150㎝・深さ20～25㎝を測り、遺構の東・北・西を巡るが南側が途切れている。ＥＤ２は壁を支える構造の一部と思われ、幅10～40㎝を測り、一辺440～460㎝の方形を成すが、北西の部分は未検出である。【その他の屋内施設】ＥＤ１の南側の「開口部」は、この向き・位置に本建物跡の出入り口に相当する施設があったことをうかがわせるが詳細は不明である。【遺物】内面黒色処理の土師器坏（377）が出土しているが全体的に出土数は少ない。【帰属時期】主に遺構の重複関係と調査区内の他の遺構との関連を考慮して、古墳時代と推測する。

３　掘立柱建物跡（ＳＢ）

掘立柱建物跡は第二次調査で６棟、第三次調査で６棟、計12棟が確認された。そのほか、関連する遺構も含めて以下に概要を述べる。

ＳＢ107（遺構平面・断面図＝第44図） **ＳＢ107**

【位置】Ｌ～Ｎ－69～70Ｇ。【重複関係】ＳＤ89・ＳＤ90を切る。また、近現代の暗渠にＥＢ６・ＥＢ10を切られる。【規模】長軸840㎝・短軸520㎝。【梁行】２間（南北）。【桁行】４間（東西）。【長軸方向】Ｎ－80°－Ｗ。【柱穴】12本。平面形は隅丸方形に近い円形または楕円形。径40～70㎝・深さ25～40㎝。【柱間】184～236㎝。【遺物】出土していない。【性格・帰属時期等】全体的な規模や長軸が東西を向く点はＳＢ3501と共通する。また本遺構に切られているＳＤ89・ＳＤ90からは微量ながら平安時代に属する土器片が出土していることから、本遺構の構築時期は平安時代以降と推測されるが詳細は不明である。

ＳＢ457（遺構平面・断面図＝第45図） **ＳＢ457**

【位置】Ｌ～Ｍ－57～58Ｇ。【重複関係】溝状の遺構数条（掘り込みは浅い）を切っている。【規模】460×460㎝【梁行】２間（南北）。【桁行】２間（東西）。【総柱】あり（ＥＢ９）。【長軸方向】Ｎ－22°－Ｅ。【柱穴】９本。平面形は円形または楕円形。径40～60㎝・深さ35～45㎝。【柱間】190～220㎝【遺物】出土していない。【性格・帰属時期等】柱の配置や全体の平面形状はＳＢ3506と共通するが、向きは異なる。総柱を有することから他の建物跡とは異なる性格を有していた可能性も考えられるが詳細は不明である。

ＳＢ672（遺構平面・断面図＝第45図・出土遺物実測図＝第44図） **ＳＢ672**

【位置】Ｋ～Ｌ－66～67Ｇ。【重複関係】東でＳＸ149を切る。【規模】長軸480㎝・短軸400㎝【梁行】２間（東西）。【桁行】２間（南北）。【長軸方向】Ｎ－20°－Ｅ。【柱穴】８本。平面形は円形または楕円形。径40～80㎝・深さ35～45㎝。【柱間】150～228㎝。【遺物】ＥＢ３の覆土中から古墳時代の須恵器と思われる土器片（378）が出土。【性格・帰属時期等】本遺構と重複するＳＸ149から出土した古墳時代の土師器には比較的古い様相が見られるほか、本遺構の柱穴覆土から５世紀後半代と思われる須恵器片が出土していることから、本遺構は古墳時代中期以降に帰属するものと考えられるが詳細は不明である。

ＳＢ879（遺構平面・断面図＝第46図、出土遺物実測図＝第47図） **ＳＢ879**

【位置】Ｎ－47～48Ｇ。【重複関係】ＳＤ6007～ＳＤ6009（畝跡と思われる溝状遺構）と重複。ＥＢ５がＳＤ6007に切られる。【規模】380×380㎝。【梁行】２間（東西）。【桁行】２間（南北）。

【長軸方向】Ｎ－８°－Ｅ。【柱穴】８本。平面形は円形または楕円形で隅丸方形に近いものも含む。径36～60㎝・深さ12～30㎝。【柱間】150～190㎝。【遺物】ＥＢ３の覆土中から、古墳時代に属すると思われる土師器甕（379）が出土している。【性格・帰属時期等】上記ＳＤとの重複関係から平安時代前期以前と推測されるが詳細は不明である。

ＳＢ1601　**ＳＢ1601（遺構平面・断面図・出土遺物実測図＝第47図）**

【位置】Ｌ～Ｍ－48～49Ｇ。【重複関係】ＳＢ1620に切られる。また、ＳＤ6007・6009・6011等の畝跡と思われる溝状遺構に切られる。【規模】長軸590㎝・短軸540㎝【梁行】３間（東西）。【桁行】３間（南北）。【長軸方向】Ｎ－17°－Ｅ。【柱穴】12本。平面形は円形または楕円形。径26～60㎝・深さ16～50㎝。【柱間】116～240㎝。【遺物】ＥＢ２・３・８・12等から柱根と思われる木材が出土（380～384）。【性格・帰属時期等】上記の他遺構との重複関係から、平安時代前期以前と推測するが詳細は不明である。

ＳＢ1620　**ＳＢ1620（遺構平面・断面図＝第46図）**

【位置】Ｌ～Ｍ－49～50Ｇ。【重複関係】ＳＢ1601を切り、ＳＤ6004・ＳＤ6005に切られる。ＳＢ3505とも重複する。【規模】長軸510㎝・短軸470㎝。【梁行】２間（南北）。【桁行】２間（東西）。【長軸方向】Ｎ－25°－Ｅ。【柱穴】７本。平面形は円形または楕円形。径30～50㎝・深さ20～50㎝。【柱間】190～480㎝【遺物】出土していない。【性格・帰属時期等】上記ＳＤ（畝跡と思われる溝状遺構）との重複関係により、平安時代前期以降と推測するが詳細は不明である。

ＳＢ3501　**ＳＢ3501（遺構平面・断面図＝第48図、出土遺物実測図＝第49図）**

【位置】Ｉ～Ｊ－64～66Ｇ。【重複関係】小規模な溝状遺構数条を切っている。【規模】長軸770㎝・短軸480㎝。【梁行】３間（南北）。【桁行】５間（東西）。【長軸方向】Ｎ－79°－Ｗ。【柱穴】12本。平面形は隅丸方形あるいは楕円形。径54～90㎝・深さ12～61㎝。【柱間】140～180㎝。【遺物】ＥＢ５～８・10・11から柱根と思われる木材（385～390）が出土している。【本遺構と隣接する２遺構との関連について】本遺構の発掘調査時には、北に隣接するＳＡ3508・東に隣接するＳＢ3507もこのＳＢ3501の一部としていた。だがその後の検討でＳＡ3508とは柱穴の平面形・大きさで共通する部分よりもむしろ相違点が目立つことや、本遺構のＥＢ１・ＥＢ12とＳＡ3508のＥＢ１・ＥＢ６の間に位置する可能性のある柱穴が判然としないこと、またＳＢ3507としたＥＢの位置関係は本遺構に従属するというよりも東に隣接する別遺構と考えられること、などから本報告書ではこれら３基をそれぞれ別個の建造物の遺構とみなしている。しかし本遺構のＥＢ１～ＥＢ12を結ぶ辺上の柱穴が判然としないこと等を考えると、ＳＡ3508・ＳＢ3507のいずれかあるいは双方とも、本遺構と一体化して一個の建造物の遺構であった可能性も否定されるものではなく、詳細は今後の検討に委ねたい。【性格・帰属時期等】他の遺構だが、本遺跡のＳＧ2639からは仏具として使用されたと思われる平安時代の土器が、ＳＤ2481からは「大寺」との記載がある墨書土器が出土しており、これらの遺物からは本遺跡内に仏教寺院が所在した可能性が考えられる。本遺構が発掘調査時に想定されたような規模・構造を持つものであるとすればその寺院跡に擬することも可能であるが、上記の件、および本遺構からはその性格・時期を判断するに足る遺物の出土がない点から、この詳細についての明言は現時点では避けたい。

隣接する他の遺構との関連

ＳＢ3502（遺構平面・断面図・出土遺物実測図＝第50図） **ＳＢ3502**

【位置】Ｇ～Ｈ－51～52Ｇ。【重複関係】南東でＳＴ2020を切る。【規模】長軸600㎝・短軸450㎝【梁行】２間（東西）。【桁行】３間（南北）。【長軸方向】Ｎ－17°－Ｅ。【柱穴】12本。平面形は円形あるいは楕円形。径23～45㎝・深さ18～38㎝。【柱間】160～210㎝。【遺物】ＥＢ３の覆土中から、平安時代に属する土師器坏（391）が出土しているほか、ＥＢ３・ＥＢ４からは柱根と思われる木材が出土している。【性格・帰属時期等】出土遺物からは平安時代以降と推測されるが詳細は不明である。

ＳＢ3503（遺構平面・断面図・出土遺物実測図＝第51図） **ＳＢ3503**

【位置】Ｇ～Ｈ－52～53Ｇ。【重複関係】ＳＴ2010・ＳＴ2011・ＳＴ2012を切る。【規模】長軸760㎝・短軸460㎝【梁行】２間（東西）。【桁行】４間（南北）。【総柱】ＥＢ３～９を結ぶ線とＥＢ13～14を結ぶ線の交点に位置する可能性もあるが未検出。【長軸方向】Ｎ－４°－Ｅ。【柱穴】14本。平面形は円形あるいは楕円形。径25～63㎝・深さ19～46㎝。【柱間】170～220㎝。【遺物】ＥＢ６から古墳時代に属する土師器坏（392）・ＥＢ９から同じく土師器甕（393）が出土したほか、ＥＢ10から柱根と思われる木材（394）が出土している。【性格・帰属時期等】出土遺物および遺構の上下関係からは古墳時代中期以降と思われるが詳細は不明である。

ＳＢ3505（遺構平面・断面図＝第52図） **ＳＢ3505**

【位置】Ｋ～Ｌ－49～50Ｇ。【重複関係】ＳＣ5002・ＳＤ6067～6072を切る。またＳＢ1620とも重複するが上下関係は判然としない。【規模】長軸800㎝・短軸540㎝。【梁行】２間（東西）。【桁行】４間（南北）。【長軸方向】Ｎ－13°－Ｅ。【柱穴】12本。平面形は隅丸方形あるいはそれに近い楕円形。径59～85㎝・深さ23～50㎝。なお、北東隅に位置すると思われる柱穴は未検出である。【柱間】175～240㎝。【遺物】出土していない。【性格・帰属時期等】遺構の上下関係から平安時代以降と推測されるが詳細は不明である。

ＳＢ3506（遺構平面・断面図＝第52図） **ＳＢ3506**

【位置】Ｌ～Ｍ－48～49Ｇ。【重複関係】ＳＤ3643を切る。【規模】長軸590㎝・短軸540㎝【梁行】３間（東西）。【桁行】３間（南北）。【総柱】あり。【長軸方向】Ｎ－17°－Ｅ。【柱穴】９本。平面形は楕円形あるいは長円に近い楕円形。径35～60㎝・深さ８～35㎝。【柱間】176～200㎝。【遺物】出土していない。【性格・帰属時期等】形状はＳＢ457と共通する。また位置は遺構の密集する区域から北に離れており、本遺構の性格と関連があるのかも知れないがいずれにしても詳細は不明である。

ＳＢ3507（遺構平面・断面図・出土遺物実測図＝第53図） **ＳＢ3507**

【位置】Ｌ～Ｍ－49～50Ｇ。【重複関係】特になし。【規模】（検出部分のみ）長軸760㎝・短軸350㎝【梁行・桁行】未確認。【長軸方向】Ｎ－25°－Ｅ。【柱穴】７本。平面形は隅丸方形あるいは楕円形。径50～125㎝・深さ18～45㎝。【柱間】200～280㎝。【遺物】ＥＢ２・ＥＢ３から柱根と思われる木材（395・396）が出土している。【性格・帰属時期等】前述のようにＳＢ3501・ＳＡ3508との関連が窺えるが、詳細は不明である。

ＳＡ3508（遺構平面・断面図＝第48図） **ＳＡ3508**

【位置】Ｉ～Ｊ－64～65Ｇ。【重複関係】特になし。【長さ】850㎝。【方向】Ｎ－83°－Ｗ。【柱穴】６本。平面形は楕円形。径50～125㎝・深さ18～45㎝。【柱間】140～170㎝。【遺物】ＥＢ

６から柱根と思われる木材が出土している。【性格・帰属時期等】ＳＢ3501・ＳＢ3507との関連が窺える。前述のように当初はＳＢ3501の一部と判断したものを本報告書では別の解釈をとったが、詳細は今後の検討に委ねたい。

４　土坑（ＳＫ）

大規模なものや、多量の遺物の出土をみたものについて以下に概要を述べる。

ＳＫ1097

ＳＫ1097（遺構平面・断面図＝第54図）

【位置】Ｂ－46Ｇ。【規模・形状】長径286㎝・短径200㎝の楕円形。【重複関係】なし。【確認面からの深さ】43㎝【断面形】開口部に向かってゆるやかな角度で立ち上がる。【出土した遺物】なし。【帰属時期】不明。

ＳＫ3023

ＳＫ3023（遺構平面・断面図＝第55図、出土遺物実測図＝第110～113図）

【位置】Ｉ－49Ｇ。【規模・形状】長径276㎝・短径216㎝の楕円形。【重複関係】ＳＤ6061・6062に切られる。【確認面からの深さ】56㎝。【断面形】開口部に向かってやや急な角度で立ち上がる。【遺物】覆土中および底面から土師器坏・鉢（430～435）・高坏（436～441）坩（452）・壷（442～446）・甕（447～451・453～460）など古墳時代に属する多量の土器と、若干の石器・石製品（461～465）が出土している。土師器のうち、（433～435）の底部外面には輪台を用いて成形されたあとその輪台を削り飛ばしたと思われる痕跡がある。（451）は口縁部に蓋状のものを取り付けるためと思われる穿孔を有する。【帰属時期等】土器は５世紀代に属すると思われるがその中で時期の新旧は混在する。当遺構の性格については、模造石製品等祭祀に使用すると考えられる遺物が共伴しないことから、土器の廃棄場所の可能性が考えられる。

多量の土師器が出土

ＳＫ3030

ＳＫ3030（遺構平面・断面図＝第55図、出土遺物実測図＝第108～109図）

【位置】Ｉ－46Ｇ。【規模・形状】長径191㎝・短径142㎝の楕円形。【重複関係】ＳＴ4002を切る。【確認面からの深さ】56㎝【断面形】開口部に向かってやや急な角度で立ち上がる。【遺物】主に覆土中から土師器坏・碗（416・417）・高坏（418・419）・甕・壷（420～429）等古墳時代に属する土器が出土している。（417）の底部外面には輪台を用いて成形されたあとその輪台を削り飛ばしたと思われる痕跡がある。【帰属時期】古墳時代中期（５世紀）と思われ、ＳＴ4002廃絶時の土器投棄坑の可能性がある。

ＳＫ2112

ＳＫ2112（遺構平面・断面図＝第56図）

【位置】Ｈ－66Ｇ。【規模・形状】長径191㎝・短径165㎝の楕円形【重複関係】ＳＰ2794等のピット２基に切られる。【確認面からの深さ】28㎝【断面形】開口部に向かってゆるやかな角度で立ち上がる。【遺物】出土していない。【帰属時期】不明。

ＳＫ2260

ＳＫ2260（遺構平面・断面図＝第56図）

【位置】Ｈ－54Ｇ。【規模・形状】長径148㎝・短径144㎝の歪んだ円形。【重複関係】ＳＰ3675に切られる。【確認面からの深さ】11㎝【断面形】開口部に向かってゆるやかな角度で立ち上がる。【遺物】出土していない。【帰属時期】不明。

ＳＫ2294

ＳＫ2294（遺構平面・断面図＝第56図、出土遺物実測図＝第117図）

【位置】Ｉ－54Ｇ。【規模・形状】長径145㎝・短径110㎝の楕円形。【重複関係】ＳＤ6087を切る。【確認面からの深さ】15㎝【断面形】開口部に向かってゆるやかな角度で立ち上がる。【遺

物】覆土中から古墳時代に属する土師器甕（492）が出土。【帰属時期】不明。

ＳＫ2308（遺構平面・断面図＝第56図） **ＳＫ2308**

【位置】Ｉ－53Ｇ。【規模・形状】長径143㎝・短径94㎝の楕円形【重複関係】ピット１基に切られる。また近現代の暗渠に切られる。【確認面からの深さ】17㎝【断面形】開口部に向かってやや急な角度で立ち上がる。【遺物】出土していない。【帰属時期】不明。

ＳＫ2320（遺構平面・断面図＝第56図） **ＳＫ2320**

【位置】Ｉ－52Ｇ。【規模・形状】長径170㎝・短径165㎝の歪んだ円形。【重複関係】ＳＣ5002を切る。【確認面からの深さ】19㎝【断面形】開口部に向かってゆるやかな角度で立ち上がる。【遺物】出土していない。【帰属時期】不明。

ＳＫ2539（遺構平面・断面図＝第57図） **ＳＫ2539**

【位置】Ｈ－56Ｇ。【規模・形状】長径96㎝・短径95㎝のやや歪んだ円形。【重複関係】なし。【確認面からの深さ】12㎝【断面形】開口部に向かってゆるやかな角度で立ち上がる。【遺物】出土していない。【帰属時期】不明。

ＳＫ3024（遺構平面・断面図＝第57図） **ＳＫ3024**

【位置】Ｊ～Ｋ－56Ｇ。【規模・形状】長径100㎝・短径76㎝の楕円形。【重複関係】ＳＤ6069を切る。【確認面からの深さ】12㎝【断面形】開口部に向かってゆるやかな角度で立ち上がる。【遺物】出土していない。【帰属時期】不明。

ＳＫ2477・ＳＫ2478（遺構平面・断面図＝第57図） **ＳＫ2477・ＳＫ2478**

【位置】Ｈ～Ｉ－54～55Ｇ。【規模・形状】ＳＫ2477は長径160㎝・短径148㎝、ＳＫ2478は長径162㎝・短径123㎝のいずれも歪んだ楕円形。【重複関係】ＳＫ2478がＳＫ2477を切る。【確認面からの深さ】15～22㎝。【断面形】開口部に向かってゆるやかな角度で立ち上がる。【遺物】出土していない。【帰属時期】不明。

ＳＫ3665（遺構平面・断面図＝第57図、出土遺物実測図＝第108図） **ＳＫ3665**

【位置】Ｅ－56Ｇ。南側は調査区外に連続するものと思われる。【規模・形状】長径213㎝・短径152㎝の不定形。【重複関係】なし。【確認面からの深さ】21㎝【断面形】開口部に向かってゆるやかな角度で立ち上がる。【遺物】土師器坏（409～412）・甕（413～415）等、古墳時代に属する土器が出土している。【帰属時期】古墳時代中期と思われる。

ＳＫ2182（遺構平面・断面図＝第60図、出土遺物実測図＝第107図） **ＳＫ2182**

【位置】Ｅ～Ｆ－63～65Ｇ。【規模・形状】長径800㎝・短径490㎝の不定形。【重複関係】ＳＤ2181溝状遺構を切る。【確認面からの深さ】16㎝【断面形】開口部にむかってゆるやかな角度で立ち上がる。【遺物】土師器坏（397～399）・高坏（400～402）・甕（403～405）等古墳時代に属する土器と、土師器高台付坏（406）・須恵器坏（407・408）等平安時代に属する土器とが出土している。【帰属時期】出土遺物から古墳時代中期～平安時代前期と推測するが詳細は不明である。

ＳＫ1532（遺構平面・断面図＝第61図） **ＳＫ1532**

【位置】Ｎ－68Ｇ。【規模・形状】長径164㎝・短径110㎝の歪んだ楕円形。【重複関係】南側で溝状遺構を切る。【確認面からの深さ】33㎝【断面形】開口部に向かってやや急な角度で立ち上がる。【遺物】出土していない。【帰属時期】不明。

ＳＫ3032　**ＳＫ3032（遺構位置図＝第７図、出土遺物実測図＝第114～115図）**

【位置】Ｉ～Ｊ－47Ｇ。【規模・形状】長径167㎝・短径130㎝の歪んだ楕円形。【重複関係】小規模な溝状遺構を切る。【遺物】土師器坏（469～471）・高坏（466）・甕（467・468）等古墳時代に属する土器のほか、若干の石製品（472）が出土している。【帰属時期】古墳時代中期以降と思われる。

５　井戸跡（ＳＥ）

規模・遺存状況・出土遺物等から、特に重要な意味を持つと思われた４基について以下に概要を述べる。

ＳＥ2419　**ＳＥ2419（遺構平面・断面図＝第57図）**

【位置】Ｊ－55Ｇ。【長径】250㎝。【短径】227㎝。【平面プラン】楕円形。【重複関係】ＳＤ6019を切っている。【確認面からの深さ】74㎝。【断面形】開口部に向かってゆるやかな角度で立ち上がる。【出土した遺物】平安時代に属する土器が若干量と曲物の一部と思われる木製品が出土しているが、いずれも小片であった。【帰属時期】本遺構に切られたＳＤ6019が平安時代前期の遺構と考えられることと、本遺構の出土遺物から、構築時期・埋没時期とも平安時代前期と推測する。

ＳＥ2420　**ＳＥ2420（遺構平面・断面図＝第58図・出土遺物実測図＝第58・59・118図）**

【位置】Ｊ－55Ｇ。【長径】196㎝。【短径】178㎝。【平面プラン】楕円形。【重複関係】なし。【確認面からの深さ】49㎝。【断面形】開口部に向かってゆるやかな角度で立ち上がる。【底面】検出時、若干の湧水が確認された。【出土した遺物】底部から木枠が覆土の重みで押しつぶされた状態で出土した。出土状況のほか、遺存状態の比較的よかった部材のみ実測図を掲載している（507～515）。そのほかに覆土中から底部切り離しが回転糸切となる須恵器坏（502）が出土している。【帰属時期】構築時期は判然としないが埋没時期は平安時代前期の９世紀中葉～後葉以降と思われる。

木枠出土

ＳＥ2871　**ＳＥ2871（遺構平面・断面図＝第60図・出土遺物実測図＝第60・118図）**

【位置】Ｂ－46Ｇ。【長径】286㎝。【短径】200㎝。【平面プラン】楕円形。【重複関係】なし。【確認面からの深さ】43㎝。【断面形】開口部に向かって急な角度で立ち上がる。【底面】検出時、若干の湧水が確認された。【出土した遺物】底部から曲物の側板（516）が、覆土中から、底部切り離しが回転糸切となる須恵器坏（503・504）が出土している。【帰属時期】構築時期は判然としないが埋没時期は平安時代前期の９世紀中葉～後葉以降と思われる。

曲物出土

ＳＥ640　**ＳＥ640（遺構位置図＝第62図・出土遺物実測図＝第118図）**

【位置】Ｌ－52～53Ｇ。【長径】150㎝。【短径】140㎝。【平面プラン】楕円形。【重複関係】ＳＤ6021を切る。【出土した遺物】覆土中から近世陶器が２点出土（505・506）している。（505）は段重と思われ、時期は近代にまで下る可能性もあるが生産地を含め詳細は未確認である。（506）は18～19世紀の唐津と思われる小型甕である。【帰属時期】いずれも詳細は判然としないが構築時期は平安時代前期以降・埋没時期は近世後半以降と考えられる。

6　溝状遺構・畝跡等（ＳＤ）

ＳＤ186（遺構平面・断面図＝第54図、出土遺物実測図＝第123図）　**ＳＤ186**

【位置】Ｌ～Ｍ－62Ｇ。東側は調査区外に連続しているものと思われ未検出である。【検出部分の長さ・幅・深さ】順に1010㎝・94～150㎝・19㎝。【断面形】中心部の底部からゆるやかな角度で両端に立ち上がる。【重複関係】西端でＳＤ175に切られる。【遺物】土師器甕（567・568）・須恵器坏・高台付坏（569～571）など平安時代の土器が主体。須恵器坏には底部外面に箆書文字を有するものがある。【性格・帰属時期等】同様な形状・状況で検出された他の遺構や、遺物の帰属時期から、平安時代前期（９世紀中葉～後葉頃）の区画溝と推測する。

ＳＤ89・ＳＤ95（遺構平面・断面図＝第61図）　**ＳＤ89・ＳＤ95**

【位置】Ｍ－67～71Ｇ。ＳＤ95の東側は調査区外に連続しているものと思われ未検出である。【検出部分の規模】ＳＤ89は長さ1730㎝・幅80～190㎝・深さ25㎝。ＳＤ95は長さ310㎝・幅110～158㎝・深さ12㎝【断面形】中心部の底部からゆるやかな角度で両端に立ち上がる。【重複関係】ＳＢ107に切られる。【遺物】古墳時代～平安時代に属すると思われる主に土師器の器種不明の小片が少量出土したのみである。【性格・帰属時期等】検出位置・平面上の形状からは、西に所在するＳＤ2054・ＳＤ2056との関連が窺えるが、詳細は不明である。

ＳＤ2054・ＳＤ2056（遺構平面・断面図＝第64図、出土遺物実測図＝第124図）

【位置】Ｆ～Ｍ－65～70Ｇ。【検出部分の規模】ＳＤ2054は長さ4050㎝・幅90㎝・深さ20㎝。ＳＤ2056は長さ3330㎝・幅140㎝・深さ25㎝【断面形】中心部の底部からゆるやかな角度で両端に立ち上がる。【重複関係】特になし。【遺物】土師器坏・高台付皿・甕等平安時代の土器（577～579）が主体。【性格・帰属時期等】出土遺物の帰属時期およびＳＴ2009竪穴建物跡等との関連が考えられることより、平安時代前期（９世紀後葉頃）の区画溝と推測する　**平安時代前期の区画溝か**

ＳＤ2922・ＳＤ2952・ＳＤ3643（遺構平面・断面図＝第65図、出土遺物実測図＝第124図）　**ＳＤ2922・ＳＤ2952・ＳＤ3643**

【位置】Ｅ～Ｌ－40～42Ｇ。【検出部分の規模】ＳＤ2922は長さ3730㎝・幅120㎝・深さ23㎝、ＳＤ2952は長さ2140㎝・幅70㎝・深さ20㎝、ＳＤ3643は長さ1100㎝・幅120㎝・深さ18㎝。【断面形】中心部の底部からゆるやかな角度で両端に立ち上がる。【重複関係等】ＳＤ3643がＳＢ3506に切られる。またＳＤ3643はＫ－40ＧでＳＤ2922とつながり、ＳＤ2922はＫ－39Ｇで、ＳＤ2952はＪ－40ＧでＳＧ3000につながっている。また、未調査区域を挟んで西側の側道部調査区に所在するＳＤ1116は、位置・向きからみてＳＤ2922と連続している可能性がある。【出土遺物】全体的に出土量は少なくまた依存状態も良くなく、実測図を掲載したのはＳＤ2922から出土した、底部切り離しが回転ヘラ切りとなる平安時代の須恵器坏（587）１点のみである。【性格・帰属時期等】出土遺物量が乏しい上に検出時の遺構の依存状況もよくないため詳細は不明だが、ＳＤ2922の遺物および、当遺構に連続すると思われるＳＤ1116が調査区の西端でＳＴ1112の覆土上層を切っていることから、平安時代前期（９世紀前葉～中葉頃）の区画溝の可能性が考えられる。

ＳＤ2481・ＳＤ3560（遺構平面・断面図＝第66図、出土遺物実測図＝第123図）　**ＳＤ2481・ＳＤ3560**

【位置】Ｇ～Ｌ－56～57Ｇ。【検出部分の規模】ＳＤ2481は長さ2910㎝・幅60～203㎝・深さ12㎝、ＳＤ3560は長さ570㎝・幅30～140㎝・深さ13㎝。【断面形】中心部の底部からゆるやか

な角度で両端に立ち上がる。【重複関係等】Ｊ－57Ｇで両遺構がつながっている。またＳＤ2481はＳＸ2541を切り、ＳＰ2571に切られている。【遺物】ＳＤ2481から須恵器坏（554・555）・高台付坏（556～558）・双耳坏片（559）・土師器坏（560）・壷と思われる灰釉陶器（561）等平安時代に帰属すると思われる土器のほか、砥石（562）等が出土。須恵器坏・高台付坏はいずれも底部切り離しが回転糸切となり、また坏の底部外面には箆書（554）・墨書（555）の文字が記載されている。土師器の（560）は内面黒色処理が施されている。【性格・帰属時期等】ＳＤ2481の出土遺物から、平安時代前期（９世紀後葉）以降の集落内の区画溝と推測する。

平安時代前期の区画溝か

ＳＤ624・ＳＤ829

ＳＤ624・ＳＤ829（遺構平面・断面図＝第62図、出土遺物実測図＝第122～123図）

【位置】Ｌ～Ｎ－51～55Ｇ。両遺構間の調査区が現代の農道と用水路によって分断されたため別々の遺構として登録したが、連なる１本の溝状遺構であった可能性がある。【検出部分の規模】ＳＤ624は長さ1420㎝・幅50～200㎝・深さ26㎝、ＳＤ829は長さ960㎝・幅80～100㎝・深さ34㎝。【断面形】底部中央部から両側の端部に向かって、やや急な角度で立ち上がる。【重複関係等】ＳＤ624はＳＤ6025を切り、ＳＤ6024に切られる。ＳＤ829はＳＤ6012を切っている。【遺物】ＳＤ624からは土師器坏（564）・高台付坏（565・566）など平安時代の土器が、ＳＤ829からは須恵器坏（547）・高台付皿（546）・壷（548・549）・甕（552・553）土師器鉢（550）といった平安時代の土器のほか、灰釉陶器（551）が出土している。このうち（547）は底部外面に墨書文字が認められるが字形は不明である。また（565）の底部外面には菊花状のナデ痕が認められる。【性格・帰属時期等】両遺構とも、後述のＳＤ6001～ＳＤ6031遺構が分布する中に所在しているほか、出土遺物の年代観（平安時代前期）も共通する点が多い。ＳＤ6001～ＳＤ6031と同様に「畝跡」だった可能性もあるが、特にＳＤ624の規模が他の畝跡と差が大きいため、本書では別遺構として分類した。

ＳＤ6001～ＳＤ6031

ＳＤ6001～ＳＤ6031（遺構平面・断面図＝第62図、出土遺物実測図＝第124図）

【位置】Ｋ～Ｏ－47～56Ｇ。両遺構間の調査区が現代の農道と用水路によって分断されたため別々の遺構番号を与えて登録・記載したものもあるが、本来は連なる一個の遺構であったものもあると思われる。【検出部分の規模】長さ220～1700㎝・幅20～100㎝・深さ７～42㎝。【断面形】底部中央部から両側の端部に向かって、やや急な角度で立ち上がる。【重複関係等】ＳＤ6004・ＳＤ6005がＳＢ1620と、ＳＤ6007～ＳＤ6009がＳＢ879とＳＢ1601と重複する。またＳＤ6012がＳＤ829に切られ、ＳＤ6020とＳＤ6021がＳＤ2508に切られ、ＳＤ6025がＳＤ624に切られる。さらに、ＳＤ6021は近世の井戸跡と思われるＳＥ640に切られている。【遺物】ＳＤ6013から須恵器高台付坏・ＳＤ6015から須恵器双耳坏片（584）・ＳＤ6020から須恵器坏（581）・ＳＤ6025から土師器鉢（572）・須恵器坏（573～576）等平安時代の土器のほか、ＳＤ6020からは古墳時代の土師器高坏（582）も出土している。須恵器坏の底部切り離しは回転糸切となり、（573）は体部外面に、（576）は底部外面に墨書文字を有するが字形は不明である。【性格・帰属時期等】平安時代前期以降の畝跡と思われる。

平安時代前期の畝跡か

ＳＤ6051～ＳＤ6088

ＳＤ6051～ＳＤ6088（遺構平面・断面図＝第63図、出土遺物実測図＝第124図）

【位置】Ｇ～Ｍ－46～54Ｇ。両遺構間の調査区が現代の農道と用水路によって分断されたため別々の遺構番号を与えて登録・記載したものもあるが、本来は連なる一個の遺構であったものもあると思われる。【検出部分の規模】長さ190～1920㎝・幅25～100㎝・深さ６～27㎝。【断面

形】各遺構による差が大きく、多くの溝跡に共通する典型的な形状は見出せない。【重複関係等】ＳＴ2010・ＳＴ2011・ＳＴ2012・ＳＴ2020・ＳＴ4003・ＳＴ4004・ＳＣ5002等古墳時代に属すると思われる遺構の、主に覆土を切っている。【遺物】ＳＤ6087から須恵器双耳坏の破片（585）が出土しているが、全体的に出土数に乏しい。【性格・帰属時期等】ＳＤ6001～ＳＤ6031同様、平安時代前期以降の畝跡と思われる。

平安時代前期の畝跡か

7　河川跡（ＳＧ）等

ＳＧ1157／ＳＧ3000（遺構平面・断面図＝第65図、出土遺物実測図＝第119・121図）

ＳＧ1157／ＳＧ3000

【位置】Ｂ～Ｅ－37～40Ｇ（ＳＧ1157・第２次調査で検出）・Ｆ～Ｏ－36～41Ｇ（ＳＧ3000・第３次調査で検出）。調査区内の遺構密集地の北を、東西に蛇行している。検出された調査時が異なることと、両遺構間に未調査区域（自動車道の将来施工予定地）が入ったためそれぞれ別の遺構番号を付したが、実際には連続した一本の河川跡と思われる。本遺構の南と北では各々の遺構検出の質・量に著しい差があり、調査区内の集落跡の北端を区画するものとして意識されていた自然遺構の可能性が考えられる。【検出部分の長さ】ＳＧ1157＝1280㎝・ＳＧ3000＝6320㎝。【検出部分の幅】ＳＧ1157＝500～770㎝・ＳＧ3000＝280～770㎝。【確認面からの深さ】ＳＧ1157＝30㎝・ＳＧ3000＝50㎝。【断面形】河道中心の底部から両岸に向かってゆるやかに立ち上がる。覆土は自然堆積と思われる。【重複関係等】ＳＤ2922・ＳＤ2952等の溝状遺構が本遺構と連続した形で検出されている。【遺物】ＳＧ1157からは土師器高坏（517・518）・甕（519・521～523）や、ＴＫ23期併行と思われる須恵器高坏（524）等古墳時代の土器が出土している。ＳＧ3000の出土遺物も土師器坏（537・538）・有孔鉢（539）・甕（541）等古墳時代の土器が主体である。ＳＧ3000から出土した土師器坏（いずれも口縁部片）は外面に赤い彩色が認められるほか同遺構からは手づくねのミニチュア土器（545）も出土しており、祭祀行為との関連が窺えるが詳細は不明である。【帰属時期】古墳時代中期以前には集落を区画する役割を果たしていたが、出土遺物からみてそれ以降比較的早い時期に自然堆積により河道は埋まってしまったと思われる。

古墳時代中期の河川跡

ＳＧ2639（遺構位置図＝第4.5図、出土遺物実測図＝第120図）

ＳＧ2639

【位置】Ｊ～Ｋ－61～63Ｇ。【規模等】長径1100㎝・短径1090㎝の方形に近い不定形。深さは最深部で46㎝。覆土が黒く湿っていたため便宜上「河川跡（ＳＧ）」の略号を付したが、その規模・形状からは「池沼跡」と見るべきと思う。【重複関係】時期不明の溝状遺構や不定形遺構を切っているが、明確なものではない。【遺物】土師器高坏（532）・高台付坏（533）・甕（534）・須恵器坏（527～530）・高台付坏（531）等平安時代に属すると思われる土器が主体。土師器のうち（532）がやや特異な器形・性格を有すると思われるが、詳細は後述する。須恵器は底部が回転糸切となる坏が主体で、底部外面に墨書文字を有するものや、内面に煤付着が認められるものがある。【帰属時期】出土遺物から考えて平安時代前期（９世紀中葉以降）と思われる。出土遺物数は決して多くないが上記のような特徴を持ったものが目立ち、当遺構のみならず隣接する他の遺構の性格とも関連を持っている可能性も考えられる。

平安時代前期の池沼跡か

8　その他の遺構

ＳＰ2021～2028・2037・3590・3677（遺構平面・断面図、出土遺物実測図＝第69図）

【位置】Ｊ～Ｋ－70～72Ｇ。【長径】53～89㎝。【短径】43～61㎝。【確認面からの深さ】19～55㎝。【重複関係】特になし。【遺物】ＳＰ2022とＳＰ3677から柱根と思われる木材が１点ずつ出土（617・618）している。【性格・帰属時期等】これらのピットは、特に2021～2024・3590・3677については建物跡の柱穴である可能性が高い。しかし調査区の南端に位置しているためにここに所在したと思われる建物跡に属した柱穴には未検出のものがあると思われる。いずれにしても詳細は不明である。

掘立柱建物跡の可能性

ＳＸ149（遺構平面・断面図＝第67図、出土遺物実測図＝第127図）

【位置】Ｌ－66～67Ｇ。【規模・形状】長径371㎝・短径185㎝の不定形。【確認面からの深さ】17㎝。【重複関係】西側をＳＢ672のＥＢ１・ＥＢ２に切られる。【遺物】土師器高坏（630）・甕（628・629）等古墳時代の土器が出土した。本遺構の北西隅付近からは多くの土師器片が出土しているが、図化可能な状態に復元しえたのは上記３点のみである。【性格・帰属時期等】出土土器は、竪穴建物跡等から出土したものよりもさかのぼった時期の様相を示している。本遺構の性格については判然としないが時期は古墳時代前期に帰属するものと思われる。

ＳＸ170・ＳＸ679（平面・断面図＝第68図、出土遺物実測図＝第68・126図）

【位置】Ｌ～Ｎ－65～66Ｇ。ＳＸ170は東側が調査区外に連続する。【規模・形状】ＳＸ170は長径710㎝・短径390㎝（いずれも検出部分）、ＳＸ679は長径620㎝・短径380㎝のいずれも不定形。【確認面からの深さ】ＳＸ170は50㎝、ＳＸ679は40㎝。【重複関係】両遺構とも底面を数個の小ピットに切られている。【遺物】ＳＸ679からは古墳時代の土師器や平安時代の土師器・須恵器（619～624）・性格不明の石製品（640）・柱根と思われる木材（625）等の遺物が出土している。【性格・帰属時期等】ＳＸ679の出土遺物からは、この付近に平安時代前期以降の建物跡が所在した可能性が窺えるが、詳細は不明である。

ＳＸ2541（遺構平面・断面図＝第69図）

【位置】Ｈ～Ｉ－55Ｇ。【規模・形状】長径550㎝・短径240㎝の不定形。【確認面からの深さ】31㎝。【重複関係】周囲あるいは底面を数個の小ピットに切られている。【遺物】出土していない。【性格・帰属時期等】不明。

Ⅴ　自然科学的分析

山形県的場遺跡出土木製品の樹種調査結果

㈱吉田生物研究所

１．試料

試料は山形県的場遺跡から出土した容器１点、建築材17点、用途不明品13点の合計31点である。

２．観察方法

炭化していない資料については、剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。炭化した資料については、数㎜四方の小破片をエポキシ樹脂に包埋して研磨し、同様の３方向の薄片プレパラートを作製した。これらのプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

３．結果

樹種同定結果（針葉樹２種、広葉樹８種）の表と顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

１）スギ科スギ属スギ（Cryptomeria japonica D.Don）

（遺物№１，４，26，27（小））

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部で接線方向に並んでいた。柾目では放射組織の分野壁孔は典型的なスギ型で１分野に１～３個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。樹脂細胞の末端壁はおおむね偏平である。スギは本州、四国、九州の主として太平洋側に分布する。

２）ヒノキ科アスナロ属（Thujopsis sp.）

（遺物№29）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった。樹脂細胞は晩材部に散在または接線配列である。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型からややスギ型で１分野に２～４個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。アスナロ属にはアスナロ（ヒバ、アテ）とヒノキアスナロ（ヒバ）があるが顕微鏡下では識別困難である。アスナロ属は本州、四国、九州に分布する。

３）ヤナギ科ヤナギ属（Salix sp.）

（遺物№14）

散孔材である。木口では中庸ないしやや小さい道管（～110μm）が単独または２～４個

放射方向ないし斜線方向に複合して分布する。軸方向柔組織は年輪界で顕著。柾目では道管は単穿孔と交互壁孔を有する。放射組織は直立と平伏細胞からなり異性である。道管放射組織間壁孔はやや大きく、篩状になっている。板目では放射組織はすべて単列、高さ～450μmであった。ヤナギ属はバッコヤナギ等があり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

４）ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節（Quercus subgen. Lepidobalanus sect Prinus sp.）
（№２，23）

環孔材である。木口では大道管（～380μm）が年輪界にそって１～３列並んで孔圏部を形成している。孔圏外では急に大きさを減じ、薄壁で角張っている小道管が単独あるいは２～３個複合して火炎状に配列している。放射組織は単列放射組織と非常に列数の広い放射組織がある。柾目では道管は単穿孔と対列壁孔を有する。放射組織は全て平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔には大型の壁孔が存在する。板目では多数の単列放射組織と肉眼でも見られる典型的な複合型の広放射組織が見られる。コナラ節にはコナラ、ミズナラ、カシワ等があり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

５）ブナ科クリ属クリ（Castanea crenata Sieb. et Zucc.）
（№８～10，12，13，15～22，24，28，30）

環孔材である。木口では円形ないし楕円形で大体単独の大道管（～500μm）が年輪にそって幅のかなり広い孔圏部を形成している。孔圏外は急に大きさを減じ薄壁で角張った小道管が単独あるいは２～３個集まって火炎状に配列している。柾目では道管は単穿孔と多数の有縁壁孔を有する。放射組織は大体において平伏細胞からなり同性である。板目では多数の単列放射組織が見られ、軸方向要素として道管、それを取り囲む短冊型柔細胞の連なり（ストランド）、軸方向要素の大部分を占める木繊維が見られる。クリは北海道（西南部）、本州、四国、九州に分布する。

６）クワ科クワ属（Morus sp.）
（№５）

環孔材である。木口では大道管（～280μm）が年輪界にそって１～５列並んで孔圏部を形成している。孔圏外では小道管が２～６個、斜線状ないし接線状、集合状に不規則に複合して散在している。柾目では道管は単穿孔と対列壁孔を有する。小道管には螺旋肥厚もある。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。道管内には充填物（チロース）が見られる。板目では放射組織は１～６細胞列、高さ～1.1㎜からなる。単列放射組織はあまり見られない。クワ属はヤマグワ、ケグワ、マグワなどがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

７）クスノキ科タブノキ属（Machilus sp.）
（№27（大））
散孔材である。木口では中庸で厚壁の道管（～130μm）が単独または２ないし数個が放射方向あるいは斜方向に連続して年輪内に平等に分布する。軸方向柔細胞は道管の周囲を厚く鞘状に囲んでいる。柾目では道管は単穿孔とまれに階段穿孔、側壁に交互壁孔と螺旋肥厚を有する。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。道管と放射組織間壁孔は円形、レンズ状、篩状の壁孔が並んでいる。板目では放射組織は１～３細胞列、高さ～600μmからなる。放射組織の直立細胞や軸方向柔細胞が油細胞（樟脳油貯蔵細胞）となったものが見られる。タブノキ属はタブノキ、ホソバタブがあり、本州（日本海側は青森、太平洋側は岩手中部以南）、四国、九州、琉球に分布する。

８）カエデ科カエデ属（Acer sp.）
（№３，７，31）
散孔材である。木口ではやや小さい道管（～100μm）が単独ないし数個複合して分布する。軸方向柔細胞は年輪界で顕著である。木繊維の壁に厚薄があり木口面で濃淡模様が出る。柾目では道管は単穿孔、螺旋肥厚を有する。放射組織はすべて平伏細胞からなり同性である。板目では放射組織は１～６細胞列、高さ～１㎜からなる。カエデ属はウリカエデ、イタヤカエデ等があり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

９）トチノキ科トチノキ属トチノキ（Aesculus turbinata Blume）
（№25）
散孔材である。木口ではやや小さい道管（～80μm）が単独かあるいは２～４個放射方向に接する複合管孔を構成する。道管の大きさ、分布数ともに年輪中央部で大きく年輪界近辺ではやや小さくなる傾向がある。軸方向柔細胞は１～３細胞の幅で年輪の一番外側（ターミナル状）に配列する。柾目では道管は単穿孔と側壁に交互壁孔、螺旋肥厚を有する。放射組織はすべて平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔は六角形をした比較的大きな壁孔が密に詰まって篩状になっている（上下縁辺の１～２列の柔細胞に限られる）。板目では放射組織は単列で大半が高さ～300μmとなっている。それらは比較的大きさが揃って階層状に規則正しく配列しており、肉眼では微細な縞模様（リップルマーク）として見られる。トチノキは北海道、本州、四国、九州に分布する。

10）広葉樹の樹皮
（№11）
木口面では不連続な周皮と周皮に挟まれた死滅した二次師部が見られる。柾目面では周皮と死滅した二次師部が交互に見られる。板目面では周皮、放射組織、軸方向要素と死滅した二次師部が複雑に絡み合って見られる。

◆参考文献◆

島地謙・伊東隆夫「日本の遺跡出土木製品総覧」雄山閣出版（1988）
島地謙・伊東隆夫「図説木材組織」地球社（1982）
伊東隆夫「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ～Ⅴ」京都大学木質科学研究所（1999）
北村四郎・村田源「原色日本植物図鑑木本編Ⅰ・Ⅱ」保育社（1979）
深澤和三「樹体の解剖」海青社（1997）

◆使用顕微鏡◆

Nikon
MICROFLEX UFX-DX Type115

表１　山形県的場遺跡出土木製品同定表

№	遺物番号	出土地点	器種等	樹種	写真（顕微鏡）図版
1	516	ＳＥ2871	曲物	スギ科スギ属スギ	61
2		ＳＴ2004	不明	ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節	
3		ＳＴ2008	不明	カエデ科カエデ属	
4	203	ＳＴ2009	不明	スギ科スギ属スギ	61
5		ＳＴ2012	不明	クワ科クワ属	
7		ＳＴ2019	不明	カエデ科カエデ属	
8		ＳＢ672	柱根か	ブナ科クリ属クリ	
9	396	ＳＢ3507／ＥＢ３	柱根	ブナ科クリ属クリ	61
10		ＳＢ1601／ＥＢ４	柱根	ブナ科クリ属クリ	
11		ＳＢ1601	柱根か	広葉樹の樹皮	
12		ＳＢ1601／ＥＢ８	柱根	ブナ科クリ属クリ	
13	380	ＳＢ1601／ＥＢ２	柱根	ブナ科クリ属クリ	62
14		ＳＢ1601／ＥＢ７	柱根	ヤナギ科ヤナギ属	
15	395	ＳＢ3507／ＥＢ２	柱根	ブナ科クリ属クリ	
16	387	ＳＢ3501／ＥＢ５	柱根	ブナ科クリ属クリ	62
17		ＳＢ3501	柱根か	ブナ科クリ属クリ	
18	389	ＳＢ3501／ＥＢ６	柱根	ブナ科クリ属クリ	
19	385	ＳＢ3501／ＥＢ７	柱根	ブナ科クリ属クリ	62
20	382	ＳＢ3501／ＥＢ８	柱根	ブナ科クリ属クリ	
21	394	ＳＢ3503／ＥＢ10	柱根	ブナ科クリ属クリ	63
22	390	ＳＢ3501／ＥＢ11	柱根	ブナ科クリ属クリ	
23	386	ＳＢ3501　ＥＢ10	柱根	ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節	63
24		ＳＥ2419	曲物か	ブナ科クリ属クリ	
25	507	ＳＥ2420	木枠	トチノキ科トチノキ属トチノキ	63
26	536	ＳＧ2639	不明	スギ科スギ属スギ	
27		ＳＤ2625	不明(大) （小）	クスノキ科タブノキ属 スギ科スギ属スギ	
28	617	ＳＰ2022	柱根か	ブナ科クリ属クリ	64
29	618	ＳＰ3677	柱根か	ヒノキ科アスナロ属	64
30	625	ＳＸ679	柱根か	ブナ科クリ属クリ	64
31		ＳＫ3023	不明	カエデ科カエデ属	

Ⅵ　考察とまとめ

考察１・古墳時代の土師器について

本遺跡の調査では竪穴建物跡・土坑等の遺構内を中心に、古墳時代中期に帰属すると思われる土師器が多量に出土した。そのうち、主要な器種である坏・高坏・壷・甑（有孔鉢）・甕の５種について全体的な器形や各部の形状から分類を試みた。分類の基準については「表２」を参照されたい。

竪穴出土土器の様相

各器種の竪穴建物跡における出土状況の概要としては、

- 坏は、全体的な形が丸型となる単純口縁のもの（Ａ類）の比率が高く、次いで口縁が外反する単純口縁のもの（Ｅ類）が多い。これらは同時期の坏の主体的な類型と考えられているものとほぼ一致する。
- 高坏は、完形またはそれに近い資料では中空柱状の脚部を有し、裾部が大きく開き坏部が外傾するもの（Ｄ類）が多いほか、破片資料では脚部・坏部に稜があるもの（Ａ類）が目立つ。
- 壷は小型で丸型のもの（Ｃ類）が多い。
- 甑（有孔鉢）は、出土した建物跡のカマドの有無とは必ずしも関連していない。
- 甕は、大型のものでは球胴型（Ａ類）と長胴型（Ｂ類）とが大半を占め、菱形のもの（Ｃ類）は少ない。これも甑類と同様に、長胴型の出土とその遺構のカマドの有無とは必ずしも関連していない。小型のものでは器高が150㎜に満たないものが多数を占めている。

等が指摘できる。

全体的な様相は、山形県内での５世紀後葉～末葉の土師器が一括出土した遺跡の典型例とされる下柳Ａ遺跡（山形市）の資料との共通性が高いと思われるが、高坏で「Ａ類」の出土数が多い点から、それよりも若干さかのぼる時期の遺物あるいは遺構が所在した可能性も考えられる。

輪台技法

また、一部の坏（230・417・470・487など）・甕（244・355など）の底部外面には輪台成形ののちにその輪台を「削り飛ばし」た痕跡を明確に残すものがある。その特徴を有すると確認した遺物については遺物図版に底部外面の実測を付して報告したが、完形の資料が少ないため、器形の細部との関連や時期等については判然としない。同時代・時期の他遺跡で出土した資料との比較・検討も含め、詳細な考察は別の機会に譲りたい。

考察２・竪穴建物跡の変遷・新旧関係について

既述のように今回の調査では30棟の竪穴建物跡が検出された。その多くは古墳時代中期（５世紀代）に属する（１棟（ＳＴ2009）は平安時代前期。また、特に遺存状態が良くない上に遺物の出土量が少ない２棟（ＳＴ2008・2016）については古墳時代中期～平安時代前期までの範囲内のいずれか）と思われるが、各遺構の前後関係を、カマドの位置等各遺構の特徴および出土土器の様相等を手がかりに考えてみる。

カマド跡が検出された竪穴建物跡は７棟で、それぞれのカマドの位置から、

カマドの位置と新旧関係

（Ａ）南壁東寄り……ＳＴ735・751・1127・2002

表２　古墳時代土師器分類表

器種	分類		分類基準	例（本書内の遺物番号）
坏	A		全体的な形が丸型となる単純口縁のもの。	
		Ⅰ	丸底のもの。	１・４ほか多数
		Ⅱ	平底のもの。	58
	B		口縁が一度『くの字』に折れて直行する単純口縁のもの。	80
	C		口縁が『くの字』に内屈する単純口縁のもの。	
		1	全体的な形がＶ字形のもの。	108・224
		2	全体的な形がＵ字形のもの。	73・83
	D		口縁が一度『くの字』に折れ、直行する部分が器行の約1/3を占める単純口縁のもの。	79
	E		口縁が外反する単純口縁のもの。	31・46・85
	F		口縁端に内削ぎがあるもの。	30
	G		口縁の内削ぎ部が長いもの。	
高坏	A		脚部・坏部に稜があるもの。	168・169
	B		裾部がラッパ形に開くもの。	
	C		坏部の口縁が直行で開くもの。	166
	D		中空柱状の脚部を有し、裾部が大きく開くもので、坏部が外傾するもの。	８・36・50
	E		中空柱状の脚部を有し、裾部が大きく開くもので、坏部が内弯するもの。	37
	F		中空の短脚で、坏部が内弯ないし外傾するもの。	２・34・242
	G		中実の短脚で坏部が外傾するもの。	
壷	A		複合口縁のもの。	
	B		折り返し口縁のもの。	
	C		丸形のもの。	
		Ⅰ	胴部が丸型で頸部が長いもの。	49
		Ⅱ	胴部がつぶれているもの。	89
		Ⅲ	胴部が丸型で頸部が短いもの。	209
		Ⅳ	頸部が胴部より長いもの。	
	D		長胴形のもの。	174・178
甑・有孔鉢	A		甕形、頸部にくびれがあり口縁が外反する無底式のもの。	
		1	最大径が口縁部にあるもの。	
		2	最大径が胴部にあるもの。	96・182
	B		深鉢形で無底式のもの。	113
	C		浅鉢式で単孔式のもの。	
		1	折り返し口縁で体部に丸みを持つもの。	
		2	体部が直線的なもの。	
	D		小型の鉢形で底部にふくらみのある単孔式のもの。	68
	E		小型の深鉢形で平底・単孔式のもの。	９・87・88
	F		筒形で無底式のもの。	
甕			複合口縁のもの。	23・61
	A		大型・球胴形（器高÷胴径が1.15未満のもの）。	
		Ⅰ	頸部のすぼまりが強いもの。（胴部径÷頸部径が1.5以上）	138・216・280
		Ⅱ	頸部のすぼまりが弱いもの。（胴部径÷頸部径が1.5未満）	69・319
		Ⅲ	特大型（器高350㎜以上）	474
	B		大型・長胴形（器高÷胴径が1.15以上のもの）。	
		Ⅰ	頸部のすぼまりが強いもの。（胴部径÷頸部径が1.5以上）	11・97・98
		Ⅱ	頸部のすぼまりが弱いもの。（胴部径÷頸部径が1.5未満）	16・55・364
	C		菱形	150・358・493
	D		小型甕	333・457

＊分類基準は、阿部明彦・吉田江美子2002「山形県における古墳時代中期の土器様相（１）」（『山形考古』第７巻第２号（通巻32号））に準拠したものである。

（B）　北壁ほぼ中央…ＳＴ4004・4005

（C）　東壁北寄り……ＳＴ795

の３種に大別される。また同一遺構内でのカマドの改築はいずれも認めらない。

（A）～（C）それぞれの出土土器組成を見ると、まず、（A）では多い高坏が（B）・（C）にはないことから（A）が（B）・（C）に先行することが、また（B）・（C）の間では大型甕の器形や口径の違い等から、（C）が（B）に先行することが予想される。さらに（A）の中でＳＴ1127は高坏の出土状況や坏の器形から他の３棟より若干新しい時期に下る可能性も考えられる。以上の点からこの７棟には「（A）→（A ’＝ＳＴ1127）→（C）→（B）」といった新旧関係があることが予想される。

カマドの有無と新旧関係

また、カマドを持つ竪穴建物（ＳＴ751）を持たない竪穴建物（ＳＴ777）が切っている例があることや、既述のように甑類・甕類の出土状況とカマドの有無とに特別な相関が認められないことから、本次調査区内の集落変遷の段階ごとに、カマドを有する建物とそうでない建物が並存していた時期があると考えるのが妥当と思われる。

集落の変遷

上記の、カマドを持つ竪穴建物跡の予想される新旧関係に、その他の建物跡を規模・南北軸（長軸とは限らない）の北に対する振れ・出土遺物の様相等から分類したものを当てはめていくと、

（A－１）Ｎ－35°－W未満・面積20㎡以上40㎡未満・高坏出土＝ＳＴ751・2002・2011

（A－２）Ｎ－35°－W未満・面積60㎡以上・高坏出土＝ＳＴ735・2014

（A－３）Ｎ－35°－W未満・面積20㎡未満・高坏出土＝ＳＴ2004・2019

（A ’）Ｎ－35°－W未満・面積20㎡以上40㎡未満・高坏なし＝ＳＴ792・1127

（C）Ｎ－Ｅ・高坏なし　＝ＳＴ789・795・1110

（B）Ｎ－35°－W以上・面積40㎡以上60㎡未満・高坏なし＝ＳＴ777・4003・4004・4005

といった、３期ないしは４期にわたる変遷があったのではないか、と推測される。しかし遺構・遺物の遺存・出土状況は各遺構間の差異が大きく、機会を改めて厳密な再検討が必要と思われる。

考察３・ＳＣ5001・5002「平地式建物跡」について

表題の両遺構はいずれも第３次調査で地山面から検出されたものである。

従来、東日本で「平地式建物跡」とされる遺構は火山活動（群馬県黒井峯遺跡等）や洪水（福島県中平遺跡）等による堆積の影響によって「当時の地表面」が各々の発掘調査時まで残存していた遺跡内で検出された報告例が多い。

本遺跡のＳＣ5001・ＳＣ5002に関しては検出当初から平地式建物跡である可能性が指摘・言及されていたものの検出面が「当時の地表面」ではないことと、山形県内では畑田遺跡（鶴岡市）の調査で報告されている「周溝を持つ竪穴住居跡（同遺跡のＳＴ103＋ＳＤ100、ＳＴ150＋ＳＤ249等）」や、本遺跡の南約２㎞に位置する蔵増押切遺跡（天童市）の調査で検出された「竪穴住居跡」とされた遺構（同遺跡のＳＴ1019・ＳＴ1020）と形態的に類似する点もあり、その性格の判断については一時保留していた。

しかしその後の検討の結果、ＳＣ5001・ＳＣ5002の両遺構とも、今回の本遺跡の調査で検出された竪穴建物跡とはプランの平面形状や周溝の規模が大きく異なることや、これらを竪穴建

物跡と見た場合には２条の溝状遺構とその中間に位置する柱穴と思われる遺構との整合性がとれない、と考えられることから、本報告書では「平地式建物跡」として報告するものである。

考察４・古墳時代の須恵器について

本遺跡の調査では竪穴建物跡（ＳＴ）から10点、掘立柱建物跡（ＳＢ）から１点、河川跡（ＳＧ）から１点、遺構外から５点の古墳時代の須恵器が出土した。器種は坏身４点（27・115・146・664）、坏蓋７点（71・143・144・145・205・238・662）、高坏２点（524・665）、壷（239）１点のほか、判然としないもの３点（378・663・666）である。

ＴＫ23期併行

坏身・坏蓋はいずれも陶邑古窯跡群編年の「ＴＫ23（Ⅰ－４）」期併行と思われ、特にＳＴ2002から出土した４点中の２点（144・145）と遺構外出土の１点（664）は形状・色調等の外見上の特徴が陶邑産のものと共通する要素が多い。一方、ＳＴ2014出土の２点（238・239）には口縁部が大きく外反するという顕著な特徴がある。同様の口縁は渋江遺跡（山形市渋江）で出土した本遺跡よりもやや古い時期と思われる（「ＴＫ208」期に比定される）須恵器の一部にも見られ、ある特定の生産地・施設の特徴を示している可能性もある。

高坏（524）はＳＧ1157から、坏部・脚部のそれぞれ一部を欠くものの完形に近い状態で出土した。胎土はやや大きめの砂粒が目立つなど粗めであるが、成形・焼成とも丁寧な造りの優品である。脚部は三窓で、それぞれの窓の周辺に成形時の面取り痕が明瞭に認められる。もう１点の高坏（665）は脚部片のみの出土だが、四窓の脚部を持っていたと思われること、断面の形状が丸みを帯び、またそこから見える胎土の色調が煉瓦のような暗赤色であること、等から、時期は「ＴＫ208」期にまでさかのぼる可能性もある。

器種不明とした３点はいずれも口縁部の破片で、（663）の外面には波状文が、（666）の外面には二本の隆線の下に波状文が認められ、後者は大きめの器形になることが予想される。また（378）は口縁の屈曲部外面に一本の隆線が認められるほか、図上で復元を試みた限りではかなり特異な器形になることが予想されるが、詳細は不明である。

「ＴＫ23（Ⅰ－４）」という年代観は、本次調査区内の土師器の主体が５世紀後半に属すると思われることと基本的には矛盾しないが、須恵器が出土した遺構の土師器にそれよりやや古い様相と思われるものも認められることや、「陶邑産と共通する要素が多い」としたＳＴ2002出土の２点は床面よりもやや高い覆土中の出土であること、床面から出土したＳＴ2014の２点は同時代の須恵器としてはやや特殊な形状を有していること、などに問題点や検討課題が残ると思われる。しかし、いずれにしても同一遺跡内からのまとまった出土、という点で重要な意義を持つものである。

考察５・平安時代の土器について

（ア）墨書土器

本遺跡から出土したいわゆる「墨書土器」は、土師器・須恵器合わせて約25点であるが、その大半は須恵器坏・高台付坏に属し、底部外面に文字が記されたものである。出土地点はＳＴ2009・ＳＤ2481・ＳＧ2639等平安時代に属すると思われる遺構が中心であるが遺構外からの出土も多い。また同一遺構から同一文字の資料が複数出土している例が二つ（ＳＧ2639から「成」、ＳＰ661から「恵」）あることは注目すべき点と思われる。

文字の判読・判別が可能だったものについて以下に列挙する。

「＊」＝「能」か、その可能性の高いもの＝７点（529・616・671・673・674・675・678）、「成」＝３点（495・527・528）、「恵」＝２点（609・610）、「畳」か＝１点（197）、「大寺」＝１点（556）、「丁」＝１点（556）、「己」か＝１点（670）「日○」あるいは「日下」か＝１点（676）。「？」＝１点（63）。

このうち「大寺」については、墨書ではないが須恵器甕の体部外面に刻字のあるもの（627）も出土していることを付記する。この文字は、本調査区内から出土した平安時代に属すると思われる土師器高坏（532、後述）や、ＳＢ3501とそれに関連すると思われる建物跡の出土状況などとあわせて、本遺跡内に仏教寺院が存在した可能性を窺わせるものでもあるが現時点では憶測の域を出ない。

類例の少ない文字

その他の文字のうち「𠮷」＝「能」や「恵」・「成」は山形県内では従来出土数あるいは出土した遺跡数の少ないものである。これらの文字は平安時代前期における本遺跡に特有の性格と関連している可能性があるが、これも詳細は今後の検討に委ねたい。

（「成」は太夫小屋１遺跡（川西町）および服部・藤治屋敷遺跡（山形市）では多数の出土例があるが、県内ではその両遺跡以外からの出土例は少ない。）

（イ）ＳＧ2639出土の「高坏」（532、巻頭写真８）

本遺物は平安時代前期の池沼跡と思われる遺構から出土したもので、ロクロ成形の坏部のみの出土で脚部に相当する部分は未出土・未確認である。当初は脚部が離れた箇所を「つまみ」が離れたものと判断し「蓋」とみていたが、一般的な坏に対応する蓋としては法量が大きすぎることや、完形を想像した場合に高瀬山Ｋ遺跡（寒河江市）で出土した須恵器高坏や内面黒色処理の土師器高坏、太夫小屋１遺跡（川西町）で出土した須恵器高坏との類似性が指摘できるところから、高坏として報告するものである。

この高坏の内面には煤が付着していることから、香炉・燈台等として用いられた可能性が考えられ、さらには仏具であったとも想像できるが現時点では詳細は不明である。

まとめ

⑴　的場遺跡は、古墳時代中期の集落跡を主体とし、平安時代前期や中世～近世の遺構を含む、幅広い時代に係る複合遺跡である。

⑵　古墳時代の集落跡は27棟の竪穴建物跡・２棟の平地式建物跡のほか、多くの土坑等を有するものである。竪穴建物跡のうち７棟ではカマド跡が確認されたほか、一部の建物跡からは廃絶時に焼失した痕跡が明確に窺える。平地式建物跡は遺存状況が良くないものの、山形県内ではこれまで検出の報告例が少なかった種類の遺構である。

⑶　古墳時代中期（５世紀中葉～後葉）の土師器が、主に竪穴建物跡や土坑などの遺構中から多量に出土している。また一部の坏・小型甕の底部外面に見られる「輪台削り飛ばし」については今後詳細な検討が必要と思われる。

⑷　古墳時代中期（５世紀後葉、「ＴＫ23」期併行）の須恵器が一括性の高い状況で出土しており、今後、県内の同時期の須恵器を検討する上でのひとつの標識になりうるものと思われる。

⑸　平安時代前期に属すると思われる遺構は竪穴建物跡１棟（ＳＴ2009）、井戸跡や、区画溝・

畝跡と思われる溝状遺構、池沼跡の可能性のある遺構（ＳＧ2639）等があるが古墳時代の遺構と比べて検出数は少ない。遺物は９世紀中葉～末葉に属すると思われる土師器・須恵器が主体である。全体の出土量から見ると須恵器坏類等での墨書土器の比率は高い。一部の遺構と遺物の性格・特徴からは、本遺跡内に当該時期の廃寺跡が所在した可能性が窺える面もあるが詳細は今後の検討を俟ちたい。

⑹　掘立柱建物跡は10棟以上検出されているが、検出時の遺存状況が良くないものが多いため詳細な帰属時期については不明な点が多い。

参照・引用文献

阿部明彦ほか　1987『三軒屋物見台遺跡発掘調査報告書（２）』（山形県埋蔵文化財調査報告書第107集）
齊藤主税ほか　1990『高瀬山Ｋ遺跡第１・２次発掘調査報告書』（山形県埋蔵文化財調査報告書第158集）
石井克己ほか　1991『黒井峯遺跡発掘調査報告書』（子持村文化財調査報告書　第11集）
佐藤庄一ほか　1991『分布調査報告書（18）』（山形県埋蔵文化財調査報告書第163集）
眞壁建・丸山晶子・黒坂広美　1995『畑田遺跡・中野遺跡発掘調査報告書』（山形県埋蔵文化財センター調査報告書第22集）
酒井清治・伊藤博幸・池田明朗・渡邊泰伸　1995『須恵器集成図録　第４巻　東日本編Ⅱ』（雄山閣出版）
尾形與典・小関真司・高柳健一　1996『下柳Ａ遺跡発掘調査報告書』（山形県埋蔵文化財センター調査報告書第38集）
渋谷孝雄・名和達朗・長橋至　1998『分布調査報告書（25）』（山形県埋蔵文化財調査報告書第199集）
佐藤正俊ほか　1998『東北中央自動車道相馬・尾花沢線関係予備調査報告書（１）』（山形県埋蔵文化財センター調査報告書第60集）
水戸弘美　1998「土器に墨書する意味を探る── 山形県における奈良・平安時代の墨書土器出土状況集成 ──」（『さあべい』第15号）
阿部明彦・水戸弘美　1999「山形県の古代土器編年」（『第25回古代城柵官衙遺跡検討会資料』）
高橋敏　2001『太夫小屋１・２・３遺跡発掘調査報告書』（山形県埋蔵文化財センター調査報告書第81集）
高桑弘美ほか　2001『三条遺跡第２・３次発掘調査報告書』（山形県埋蔵文化財センター調査報告書第93集）
阿部明彦・吉田江美子　2002「山形県における古墳時代中期の土器様相（１）」（『山形考古』第７巻第２号）
松田道雄・黒坂広美　2003『蔵増押切遺跡発掘調査報告書』（山形県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第112集）

表３　遺物計測表（１）

（凡例）
計測値……（　　）は図上復元値を、（*斜め数字*）は残存値を示す。
調整等……N＝ナデ、HN＝ヘラナデ、M＝ミガキ、H＝ハケメ、Ke＝ケズリ、RI＝輪台技法
Ka＝カキメ、Ro＝ロクロナデ、A＝アテ、T＝タタキ、黒＝黒色処理
a＝回転ヘラ切、b＝回転糸切、c＝網代痕、d＝木葉痕、e＝菊花状ナデ、f＝指押痕

挿図番号	遺物番号	写真図版	種別	器種	出土位置	計測値(mm) 口径	底径	胴径	器高	厚さ 最大/最小	色調	調整等 外面	内面	底部	備考	分類
70	1	18	土師器	坏	ST687	128	34		54	7.5/4	5YR7/6橙	N・M	N・M	Ke	RP27	AⅠ
	2	18	土師器	坏	ST687	140	24		61		7.5YR8/3浅黄橙	N・M	N・M	Ke	RP24	F
	3		土師器	坏	ST687	(150)				9/3	5YR7/6橙	N	N・M			AⅠ
	4		土師器	坏	ST687	(144)	(38)		58	9/4	7.5YR7/4にぶい橙	N・M	N・M		内黒	AⅠ
	5	39	土師器	坏	ST687					11/6	5YR6/6橙	N・M	N・M		底部外面に箆書「×」	
	6		土師器	高坏	ST687	(166)				13/6	5YR6/4にぶい橙	N	N		RP22	D
	7		土師器	高坏	ST687		(152)			9/4	2.5YR6/8橙	N・M	N		RP16	
	8	25	土師器	高坏	ST687	(186)	(163)		139	6/4	2.5YR5/6明赤褐	N・M	N・M		RP26	D
	9	38	土師器	有孔鉢	ST687	147	60		140	9/8	7.5YR6/4にぶい橙	N・M・Ke	HN		RP28	E
	10		土師器	甕	ST687	210					7.5YR5/2灰褐	N・H	N・H		RP25	
	11	30	土師器	甕	ST687	(166)	74	258	322	11/5	7.5YR7/3にぶい橙	N・H・Ke	N	Ke	RP23	BⅠ
71	12		土師器	甕	ST687	(146)				8/5	7.5YR7/3にぶい橙	N	N		RP22	D
	13		土師器	甕	ST687	180				9/5	7.5YR7/4にぶい橙	N・H	H		RP25	BⅠ
	14		土師器	甕	ST687			258		8/6.7	10YR7/4にぶい黄橙	N・H	N・H		RP25	AⅡ
	15		土師器	甕	ST687		74	214		21/6	7.5YR7/4にぶい橙	H・Ke	H	Ke	RP22	B
	16	30	土師器	甕	ST687	(197)	55	252	295	9/6.5	10YR7/4にぶい黄橙	N・H	N・ke	Ke	RP21	BⅡ
72	17		石製品	石棒か	ST687	長さ'(160)、幅78、厚さ43					2.5Y6/1黄灰					
	18		土師器	坏	ST716	134	40		61	8/6	5YR7/6橙	M・Ke	N・M	Ke	RP119	AⅠ
	19		土師器	有孔鉢	ST716	(170)	(36)		118	12/7	10YR7/3にぶい黄橙	N・H・Ke	N・ke		RP119	
	20		土師器	甕	ST716	(172)				9/7	7.5YR7/3にぶい橙	N・H	N			
	21		土師器	高坏	ST716			24			7.5YR8/3浅黄橙					
	22		土師器	甕	ST716	244		243		10/6	5YR7/4にぶい橙	N・H	N		RP119	AⅡ
	23	30	土師器	甕	ST716	155	83	244	320	12/5	7.5YR8/4浅黄橙	N・H・Ke	N・H・M	Ke	RP119複合口縁	
73	24		石製品	不明	ST716	長さ(59)、幅28、厚さ14					2.5Y6/1黄灰					
	25		石製品		ST716	長さ(242)、幅117、厚さ86					2.5Y6/2灰黄					
	26	56	石製品	不明	ST716	長さ83、幅66、厚さ53					2.5Y7/1灰白					
	27	42	須恵器	坏	ST735		(60)			8/5.5	N5/灰	Ro	Ro	Ke		
	28		土師器	坏	ST735	156	84		57	8/3.4	10YR8/4浅黄橙	N・M	N・M			AⅠ
	29	18	土師器	坏	ST735	112	42		54	6/4	2.5YR6/6橙	N	N		RP80	AⅠ
	30		土師器	坏	ST735	160	80		66	10/3	5YR6/6橙	N・M	N・M	Ke	RP118	F
	31	26	土師器	鉢	ST735	190	60		82		2.5YR6/6橙	N・M	N・M			E
	32		土師器	高坏	ST735	180				9/4.5	2.5YR6/6橙	N・M	N・M			D
	33		土師器	高坏	ST735	(180)				10/6	10YR7/4にぶい黄橙	N・M	N・M		RP117	D
	34		土師器	高坏	ST735		122		68		10YR7/4にぶい黄橙					F
	35	25	土師器	高坏	ST735		(134)				7.5YR7/4にぶい橙	N・M・Ke	N			D
74	36	25	土師器	高坏	ST735	186	79		148	10/4	2.5YR4/1赤灰	N・M・Ke	N・M			D
	37	25	土師器	高坏	ST735	234	136		166		7・5YR6/6	M	N			E
	38		土師器	有孔鉢	ST735		(30)			7.1/6	2.5Y7/3浅黄	N	N			D
	39		土師器	甕	ST735		22			10/2.5	2.5Y5/1黄灰	Ke	N・ke			
	40	26	土師器	壷	ST735			154		9/6	7.5YR8/4浅黄橙	N・M	N			CⅠ
	41		土師器	壷	ST735			232		9/5	5YR6/6橙	M・Ke	N・M			CⅡ
	42		土師器	甕	ST735	140				6.8/3	7.5YR7/3にぶい橙	N・H	N・H・Ke			D
	43		土師器	甕	ST735	170				9/6	10YR8/4浅黄橙	N・M・Ke	N・M		複合口縁	
	44		土師器	甕	ST735	180		176		8/5	5YR7/2明褐灰	N・H	N・H			BⅡ
	45	30	土師器	甕	ST735	178	85	213	274	9/5	5YR7/6橙	N・H	N			BⅡ
75	46	18	土師器	坏	ST751	136	32		56	5/3	7.5YR6/4にぶい橙	N・M	N・M	Ke	RP41	E
	47	18	土師器	坏	ST751	156			64	9/5	2.5YR6/6橙	N			RP61	AⅠ
	48		土師器	坏	ST751	(154)			45	10/4	10YR8/4浅黄橙	N・M・Ke	N・M		RP66	AⅠ
	49		土師器	壷	ST751	80				7/5	2.5YR6/6橙	N・M	N・M		RP40	CⅠ

表４　遺物計測表（２）

挿図番号	遺物番号	写真図版	種別	器種	出土位置	計測値(mm) 口径	底径	胴径	器高	厚さ 最大/最小	色調	調整等 外面	内面	底部	備考	分類
75	50	25	土師器	高坏	ST751	178				10/4.8	5YR6/6橙	N・M	N・M		RP42	D
	51	28	土師器	甕	ST751	126	66	118	98	6/5	10YR6/3にぶい黄橙	N・H	N・M	Ke	RP43	D
	52		土師器	甕	ST751	230				9/6	10YR7/3にぶい黄橙	N・H	N		RP68	A
	53		土師器	甕	ST751		84			11/5	7.5YR7/4にぶい橙	H		Ke	RP51	A
	54		土師器	甕	ST751		(64)				5YR7/6橙	H	HN		RP69	
	55	31	土師器	甕	ST751	200	32	257	298	12/5	7.5YR6/4にぶい橙	N・H	HN	Ke	RP43	BⅡ
76	56	18	土師器	坏	ST777	130	38		40	7/4	7.5YR8/4浅黄橙	N・M	N・M		RP45	AⅠ
	57		土師器	坏	ST777	138	40		43	5.5/5	2.5YR5/6明赤褐	N・M	M			AⅠ
	58	18	土師器	坏	ST777	145	75		46	6	2.5YR5/6明赤褐	N・M	N・M	Ke		AⅡ
	59	18	土師器	坏	ST777	140	38		61	5.2/4	10R5/6赤	N・M	N・M		RP62	AⅠ
	60	19	土師器	坏	ST777	138	40		75	9/3	5YR7/4にぶい橙	N・M	N・M	Ke	RP44	E
	61		土師器	甕	ST777	155		248		10/5	5YR7/3にぶい橙	N・H	N		RP46複合口縁	
	62	31	土師器	甕	ST777	194	(60)	236	270	8/6	7.5YR8/4浅黄橙	N・H	N	Ke	RP49	
	63	45	須恵器	坏	ST777		74			8/5	5Y6/1灰	Ro	Ro	a	平安底部外面に墨書「十」か	
	64		石製品	不明	ST777	長さ64、幅53、厚さ18					7.5YR8/2灰白					
	65		土師器	坏	ST789	114	74		40	7/5	5YR6/6橙	N・M	N・M	Ke	RP111	AⅠ
	66	26	土師器	坏	ST789	112	54		71	9.5/6	2.5YR6/6橙	N	N・M			F
	67		石製品	不明	ST789	長さ(*116*)、幅79、厚さ66					2.5GY5/1オリーブ灰				RQ109	
77	68	38	土師器	有孔鉢	ST789	(164)	58		120	12/7	7.5YR7/3にぶい橙	N・Ke	HN・Ke	Ke	RP99	D
	69	31	土師器	甕	ST789	156	64	247	271	17/5	2.5YR5/6明赤褐	N・H・Ke	HN		RP106	AⅡ
	70	31	土師器	甕	ST789	(228)		265		8/6	10YR7/3にぶい黄橙	N・H	HN		RP100/106	AⅠ
	71	41	須恵器	坏蓋	ST792	124			40	7/3	10YR7/1灰白	Ro・Ke	Ro			
	72	39	土師器	不明	ST792						2.5YR6/6橙				RP95意匠不明の刻あり	
	73		土師器	坏	ST792	(130)	(52)		42	6.2/5		N・M	N・M	Ke		C2
	74		土師器	坏	ST792	94	28		42	4.5/3.2	2.5YR5/6明赤褐	N	M			AⅠ
	75		土師器	甕	ST792	(144)					5YR7/6橙	N	N		RP108複合口縁	
	76		土師器	甕	ST792	158		173		7/6	10R5/6赤	N・H	HN・Ke		RP113	D
	77		土師器	甕	ST792		75			9/4	10YR6/3にぶい黄橙	H・Ke	HN	Ke		AⅢ
78	78	19	土師器	坏	ST795	125	64		44	7/4	10YR8/3浅黄橙	N・M	N・M	Ke	RP29	AⅠ
	79	19	土師器	坏	ST795	142			43	9.5/4.5	2.5YR6/6橙	N・M	N・M	Ke	貯蔵穴から出土	D
	80		土師器	坏(蓋)	ST795	130	26		44	9/5	5YR7/6橙	N	N・M	Ke	カマド跡から出土	B
	81	19	土師器	坏(蓋)	ST795	(142)	50		50	6/5	5YR6/6橙	N・M	N・M	Ke	RP37	AⅠ
	82	19	土師器	坏	ST795	129	(25)		45	5/4	2.5YR6/4にぶい橙	N・M・Ke	N・M	Ke	RP38	AⅠ
	83	19	土師器	坏	ST795	131	80		50	6/5	5YR6/6橙	N・M	N・M	Ke	RP30/31	C2
	84	19	土師器	坏	ST795	136	54		48	6.5/5.6	2.5YR6/6橙	N・M	N・M	Ke	カマド跡から出土	AⅠ
	85		土師器	坏	ST795	156			63	10/5	7.5YR5/3にぶい褐	N・M	N・M		RP33	E
	86	27	土師器	鉢	ST795	101	20		66	4.3/3.5	10YR7/4にぶい黄橙	N・Ke	N・Ke	Ke	RP82	
	87	38	土師器	有孔鉢	ST795	154	58		130	12/6	7.5YR6/4にぶい橙	H・Ke	HN・Ke	Ke	RP30	E
	88	38	土師器	有孔鉢	ST795	176	42		140		7.5YR7/3にぶい橙	N・Ke	N	Ke	RP33	E
	89	27	土師器	壷	ST795	88		(139)		9.5/5	7.5YR6/3にぶい褐	N・M	N・M		RP82	CⅡ
	90		土師器	甕	ST795	(120)				7.5/3	2.5YR6/8橙	N			カマド跡から出土	
	91		土師器	甕	ST795		68	227		9/6	10YR7/2にぶい黄橙	H・Ke	HN・H	Ke	RP31/32	BⅡ
	92		土師器	甕	ST795		72	230		9/7	2.5YR6/6橙	H・Ke	H		RP34/35カマド跡から出土	BⅡ
79	93		土師器	甕	ST795	(133)		(132)	(62)	7/6	2.5YR6/4にぶい橙	N	HN		カマド跡から出土	D
	94		土師器	壷	ST795	(128)		(150)		6/5.5	2.5YR6/6橙	N・H	HN		RP35	D
	95		土師器	甕	ST795		70			10/6	5YR5/2灰褐	H・Ke	HN・H	Ke	RP36	
	96	37	土師器	甑	ST795	222		270		10/4	7.5YR8/3浅黄橙	N・Ke	N・Ke		RP39	A2
	97	32	土師器	甕	ST795	162	70	223	281	15/5	10YR7/4にぶい黄橙	N・H・Ke	HN・H	Ke	RP36	BⅠ
	98	32	土師器	甕	ST795	167	69	233	286	10/6	7.5YR7/4にぶい橙	H・Ke	HN・H	Ke	RP30/31/32	BⅠ
80	99		土師器	甕	ST795	136				7/5	7.5YR6/2灰褐	N・H	N・H		RP81	

表5　遺物計測表（3）

挿図番号	遺物番号	写真図版	種別	器種	出土位置	計測値(mm) 口径	底径	胴径	器高	厚さ 最大/最小	色調	調整等 外面	内面	底部	備考	分類
80	100		土師器	甕	ST795	134				7/6	10YR7/3にぶい黄橙	N・H	N・H		カマド跡から出土	
	101		土師器	甕	ST795	(178)		(245)		7/6	10YR6/4にぶい黄橙	N・H・Ke	HN・H		RP30/31/88	A I
	102		土師器	甕	ST795		70	240		10/6	2.5YR6/6橙	H・Ke	HN・Ke	Ke	カマド跡から出土	C
	103		土師器	高台付坏	ST795		60			7.2/4.6	7.5YR6/3にぶい褐	Ro	Ro.M・黒	b	平安	
	104	54	石製品	不明	ST795	長さ(*53*)、幅43、厚さ33					5YR7/2明褐灰					
	105	53	石製品	砥石	ST795	長さ137、幅64、厚さ53					10YR6/1褐灰				RQ83上部に炭化物付着	
81	106	52	石製品	皿か	ST795	長さ145、幅229、厚さ53					10YR6/2灰黄褐					
	107		石製品	不明	ST795	長さ40、幅29、厚さ34					5Y5/1灰					
	108		土師器	坏	ST1110	(132)	(42)		48	7/4	10R4/3赤褐	N・M	N・M	Ke	RP78	C1
	109		土師器	坏	ST1110	(124)			(45)	8/6.5	7.5YR7/3にぶい橙				RP74	A I
	110	19	土師器	坏	ST1110	138	25		51	7/4	2.5YR6/8橙	N・M	N・M	Ke	RP71	A I
	111	20	土師器	坏	ST1110	(186)	50		63	8/5.2	2.5YR5/6明赤褐	N・M	N・M	Ke	RP75	A I
	112		土師器	坏	ST1110	(136)	(54)		51	6/4	7.5YR6/4にぶい橙	Ro	Ro	b	平安	
	113	38	土師器	甑	ST1110	(216)	81	255	227	12/8	7.5YR7/4にぶい橙	N・H・Ke	H		RP47	B
	114		須恵器	坏	ST1110		64			8/3	10YR6/1褐灰	Ro	Ro	b	RP79平安	
82	115	42	須恵器	坏身	ST1110	(108)				5.5/2.5	N5/灰	Ro・Ke	Ro		RP70	
	116	28	土師器	鉢	ST1110	(248)	70	222	163	11/7	10R5/6赤	N・H	N	Ke	RP48	
	117		土師器	甕	ST1110		62	223		22/7	7.5YR6/3にぶい褐	H・Ke	HN	Ke	RP77/78	B
	118		土師器	甕	ST1110		54			14/6.5	7.5YR6/3にぶい褐	Ke	N	Ke	RP48	
	119	54	石製品	石棒か	ST1110	長さ(*136*)、幅(*59*)、厚さ(*52*)					10YR8/3浅黄橙					
	120		土師器	坏	ST1112						2.5YR6/6橙	N	N	Ke・RI		
	121		土師器	甕	ST1112	162				6.5/4.5	10YR8/3浅黄橙	N・H	HN			
	122	53	石製品	不明	ST1112	長さ(*105*)、幅46、厚さ28					7.5Y7/1灰白					
	123		土師器	坏	ST1127	100	40		36	7.2/5.6	10YR8/4浅黄橙	N・M	N		RP58	A I
	124	20	土師器	坏	ST1127	159	56		54	11/4.5	7.5YR7/4にぶい橙	M	M		RP57	E
	125		土師器	坏	ST1127		28			9/4	5YR6/6橙	N	M	Ke・RI		
83	126		土師器	甕	ST1127	196	72			10/7.2	10YR7/4にぶい黄橙	N・H・Ke	HN	Ke	RP60	AⅡ
	127		土師器	甕	ST1127		76			14/8	10YR8/3浅黄橙	N・H	N	Ke	RP84	
	128		土師器	甕	ST1127		48			8.5/5.7	2.5YR6/6橙	H・Ke	HN・H	Ke	RP60	
	129		土師器	甕	ST1127		72			10/5.8	10YR8/4浅黄橙	H・Ke	HN		RP50/60	
	130		土師器	甕	ST1127	189		234		8/6	5YR6/2灰褐	N・H	HN・H		RP86	AⅡ
	131		土師器	甕	ST1127		72			8/5	7.5YR6/2灰褐	H・Ke	HN	Ke	RP84	
	132	28	土師器	甕	ST1127	190		202		10/7	10YR8/4浅黄橙	N・H	HN		RP56	
84	133		土師器	甕	ST1127	(150)				5.5/3.5	10R4/6赤	N・H	HN・H		RP59	
	134	32	土師器	甕	ST1127	128	70	194	214	11/9	7.5YR7/4にぶい橙	N・H・Ke	N	Ke	RP60複合口縁	
	135		土師器	甕	ST1127		74			11/7	7.5YR7/4にぶい橙	H	HN・H	Ke	RP60/85	
	136		土師器	甕	ST1127					7/3.5	2.5YR5/6明赤褐	H	HN	Ke	RP60/87	
	137		土師器	壷	ST1127	124		251		11/8	2.5YR5/6明赤褐	N・H・M	HN・H		RP87	D
	138	28	土師器	甕	ST1127		85	243		9.5/7	10YR8/4浅黄橙	N・H	HN	Ke・RI	RP50/60	A I
	139		土師器	甕	ST1127	200		266		15/10	7.5YR7/3にぶい橙	N・Ke	HN		RP59/89	AⅢ
85	140	53	石製品	カマド石	ST1127	長さ(*228*)、幅118、厚さ94					10YR8/2灰白					
	141	53	石製品	カマド石	ST1127	長さ(*267*)、幅139、厚さ97					7.5YR8/4浅黄橙					
	142	54	石製品	不明	ST1127	長さ118、幅46、厚さ31					10YR6/6明黄褐					
86	143	42	須恵器	坏蓋	ST2002					5/3	N4/灰	Ro・Ke	Ro		RP520	
	144	42	須恵器	坏蓋	ST2002					9/3	N4/灰	Ro.ke	Ro		RP520	
	145	41	須恵器	坏蓋	ST2002	124			42	7/3	N6/灰	Ro・Ke	Ro		RP532	
	146	41	須恵器	坏身	ST2002	104			42	6.5/3	N6/灰	Ro	Ro	Ke	RP520	
	147		土師器	坏	ST2002	150	50		53	6/4	2.5YR5/8明赤褐	M	N・M	Ke	RP235	A I
	148		土師器	高坏	ST2002	170				5.6	5YR5/6明赤褐	M	M			D
	149		土師器	高坏	ST2002					15/4	5YR6/6橙		N		RP631	
	150	32	土師器	甕	ST2002	200	68	252	257	10/5	5YR7/4にぶい橙	N・H・Ke	HN		RP533	C
	151	28	土師器	甕	ST2002	(270)		(218)		9/6	7.5YR6/3にぶい橙	N・H	HN・H		RP533	B I
	152		土師器	甕	ST2002	203	74	262	330	10/7	7.5YR4/2灰褐	N・H	N	Ke	RP632	B I

表6　遺物計測表（4）

挿図番号	遺物番号	写真図版	種別	器種	出土位置	計測値(mm) 口径	底径	胴径	器高	厚さ 最大/最小	色調	調整等 外面	内面	底部	備考	分類
87	153		縄文土器	不明	ST2002					5						
	154	54	石製品	砥石か	ST2002	長さ150、幅34、厚さ32					2.5GY7/1 明オリーブ灰					
	155	54	石製品	砥石か	ST2002	長さ126、幅49、厚さ44					2.5Y8/1灰白					
	156	20	土師器	坏	ST2004	128	22		63	9/4	7.5YR4/6褐	N・M	N・M	Ke	RP530底部外面に箆書「×」	C2
	157	39	土師器	有孔鉢	ST2004		(18)			7.5/7	10YR7/2にぶい黄橙	H・Ke	N・M		RP246	D
	158		土師器	甕	ST2004	(170)	(30)			6.2/3	10YR5/3にぶい黄褐	H	HN		RP246	D
	159		土師器	甕	ST2004	167		(270)		7/5	2.5YR5/6明赤褐	H	HN		RP247	A I
	160		縄文土器	不明	ST2004					6/5	7.5YR4/3褐					
	161	54	石器	剥片	ST2004	長さ46、幅9、厚さ37					10YR4/1褐灰					
88	162	20	土師器	坏	ST2006	134	50		51	10/4	2.5YR6/6橙	N	N		RP285	A I
	163	20	土師器	坏	ST2006	141	62		43	7/4	2.5YR5/8明赤褐	N・M	N・M		RP536	A I
	164		土師器	坏	ST2006					11/6	10YR6/3にぶい黄橙	M	M			
	165		土師器	高坏	ST2006	168				8/4	5YR7/4にぶい橙	N・M	N		RP351坏部内面に煤付着	D
	166		土師器	高坏	ST2006					9/3	5YR5/6明赤褐	M				D
	167		土師器	高坏	ST2006	170				9/4	5YR6/6橙	M	M		RP541/543	C
	168		土師器	高坏	ST2006	200				8/5	7.5YR7/3にぶい橙				RP350	A
	169		土師器	高坏	ST2006	200				12/6	5YR5/6明赤褐	N・M	N・M		RP543	A
	170		土師器	甕	ST2006	(132)				9/5	10R5/6赤	N・H	HN		RP536	D
	171		土師器	甕	ST2006		48			8/6	7.5YR5/3にぶい橙	H・Ke	HN	Ke・RI	RP535	
	172		土師器	甕	ST2006					7/4.3	5YR7/3にぶい橙	N・H	N・H		RP284	
	173		土師器	甕	ST2007	168				7/3	7.5YR7/3にぶい橙	N・H	HN・H		RP293	B I
	174		土師器	壷	ST2007	142		(249)		8/6	7.5YR7/4にぶい橙	N・H・M	N・H		RP293	D
89	175		土師器	甕	ST2007	130				6.5/3.2	2.5YR6/6橙	N	N		RP295	
	176		土師器	甕	ST2007	176				8.8/4	2.5YR6/6橙	N・H	N・H		RP293	B I
	177		土師器	甕	ST2007	181				9/6.5	7.5YR7/3にぶい橙	N・H	N・H		RP338	B I
	178		土師器	甕	ST2007		78			10/6.3	10YR7/3にぶい黄橙	H・Ke	HN	Ke	RP537体部下半に煤付着	
	179		土師器	甕	ST2007		70			9/3.5	7.5YR5/2灰褐	H・Ke	HN	Ke	RP291	
	180		土師器	壷	ST2007	110		(214)		10/6	7.5YR7/3にぶい橙	N・H・M	HN・H		RP295	D
	181		土師器	甕	ST2007		78			8/4	7.5YR5/2灰褐	H・Ke	N		RP338	B I
	182	37	土師器	甑	ST2007	216	80	243	271	9/6	7.5YR6/3にぶい橙	N・H・M	HN・H・Ke		RP538	A2
90	183		須恵器	甕	ST2008					9/7.5	N4/灰	T	A		RP231平安	
	184		土師器	坏	ST2008	(155)	60		56	8.2/5.2	7.5YR6/6橙	N	M		RP547	F
	185		土師器	高坏	ST2008	(248)				6/4.5	2.5YR5/4にぶい赤褐	N	N		RP529	A
	186		土師器	甕	ST2008	(210)				7.5/5	7.5YR6/3にぶい褐	N・H	N・H		口縁に煤付着	
	187		土師器	甕	ST2008		70			10/6	7.5YR7/4にぶい橙	H	H	Ke	RP557	B
	188	55	石製品	砥石	ST2008	長さ(*155*)、幅65、厚さ48					2.5YR8/2灰白				RQ546	
	189		土師器	高坏	ST2009	140				5.4/4.3	7.5YR8/2灰白	N	N・M			A
	190		土師器	高坏	ST2009					10/8	10YR7/2にぶい黄橙	M	N		RP257	
	191		土師器	高坏	ST2009					9/5	7.5YR7/4にぶい橙	M	N		RP525	
	192		土師器	甕	ST2009	(180)				5/4	10YR7/2にぶい黄橙	N・H	N・M		RP223	
	193		土師器	甕	ST2009		94			8/4	7.5YR7/3にぶい橙	H・Ke	M・黒	c	平安	
	194		土師器	高台付坏	ST2009		80			8/6	7.5YR7/3にぶい橙	Ro	黒	b	RP521平安	
91	195		須恵器	坏	ST2009		56			10/4	5YR6/4にぶい橙	Ro	Ro	b	平安	
	196		須恵器	坏	ST2009		58			8/4	5YR6/4にぶい橙	Ro	Ro	b	RP224平安	
	197	44	須恵器	坏	ST2009	131	56		35	4/3	5GY5/1オリーブ灰	Ro	Ro	b	RP522 平安底部外面に墨書「畳」か	
	198	50	須恵器	甕	ST2009		(120)	(251)		13/7	N6/灰	Ro・T	Ka・A・	a	RP558平安	
	199	45	土師器	坏	ST 2009	133		(62)		5/4	10YR7/3にぶい黄橙	Ro	Ro	b	平安体部外面に墨書「□」	
	200		土師器	高台付坏	ST2009	(145)	(67)		67	5/3.5	7.5YR6/4にぶい橙	Ro	M・黒		平安	
	201	57	木製品	不明	ST2009	長さ(*217*)、幅21、厚さ7									穿孔	
	202	57	木製品	不明	ST2009	長さ128、幅(*65*)、厚さ7										
	203	57	木製品	不明	ST2009	長さ(*316*)、幅158、厚さ10									表面炭化	

表7　遺物計測表（5）

挿図番号	遺物番号	写真図版	種別	器種	出土位置	計測値(mm) 口径	底径	胴径	器高	厚さ 最大/最小	色調	調整等 外面	内面	底部	備考	分類
	204		須恵器	壷	ST2010		(86)			7/4.4	10YR5/1褐灰	Ro	Ro	b	RP300平安	
	205		須恵器	坏蓋	ST2010					6/5	N5/灰	Ro・Ke	Ro		内面に灰釉	
	206		土師器	坏	ST2010	(110)			59	11/5.4	5YR7/4にぶい橙	N・M	N・M	Ke		E
	207		土師器	坏	ST2010	144			61	10/3.5	5YR6/6橙	N・M	N・M	Ke		E
	208	28	土師器	甕	ST2010	117	60	132	96	4.5	5YR6/4にぶい橙	N・H・Ke	HN・M	Ke		D
	209		土師器	壷	ST2010	(100)		(120)		6/4	2.5YR6/6橙	N	N			CⅢ
	210		土師器	甕	ST2010	(200)		(210)		6/4	7.5YR5/3にぶい褐	N・H	HN			B
	211		土師器	坏	ST2011	(134)	(44)		(43)	5.5/4.5	10YR5/3にぶい黄褐	N・M	N	Ke	底部外面に線刻	AⅠ
92	212	20	土師器	坏	ST2011	156	70		46	9.5/3.5	7.5YR5/2灰褐	N・M	N・M	Ke	RP553	AⅠ
	213	20	土師器	坏	ST2011	145			60	8/5.3	2.5YR5/6明赤褐	N・M	N・M			AⅠ
	214	25	土師器	高坏	ST2011	(197)				5/4.3	5YR6/6橙	N・M	N		RP554	A
	215		土師器	甕	ST2011	190				13/7	2.5YR6/6橙	N・H	N		RP552	
	216	28	土師器	甕	ST2011	153	68	194	210	15/5	5YR7/4にぶい橙	N・H	N・H	Ke	RP551	AⅠ
	217	20	土師器	坏	ST2012	145	53		47	9/4	2.5YR5/6明赤褐	N・M	N・M	Ke	RP505	AⅡ
	218	21	土師器	坏	ST2012	140				5/4	2.5YR6/6橙	N・M	N・M		RP514	AⅠ
	219		土師器	甕	ST2012	181		(242)		5/4	7.5YR5/3にぶい褐	N・H	N・H		口唇部特徴から台付甕の可能性	AⅠ
	220	29	土師器	甕	ST2012	197	85	(187)	207	10/5	7.5YR6/2灰褐	N・H	N・H	Ke	RP314	AⅡ
	221		土師器	壷	ST2012			(142)		6/6	5YR5/2灰褐	N・M・Ke	N		RP349	CⅡ
	222		土師器	甕	ST2012	162				7/3	10YR3/3暗褐	N・H	N・H		RP349	BⅡ
	223		土師器	甕	ST2012	170		(170)		5/4	7.5YR6/4にぶい橙	N・H	N・H		RP282	D
	224	21	土師器	坏	ST2014	134			53		7.5YR7/3にぶい橙	N・M・Ke	N・M	Ke	RP326	C1
	225		土師器	坏	ST2014	146			58	8/5	7.5YR7/4にぶい橙	N・H	N・M	Ke	RP344	AⅠ
	226	21	土師器	坏	ST2014	154			64	7.5/5	7.5YR7/4にぶい橙	N	N・M		RP344	AⅠ
	227	17	土師器	坏	ST2014	147			49	7/3	2.5YR5/6明赤褐	N	N		RP323	AⅠ
	228	22	土師器	坏	ST2014	(148)	(40)		(50)	9/5	5YR6/6橙	N・M・Ke	N・Ke	Ke	RP325	AⅠ
93	229		土師器	坏	ST2014	138			51		2.5YR6/6橙	N・M	N・M	Ke	RP345	AⅠ
	230	17	土師器	坏	ST2014	146	28		61	10/4	7.5YR4/3褐	N・H・Ke	N・M	Ke・RI	RP343	
	231	17	土師器	坏	ST2014	150	40		46	9/6.4	5YR5/6明赤褐	N・M	N・M	Ke	RP250	AⅠ
	232	21	土師器	坏	ST2014	144	56		41	7/5	7.5YR7/4にぶい橙	N・M・Ke	N・M	Ke	RP345	AⅠ
	233		土師器	坏	ST2014	(160)	(78)		41	8.5/4.3	10YR7/3にぶい黄橙	N	N・M	Ke	RP325	AⅠ
	234		土師器	坏	ST2014	114	44		42	5/4	5YR6/6橙	N	N	Ke	RP344	AⅠ
	235	21	土師器	坏	ST2014	154			47	10/5	5YR6/6橙	N・M	N・M	Ke		AⅠ
	236	39	土師器	坏	ST2014					7.5/7	7.5YR7/4にぶい橙	N・M	N	Ke	底部外面に箆書「×」	
	237	39	土師器	坏	ST2014					6/5	5YR7/6橙	N・Ke	N	Ke	底部外面に箆書「×」	
	238	41	須恵器	蓋	ST2014	116			46	10/3	10YR6/1褐灰	Ro・Ke	Ro		RP322	
	239	41	須恵器	壷か	ST2014	(96)	22		59	8/2.5	N5/灰	Ro・Ka	Ro・Ka		RP621	
	240		土師器	高坏	ST2014					11/6	5YR5/4にぶい赤褐	N・M	M		RP337	A
	241		土師器	高坏	ST2014	(184)			(73)	8/6	2.5YR6/6橙	N・M	N・M		RP330	E
	242	25	土師器	高坏	ST2014		(120)			5	5YR6/6橙	H・M	H・M		RP331	F
	243		土師器	高坏	ST2014	(220)				9/3	10YR7/3にぶい黄橙	N・M	N・M			A
	244	40	土師器	甕	ST2014	121	48	132	98	6/6	10YR5/3にぶい黄褐	H・M	N	Ke・RI	RP321	
94	245		土師器	壷	ST2014	(134)				8/4.5	7.5YR8/4浅黄橙	N	H		RP622	
	246		土師器	壷	ST2014	(96)				6/3	10R5/6赤	N・M	N・M		外面赤彩か	CⅠ
	247		土師器	甕	ST2014		62			7/6	7.5YR7/4にぶい橙	H	H	Ke	RP346	B
	248	27	土師器	壷	ST2014			(151)			7.5YR5/4にぶい褐	M・Ke	N・H		RP327	CⅡ
	249		土師器	甕	ST2014	(226)				10/6	7.5YR7/3にぶい橙	N・H	HN			
	250	51	縄文土器	浅鉢	ST2014						10YR7/2にぶい黄橙					
	251	51	縄文土器	不明	ST2014						10YR7/3にぶい黄橙					
	252	55	石製品	砥石	ST2014	長さ65、幅28、厚さ17					5Y8/1灰白					
	253	52	石製品	不明	ST2014	長さ55、幅51、厚さ36										
	254	56	石器	石核か	ST2014	長さ41、幅66、厚さ29					10YR4/2灰黄褐					
94	255		須恵器	壷	ST2016		66			9/3.5	5Y5/1灰	Ro・Ke	Ro	b	RP319平安	
	256		土師器	高台付皿	ST2016		66			10/5	10YR6/3にぶい黄橙	Ro	M・黒		平安	

表８　遺物計測表（６）

挿図番号	遺物番号	写真図版	種別	器種	出土位置	計測値(mm) 口径	底径	胴径	器高	厚さ 最大/最小	色調	外面	調整等 内面	底部	備考	分類
95	257		土師器	甑	ST2017	(180)				6	10R6/6赤橙	N・H	N		RP368	B
	258		土師器	甕	ST2017	(148)				8/4	10YR8/4浅黄橙	N・H	N・H			
	259		土師器	甕	ST2017	(180)				7/5.5	5YR6/4にぶい橙	N・H	N・H		RP424	
	260		土師器	甕	ST2017	(178)					10YR7/4にぶい黄橙	N・H	N・H		RP400/540	BⅠ
	261		石製品	砥石	ST2017	長さ(*104*)、幅46、厚さ39					2.5Y8/1灰白					
	262	54	石製品	石棒か	ST2017	長さ(*95*)、幅50、厚さ35					2.5Y8/1灰白					
	263		石製品	石棒か	ST2017	長さ(*90*)、幅64、厚さ40					10YR7/1灰白					
96	264		土師器	坏	ST2019	152			49	6.5/5.5	10YR8/3浅黄橙	M・Ke	N・M		RP259	AⅠ
	265		土師器	坏	ST2019	146				6/5	10YR3/2黒褐	N・M	N・M			AⅠ
	266		土師器	坏	ST2019	(134)					5YR6/6橙	N・M・Ke	M	Ke	RP352	AⅠ
	267	39	土師器	坏	ST2019	(149)	24			6/4	10YR6/4にぶい黄橙	M・Ke	M	Ke・RI	RP358底部外面に筮書「×」	
	268		土師器	高坏	ST2019					10/7	7.5YR7/3にぶい橙	M	N		RP357	
	269		土師器	高坏	ST2019					12/8	10R5/6赤	N・M	N		RP360	D
	270		土師器	高坏	ST2019					15/8	7.5YR6/6橙	M	N		RP257	
	271		土師器	甕	ST2019			170		9/7	10YR8/3浅黄橙	N・H・Ke	N・H		RP502	CⅡ
	272	33	土師器	甕	ST2019	176	91	273	285	14/6	7.5YR5/2灰褐	H・M・Ke	HN		RP352 複合口縁	
	273		土師器	甕	ST2019	180		(176)		8/5	10YR7/4にぶい黄橙	N・H	N・M		RP355	D
	274		土師器	甕	ST2019		(60)			8/6	10YR8/4浅黄橙	N・H	HN・H		RP352	B
	275		土師器	甕	ST2019		63				7.5YR7/4にぶい橙	N・H	N・H		RP259	
	276	39	土師器	甑	ST2019					9/7.5	7.5YR8/3浅黄橙	N・H	N・H		RP347	D
97	277	33	土師器	甕	ST2019	199	60	244	265	10/4	7.5YR8/3浅黄橙	N・H・Ke	HN・H	H	RP357・358	AⅠ
	278		土師器	壷か	ST2019			(198)		9/7	7.5YR7/4にぶい橙	N・M	N・H		RP502	A
	279		土師器	甕	ST2019			(242)		10/6.5	7.5YR6/3にぶい橙	N・H	N・H		RP353	BⅠ
	280	34	土師器	甕	ST2019	212	80	282	303	10/5	10YR5/4にぶい黄橙	N・H・Ke	HN・H	Ke	RP356	AⅠ
	281	56	土製品	紡錘車	ST2019	長径37、短径34、厚さ16					7.5YR8/1灰白				RP248	
	282	55	石製品	砥石か	ST2019	長さ(*49*)、幅36、厚さ28					7.5YR8/2灰白					
98	283	47	須恵器	双耳坏	ST2020					6.6/4	7.5R5/2灰赤	Ro・Ke	Ro・Ke		平安耳部片のみ	
	284	21	土師器	坏	ST2020	152	42		56	7/5	5YR5/6明赤褐	N・M	N・M	Ke	RP512	AⅡ
	285	40	土師器	坏	ST2020					4	7.5YR8/4浅黄橙			Ke・RI	RP302	
	286		土師器	甕	ST2020	(170)				12/8	5YR5/6明赤褐	N・H	N		RP304	A
	287		土師器	甕	ST2020	204				10/6	10YR7/3にぶい黄橙	N・H	N・H		RP305	B
	288		土師器	甕	ST4002	(160)		(280)			10YR8/3浅黄橙	N・H	N		RP601 複合口縁	
	289	56	土製品	紡錘車	ST4003	径39、厚さ24					7.5YR8/3浅黄橙				黒色の付着物あり	
	290	56	石製品	模造石製品	ST4003	径37、厚さ4					N4/灰				RQ490	
	291	56	石製品	模造石製品	ST4003	長径(*42*)、短径(*35*)、厚さ3					N4/灰				RQ490	
	292	56	石製品	模造石製品	ST4003	長径44、短径41、厚さ4					N4/灰				RQ490	
	293	56	石製品	模造石製品	ST4003	長径(*33*)、短径(*24*)、厚さ4					N4/灰				RQ491	
	294	55	石製品	砥石	ST4003	長さ84、幅26、厚さ25					2.5Y8/2灰白					
99	295		土師器	坏	ST4003	(144)	64		50	8/3	10YR8/3浅黄橙	N	N・M		RP484	AⅠ
	296		土師器	坏	ST4003	(140)	38		55		2.5YR6/6橙	N	N		平安	AⅡ
	297		土師器	坏	ST4003	(152)	56		61		7.5YR8/4浅黄橙	N	N			E
	298	21	土師器	坏	ST4003	134	50		58	7/4.5	5YR6/6橙	N・M	N・M	Ke	RP494	E
	299	22	土師器	坏	ST4003	160			(77)	9/4	7.5YR7/4にぶい橙	N・H	N		RP573	AⅠ
	300	26	土師器	坏	ST4003	140	56		83	6/4.8	7.5YR8/2灰白	N・H	N・H		RP572	E
	301		土師器	壷	ST4003			(155)		9/5	7.5YR7/3にぶい橙	M	H			CⅡ
	302	27	土師器	壷	ST4003					11/5					RP492	CⅡ
	303		土師器	壷	ST4003			(148)		11/5	7.5YR6/4にぶい橙	M	f		RP565	CⅡ
	304	27	土師器	甕	ST4003	(123)	(60)		125	8/5	10YR8/3浅黄橙	N・H・Ke	N・H		RP564	D
	305		土師器	甕	ST4003	160		(151)		7.5/4	2.5YR5/6明赤褐	N・H	N		RP496	D
	306		土師器	甕	ST4003	(146)					7.5YR7/2明褐灰	N・H	N・H			
	307		土師器	甕	ST4003	(144)				10/8	10YR8/3浅黄橙	N・M	N		複合口縁	
	308		土師器	甕	ST4003	(183)				10/5	7.5YR7/3にぶい橙	N・H	HN		RP488	B

表９　遺物計測表（７）

挿図番号	遺物番号	写真図版	種別	器種	出土位置	計測値(mm) 口径	底径	胴径	器高	厚さ 最大/最小	色調	外面	調整等 内面	底部	備考	分類
	309		土師器	甕	ST4003	(176)					10YR7/2にぶい黄橙	N・H	N		複合口縁	
99	310		土師器	甕	ST4003	(160)					7.5YR8/4浅黄橙	N・H	N		RP568	
	311		土師器	甕	ST4003	168				10/5	10YR7/3にぶい黄橙	N・H・M	N・H		RP563	
	312		土師器	甕	ST4003	(170)				8.5/6	10YR7/3にぶい黄橙	N・H	N		RP493	
	313		土師器	甕	ST4003	210				7/4	7.5YR7/4にぶい橙	N・H	HN		RP497	
	314		土師器	甕	ST4003	(160)				10/5	10YR7/2にぶい黄橙	N・H	HN			
100	315		土師器	甕	ST4003			(243)		10/8	10YR8/3浅黄橙	H	H		RP566	BⅠ
	316		土師器	甕	ST4003		82			10/5	10YR7/3にぶい黄橙	H・Ke	N・H	Ke	RP498	C
	317		土師器	甕	ST4003		64	(303)			7.5YR8/4浅黄橙	N・H	N		RP569	A
	318		土師器	甕	ST4003	(165)				14/6	10YR7/4にぶい黄褐	N・H	HN		RP374/485	A
	319		土師器	甕	ST4003	244		(280)		9/7	7.5YR6/3にぶい褐	N・H	HN		RP374	AⅡ
	320		土師器	甕	ST4003	(154)					7.5YR8/3浅黄橙	N・H	N		複合口縁	
	321		土師器	甕	ST4003		84			9/5	5YR5/6明赤褐	H	N・H	Ke	RP496	A
101	322		土師器	甕	ST4003		76			8/6	7.5YR6/4にぶい橙	H	N・H		RP426	B
	323		土師器	甕	ST4003		68	214			7.5YR6/2灰褐	N・H	N・H		RP498底部煤付着	A
	324		土師器	甕	ST4003	(180)				7/6	10YR7/3にぶい黄橙	N・H	N・H		RP562	B
	325	37	土師器	甑	ST4003	209	87	259	300	8/5	7.5YR5/6明褐	N・H・Ke	N・H・Ke		RP563	A2
	326	22	土師器	坏	ST4004	134			41	8/4.5	5Y6/6橙	N・M・Ke	N・M	Ke	RP593	AⅠ
	327		土師器	坏	ST4004	134					7.5YR7/4にぶい橙	N・M	N・M	Ke	RP423	AⅠ
	328	22	土師器	坏	ST4004	153				8/5	5YR6/6橙	N・M	N・M	Ke・RI	RP361	AⅠ
	329		土師器	坏	ST4004	136				6/3	7.5YR7/3にぶい橙	N・M	N・M		RP582	F
	330		土師器	坏	ST4004	150	30		54	5.5/1.5	5YR6/6橙	N・M・Ke			RP585	AⅠ
	331		土師器	坏	ST4004	134	70		76	7/6	10R5/6赤	N	M	Ke	RP439	AⅠ
102	332		土師器	坏	ST4004	(120)					10R6/6赤橙	N・Ke	N・M		RP587	AⅠ
	333	29	土師器	甕	ST4004	(140)	(26)		(120)	6/5	7.5YR6/3にぶい褐	N・H	N		RP582/583	D
	334		土師器	壷	ST4004	100		(169)		9/6	7.5YR8/4浅黄橙	N・Ke	N		RP423	
	335		土師器	甕	ST4004	(190)				8/6.5	2.5YR5/6明赤褐	N・H	HN		RP377	
	336	42	土師器	坏	ST4004	140	58		50		10YR7/2にぶい黄褐	Ro	Ro	b	RP362平安	
	337		土師器	坏	ST4004	(156)	(76)			7/3	5YR7/6橙	Ro	Ro	b	平安体部内面に黒色付着物	
	338	42	土師器	高台付坏	ST4004	159	56		69	12/4	7.5YR7/3にぶい橙	Ro	M・黒	b	RP379平安	
	339	55	石製品	砥石か	ST4004	長さ57・幅40・厚さ14					5GY7/1明オリーブ灰					
	340	53	石製品	石棒か	ST4004	長さ(*281*)・幅(*111*)・厚さ83					5Y7/1灰白				RQ591	
	341		土師器	壷か	ST4004	(126)				8/6	5YR6/6橙	N・Ke	HN		RP584	
	342		土師器	甕	ST4004	(260)		(237)		9/5	10YR7/3にぶい黄橙	N・H・Ke	N・H		RP372/580/582	
	343		土師器	甕	ST4004	(184)				8/6	2.5YR6/6橙	N・M	N・M		RP594 複合口縁	
	344		土師器	甕	ST4004	(280)					10YR8/4浅黄橙	N・H	N・H		RP596	
103	345		土師器	甕	ST4004		72			7/5	7.5YR8/3浅黄橙	H・Ke	H	Ke	RP592	
	346		土師器	甕	ST4004					12/6	7.5YR8/4浅黄橙	N・H・Ke	H		RP363	
	347		土師器	甕	ST4004	(168)				6	7.5YR7/4にぶい橙	N・H	N・H		RP590	BⅡ
	348	34	土師器	甕	ST4004	249	(249)			8/7	7.5YR8/3浅黄橙	N・H・Ke	N・H		RP586	BⅡ
	349		土師器	甕	ST4004		66			10/6	2.5YR6/6橙	N・H	N・H	RI	RP581/588/590	
	350		土師器	甕	ST4005	152	(32)		50	7/5		N・M	N・M		RP464カマド跡から出土	A Ⅰ
	351	22	土師器	坏	ST4005	132	24		50	6.5/4	5YR7/6橙	N・M・Ke	N・M・Ke	Ke	RP473カマド跡から出土	AⅠ
	352		土師器	坏	ST4005	186	(54)		(66)		5YR5/6明赤褐	N	N		RP606	AⅠ
	353		土師器	壷	ST4005	104				5.5/2.5	5YR5/6橙	N	H		RP613	CⅠ
104	354		土師器	甕	ST4005	140				6/5	5YR5/3にぶい赤褐	N・H	HN		RP471	D
	355	40	土師器	甕	ST4005	108	56	122	98		10YR8/3浅黄橙	N・H	HN	Ke・RI	RP607	D
	356		土師器	甕	ST4005	(241)	60	(221)	159	10/5	7.5YR6/3にぶい橙	N・Ke	N・Ke		RP464カマド跡から出土	
	357		土師器	甕	ST4005	(182)				15/5	7.5YR8/4浅黄橙	N・H	H		RP475カマド跡から出土	
	358		土師器	甕	ST4005		66			11/7	10YR8/3浅黄橙	N・Ke	N	Ke	RP472	C
	359	56	土製品	紡錘車	ST4005	長径45・短径42・厚さ21					2.5Y8/1灰白				RP608 穿孔なし	

表10　遺物計測表（8）

挿図番号	遺物番号	写真図版	種別	器種	出土位置	計測値(mm) 口径	底径	胴径	器高	厚さ 最大/最小	色調	調整等 外面	内面	底部	備考	分類
104	360	56	土製品	紡錘車	ST4005	径43・厚さ16					10YR8/2灰白				RP609黒色付着物あり	
105	361		土師器	甕	ST4005	(190)		(295)		8/7	7.5YR6/4にぶい橙	N・H	HN		RP472	AⅠ
	362		土師器	甕	ST4005	(198)				14/5	7.5YR8/3浅黄橙	N・H	HN		RP479	
	363		土師器	坏	ST4005		70			12/8	5YR6/6橙	H	N・H	Ke	RP475カマド跡から出土	
	364	33	土師器	甕	ST4005	164	56	227	292	13/5	7.5YR5/3にぶい褐	N・H	N・H	Ke	RP478	BⅡ
	365		石製品	不明	ST4005	長さ86・幅71・厚さ49					N2/黒				RQ610	
106	366	22	土師器	坏	ST4006	134	38		56	8/5	5YR6/6橙	N・M	N		RP470	AⅠ
	367		土師器	坏	ST4006	(148)	(40)		54	7/5	7.5YR7/2明褐灰	N	M	Ke	RP612	AⅠ
	368	27	土師器	壷	ST4006			(142)		12/8	2.5YR6/6橙	N	N		RP613	CⅡ
	369		土師器	甕	ST4006	(113)		(128)		9/6	2.5YR6/6橙	N・H	N		RP469	D
	370	29	土師器	甕	ST4006	183	70	209	222	11/4	7.5YR4/2灰褐	N・H	HN	Ke	RP446	A
	371		須恵器	坏	SC5001	(135)	96		35		2.5Y7/2灰黄	Ro	Ro	a	ED1から出土	
	372	26	土師器	高坏	SC5001	136				11/5	5YR7/4にぶい橙	N・M	N		RP405/406	
	373		土師器	高坏	SC5001	(184)				9/5	5YR7/6橙	N・M	N・M		RP406	C
	374		土師器	甕	SC5001	(140)		(142)		7/4	10YR7/3にぶい黄橙	N・H	N		RP405/406	D
	375	29	土師器	甕	SC5001	(148)	73	(173)	168	7/3.5	7.5YR5/2灰褐	N・H	N・M		RP405/406	D
	376		土師器	甕	SC5001	(191)		(237)		5/4	2.5YR5/4にぶい赤褐	N・H	N・H			B
	377		土師器	坏	SC5002		68			6/4	7.5YR8/4浅黄橙	M	M・黒	Ke		
44	378	42	須恵器	不明	SB672	(200)				8/2.5	N6/灰	Ro	Ro・Ka		EB3出土 RP12	
47	379		土師器	甕	SB879	(150)	72			13/6	7.5YR8/6浅黄橙	H	H	Ke	EB3から出土	
	380		木製品	柱根	SB1601	長さ(*168*)・幅60・厚さ19									EB2	
	381		木製品	柱根	SB1601	長さ(*203*)・幅44・厚さ27									EB2	
	382	58	木製品	柱根	SB1601	長さ(*318*)・長径112・短径111									EB8	
	383	58	木製品	柱根	SB1601	長さ(*313*)・長径115・短径97									EB3	
	384		木製品	柱根	SB1601	長さ(*143*)・長径126・短径100									EB12	
49	385	58	木製品	柱根	SB3501	長さ(*178*)・長径172・短径146									EB7	
	386	58	木製品	柱根	SB3501	長さ(*255*)・長径213・短径191									EB10	
	387	58	木製品	柱根	SB3501	長さ(*203*)・長径171・短径153									EB5	
	388	59	木製品	柱根	SB3501	長さ(*327*)・長径204・短径200									EB8	
	389	59	木製品	柱根	SB3501	長さ(*384*)・長径216・短径177									EB6	
	390	59	木製品	柱根	SB3501	長さ(*392*)・長径194・短径179									EB11	
50	391	45	土師器	坏	SB3502		(62)			11/6	7.5YR6/4にぶい橙	Ro	Ro	b	EB3から平安底部外面に墨書「成」	
51	392	39	土師器	坏	SB3503		44			7/6	10YR7/4にぶい黄橙	N・H・M	N・M	Ke	EB6から体部外面に箆書「×」	
	393	49	土師器	甕	SB3503	194		(192)			7.5YR6/4にぶい橙	N・H	HN・H		EB9から出土	
	394	59	木製品	柱根	SB3503	長さ(*358*)・長径117・短径103									EB10	
53	395	60	木製品	柱根	SB3507	長さ(*559*)・径188									EB2	
	396		木製品	柱根	SB3507	長さ(*344*)・長径132・短径122									EB3	
107	397	22	土師器	坏	SK2182	(160)	48		60	7/4	7.5YR7/2明褐灰	N・M	N・M	Ke	RP207	E
	398	40	土師器	甕	SK2182		38			35/5	10YR7/4にぶい黄橙	N	N	Ke・RI	RP218	
	399	22	土師器	坏	SK2182	(141)	20		48	6/4.5	2.5YR6/6橙	N・H	M		RP207	AⅠ
	400		土師器	高坏	SK2182		(200)			15/5	7.5YR7/4にぶい橙	N・M	N・M		RP206	A
	401	25	土師器	高坏	SK2182	186	149		127	6/5	7.5YR8/4浅黄橙	N・H・M	N・H・M		RP219	D
	402		土師器	高坏	SK2182		(166)			10/6	5YR6/6橙	M	N・H		RP221	
	403		土師器	甕	SK2182	180				9/6	5YR6/4にぶい橙	H	HN		RP222	A
	404		土師器	甕	SK2182	(240)				9/6	10YR7/3にぶい黄橙	N・H	HN		RP218	A
	405		土師器	甕	SK2182	156		(188)			7.5YR7/4にぶい橙	N・H	N		RP207	D
	406		土師器	高台付坏	SK2182		64				7.5YR6/4にぶい橙	Ro	M・黒			
	407		須恵器	坏	SK2182	(136)	54		36	7/3	N5/灰	Ro	Ro	b	RP216平安	
	408	46	須恵器	坏	SK2182		64			8/4	5Y6/1灰	Ro	Ro	b	RP215平安底部外面に墨書「×」転用硯か	
108	409	22	土師器	坏	SK3665	142			58	10/5	10YR6/3にぶい黄橙	N・M	N・M			C2

表11　遺物計測表（9）

挿図番号	遺物番号	写真図版	種別	器種	出土位置	計測値(mm) 口径	底径	胴径	器高	厚さ 最大/最小	色調	調整等 外面	内面	底部	備考	分類
108	410		土師器	坏	SK3665	(130)				6/5	2.5YR6/6橙	N･M･Ke	N･M･Ke			F
	411		土師器	坏	SK3665	(132)			58	8/5	7.5YR7/3にぶい橙	N	N･M			A Ⅰ
	412	23	土師器	坏	SK3665	154	39		53	8/5	2.5Y5/8明赤褐	N･M	N･M	Ke		A Ⅰ
	413		土師器	甕	SK3665	182				9/7	7.5YR7/4にぶい橙	N･H	N			A
	414		土師器	甕	SK3665	(240)					7.5YR6/3にぶい橙	N･H	N			A
	415		土師器	甕	SK3665	(180)		(200)		10/5	7.5YR8/4浅黄橙	N･H	HN･H			B Ⅱ
	416		土師器	坏	SK3030	141					7.5YR8/4浅黄橙	N･M	N		RP384/387	A Ⅰ
	417	24	土師器	碗か	SK3030	124	44		79	7/4	7.5YR8/4浅黄橙	N	M	Ke･RI	RP386	
	418		土師器	高坏	SK3030	190					2.5YR6/6橙	N	N		RP381	A
	419		土師器	高坏	SK3030						2.5YR6/8橙	M	N		RP381	E
	420		土師器	甕	SK3030	(130)	24	(141)	120		7.5YR7/3にぶい橙	N･H･Ke	N		RP383	D
	421		土師器	壷	SK3030	(81)				9/6	7.5YR7/4にぶい橙	N･H･M	N･H		RP395	C
109	422		土師器	甕	SK3030	(148)				6/5	10YR7/3にぶい黄橙	N･H	N･H		RP381/384/386	
	423		土師器	甕	SK3030	144				12/6	10YR8/4浅黄橙	N･H	N･H		RP381/384/416	
	424		土師器	甕	SK3030	242		(214)		11/6	7.5YR7/4にぶい橙	N･H	N･H			
	425		土師器	甕	SK3030	175		(187)			7.5YR8/3浅黄橙	N･H	N･H		RP387/417	D
	426		土師器	甕	SK3030	(198)				6/5	10YR7/3にぶい黄橙	N･H	HN		RP481	
	427		土師器	甕	SK3030	270	80	251	233		7.5YR8/4浅黄橙	N･H	HN			
	428		土師器	甕	SK3030	(190)				9/5	7.5YR8/4浅黄橙	N･H	N･H		RP384	
	429		土師器	甕	SK3030	190		(219)			10YR8/4浅黄橙	N･H	N･H		RP384/387	
110	430	23	土師器	坏	SK3023	160	49			6/4	5YR6/4にぶい橙	N･M	N･M			A Ⅰ
	431		土師器	坏	SK3023	136	(52)		57	5/3	7.5YR7/4にぶい橙	N	N･M			E
	432		土師器	坏	SK3023	(130)	(30)		49	7/6	2.5YR5/6明赤褐	N	N			A Ⅰ
	433	40	土師器	坏	SK3023	(138)				6/3	7.5YR4/2灰褐	Ke	M	Ke･RI		
	434		土師器	坏	SK3023			(40)			7.5YR7/4にぶい橙	M	M	Ke･RI		
	435		土師器	坏	SK3023			(38)		9/5	7.5YR7/3にぶい橙	M	M･Ke	Ke･RI		
	436	26	土師器	高坏	SK3023	222					5YR6/6橙	N･M	N･M			A
	437	26	土師器	高坏	SK3023	115				9/4	7.5YR8/4浅黄橙	N･M	N･M			A
	438	26	土師器	高坏	SK3023	174				13/4	7.5YR8/4浅黄橙	N･M	N･M			D
	439		土師器	高坏	SK3023	182				14/4	2.5YR6/6橙	N	N･M			D
	440		土師器	高坏	SK3023	182				10/4	10YR8/4浅黄橙	N･M	N･M			C
	441		土師器	高坏	SK3023	(171)					2.5YR5/6明赤褐	N･M	N			
	442		土師器	壷	SK3023			140		9/5	7.5YR8/4浅黄橙	N･M	N			C Ⅰ
	443	27	土師器	壷	SK3023			153		5	7.5YR8/3浅黄橙	N･H	N			C Ⅰ
	444	27	土師器	壷	SK3023	100		145	147		5YR6/4にぶい橙	N･M	H			C Ⅰ
	445		土師器	甕	SK3023	(116)		(130)		5/4	10R6/6赤橙	N･H	N･H			
111	446	28	土師器	壷	SK3023			162		8/5	5YR6/6橙	N･H･M	N			C Ⅱ
	447		土師器	甕	SK3023	200		(251)		9/5	2.5YR6/6橙	N･H	N･H			A Ⅰ
	448		土師器	甕	SK3023	184				8/6	7.5YR8/3浅黄橙	N･H	N･H			
	449		土師器	甕	SK3023	(188)				7/6	10YR8/4浅黄橙	N･H	N			
	450	34	土師器	甕	SK3023	186	78	226	229	12/3	7.5YR7/4にぶい橙	N･H	N	H		A Ⅰ
	451	34	土師器	甕	SK3023	216		255		9/5	7.5YR7/4にぶい橙	N･H	N･H		口縁部に穿孔	B Ⅱ
112	452		土師器	坩	SK3023	(134)	(40)	(149)	(97)	7/5	5YR5/6明赤褐	N･H	N･H			
	453		土師器	甕	SK3023	188					7.5YR6/4にぶい橙	N･M	N･M		二重口縁	
	454	35	土師器	甕	SK3023	163		254		9/6	7.5YR7/3にぶい橙	N･H	N			
	455		土師器	甕	SK3023			(223)		8/7	7.5YR6/3にぶい橙	N･H	N･H			
	456	29	土師器	甕	SK3023	299		301			7.5YR7/4にぶい橙	N･H	HN			
	457	29	土師器	甕	SK3023	140	40	142	119	13/4	7.5YR6/4にぶい橙	N･H･Ke	N			D
	458		土師器	甕	SK3023	128		(146)		7/3	7.5YR6/4にぶい橙	N･H	HN			D
113	459		土師器	甕	SK3023	192		(264)		8/5	7.5YR7/4にぶい橙	N･H	N			
	460	35	土師器	甕	SK3023	214		247		7/6	7.5YR7/3にぶい橙	N･H	N			A Ⅱ
	461	54	石器	剥片	SK3023	長さ42･幅8･厚さ18					2.5Y3/1黒褐					
	462	54	石器	剥片	SK3023	長さ42･幅53･厚さ16					N2/黒					
	463	55	石製品	砥石	SK3023	長さ120･幅51･厚さ20					7.5Y6/1灰					
	464	53	石製品	石皿か	SK3023	長径242･短径204･厚さ49					5GY6/1オリーブ灰					

表12　遺物計測表（10）

挿図番号	遺物番号	写真図版	種別	器種	出土位置	計測値(mm) 口径	底径	胴径	器高	厚さ 最大/最小	色調	調整等 外面	内面	底部	備考	分類
113	465	53	石製品	磨石	SK3023	長径213・短径167・厚さ42					10YR6/2灰黄褐					
114	466		土師器	高坏	SK3032		138			9/5	5YR5/6明赤褐	M	N		RP634	
	467	35	土師器	甕	SK3032	(181)	60	250	292	7/5	10YR8/4浅黄橙	N・H	N・H	Ke	RP635	BⅠ
	468		土師器	甕	SK3032	192		233	(254)	8/5	7.5YR7/4にぶい橙	N・H・Ke	HN・H		RP635/636/637	AⅠ
	469	23	土師器	坏	SK3032	182			77	10/3	5YR7/4にぶい橙	N・M	N・M		RP633	AⅠ
	470	24	土師器	坏	SK3032	148	40		54	7/5	7.5YR7/4にぶい橙	N・M	N・M	Ke・RI	RP635/637	AⅠ
	471		土師器	坏	SK3032	(140)			(40)	7/5	7.5YR7/3にぶい橙			Ke・RI	RP637	
115	472		石製品	不明	SK3032	長径162・短径134・厚さ58					2.5GY7/1明オリーブ灰					
	473		土師器	坏	SK2184					8/4	7.5YR7/4にぶい橙	N	M		RP211	
	474		土師器	甕	SK2184	(290)	76			10/5	10YR7/4にぶい黄橙	N・H	HN・H	Ke	RP210	AⅢ
	475		土師器	甕	SK2184	(190)				6/5	7.5YR8/3にぶい橙	N・H	N・H		RP213	
	476	29	土師器	甕	SK2184	172	63	(208)	220	15/9	7.5YR8/4浅黄橙	N・H	N・H	Ke		AⅡ
	477		土師器	甕	SK2184			(247)		12/6	10YR5/3にぶい黄褐	N・H	N・H		RP210	
116	478	39	手づくね土器		SK3668		38			9/6	10YR7/3にぶい黄橙	N	N		RP544	
	479		土師器	甕	SK3668	(176)		(207)			7.5YR7/2明褐灰	N・H	HN・Ke		RP261	
	480		土師器	甕	SK3668	190		228		6/4	2.5YR7/6橙	N・H	N・H		RP261	
	481	35	土師器	甕	SK3668	(162)		(178)			10R6/6橙	N・H	HN		RP263	
	482		土師器	甕	SK2885	(180)		(199)		7/5	7.5YR7/6橙	N・H	N・H		RP428/430	
	483	36	土師器	甕	SK2885	190		230			10YR8/3浅黄橙	N・H	N・H・Ke		RP428/429/430	BⅠ
	484	36	土師器	甕	SK2740	(193)	45	227	275	14/5	10YR8/3浅黄橙	N・H・Ke	N・H	Ke	RP208	D
117	485	29	土師器	甕	SK2740	161	50	163	142	8/5	7.5YR5/2灰褐	N・H	N・H		RP208	
	486		土師器	坏	SK902					6/5	10YR8/3浅黄橙	N	N	Ke・RI		
	487	24	土師器	坏	SK2188 F−62	130	30		68	10/6	7.5YR7/2明褐灰	N・M	N・M	Ke・RI		
	488		土師器	坏	SK2890	(170)	(80)		59	4/2.5		Ro	Ro		RP380平安	
	489	46	土師器	坏	SK2890	146	60		49	5/3	7.5YR6/3にぶい橙	Ro	Ro	b	RP396 平安転用硯か	
	490	48	土師器	坏	SK2891 G48	120	50		39	7/3	5YR7/6橙	Ro	Ro	b	平安	
	491	48	土師器	坏	SK2891	131	50		40	4/2.5	7.5YR8/4浅黄橙	Ro	Ro	b	平安内面に付着物(漆か)	
	492		土師器	甕	SK2294	(242)		(240)			7.5YR7/3にぶい橙	N・H	N・H		RP316	
	493		土師器	甕	SK2895		88	(332)		8/7	10YR5/3にぶい黄橙	H・M	HN・H			C
	494	51	縄文土器		SK3031					6/5	5YR7/4にぶい橙					
	495	43	須恵器	坏	SK2441	(141)	66		42	4	10YR6/1褐灰	Ro	Ro	b	RP517平安底部外面に墨書「成」か	
	496	43	須恵器	坏	SK2886	138	88		43	9/4	N5/灰	Ro	Ro	a	RP435平安	
	497	47	須恵器	高台付坏	SK2886	134	84		49	6/3	N6/灰	Ro	Ro	a	RP434平安	
	498		須恵器	蓋	SK1623					7/4	N5/灰	Ro・Ke	Ro		平安	
	499	45	須恵器	坏	SK658	(130)	(56)		41	7/4	5Y6/1灰	Ro	Ro	a	平安底部外面に墨書「鉄」か	
118	500		石製品	砥石	SK2892	長さ194・幅78・厚さ61					2.5Y8/2灰白					
	501		石製品	不明	SK2892	長さ91・幅80・厚さ75					N5/灰				RQ408	
	502		須恵器	坏	SE2420	128	64		34	8/4	10YR4/1褐灰	Ro	Ro	b		
	503		須恵器	坏	SE2871	(144)	(74)		35	5/4	10YR8/4浅黄橙	Ro	Ro	b	平安	
	504	43	須恵器	坏	SE2871	146	60		42	7/4	10YR7/1灰白	Ro	Ro	b	平安	
	505		陶器	段重か	SE640	92	88		41						RP14 近世後半以降	
	506		陶器	小型甕	SE640	113	64	124	137			鉄釉：底部無釉			RP13唐津18〜19世紀	
58	507		木製品	木枠	SE2420	長さ(*1148*)・幅(*201*)・厚さ(*25*)										
	508		木製品	木枠	SE2420	長さ(*648*)・幅(*67*)・厚さ(*10*)										
	509	58	木製品	木枠	SE2420	長さ(*615*)・幅(*45*)・厚さ(*40*)										
59	510		木製品	木枠	SE2420	長さ(*518*)・幅(259)・厚さ(*40*)										
	511	58	木製品	木枠	SE2420	長さ(*349*)・幅(*110*)・厚さ(*10*)										
	512	57	木製品	木枠	SE2420	長さ(*296*)・幅(*26*)・厚さ(*14*)										
	513		木製品	木枠	SE2420	長さ(*1051*)・幅(*150*)・厚さ(*26*)										
	514		木製品	木枠	SE2420	長さ(*1006*)・幅(*194*)・厚さ(*27*)										

表13　遺物計測表（11）

挿図番号	遺物番号	写真図版	種別	器種	出土位置	計測値(mm) 口径	底径	胴径	器高	厚さ 最大/最小	色調	調整等 外面	内面	底部	備考	分類
59	515		木製品	木枠	SE2420	長さ(*1302*)・幅(*121*)・厚さ(*17*)										
60	516	57	木製品	曲物	SE2871										RW580	
119	517		土師器	高坏	SG1157		160			12/9	2.5YR6/8橙	M	H			
	518		土師器	高坏	SG1157					14/7	7.5YR8/3浅黄橙	M	N			
	519		土師器	甕	SG1157	(162)				8/7	2.5YR5/8明赤褐	N	N			
	520		土師器	鉢か	SG1157	(274)					7.5YR7/4にぶい橙	N・H	HN			
	521		土師器	甕	SG1157	(168)		(193)		7/6	7.5YR6/3にぶい褐	N・H	N・H		RP53	
	522		土師器	甕	SG1157	(290)				9/6	2.5YR7/6橙	H	N		RP54	
	523		土師器	甕	SG1157			(314)		8/7	2.5YR5/6明赤褐	N・H	N・H			
	524	41	須恵器	高坏	SG1157	104	82		86	5/3.5	N4/灰	Ro・Ke	Ro・Ke	Ke	RP50脚部三窓	
	525		石製品	石棒か	SG1157	長さ102・長径(*47*)・短径41					2.5Y8/1灰白					
120	526		須恵器	蓋	SG1015						10YR7/1灰白	Ro	Ro		平安	
	527	44	須恵器	坏	SG2639	131	65		39	8/3	5Y7/1灰白	Ro	Ro	b	RP515平安底部外面に墨書「成」	
	528	44	須恵器	坏	SG2639	140	66		37	7/4	2.5Y6/1黄灰	Ro	Ro	b	RP555平安底部外面に墨書「成」	
	529	45	須恵器	坏	SG2639		64			6/3	2.5Y6/1黄灰	Ro	Ro	b	平安底部外面に墨書「𠮷」	
	530		須恵器	坏	SG2639	(132)	(66)		33		2.5GY5/1オリーブ灰	Ro	Ro		RP556平安内面煤付着	
	531	46	須恵器	高台付坏	SG2639	(120)			35	6/3	N5/灰	Ro	Ro	a	平安転用硯か	
	532	46	土師器	高坏	SG2639	201				10/7	7.5YR7/4にぶい橙	Ro	Ro		RP516平安燈台か	
	533	45	土師器	高台付坏	SG2639		66			9/5	7.5YR7/4にぶい橙	Ro	M・黒	e	RP243平安	
	534		土師器	甕	SG2639	(280)		(261)			7.5YR7/4にぶい橙	N・H	N・H		平安	
	535		土師器	鉢	SG2639	(180)				6/4	7.5YR6/2灰褐	N	M・黒		平安	
	536		木製品		SG2639	長さ(*164*)・幅57・厚さ9										
121	537	39	土師器	坏	SG3000	(130)				6/4	10YR8/3浅黄橙	N・M	N		RP447外面彩色か	AⅠ
	538	39	土師器	坏	SG3000	(157)				6/5	7.5YR7/4にぶい橙	N・H・M	N・M		RP449外面彩色か	C2
	539		土師器	有孔鉢	SG3000	138	43		113	8/6	5YR7/4にぶい橙	N・H	N・H	Ke	RP442	D
	540		土師器	甕	SG3000	151				9/5	7.5YR7/4にぶい橙	N・H	N・H		RP454	
	541		土師器	甕	SG3000	(150)					5YR7/4にぶい橙	N	N		RP450	
	542		土師器	甕	SG3000	(140)				7/5	7.5YR6/2灰褐	N・H	N・H			
	543	36	土師器	甕	SG3000	142	66	257	274	7/6	7.5YR7/4にぶい橙	N・H・M		Ke	RP441/456	
	544		須恵器	双耳坏	SG3000					8/4	2.5YR4/2赤	Ro・Ke	Ro・Ke		平安耳部片のみ	
	545	39	手づくね土器		SG3000	30			47		10YR8/4浅黄橙	N	N		RP457	
122	546		須恵器	高台付皿	SD829	(134)	(59)		25	8/4	7.5YR6/4にぶい橙	Ro	Ro		平安内面煤付着	
	547		須恵器	坏	SD829	(136)	(60)		38	7/3	10YR6/1褐灰	Ro	Ro	b	平安底部外面墨書「□」	
	548	50	須恵器	壷	SD829			(200)		10/6	7.5Y5/1灰	Ro・Ka	Ro		平安	
	549	50	須恵器	壷	SD829			(220)		9/7	N5/灰	Ro	Ro		平安	
	550	49	土師器	鉢か	SD829	(127)	(75)		68	6/4	5YR7/6橙		M・黒	d	平安	
	551	50	灰釉陶器	甕	SD829					10/4	2.5Y6/1黄灰	Ro	Ro			
	552		須恵器	甕	SD829					13/11	N3/暗灰	N	N・ka		平安	
	553	50	須恵器	甕	SD829					11/9	10YR7/3にぶい黄橙	T	A		平安	
123	554		須恵器	坏	SD2481		60			7/4	N6/灰	Ro	Ro	b	RP276平安底部外面に箆書「木」	
	555		須恵器	坏	SD2481	142	60		35	6/4	10Y5/1灰	Ro	Ro	b	平安底部外面に墨書「丁」か	
	556	45	須恵器	高台付坏	SD2481		70			7/4	2.5YR5/2灰赤	Ro	Ro	b	RP278平安底部外面に墨書「大寺」	
	557		須恵器	高台付坏	SD2481	(143)	74		73	8/3	N3/灰	Ro	Ro	b	平安	
	558		須恵器	高台付坏	SD2481		72				2.5Y5/1黄灰	Ro	Ro	b	平安	
	559	47	須恵器	双耳坏	SD2481					7/4	N4/灰	Ro・Ke	Ro・Ke		平安耳部片のみ	

表14　遺物計測表（12）

挿図番号	遺物番号	写真図版	種別	器種	出土位置	計測値(mm) 口径	底径	胴径	器高	厚さ 最大/最小	色調	外面	調整等 内面	底部	備考	分類
	560		土師器	坏	SD2481		76			5/4	7.5YR7/2明褐灰	Ro	M・黒	b	RP279平安	
	561	49	灰釉陶器	壷	SD2481		30			6.5/4	2.5Y6/1黄灰	Ro	Ro		RP203	
	562	55	石製品	砥石	SD2481	長さ81・径49					10YR6/4にぶい黄橙					
	563		土師器	甕	SD624	(110)		(120)			7.5YR4/2灰褐	N	HN			
	564	45	土師器	坏	SD624		(54)			6/5	5YR7/4にぶい橙	Ro	Ro			
123	565		土師器	高台付坏	SD624		66					Ro	Ro	e	RP10平安	
	566		土師器	高台付坏	SD624	162	66		65	8/3	7.5YR8/3浅黄橙	Ro	M・黒	b	RP11平安	
	567		土師器	甕	SD186		84				10YR8/3浅黄橙	Ke	M・黒			
	568		土師器	甕	SD186		84			8/6	10YR7/3にぶい橙	H	H	c		
	569	44	須恵器	坏	SD186	(127)	58		38	7.5/3	10Y5/1灰	Ro	Ro	b	平安底部外面に篦書「並」	
	570		須恵器	坏	SD186	(144)	(64)		42		10YR7/2にぶい黄橙	Ro	Ro	b		
	571		須恵器	高台付坏	SD186	(130)	(80)		51		N4/灰	Ro	Ro		平安	
	572		土師器	鉢	SD6025	(220)		(211)		7/5		Ro	M・黒			
	573		須恵器	坏	SD6025					8/5	10YR6/1褐灰	Ro	Ro	b	平安体部外面に墨書「□」転用硯か	
	574		須恵器	坏	SD6025	140	64		39		N6/灰	Ro	Ro	b	RP8平安	
	575		須恵器	坏	SD6025		60			6/5	5YR5/3にぶい赤褐	Ro	Ro	b	平安	
	576		須恵器	坏	SD6025	140	70		33	7/3	5Y6/1灰	Ro	Ro	b	平安底部外面に墨書「□」	
	577		土師器	甕か	SD2054	(180)					7.5YR6/4にぶい橙	N	N		RP226平安	
	578	49	土師器	高台付皿	SD2054	(135)		(75)	(26)	5/3	7.5YR6/4にぶい橙	Ro	Ro	b	RP228平安	
	579	48	土師器	坏	SD2054	(136)		52	42	4/2.5		Ro	Ro	b	RP227平安底部外面に篦書「×」	
124	580	49	灰釉陶器	壷	SD2522					12/5	2.5Y6/1黄灰	Ro	Ro			
	581		須恵器	坏	SD6020	(136)	(66)		35	8/4	N4/灰	Ro	Ro	b	平安	
	582		土師器	高坏	SD6020		199				2.5YR5/8明赤褐	N・M	N・M			
	583	48	土師器	坏	SD2056	132		58		5/4	7.5YR7/3にぶい橙	Ro	Ro	b	平安底部外面に墨書「七」か「亡」	
	584	47	須恵器	双耳坏	SD6015					7/3.5	5Y6/1灰	Ro・Ke	Ro・Ke		平安耳部片のみ	
	585	47	須恵器	双耳坏	SD6087					8/3.5	10YR6/1褐灰	Ro・Ke	Ro・Ke		平安耳部片のみ	
	586		須恵器	坏	SD2627		(70)			5/4	5Y6/1灰	Ro	Ro	a	平安転用硯か	
	587		須恵器	坏	SD2922	140	76		36	8/5	10Y5/1灰	Ro	Ro	a	平安	
	588		須恵器	坏	SD2939	140	98		38		2.5Y7/1灰白	Ro	Ro	a	平安	
	589		須恵器	高台付坏	SD1035	(136)	(41)		44	3.5	10YR8/1灰白	Ro	Ro	a	平安	
	590	47	須恵器	高台付坏	SD6013	126	70		49		5B3/1暗青灰	Ro	Ro	b	平安	
	591		石製品	不明	SD863	長さ68・幅49・厚さ9					7.5Y5/1灰					
	592	23	土師器	坏	SP2434	132	50		48	6.5/4.5	7.5YR8/4浅黄橙	N	N			E
	593		土師器	坏	SP2321	155			51	14/3	10YR8/4浅黄橙	N・M	N・M	Ke		C1
	594		土師器	坏	SP2362	150			54	5	7.5YR7/4にぶい橙	N・M	M			F
	595		土師器	高坏	SP3676	(180)				8/2	10R6/8赤橙	N・M	N・H			
	596	48	土師器	坏	SP2850	132	69		42		2.5YR5/8明赤褐	Ro	Ro	b	RP422平安	
	597		土師器	坏	SP1529	(100)	50		40	4/2	7.5YR7/3にぶい橙	Ro	Ro	b	平安	
125	598		土師器	皿	SP3087	(130)	76		21		7.5YR7/3にぶい橙	Ro	Ro	b	平安	
	599		土師器	坏	SP2303		72			6	7.5YR8/4浅黄橙	ケズリ	M・黒			
	600	23	土師器	坏	SP2335	(137)	80		57	7.5/5.5	7.5YR6/3にぶい褐	N・M	M・黒	a	平安	
	601		土師器	甕	SP3105	210				7/5	5YR5/6明赤褐	N・H	N・H			
	602		土師器	甕	SP2670		86			9/5	2.5YR6/6橙	H	N	d	RP306	
	603		土師器	甕	SP3623	(260)		(211)		7/2	10YR7/3にぶい黄橙	N・H	H			
	604	49	土師器	甕	SP2335	248	76	200	327	10/4	7.5YR7/3にぶい橙	N・H	N・H	d	RP312平安長胴	
	605	48	土師器	高台付坏	SP2860	132	66		55	11/3	N2/黒	M・黒	M・黒	b	平安底部外面に篦書「王」か	
126	606		土師器	鉢か	SP3109	136	(80)		84	5/4	10YR6/3にぶい黄橙	M	M・黒	c	平安	
	607		土師器	高台付坏	SP2324	(168)	94		68	5/4	7.5YR7/4にぶい橙	Ro	M	b	平安	
	608		須恵器	蓋	SP692					7	N4/灰	Ro・Ke	Ro		平安	

表15　遺物計測表（13）

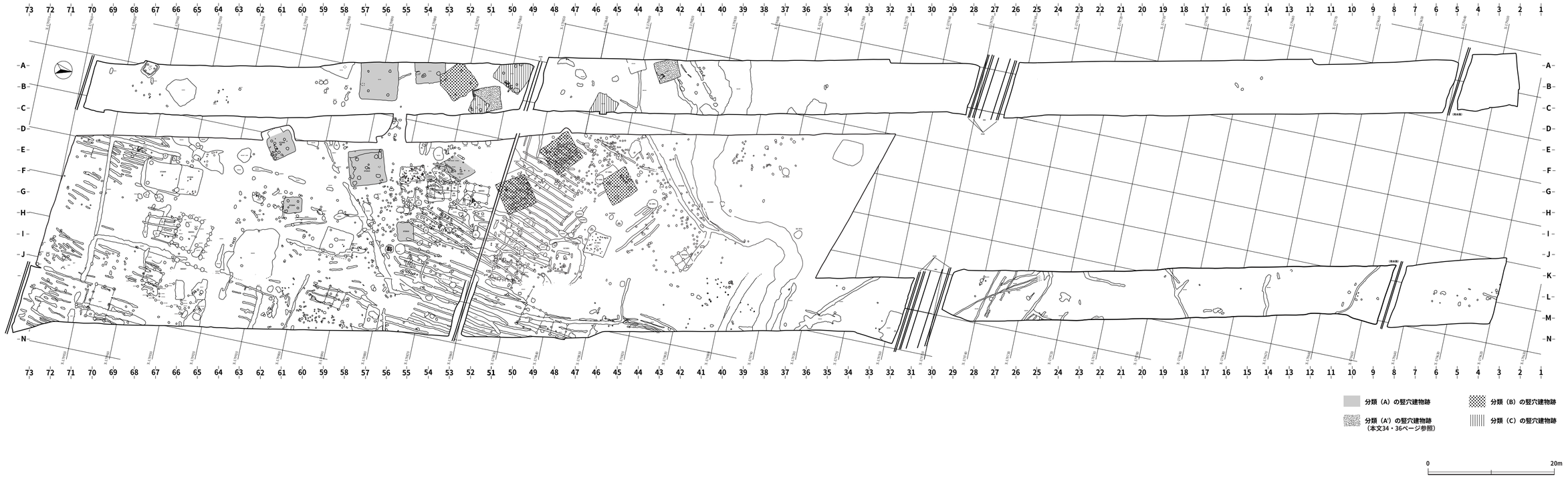
挿図番号	遺物番号	写真図版	種別	器種	出土位置	計測値(mm) 口径	底径	胴径	器高	厚さ 最大/最小	色調	調整等 外面	内面	底部	備考	分類
126	609	45	須恵器	坏	SP661		(62)			10/3	2.5GY5/1オリーブ灰	Ro	Ro	b	平安底部外面墨書「恵」か	
	610	45	須恵器	坏	SP661		(58)			7	N6/灰	Ro	Ro	b	平安底部外面墨書「恵」か	
	611		須恵器	坏	SP660					4	2.5Y7/1灰白	Ro	Ro		平安体部外面墨書「□」	
	612		須恵器	高台付坏	SP2730	(140)	(76)		67	6/4.5	N4/灰	Ro	Ro	b	平安	
	613		須恵器	壷	SP1529		(68)				N5/灰	Ro・Ka	Ro		平安体部外面に炭化物付着	
	614	51	陶器	碗	SP258		52					肥前 呉器手 灰釉 18c				
	615		須恵器	坏	SX1156		(54)			8/4	5YR6/6橙	Ro	Ro	b	平安底部外面墨書「□」	
	616		須恵器	坏	SX680	(140)	66		35	8/4	2.5GY6/1オリーブ灰	Ro	Ro	b	平安底部外面墨書「祐」か	
69	617	60	木製品	柱根	SP2022	長さ(*339*)・長径227・短径205										
	618	60	木製品	柱根	SP3677	長さ(*496*)・長径154・短径124										
126	619		土師器	甕	SX679		66			9/4	10YR4/3にぶい黄橙	N・H・Ke	N	Ke		
	620		土師器	鉢	SX679		94			7/5.5	7.5YR6/2灰褐	N・H	M・黒			
	621		土師器		SX679	(245)		(251)			7.5YR7/4にぶい橙	N・H	N・H		平安か	
	622		須恵器	坏	SX679	(136)	(78)		32	7/3	N5/灰	Ro	Ro	b	平安	
	623	47	須恵器	蓋	SX679	152					5PB4/1暗青灰	Ro・Ke	Ro		平安	
	624		須恵器	坏	SX679	(140)				4/3	2.5Y6/1黄灰	Ro	Ro		平安体部外面墨書「□」	
68	625	60	木製品	柱根	SX679	長さ(*466*)・長径283・短径236										
126	626	45	須恵器	壷か	SX769					6/4.5	N3/暗灰	Ro	Ro			
	627	45	須恵器	甕	SX2330					11/7	5P6/1紫灰	T	A		平安体部外面箆書「大寺」	
127	628		土師器	甕	SX149	(170)				9/6	10YR7/4にぶい黄橙	N・M	N			
	629	36	土師器	甕	SX149	208		(354)		9/8	10YR8/4浅黄橙	N・H・M	HN		RP6	
	630		土師器	高坏	SX149		150				10YR8/3浅黄橙	N・M	N・H		RP2	
	631		土師器	坏	SX3004	144	70		39	5/4	5YR6/6橙	Ro	Ro	b	平安	
	632	43	土師器	坏	SX3004	140	58		46	4/3	2.5YR6/6橙	Ro	Ro	b	RP385平安	
	633	38	土師器	甑	SX3667	200		210		9/5	2.5YR6/6橙	H	N		RP518	A2
	634	39	土師器	坏	SX3667	(192)				6/5	7.5YR7/4にぶい橙	N	N・M		内面彩色か	
	635		土師器	高坏	SX702					15/5	7.5YR7/4にぶい橙	N・H・M	N			
	636		土師器	坏	SX694	130			61	8/4	7.5YR7/4にぶい橙	N	N	Ke		AI
	637		土師器	鉢	SX2330		78			4	5YR7/4にぶい橙		M・黒	c	平安	
	638	49	土師器	甕	SX2330		88				7.5YR4/2灰褐	H	H	c	RP317平安	
128	639	53	石製品	石皿か	SX694	長径273・短径271・厚さ54					7.5YR5/6明褐					
	640		石製品	不明	SX679	長さ83・幅56・厚さ50					2.5Y8/1灰白					
	641	56	石製品	模造石製品	H−44	長径28・短径(*20*)・厚さ3					N4/灰				有孔円盤	
	642	56	石製品	模造石製品	X−0	長径35・短径32・厚さ4					N4/灰				有孔円盤	
	643	56	石製品	紡錘車	K−56	径51・厚さ12					2.5Y7/1灰白					
	644	56	石製品	模造石製品	I−65	長径52・短径27・厚さ9					2.5Y5/1黄灰				RQ328	
	645	39	土製品	カマド支脚か	B−58	長さ98・径64					7.5YR8/4浅黄橙					
	646	56	石製品	不明	E−57	長さ53・幅44・厚さ34					2.5Y7/3浅黄					
	647		石製品	砥石	F−47	長さ93・幅43・厚さ21					2.5Y8/1黄灰					
	648		石器	剥片	G−47	長さ66・幅18・厚さ36					2.5YR4/1黄灰					
	649		石製品	砥石か	F−46	長さ(121)・幅73・厚さ55					10YR7/4にぶい黄橙					
129	650	23	土師器	坏	A−68	(124)	56		61	8/5	7.5YR7/3にぶい橙	N	N・M	Ke		
	651	23	土師器	坏	I−60	148	60		58	5/4	5YR7/6橙	N・M	M	Ke	RP239	AI
	652	23	土師器	坏	X−0	96	26		53	6/3.5	7.5YR6/4にぶい橙	N・Ke	N・M			AI
	653	45	土師器	高台付坏	K−55		70			8/4	2.5YR7/6橙	Ro	M・黒	e	平安	
	654	47	土師器	双耳壷	K−54						7.5YR8/4浅黄橙				平安耳部片のみ	
	655	47	土師器	双耳坏	K−53						7.5YR7/4にぶい橙	Ro・Ke	M・黒		平安耳部片のみ	
	656	47	土師器	双耳坏	J−53					8/5	7.5YR7/3にぶい橙	Ro・Ke	M・黒		平安耳部片のみ	
	657		土師器	甕	I−60	(220)		(224)		10/5	10YR6/3にぶい黄橙	N・H・Ke	HN・H		RP240/242	AII
	658		土師器	甕	I−60	210		217		8/5	5YR5/2灰褐	N・H	HN・H		RP241	
	659		土師器	甕	G−43		74				7.5YR4/2灰褐	H	N	c	平安	BII

表16　遺物計測表（14）

挿図番号	遺物番号	写真図版	種別	器種	出土位置	計測値(mm) 口径	底径	胴径	器高	厚さ 最大/最小	色調	外面	調整等 内面	底部	備考	分類
129	660	39	土師器	壷	I−56					7/4	10YR7/4にぶい黄橙	N	N		口縁片彩色	
	661		土師器	甕	I−60			(230)		8/7	7.5YR6/4にぶい橙	N・H	N		RP239	BII
130	662	41	須恵器	坏蓋	H−46				32	7/3		Ro・Ke	Ro		自然釉	
	663		須恵器	壷か	L−50	(116)				5	N4/灰	Ro	Ro			
	664	41	須恵器	坏身	J−45	117	50		47	6.5/3.5	N5/灰	Ro・Ke	Ro	a	RP204	
	665	42	須恵器	高坏	F−67					11/7	N3/暗灰	Ro	Ro		脚部片	
	666	42	須恵器	器台か	X−0	(246)				7/3	N3/暗灰	Ro	Ro		口縁片波状文	
	667		須恵器	蓋	L−49	(140)			28	8/4	N4/灰	Ro・Ke	Ro		平安	
	668	47	須恵器	蓋	X−0	144			31	8/4	N5/灰	Ro・Ke	Ro		RP415平安	
	669	47	須恵器	蓋	C−52						N5/灰	Ro	Ro	b	平安天井部にケズリ調整なし	
	670	46	須恵器	坏	I−67		58			5/3.5	10YR7/1灰白	Ro	Ro	b	RP341平安底部外面に墨書「己」か	
	671		須恵器	坏	K−55	(140)	76		37	7/4	10Y6/1灰	Ro	Ro	a	平安底部外面に墨書「鼓」か	
	672		須恵器	坏	N−66	(138)				4	10YR7/1灰白	Ro	Ro		内面に炭化物付着	
	673		須恵器	坏	L−56		(60)			9/5	5Y6/1灰	Ro	Ro	a	平安底部外面に墨書「鼓」か	
	674		須恵器	坏	L−51		56			9/6	10YR6/1褐灰	Ro	Ro	b	平安底部外面に墨書「鼓」	
	675		須恵器	坏	B−56		(64)			8/4	N5/灰	Ro	Ro	b	平安底部外面に墨書「鼓」か	
	676	45	須恵器	坏	X−0		59			7/4.5	10YR7/1灰白	Ro	Ro	b	平安底部外面に墨書「日干」か	
	677		須恵器	坏	L−56		(66)			7.5/5	N6/灰	Ro	Ro	b	平安底部外面に墨書「□」	
	678	45	須恵器	坏	L−55		(64)			7/4	10YR7/1灰白	Ro	Ro	b	平安底部外面に墨書「鼓」	
131	679	43	須恵器	坏	M−46	(126)	87		38	6.5/2.5	10YR6/2灰黄褐	Ro	Ro	a	8世紀か	
	680	43	須恵器	坏	H−45	162	45		58	9/3	2.5Y7/1灰白	Ro	Ro	a	RP431平安	
	681	43	須恵器	坏	J−45	136	64		36	5.5/3	10Y6/1灰	Ro	Ro	b	RP205平安	
	682		須恵器	坏	I−62	(140)	76		35		N6/灰	Ro	Ro	a	平安	
	683		須恵器	坏	G−54	(144)	78		35		2.5Y6/1黄灰	Ro	Ro	b	平安	
	684	46	須恵器	坏	H−57	(124)	62		33	7/2	N6/灰	Ro	Ro	b	平安内面に黒色付着物	
	685		須恵器	坏	L−49	128	56		35		N6/灰	Ro	Ro	b	平安	
	686		須恵器	高台付坏	M−46	140	78		57	7/3	10YR6/1褐灰	Ro	Ro	a	平安	
	687		須恵器	壷か	M−51	(104)				4.5/3	5PB6/1青灰	Ro	Ro		平安口縁片	
	688		須恵器	高台付坏	L−55	(128)	84		51	7/3	2.5GY5/1 オリーブ灰	Ro	Ro		平安高台内側に墨痕	
	689	47	須恵器	双耳坏	K−53					6.5/4	2.5YR4/1赤灰	Ro・Ke	Ro・Ke		平安耳部片のみ	
	690	47	須恵器	双耳坏	K−57					7.5/3.5	N5/灰	Ro・Ke	Ro・Ke		平安耳部片のみ	
	691		須恵器	壷	J−57			(196)		7.2	10YR6/1褐灰	Ro	Ro・Ka			
	692		須恵器	甕	L−55					13/7	7.5YR7/6橙	T	A		平安	
132	693		木製品	不明	X−0	長さ(120)・幅(34)・厚さ(6)									穿孔	
	694	50	須恵器	甕	N−50					18/6	N6/灰	T	A		平安外面に窯内付着物	
	695	50	陶器	甕	G−41						N6/灰	T	A		珠洲系13〜14c	
	696	50	陶器	甕	F−47						10YR6/1褐灰				瓷器系13〜14c	
	697		陶器	皿	F−43		36			8/6					唐津 16c 末〜17c 初	
	698	51	陶器	鉢	K−57							自然釉			瓷器系	
	699	51	陶器	高台付皿	B−37	(115)	37		32			灰釉			唐津 16c 末〜17c 初	
	700	51	陶器	高台付皿	K−54		42					灰釉			唐津 16c 末〜17c 初	
	701	51	陶器	擂鉢	N−48		(92)				10R5/4赤褐				唐津17c 前半	
	702	51	青磁	碗か	H−44							体部外面 連弁文			龍泉窯系13c	
	703	51	青磁	碗か	H−56							体部外面 連弁文			龍泉窯系13c	
	704	51	白磁	壷か	L−53			(187)							国外産か13c	
	705		金属製品	仏具か	F−61	径37㎜・高さ7㎜										

表17　遺物計測表（15）

挿図番号	遺物番号	写真図版	種別	器種	出土位置	計測値（mm） 口径	底径	胴径	器高	厚さ 最大/最小	色調	調整等 外面	内面	底部	備考	分類
	706		古銭		H－52	径22㎜・厚さ1.1㎜・重さ3g						「□□□□」（名称不明）				
132	707		古銭		M－26	径24㎜・厚さ1.1㎜・重さ4g						「熙寧元宝」（初鋳：北宋熙寧元年（1068年））				
	708		古銭		B－48	径25㎜・厚さ1.1㎜・重さ3g						「祥符通宝」（初鋳：北宋大中祥符二年（1009年））				



第４図　的場遺跡　遺構全体図

X-179970
X-179960
X-179950
X-179940
X-179930
X-179920
X-179910
A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
N
73
72
71
70
69
68
67
66
65
64
63
62
1
2
3
4
5
6
ST687
SK681
SK698
SX894
SK710
SK699
SK2099
SK2100
SD2181
SK2184
SD2054
SK3525
SK3526
SP2779
SK2187
2188
ST2009
ST2008
SK2185
SD2190
SD2054
SE3985
SK2110
SK2111
SK2112
SX2640
EB9
EB10
EB11
EB12
EB8
SD2634
SD 2164
EB7
SK2174
EB6
SP2178
SK 2110
SD2166
EB6
SB3501
SP2137
EB5
SA3508
EB5
SP2793
EB4
SP2169
SD2625
2025
EB4
EB3
EB2
EB3
SD2056
SP2024
SP2023
SP2022
EB2
SG2639
EB1
SD2080
SK2175
EB1
SP2021
2028
2027
3677
3590
SB3507
SD2633
SB672
SD120
SD130
SP158
SD175
SD187
SP150
SP1522
SX679
SX149
SP1528
SP151
SP160
SP163
SP152
SP1521
SP153
SP161
SP164
SB107
SP1520
SP1525
SP166
SP1527
SP1519
SP1530
SP1518
SP1533
SP1526
SP1529
SP1517
SD95
0
20m
1：400

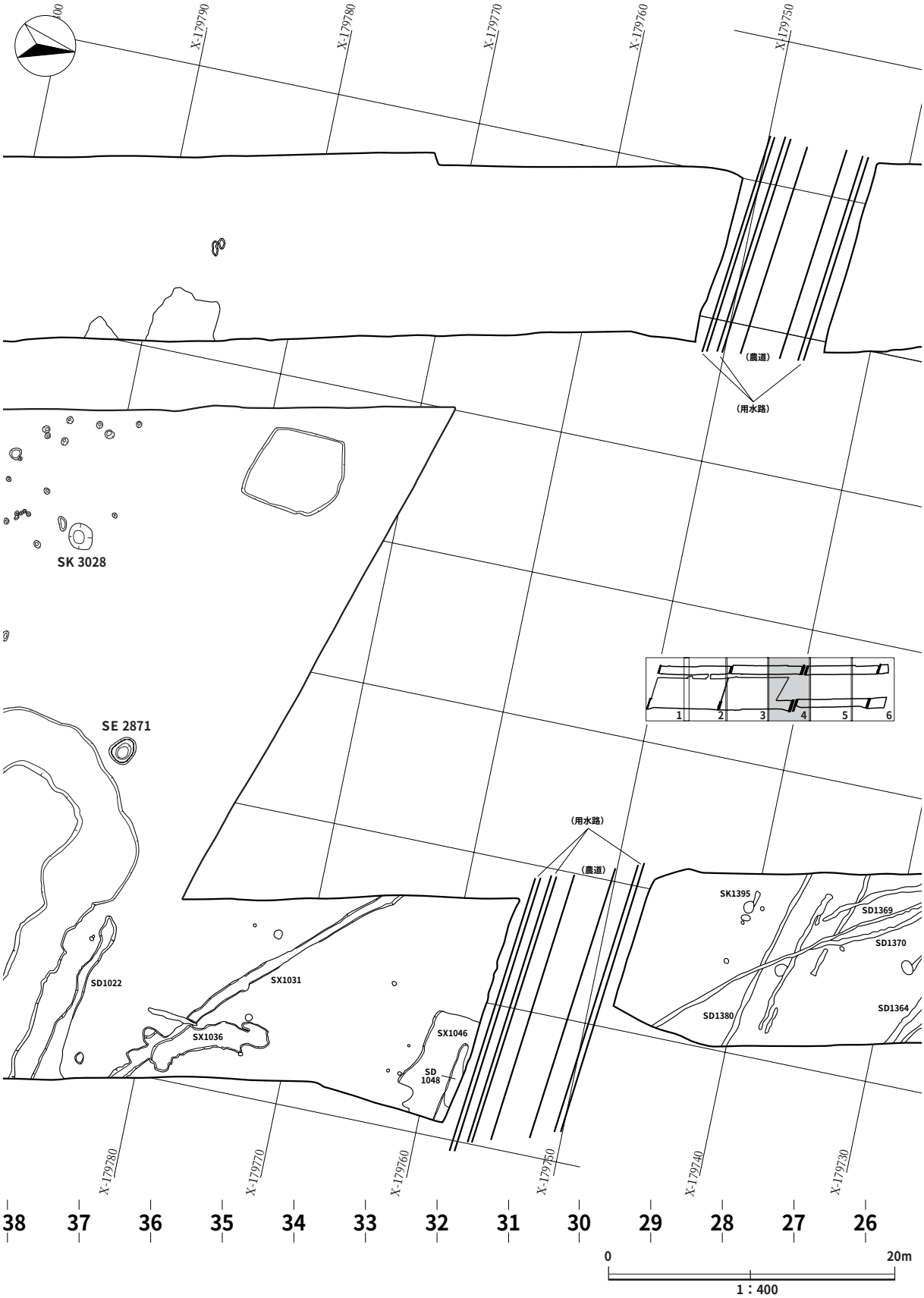
第５図　遺構分割図（１）

X-179920
X-179910
X-179900
X-179890
X-179880
X-179870
X-179860
X-179850
1
2
3
4
5
6
ST716
ST735
ST751
ST777
ST792
ST789
SK710
SK715
SK717
SK726
SK720
SK2187・2188
SK2739
SX2759
SK2740
SD2627
SK2577
ST2002
ST2014
SK2185
SD2190
SK3662
SD2626
SK2199
SK3663
SX2640
ST2004
SD2634
SD3557
SD3559
SD3560
SD2630
SD2481
SK2539
SK2524
SK2477
SK2478
ST2006
ST2007
ST 2010
ST2011
SK2622
SK2428
SX 2341
SK2442
SX2443
SK2444
SP2451
SP2452
SP2427
SD2477
SP2457
SD6074
SP2467
SP3676
SP2466
SD6075
SD6076
SP2369
SP2368
SP2454
SP2458
SK3661
SD2221
SP2453
SP2216
SP3671
SP2457
SP2470
SD6077
SD6080
SD2246
SB 3503
SB3502
SX 2541
SK 2260
SD6081
SD6079
ST2012
ST2020
SD 6083
SD6082
SP2350
SX2760
SP2346
SP3072
SX2330
SP2344
ED1
SD6078
SD2919
SD2342
SD6086
SD6087
SK2294
SD6088
SK3521
SD2301
SK2302
SD6015
SK3522
SD2995
SD6017
SD6018
SD6019
SD6016
SD6020
SD6021
SD6023
SD2508
SD6024
SD6022
SE640
SD6025
SD609
SD6026
SD6028
SD6029
SD6027
SD6030
SD6031
SD6014
SD6013
SD6001
SD6002
SD6003
SD6004
SD6005
SD6006
SD6007
SD829
SD6010
SD830
SD6012
SC5002
SD 6066
SK 2330
SP 2820
SP2321
SK2562
SD6084
SD6085
ED2
SP2819
ED1
ST2016
SP 2571
SD2628
SK 2567
SP2490
SP2503
SD2480
SP2420
SG2639
ST2019
SE2420
SE2419
(6019)
(6020)
(6021)
(6085)
SD187
SD175
SB457
(用水路)
63
62
61
60
59
58
57
56
55
54
53
52
51
0
20m
1：400

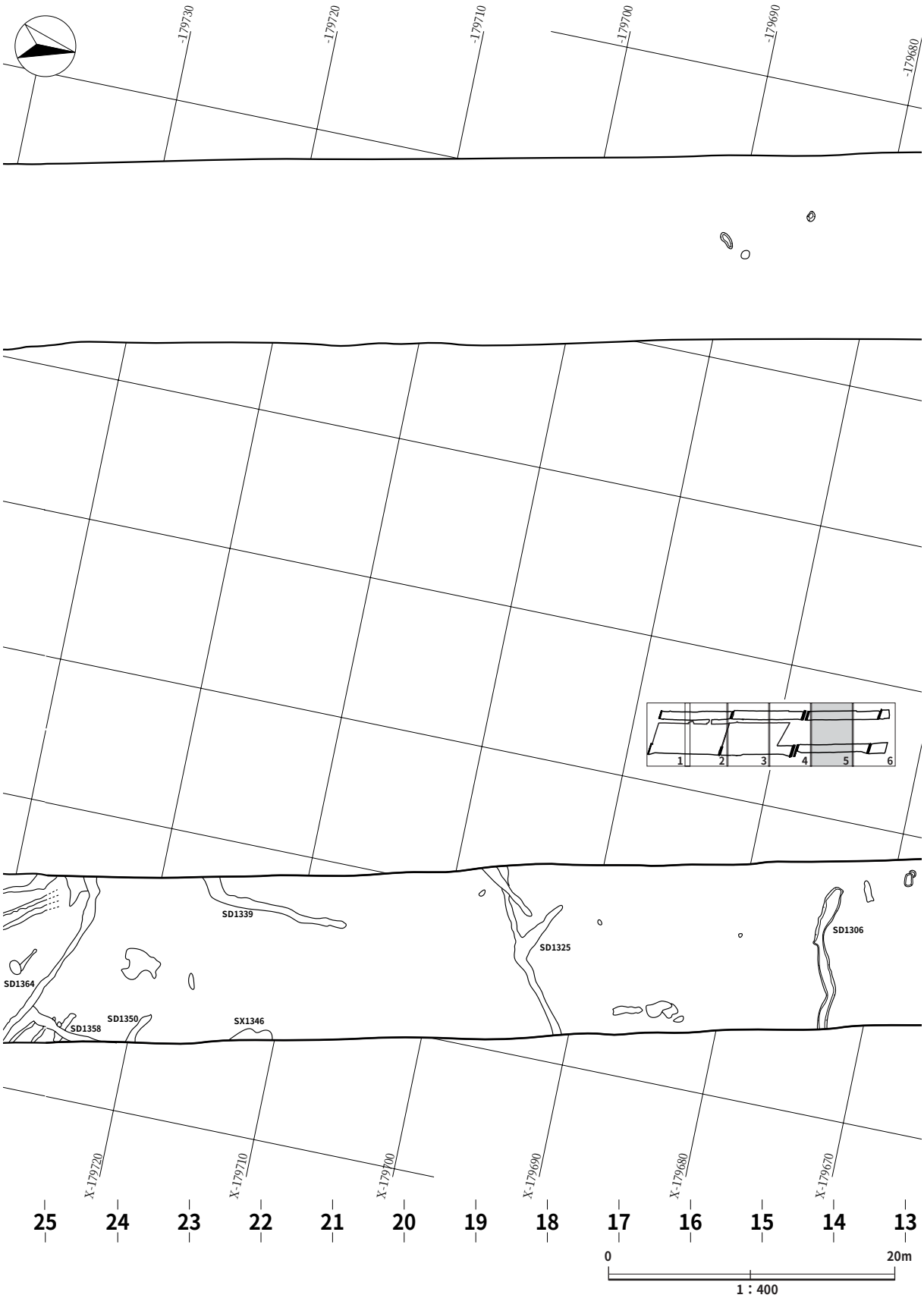
第６図　遺構分割図（２）

X-179860
X-179850
X-179840
X-179830
X-179820
X-179810
X-179800
X-179790
1
2
3
4
5
6
（用水路）
ST795
SK1097
ST1112
ST1127
SD1116
SG1157
ST1110
SK 3727
SK2883
ST2017
SD6052
SD6054
ST4003
ST 4006
SD6051
SD 2922
SX3008
SD 2952
ST4005
ST4006
SD6053
SE3001
SD6055
SD6056
SD6057
SE 3002
SG3000
SK3031
SK2886
SK2889
SK2885
SK3030
ST 4002
SC5001
SB3506
ED1
ED2
SB3505
SB1620
SB1601
SD953
SD952
SD984
SD946
SD944
SB879
SD6008
SD6009
SD6011
SD6012
SD6004
SD6005
SD6007
SD6066
SD6067
SD6069
SD6070
SD6071
SD6072
50
49
48
47
46
45
44
43
42
41
40
39
38
0
20m
1：400

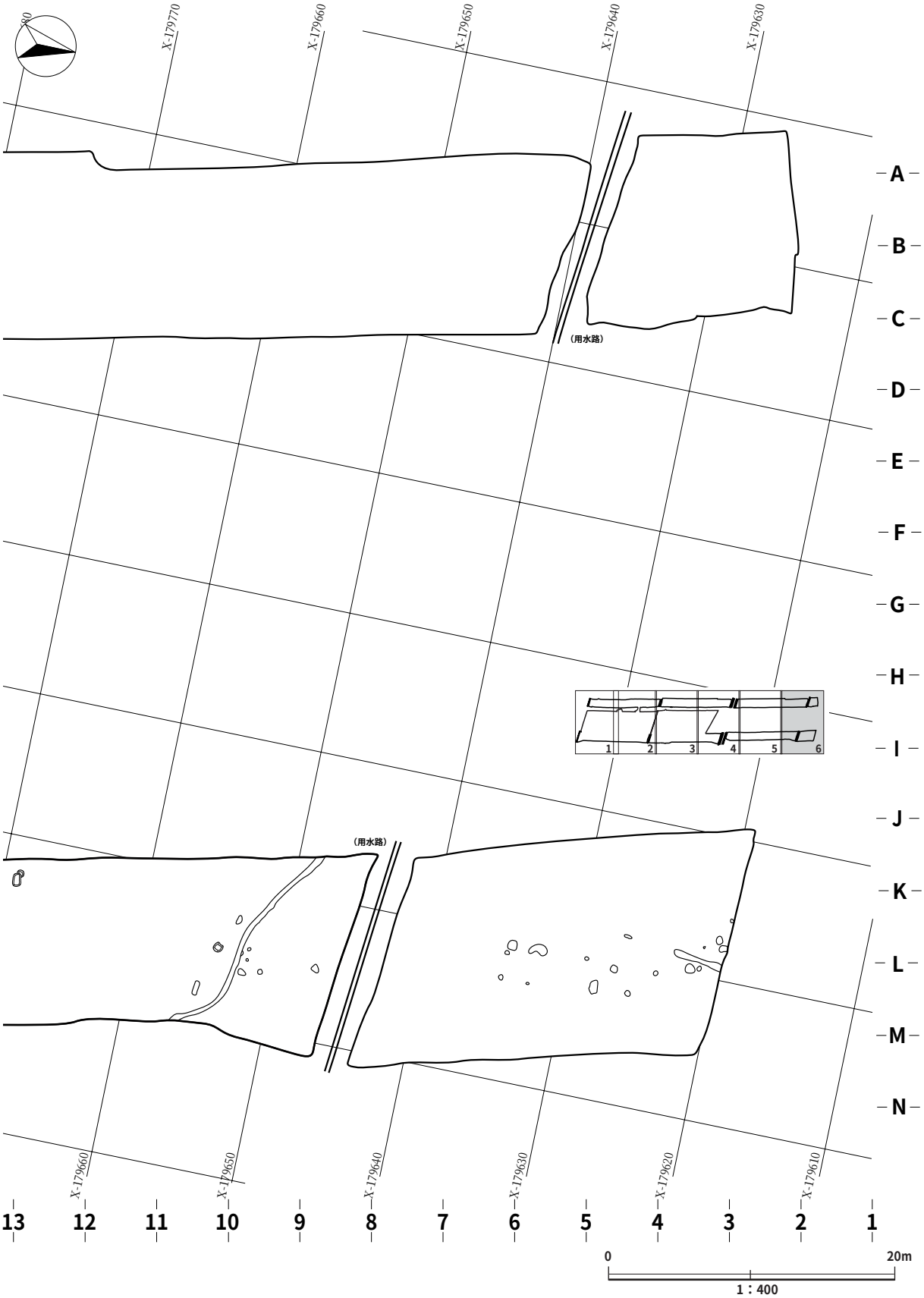
第７図　遺構分割図（３）


X-179790
X-179780
X-179770
X-179760
X-179750
（農道）
（用水路）
SK 3028
SE 2871
1
2
3
4
5
6
（用水路）
（農道）
SK1395
SD1369
SD1370
SD1364
SD1380
SD1022
SX1031
SX1036
SX1046
SD
1048
X-179780
X-179770
X-179760
X-179750
X-179740
X-179730
38
37
36
35
34
33
32
31
30
29
28
27
26
0
20m
1：400

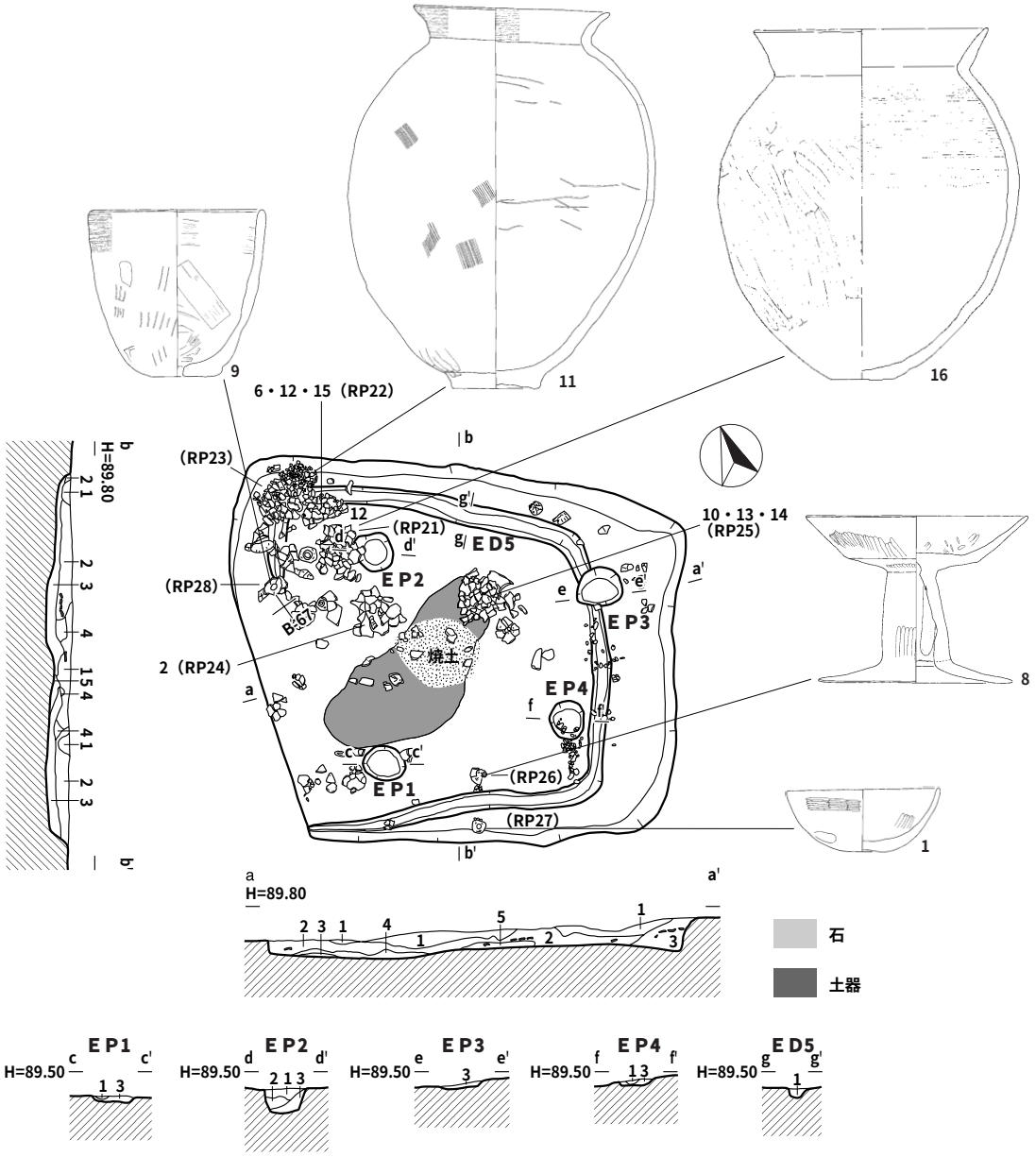
第８図　遺構分割図（４）


-179730
-179720
-179710
-179700
-179690
-179680
1
2
3
4
5
6
SD1339
SD1325
SD1306
SD1364
SD1350
SD1358
SX1346
X-179720
X-179710
X-179700
X-179690
X-179680
X-179670
25
24
23
22
21
20
19
18
17
16
15
14
13
0
20m
1：400

第９図　遺構分割図（５）


X-179770
X-179660
X-179650
X-179640
X-179630
A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
L
M
N
（用水路）
（用水路）
1
2
3
4
5
6
X-179660
X-179650
X-179640
X-179630
X-179620
X-179610
13
12
11
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1
0
20m
1：400

第10図　遺構分割図（6）



ＳＴ687

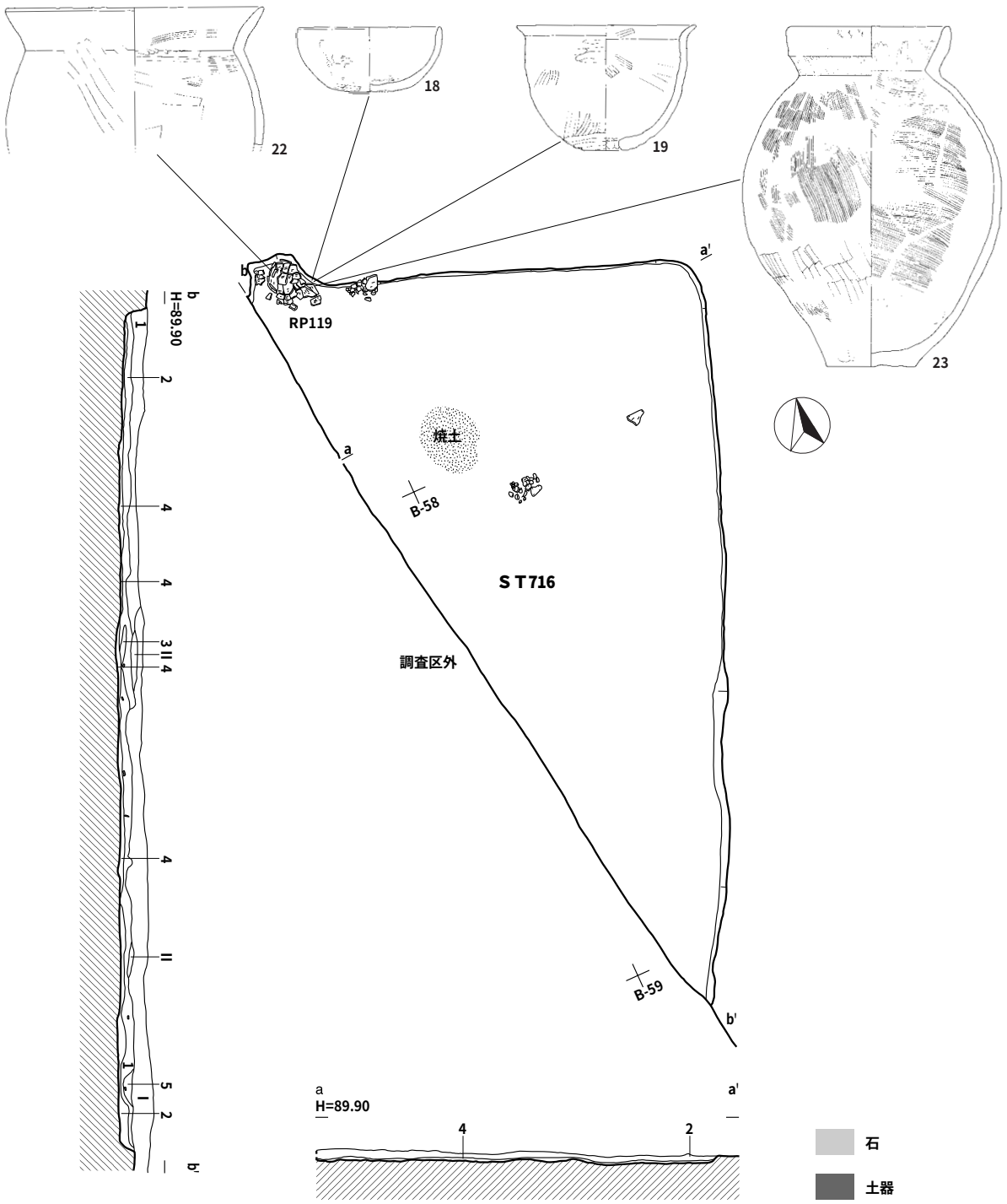
1.	10YR2/2黒褐色砂質粘土	灰黄褐色と褐色の粘土をブロック状に含む。
2.	5Y5/2灰オリーブ色砂質粘土	炭化物をブロック状に含む。固くしまる。グライ化。
3.	2.5Y4/3オリーブ褐色砂質粘土	炭化物をブロック状に含む。固くしまる。グライ化。貼床か
4.	5Y4/1灰色砂質粘土	炭化物をブロック状に含む。グライ化。
5.	7.5Y3/1オリーブ黒色砂質粘土	多量の炭化物を含む。グライ化。

ＥＰ1～4・ＥＤ5

1.	5Y4/2灰オリーブ色砂質シルト	炭化物を粒状に含む。固くしまる。グライ化。
2.	7.5Y4/2灰オリーブ色砂質シルト	少量の炭化物を含む。グライ化。
3.	7.5Y4/1灰色シルト質微砂	ほぼ均質。グライ化。

0　3m
1：60

第11図　ＳＴ687

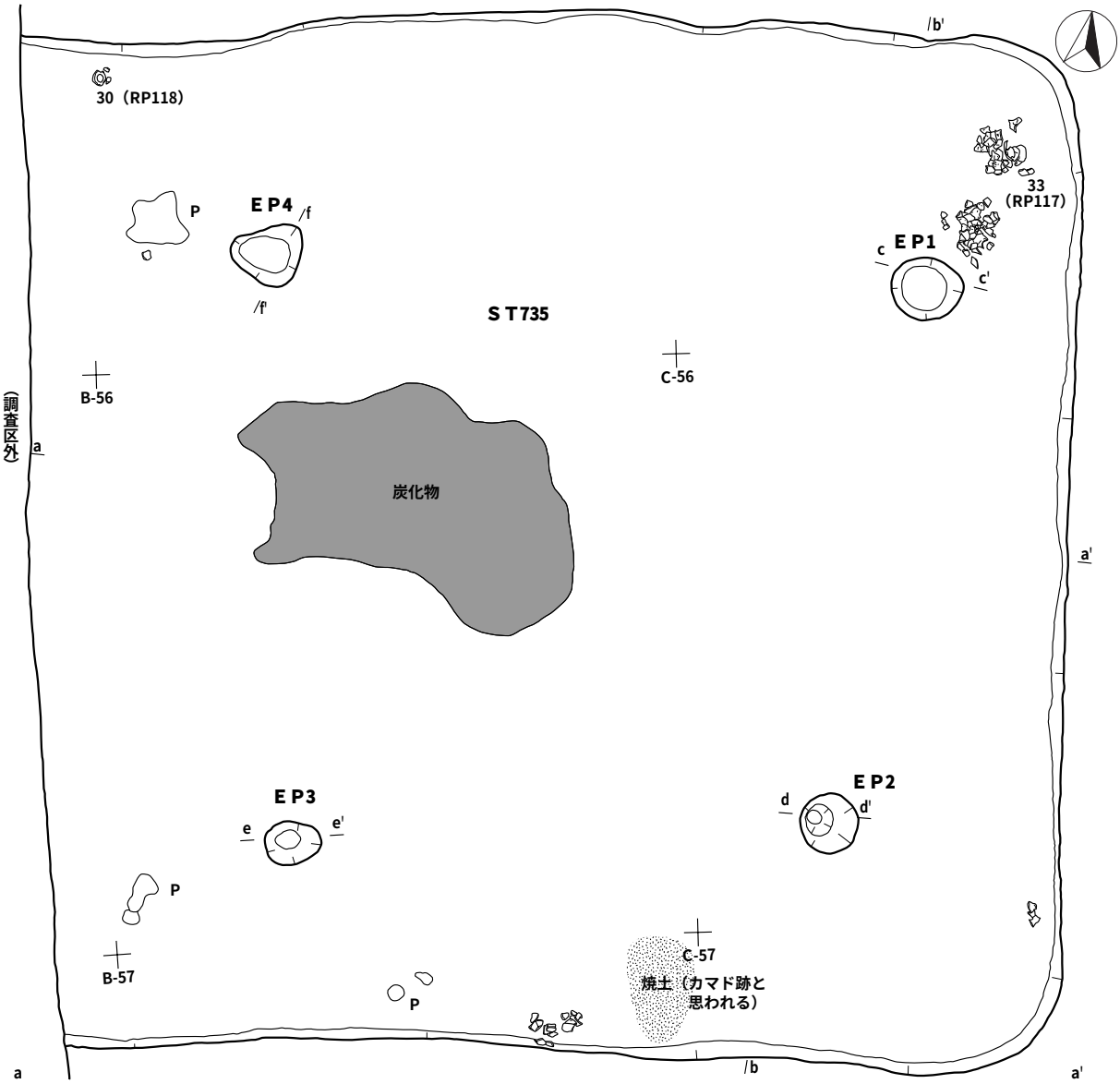


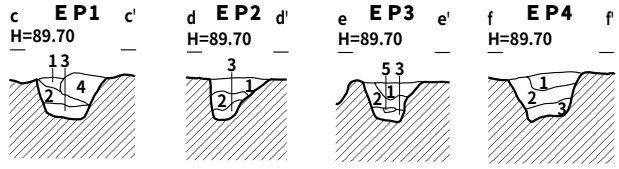
S T716

Ⅰ.	7.5Y3/2オリーブ黒色砂質シルト	ほぼ均質。耕作土。
Ⅱ.	10YR3/3暗褐色砂質シルト	ほぼ均質。耕作土。
1.	7.5Y5/2灰オリーブ色砂質シルト	少量の炭化物を含む。
2.	2.5Y5/2暗灰黄色砂質シルト	炭化物含む。１よりかたい。
3.	7.5Y2/2黒褐色砂質シルト	多量の炭化物を含む。
4.	10YR3/2黒褐色砂質シルト	多量の炭化物を含む。貼床。
5.	10YR2/3黒褐色砂質シルト	少量の炭化物を含む。

0　3m
1：60

第12図　S T 716





ST735

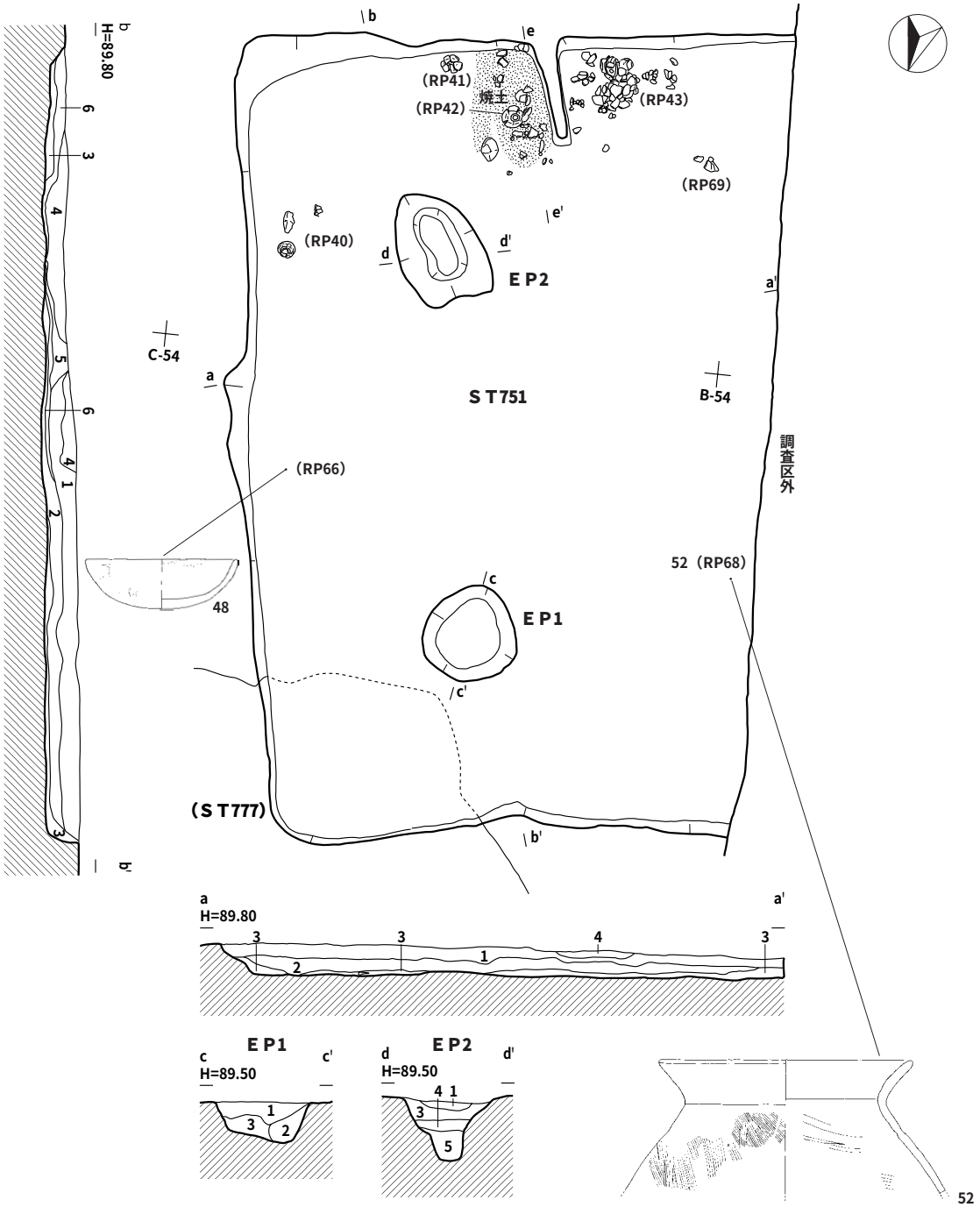
1. 7.5YR4/2灰褐色粘土質シルト　にぶい黄褐色シルト粒を含む。固くしまる。黒褐色の炭化物をブロック状に含む。
2. 2.5YR4/3黄褐色粘土質シルト　黒褐色の炭化物をブロック状に含む。貼床か。
3. 10YR1.7/1黒色粘土　全面に黒色の炭化物を含む。柔らかい。

EP1～4

1. 2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルト　黒褐色の炭化物を粒状に含む。少量の礫を含む。グライ化。
2. 7.5YR4/2褐灰色砂質シルト　1より砂質強い。少量の礫を含む。グライ化。
3. 7.5YR4/1褐灰色粘土質シルト　1および2よりも粘土質でやわらかい。グライ化。
4. 7.5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色礫質微砂　礫を40%含む。グライ化。
5. 7.5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色微砂　ほぼ均質。グライ化。

0　3m
1：60

第13図　ＳＴ735



S T751

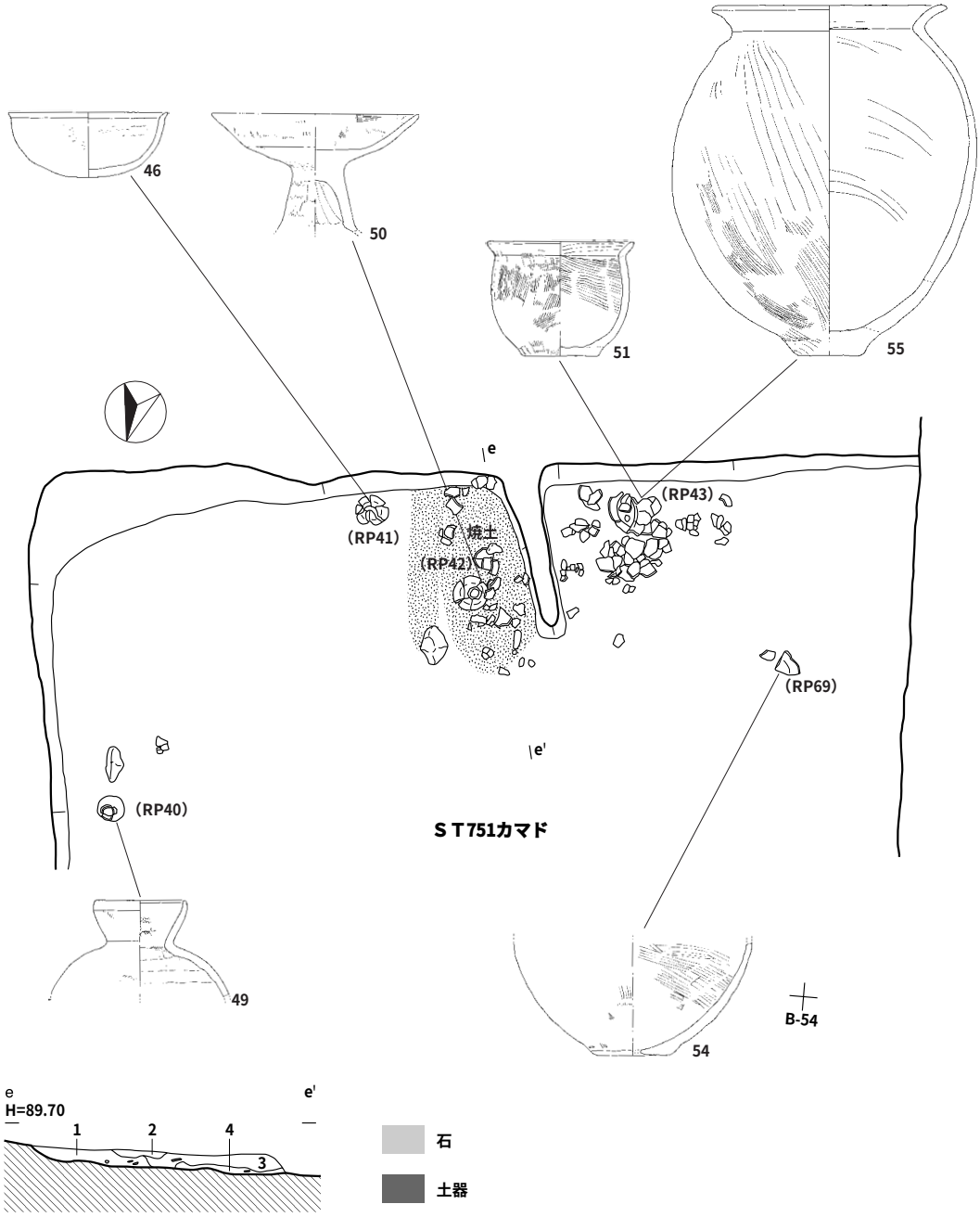
1.	7.5YR4/1褐灰色砂質シルト	炭化物と植物繊維を少量含む。グライ化。
2.	5Y4/1灰色粘土質シルト	１よりやわらかい。炭化物と植物繊維を少量含む。グライ化。
3.	2.5Y4/1黄灰色粘土質シルト	炭化物と植物繊維を少量含む。グライ化。
4.	5Y5/1灰色砂質シルト	ほぼ均質。グライ化。
5.	5Y5/1灰色砂質シルト	炭化物と植物繊維を少量含む。グライ化。
6.	5Y4/2灰オリーブ色粘土質シルト	炭化物と植物繊維を少量含む。グライ化。

E P1～2

1.	7.5Y4/2灰オリーブ色シルト質粘土	多量の炭化物を含む。グライ化。
2.	5Y4/1灰色シルト質粘土	多量の炭化物を含む。グライ化。
3.	2.5Y4/2暗灰黄色シルト質粘土	多量の炭化物を含む。グライ化。
4.	5Y4/2灰オリーブ色砂質粘土	ほぼ均質。グライ化。
5.	7.5Yオリーブ黒色粘土	少量の炭化物を含む。グライ化。

0　3m
1：60

第14図　S T 751

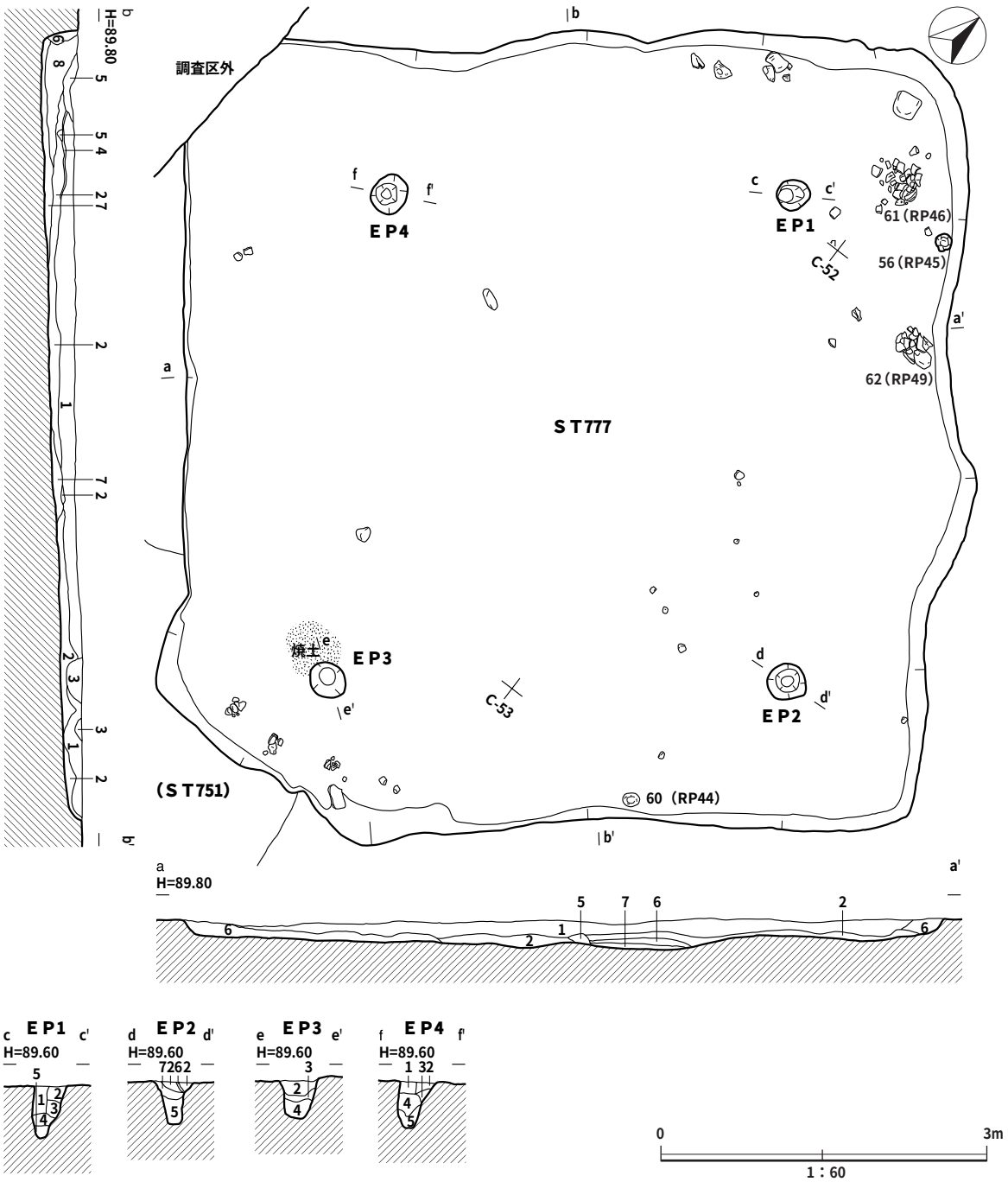


ＥＬ

1. 7.5Y4/3暗オリーブ色砂質シルト	焼土粒を多量含む。黄褐色微砂をまだら状に含む。
2. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト	多量の炭化物を含む。
3. 10YR3/3暗褐色砂質シルト	多量の炭化物を含む。
4. 10YR2/1黒色シルト	炭化物を粒状に含む。

0　2m
1：40

第15図　ＳＴ751カマド



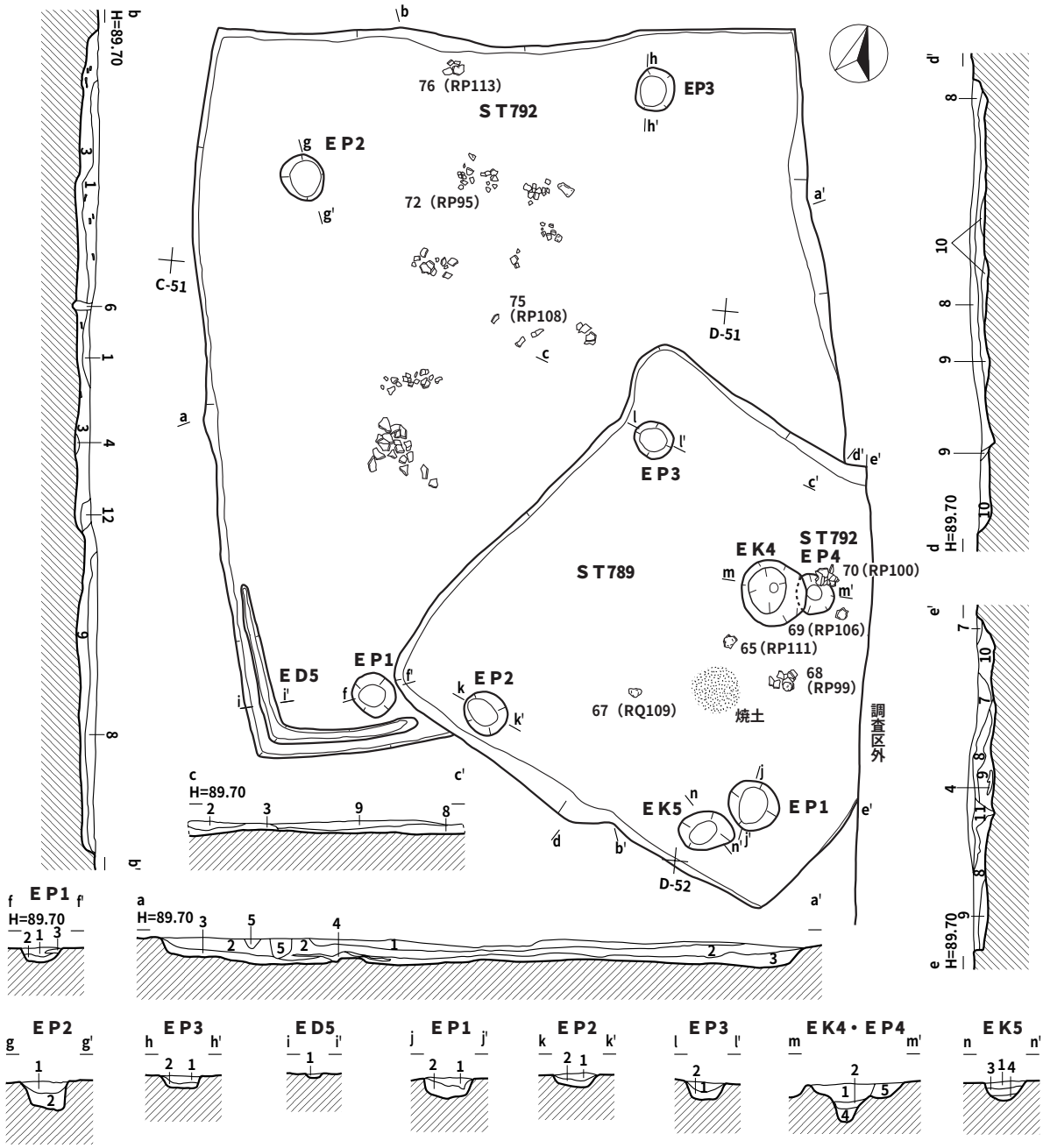
ＳＴ777

1. 10YR2/2黒褐色粘土質シルト　少量の黄褐色微砂を含む。
2. 10YR3/3暗褐色微砂　少量の礫が混じる。固くしまる。
3. 10YR4/4褐色粘土質シルト　少量の炭化物を含む。
4. 5Y5/4オリーブ色微砂　ほぼ均質。
5. 10YR3/1黒褐色粘土質シルト　少量の炭化物を含む。
6. 7.5Y5/2灰オリーブ色粘土質シルト　少量の炭化物を含む。グライ化。
7. 5Y4/3暗オリーブ色微砂　少量の礫が混じる。固くしまる。グライ化。
8. 7.5Y4/1灰色粘土質シルト　炭化物をまだら状に含む。グライ化。

ＥＰ1～4

1. 5Y4/1灰色微砂質粘土　炭化物をブロック状に含む。グライ化。
2. 7.5Y5/2灰オリーブ色微砂質粘土　少量の炭化物と礫を含むグライ化。
3. 5Y6/2灰オリーブ色微砂質粘土　少量の炭化物と礫を含む。グライ化。
4. 10YR4/2灰黄褐色微砂質粘土　多量の炭化物をブロック状に含む。少量の礫を含む。
5. 10YR3/1黒褐色微砂質粘土　炭化物をブロック状に含む。少量の礫を含む。
6. 5Y5/4オリーブ色微砂　ほぼ均質。
7. 10YR2/2黒褐色微砂質粘土　少量の炭化物を含む。

第16図　ＳＴ777



ＳＴ792・ＳＴ789（ＳＴ792）

1. 5Y5/2灰オリーブ色砂質シルト　炭化物を含む。グライ化。
2. 2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルト　固くしまる。炭化物を含む。グライ化。
3. 5Y4/2灰オリーブ色砂質シルト　炭化物をブロック状に含む。グライ化。
4. 5Y6/6オリーブ色微砂　酸化。
5. 10YR2/2黒褐色砂質シルト　多量の炭化物を含む。
6. 10YR2/3黒褐色砂質シルト　多量の炭化物を含む。

（ＳＴ789）

7. 7.5YR3/3暗褐色砂質シルト　耕作土。
8. 2.5Y5/3黄褐色砂質シルト　少量の炭化物を含む。グライ化。
9. 2.5Y4/4オリーブ褐色砂質シルト　炭化物をブロック状に含む。グライ化。
10. 7.5Y3/2オリーブ黒色砂質シルト　少量の炭化物を含む。グライ化。
11. 5Y2/2オリーブ黒色砂質シルト　多量の炭化物を含む。
12. 2.5Y4/3オリーブ褐色砂質シルト　少量の炭化物を含む。

ＳＴ792／ＥＰ1～3　ＥＤ5

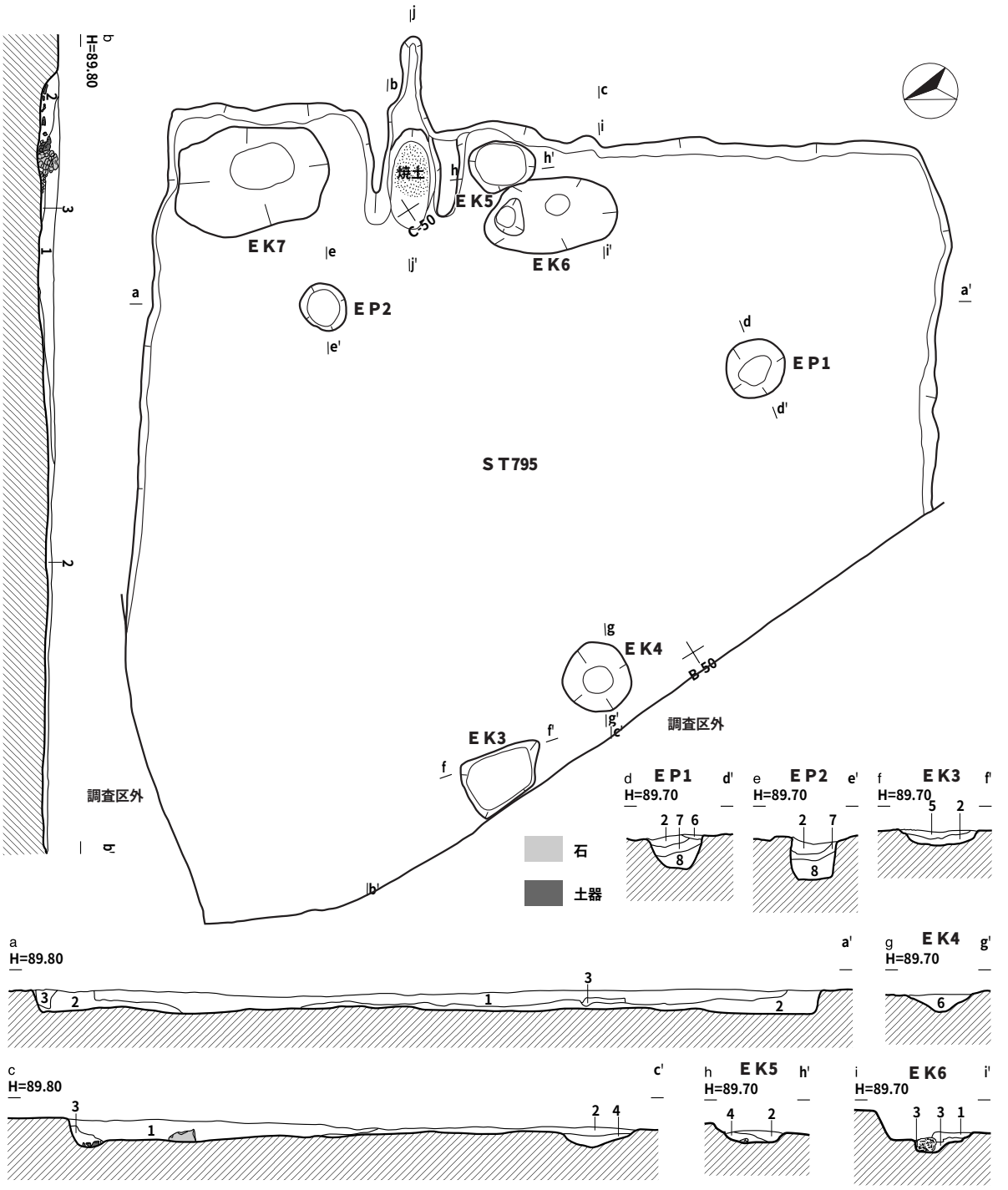
1. 5Y5/1灰色砂質シルト　少量の炭化物を含む。やや固い。グライ化。
2. 5Y5/2灰オリーブ色砂質シルト　少量の炭化物を含む。グライ化。
3. 2.5Y5/4黄褐色微砂　酸化。

ＳＴ789／ＥＰ1～3　ＥＫ4～5　ＳＴ792／ＥＰ4

1. 2.5Y5/2暗灰黄色砂質シルト　少量の炭化物を含む。グライ化。
2. 5Y5/3灰オリーブ色砂質シルト　少量の炭化物を含む。やややわらかい。グライ化。
3. 5Y4/1灰色粘土質シルト　少量の炭化物を含む。グライ化。
4. 5Y2/1オリーブ黒色粘土質シルト　多量の炭化物を含む。グライ化
5. 5Y5/1灰色砂質シルト　やや固い。グライ化。

0　3m
1：60
（H=89.70mで統一）

第17図　ＳＴ789・ＳＴ792



ST795

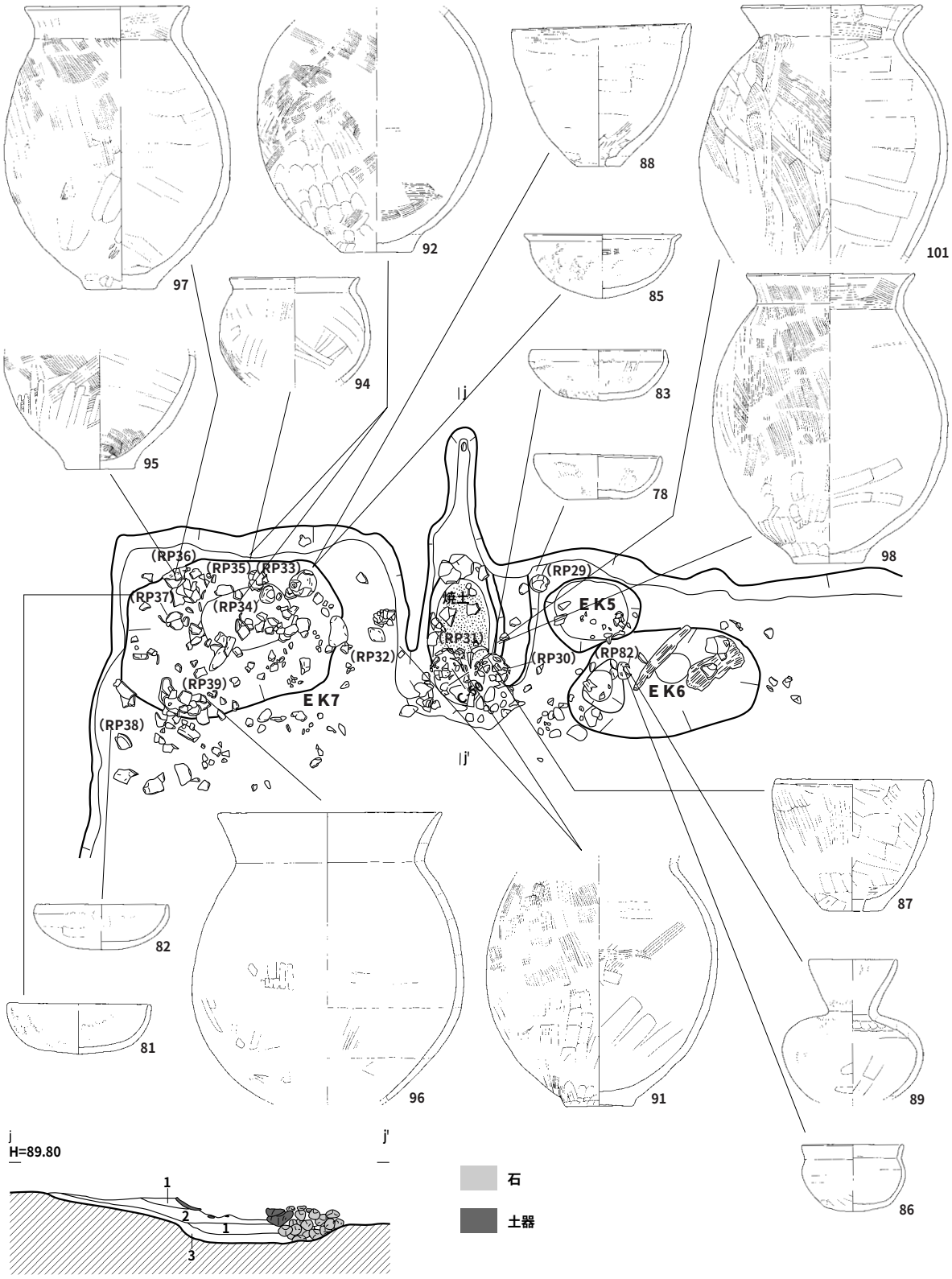
1. 10YR3/1黒褐色砂質シルト　少量の黄褐色微砂と炭化物を含む。
2. 5Y4/2灰オリーブ色粘土質シルト　少量の褐色粘土質シルトを粒状に含む。グライ化。
3. 10YR2/1黒色粘土質シルト　少量の灰黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む。
4. 7.5YR4/3暗オリーブ色砂質シルト　少量の炭化物を含む。グライ化。
4. 7.5YR5/2灰褐色砂質シルト　少量の炭化物を含む。グライ化。
5. 7.5YR2/1黒色砂質シルト　少量の炭化物を含む。
6. 7.5Y4/3暗オリーブ色砂質シルト　少量の炭化物を含む。グライ化。
7. 2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルト　炭化物をブロック状に含む。グライ化。
8. 10YR4/1褐灰色粘土質シルト　ほぼ均質。グライ化。

EP1～2・EK3～6

1. 2.5Y3/2黒褐色砂質シルト　多量の炭化物を含む。
2. 2.5Y5/2暗灰黄色砂質シルト　炭化物をブロック状に含む。グライ化。
3. 5Y3/1オリーブ黒色砂質シルト　少量の炭化物を含む。

0　3m
1：60

第18図　ST795

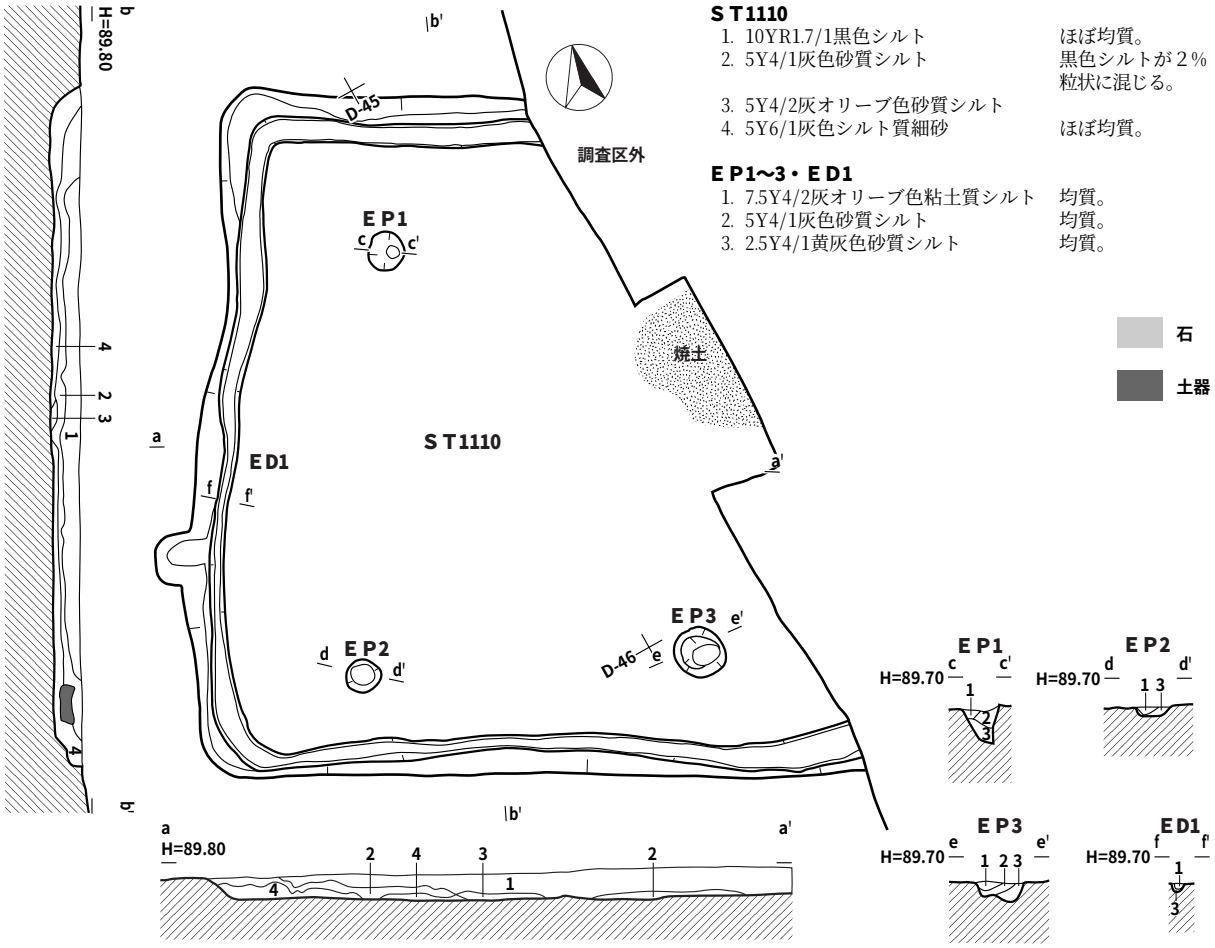


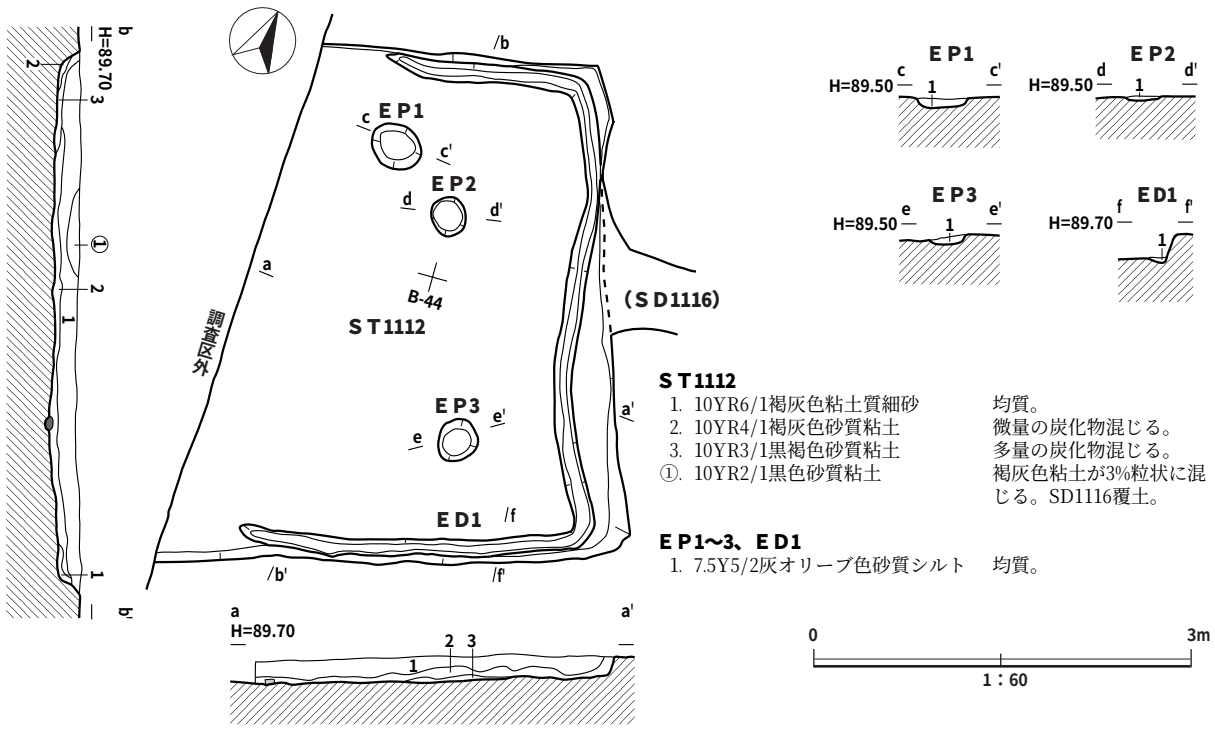
E L

1. 7.5Y5/2灰オリーブ色砂質シルト　固くしまる。カマドの袖。
2. 7.5YR4/3暗オリーブ色砂質シルト　多量の炭化物を含む。暗オリーブ色微砂をまだら状に含む。グライ化。
3. 10YR3/3暗褐色砂質シルト　多量の炭化物を含む。

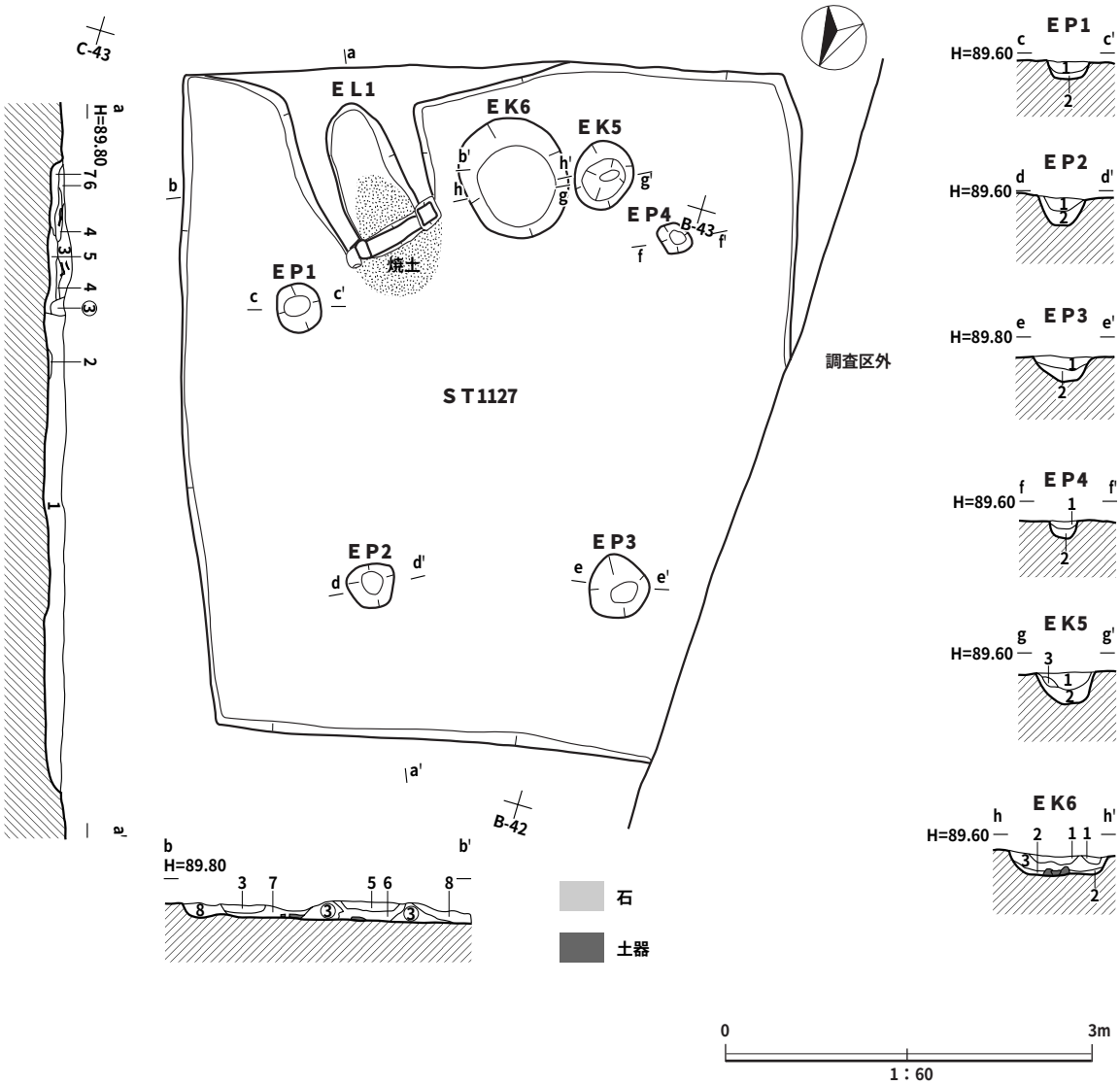
0　2m
1：40

第19図　ＳＴ795カマド





第20図　ＳＴ1110・ＳＴ1112



S T1127・E L1

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂質シルト　微量の炭化物が粒状に混じる。
2. 10YR2/1黒色砂質シルト　微量の焼土混じる。
3. 2.5Y4/1黄灰色シルト質微砂　微量の焼土混じる。（カマド構築土の崩落？）

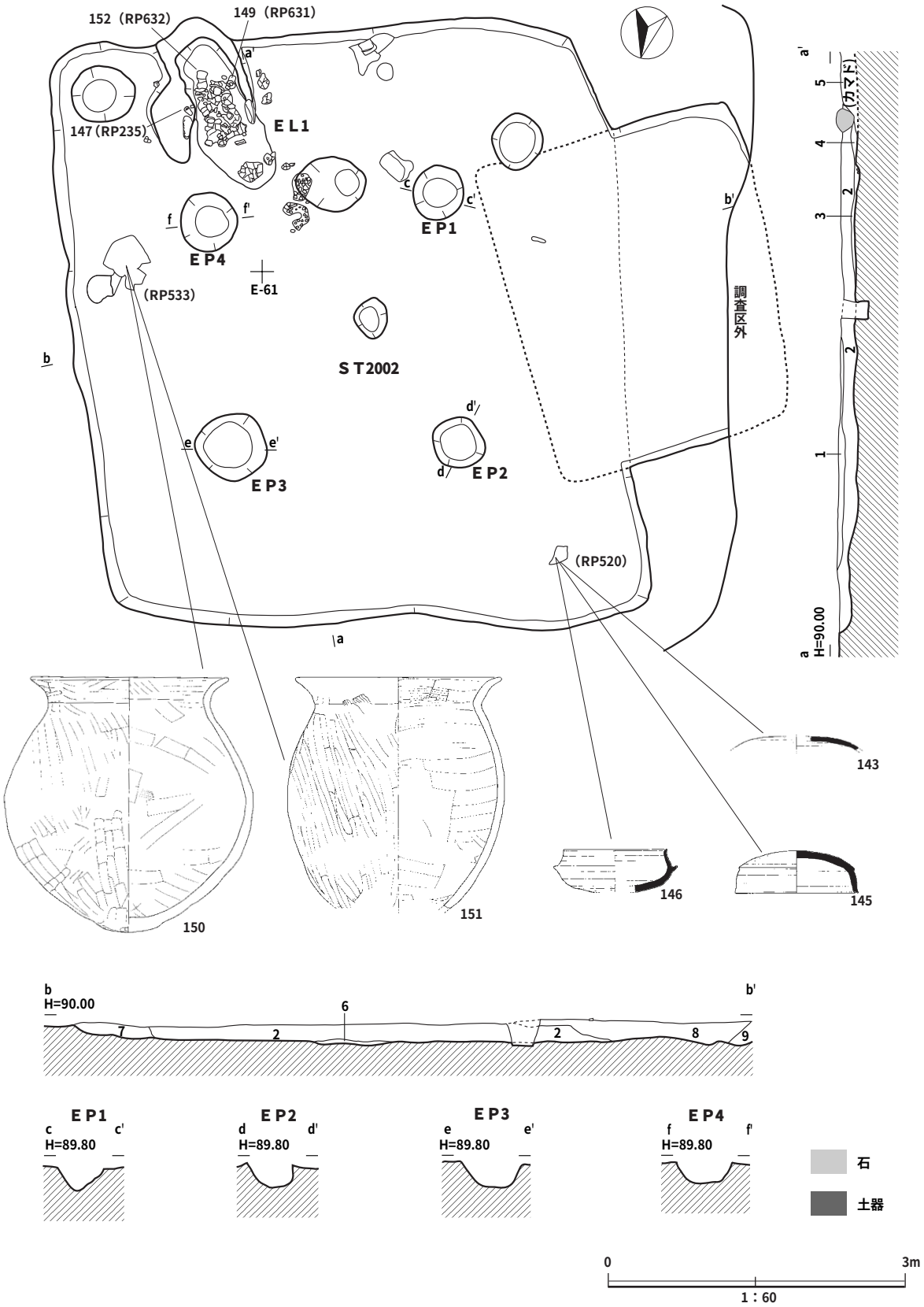
③. 3に同じ　カマドの袖

4. 7.5YR4/3褐色焼土
5. 10YR2/1黒色シルト　多量の焼土・炭化物混じる。ねばりあり。
6. 10YR5/3鈍い黄褐色微砂　焼土混じる。
7. 10YR5/4鈍い黄褐色シルト質微砂　焼土・炭化物混じる。
8. 5Y4/1灰色シルト質微砂　（ST覆土）

E P1～4・E K5・E K6

1. 7.5Y4/3暗オリーブ色砂質シルト　均質。
2. 5Y4/1灰色砂質シルト　均質。
3. 5Y5/1灰色砂質シルト　均質。

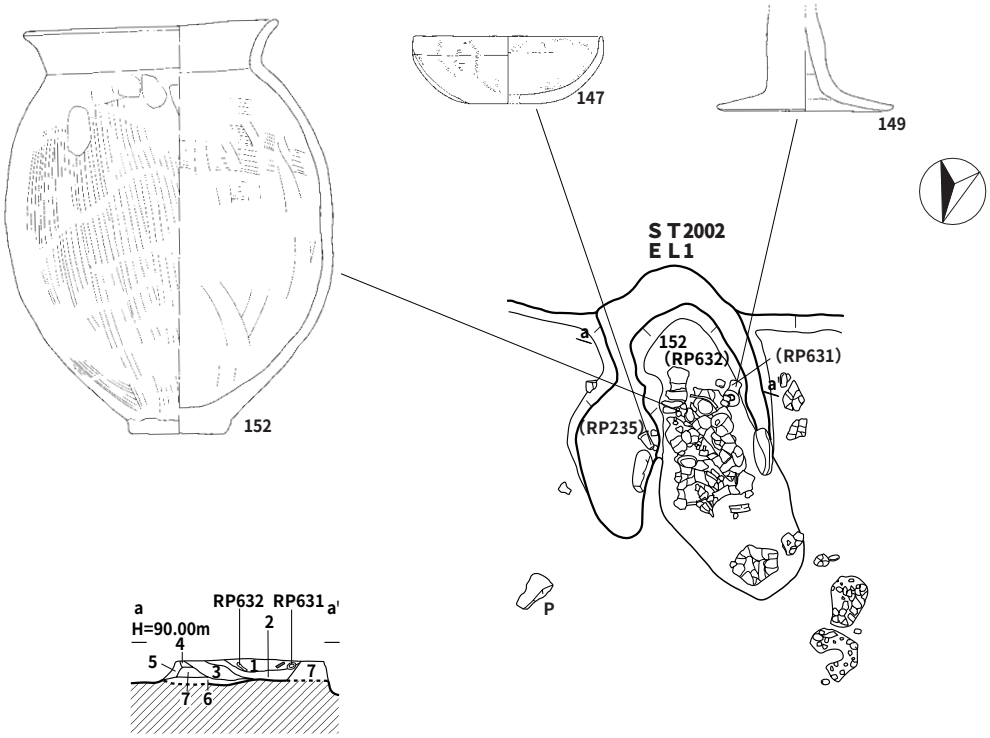
第21図　S T1127


152（RP632）
149（RP631）
147（RP235）
E L1
E P1
E P2
E P3
E P4
(RP533)
E-61
S T2002
調査区外
(RP520)
(カマド)
H=90.00
143
145
146
150
151
H=90.00
H=89.80
石
土器
0
3m
1：60

第22図　S T 2002

ＳＴ2002

1.	2.5Y3/1黒褐色砂質シルト	しまりあり。やや粘りあり。 径5～15mmの小礫と少量の土器片を含む。
2.	5Y4/1灰色シルト質砂	しまりやや欠ける。径5～20mmの小礫と少量の土器片を含む。
3.	5Y3/1オリーブ黒色砂質シルト	径5～10mmの小礫を含む。土器片を多く含む。
4.	5Y2/1黒色粘質シルト	しまりに欠ける。粘りあり。腐植土。
5.	5Y5/2灰オリーブ色シルト質微砂	しまっている。カマドの袖。
6.	5Y3/1オリーブ黒色微砂質シルト	しまりに欠ける。粘りあり。
7.	2.5Y3/2黒色粘質シルト	しまっている。径3～20mmの小礫を含む。
8.	N1.5/0黒色粘質シルト	しまっている。やや粘りあり。炭化物層。
9.	2.5Y2/1黒色微砂質シルト	しまっている。やや粘りあり。 径5～15mmの小礫を少量含む。

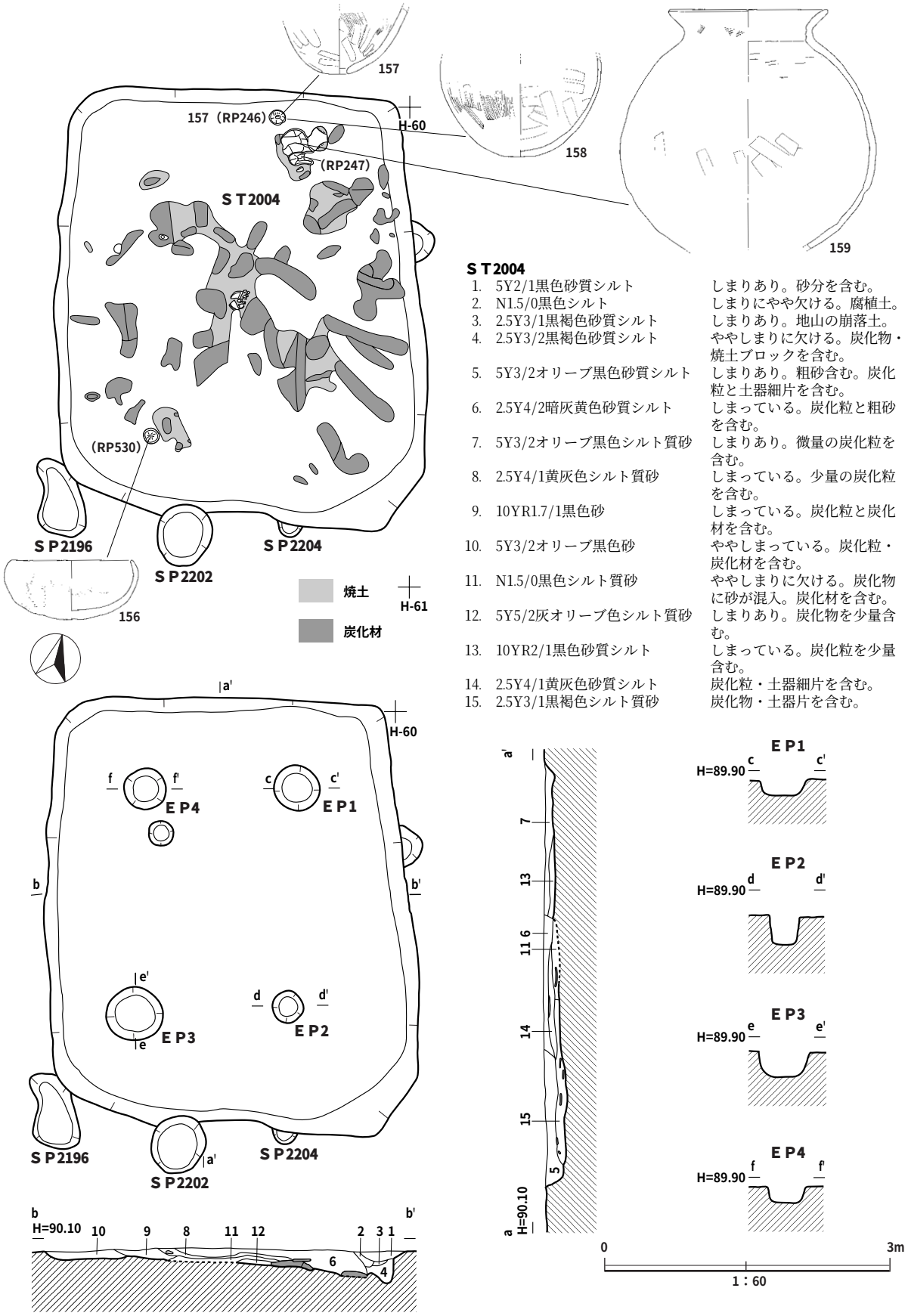


ＳＴ2002ＥＬ

1.	5Y3/2オリーブ黒色シルト質砂	しまりあり。土器片含む。
2.	2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルト	しまりあり。
3.	10YR4/2灰黄褐色シルト質微砂	しまりあり。 焼土をまだら状に3%含む。
4.	10YR3/2黒褐色シルト質砂	
5.	5Y3/2オリーブ黒色シルト質砂	しまりあり。土器片含む。
6.	10YR3/2黒褐色微砂	しまりやや欠ける。 焼土をブロック状に30%含む。
7.	5Y5/2灰オリーブ色シルト質砂	しまりあり。袖

0　2m
1：40

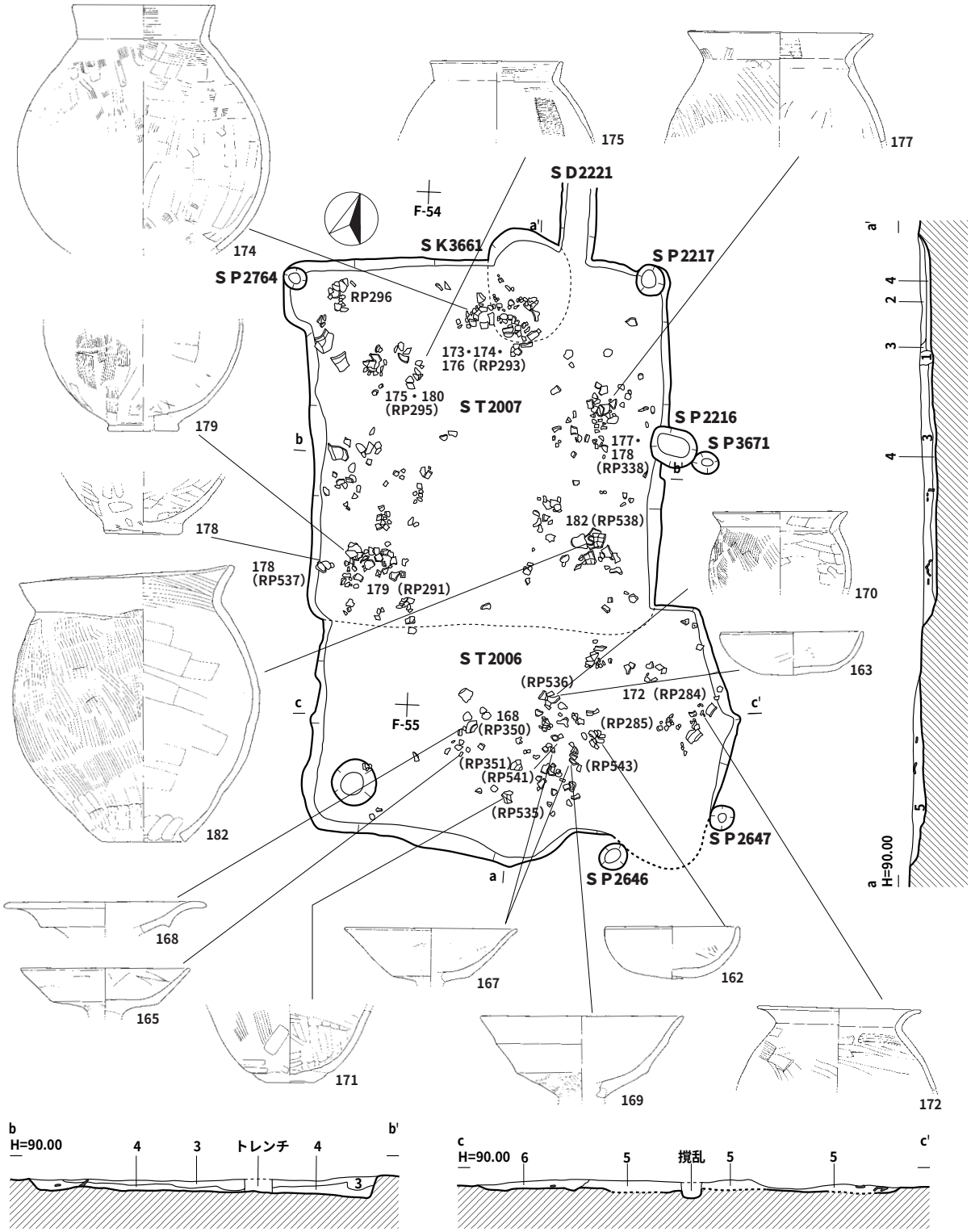
第23図　ＳＴ2002カマド



ＳＴ2004

1.	5Y2/1黒色砂質シルト	しまりあり。砂分を含む。
2.	N1.5/0黒色シルト	しまりにやや欠ける。腐植土。
3.	2.5Y3/1黒褐色砂質シルト	しまりあり。地山の崩落土。
4.	2.5Y3/2黒褐色砂質シルト	ややしまりに欠ける。炭化物・焼土ブロックを含む。
5.	5Y3/2オリーブ黒色砂質シルト	しまりあり。粗砂含む。炭化粒と土器細片を含む。
6.	2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルト	しまっている。炭化粒と粗砂を含む。
7.	5Y3/2オリーブ黒色シルト質砂	しまりあり。微量の炭化粒を含む。
8.	2.5Y4/1黄灰色シルト質砂	しまっている。少量の炭化粒を含む。
9.	10YR1.7/1黒色砂	しまっている。炭化粒と炭化材を含む。
10.	5Y3/2オリーブ黒色砂	ややしまっている。炭化粒・炭化材を含む。
11.	N1.5/0黒色シルト質砂	ややしまりに欠ける。炭化物に砂が混入。炭化材を含む。
12.	5Y5/2灰オリーブ色シルト質砂	しまりあり。炭化物を少量含む。
13.	10YR2/1黒色砂質シルト	しまっている。炭化粒を少量含む。
14.	2.5Y4/1黄灰色砂質シルト	炭化粒・土器細片を含む。
15.	2.5Y3/1黒褐色シルト質砂	炭化物・土器片を含む。

第24図　ＳＴ2004



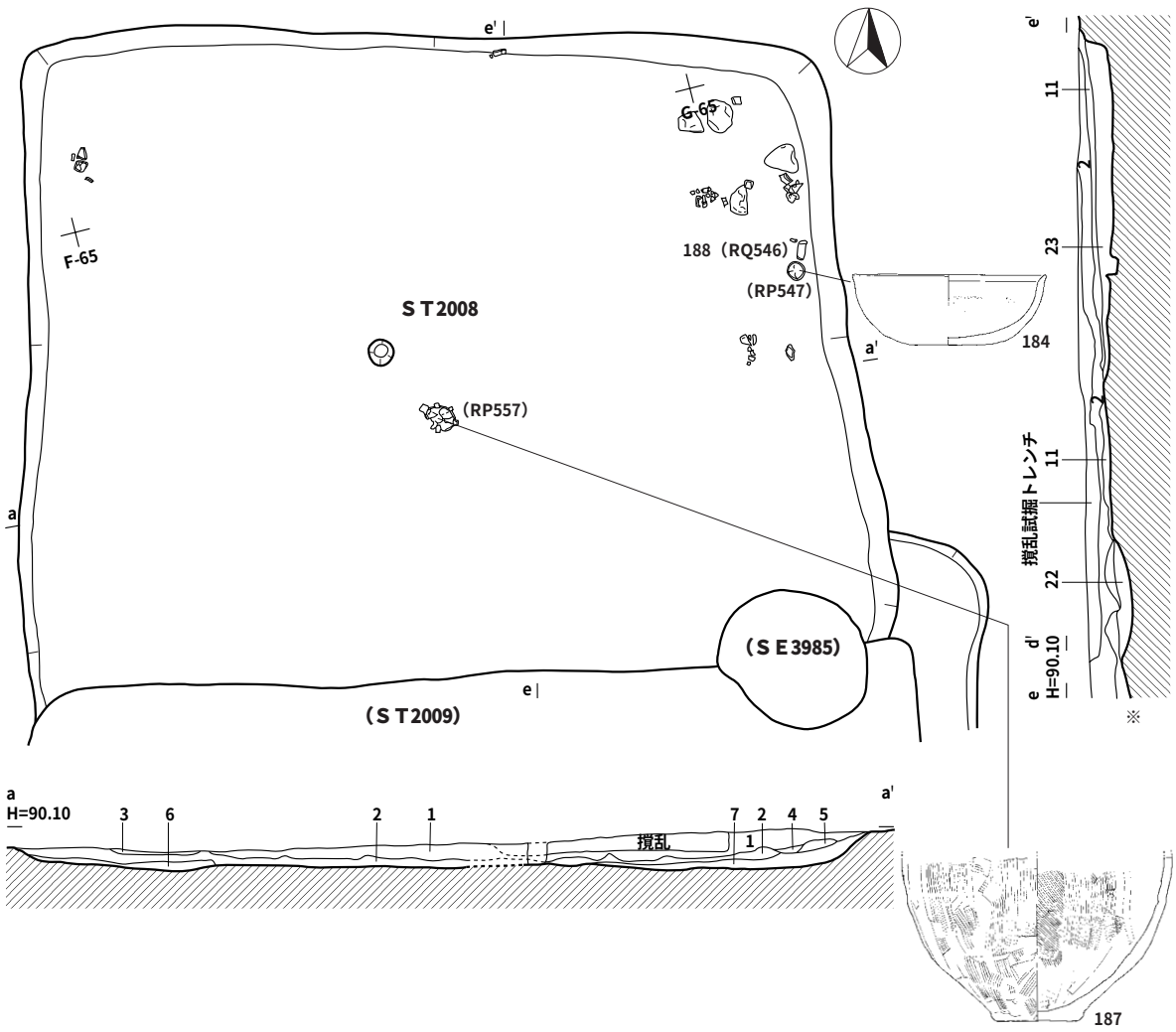
S T2006・2007

1. N1.5/0黒色シルト　　ややしまりに欠ける。植物腐植土。
2. 5Y2/1黒色シルト　　ややしまりに欠ける。４層土ブロックを5%含む。土器細片と炭化物を含む。（SK3661覆土）
3. 5Y2/2オリーブ黒色シルト　　ややしまっている。土器細片・微砂を微量含む。
4. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト　　微量の土器・炭化物を含む。貼り床か。
5. 2.5Y3/2黒褐色微砂質シルト　　径1～5cmの礫と少量の炭化物を含む。
6. 5Y3/2オリーブ黒色砂　　しまっている。

石
土器

0　3m
1：60

第25図　S T2006・S T2007



ＳＴ2008（a-a'）

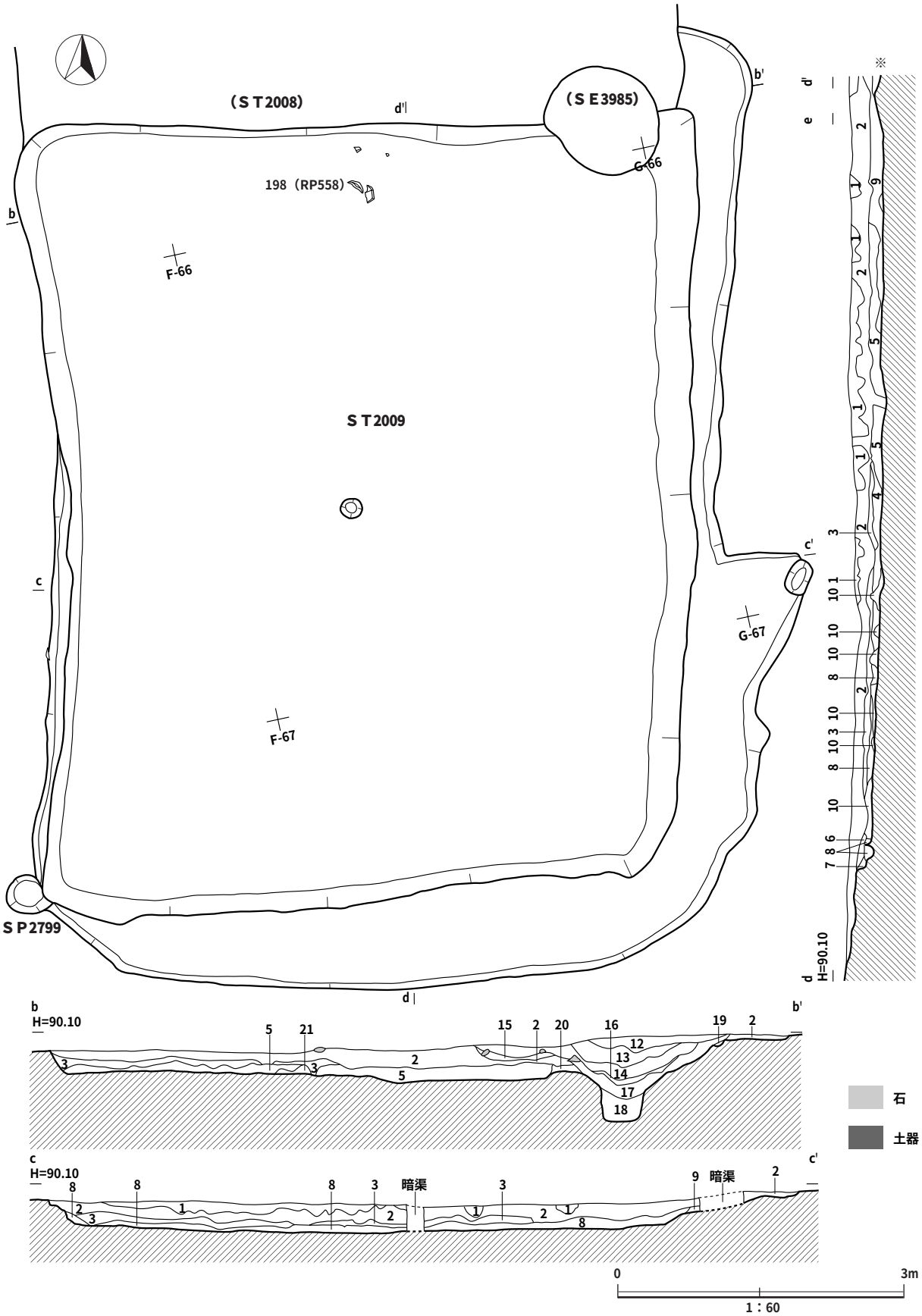
1. 10YR3/1黒褐色シルト　しまりにやや欠ける。火山灰と腐植土をまだら状に含む。
2. 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト質微砂　ややしまりに欠ける。
3. 7.5YR2/1黒色微砂質シルト　しまっている。
4. 2.5Y4/1黄灰色砂質シルト　しまりあり。
5. 10YR4/1褐灰色砂質シルト　しまりあり。
6. 5Y4/1灰色微砂　しまりあり。微量の炭化物を含む。床土。
7. 5Y4/2灰オリーブ色微砂　しまりあり。少量の炭化粒を含む。

ＳＴ2008・ＳＴ2009（b-b'～e-e'）

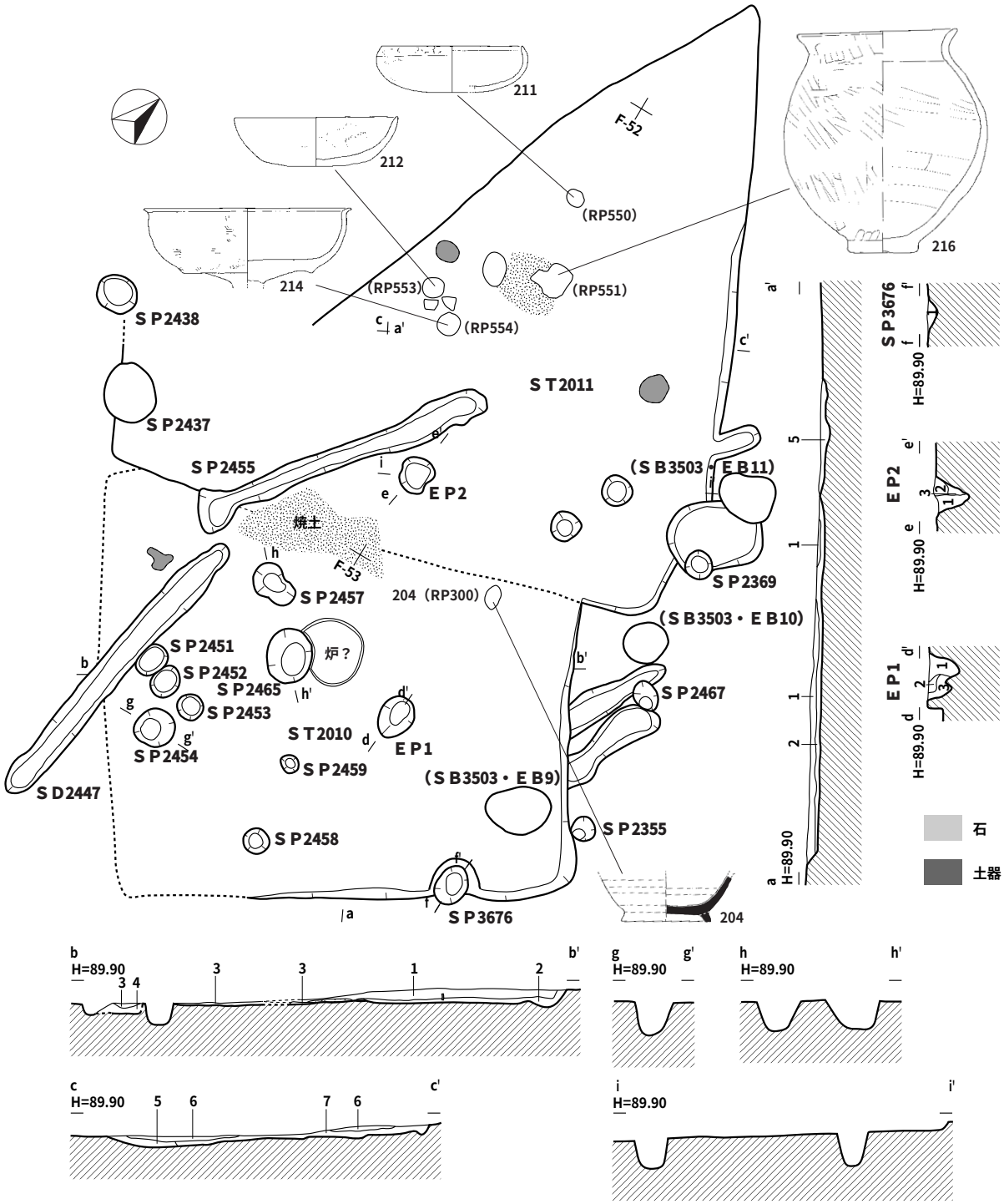
1. 7.5YR3/1オリーブ黒色シルト　しまっている。粗い砂粒が混じる。
2. 10YR3/1黒褐色シルト　ややしまりに欠ける。腐植土と火山灰をまだら状に含む。
3. 2.5Y3/2黒褐色砂質シルト　しまりなし。
4. 2.5Y4/1黄灰色シルト質砂　しまっている。
5. 5Y3/2オリーブ黒色シルト質砂　しまっている。
6. 2.5Y3/1黒褐色シルト　しまりあり。ややねばりあり。
7. 2.5Y3/2黒褐色砂質シルト　しまりあり。
8. 5Y4/1灰色微砂質シルト　ややしまっている。ねばりあり。
9. 2.5Y3/2黒褐色砂質シルト　しまっている。炭化物・植物根を含む。
10. 5Y6/1灰色砂　しまっている。床土。
11. 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト質砂　ややしまりに欠ける。
12. 7.5YR3/2黒褐色シルト　しまっている。径5～30mmの礫を含む。
13. 7.5YR2/1黒色シルト　しまっている。少量の砂を含む。腐植土。
14. 7.5YR2/2黒褐色腐植土　しまっている。多量の植物繊維を含む。
15. 10YR3/2黒褐色砂　しまりあり。
16. 10YR6/2灰黄褐色火山灰
17. 5Y3/1オリーブ黒色粘質シルト　しまりなし。腐植土。
18. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト　しまりなく、多量の植物繊維を含む。
19. 2.5Y3/1黒褐色砂質シルト　しまりあり。
20. 2.5Y5/2暗灰黄色砂　しまりあり。
21. 2.5Y5/1黄灰色砂　しまりあり。炭化粒を含む。
22. 5Y5/2灰オリーブ色シルト質微砂　しまりあり。
23. 暗灰黄色シルト質微砂　しまりあり。炭化粒を含む。

0　3m
1：60

第26図　ＳＴ2008


（ＳＴ2008）
（ＳＥ3985）
198（RP558）
ＳＴ2009
ＳＰ2799
F-66
G-66
F-67
G-67
暗渠
H=90.10
石
土器
0
3m
1：60

第27図　ＳＴ2009

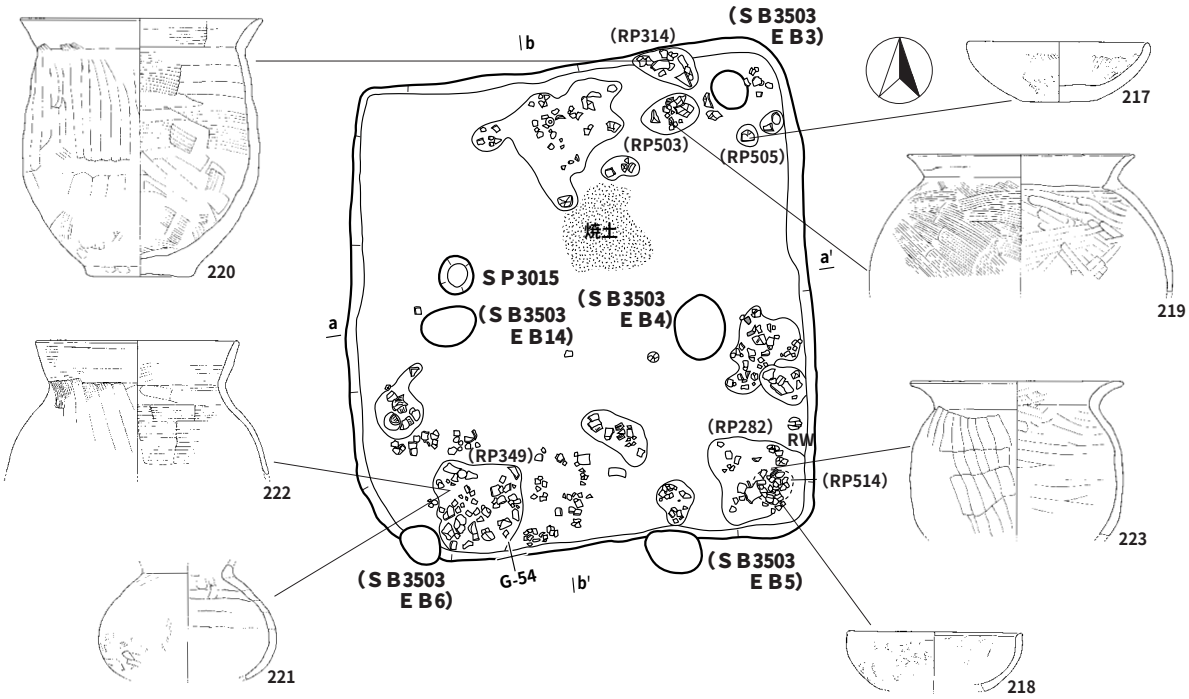


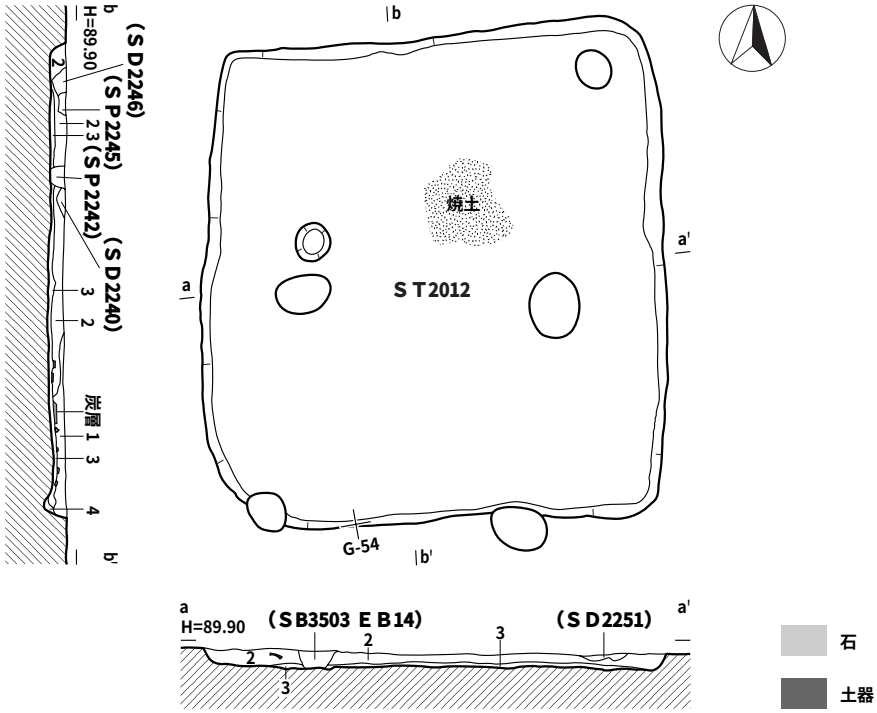
S T2010・2011

1. 10YR5/1褐灰色微砂　しまりあり。グライ化。7.5YR2/1シルトをブロック状に2%と少量の酸化物と微量の土器細片を含む。
2. 10YR5/1褐灰色微砂　しまりあり。炭化物・土器細片を少量含む。（床面）。
3. 2.5Y4/1黄灰色微砂質シルト　しまりあり。炭化物を含む。（床面）。
4. 5Y4/1灰色微砂質シルト　しまりあり。炭化物を微量含む。
5. 2.5Y5/2暗灰黄色微砂質シルト　しまりあり。10YR2/1シルトをブロック状に2%と少量の炭化物を含む。（床面）
6. 2.5Y5/1黄灰色微砂　非常にしまりあり。グライ化。7.5YR2/1シルトをブロック状に2%と酸化物と微量の炭化物を含む。
7. 10YR3/1黒褐色シルト　しまりあり。土器片と多量の炭化物を含む。床面。

0　3m
1：60

第28図　S T2010・ST2011



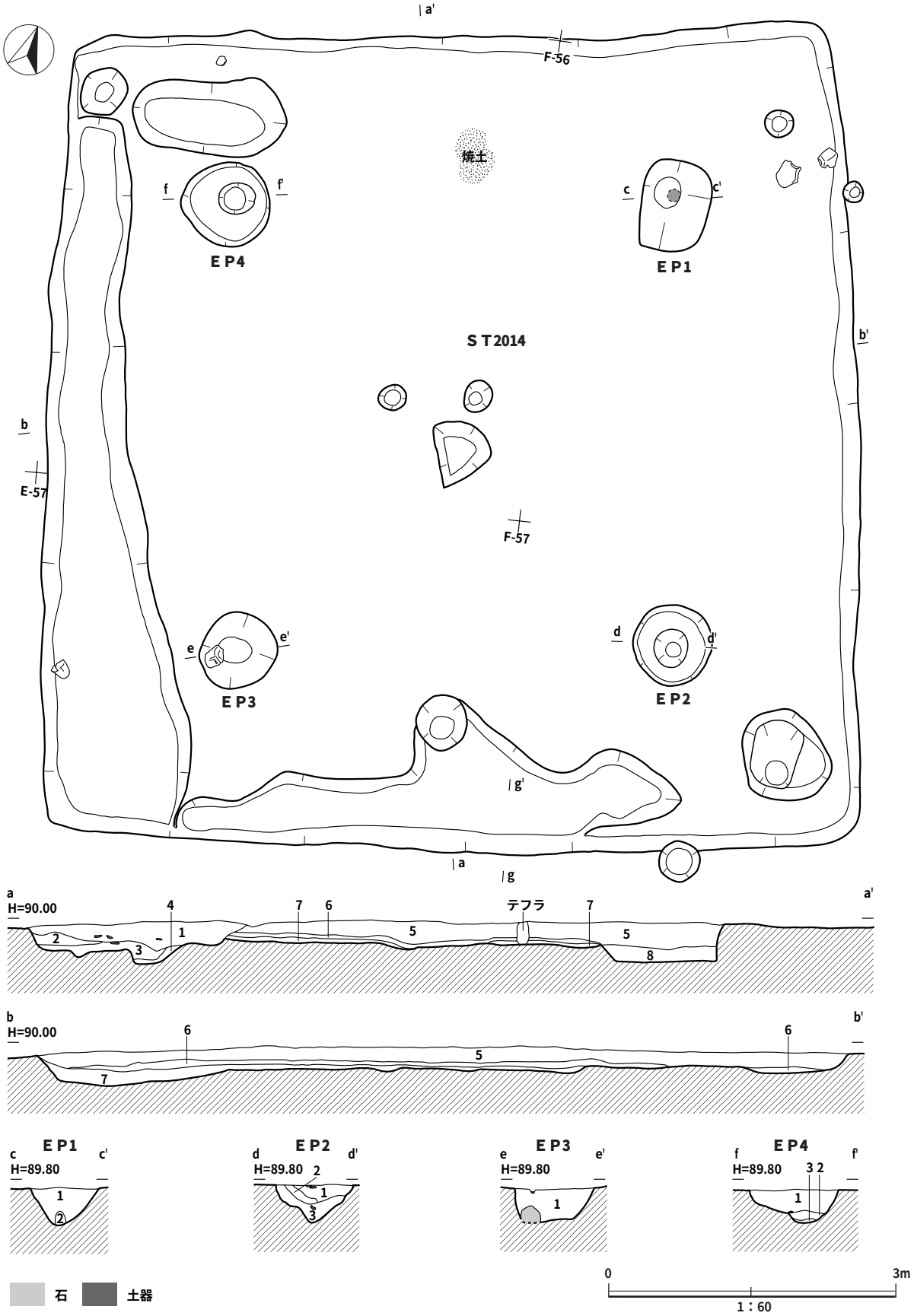


ST2012

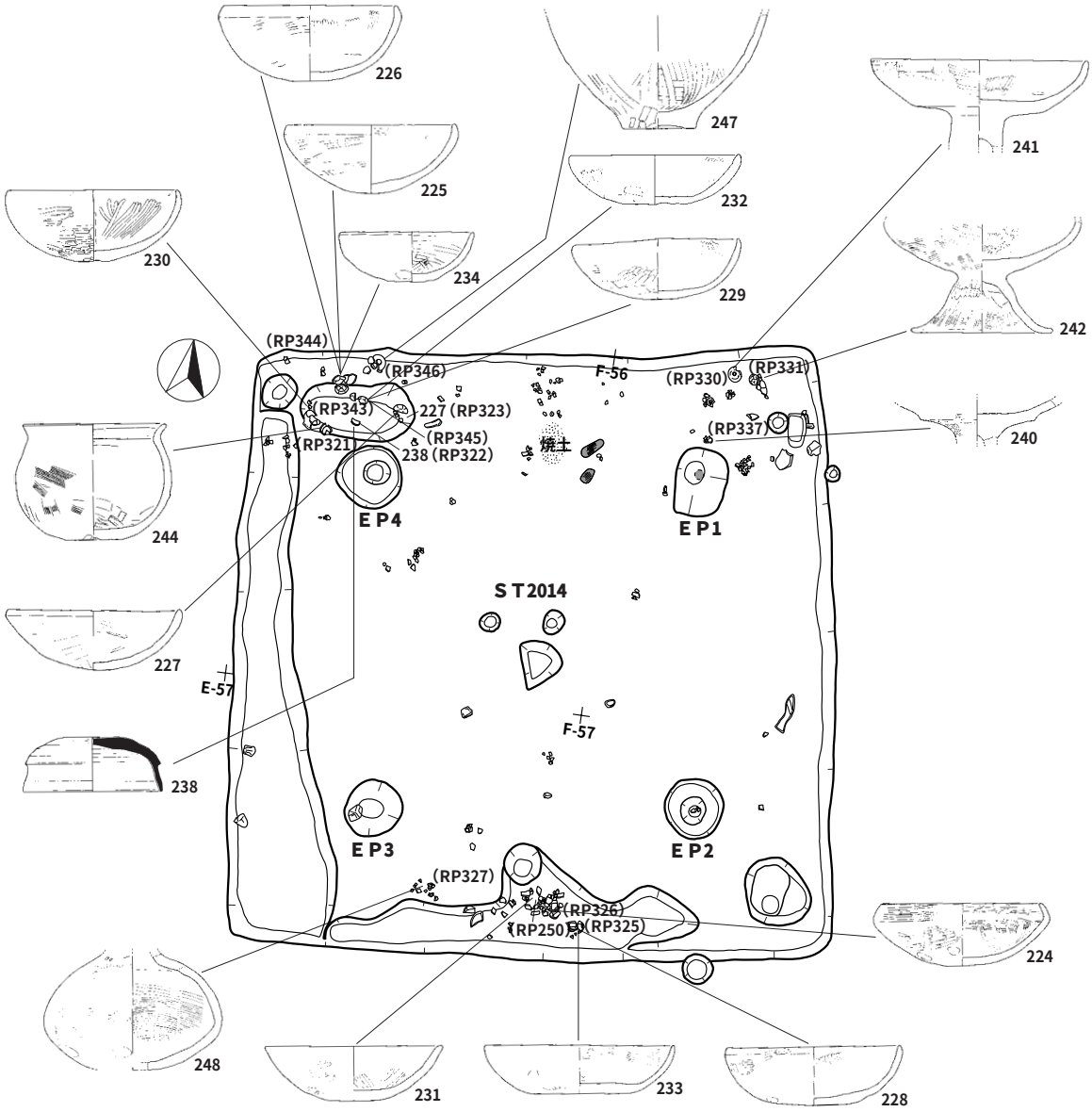
1. 2.5Y5/1黄灰色シルト　かたくしまる。少量の炭化粒含む。10YR2/1シルトを粒状に2%含む。
2. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト　かたくしまる。微量の2.5Y4/1シルトがまだら状に混じる。
3. 10YR2/1黒色シルト　貼り床。
4. 10YR5/1褐灰色シルト　ほぼ均質。少し粘りあり。（周溝か？）

0　3m
1：60

第29図　ST2012


a'
F-56
焼土
f
f'
c
c'
E P4
E P1
S T2014
b'
b
E-57
F-57
e
e'
d
d'
E P3
E P2
g'
a
g
a
H=90.00
テフラ
a'
b
H=90.00
b'
E P1
c
c'
H=89.80
E P2
d
d'
H=89.80
E P3
e
e'
H=89.80
E P4
f
f'
H=89.80
石
土器
0
3m
1：60

第30図　S T 2014



S T2014

1.	5Y4/2灰オリーブ色砂	しまっている。10YR2/1シルトをブロック状に3%と土器片を含む。激しくグライ化。
2.	2.5Y5/1黄灰色砂	しまりに欠ける。グライ化。
3.	2.5Y4/1黄灰色シルト質砂	しまりに欠ける。グライ化。
4.	5Y3/1オリーブ黒色砂質シルト	しまっている。炭化物を少量含む。
5.	5Y5/1灰色シルト質砂	非常にしまっている。激しくグライ化。径1～5mmの粗砂を含む。
6.	2.5Y3/1黒褐色シルト質砂	しまっている。少量の炭化物を含む。
7.	2.5Y5/3黄褐色シルト質砂	しまっている。10YR3/1シルトをブロック状に15%含む。貼り床。（生活面）
8.	2.5Y4/1黄灰色シルト質砂	しまりに欠ける。グライ化。

E P1

1.	5Y4/1灰色砂質シルト	しまりあり。径5～10mmの小礫と炭化物を含む。
2.	7.5Y4/1灰色砂質シルト	やや粘りあり。炭化物を含む。柱根。

E P2

1.	5Y4/1灰色砂質シルト	ややしまりあり。炭化物・土器片を含む。
2.	5Y5/1灰色砂質シルト	ややねばりあり。
3.	2.5Y5/1黄灰色シルト質砂	ねばりあり。炭化物を少量含む。

E P3

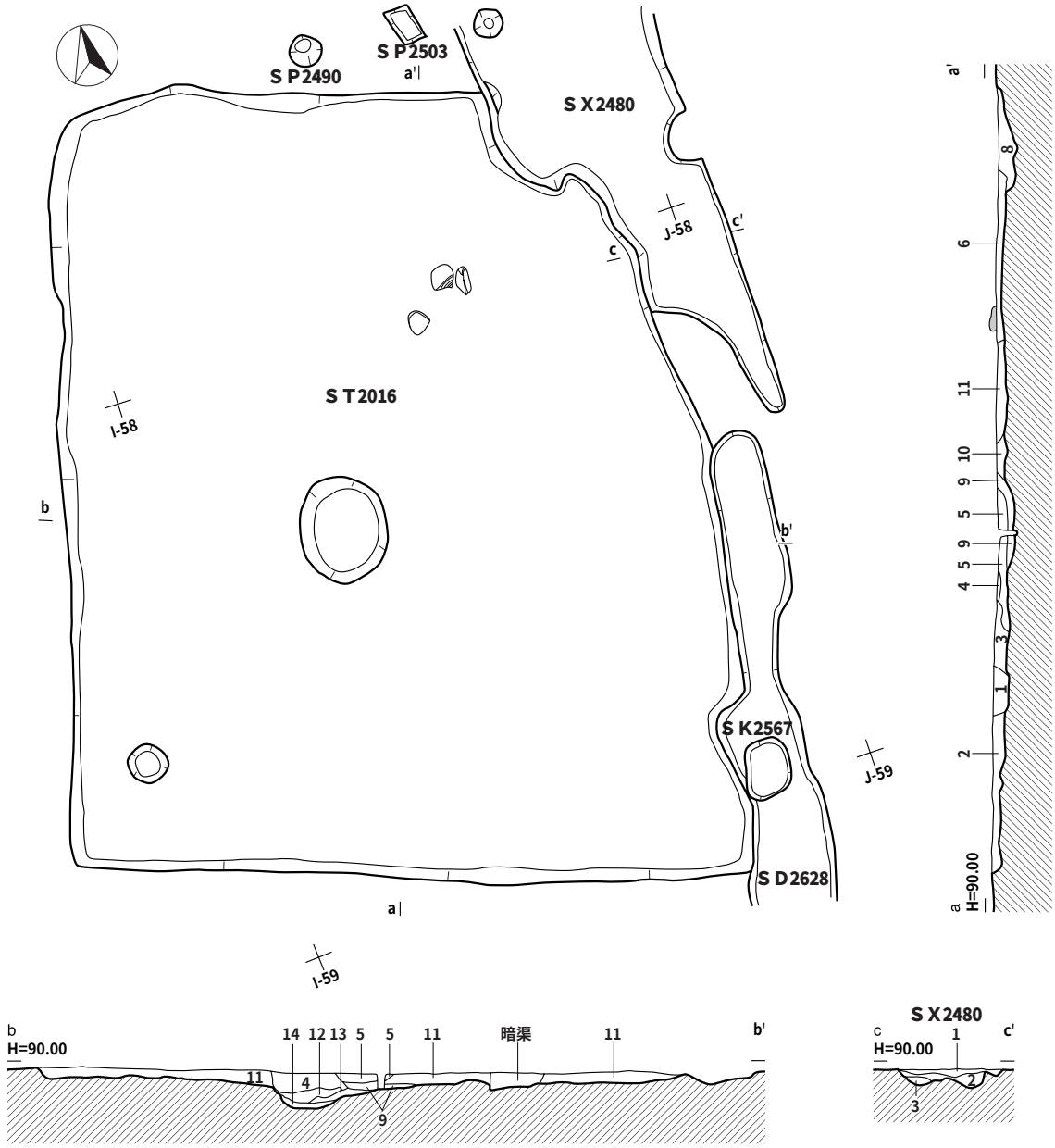
1.	5Y4/1灰色砂	ややしまりに欠ける。炭化物を含む。

E P4

1.	2.5Y4/1黄灰色砂質シルト	しまりあり。土器細片と微量の炭化物を含む。
2.	2.5Y4/1黄灰色シルト質砂	ややねばりあり。
3.	5Y4/1灰色砂質シルト	ねばりあり。しまりなし。

0　5m
1：100

第31図　ＳＴ2014遺物出土状況



S T2016

1.	2.5Y3/1黒褐色シルト質砂	しまりあり。粗砂を含む。
2.	5Y3/2オリーブ黒色粗砂	しまりあり。
3.	2.5Y4/2暗灰黄色シルト質砂	しまりあり。
4.	10YR2/1黒色砂質シルト	しまりあり。ややねばりあり。炭化粒を少量含む。
5.	2.5Y2/1黒色砂	しまりあり。少量の粗砂を含む。
6.	2.5Y5/1黄灰色シルト質砂	しまりあり。粗砂を含む。
7.	2.5Y5/2暗灰黄色シルト質砂	しまりあり。
8.	10YR3/2黒褐色シルト質砂	しまりあり。
9.	2.5Y3/1黒褐色砂質シルト	しまっている。ややねばりあり。
10.	7.5YR5/2灰褐色砂	しまっている。径5mm程度の小礫を含む。
11.	7.5YR4/3褐色砂質シルト	しまっている。
12.	2.5YR2/2極暗赤褐色シルト質砂	しまりあり。炭化物と粗砂を含む。
13.	10YR4/2灰黄褐色粗砂	ややしまっている。炭化粒を微量含む。地山崩落土。
14.	N2/0黒色粗砂	ややしまっている。炭化物層。

S X2480

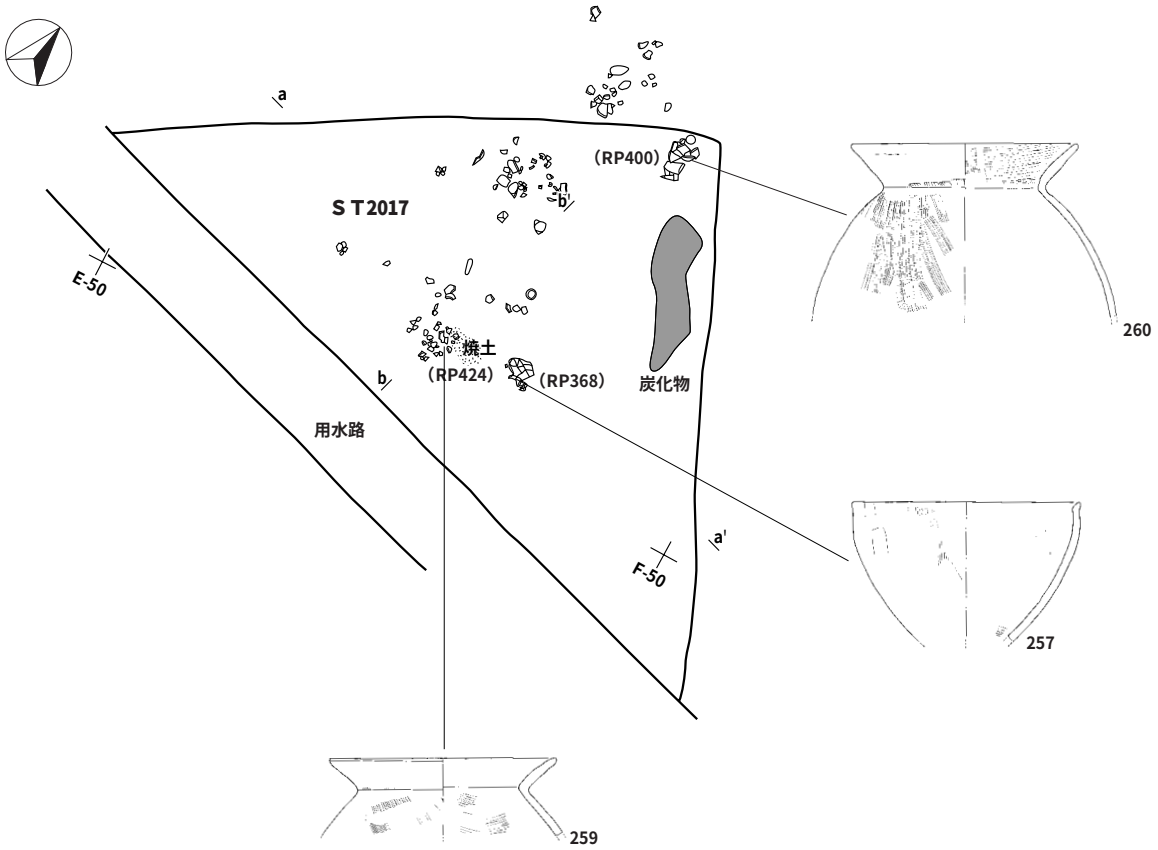
1.	10YR3/1黒褐色シルト	微量の砂を含む。
2.	5YR5/2灰オリーブ色シルト	砂をブロック状に10%含む。（地山）
3.	2.5Y6/2灰黄色粗砂	地山に2層土をブロック状に7%含む。

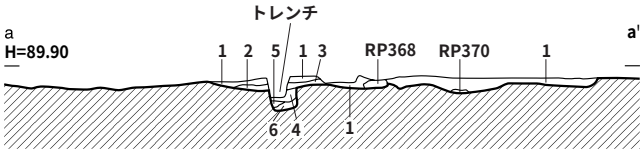
石

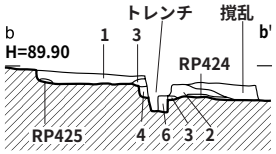
土器

0 3m
1：60

第32図　ST2016





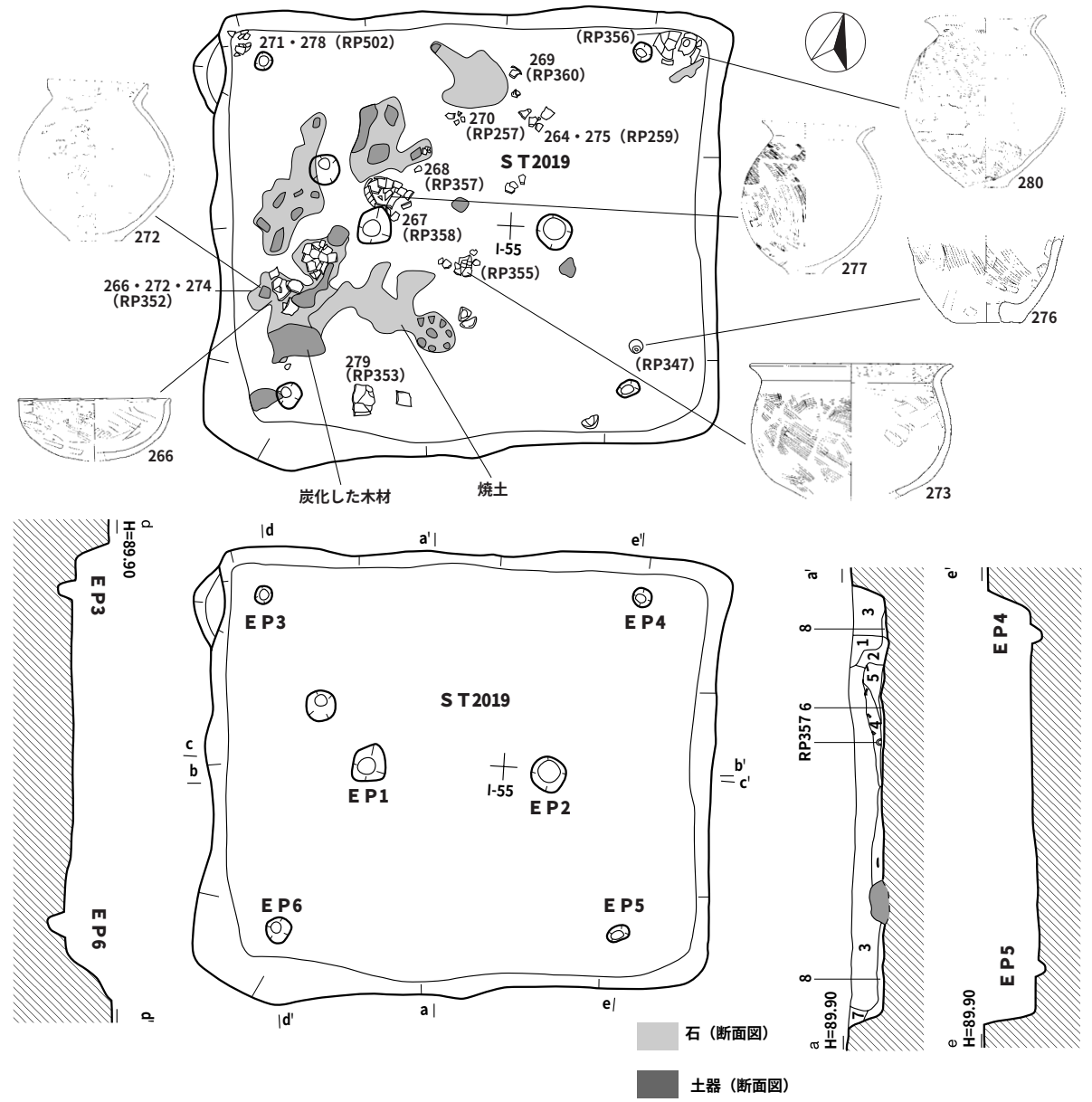


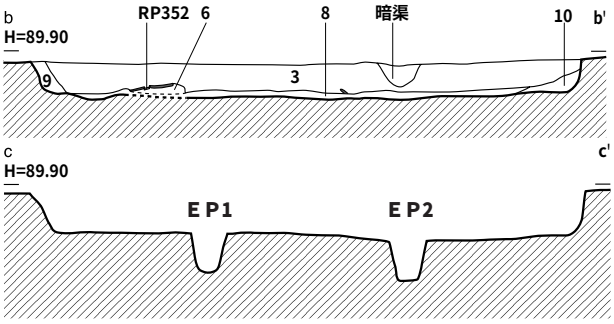
ＳＴ2017

1. 2.5Y2/2極暗赤褐色シルト　かたくしまる。微量の炭化粒を含む。
2. 5Y3/1オリーブ黒色シルト　ほぼ均質。かたくしまっている。
3. 7.5YR4/6褐色シルト　焼土。
4. 5Y5/3灰オリーブ色シルト　ややしまっている。微量の細砂が混じる。
5. 5Y4/2灰オリーブ色砂質シルト　崩れやすい。
6. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　ややしまり弱い。径2mm程度の礫を微量含む。

0　3m
1：60

第33図　ＳＴ2017



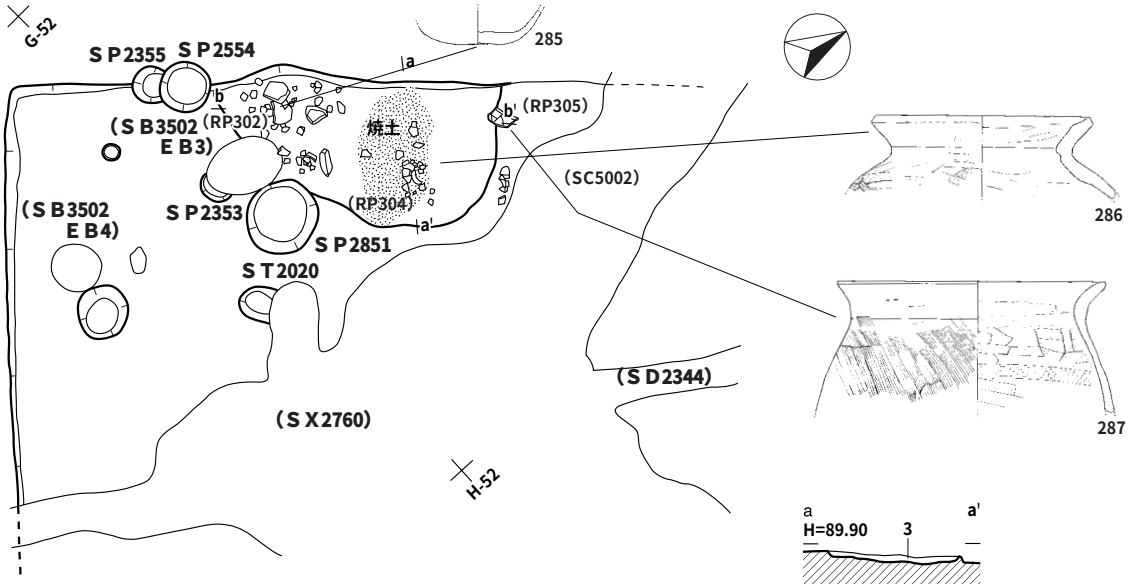


ＳＴ2019

1.	5Y2/1黒色シルト	炭化物を含む。柱根。
2.	5Y3/2オリーブ黒色砂質シルト	しまりあり。
3.	2.5Y3/2黒褐色砂質シルト	しまりあり。炭化物と土器片を含む。
4.	5Y4/1灰色砂質シルト	しまりあり。ねばりあり。
5.	5Y5/2灰オリーブ色砂質シルト	しまりあり。ねばりあり。
6.	10YR2/1黒色砂質シルト	ややしまりに欠ける。ねばりあり。炭化物層。
7.	2.5Y4/1黄灰色微砂質シルト	しまっている。径1～2cmの小礫を含む。
8.	2.5Y3/1黒褐色粘質シルト	しまっている。貼り床。
9.	5Y3/2オリーブ黒色微砂質シルト	しまっている。ややねばりあり。
10.	2.5Y5/2暗灰黄色砂質シルト	ややしまっている。やや粘りあり。

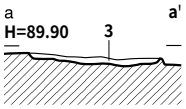
0　3m
1：60

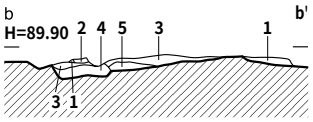
第34図　ＳＴ2019

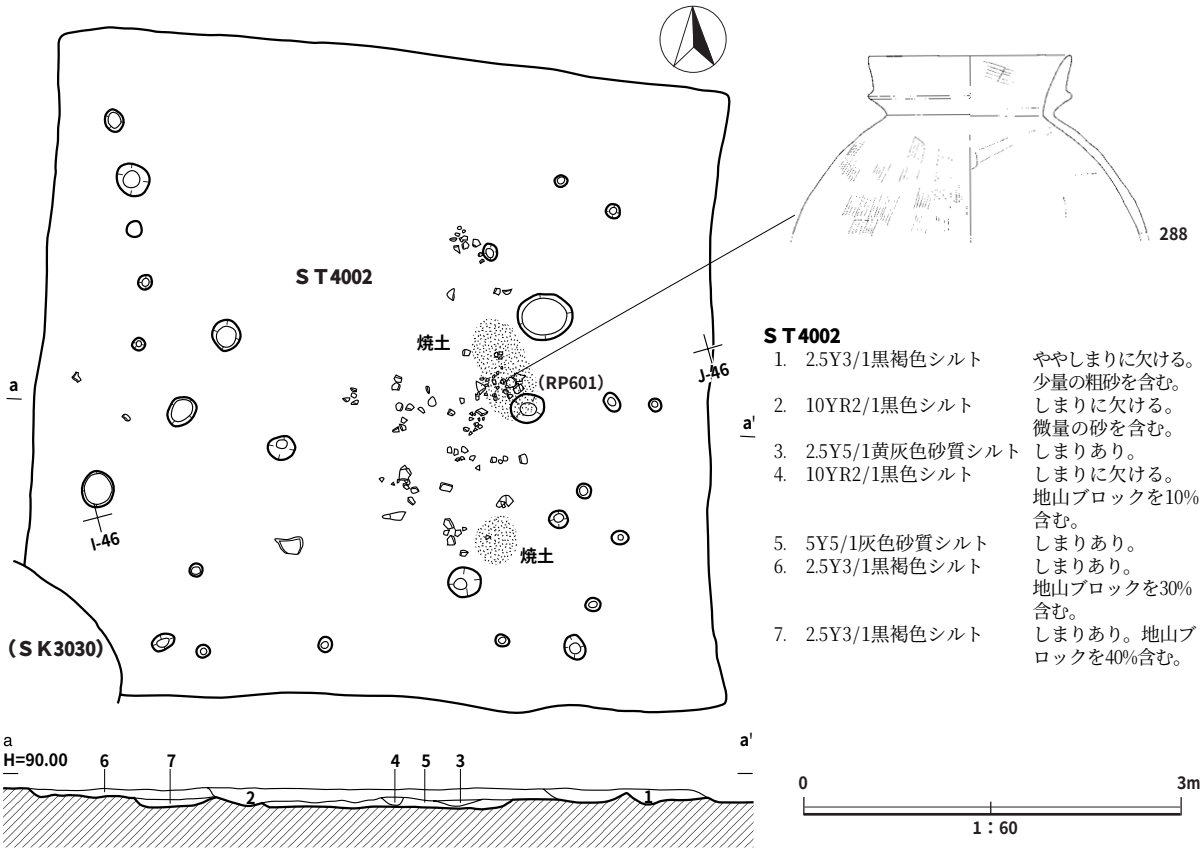


S T2020

1. 5YR3/6暗赤褐色シルト質砂　しまりに欠ける。炭化粒を少量含む。10YR8/3火山灰を微量含む。
2. 2.5Y3/2黒褐色細砂　しまりあり。炭化粒を含む。
3. 2.5Y4/2暗灰黄色シルト　しまりあり。焼土をブロック状に3%、炭化粒・土器細片を少量含む。
4. 5Y4/2灰オリーブ色シルト質微砂　しまりあり。炭化粒を少量含む。崩落土。
5. 2.5Y5/3黄褐色シルト質微砂　しまりあり。土器細片を微量含む。



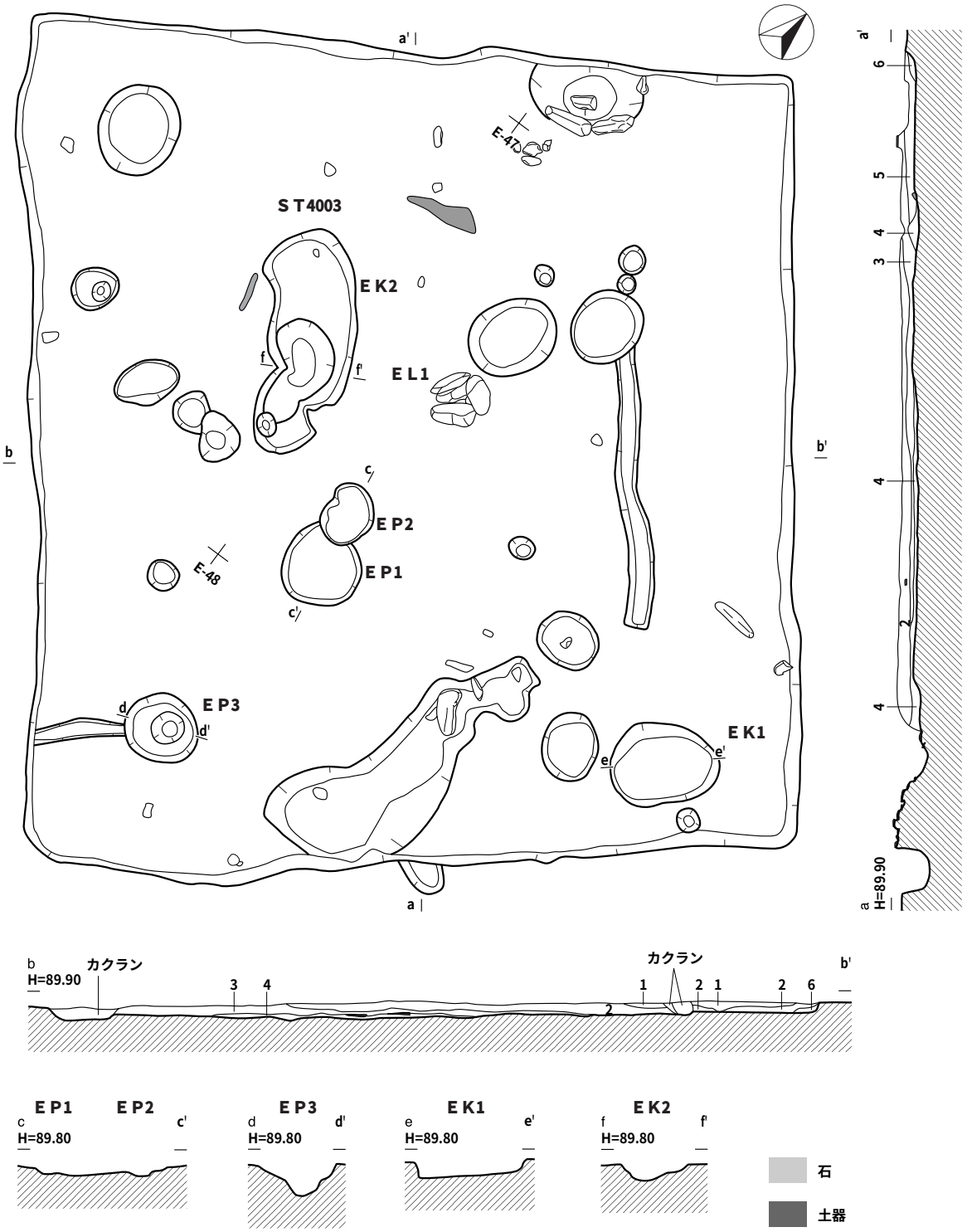




S T4002

1. 2.5Y3/1黒褐色シルト　ややしまりに欠ける。少量の粗砂を含む。
2. 10YR2/1黒色シルト　しまりに欠ける。微量の砂を含む。
3. 2.5Y5/1黄灰色砂質シルト　しまりあり。
4. 10YR2/1黒色シルト　しまりに欠ける。地山ブロックを10%含む。
5. 5Y5/1灰色砂質シルト　しまりあり。
6. 2.5Y3/1黒褐色シルト　しまりあり。地山ブロックを30%含む。
7. 2.5Y3/1黒褐色シルト　しまりあり。地山ブロックを40%含む。

第35図　S T2020・S T4002

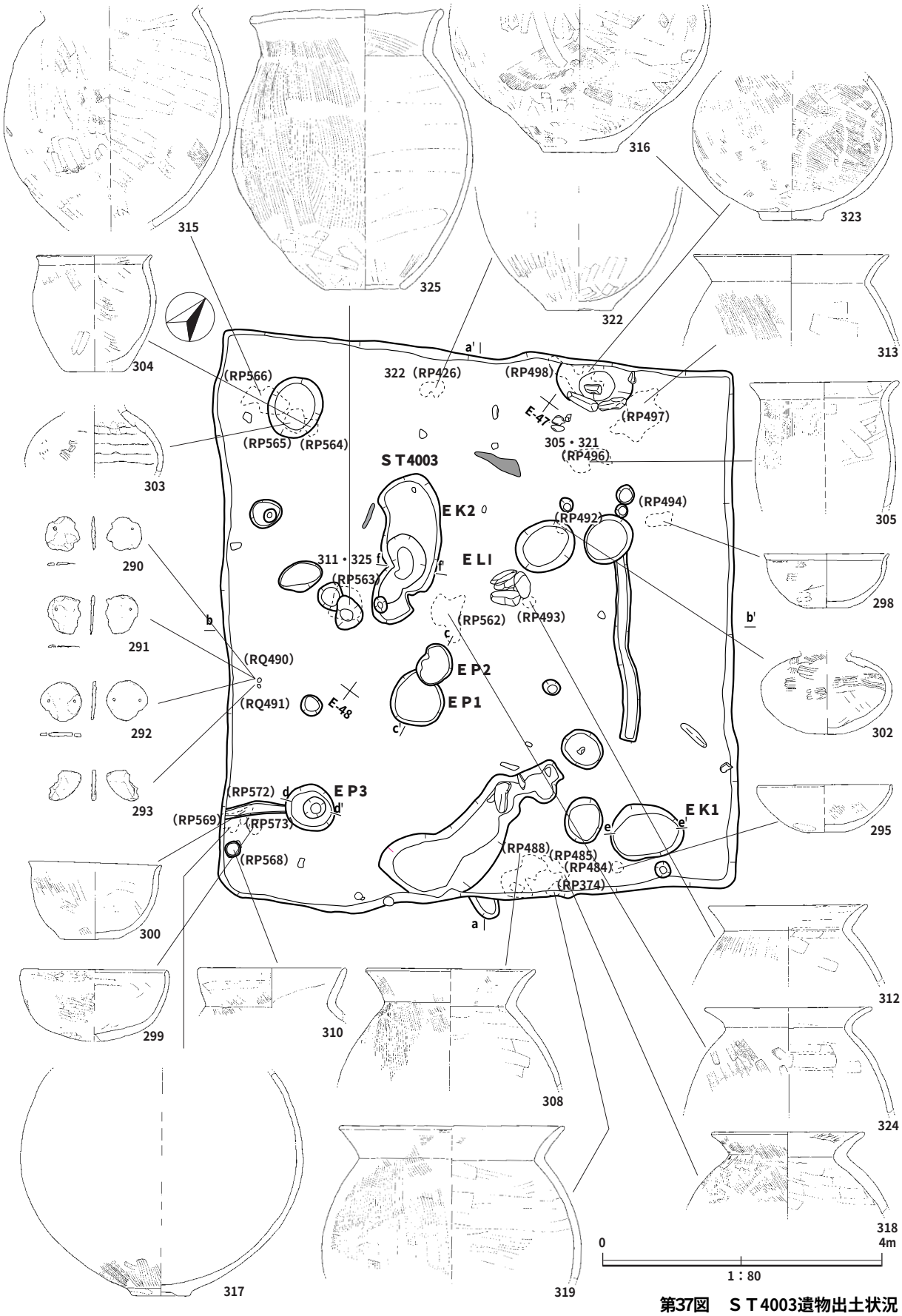


ＳＴ4003

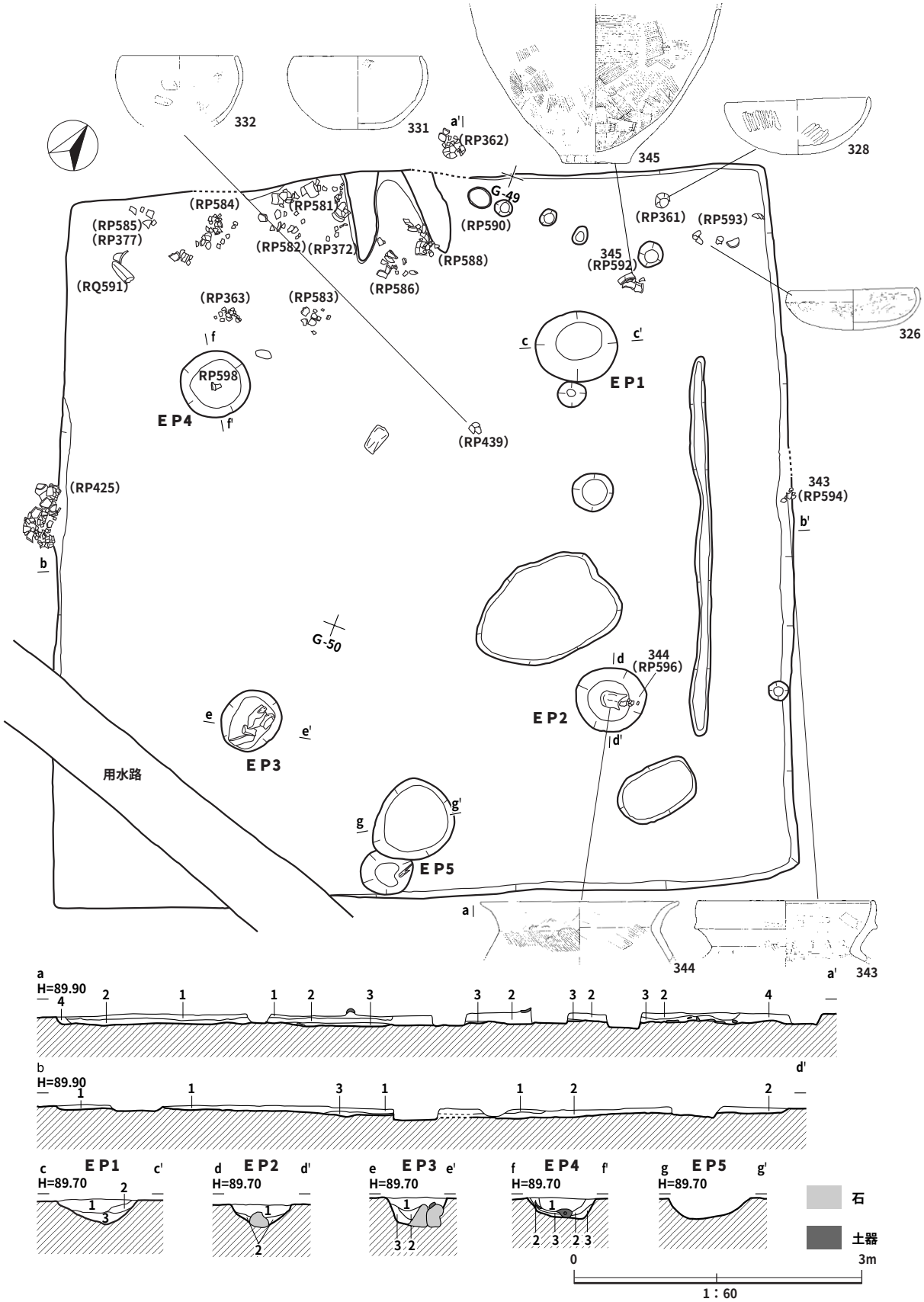
1. 5Y4/1灰色砂質シルト　　5Y3/1シルトをブロック状に5%含む。
2. 5Y5/2灰オリーブ色砂質シルト
3. 5Y5/2灰オリーブ色砂質シルト　　ねばりあり。
4. 5Y3/1オリーブ黒色シルト　　炭化物を粒状に5%、砂質シルトをブロック状に5%含む。
5. 5Y4/2灰オリーブ色砂質シルト　　5Y2/1シルトをブロック状に10%含む。
6. 5Y4/2灰オリーブ色シルト

0　3m
1：60

第36図　ＳＴ4003



第37図　ＳＴ4003遺物出土状況


332
331
a'
(RP362)
345
328
G-49
(RP584)
(RP581)
(RP585)
(RP377)
(RP582)
(RP372)
(RP590)
(RP588)
(RP361)
(RP593)
345
(RP592)
(RQ591)
(RP586)
(RP363)
(RP583)
326
f
c
c'
RP598
E P1
E P4
f'
(RP439)
(RP425)
343
(RP594)
b'
b
G-50
d
344
(RP596)
E P2
e
e'
d'
E P3
用水路
g
g'
E P5
a
344
a'
343
a
H=89.90
b
H=89.90
d'
c
E P1
c'
H=89.70
d
E P2
d'
H=89.70
e
E P3
e'
H=89.70
f
E P4
f'
H=89.70
g
E P5
g'
H=89.70
石
土器
0
3m
1：60

第38図　ＳＴ4004

ＳＴ4004

1. 5Y4/1灰色シルト　やや砂質。ねばりあり。
2. 5Y4/1灰色砂質シルト　炭化物を粒状に5%含む。
3. 5Y3/1オリーブ黒色シルト　炭化物をブロック状に20%含む。
4. 5Y4/1灰色シルト　ねばりあり。5Y3/1シルトを粒状に10%含む。

ＥＰ1

1. 5Y4/2灰オリーブ色シルト　ねばりあり。
2. 5Y4/1灰色砂質シルト　ねばりあり。
3. 10Y砂質シルト。

ＥＰ2

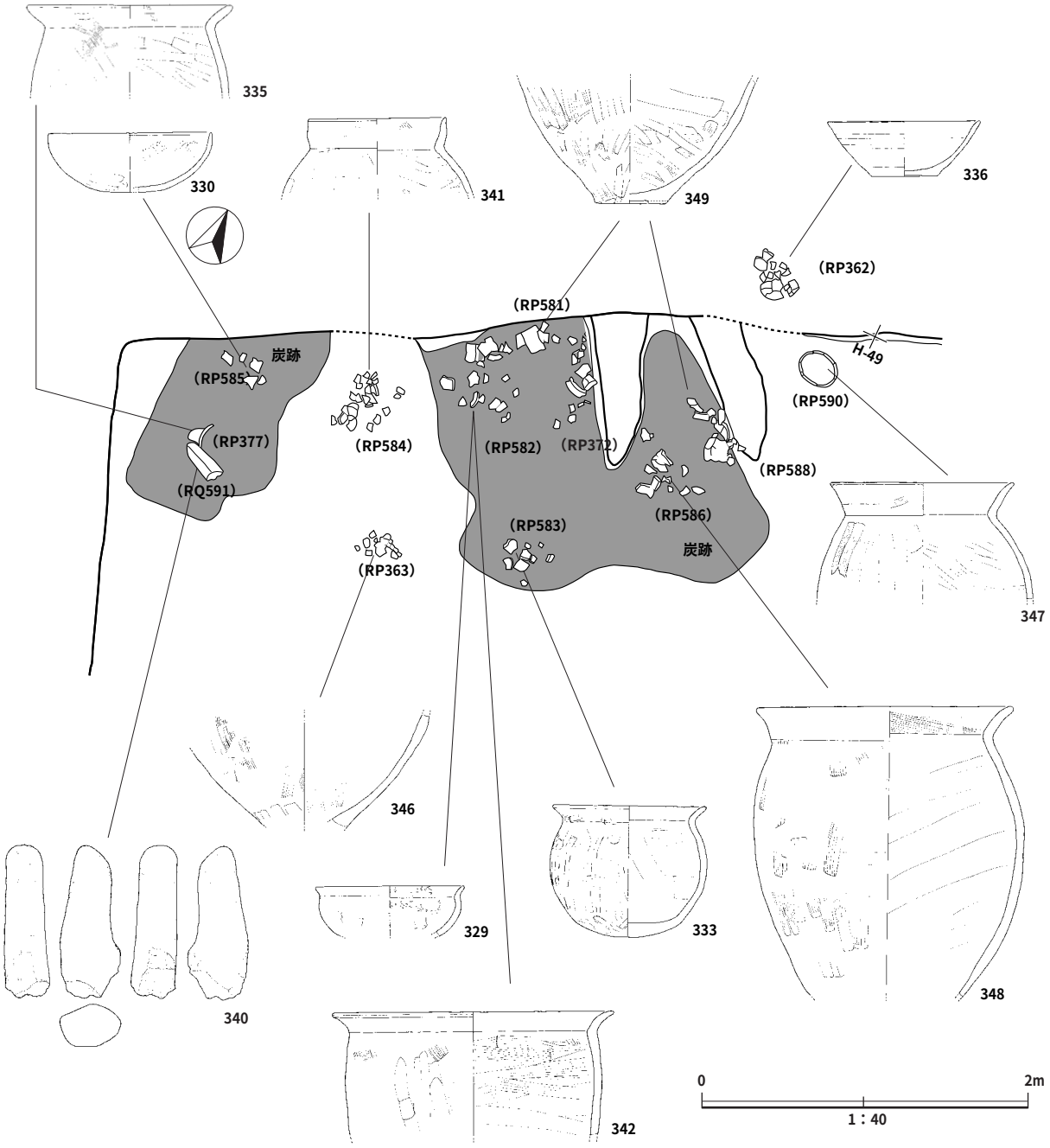
1. 5Y3/1オリーブ黒色シルト
2. 5Y5/1灰色砂質シルト

ＥＰ3

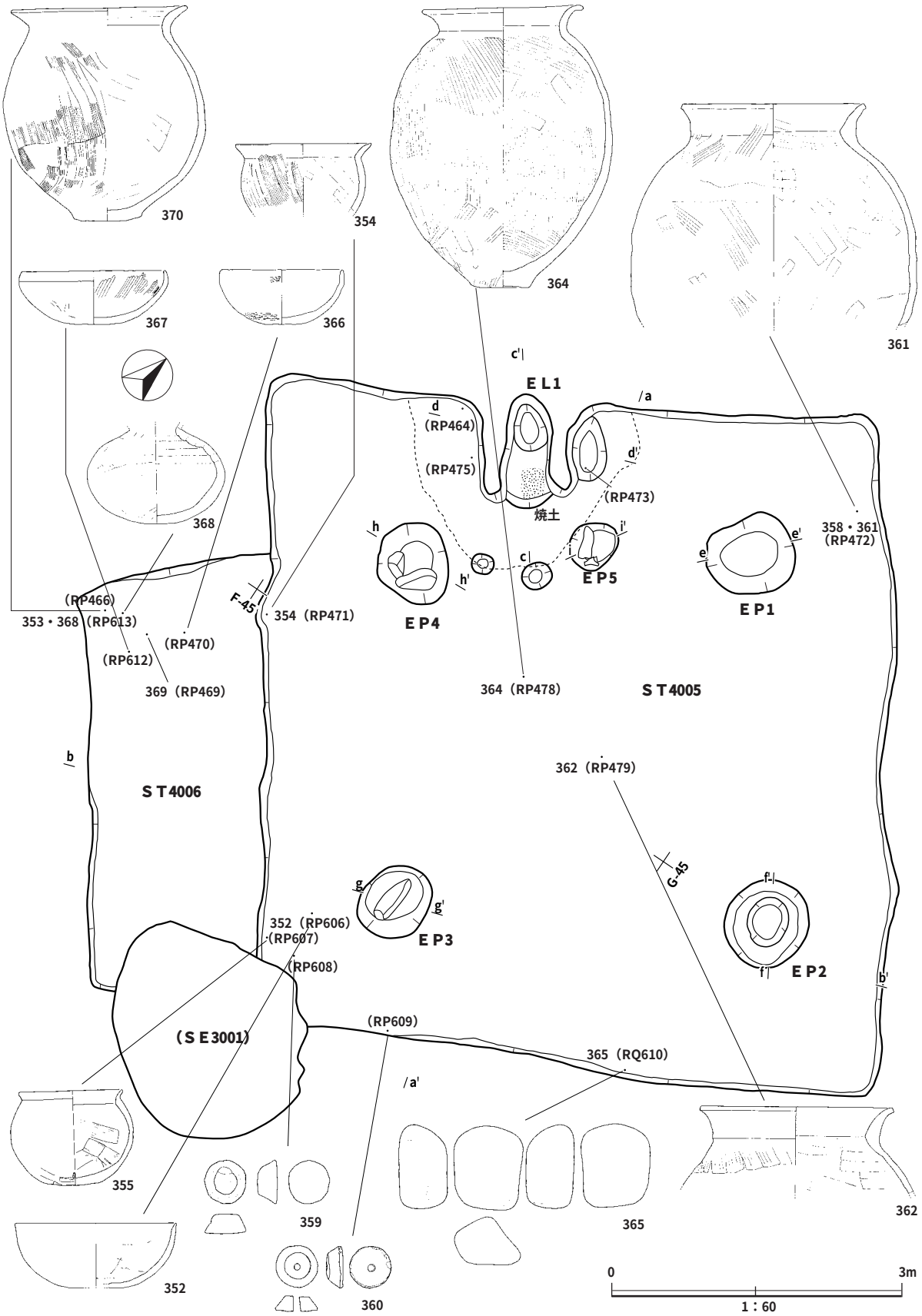
1. 5Y5/2灰オリーブ色砂質シルト　ねばりあり。
2. 5Y3/2オリーブ黒色シルト　炭化物を粒状に5%含む。
3. 5Y4/1灰色砂質シルト　ねばりあり。

ＥＰ4

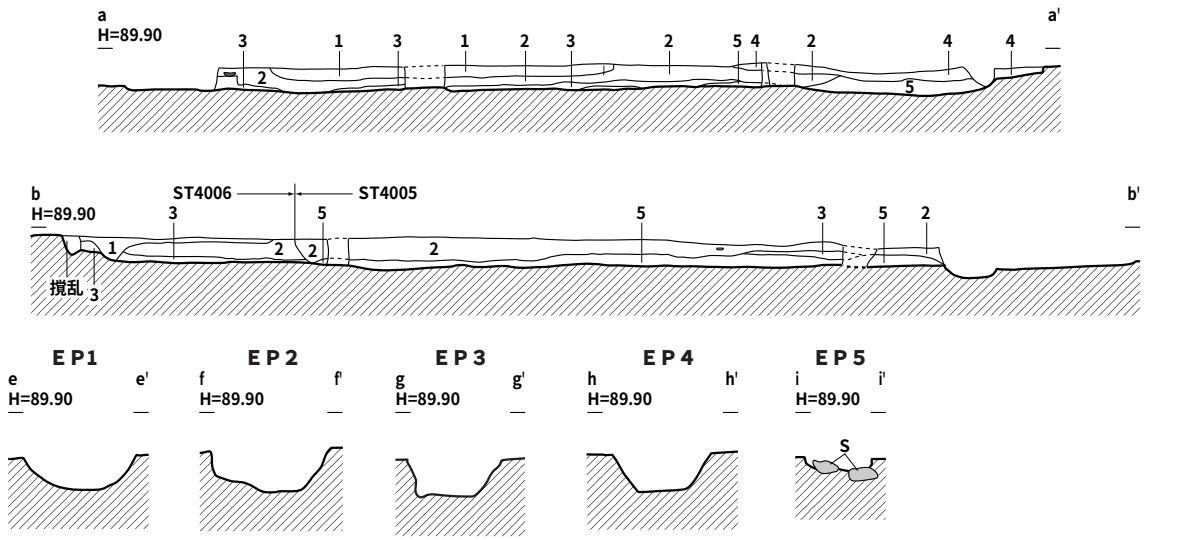
1. 5Y5/2灰オリーブ色砂質シルト　ねばりあり。
2. 5Y3/1オリーブ黒色シルト　炭化物を粒状に10%含む。
3. 5Y5/1灰色砂質シルト



第39図　ＳＴ4004カマド



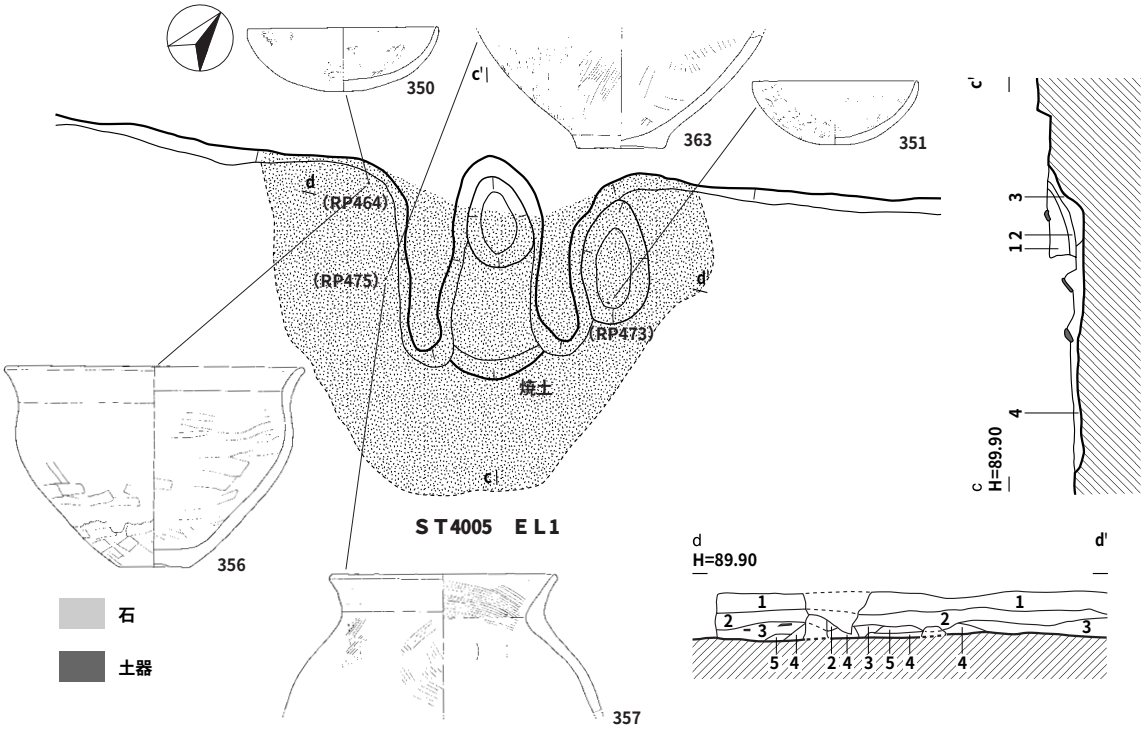
第40図　S T4005・S T4006



ＳＴ4005・4006

1. 5Y3/1オリーブ黒色シルト　ねばりあり。
2. 5Y4/2灰オリーブ色砂質シルト
3. 5Y2/2オリーブ黒色シルト　炭化物をブロック状に20%含む。（床面）
4. 5Y5/2灰オリーブ色砂質シルト　砂利を含む。
5. 5Y5/2灰オリーブ色砂質シルト　砂利を含む。5Y3/1シルトをブロック状に10%含む。

0　3m
1：60

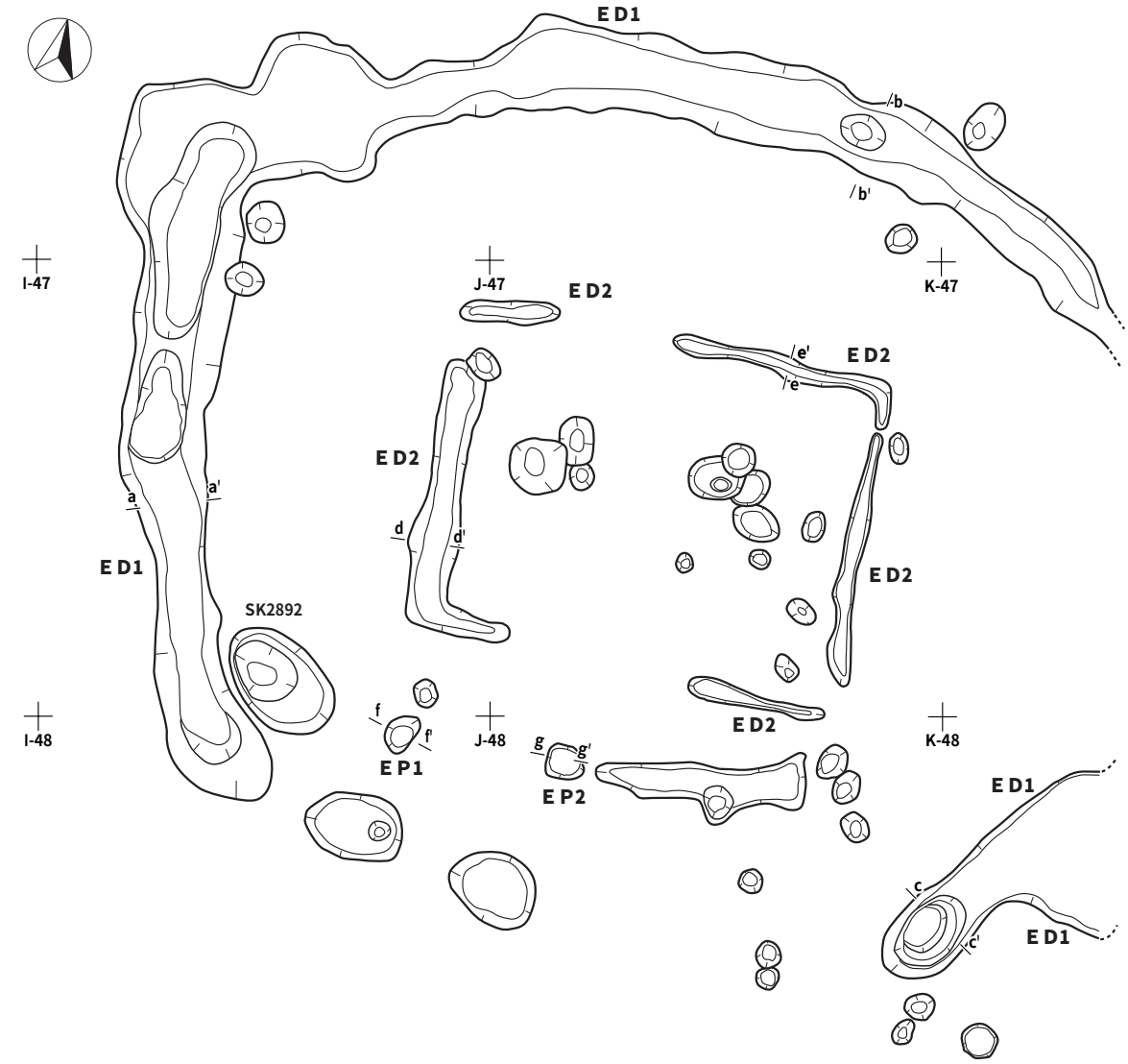


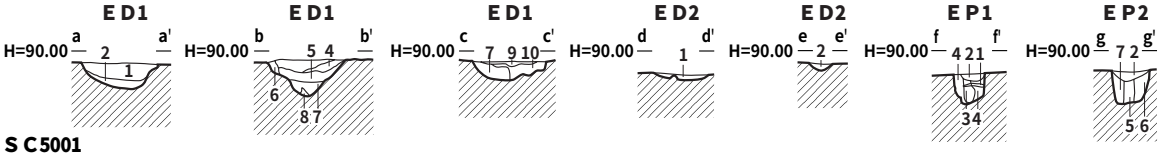
ＳＴ4005EL

1. 5Y4/2灰オリーブ色砂質シルト　5Y3/1シルトを粒状に5%含む。
2. 10Y4/1灰色砂質シルト　ねばりあり。
3. 5Y5/2灰オリーブ色砂質シルト　ねばりあり。
4. 5Y4/2灰オリーブ色粘質シルト　均質。カマドの袖。
5. 5Y2/2オリーブ黒色シルト　炭化物をブロック状に10%含む。

0　2m
1：40

第41図　ＳＴ4005カマド





S C 5001

E D1

1. 5Y2/1黒色シルト　しまりあり。少量の5Y5/1シルトが混じる。
2. 10YR2/1黒色シルト　しまりあり。5Y5/1シルトが径30～50mmの塊状に15%混じる。
3. 2.5Y3/1黒褐色シルト　しまりあり。2.5Y5/2シルトがまだら状に25%混じる。
4. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト　しまりあり。2.5Y3/1シルトが塊状に10%混じる。
5. 5Y3/1オリーブ黒色シルト　しまりあり。2.5Y5/1シルトが3%混じる。
6. 7.5Y3/1オリーブ黒色シルト　しまりあり。2.5Y5/1シルトが10%混じる。
7. 10Y2/1黒色粘質シルト　しまりあり。ねばりあり。2.5Y5/1シルトが5%混じる。
8. 10Y3/1オリーブ黒色粘質シルト　ほぼ均質。しまりあり。ねばりあり。
9. 10YR1.7/1黒色シルト　固くしまる。2.5Y5/1微砂質シルトがまだらに7%混入。
10. 2.5Y2/1黒色シルト　しまっている。5Y4/2微砂質シルトが粒状に5%混じる。

E D2

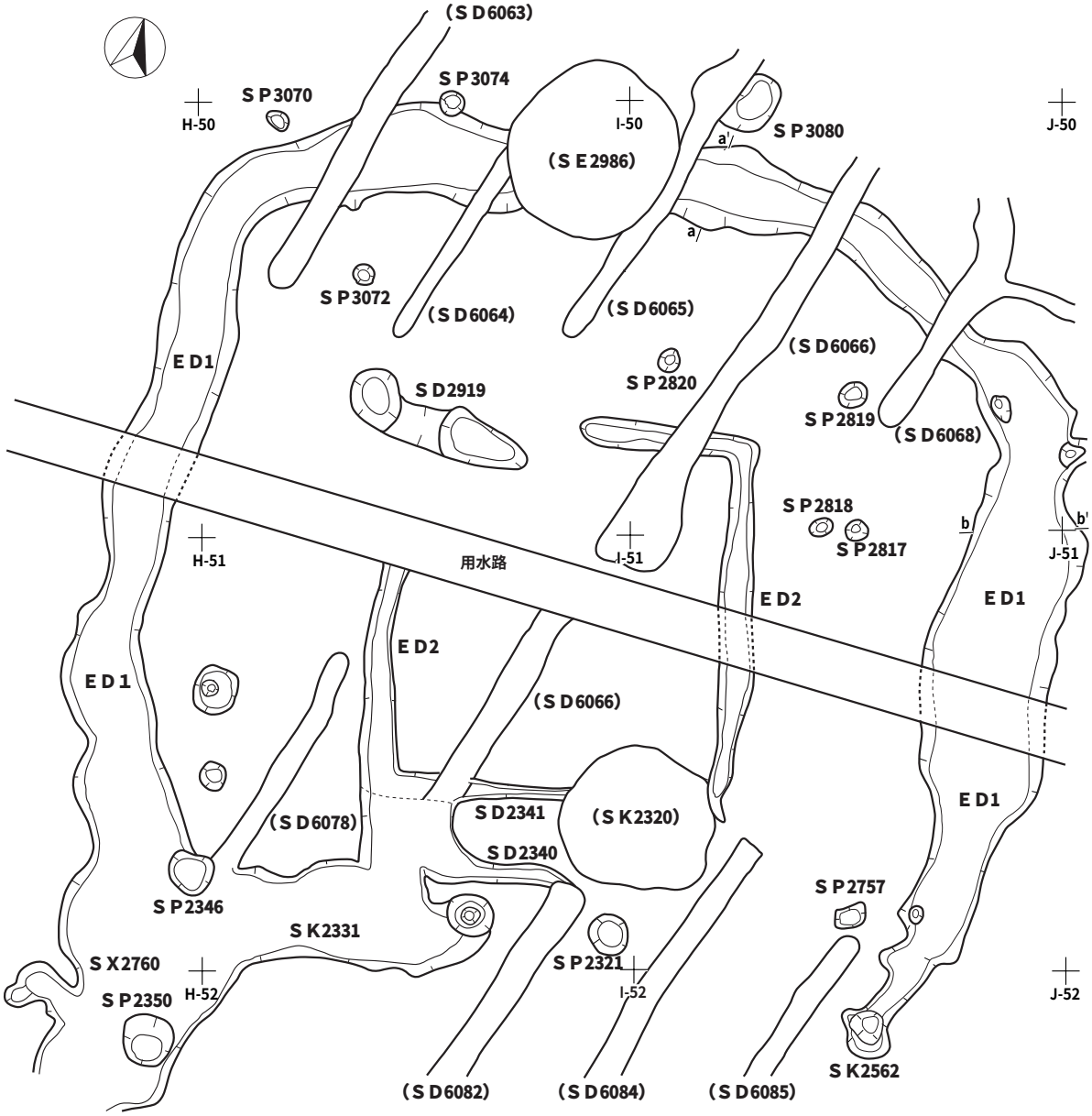
1. 2.5Y2/1黒色シルト　しまりあり。2.5Y5/1シルトが2%混じる。
2. 2.5Y2/1黒色シルト　しまりあり。2.5Y5/1シルトがまだら状に35%混じる。

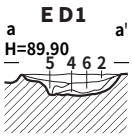
E P1・E P2

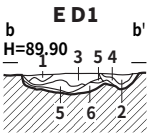
1. 2.5Y4/3オリーブ褐色細砂
2. 2.5Y3/1黒褐色シルト　固くしまる。5Y4/1微砂質シルトが粒状に15%混じる。
3. 5Y3/1オリーブ黒色シルト　固くしまる。ほぼ均質。
4. 5Y4/2灰オリーブ色微砂質シルト　5Y3/1シルトが7%混じる。
5. 5Y2/1黒色粘質シルト　しまりあるが軟弱。上部に5Y5/1微砂質シルトが塊状に混入。
6. 5Y2/1黒色粘質シルト　しまっている。ほぼ均質。
7. 5Y5/1灰色微砂質シルト　やや軟弱。均質。

0　4m
1：80

第42図　S C 5001





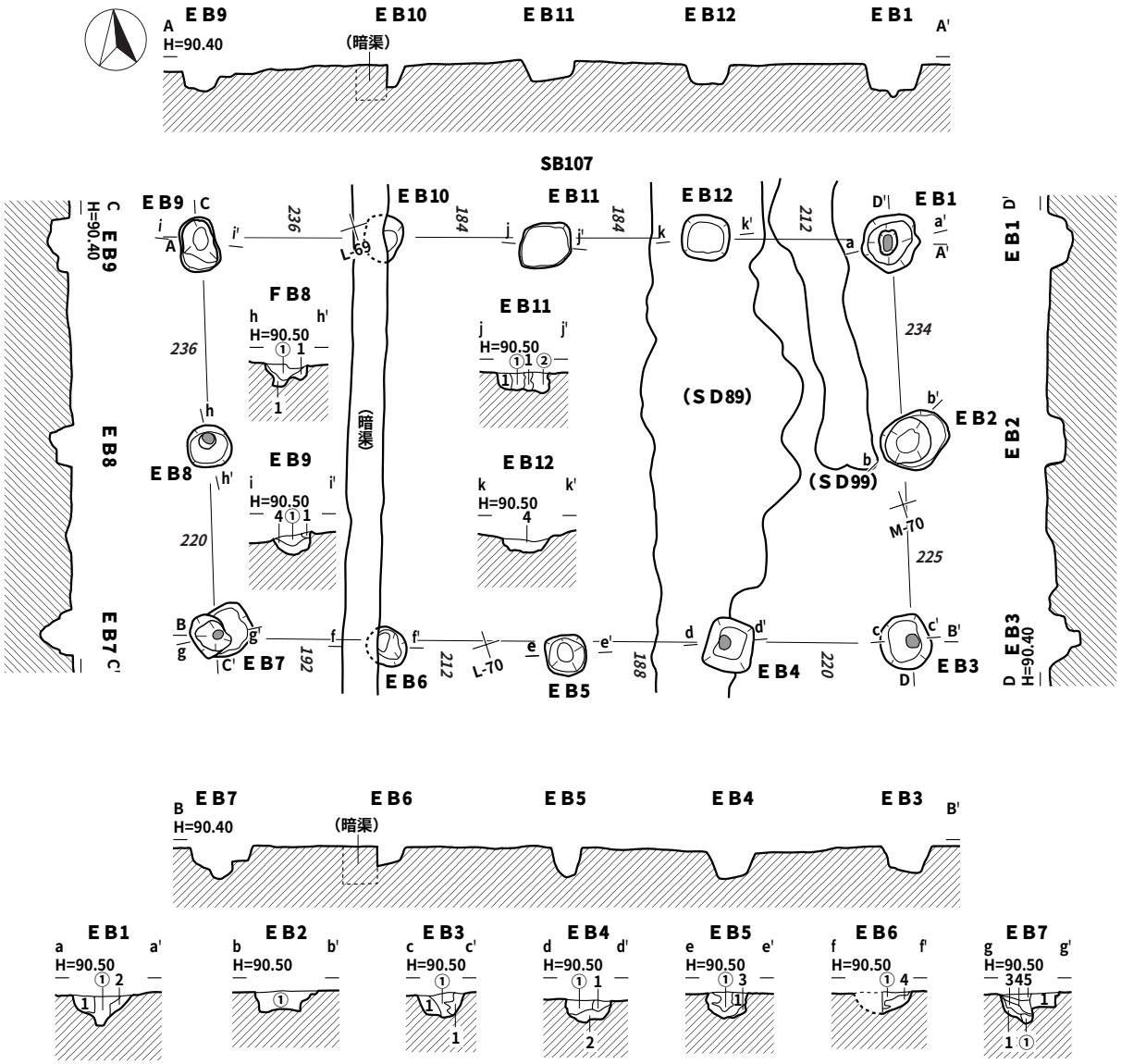


ＳＣ5002
ＥＤ1

1.	2.5Y2/1黒色シルト	かたくしまる。ほぼ均質。
2.	10YR2/1黒色シルト	かたくしまる。
3.	5Y2/1黒色シルト	かたくしまる。5Y4/1シルトが3%混じる。
4.	5Y3/1オリーブ黒色粘質シルト	しまりあり。5Y4/1シルトがまだら状に5%混じる。
5.	5Y4/1灰色粘質シルト	しまりあり。ねばりあり。5Y3/1シルトが30%混じる。
6.	7.5GY5/1緑灰色粘質シルト	しまりあり。ねばりあり。ほぼ均質。

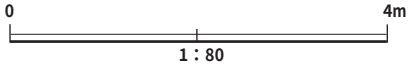
0　4m
1：80

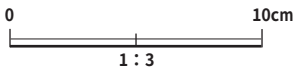
第43図　ＳＣ5002



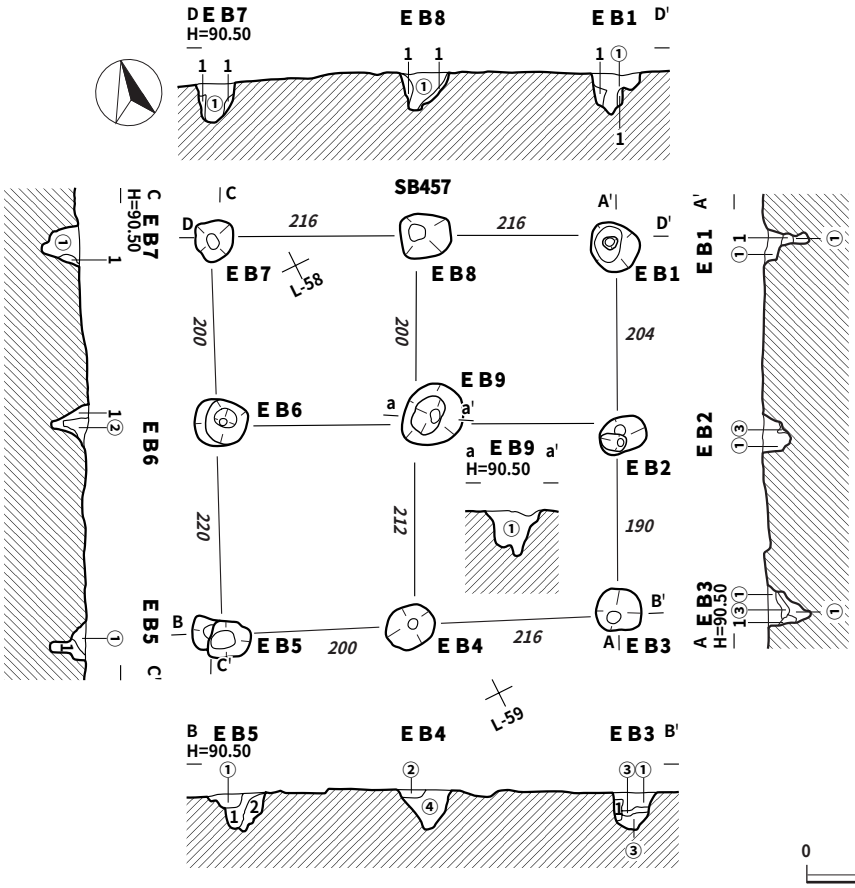
S B107

1.	5Y6/1灰色砂質粘土	黒褐色シルトがブロック状にまだらに混じる。（掘り方埋め土）
2.	5Y6/2灰オリーブ色砂質粘土	黒褐色シルトブロックが30%まだらに混じる。
3.	10YR2/2黒褐色砂質シルト	ほぼ均質。1よりねばりあり。
4.	5Y6/1灰色砂質粘土	黒褐色シルトが粒状に混じる。
5.	10YR2/2黒褐色砂質シルト	ほぼ均質。
①.	10YR2/2黒褐色砂質シルト	均質。アタリ。
②.	10YR2/2黒褐色砂質シルト	灰色砂質粘土粒が10%混じる。





第44図　S B107/S B672出土遺物



S B457

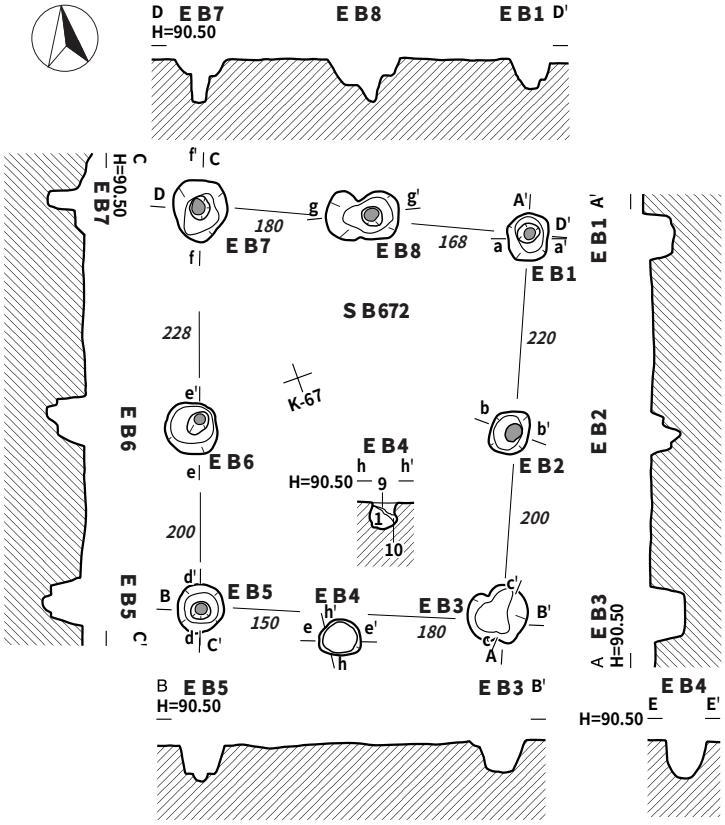
1. 5Y6/2灰オリーブ色粘土
黒褐色粘土質シルトブロックがまだらに20%混じる。掘り方。
2. 5Y5/1灰色粘土質小礫
微量の黒褐色シルトブロックがまだらに混じる。掘り方埋め土。

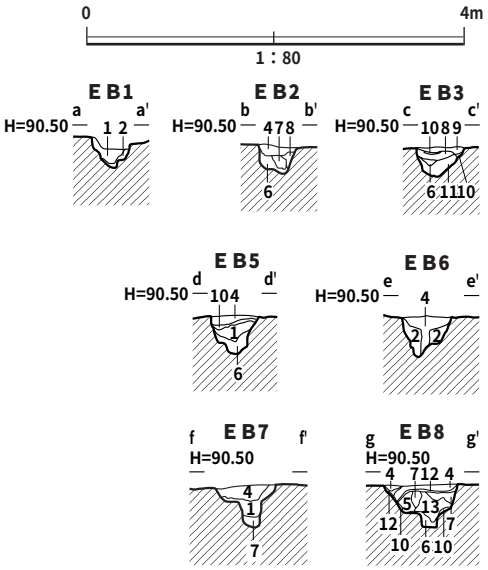
①. 10YR2/2黒褐色粘土質シルト
5YR7/1灰白色粘土粒がわずかに混じる。

②. 10YR2/3黒褐色砂質シルト
灰色粘土が粒状にわずかに混じる。

③. 10YR2/2黒褐色粘土質シルト
灰白色粘土粒が10%混じる。

④. 10YR2/3黒褐色砂質シルト
灰白色粘土ブロックが20%まだらに混じる。

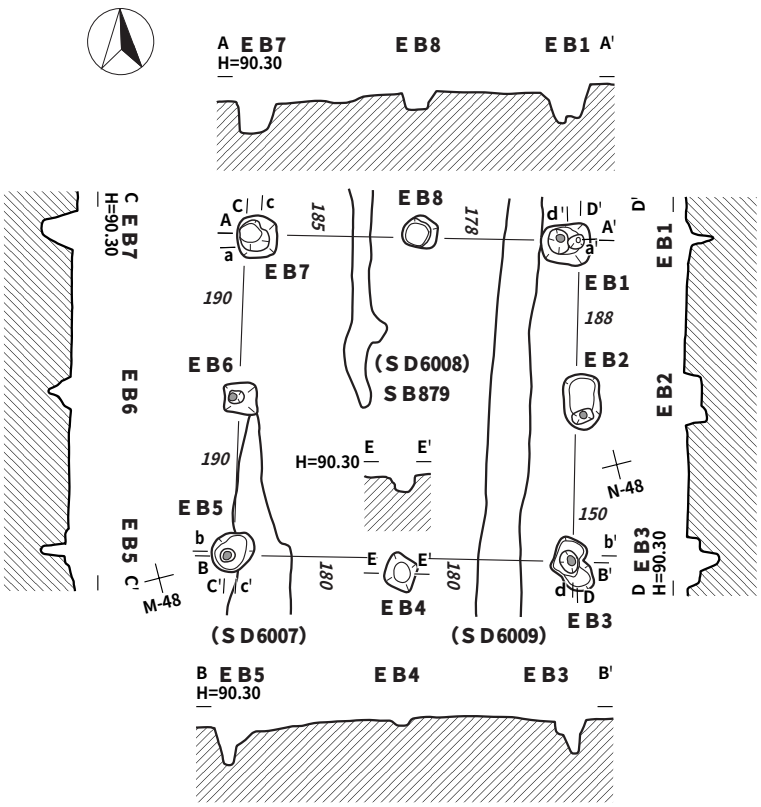


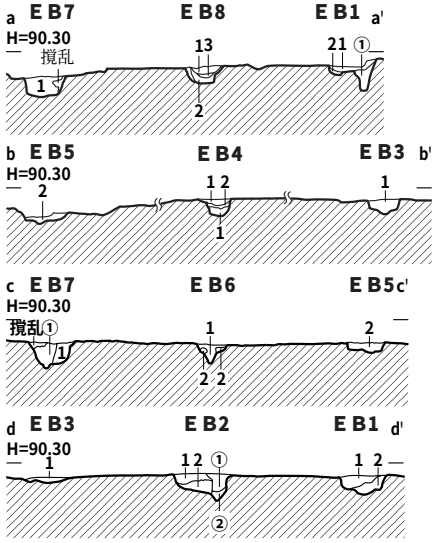


S B672

1. 10YR3/3暗褐色砂質シルト
2. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト
3. 10YR2/1黒褐色粘土混じりシルト
4. 10YR2/2黒褐色砂質シルト
5. 10YR3/1黒褐色粘土質シルト
6. 10YR2/1黒褐色シルト質粘土
7. 10YR3/4暗褐色粘土質シルト
8. 10YR4/4褐色粘土質シルト
9. 10YR2/3黒褐色砂質シルト
10. 10YR6/6明黄色微砂
11. 10YR2/3黒褐色砂質シルト
12. 10YR5/2灰黄色微砂
13. 10YR3/2黒褐色砂質シルト

第45図　S B457・S B672



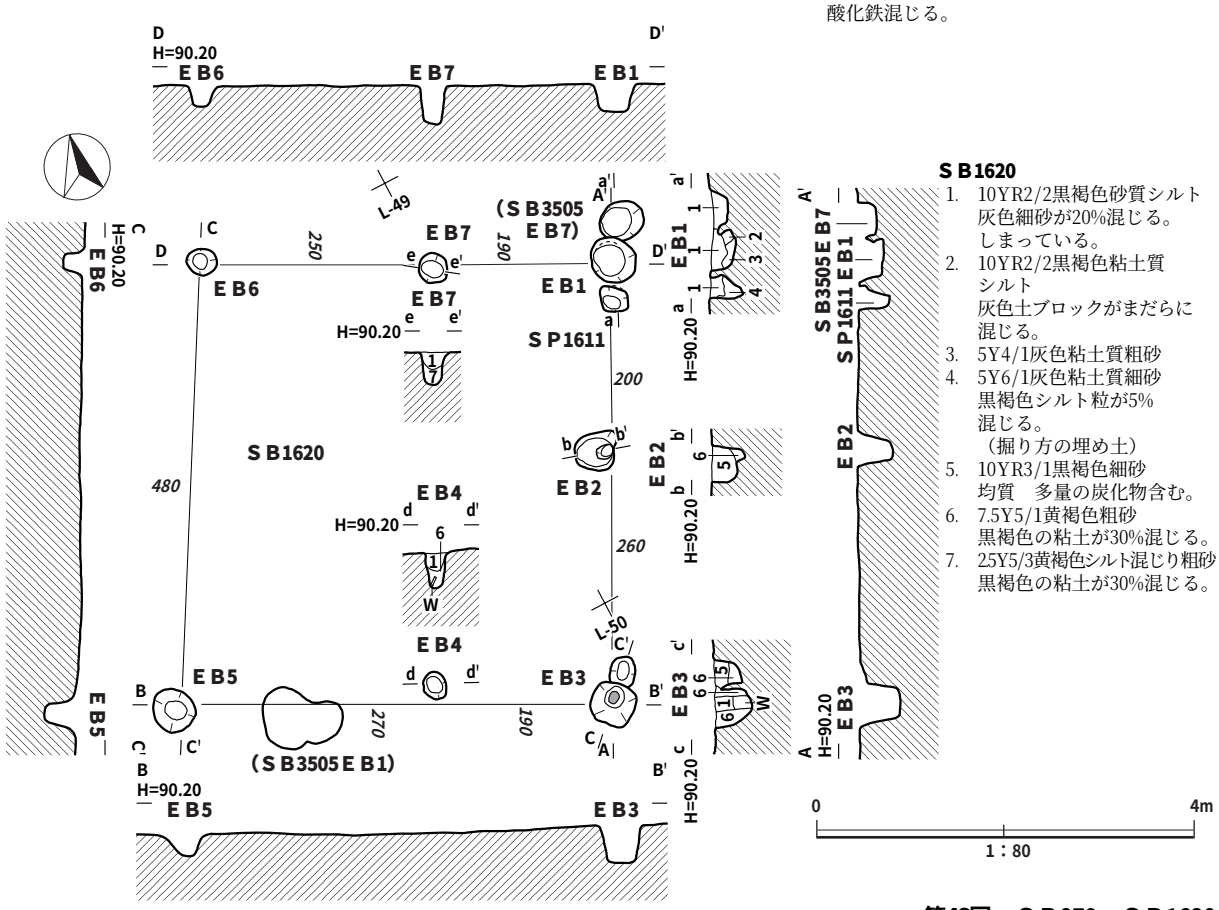


SB879

1. 10YR2/2黒褐色砂質シルト
   微量の褐灰色微砂質粘土粒が混じる。
2. 10YR2/2黒褐色砂質シルト
   褐灰色微砂質粘土粒ブロックがまだらに20%混じる。
3. 10YR2/2シルト質粘土
   酸化鉄がまだらに混じる。

①. 10YR2/1黒色粘土
   礫混じる。酸化鉄混じる。10GY4/1暗緑灰細砂質粘土が粒状に3%混じる。

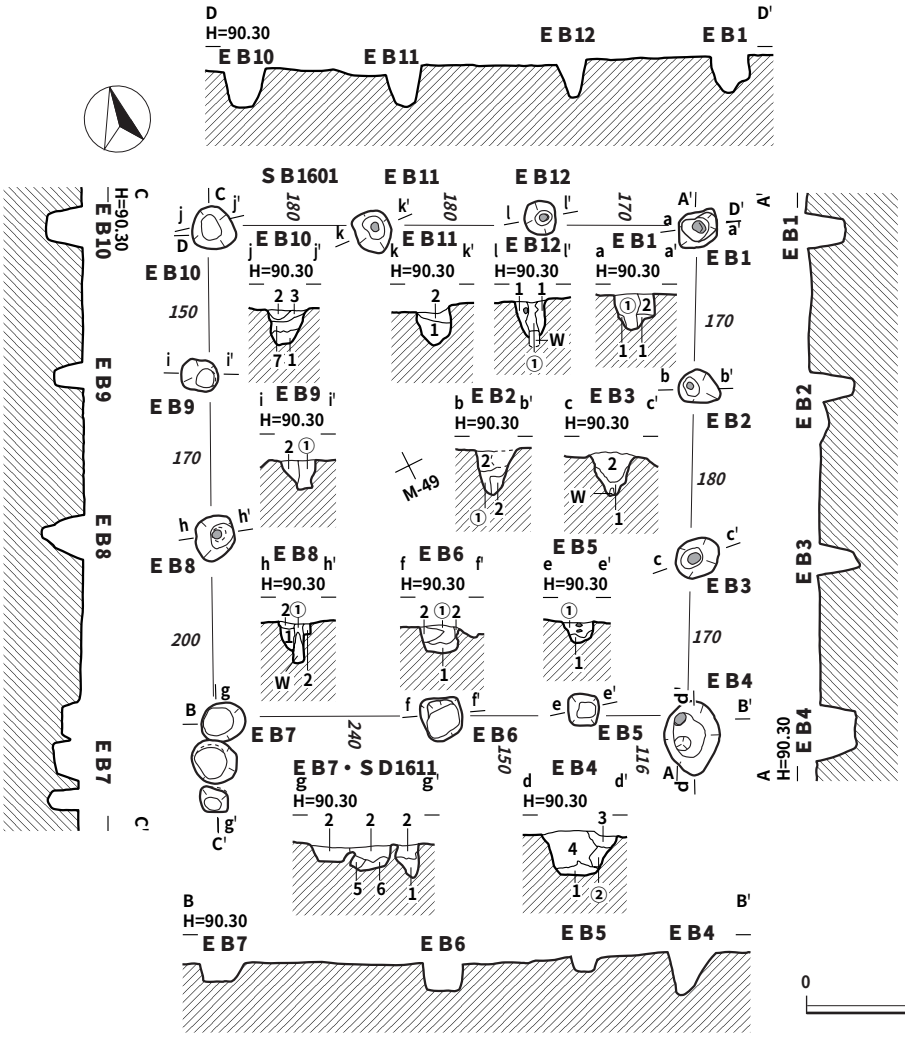
②. 10YR5/1褐灰色微砂質粘土
   酸化鉄混じる。



SB1620

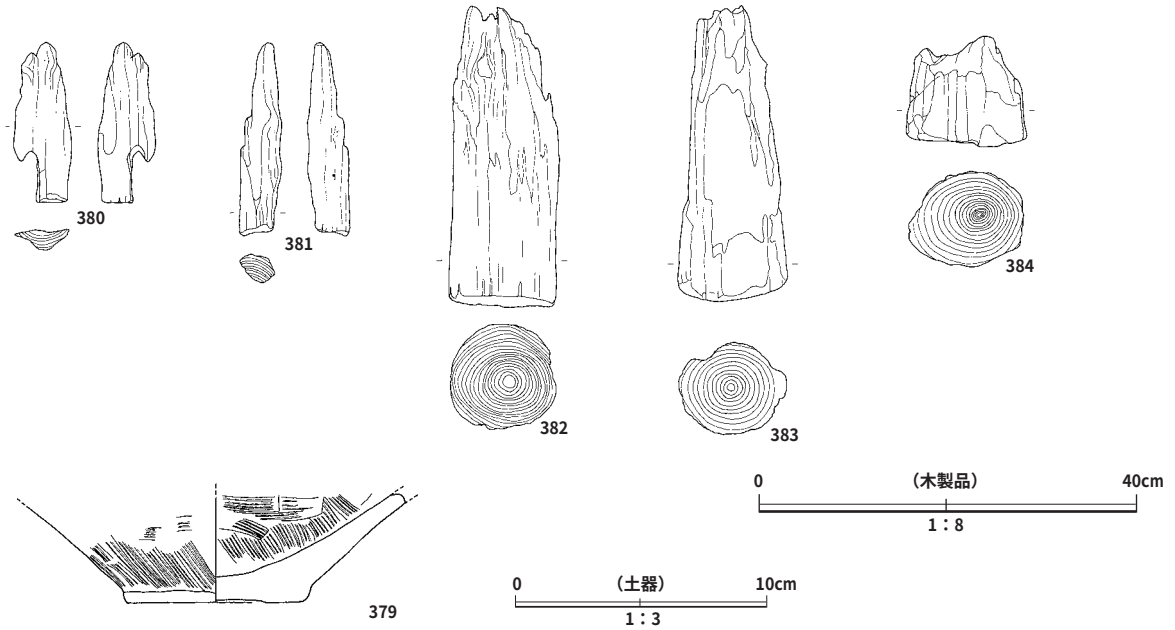
1. 10YR2/2黒褐色砂質シルト
   灰色細砂が20%混じる。
   しまっている。
2. 10YR2/2黒褐色粘土質シルト
   灰色土ブロックがまだらに混じる。
3. 5Y4/1灰色粘土質粗砂
4. 5Y6/1灰色粘土質細砂
   黒褐色シルト粒が5%混じる。
   （掘り方の埋め土）
5. 10YR3/1黒褐色細砂
   均質　多量の炭化物含む。
6. 7.5Y5/1黄褐色粗砂
   黒褐色の粘土が30%混じる。
7. 25Y5/3黄褐色シルト混じり粗砂
   黒褐色の粘土が30%混じる。

第46図　SB879・SB1620

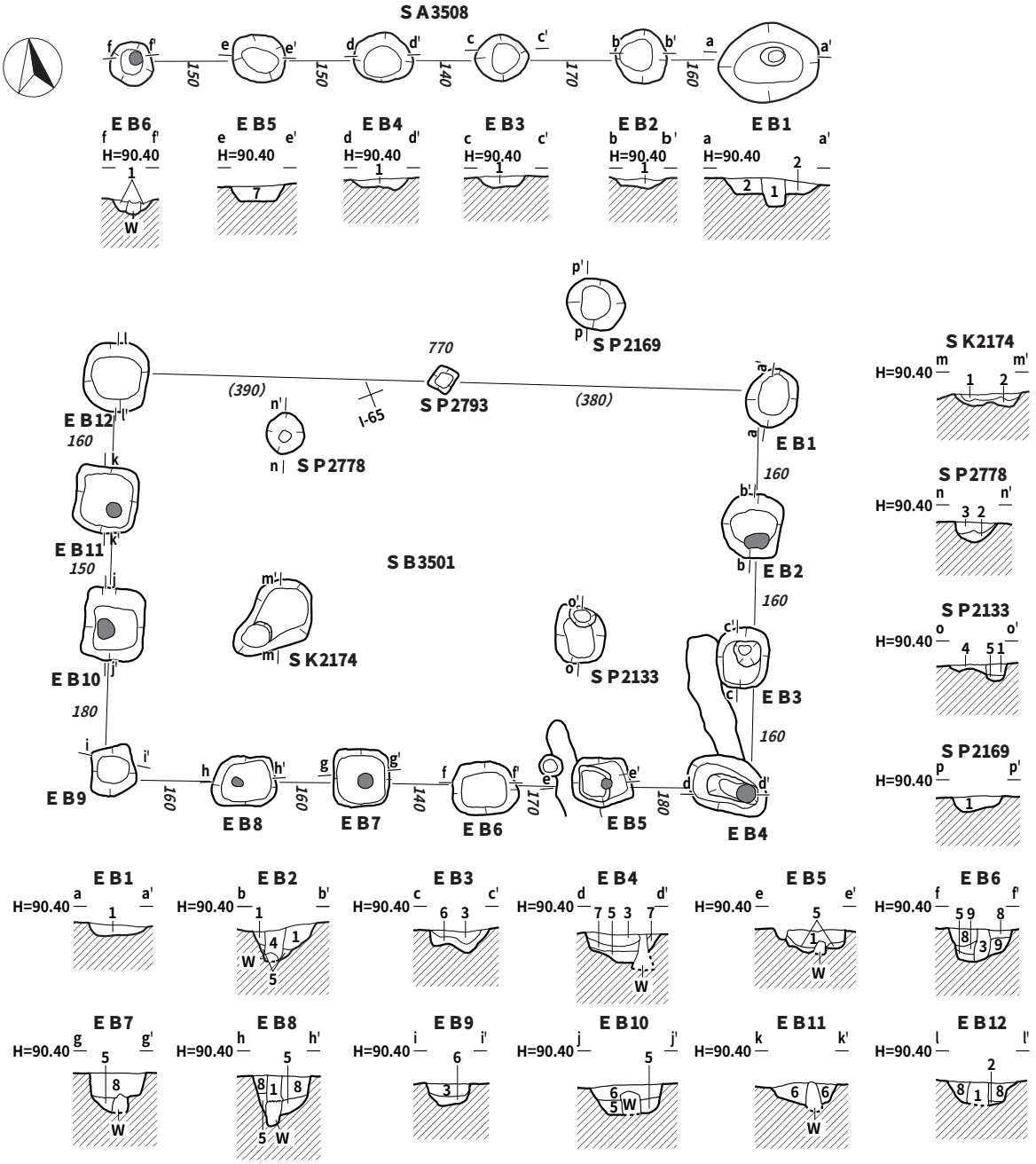


S B1601

1. 5Y6/1灰色粘土質細砂
黒褐色シルト粒が5%混じる。
（掘り方の埋め土）
2. 10YR2/2黒褐色砂質シルト
灰色細砂が20%混じる。
しまっている。
3. 10YR2/2黒褐色砂質シルト
均質。
4. 10YR2/2黒褐色砂質シルト
微量の灰色土が混じる。
5. 10YR2/2黒褐色粘土質シルト
灰色土ブロックがまだらに混じる。
6. 5Y4/1灰色粘土質粗砂
7. 10YR2/2黒褐色粘土質シルト
灰色細砂が40%混じる。
①. 10YR2/2黒褐色粘土質シルト
（アタリ）
②. 10YR2/2黒褐色砂質シルト
灰色土がまだらに混じる。
もろい。（アタリか）



第47図　S B1601/S B1601・S B879出土遺物



S B3501・S A3508

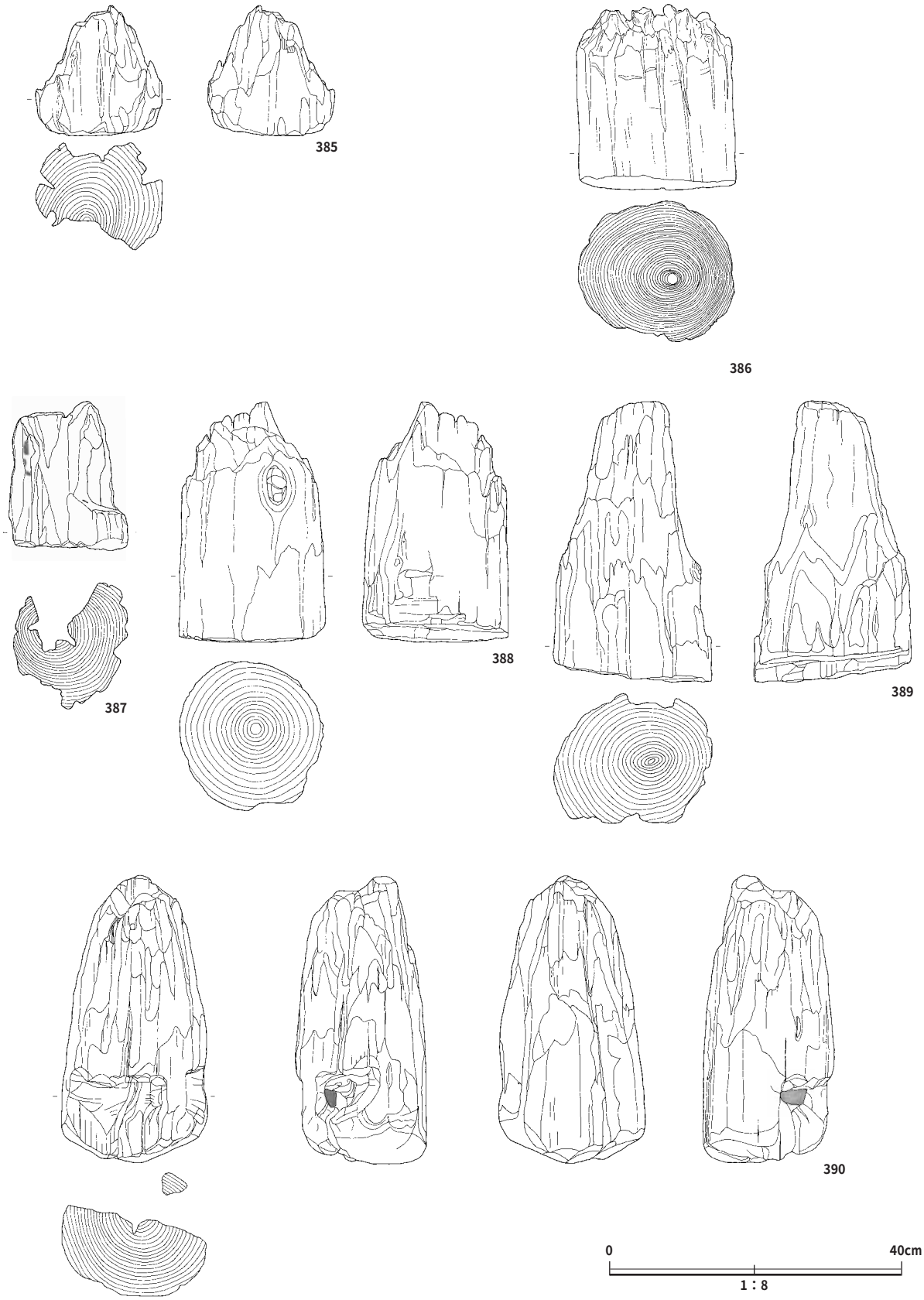
1. 10YR2/1黒色砂質シルト　固くしまる。2.5Y5/1微砂質シルトがブロック状に混じる。径5～50mmの礫が少量混じる。
2. 10YR2/1黒色砂質シルト　ねばりあり。
3. 10YR2/2黒褐色砂質シルト　しまりあるがもろい。径5～40mmの礫が多く混じる。
4. 10YR2/1黒色シルト　しまりなし。くずれやすい。
5. 2.5Y5/1黄灰色微砂質シルト　しまりあり。均質。
6. 10YR1.7/1黒色シルト　しまりあり。微量の2.5Y5/2微砂質シルトが混じる。
7. 10YR3/2黒褐色砂質シルト　しまりあり。径5～50mmの礫が混じる。
8. 10YR3/1黒褐色砂質シルト　しまりあるがくずれやすい。径5～50mmの礫が多く混じる。
9. 10YR3/3暗褐色砂質シルト　しまりあるがくずれやすい。径5～30mmの礫が混じる。

S K2174・SP2133・SP2169・SP2778

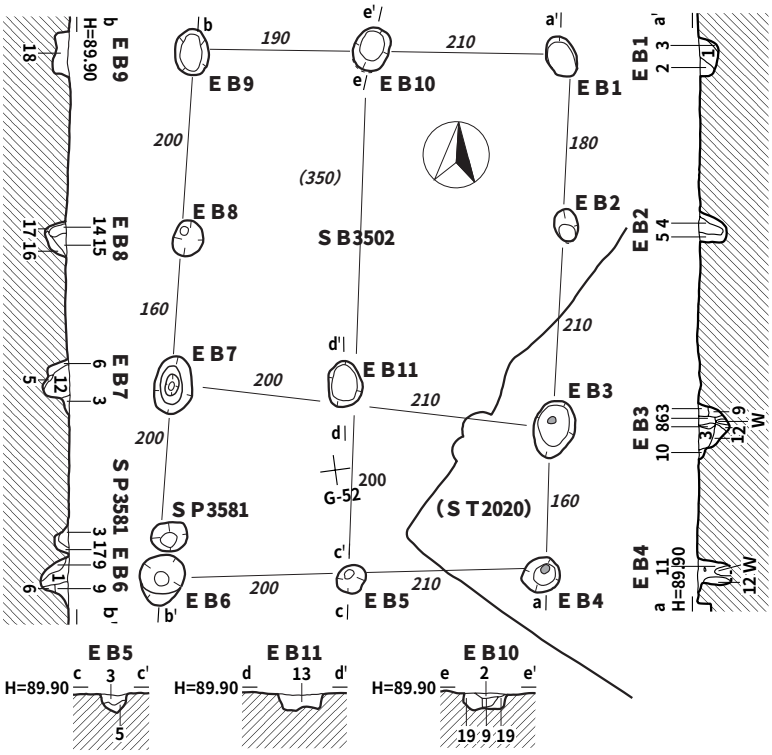
1. 10YR2/1黒色砂質シルト
2. 2.5Y3/2黒褐色シルト
3. 2.5Y3/1黒褐色砂質シルト
4. 2.5Y5/1黄灰色微砂質シルト
5. 2.5Y5/2暗灰黄色細砂

0　4m
1：80

第48図　S B3501・S A3508

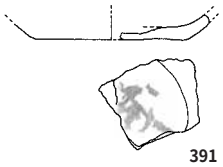


第49図　ＳＢ3501出土遺物



S B3502

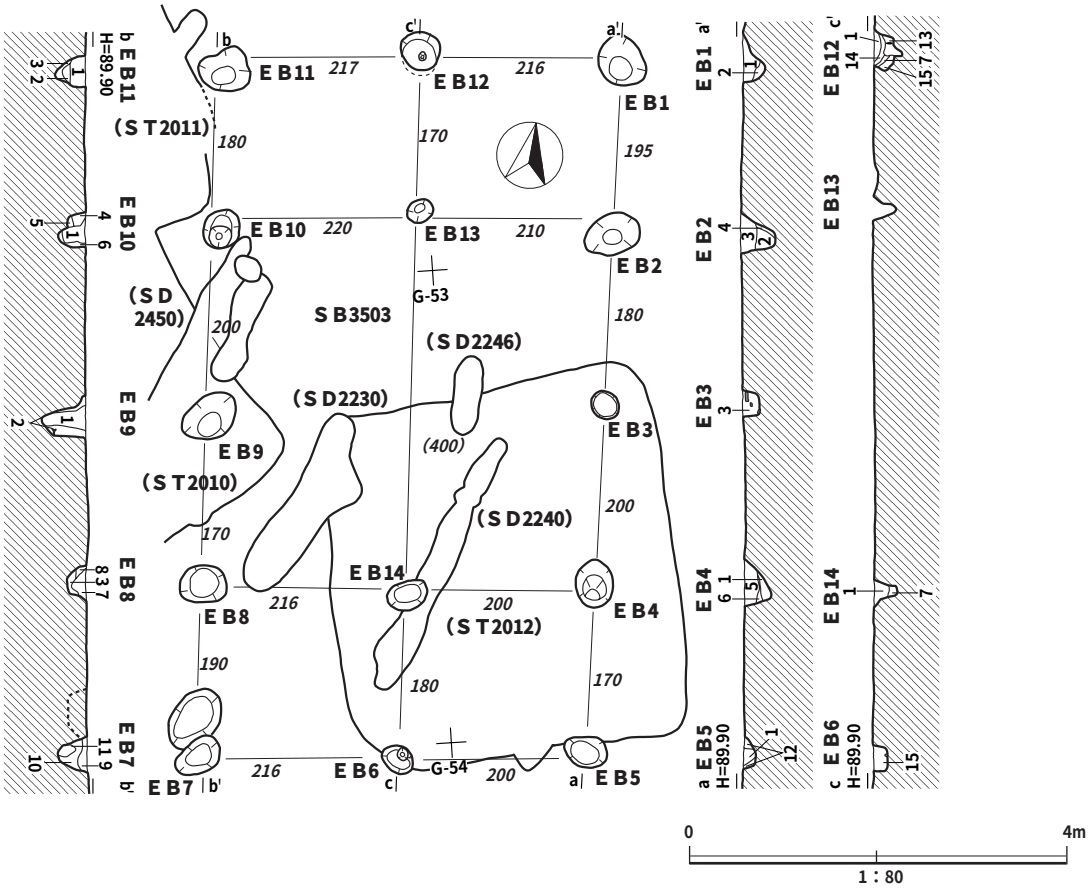
1.	10YR2/1黒色シルト	固くしまる。均質。
2.	2.5Y5/2暗灰黄色シルト	しまりあり。10YR2/1シルトがまだら状に20%混じる。
3.	5Y3/1オリーブ黒色シルト	固くしまる。10YR5/2シルトがまだら状に30%混じる。
4.	10YR2/1黒色シルト	しまりあり。5Y5/2微砂が中央に層状に混じる。
5.	5Y5/2灰オリーブ色微砂	しまりあり。ほぼ均質。
6.	10YR1.7/1黒色シルト	固くしまる。ほぼ均質。
7.	5YR3/1黒褐色シルト	しまりあるが軟弱。ねばりあり。
8.	10YR5/2オリーブ灰色シルト	ややしまりあり。炭化粒を含む。
9.	5Y4/2灰オリーブ色微砂質シルト	しまりあり。微量の5Y3/1シルトが混じる。
10.	5Y3/2オリーブ黒色シルト	固くしまる。微量の5Y5/1シルトが混じる。
11.	10YR3/1黒褐色シルト	固くしまる。微量の2.5Y5/1微砂質シルトが混じる。
12.	2.5Y3/1黒褐色シルト	固くしまる。ややねばりあり。2.5Y5/1微砂質シルトがブロック状に混じる。
13.	7.5Y4/1灰色シルト	しまりあり。均質。
14.	10YR4/2灰黄褐色シルト	固くしまる。ねばりなし。2.5Y4/1シルトが30%混じる。
15.	5Y4/1灰色微砂質シルト	しまりあり。ねばりなし。5Y2/1シルトがブロック状に10%混じる。
16.	N2/0黒色粘質シルト	ねばりあり。少量の5Y4/1シルトが混じる。
17.	5Y5/1灰色シルト	しまりあり。少量の5Y3/1シルトがまだら状に混入。
18.	5Y2/1黒色シルト	しまりあり。ねばりなし。ほぼ均質。
19.	7.5Y5/2灰オリーブ色微砂質シルト	しまりあり。2.5Y2/1シルトが層状に混じる。



0 10cm
1：3

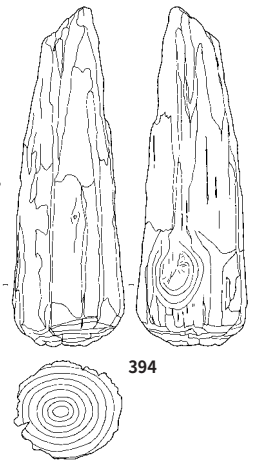
0 4m
1：80

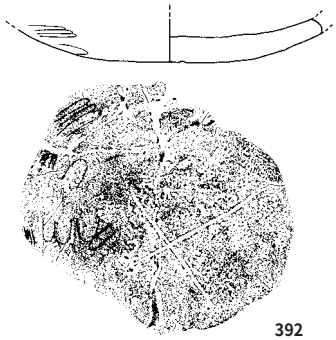
第50図　S B3502/S B3502出土遺物

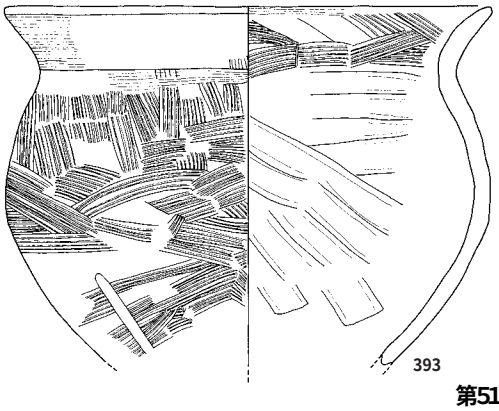


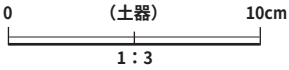
S B3503

1. 5Y2/1黒色シルト　固くしまる。ねばりなし。7.5Y4/1シルトがまだら状に15%混じる。
2. 5Y4/1灰色微砂質シルト　しまりあり。ほぼ均質。
3. 10YR3/1黒褐色シルト　固くしまる。ねばりなし。2.5Y4/1シルトがブロック状に10%混じる。
4. 5Y3/1オリーブ黒色シルト　固くしまる。ねばりなし。7.5Y5/1微砂質シルトが30%混じる。
5. 2.5Y2/1黒色シルト　固くしまる。2.5Y5/1シルトがブロック状に10%混じる。
6. 5Y5/2灰オリーブ色シルト　固くしまる。10YR2/1シルトがブロック状に30%混じる。
7. 5Y2/2オリーブ黒色シルト　しまりあり。微量の10YR4/2が混じる。
8. 7.5YR2/2黒褐色粘質シルト　しまりあり。少しねばりあり。微量の5Y4/1シルトが混じる。
9. 7.5Y5/1灰色微砂質シルト　固くしまる。ねばりなし。ほぼ均質。
10. 7.5Y4/1灰色シルト　固くしまる。ねばりなし。5Y2/1シルトが粒状あるいはブロック状に混じる。
11. 10YR2/1黒色シルト　しまりあり。5Y4/1微砂質シルトがブロック状に15%混じる。
12. 5Y4/2灰オリーブ色シルト　しまりあり。微量の5Y3/2シルトが混じる。
13. 5Y3/2オリーブ黒色シルト　しまりあり。微量の5Y4/2シルトが混じる。
14. 7.5Y3/2オリーブ黒色シルト　しまりあり。5Y4/2シルトがまだら状に混じる。
15. 2.5Y3/1黒褐色シルト　しまりあり。10YR4/2シルトがまだら状に25%混じる。

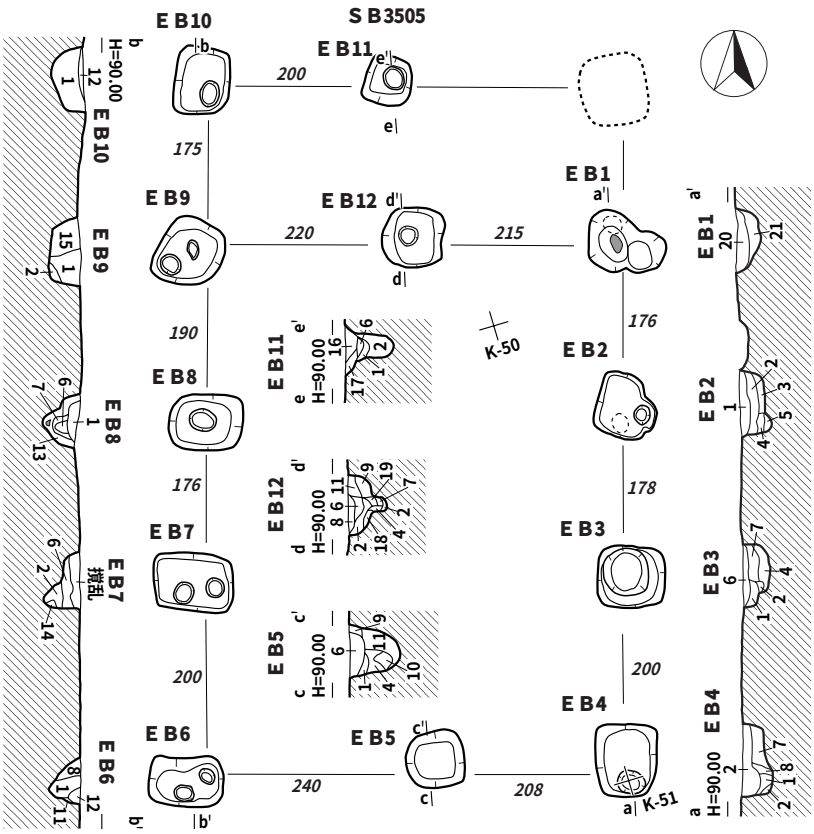






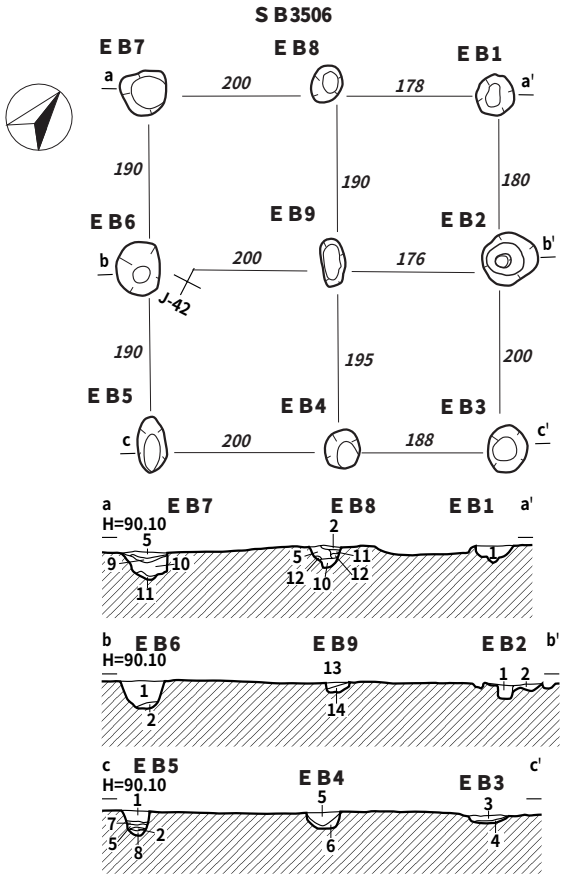


第51図　S B3503/S B3503出土遺物



S B3505

1. 5Y2/1黒色シルト
しまりあり。5Y4/2シルトが7%混じる。
2. 5Y3/1オリーブ黒色シルト
しまりあり。2.5Y5/1シルトが10%混じる。
3. 10Y2/1黒色粘質シルト
ねばりあり。均質。
4. 7.5Y4/1灰色微砂質シルト
5. 5GY5/1オリーブ灰色微砂質シルト
しまりあり。5Y3/1粘質シルトが2%混じる。
6. 2.5Y2/1黒色シルト
しまりあり。2.5Y5/1微砂質シルトがブロック状に25%混じる。
7. 5Y4/1灰色シルト　しまりあり。
8. 2.5Y3/1黒褐色シルト
しまりあり。5YR4/2シルトがブロック状に15%混じる。
9. 7.5Y5/2灰オリーブ色シルト
しまりあり。2.5Y2/1シルトがまだら状に10%混じる。
10. 7.5Y2/2オリーブ黒色粘質シルト
しまりあり。7.5Y4/1シルトがまだら状に3%混じる。
11. 5Y4/2灰オリーブ色シルト
しまりあり。5Y2/2シルトが10%混じる。
12. 5Y2/2オリーブ黒色シルト
しまりあり。5Y4/2シルトが粒状に2%混じる。
13. 5Y3/2オリーブ黒色シルト
しまりあり。5Y5/1微砂質シルトがブロック状に25%混じる。
14. 7.5Y5/1灰色微砂質シルト
15. 2.5Y4/1黄灰色微砂質シルト
しまりあり。5Y2/1シルトが20%混じる。
16. N1.5/0黒色シルト　均質。
17. 7.5Y2/1黒色シルト　しまりあり。均質。
18. N2/0黒色粘質シルト
しまりあり。均質。
19. 14層土に5Y4/2シルトがまだら状に3%混じる。
20. 10YR2/3黒褐色砂質シルト　灰色粘土粒がまだら状に5%混じる。
21. 7.5Y5/1灰色砂質粘土　黒褐色粘土がまだら状に10%混じる。

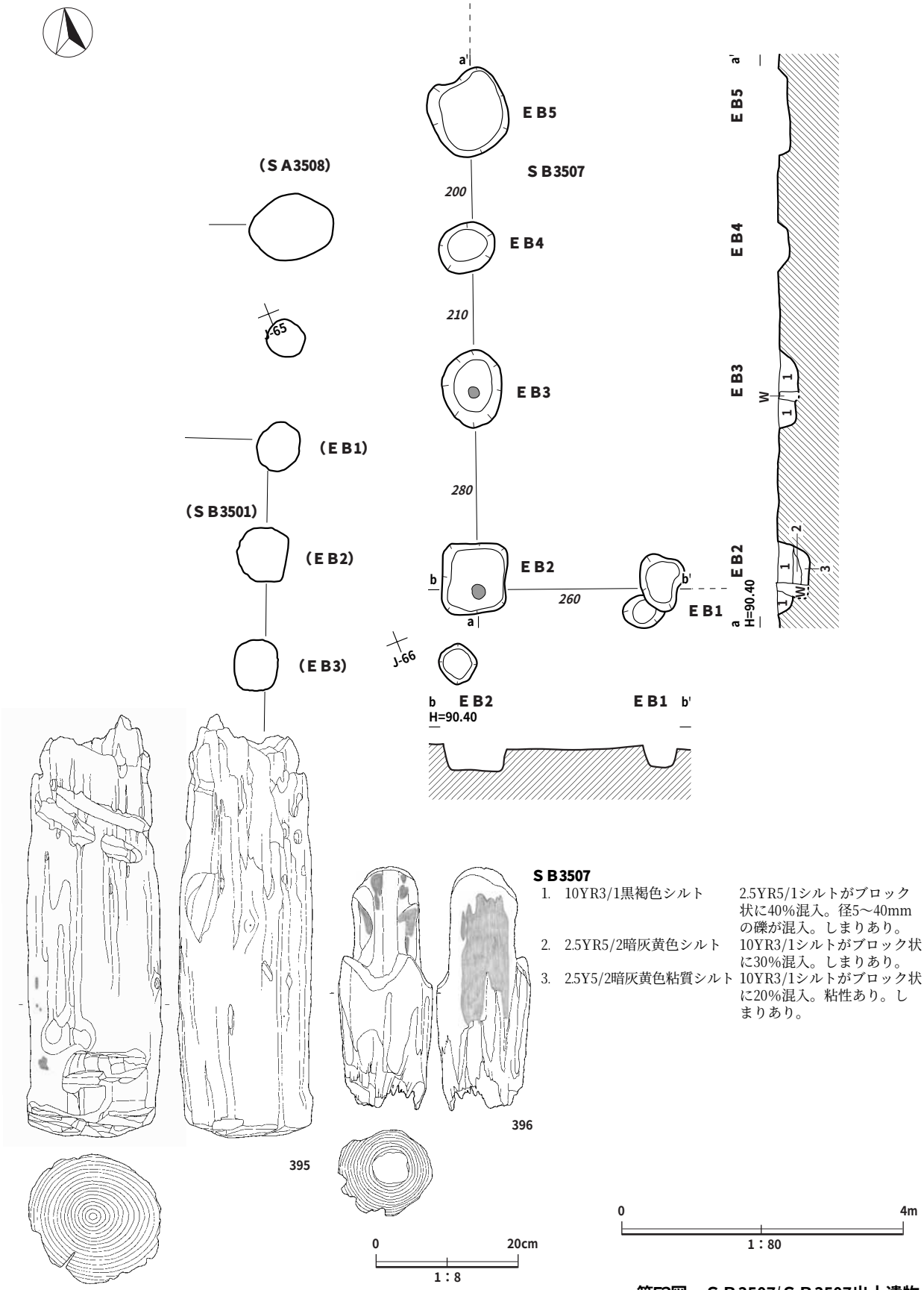


S B3506

1. 2.5Y2/1黒色シルト　しまりあり。5Y5/2微砂質シルトが径3mmの粒状に混じる。
2. 5Y5/2灰オリーブ色微砂質シルト　しまりあり。ややねばりあり。
3. 2.5Y4/2暗灰黄色微砂質シルト　ややしまりあり。上部に10Y1.7/1シルトが10%混じる。
4. 10YR1.7/1黒色シルト
5. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト　しまりあり。5Y5/2微砂質シルトがまだら状に5%混じる。
6. 5Y4/1灰色微砂質シルト　しまりあり。1層土がまだら状に10%混じる。
7. 5Y3/2オリーブ黒色シルト　しまりあり。5Y5/2微砂質シルトがブロック状に30%混じる。
8. 5Y2/1黒色粘質シルト　しまりあり。ねばりあり。
9. 5Y5/3灰オリーブ色微砂質シルト　固くしまる。2.5Y4/1砂質シルトがブロック状に30%混じる。
10. 5Y3/1オリーブ黒色粘質シルト　しまりあり。ややねばりあり。7.5Y5/2シルトがブロック状に20%混じる。
11. 2.5Y4/1黄灰色シルト　しまりあり。2.5Y3/1シルトが塊状に10%混じる。
12. 7.5Y5/2灰オリーブ色微砂質シルト　しまりあり。
13. 2.5Y3/1黒褐色シルト　しまりあり。5Y5/2微砂質シルトがブロック状に5%混じる。
14. 5Y3/2オリーブ黒色シルト　しまりあり。5Y5/2微砂質シルトが径5〜10mmの粒状に30%混じる。

0　4m
1：80

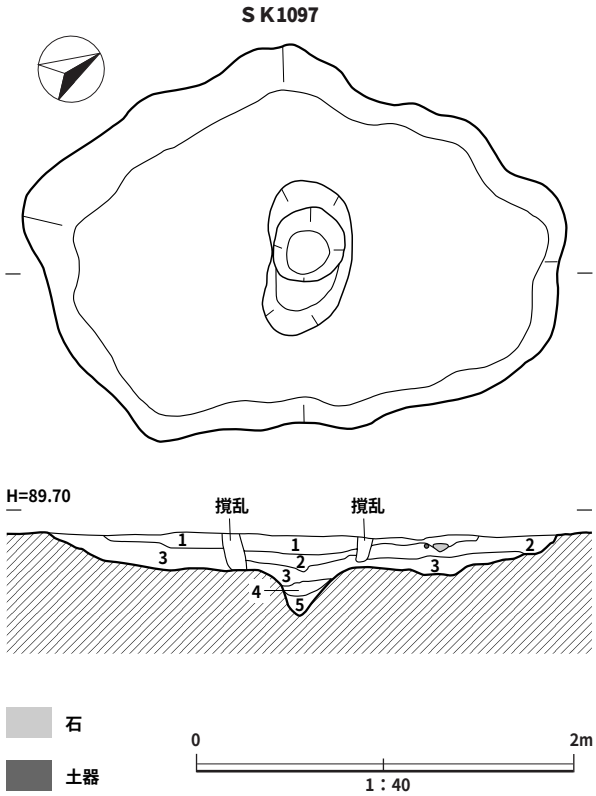
第52図　S B3505・S B3506

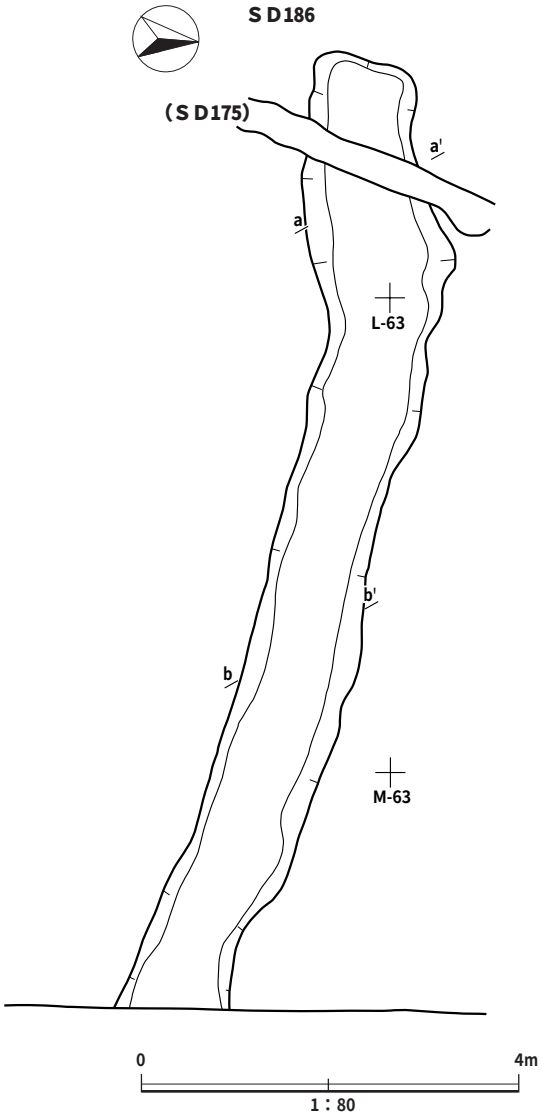


SB3507

1. 10YR3/1黒褐色シルト　2.5YR5/1シルトがブロック状に40%混入。径5～40mmの礫が混入。しまりあり。
2. 2.5YR5/2暗灰黄色シルト　10YR3/1シルトがブロック状に30%混入。しまりあり。
3. 2.5Y5/2暗灰黄色粘質シルト　10YR3/1シルトがブロック状に20%混入。粘性あり。しまりあり。

第53図　SB3507/SB3507出土遺物



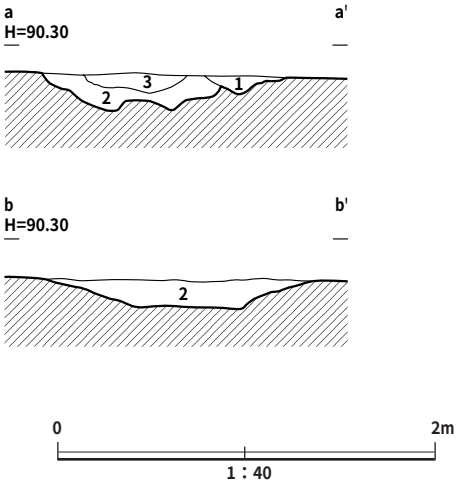


ＳＫ1097

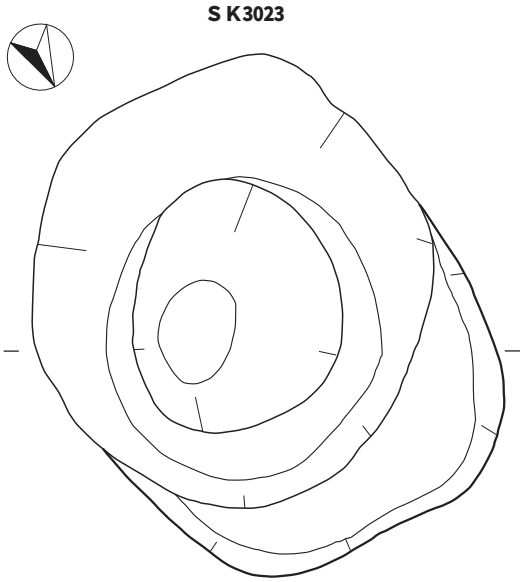
1.	2.5Y4/1黄灰色シルト	微量の焼土・炭化物が混じる。
2.	2.5Y3/1黒褐色シルト	多量の炭化物が混じる。
3.	10YR1.7/1黒色シルト	少しグライ化。
4.	7.5Y4/1灰色シルト	
5.	7.5Y4/1灰色シルト	微量の細砂が混じる。

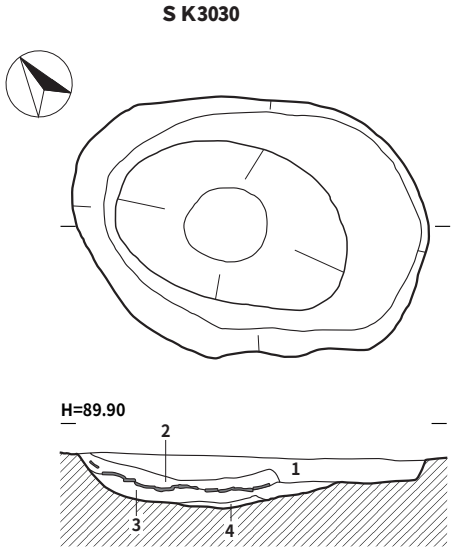
ＳＤ186

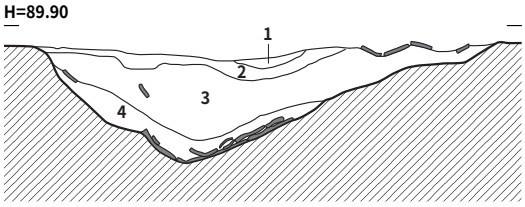
1.	10YR2/3黒褐色砂質シルト	黄褐色の酸化した土を微量含む。
2.	10YR2/2黒褐色砂質シルト	黄褐色の酸化した土を微量含む。
3.	5Y5/2灰オリーブ色粘土	黒褐色砂質シルトが混じる。



第54図　ＳＫ1097・ＳＤ186





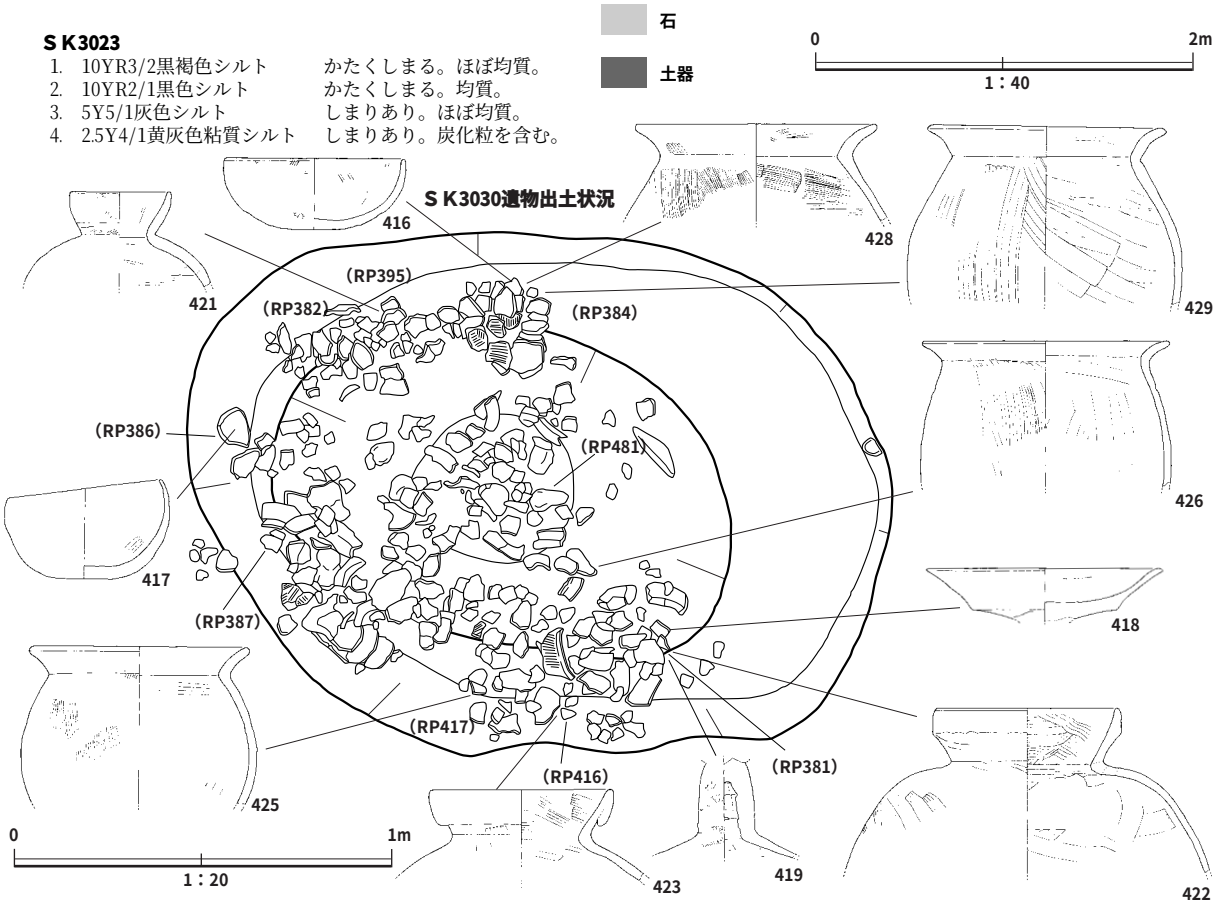


S K3030

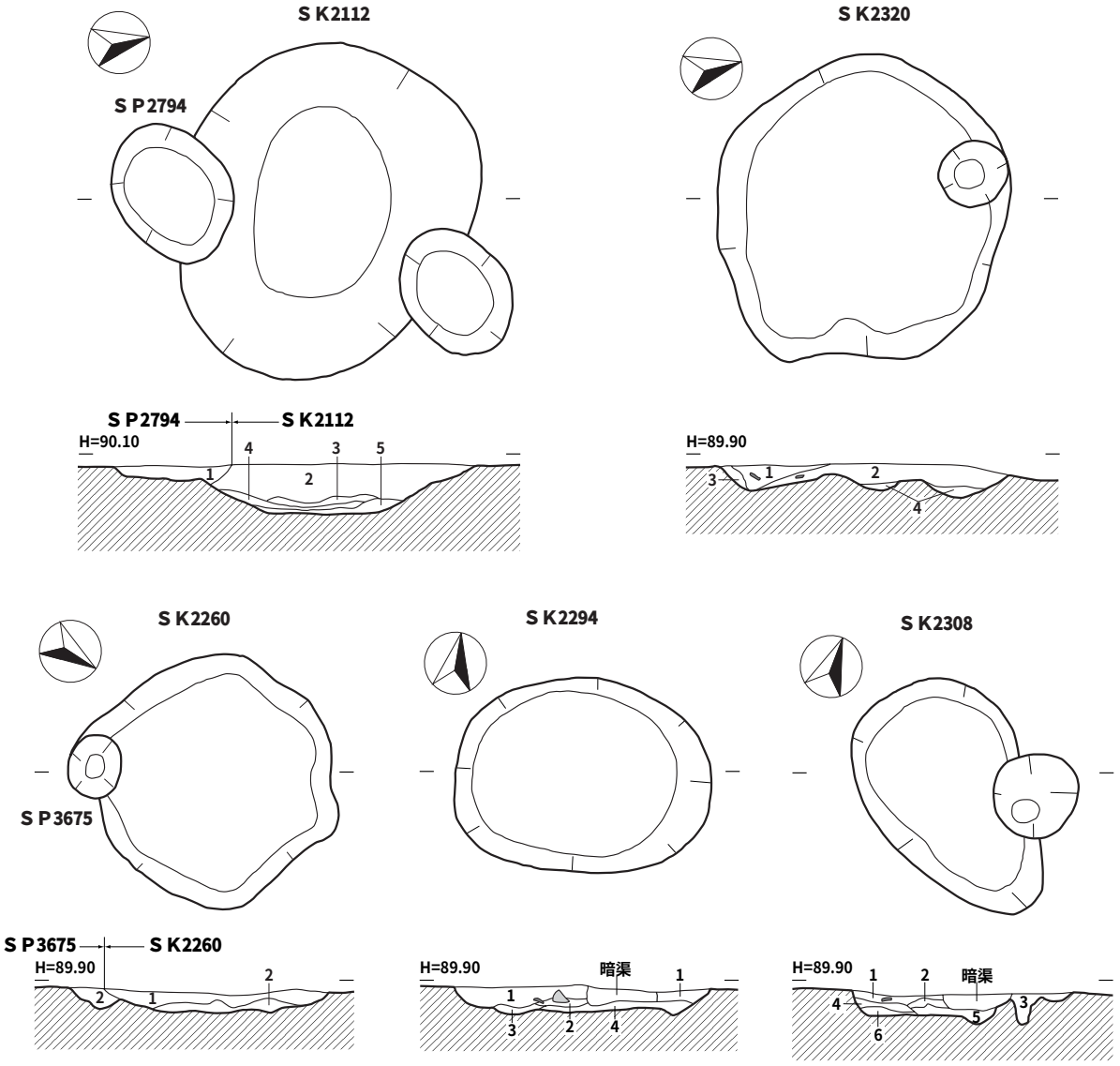
1.	5Y5/1灰色砂質シルト	しまっている。少量の粗砂含む。激しくグライ化。
2.	7.5Y3/1オリーブ黒色シルト	しまっている。ややねばりあり。炭化粒・焼土ブロックを含む。
3.	7.5Y4/1灰色粘質シルト	しまっている。ねばりあり。少量の炭化物を含む。
4.	5Y3/1オリーブ黒色粘質シルト	しまりなし。ねばりあり。多量の炭化物を含む。堆積土。

S K3023

1.	10YR3/2黒褐色シルト	かたくしまる。ほぼ均質。
2.	10YR2/1黒色シルト	かたくしまる。均質。
3.	5Y5/1灰色シルト	しまりあり。ほぼ均質。
4.	2.5Y4/1黄灰色粘質シルト	しまりあり。炭化粒を含む。



第55図　S K3023・S K3030/S K3030遺物出土状況



S K2112・S P2794

1. 2.5Y2/1黒色シルト　しまりあり。微量の砂を含む。
2. 10YR2/1黒色シルト　しまりあり。微量の砂を含む。1層よりややねばりあり。
3. 2.5Y4/1黄灰色砂　崩落土。
4. 5Y2/1黒色粘質シルト
5. 5Y4/2灰オリーブ砂

S K2320

1. 10YR3/1黒褐色シルト　しまりあり。ねばりなし。2.5Y4/2シルトが粒状に混じる。
2. 2.5Y3/1黒褐色シルト　しまりあり。ねばりなし。2.5Y4/2シルトが粒状に少量混じる。
3. 2.5Y4/2暗灰黄色シルト　しまりあり。ねばりなし。2.5Y3/1シルトがブロック状に混じる。
4. 5Y5/2灰オリーブ色微砂質シルト　しまりあり。ねばりなし。2.5Y3/1シルトが多量混じる。

S K2260・S P3675

1. 10YR2/1黒色シルト　しまっている。少量の砂を含む。
2. 10YR3/2黒褐色シルト　しまっている。

S K2294

1. 10YR3/1黒褐色微砂質シルト　少量の炭化物を含む。崩落土。
2. 5Y3/1オリーブ黒色砂質シルト　堆積土。
3. 5Y4/1灰色微砂質シルト
4. 2.5Y3/1黒褐色シルト　少量の炭化物を含む。

S K2308

1. 10YR3/1黒褐色砂質シルト　しまりあり。炭化粒と焼土ブロックを含む。
2. 10YR2/1黒色微砂質シルト　少量の炭化粒を含む。崩落土。
3. 5Y2/1黒色シルト
4. 2.5Y2/1黒色微砂質シルト　炭化物と焼土を含む。
5. 2.5Y3/1黒褐色砂質シルト　微量の炭化物を含む。
6. 2.5Y3/1黒褐色砂質シルト　少量の炭化物を含む。

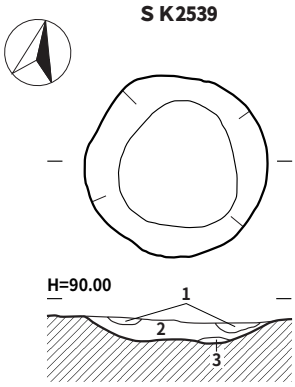
S K2539（次ページ左上）

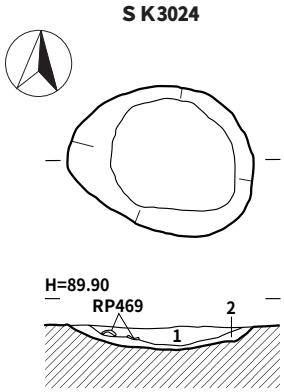
1. 10YR5/2灰黄褐色シルト　ややしまりに欠ける。耕作土。
2. 2.5Y3/1黒褐色シルト　しまっている。砂と径5mmの小礫を含む。下部に炭化物が堆積。
3. 2.5Y4/1黄灰色砂質シルト　ややねばりあり。

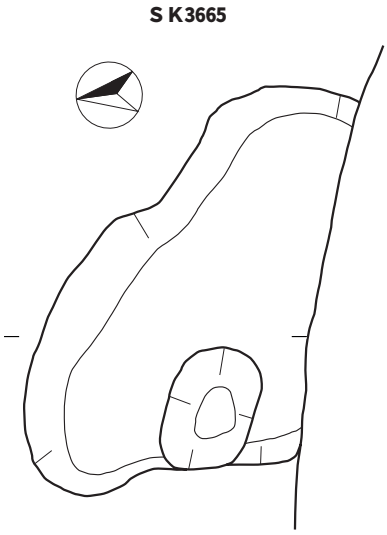
石　土器

0　2m
1：40

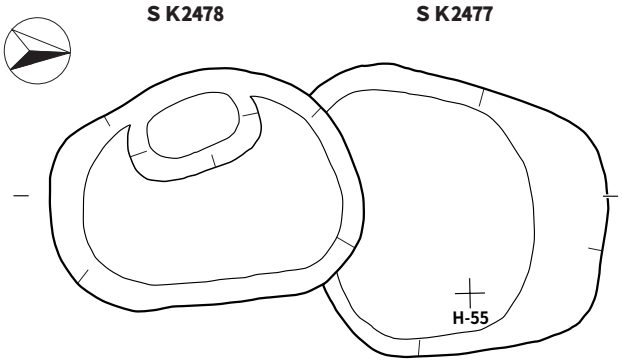
第56図　S K2112・S K2260・S K2294・S K2308・S K2320

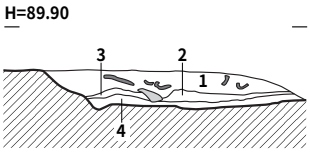


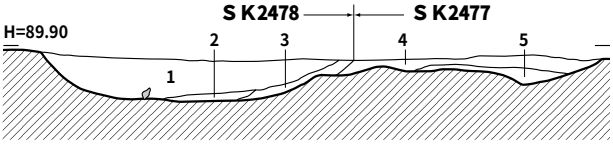


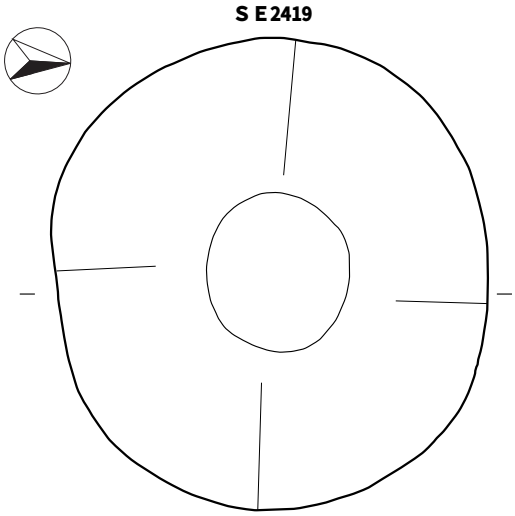


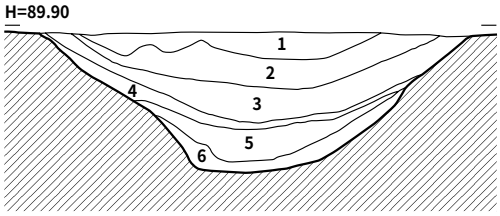
（土層注記は前ページ）











S K3024

1. 2.5Y4/1黄灰色シルト　かたくしまる。微量の炭化粒を含む。
2. 2.5Y5/2暗灰黄色粘質シルト　しまりあり。均質。

S K2478・2477

（1～3＝2478、4～5＝2477）

1. 10YR2/1黒色シルト　炭化粒と径5～8mmの小礫を少量含む。
2. 5Y4/2灰オリーブ色シルト　やや粘りあり。堆積土。
3. 2.5Y2/1黒色シルト　やや粘りあり。崩落土。
4. 10YR2/1黒色シルト　堆積土。
5. 5Y4/2灰オリーブ色シルト　少量の炭化物と植物根、径3～8mmの小礫を含む。堆積土。（2477自然堆積後に2478掘削）

S K3665

1. 2.5Y3/1黒褐色砂質シルト　しまりあり。少量の炭化物を含む。崩落土。
2. 10YR3/1黒褐色砂質シルト　しまりあり。ややねばりあり。少量の炭化物を含む。堆積土。
3. 5Y3/1オリーブ黒色砂質シルト　しまりあり。少量の炭化物を含む。崩落土。
4. 7.5Y3/1オリーブ黒色砂質シルト　しまりあり。ややねばりあり。少量の炭化物を含む。堆積土。

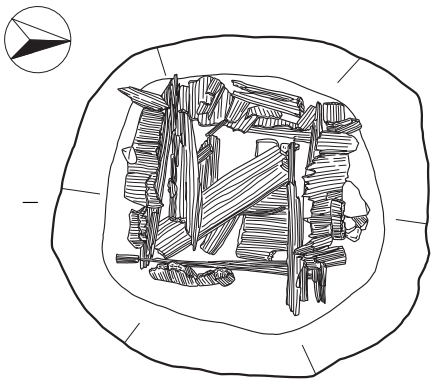
S E2419

1. 10YR2/2黒褐色シルト　しまりあり。微量の砂を含む。
2. 10YR2/1黒色シルト　ややしまりに欠ける。少量の炭化物を含む。腐植土。
3. 2.5Y2/1黒色粘質シルト　植物腐食土。
4. 10YR2/1黒色粘質シルト　植物腐植土。3層より植物繊維の量が多い。
5. 7.5Y2/1黒色粘質シルト　植物腐植土。層中に灰白色の火山灰？の堆積あり。
6. 10Y4/1灰色粘質シルト　植物繊維と微量の砂を含む。

0　2m
1：40

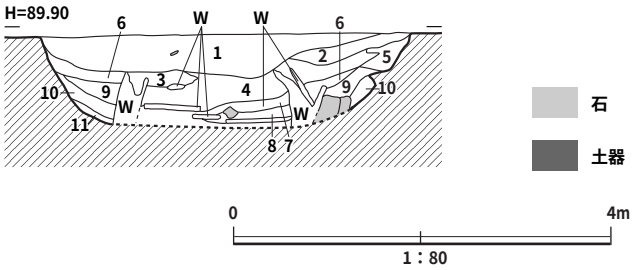
石
土器

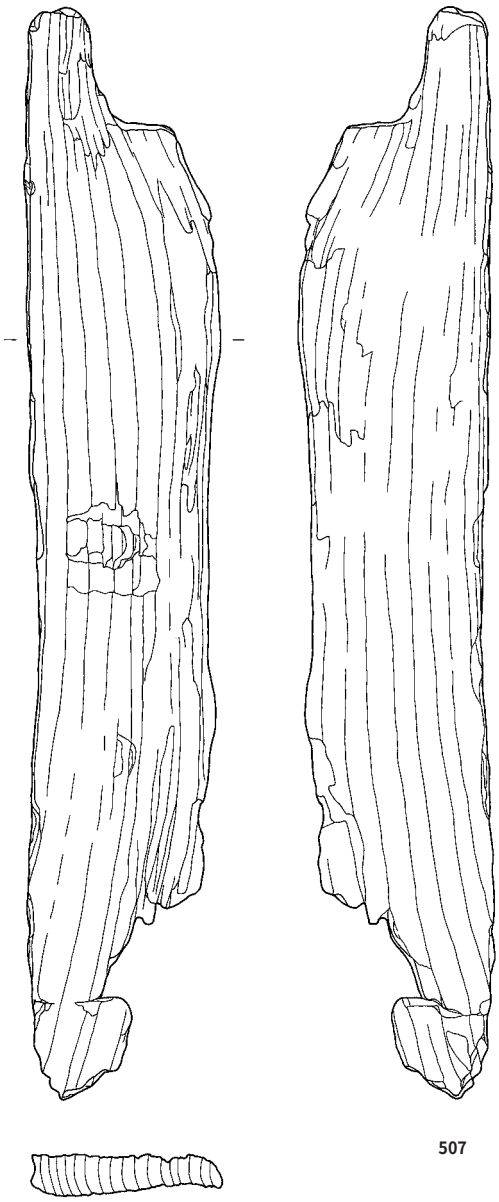
第57図　S K2539・S K3024・S K2477・S K2478・S K3665・S E2419

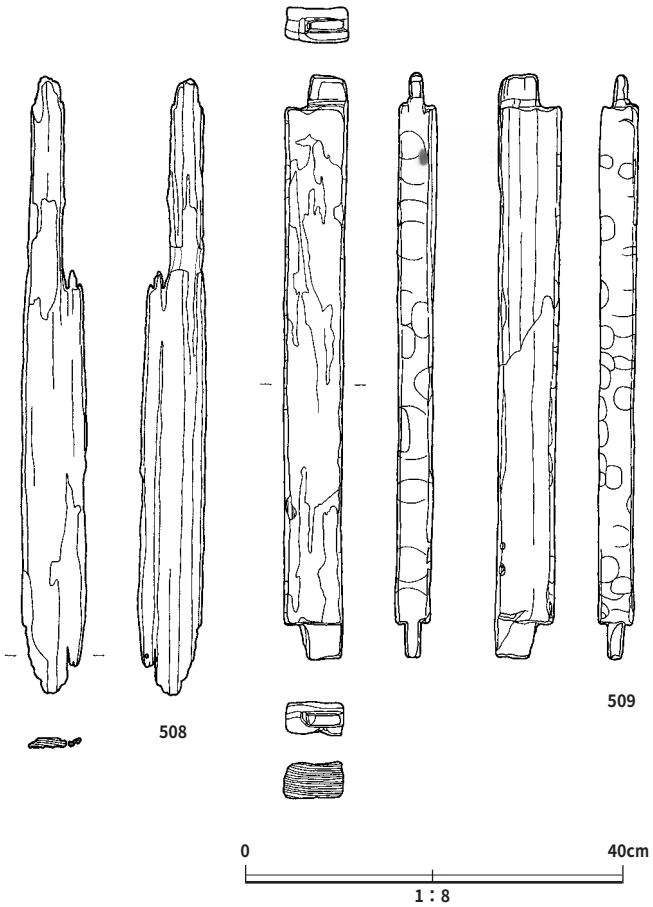


S E 2420

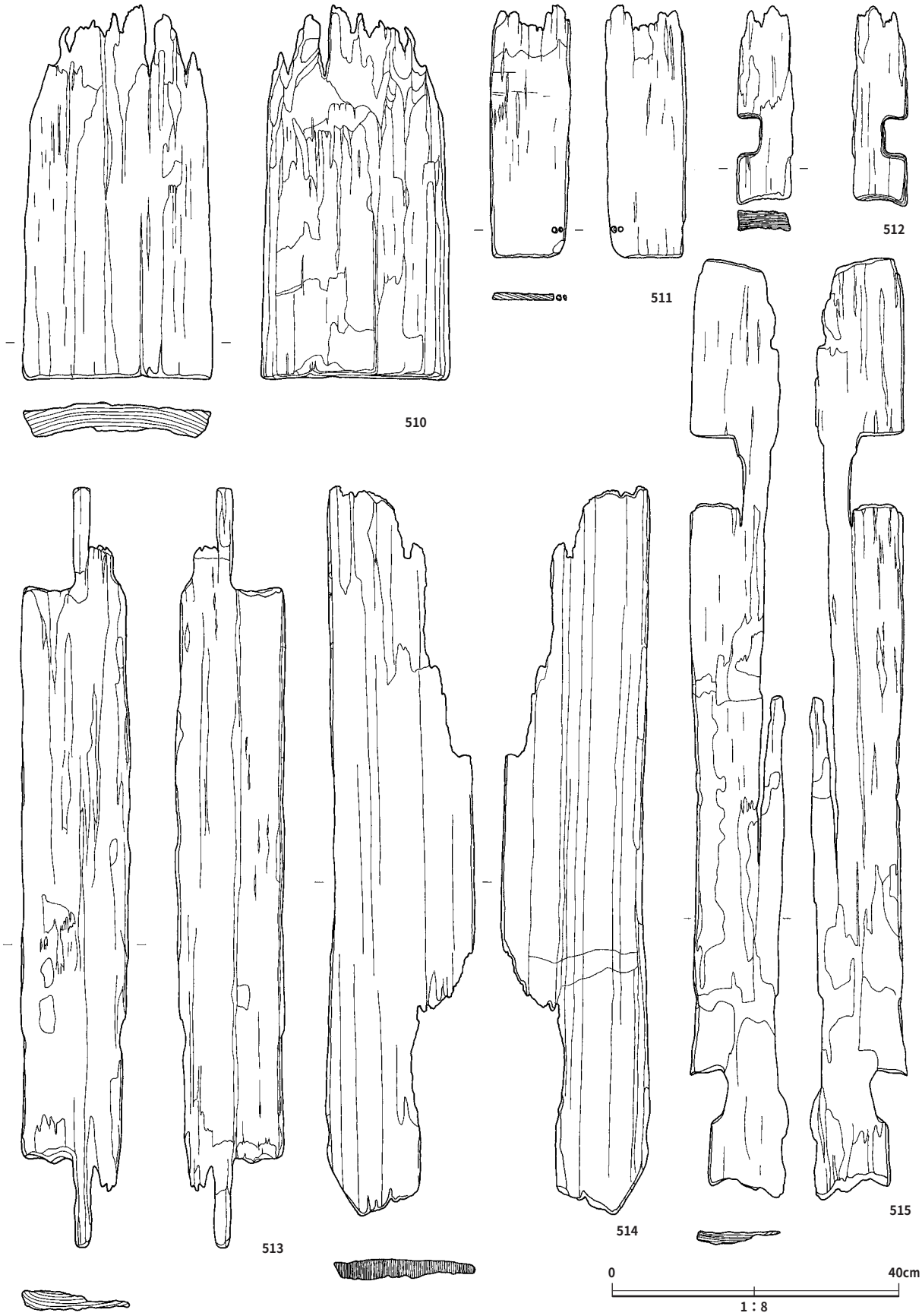
1. 10YR3/1黒褐色砂質シルト　しまりあり。
2. 7.5YR2/1黒色砂質シルト　ねばりあり。崩落土。
3. 7.5YR3/1オリーブ黒色砂質シルト　ねばりあり。植物繊維と炭化物を含む。崩落土。
4. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト　しまりあり。植物根と少量の粗砂を含む。
5. 2.5Y6/2灰黄色シルト　崩落土。
6. 7.5Y6/2灰オリーブ色シルト　崩落土。
7. 7.5Y5/1灰色粘質シルト　径5mm程度の小礫を含む。崩落土。
8. 5Y3/1オリーブ黒色粘質シルト　微量の細砂・小礫と植物繊維を含む。腐植土。
9. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　微量の砂と多量の植物繊維を含む。しまっている。
10. 2.5Y5/2暗灰黄色砂質シルト　崩落土。
11. 10YR2/1黒色微砂質シルト　多量の植物根を含む。



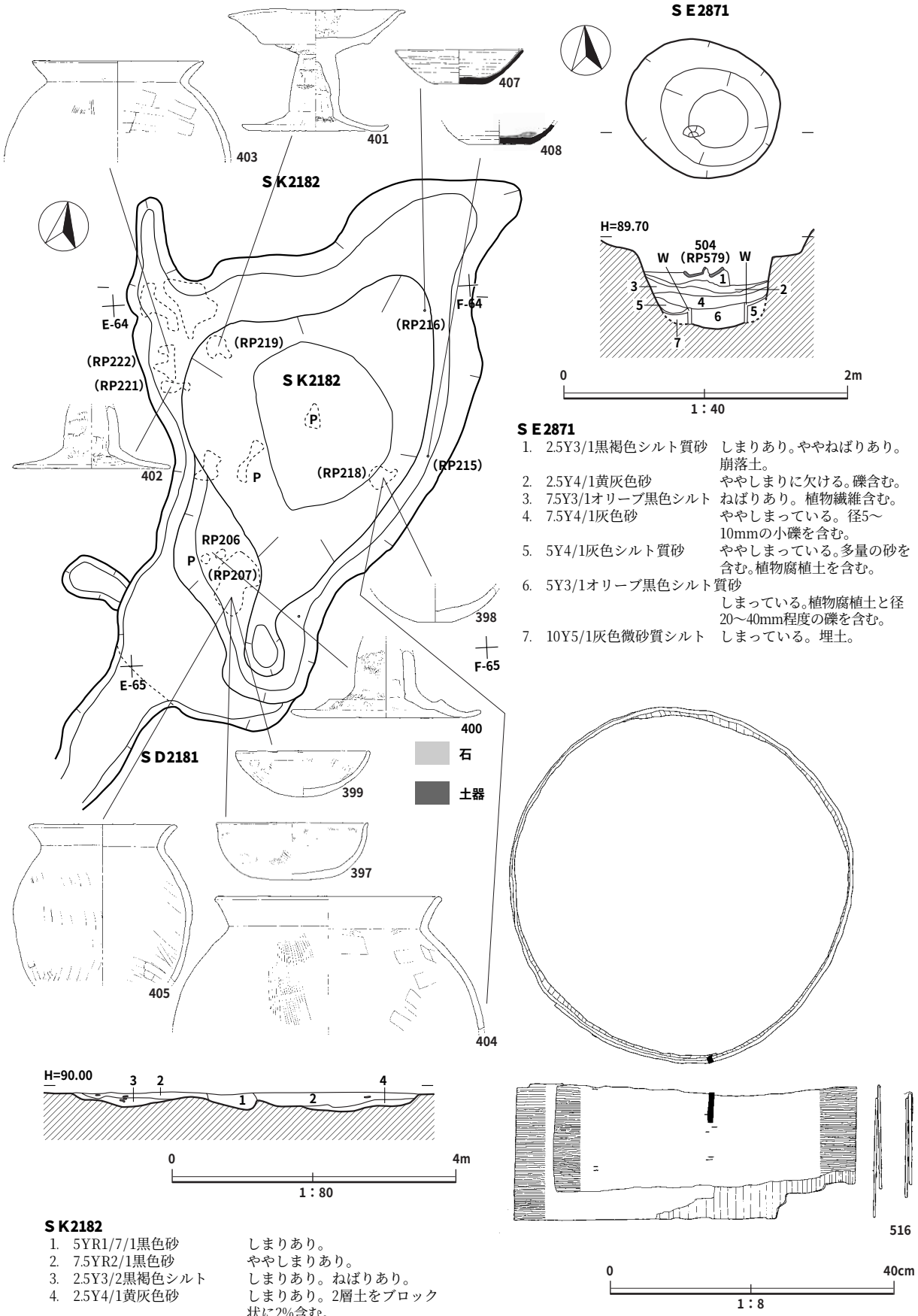




第58図　S E 2420・S E 2420出土木製品（1）



第59図　ＳＥ2420出土木製品（2）



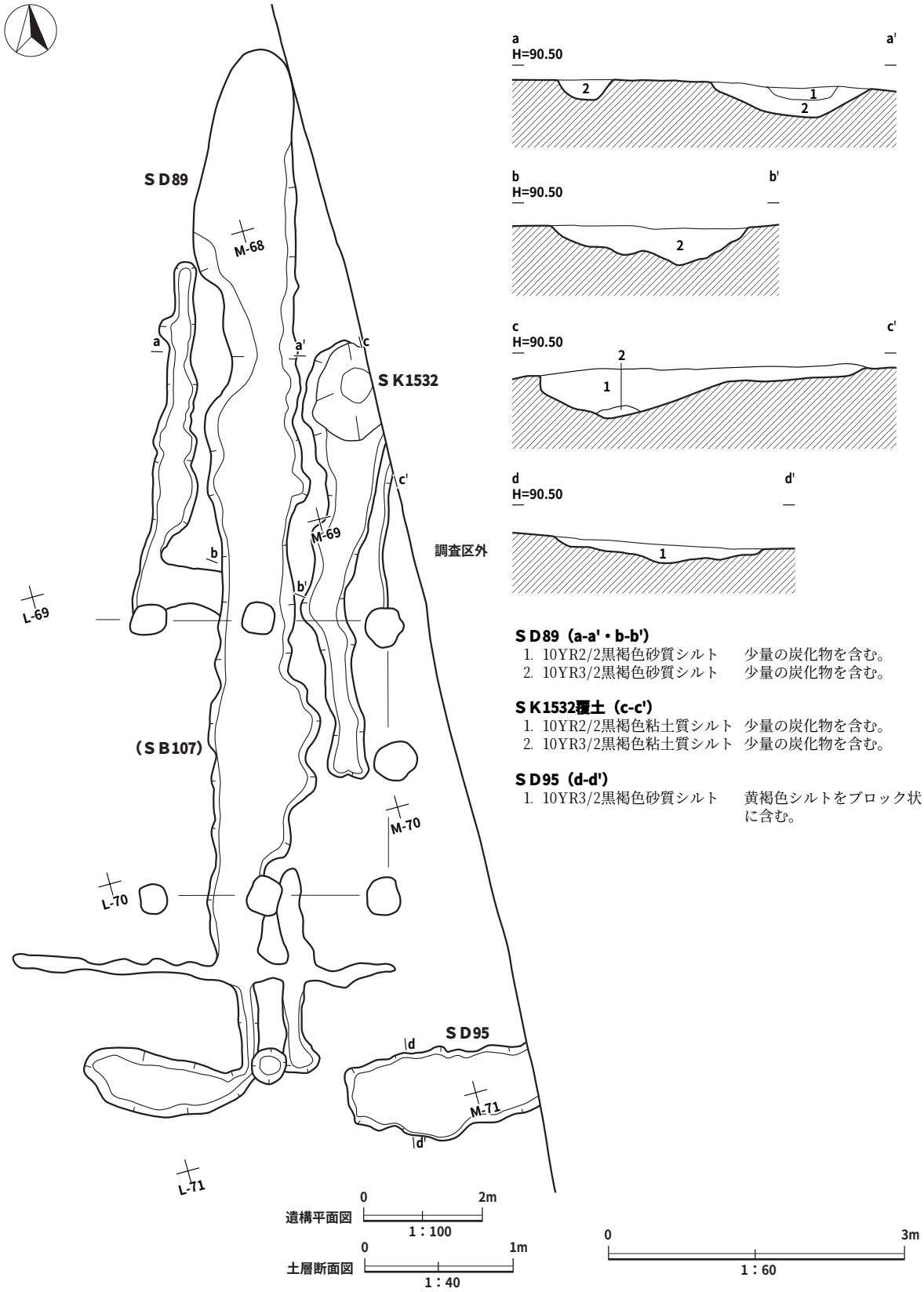
S E2871

1. 2.5Y3/1黒褐色シルト質砂　しまりあり。ややねばりあり。崩落土。
2. 2.5Y4/1黄灰色砂　ややしまりに欠ける。礫含む。
3. 7.5Y3/1オリーブ黒色シルト　ねばりあり。植物繊維含む。
4. 7.5Y4/1灰色砂　ややしまっている。径5～10mmの小礫を含む。
5. 5Y4/1灰色シルト質砂　ややしまっている。多量の砂を含む。植物腐植土を含む。
6. 5Y3/1オリーブ黒色シルト質砂　しまっている。植物腐植土と径20～40mm程度の礫を含む。
7. 10Y5/1灰色微砂質シルト　しまっている。埋土。

S K2182

1. 5YR1/7/1黒色砂　しまりあり。
2. 7.5YR2/1黒色砂　ややしまりあり。
3. 2.5Y3/2黒褐色シルト　しまりあり。ねばりあり。
4. 2.5Y4/1黄灰色砂　しまりあり。2層土をブロック状に2%含む。

第60図　S K2182・S E2871/S E2871出土木製品



第61図　S D89・S D95・S K1532

ＳＤ6001～6031（a-a'）

1. 2.5YR2/2極暗赤褐色砂質シルト　炭化物を少し含む。
2. 7.5YR3/2黒褐色砂質シルト　炭化物を少し含む。
3. 7.5Y3/1オリーブ黒色砂質シルト　炭化物を少し含む。
4. 5Y3/1オリーブ黒色砂質シルト　炭化物を少し含む。硬い。
5. 5YR3/2オリーブ黒色砂質シルト　炭化物を少し含む。
6. 5Y4/1灰色砂質シルト　グライ化。

(b-b'・c-c'・d-d')

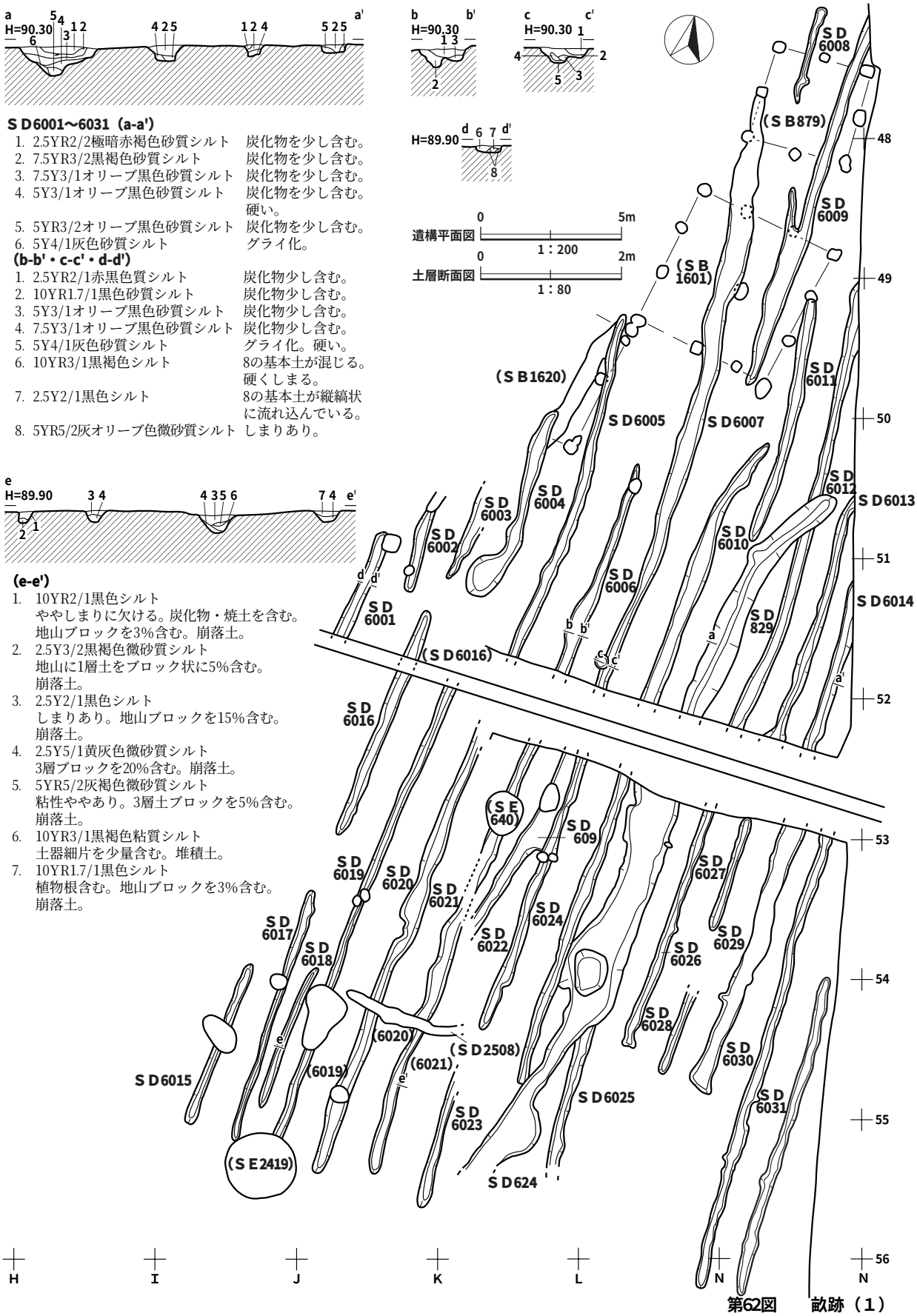
1. 2.5YR2/1赤黒色質シルト　炭化物少し含む。
2. 10YR1.7/1黒色砂質シルト　炭化物少し含む。
3. 5Y3/1オリーブ黒色砂質シルト　炭化物少し含む。
4. 7.5Y3/1オリーブ黒色砂質シルト　炭化物少し含む。
5. 5Y4/1灰色砂質シルト　グライ化。硬い。
6. 10YR3/1黒褐色シルト　8の基本土が混じる。硬くしまる。
7. 2.5Y2/1黒色シルト　8の基本土が縦縞状に流れ込んでいる。
8. 5YR5/2灰オリーブ色微砂質シルト　しまりあり。

(e-e')

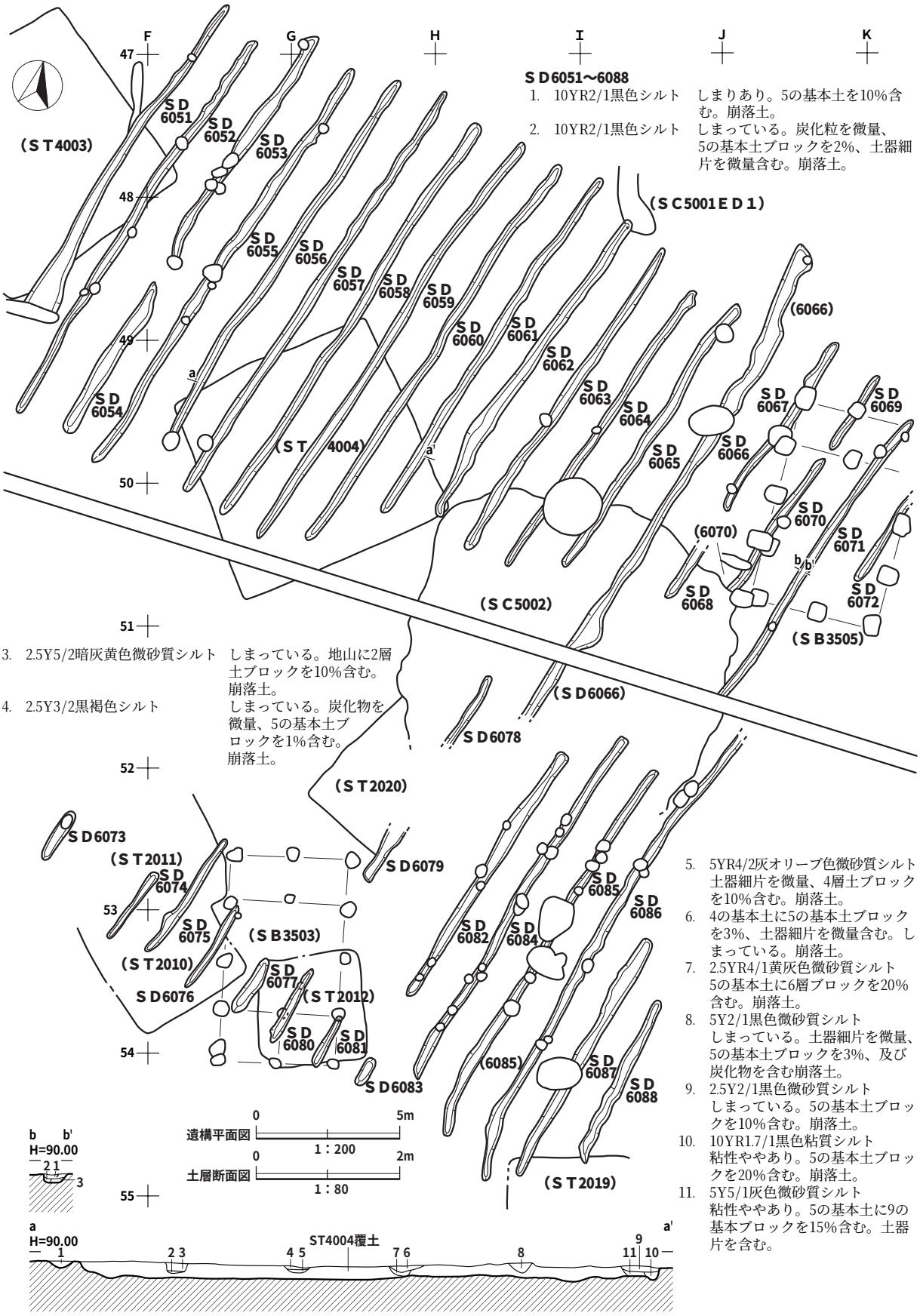
1. 10YR2/1黒色シルト
   ややしまりに欠ける。炭化物・焼土を含む。地山ブロックを3%含む。崩落土。
2. 2.5Y3/2黒褐色微砂質シルト
   地山に1層土をブロック状に5%含む。崩落土。
3. 2.5Y2/1黒色シルト
   しまりあり。地山ブロックを15%含む。崩落土。
4. 2.5Y5/1黄灰色微砂質シルト
   3層ブロックを20%含む。崩落土。
5. 5YR5/2灰褐色微砂質シルト
   粘性ややあり。3層土ブロックを5%含む。崩落土。
6. 10YR3/1黒褐色粘質シルト
   土器細片を少量含む。堆積土。
7. 10YR1.7/1黒色シルト
   植物根含む。地山ブロックを3%含む。崩落土。

遺構平面図　0　5m　1：200

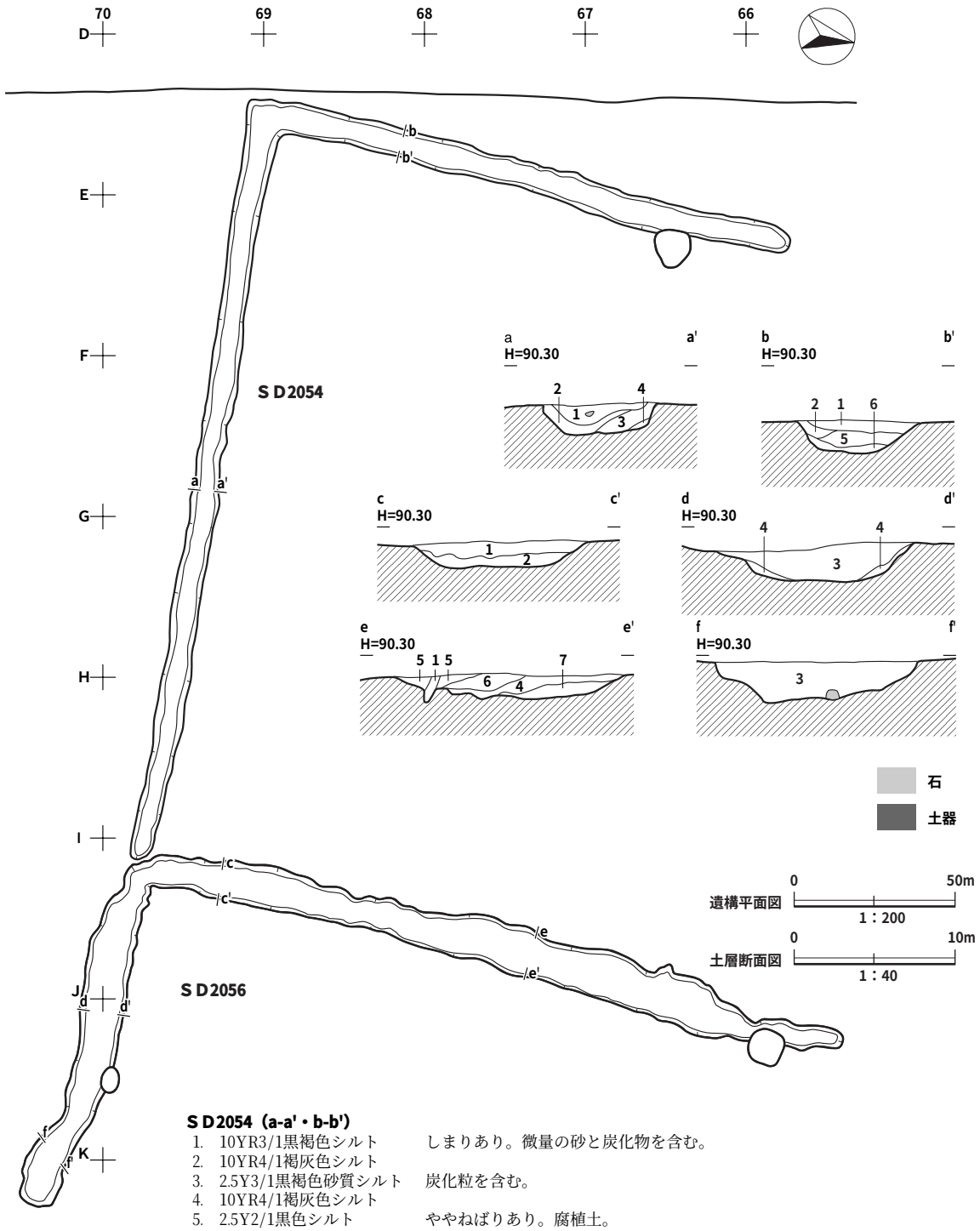
土層断面図　0　2m　1：80



第62図　畝跡（1）


F
G
H
I
J
K
47
48
49
50
51
52
53
54
55
SD6051～6088
1. 10YR2/1黒色シルト しまりあり。5の基本土を10%含む。崩落土。
2. 10YR2/1黒色シルト しまっている。炭化粒を微量、5の基本土ブロックを2%、土器細片を微量含む。崩落土。
3. 2.5Y5/2暗灰黄色微砂質シルト しまっている。地山に2層土ブロックを10%含む。崩落土。
4. 2.5Y3/2黒褐色シルト しまっている。炭化物を微量、5の基本土ブロックを1%含む。崩落土。
5. 5YR4/2灰オリーブ色微砂質シルト 土器細片を微量、4層土ブロックを10%含む。崩落土。
6. 4の基本土に5の基本土ブロックを3%、土器細片を微量含む。しまっている。崩落土。
7. 2.5YR4/1黄灰色微砂質シルト 5の基本土に6層ブロックを20%含む。崩落土。
8. 5Y2/1黒色微砂質シルト しまっている。土器細片を微量、5の基本土ブロックを3%、及び炭化物を含む崩落土。
9. 2.5Y2/1黒色微砂質シルト しまっている。5の基本土ブロックを10%含む。崩落土。
10. 10YR1.7/1黒色粘質シルト 粘性ややあり。5の基本土ブロックを20%含む。崩落土。
11. 5Y5/1灰色微砂質シルト 粘性ややあり。5の基本土に9の基本ブロックを15%含む。土器片を含む。
(ST4003)
SD6051
SD6052
SD6053
SD6054
SD6055
SD6056
SD6057
SD6058
SD6059
SD6060
SD6061
SD6062
SD6063
SD6064
SD6065
SD6066
SD6067
SD6068
SD6069
SD6070
SD6071
SD6072
(SC5001ED1)
(6066)
(6070)
(ST 4004)
(SC5002)
(SB3505)
(SD6066)
SD6078
(ST2020)
SD6073
(ST2011)
SD6074
SD6075
(ST2010)
SD6076
SD6077
(ST2012)
SD6079
(SB3503)
SD6080
SD6081
SD6083
SD6082
SD6084
SD6085
SD6086
(6085)
SD6087
SD6088
(ST2019)
遺構平面図 0 5m 1：200
土層断面図 0 2m 1：80
b b'
H=90.00
a a'
H=90.00
ST4004覆土

第63図　畝跡（2）



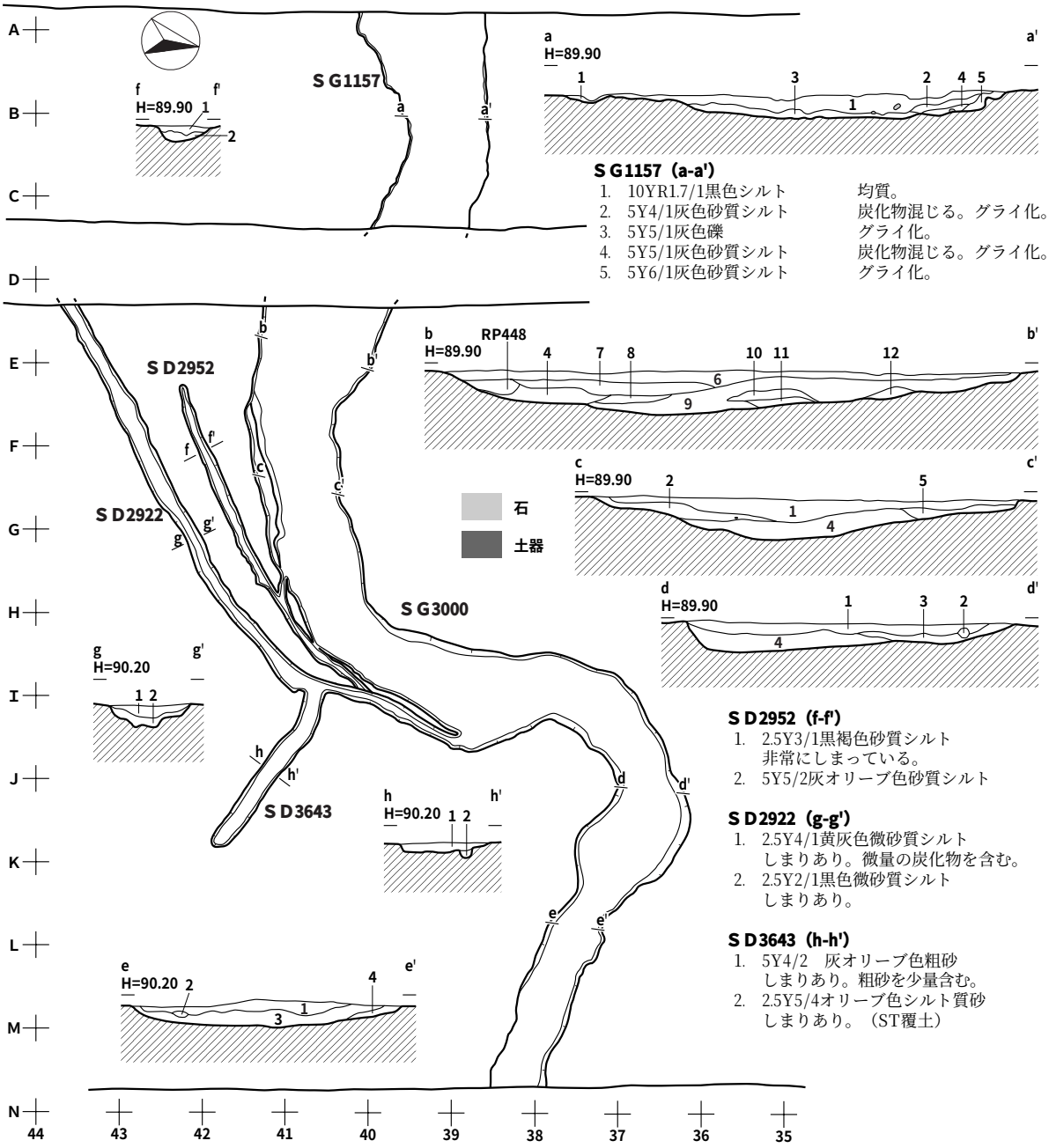
S D2054（a-a'・b-b'）

1.	10YR3/1黒褐色シルト	しまりあり。微量の砂と炭化物を含む。
2.	10YR4/1褐灰色シルト	
3.	2.5Y3/1黒褐色砂質シルト	炭化粒を含む。
4.	10YR4/1褐灰色シルト	
5.	2.5Y2/1黒色シルト	ややねばりあり。腐植土。
6.	2.5Y4/1黄灰色シルト	しまりなし。ややねばりあり。植物根および微量の炭化物を含む。

S D2056（c-c'～f-f'）

1.	10YR3/1黒褐色砂質シルト	
2.	5Y6/2灰オリーブ色微砂	しまりあり。2.5Y4/1微砂質シルトをブロック状に5%含む。
3.	10YR2/1黒色砂質シルト	
4.	2.5Y5/1黄灰色砂質シルト	少量の炭化物を含む。
5.	2.5Y4/1灰色砂	10YR2/1シルトをまだら状に20%含む。
6.	5YR3/2オリーブ黒色粗砂	
7.	5Y4/2暗灰黄色砂	2.5Y4/1微砂質シルトをブロック状に7%含む。

第64図　S D2054・S D2056



S G1157（a-a'）

1. 10YR1.7/1黒色シルト　均質。
2. 5Y4/1灰色砂質シルト　炭化物混じる。グライ化。
3. 5Y5/1灰色礫　グライ化。
4. 5Y5/1灰色砂質シルト　炭化物混じる。グライ化。
5. 5Y6/1灰色砂質シルト　グライ化。

S D2952（f-f'）

1. 2.5Y3/1黒褐色砂質シルト　非常にしまっている。
2. 5Y5/2灰オリーブ色砂質シルト

S D2922（g-g'）

1. 2.5Y4/1黄灰色微砂質シルト　しまりあり。微量の炭化物を含む。
2. 2.5Y2/1黒色微砂質シルト　しまりあり。

S D3643（h-h'）

1. 5Y4/2　灰オリーブ色粗砂　しまりあり。粗砂を少量含む。
2. 2.5Y5/4オリーブ色シルト質砂　しまりあり。（ST覆土）

S G3000（b-b'～d-d'）

1. N1.5/0灰色粘質シルト　ややしまりに欠ける。腐植土。
2. 10YR3/1褐黒色砂質シルト　ややねばりあり。炭化物を含む。
3. 7.5YR5/4にぶい褐色粗砂　しまりあり。2.5Y3/2シルト質砂をまだら状に7%含む。全体に酸化。
4. 5Y4/3暗オリーブ色粗砂　しまりあり。径2～5cmの礫を含む。全体に酸化。
5. 2.5Y5/2暗灰黄色砂　しまっている。少し酸化。
6. 10YR2/1黒色砂質シルト　多量の径3～20mmの小礫を含む。腐植土を含む。
7. 10YR2/2黒褐色砂質シルト　多量の径20～30mmの小礫を含む。
8. 2.5GY5/1オリーブ灰色砂　多量の径20～50mmの礫を含む。グライ化激しい。
9. 10YR4/3にぶい黄褐色砂　多量の径20～50mmの礫を含む。酸化している。
10. 5YR3/4暗赤褐色粗砂　非常にしまっている。多量の径10～20mmの礫を含む。酸化している。
11. 5Y4/1灰色粗砂　しまっている。グライ化している。
12. 5YR4/6赤褐色砂　しまっている。径20～30mmの礫を含む。

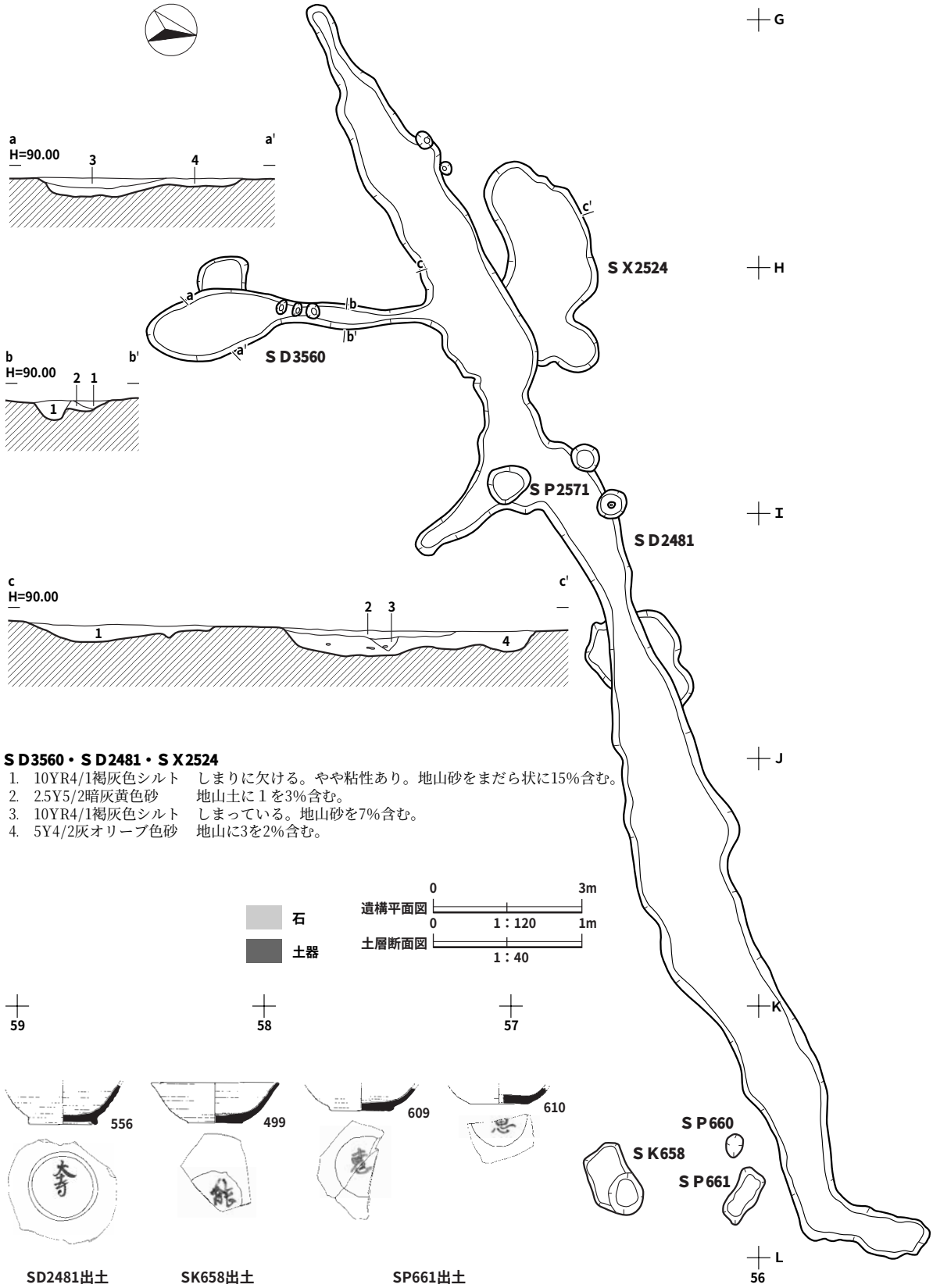
(e-e')

1. 10YR1.7/1黒色シルト　均質。
2. 5Y4/1灰色砂質シルト　炭化物混じる。グライ化。
3. 5Y5/1灰色礫　砂質シルト混じる。グライ化。
4. 5Y5/1灰色砂質シルト　炭化物混じる。グライ化。

遺構平面図　0　10m　1：400

土層断面図　0　2m　1：80

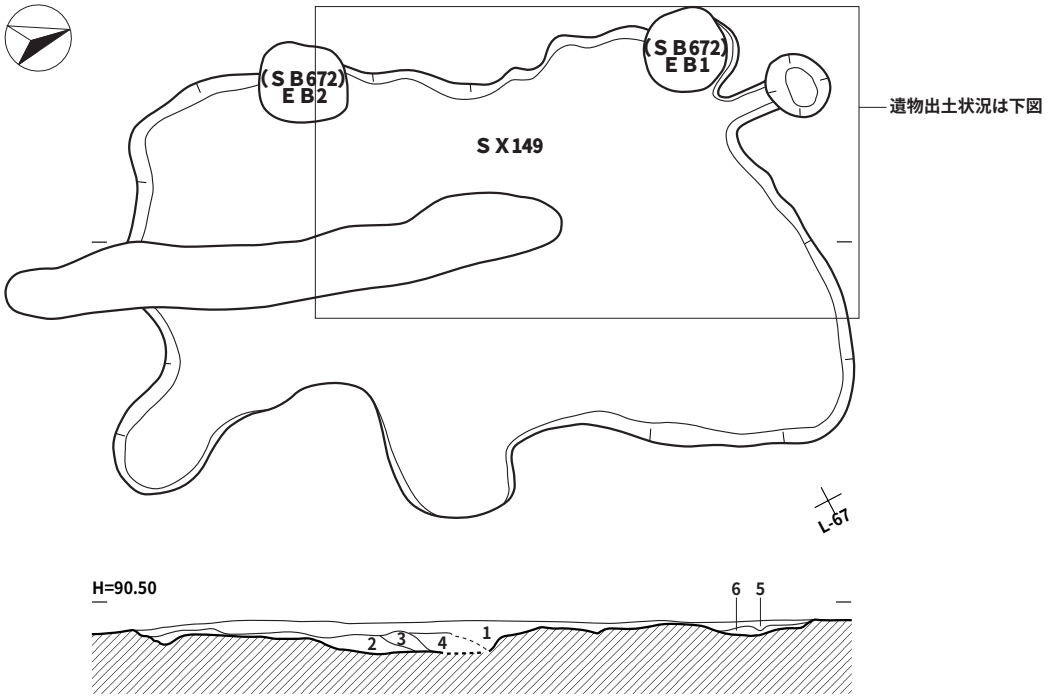
第65図　S G1157/3000



S D3560・S D2481・S X2524

1. 10YR4/1褐灰色シルト　しまりに欠ける。やや粘性あり。地山砂をまだら状に15%含む。
2. 2.5Y5/2暗灰黄色砂　地山土に１を3%含む。
3. 10YR4/1褐灰色シルト　しまっている。地山砂を7%含む。
4. 5Y4/2灰オリーブ色砂　地山に3を2%含む。

第66図　S D2481・S D3560・S X2524・S X658・S P660・S P661

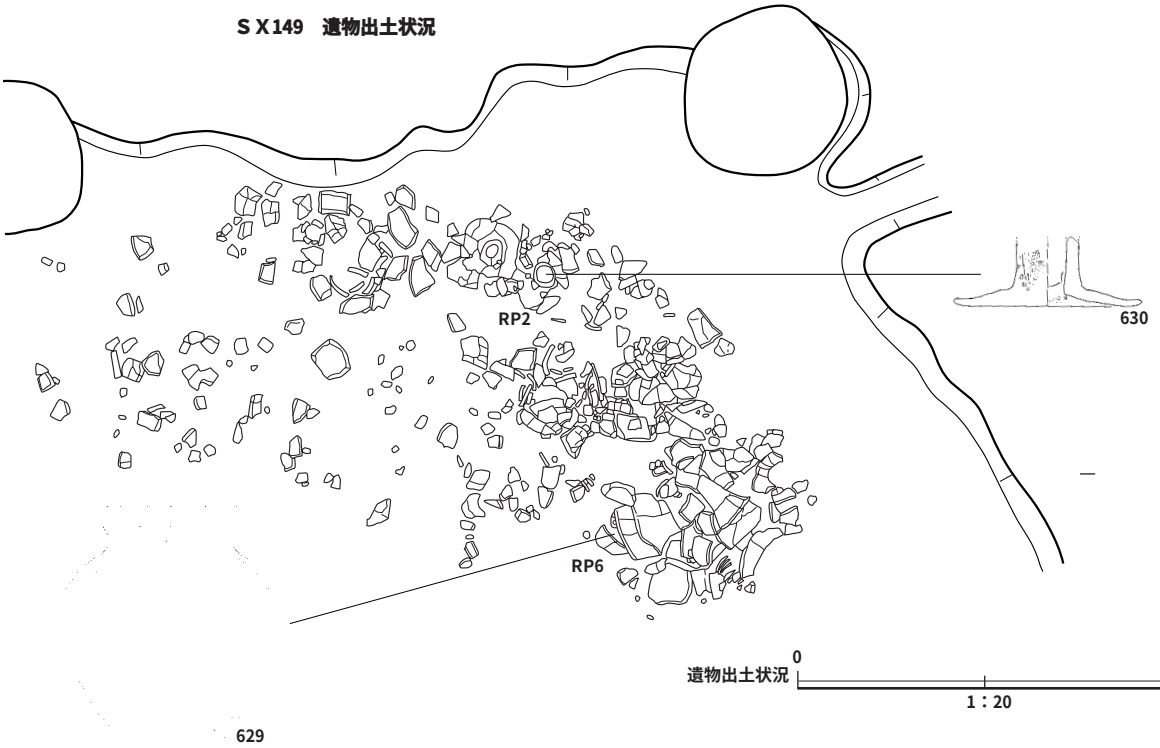


SX149

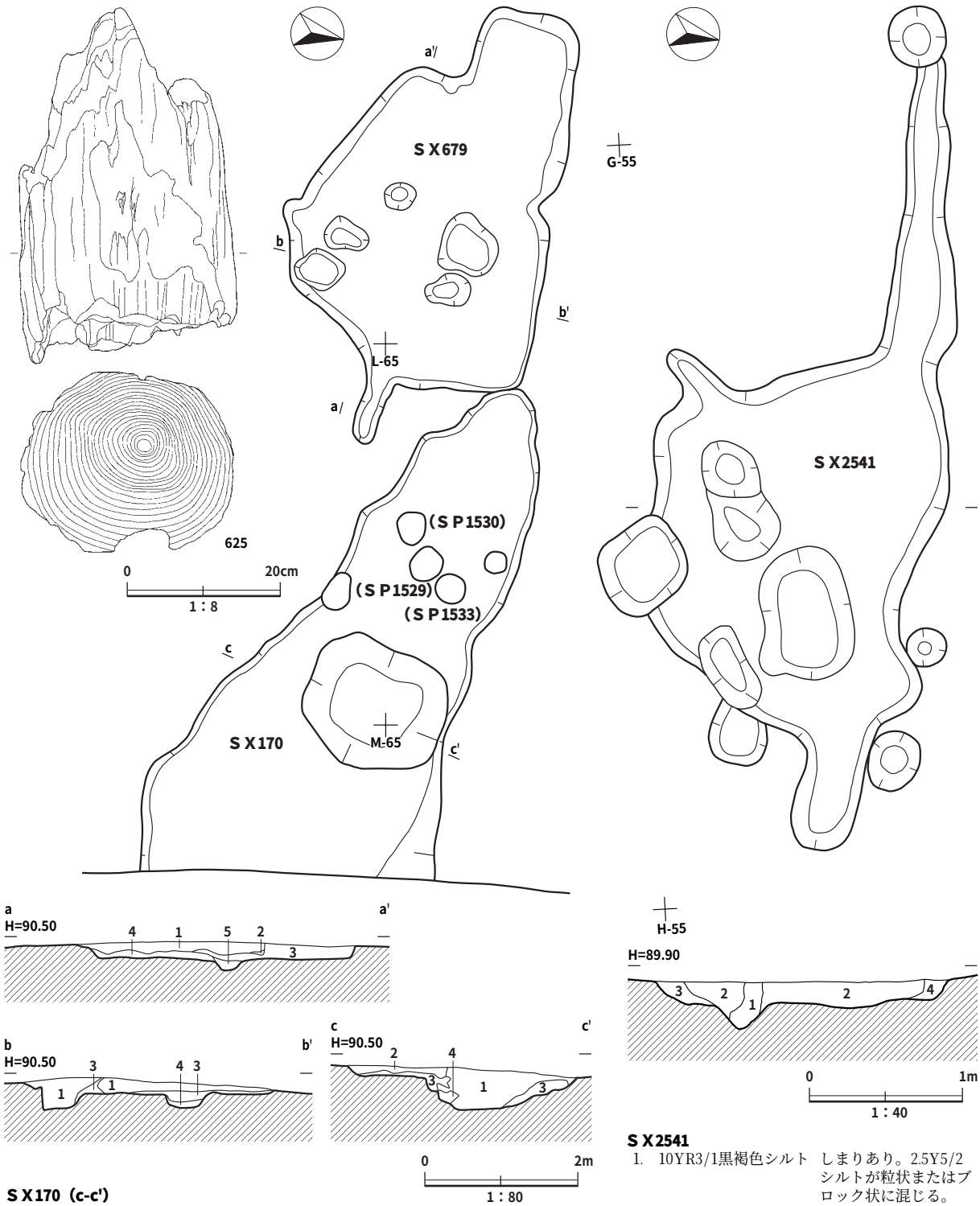
1. 10YR2/2黒褐色砂質シルト　均質。
2. 10YR2/3黒褐色粘土質シルト　黄褐色粘土質シルトが10%粒状に混じる。
3. 10YR3/3暗褐色粘土質シルト　黄褐色粘土質シルトが10%粒状に混じる。
4. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト　黄褐色粘土質シルトが5%粒状に混じる。
5. 10YR3/4暗褐色粘土質シルト　均質。
6. 5Y4/2灰オリーブ色粘土質シルト　均質。

0　2m
1：40

SX149　遺物出土状況



第67図　SX149/SX149遺物出土状況



SX170（c-c'）

1.	7.5YR4/1褐灰色微砂混じり粘土	少量の炭化物を含む。
2.	10YR2/3黒褐色微砂質粘土	均質。
3.	10YR2/2黒褐色シルト質粘土	少量の黄褐色シルトを含む。
4.	10YR1.7/1黒色粘土	微砂と多量の炭化物を含む。

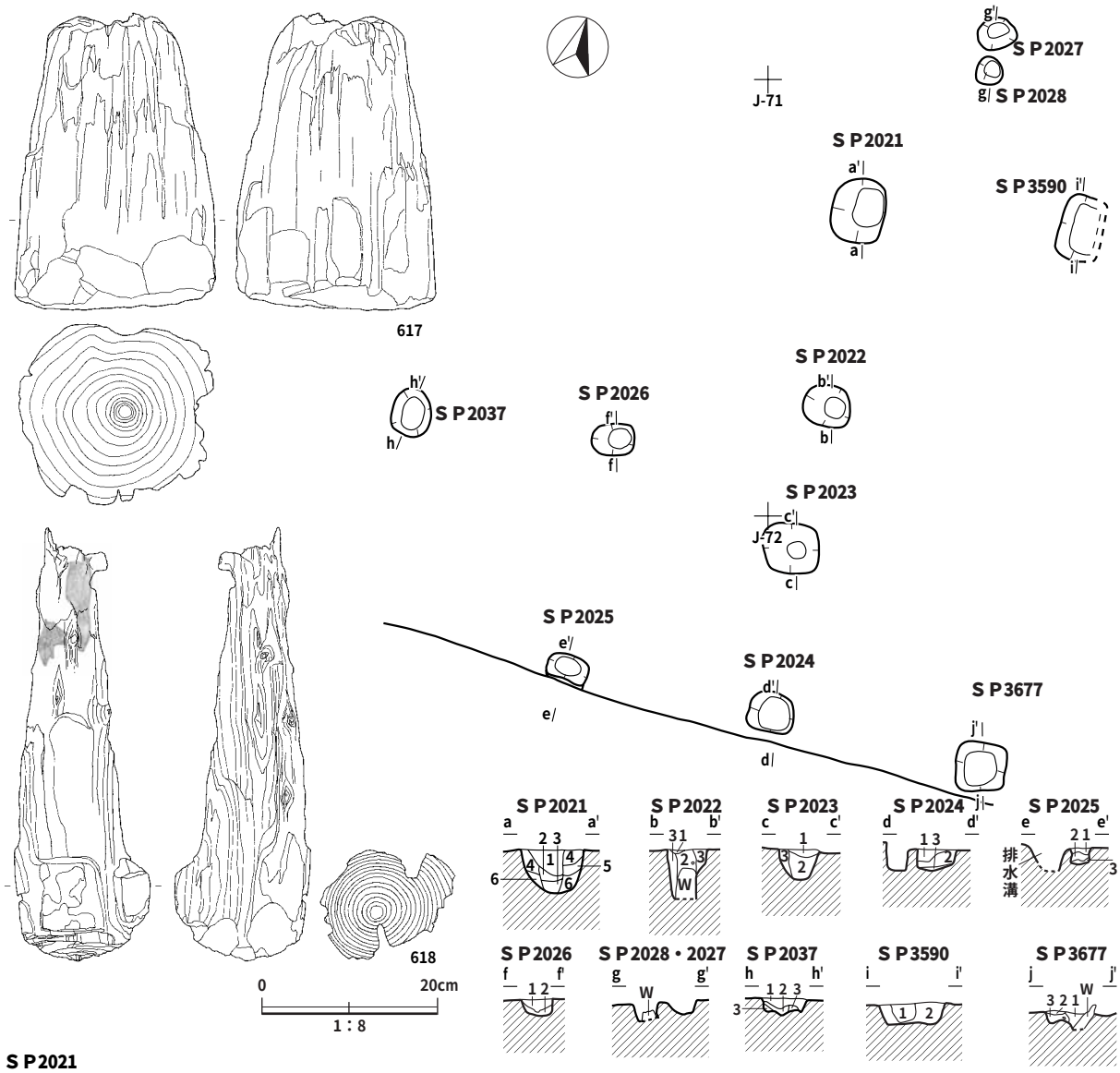
SX679（a-a'・b-b'）

1.	10YR3/3暗褐色微砂	礫と酸化した土が混じる。
2.	10YR2/2黒褐色粘土質微砂	黄褐色の酸化した土をブロック状に少量含む。
3.	5Y4/3暗オリーブ色微砂	均質。
4.	5Y5/3灰オリーブ色微砂質粘土	少量の炭化物を含む。グライ化。
5.	5Y5/2灰オリーブ色微砂質粘土	少量の炭化物を含む。グライ化。

SX2541

1.	10YR3/1黒褐色シルト	しまりあり。2.5Y5/2シルトが粒状またはブロック状に混じる。
2.	2.5Y3/1黒褐色シルト	2.5Y5/2シルトが微量混じる。
3.	2.5Y2/1黒色シルト	ほぼ均質。
4.	5Y5/2灰オリーブ色微砂質シルト	しまりあり。2.5Y3/1シルトがブロック状に20%混じる。（SX2541各層とも、径2～5mmの礫が少数混じる。）

第68図　SX679・SX170・SX2541



S P2021

1. 10YR2/1黒色シルト　5Y5/2微砂質シルトを粒状に含む。しまりあり。
2. 5Y2/1黒色シルト　5Y5/2微砂質シルトが層状に30%混じる。粘性あり。
3. 5Y4/1灰色シルト　5Y5/2微砂質シルトがブロック状に20%混じる。粘性あり。
4. 5Y6/2灰オリーブ色微砂質シルト　10YR2/1シルトがブロック状（径100mm）となって混じる。
5. 2.5Y2/1黒色粘質シルト　均質。粘性あり。
6. 5Y5/1灰色微砂質シルト　均質。しまりあり。

S P2022

1. 2.5Y3/1黒褐色シルト　2.5Y5/2微砂質シルトがまだら状に少量混じる。しまりあり。
2. 10YR3/1黒褐色シルト　2.5Y5/2微砂質シルトがブロック状に混じる。しまりあり。
3. 7.5Y3/1オリーブ黒色シルト　均質。粘性ややあり。

S P2023

1. 10YR3/1黒褐色シルト　しまりあり。
2. 2.5Y2/1黒色シルト　5Y5/2微砂質シルトがブロック状に少量混じる。しまりあり。
3. 5Y3/1オリーブ黒色シルト　5Y5/2微砂質シルトがブロック状に40%混じる。

S P2024

1. 5Y2/1黒色シルト質粘土　均質。粘性ややあり。
2. 2.5Y2/1黒色シルト質粘土　均質。粘性あり。
3. 5Y5/2灰オリーブ色微砂　しまりなし。

S P2025

1. 10YR2/1黒色シルト質粘土　粘性ややあり。
2. 5Y2/1黒色微砂質シルト　1層がブロック状に混じる。
3. 7.5GY6/1緑灰色微砂質シルト　粘性なし。しまりあり。

S P2026

1. 2.5Y2/1黒色シルト質粘土　粘性ややあり。しまりあり。
2. 5GY6/1オリーブ灰色微砂質シルト　1層がブロック状に混じる。

S P2037

1. 10YR3/1黒褐色シルト　5Y4/1微砂質シルトがブロック状に混じる。しまりあり。
2. 5Y4/1灰色微砂質シルト　ほぼ均質。しまりあり。
3. 5Y5/2灰オリーブ色微砂質シルト　均質。しまりあり。

S P3677

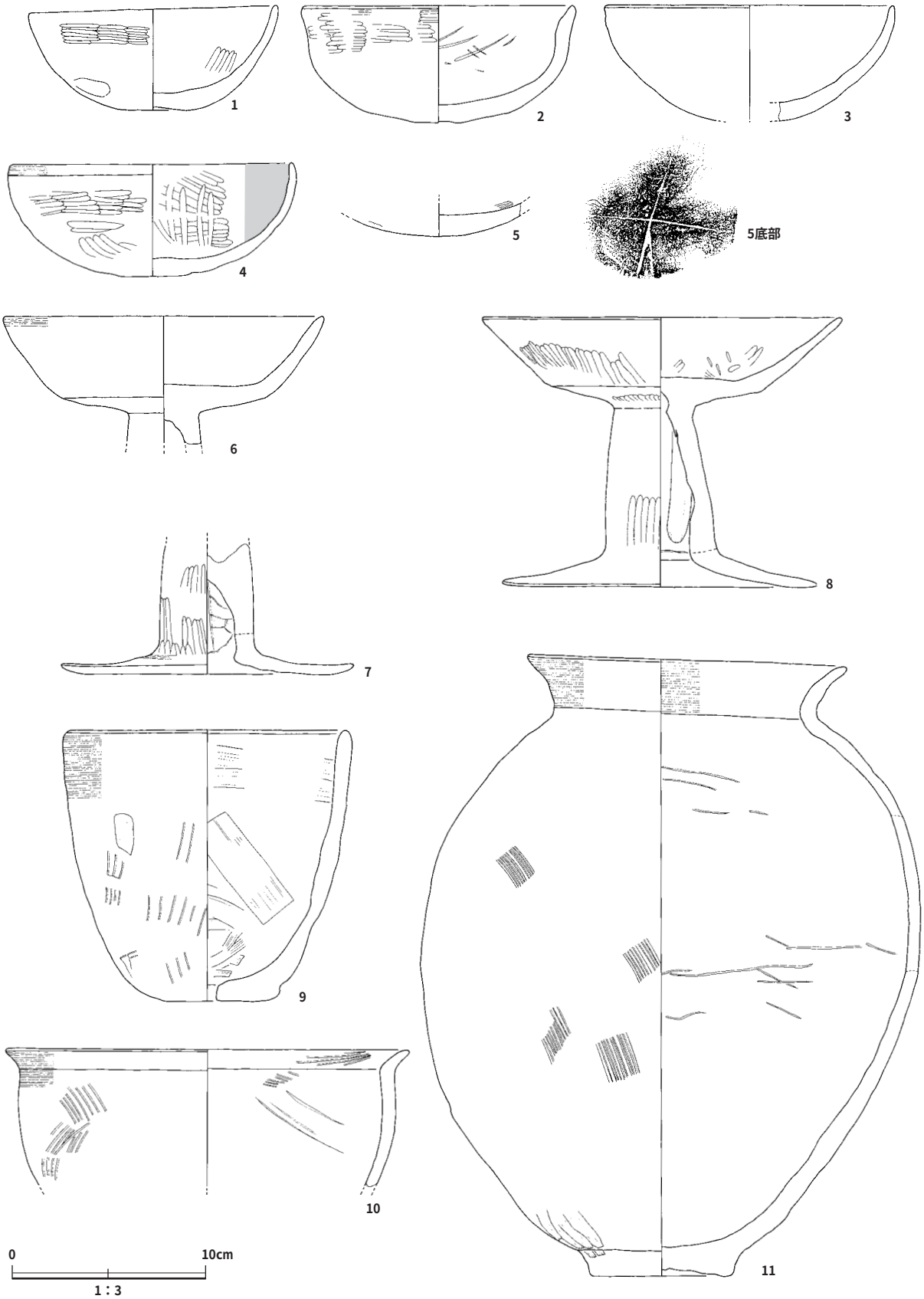
1. 5Y5/1灰色砂　しまりに欠ける。2.5Y4/1粘質シルトをブロック状に10%含む。
2. 2.5Y5/1黄灰色砂　ややしまりあり。5Y4/1シルトブロックを35%含む。
3. 7.5GY5/1緑灰色微砂質シルト　しまりに欠ける。粘性あり。N2/0シルトブロックを7%含む。

S P3590

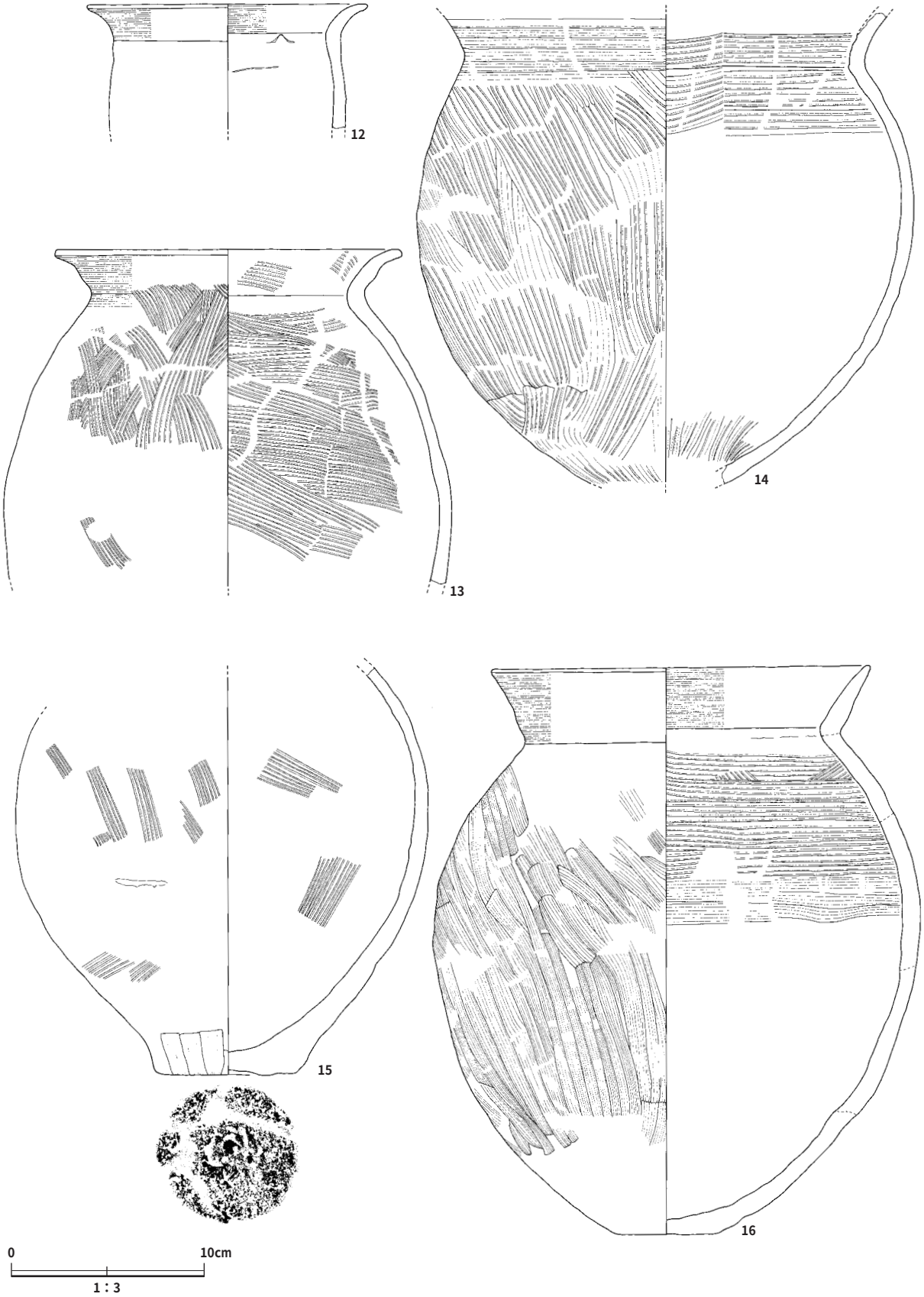
1. 2.5Y2/1黒色シルト質粘土
2. 5Y4/1灰色微砂質シルト

（H=90.30mで統一）　0　4m　1：80

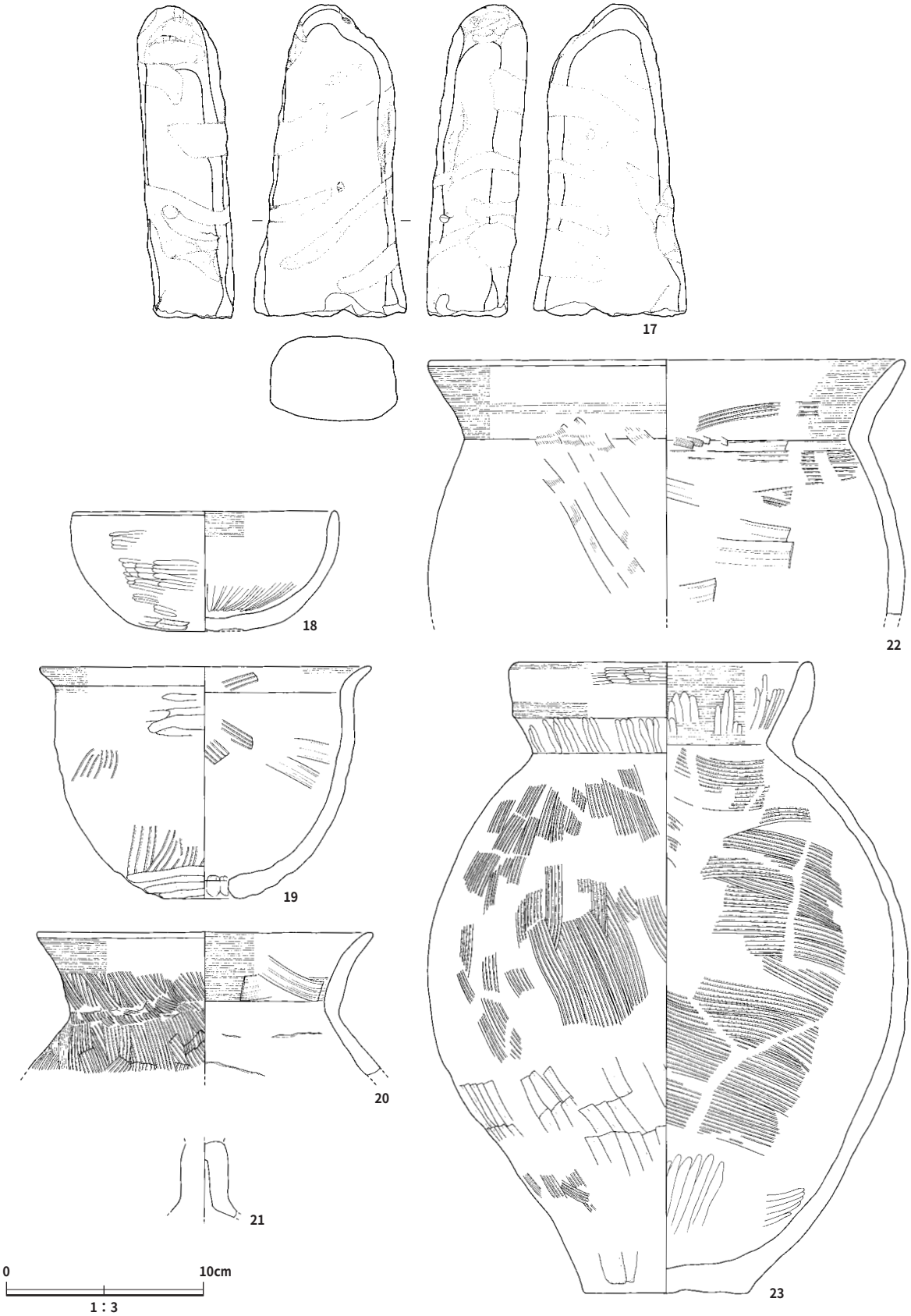
第69図　S P2021～2028・2037・3590・3677



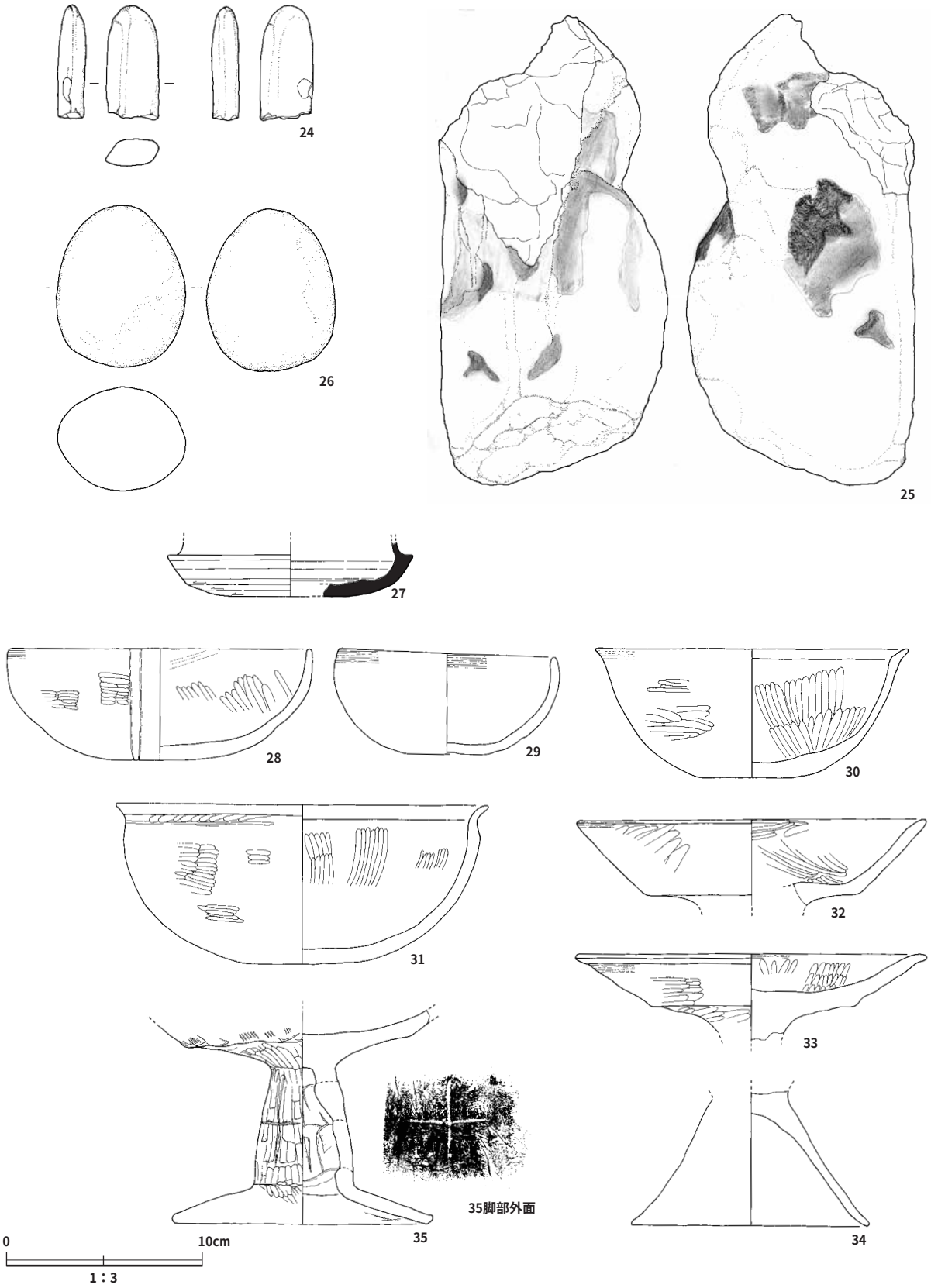
第70図　ＳＴ687出土遺物（１）



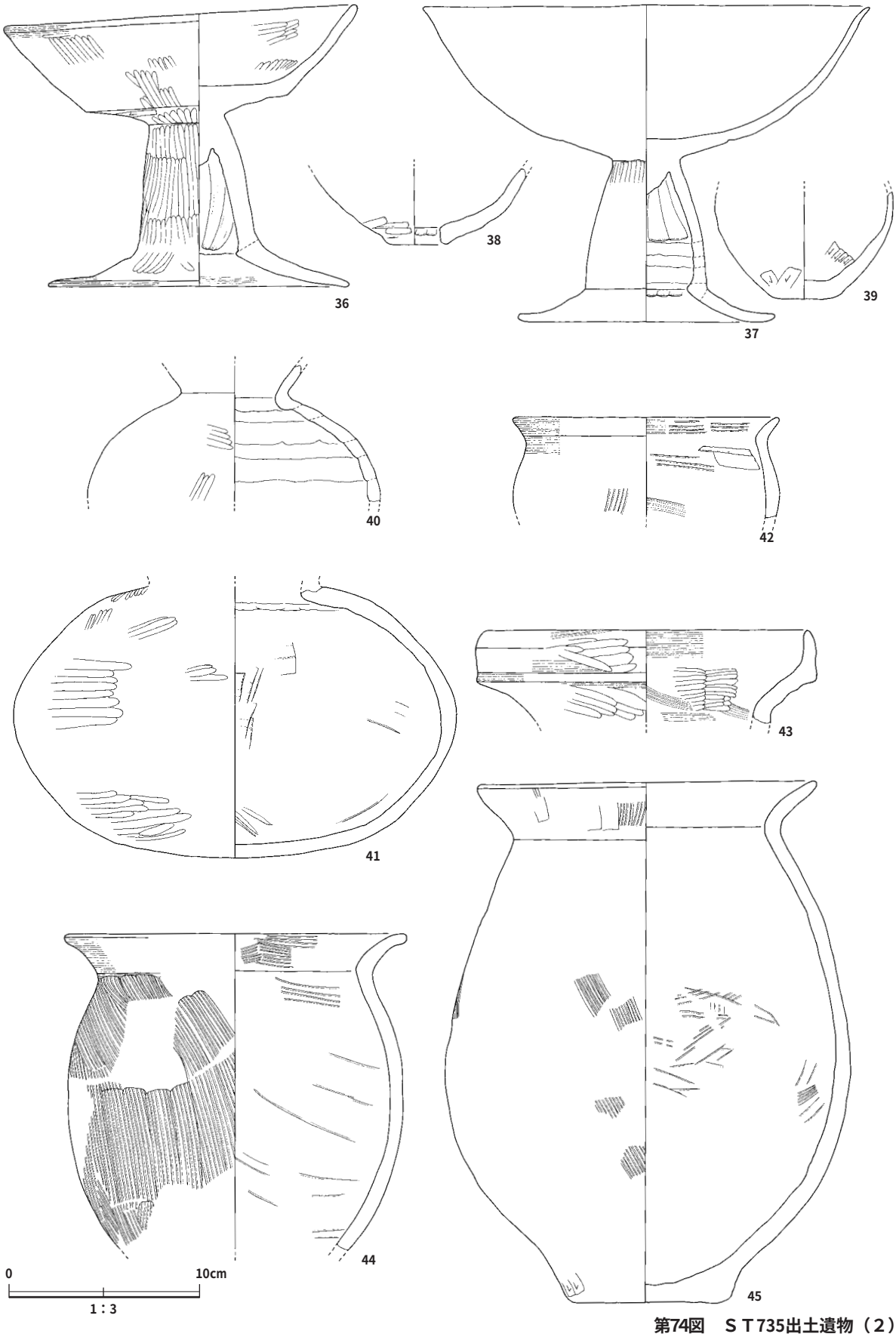
第71図　ＳＴ687出土遺物（２）



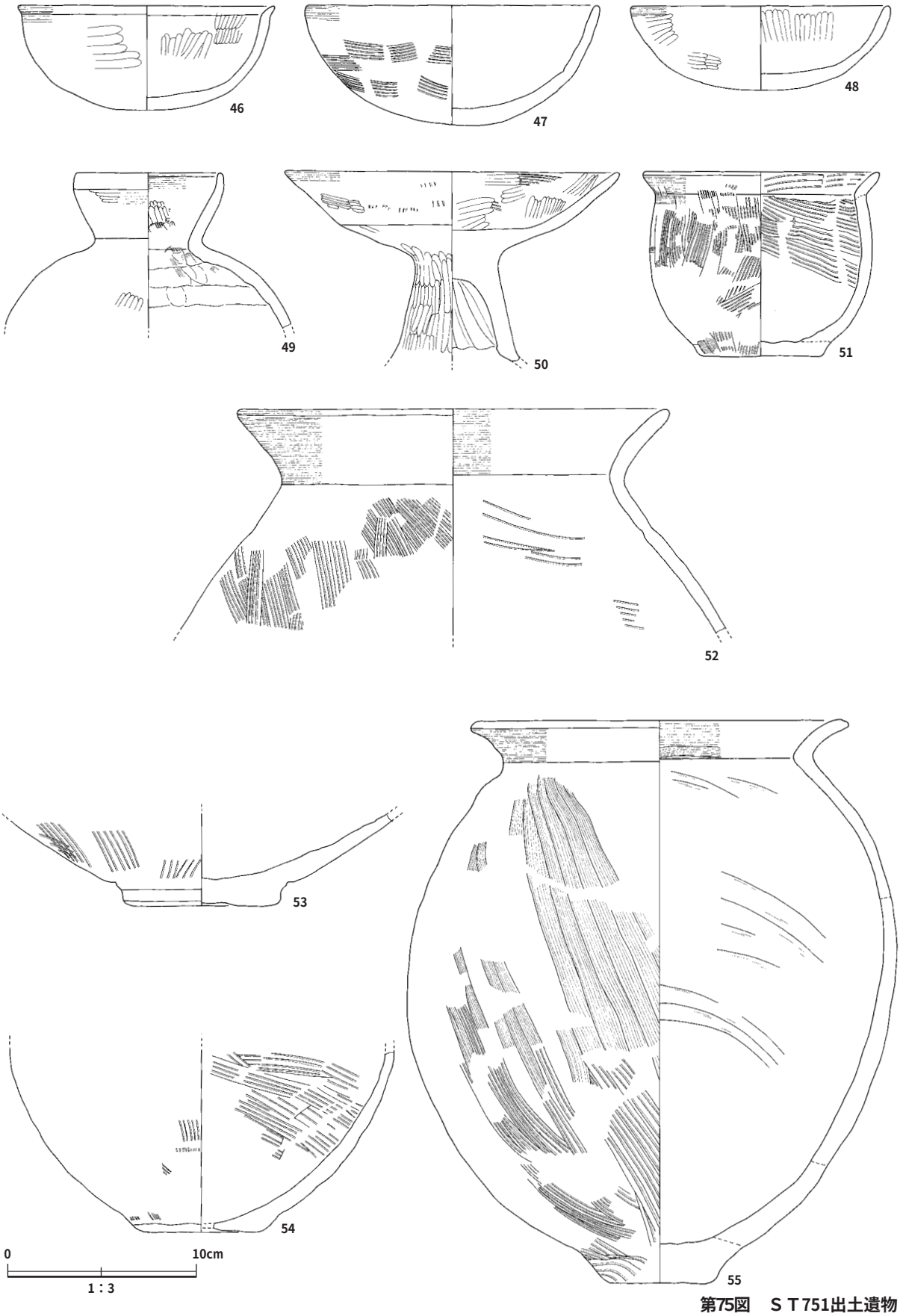
第72図　ＳＴ687出土遺物（３）・ＳＴ716出土遺物（１）



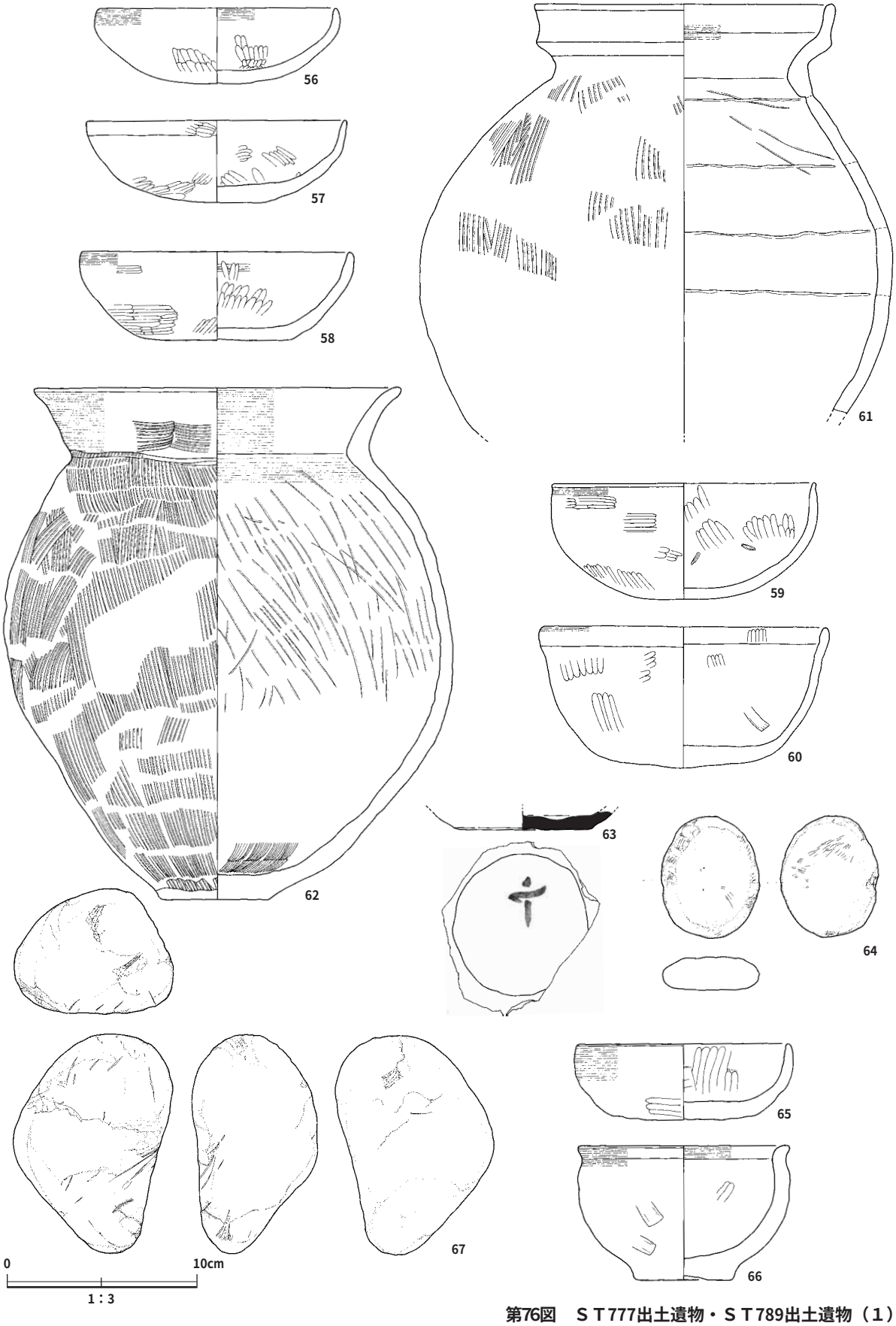
第73図　ＳＴ716出土遺物（２）・ＳＴ735出土遺物（１）



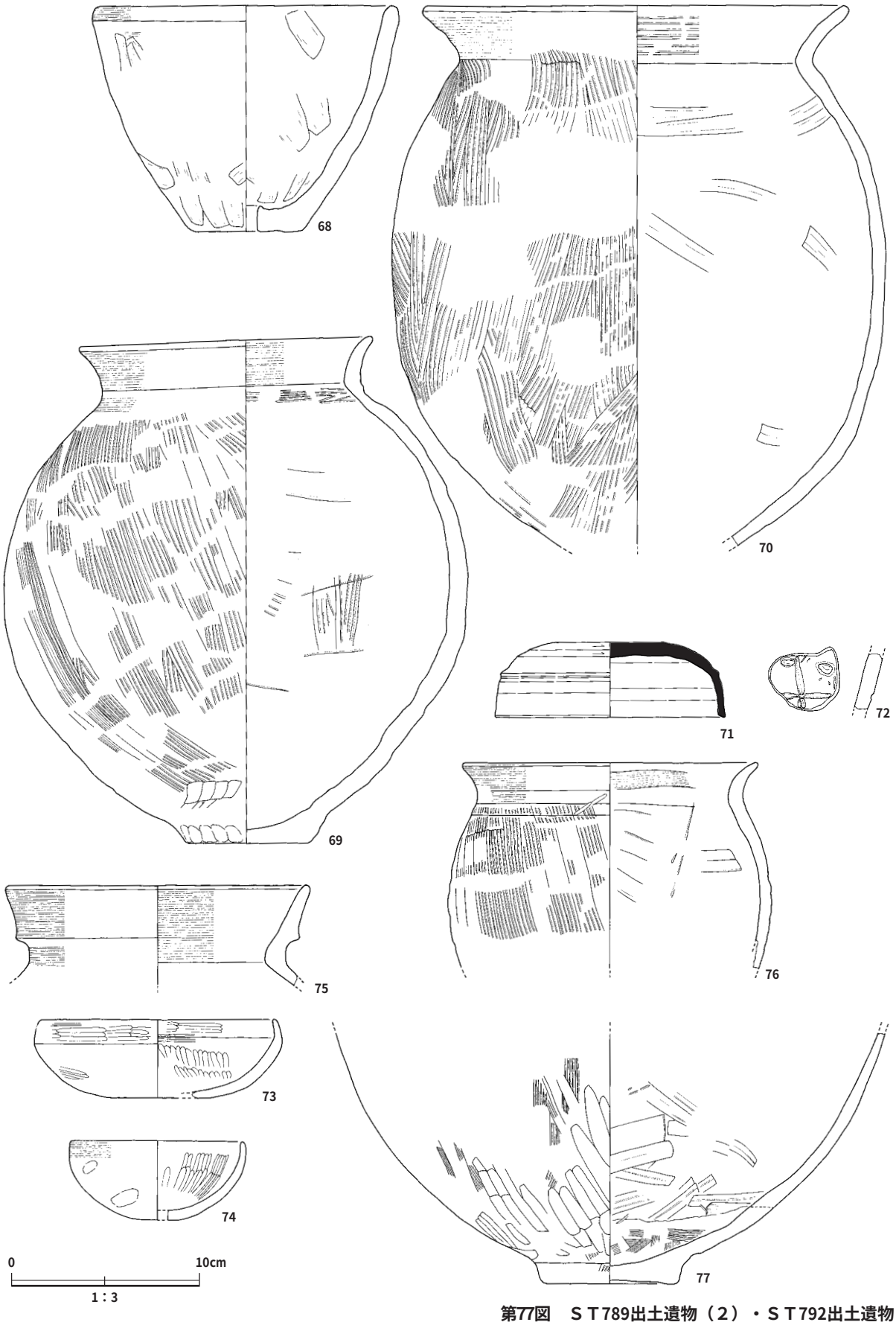
第74図　ＳＴ735出土遺物（２）



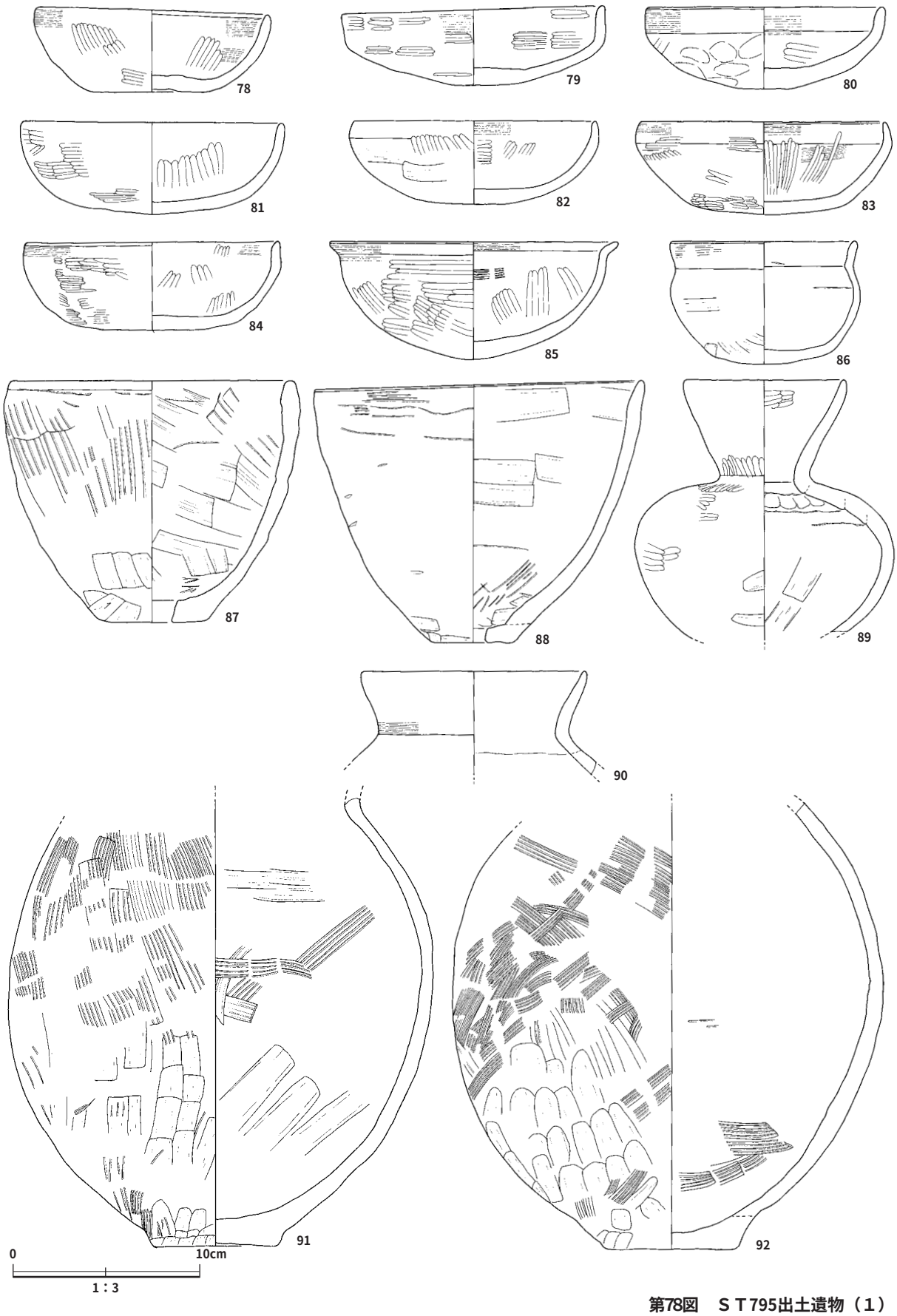
第75図　ＳＴ751出土遺物



第76図　ＳＴ777出土遺物・ＳＴ789出土遺物（１）

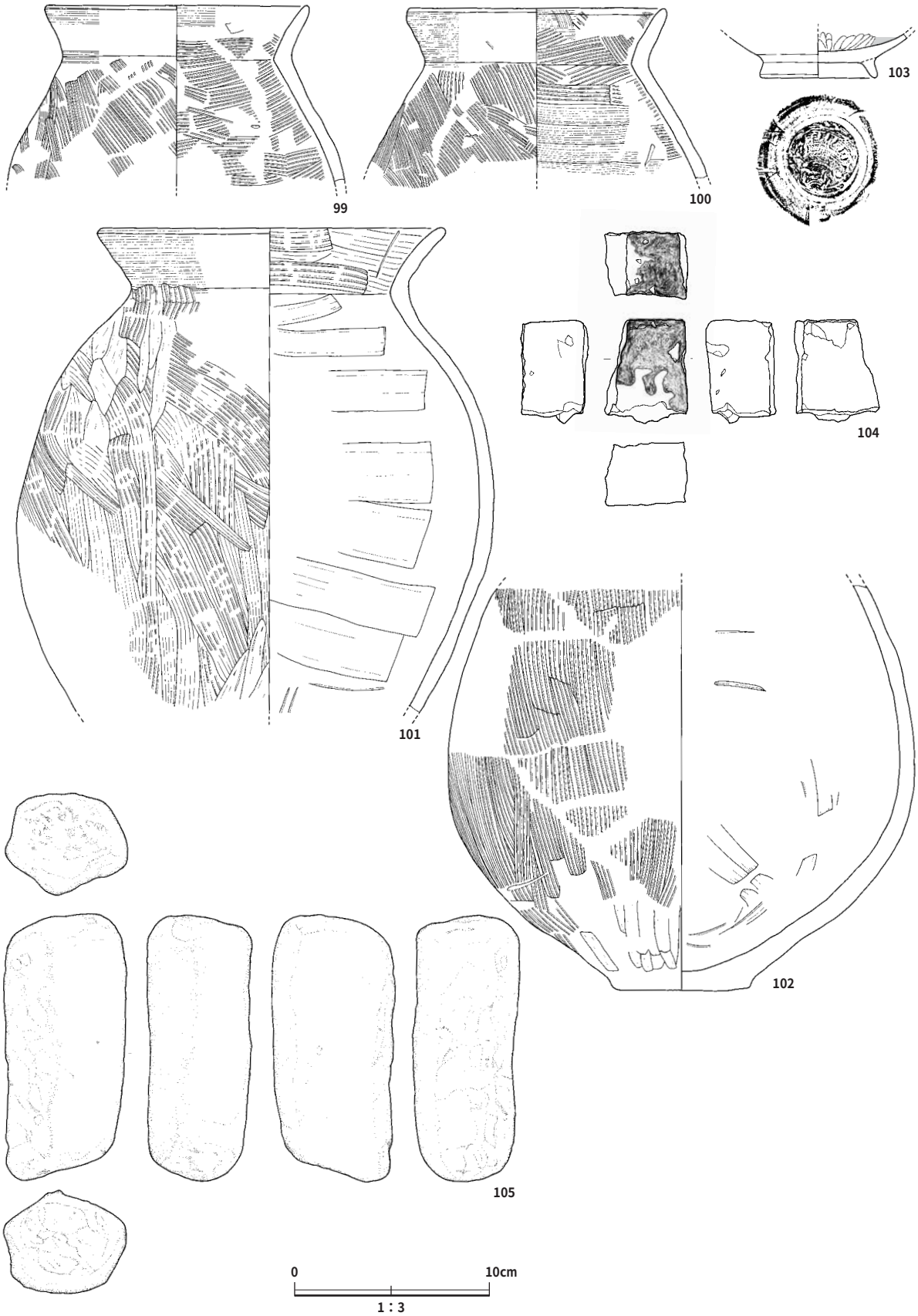


第77図　ＳＴ789出土遺物（２）・ＳＴ792出土遺物

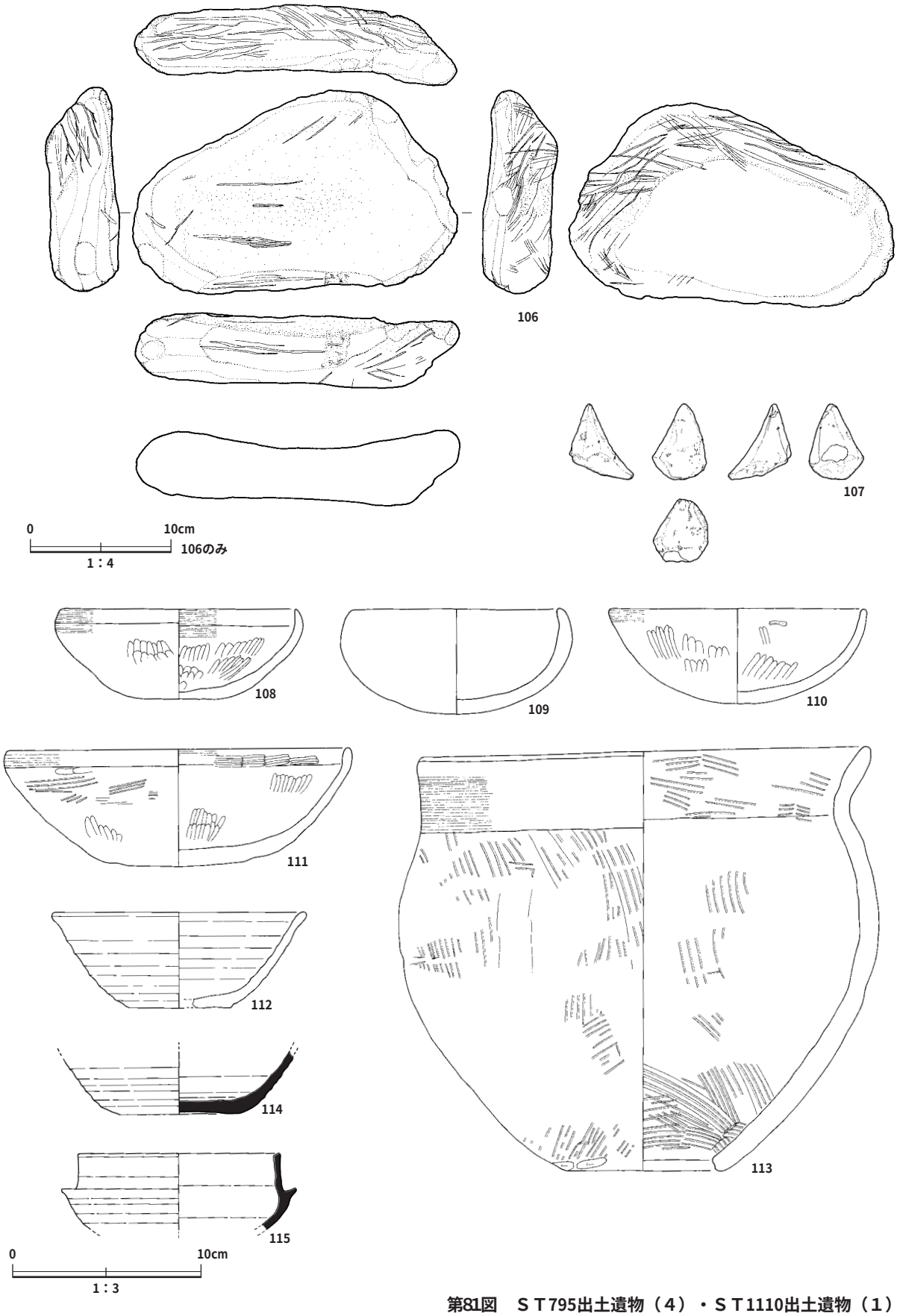


第78図　ＳＴ795出土遺物（１）

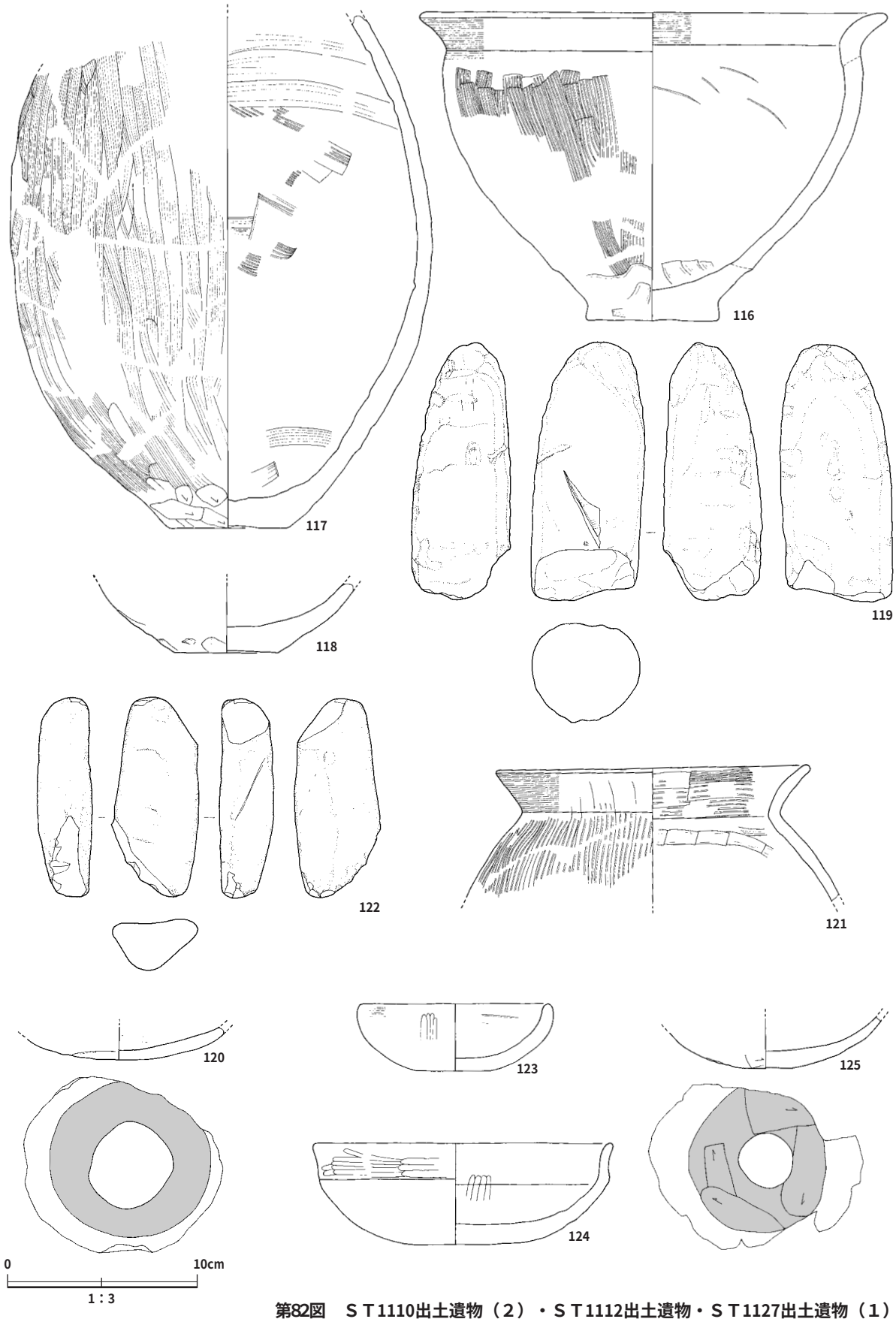
第79図　ＳＴ795出土遺物（２）



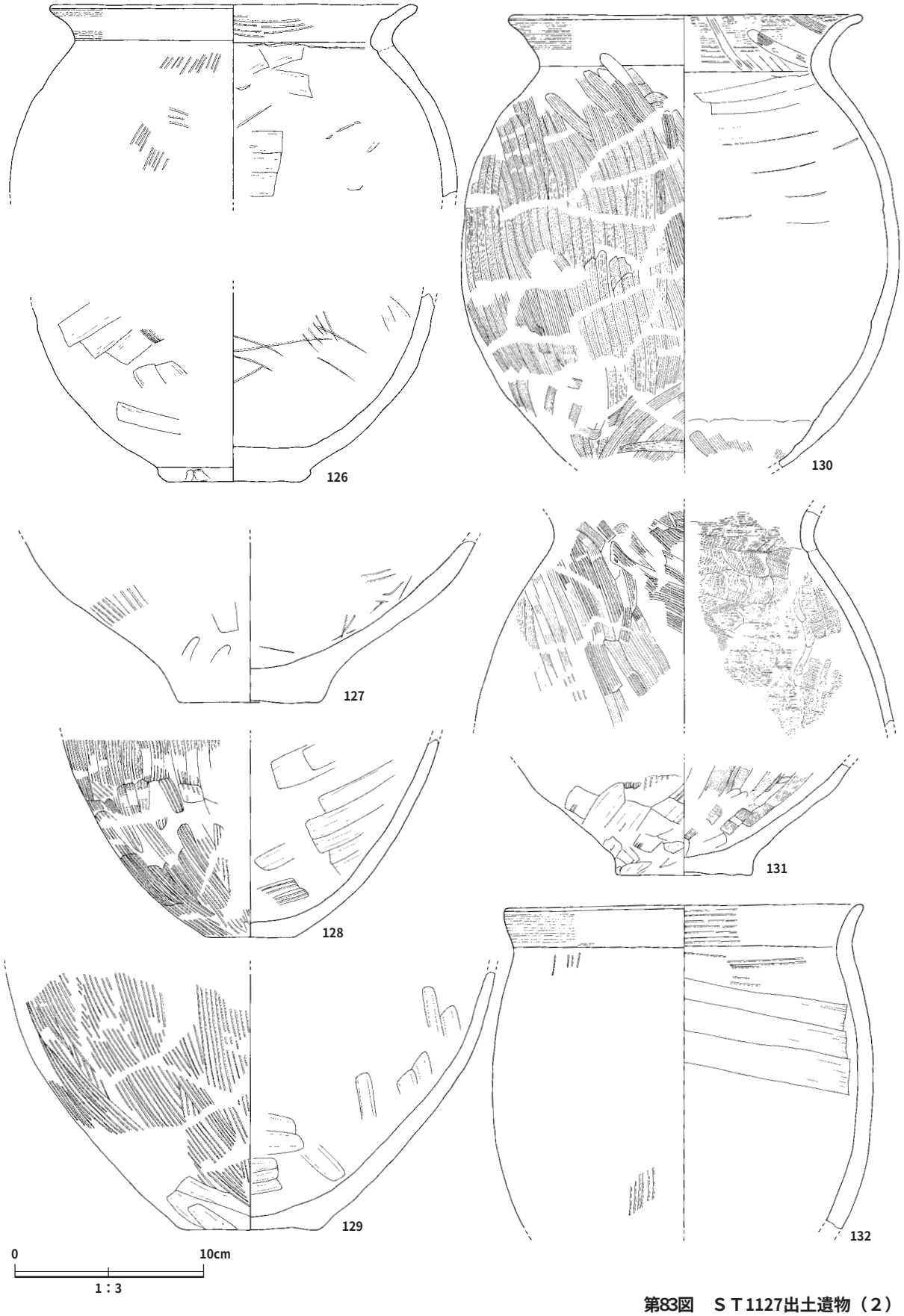
第80図　ＳＴ795出土遺物（３）



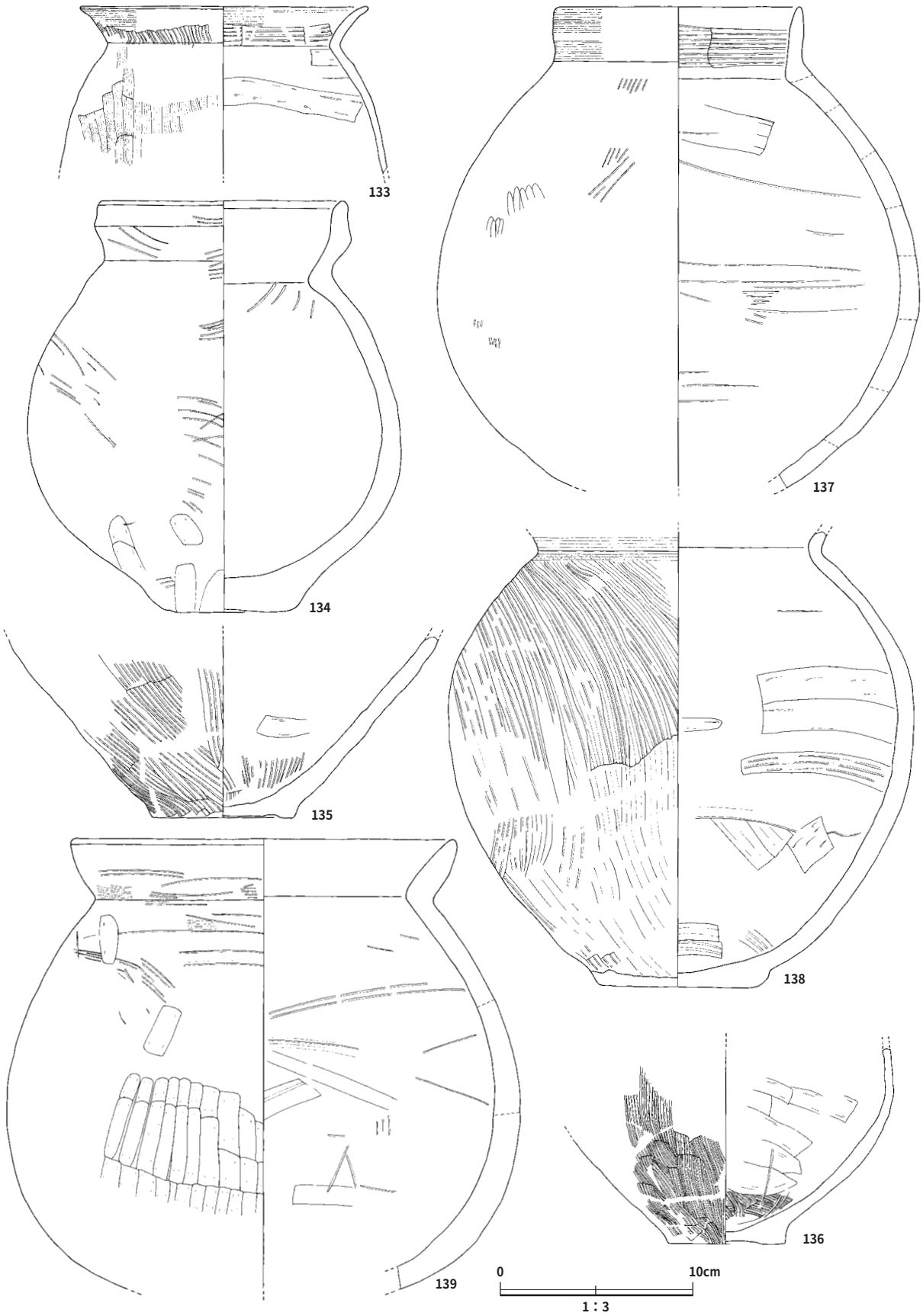
第81図　ＳＴ795出土遺物（４）・ＳＴ1110出土遺物（１）



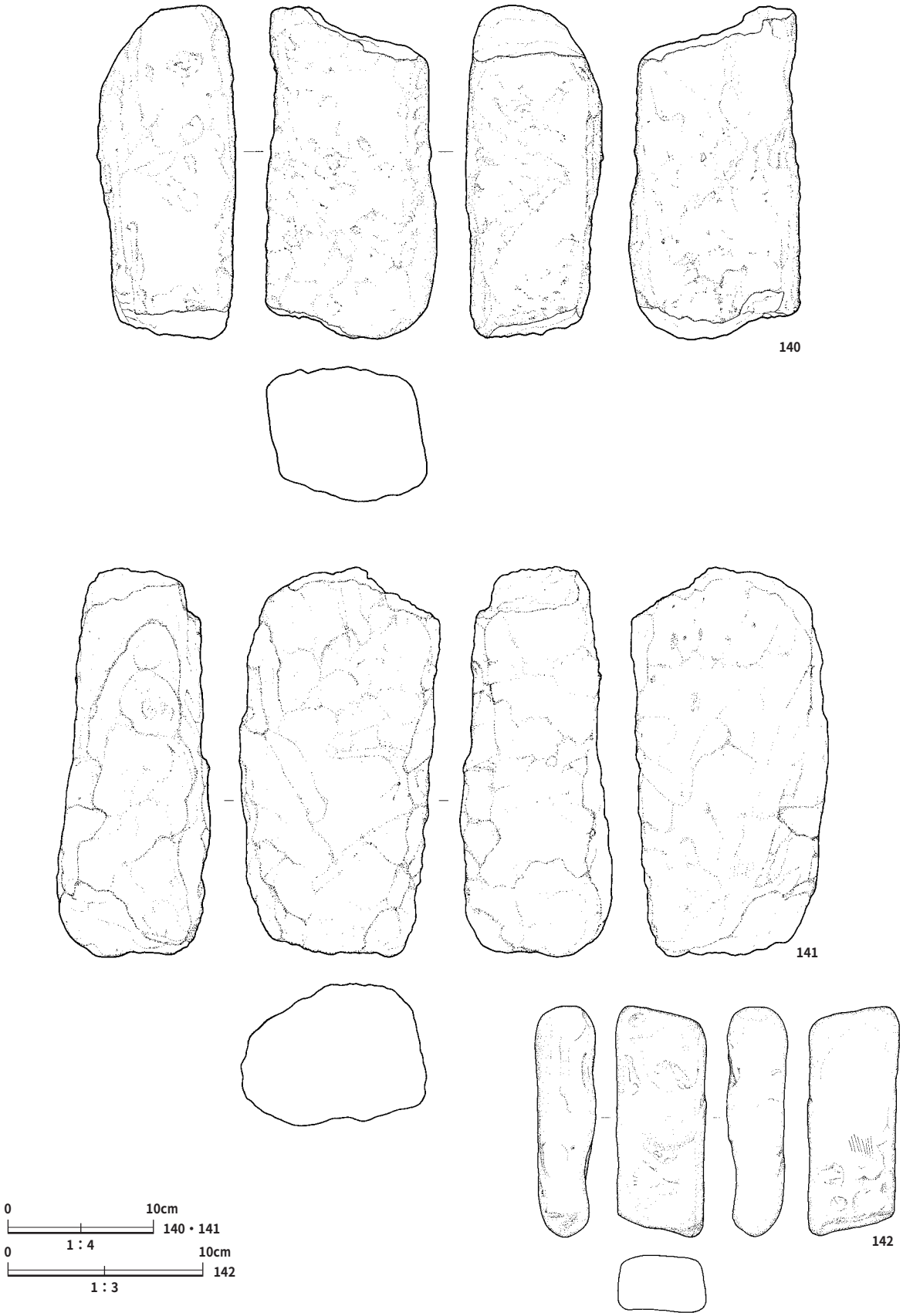
第82図　ＳＴ1110出土遺物（２）・ＳＴ1112出土遺物・ＳＴ1127出土遺物（１）



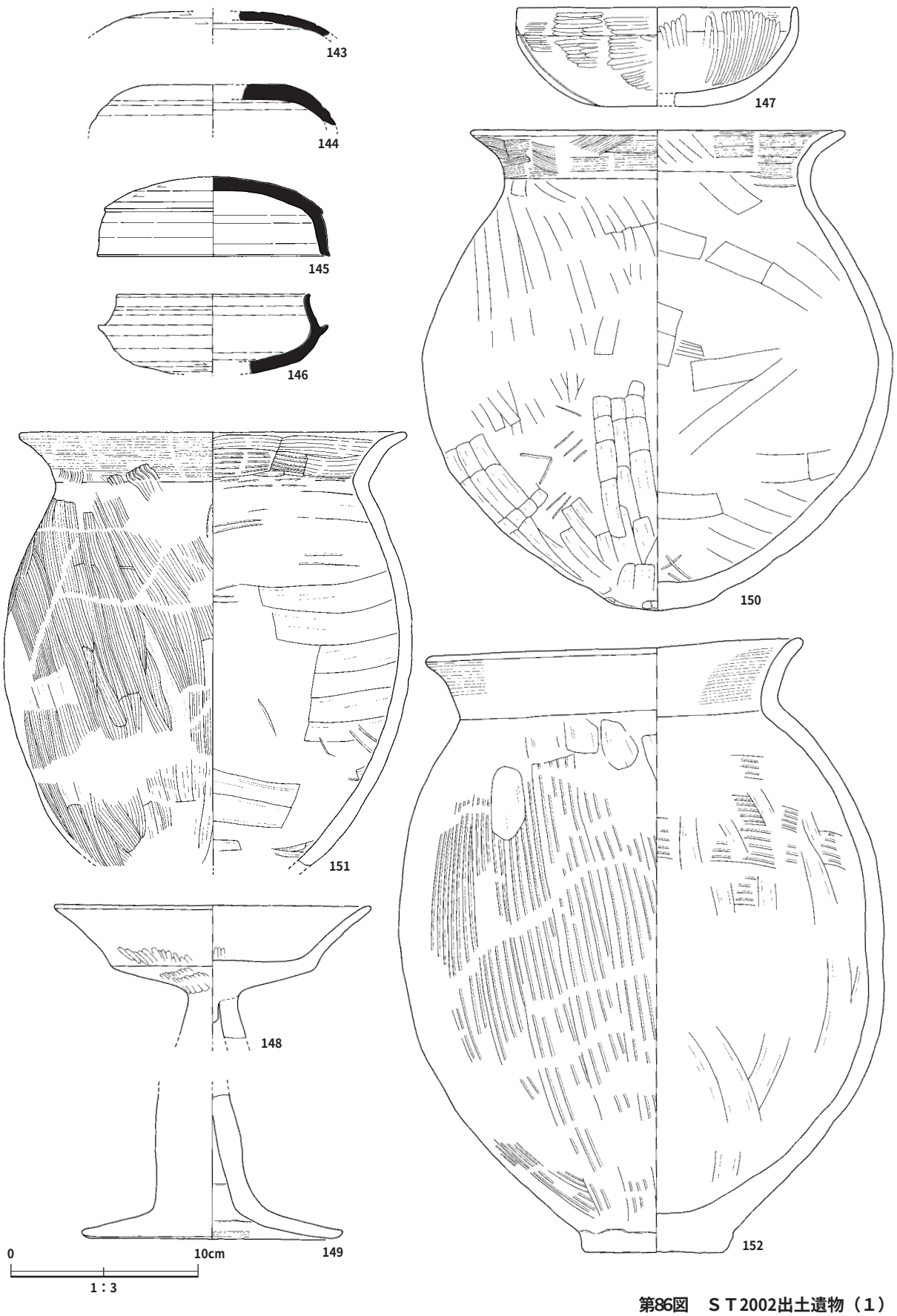
第83図　ＳＴ1127出土遺物（２）



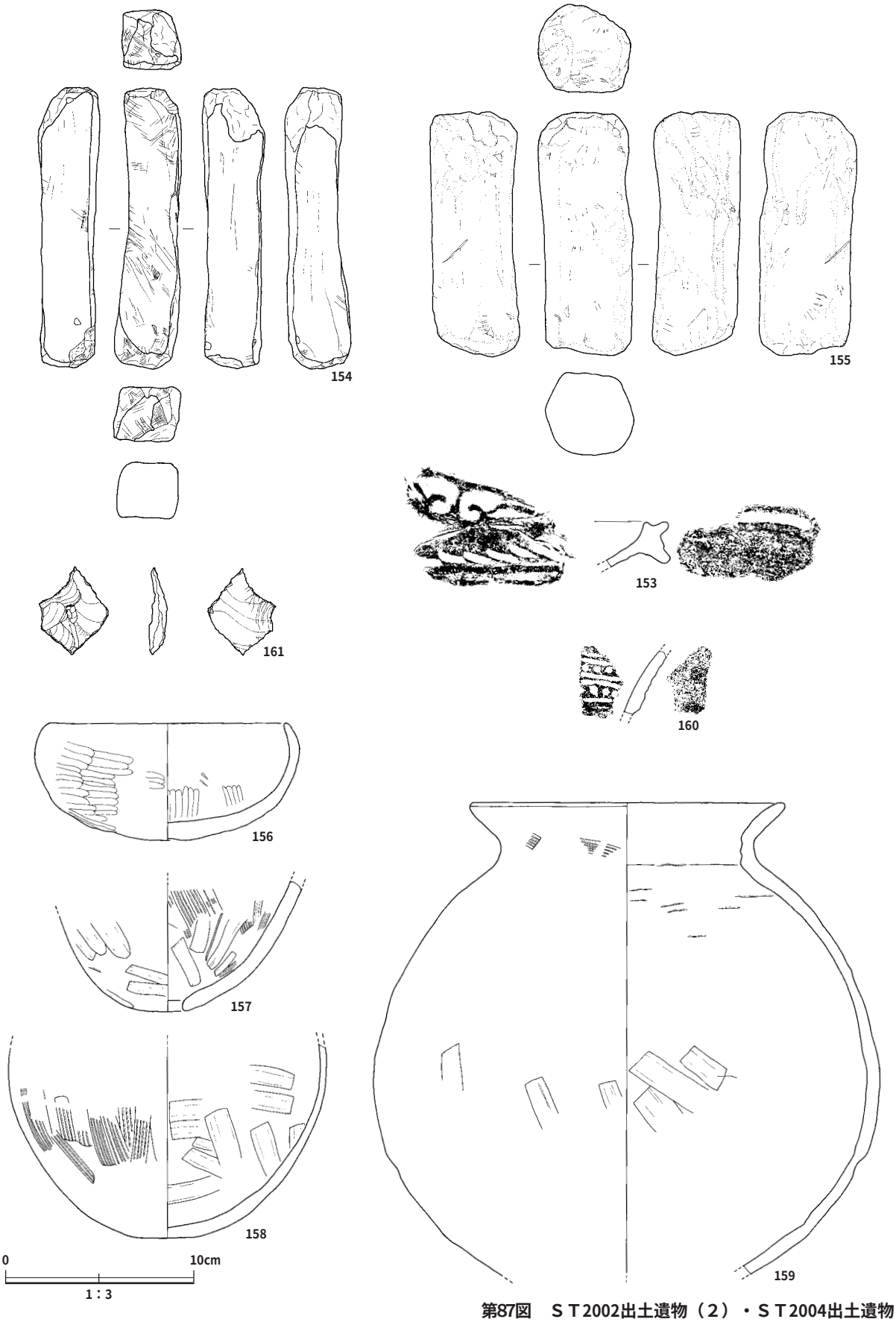
第84図　ＳＴ1127出土遺物（３）



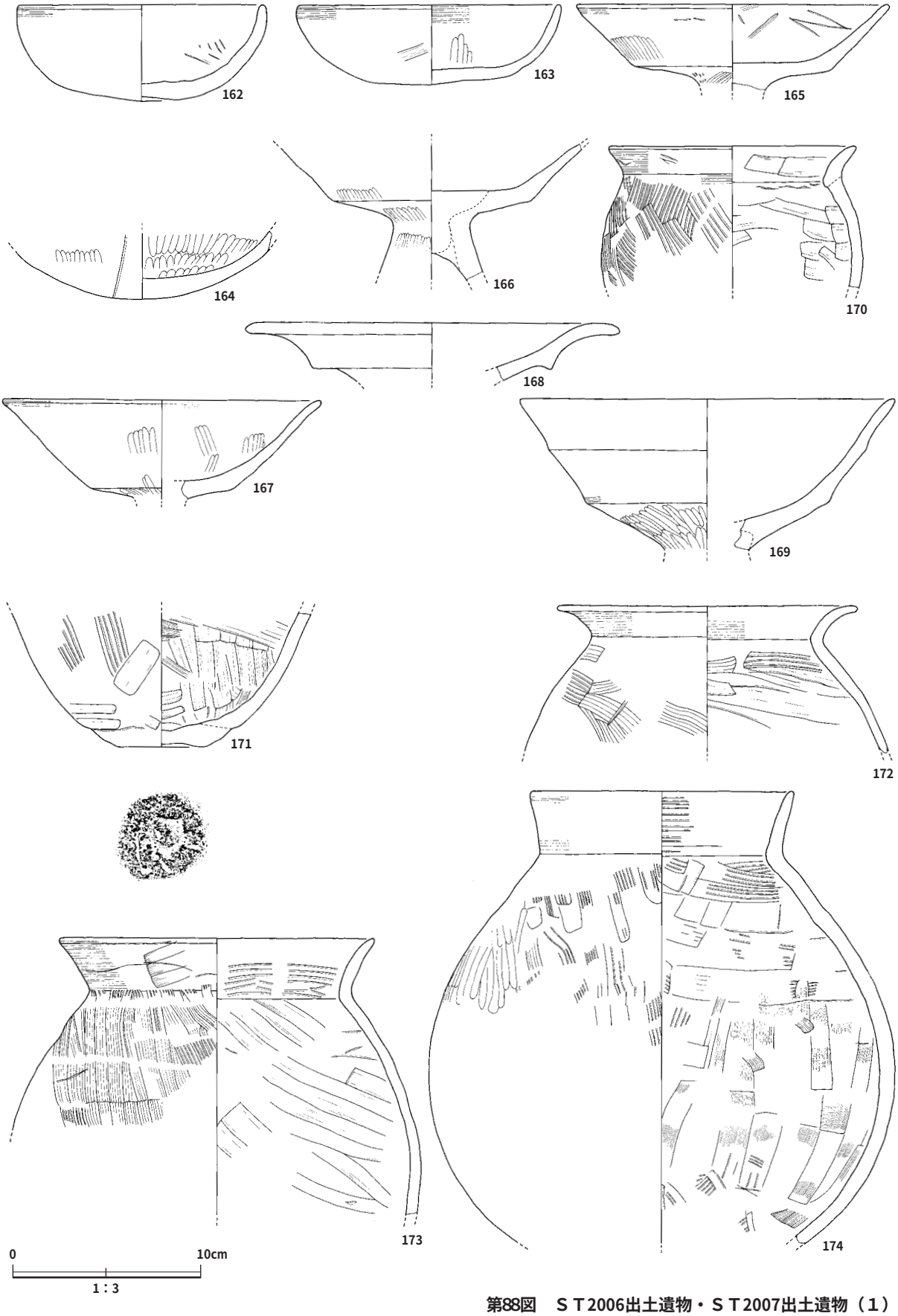
第85図　ＳＴ1127出土遺物（４）



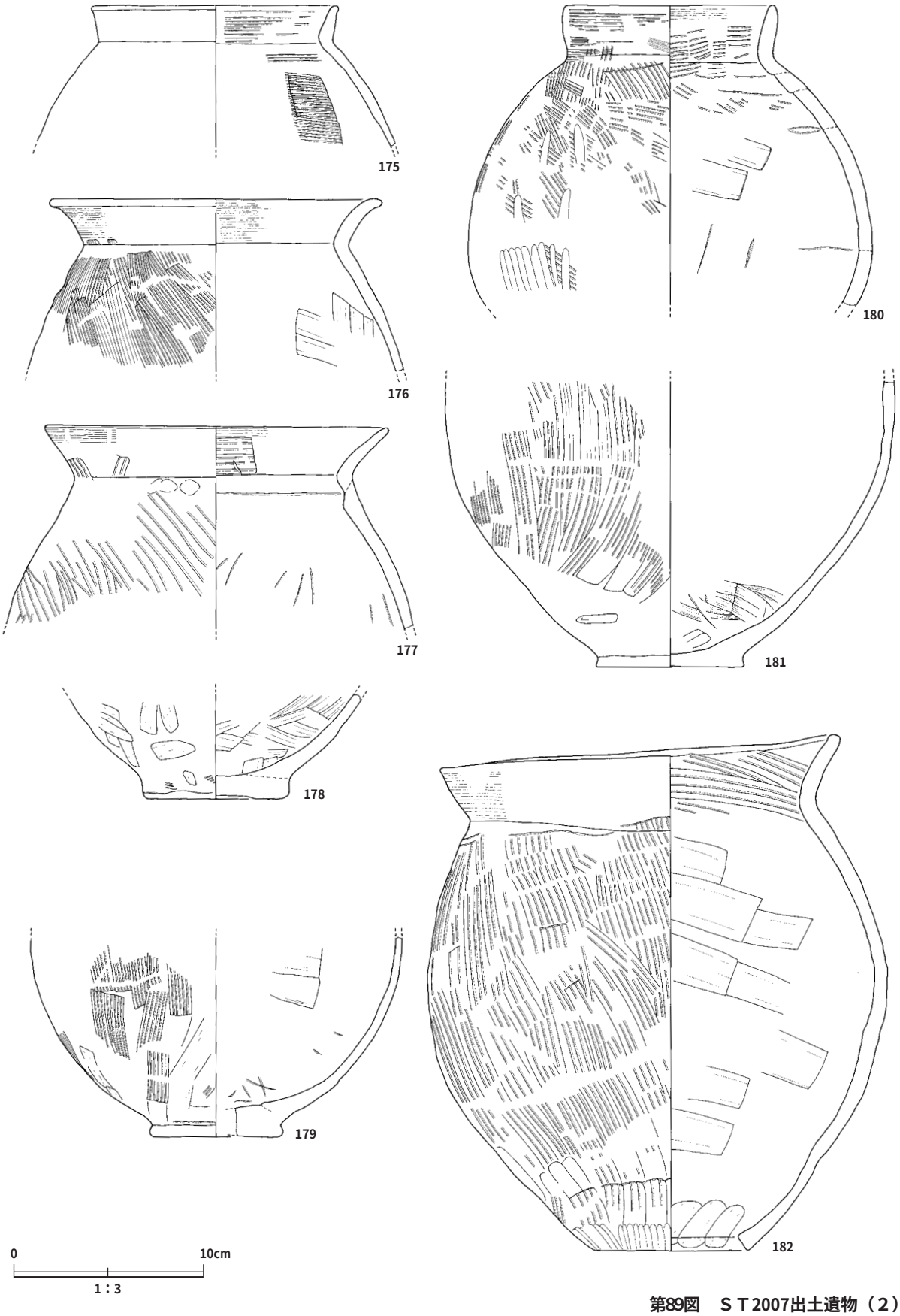
第86図　ＳＴ2002出土遺物（１）



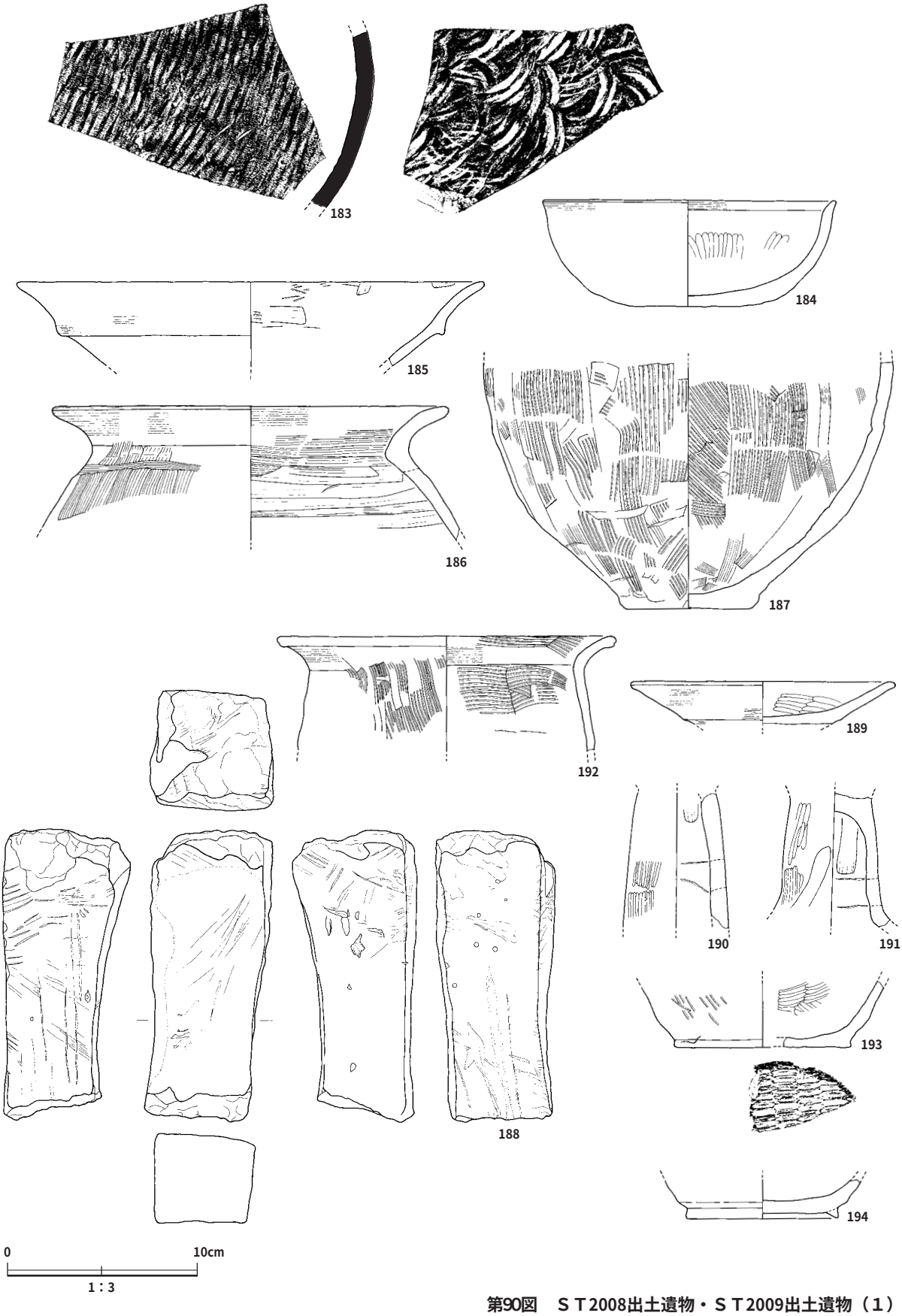
第87図　ＳＴ2002出土遺物（２）・ＳＴ2004出土遺物



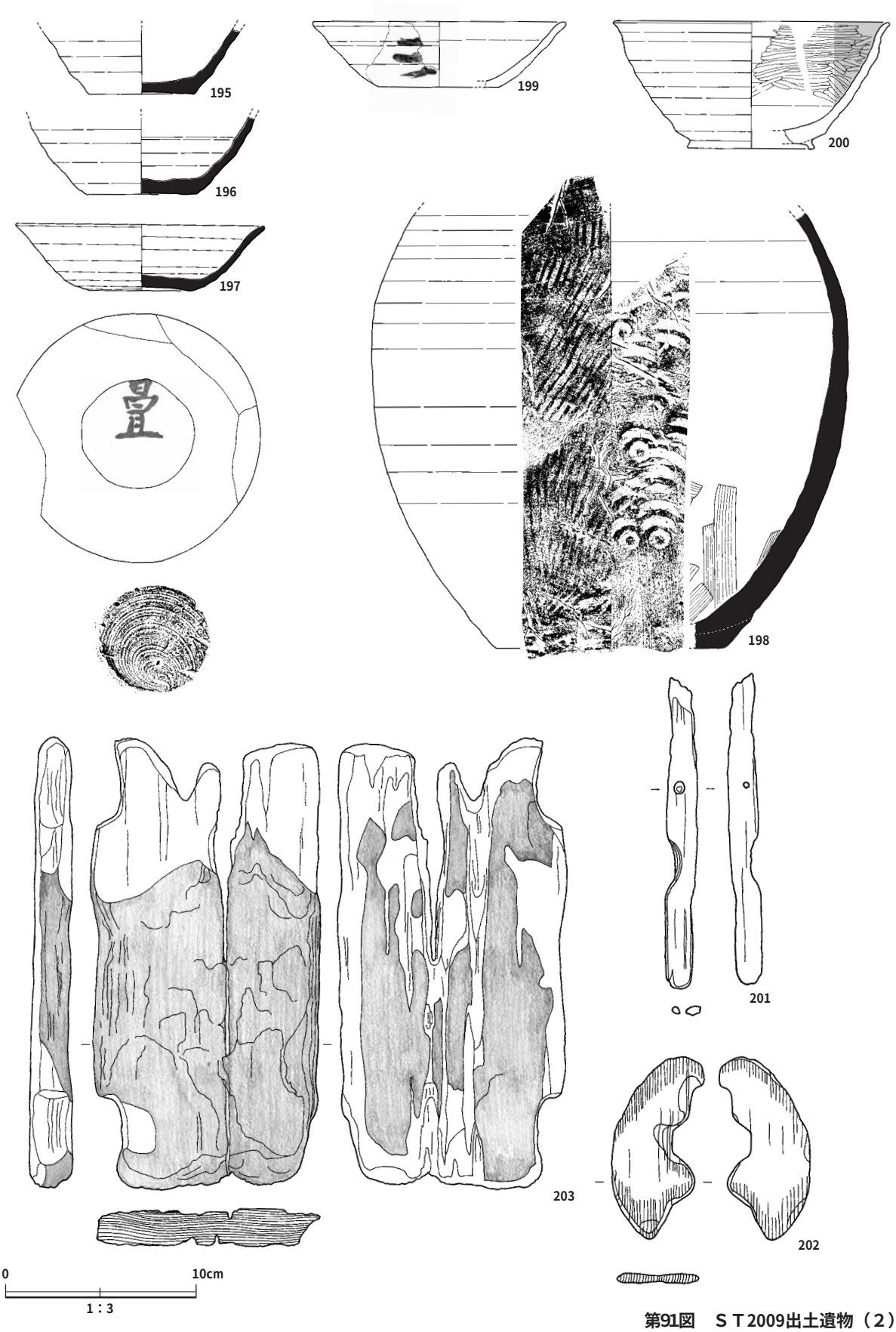
第88図　ＳＴ2006出土遺物・ＳＴ2007出土遺物（１）



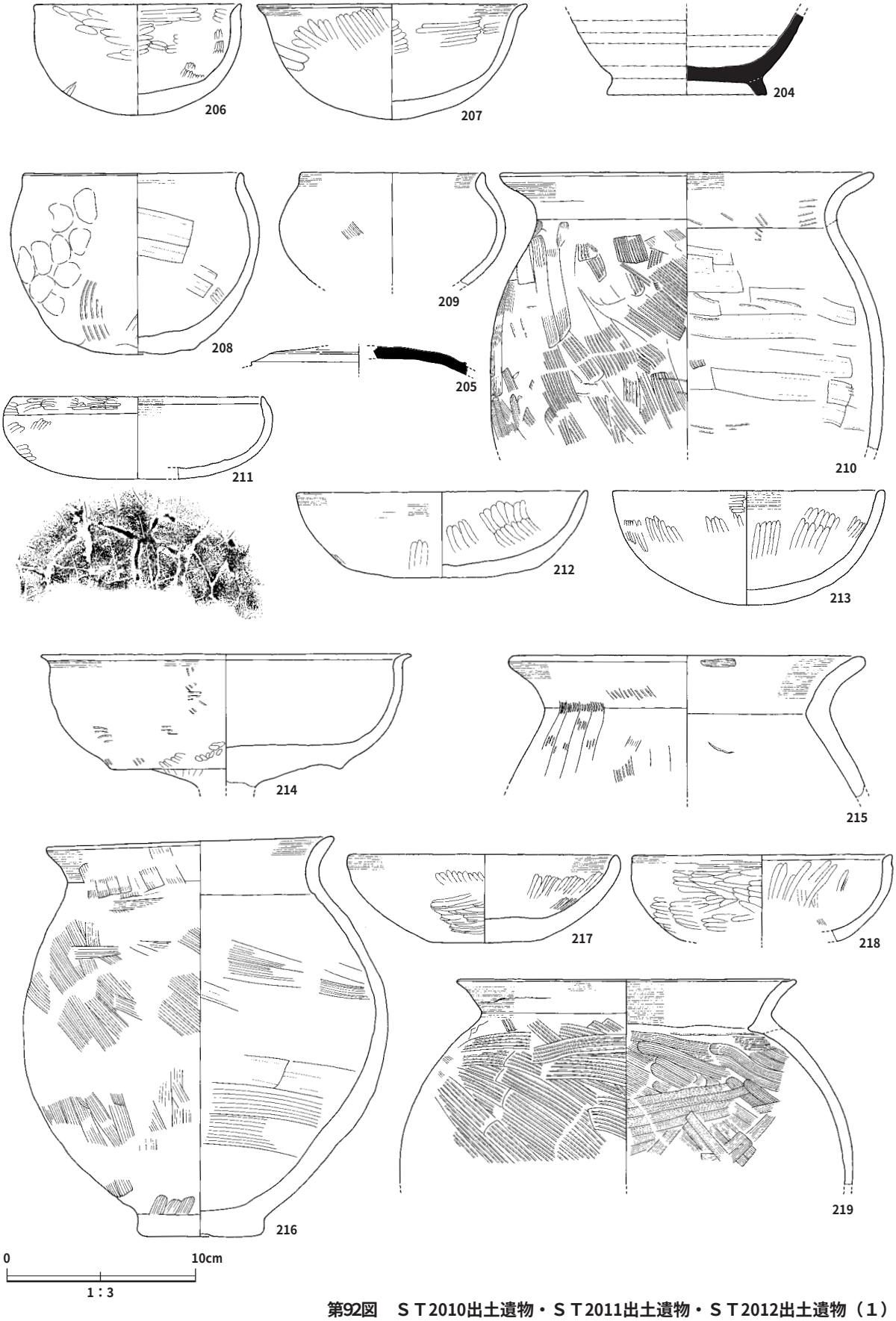
第89図　ＳＴ2007出土遺物（２）



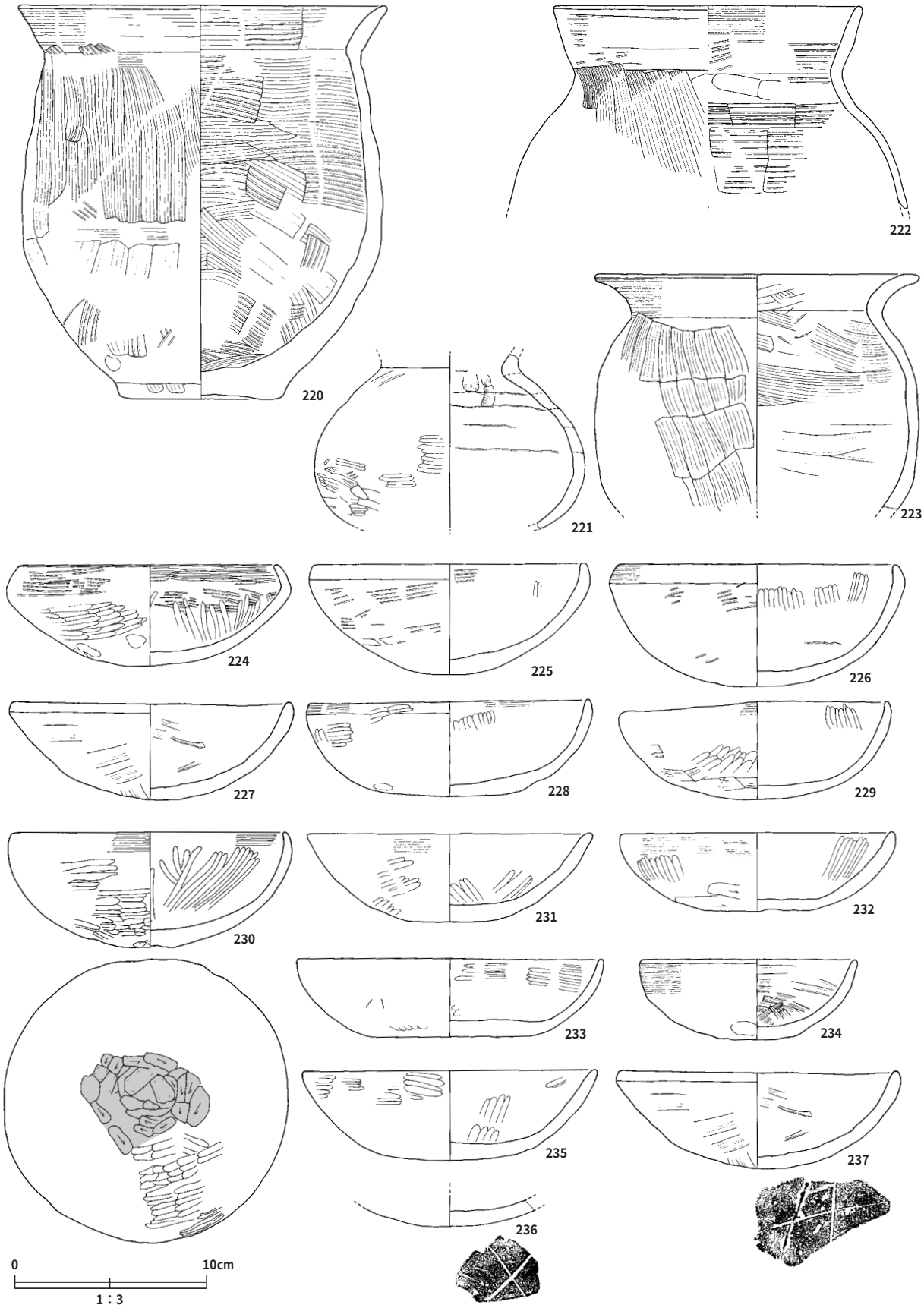
第90図　ＳＴ2008出土遺物・ＳＴ2009出土遺物（１）



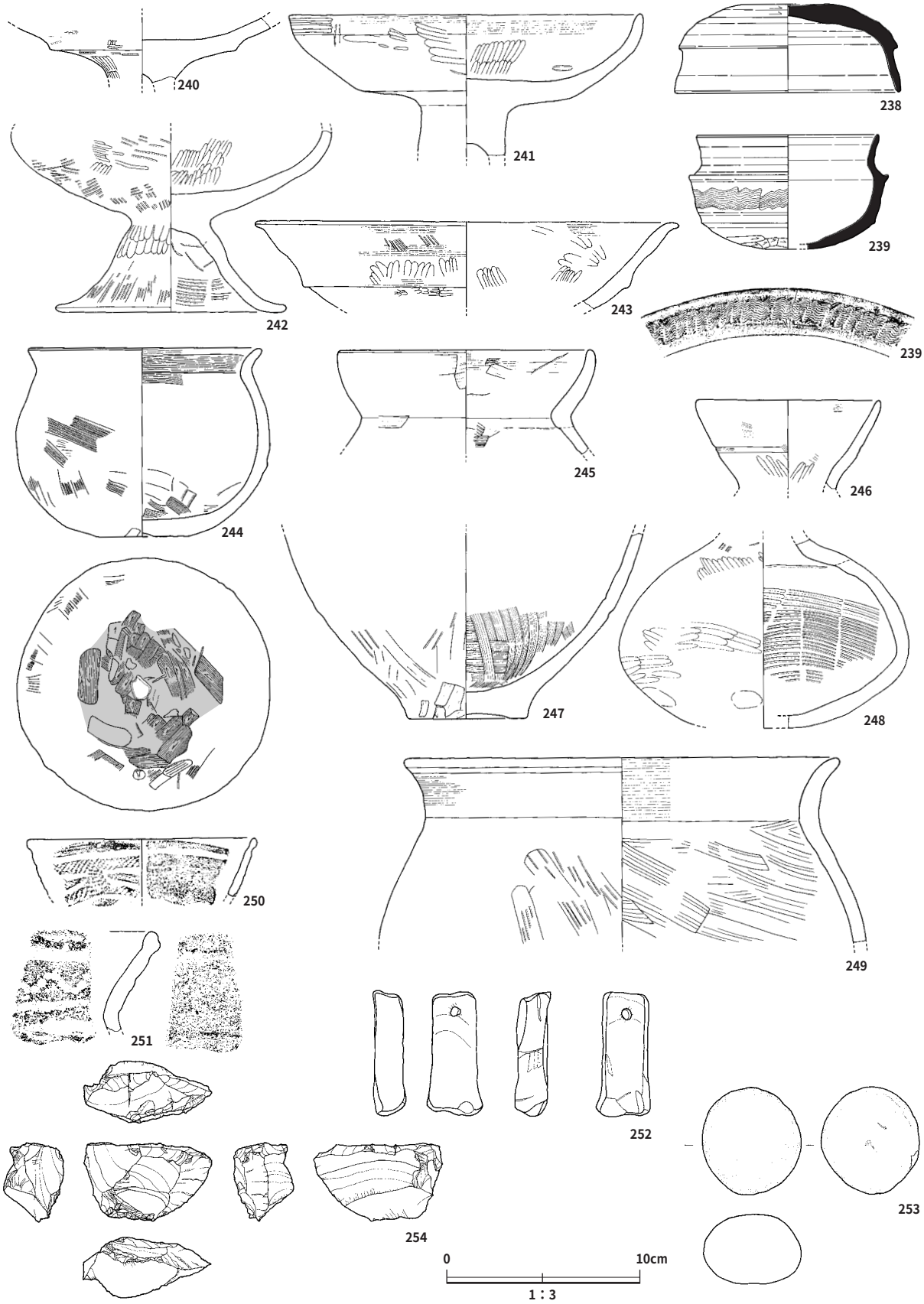
第91図　ＳＴ2009出土遺物（２）



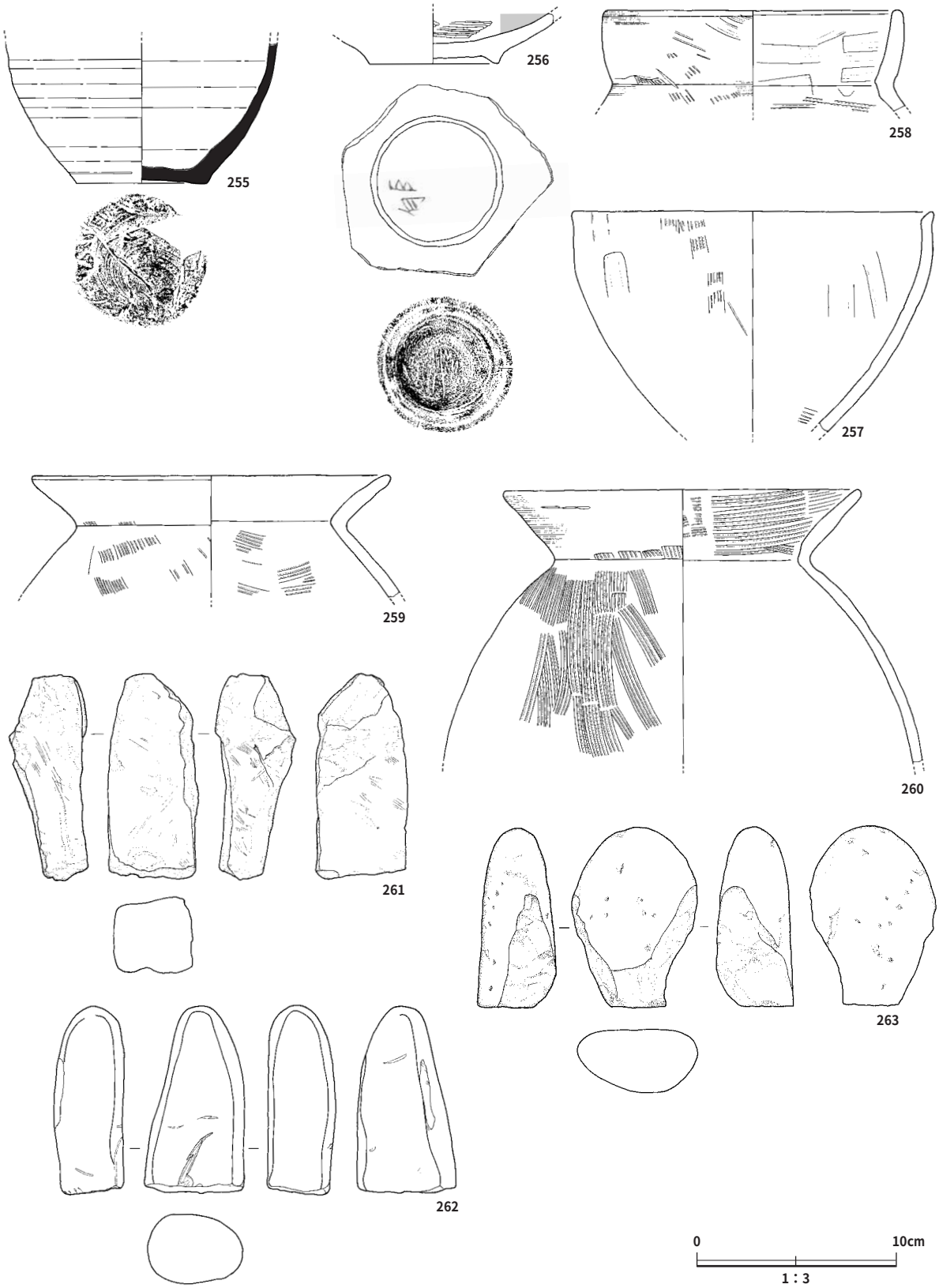
第92図　ＳＴ2010出土遺物・ＳＴ2011出土遺物・ＳＴ2012出土遺物（１）



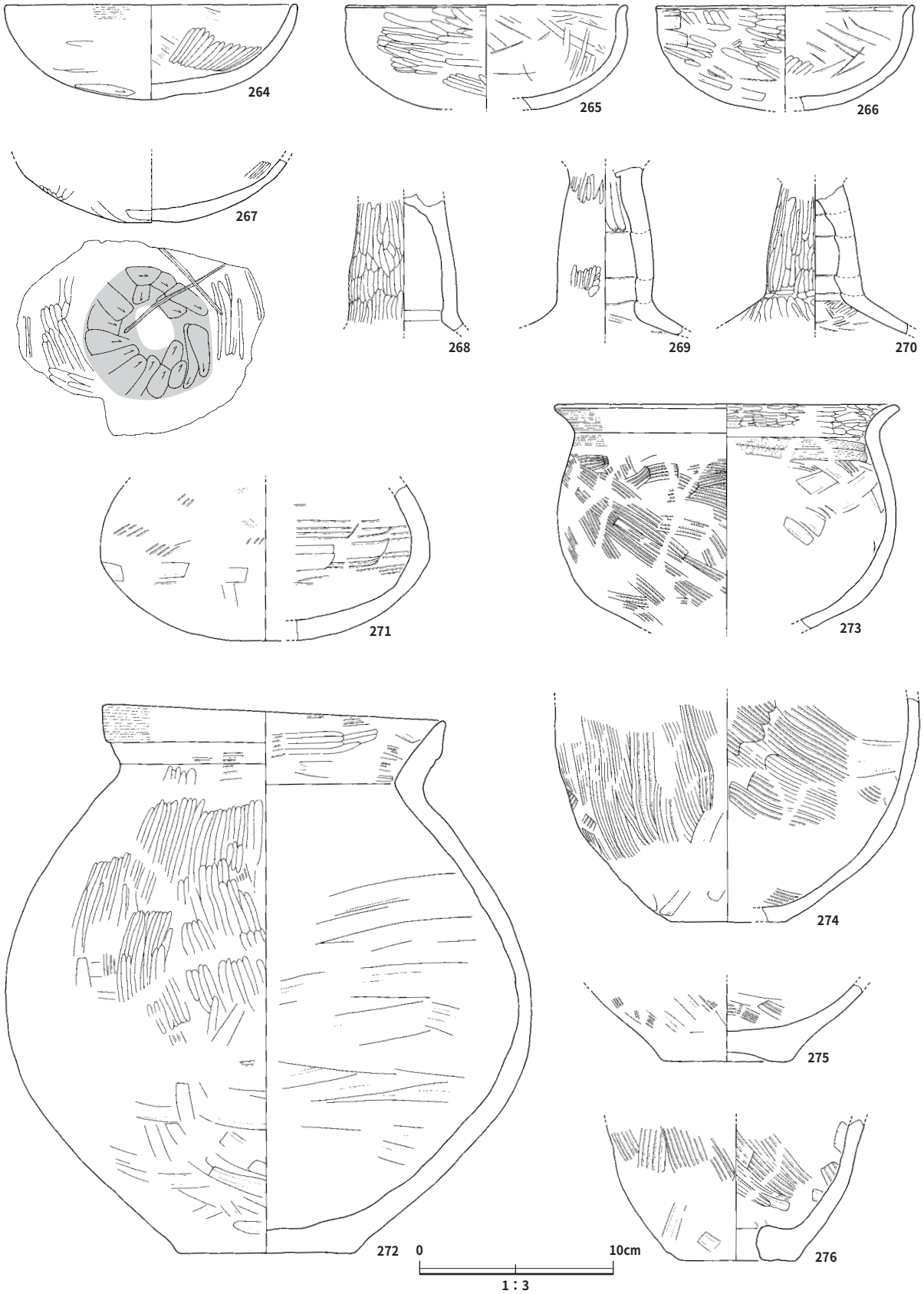
第93図　ＳＴ2012出土遺物（２）・ＳＴ2014出土遺物（１）



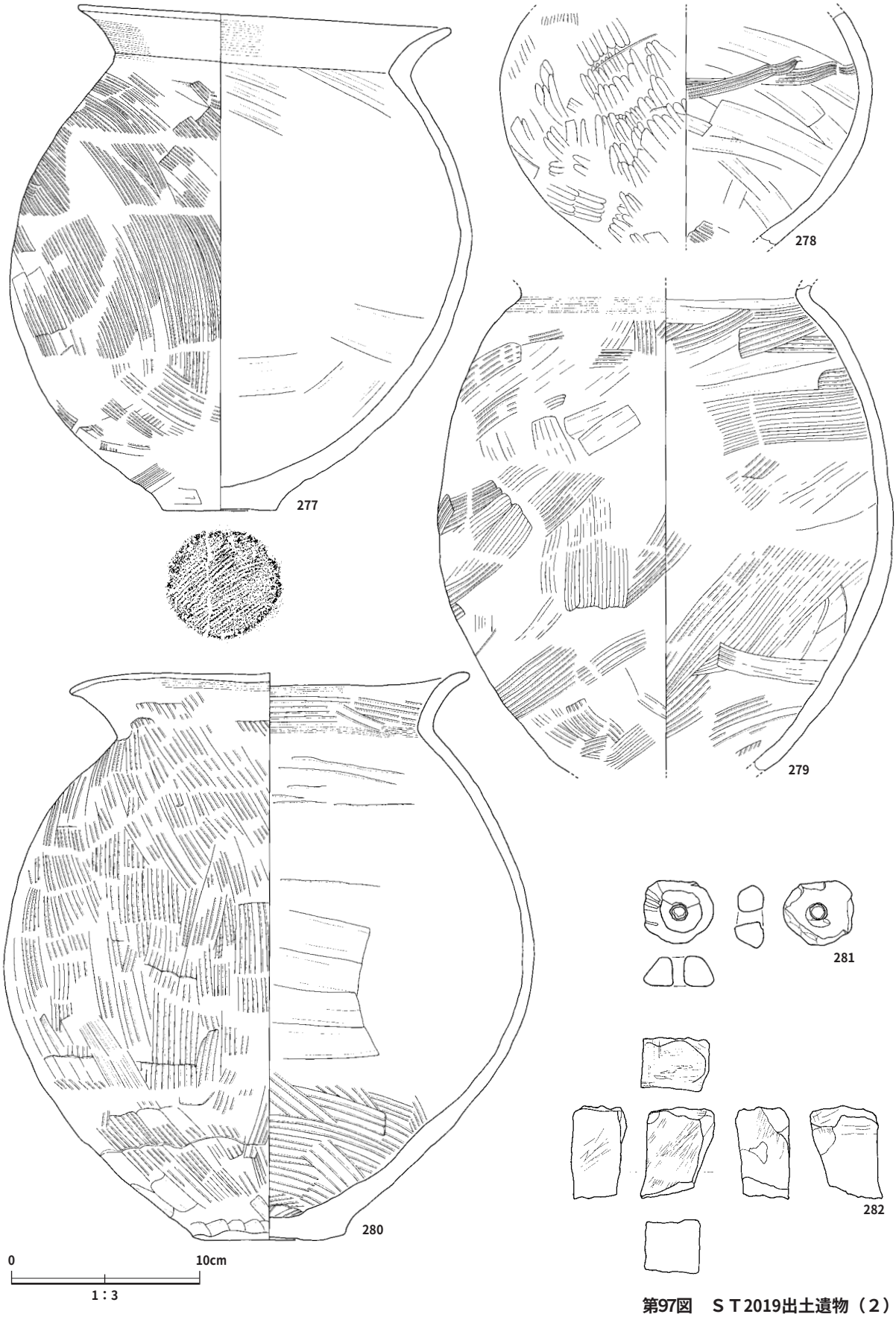
第94図　ＳＴ2014出土遺物（２）



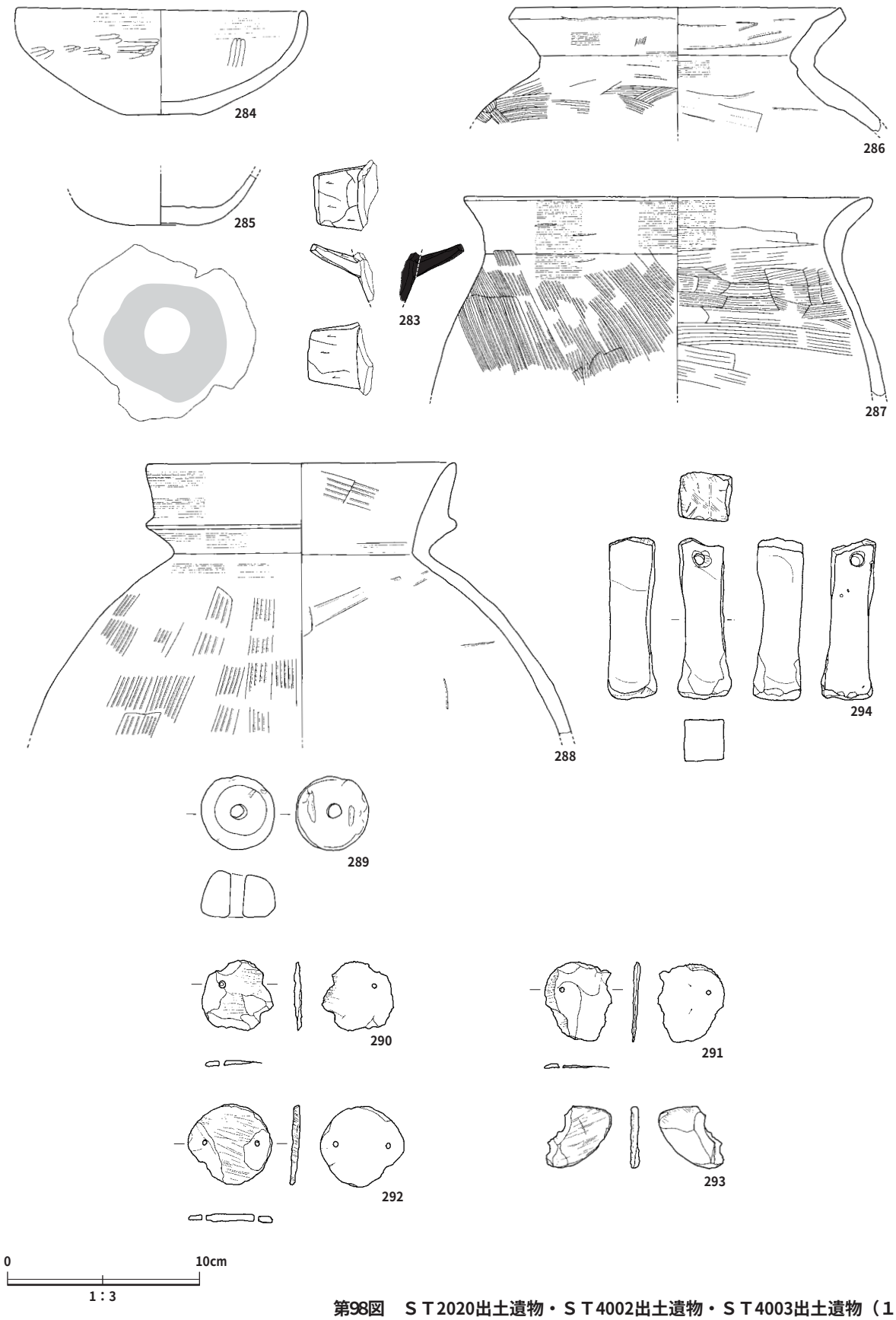
第95図　ＳＴ2016出土遺物・ＳＴ2017出土遺物



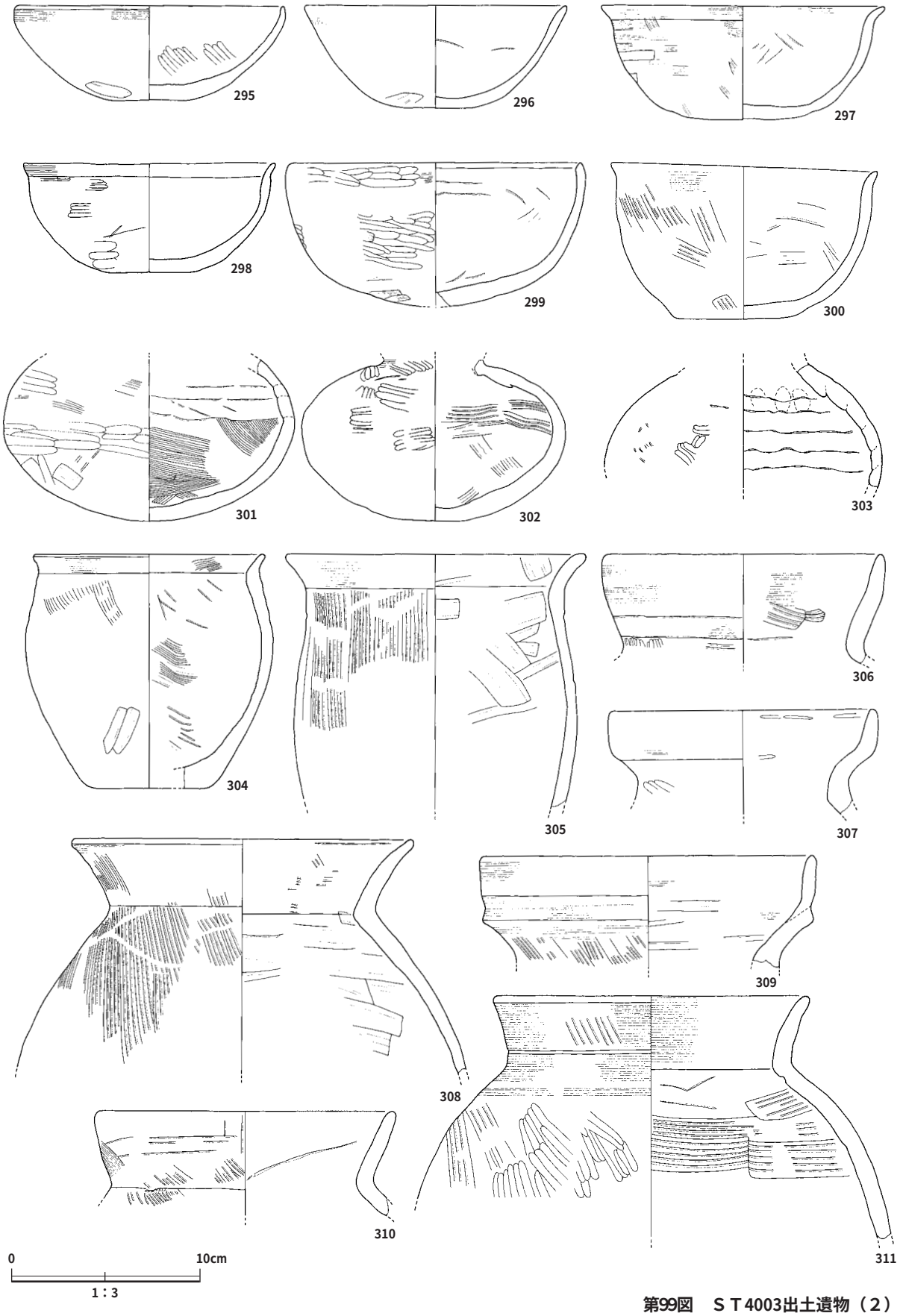
第96図　ＳＴ2019出土遺物（１）



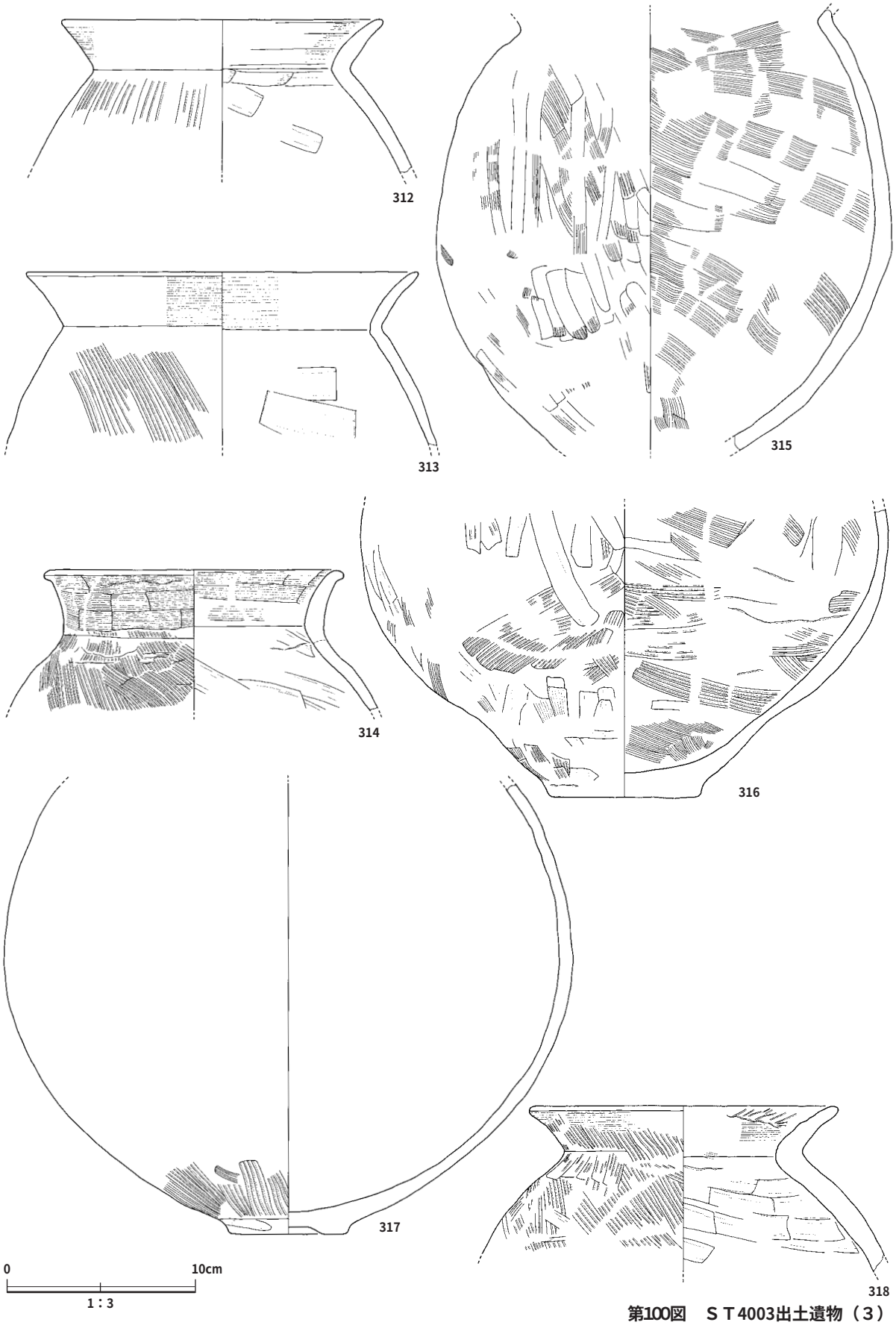
第97図　ＳＴ2019出土遺物（２）



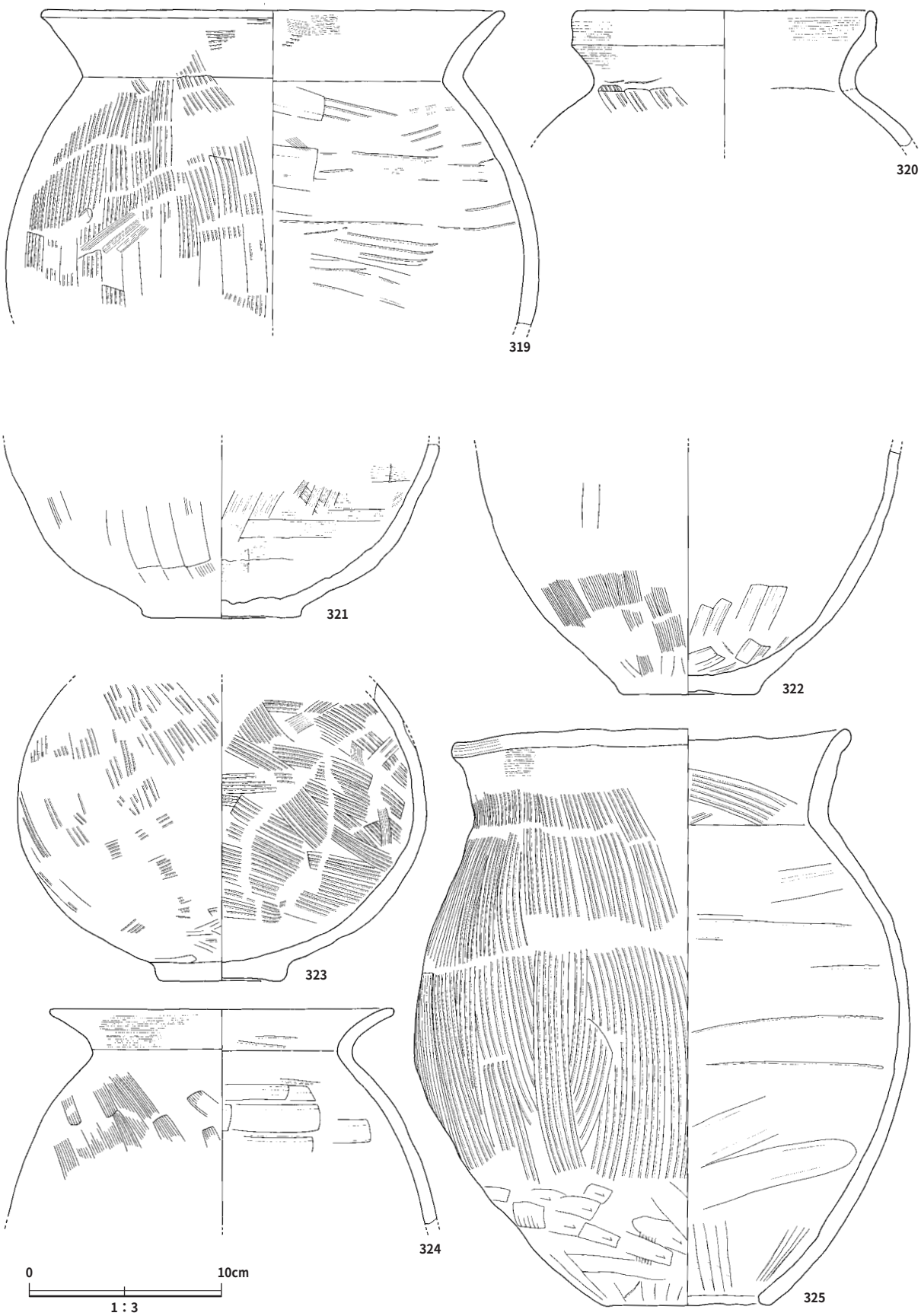
第98図　ＳＴ2020出土遺物・ＳＴ4002出土遺物・ＳＴ4003出土遺物（１）



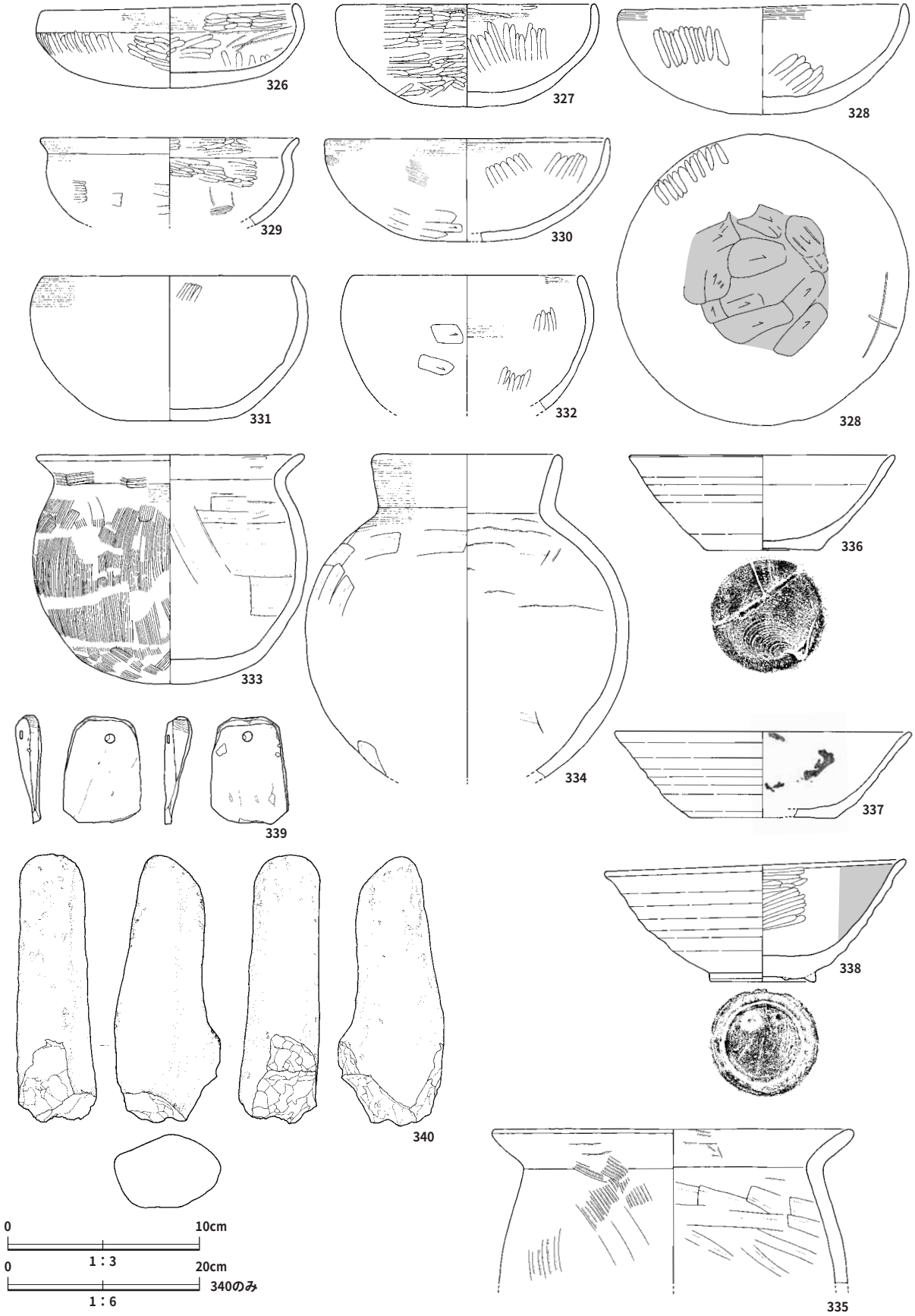
第99図　ＳＴ4003出土遺物（２）



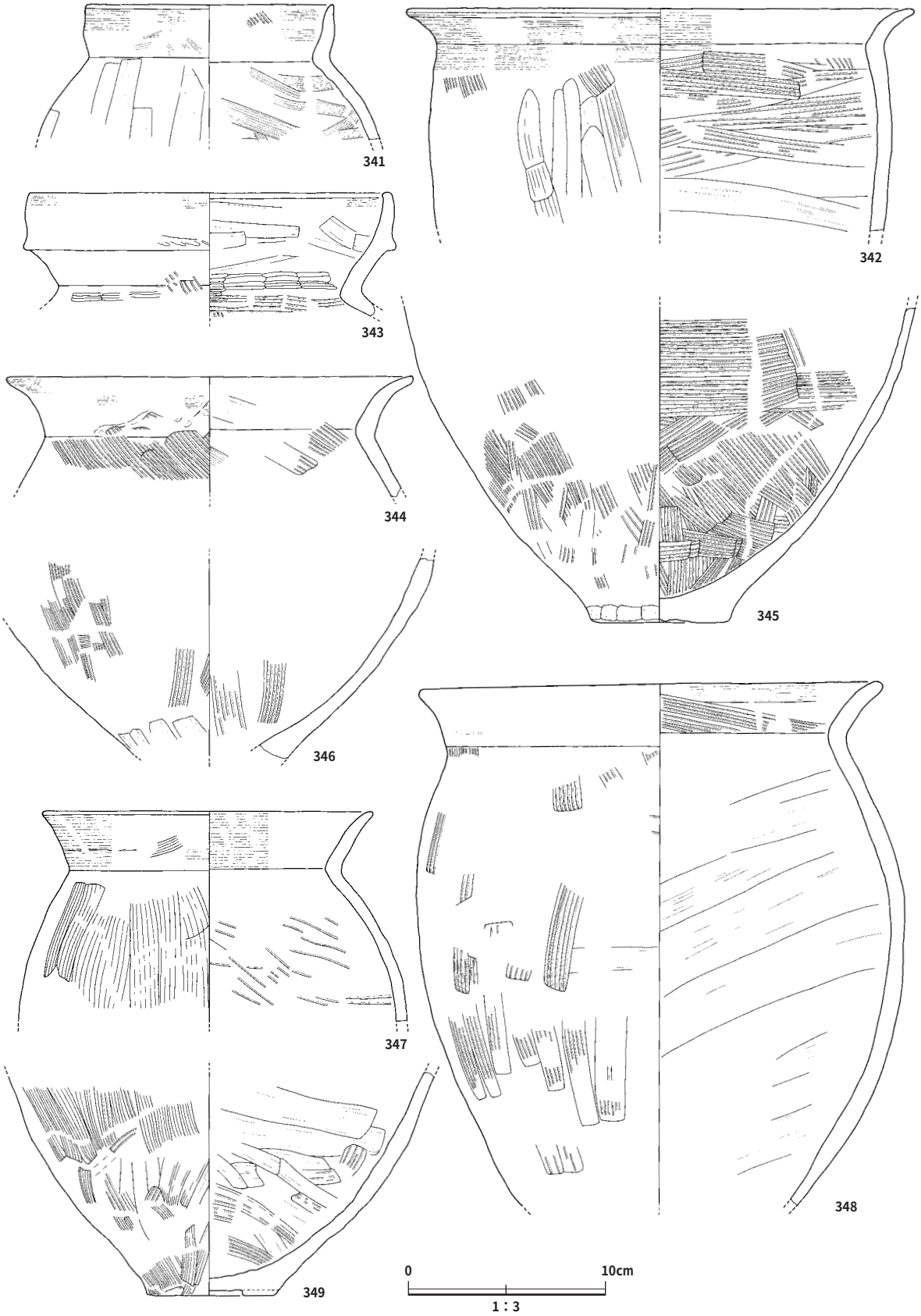
第100図　ＳＴ4003出土遺物（３）



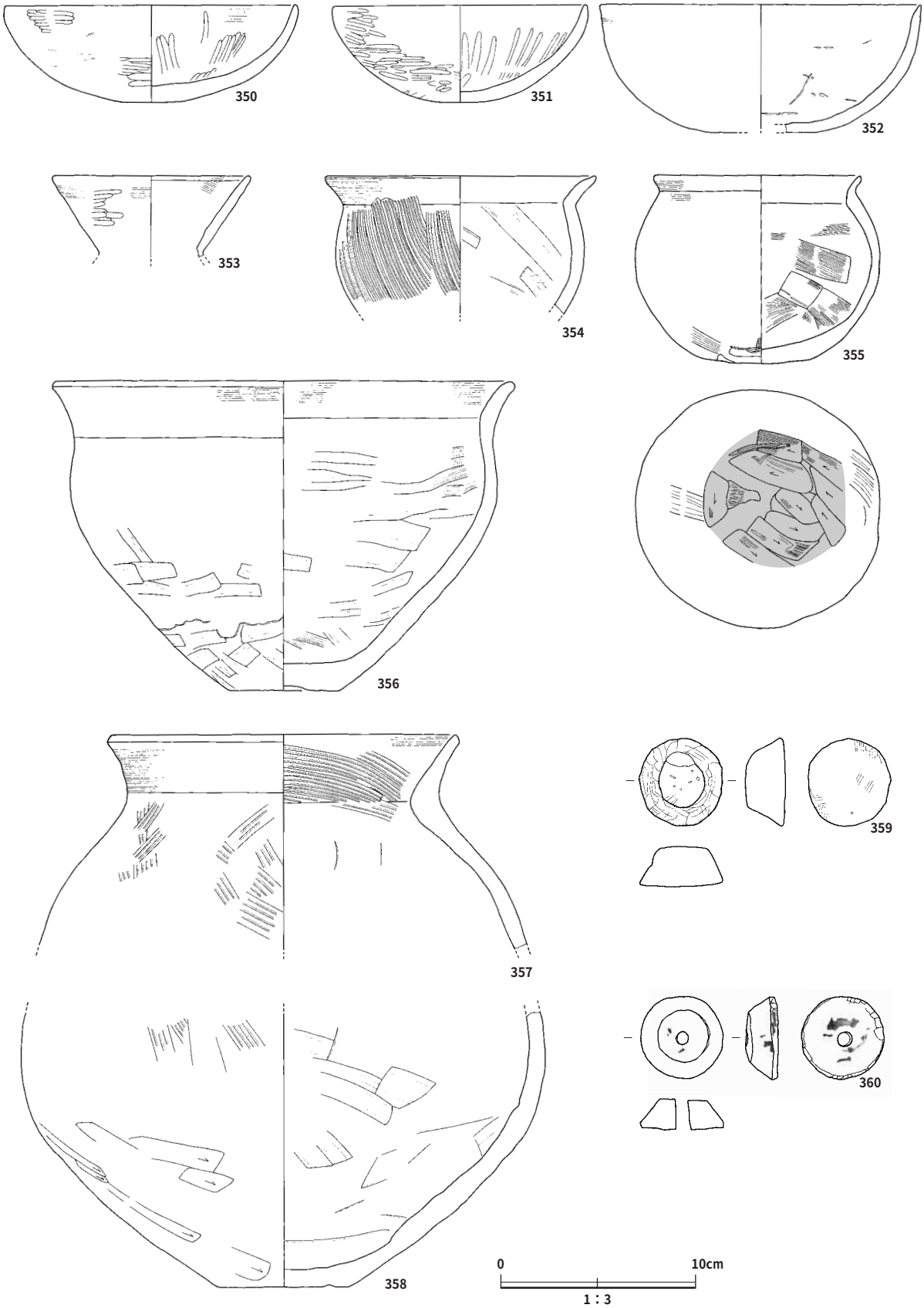
第101図　ＳＴ4003出土遺物（４）



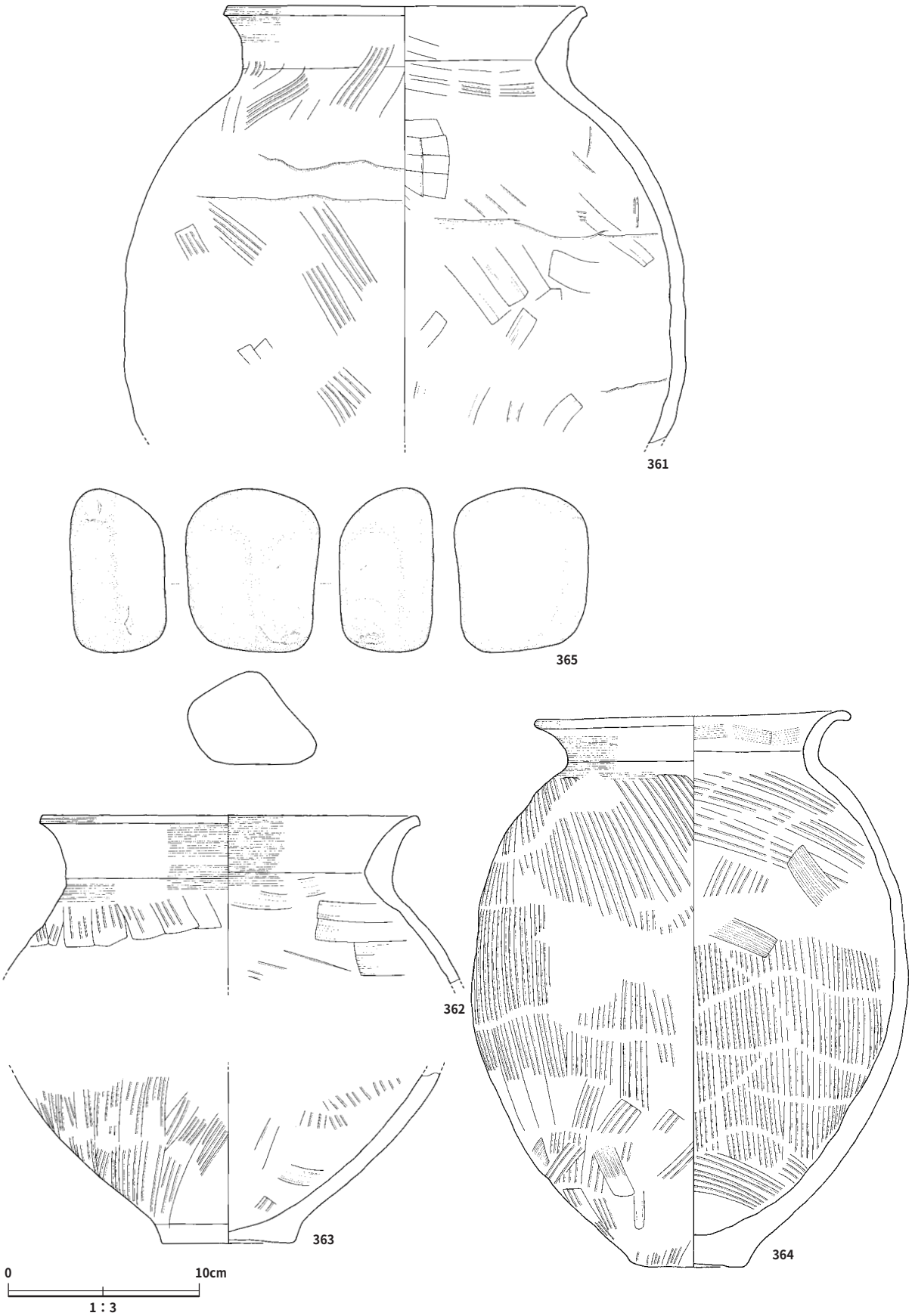
第102図　ＳＴ4004出土遺物（１）



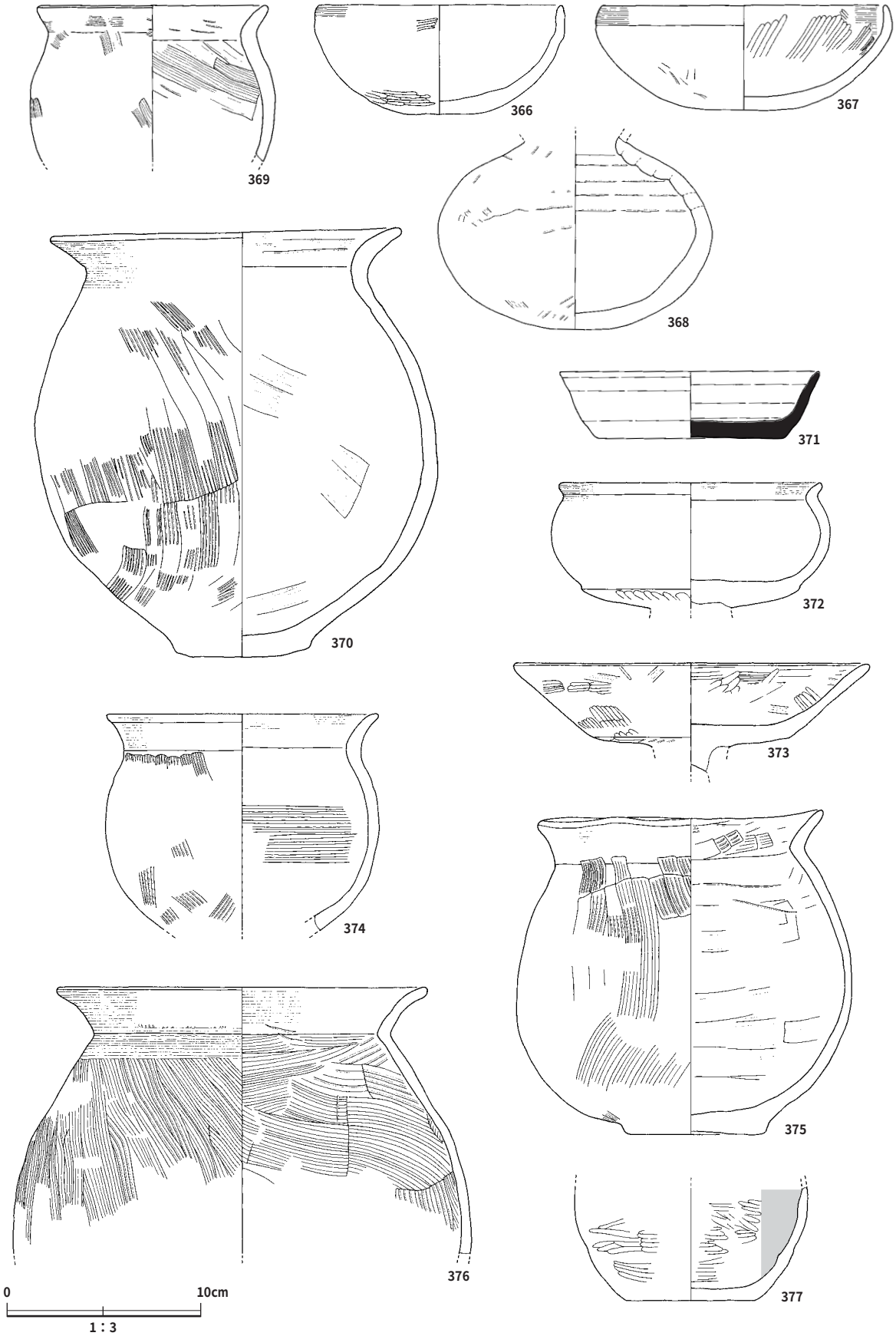
第103図　ＳＴ4004出土遺物（２）



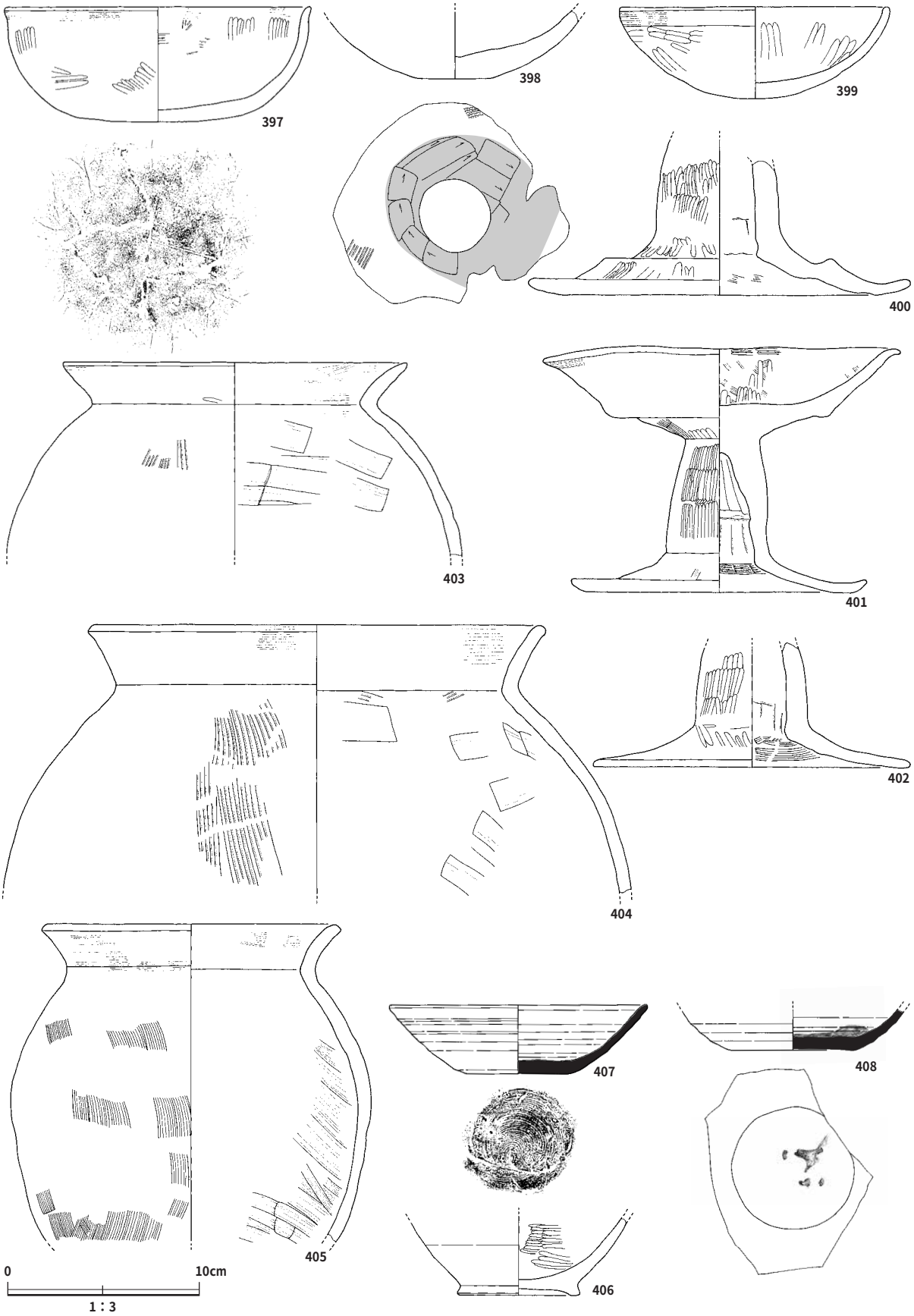
第104図　ＳＴ4005出土遺物（１）



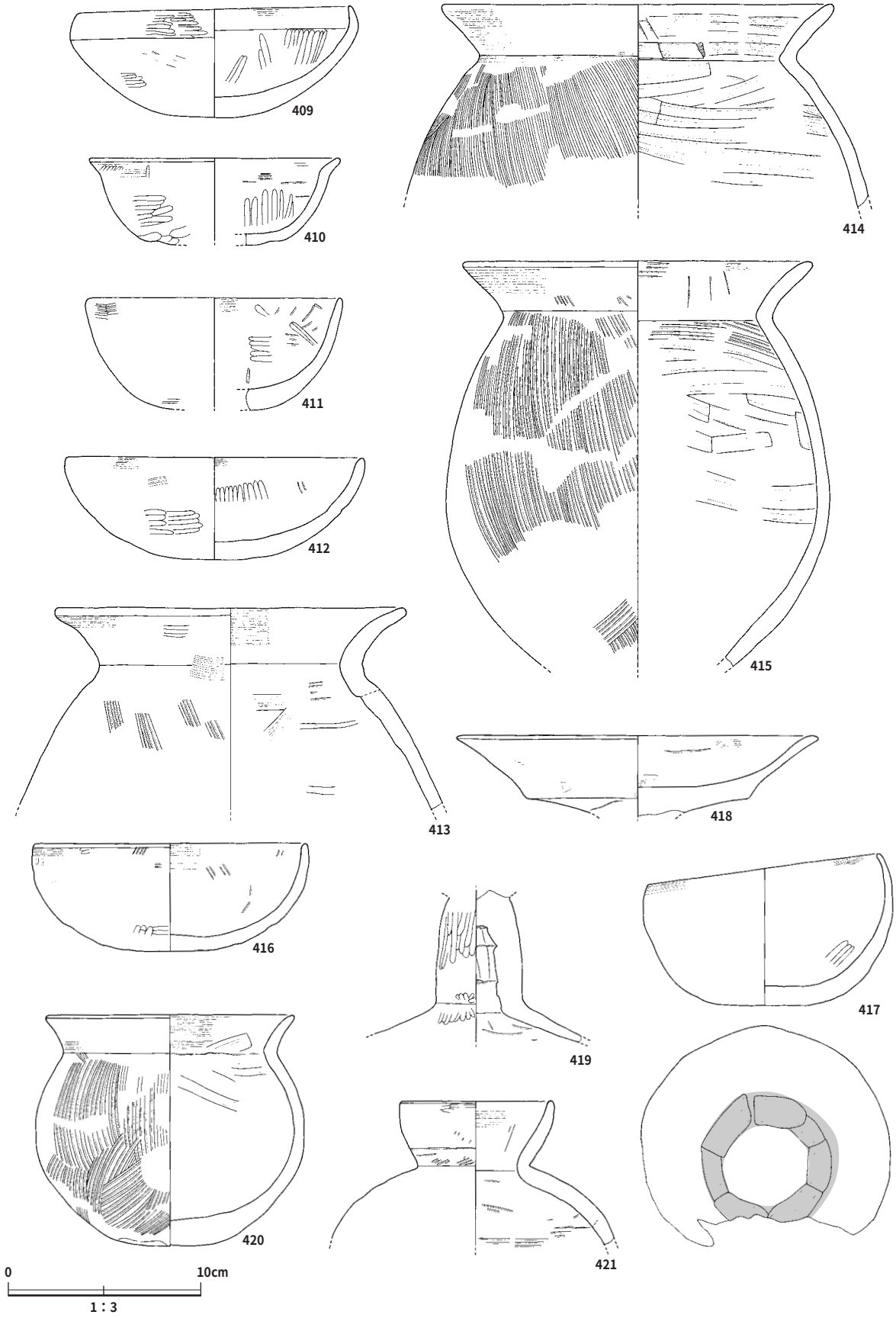
第105図　ＳＴ4005出土遺物（２）



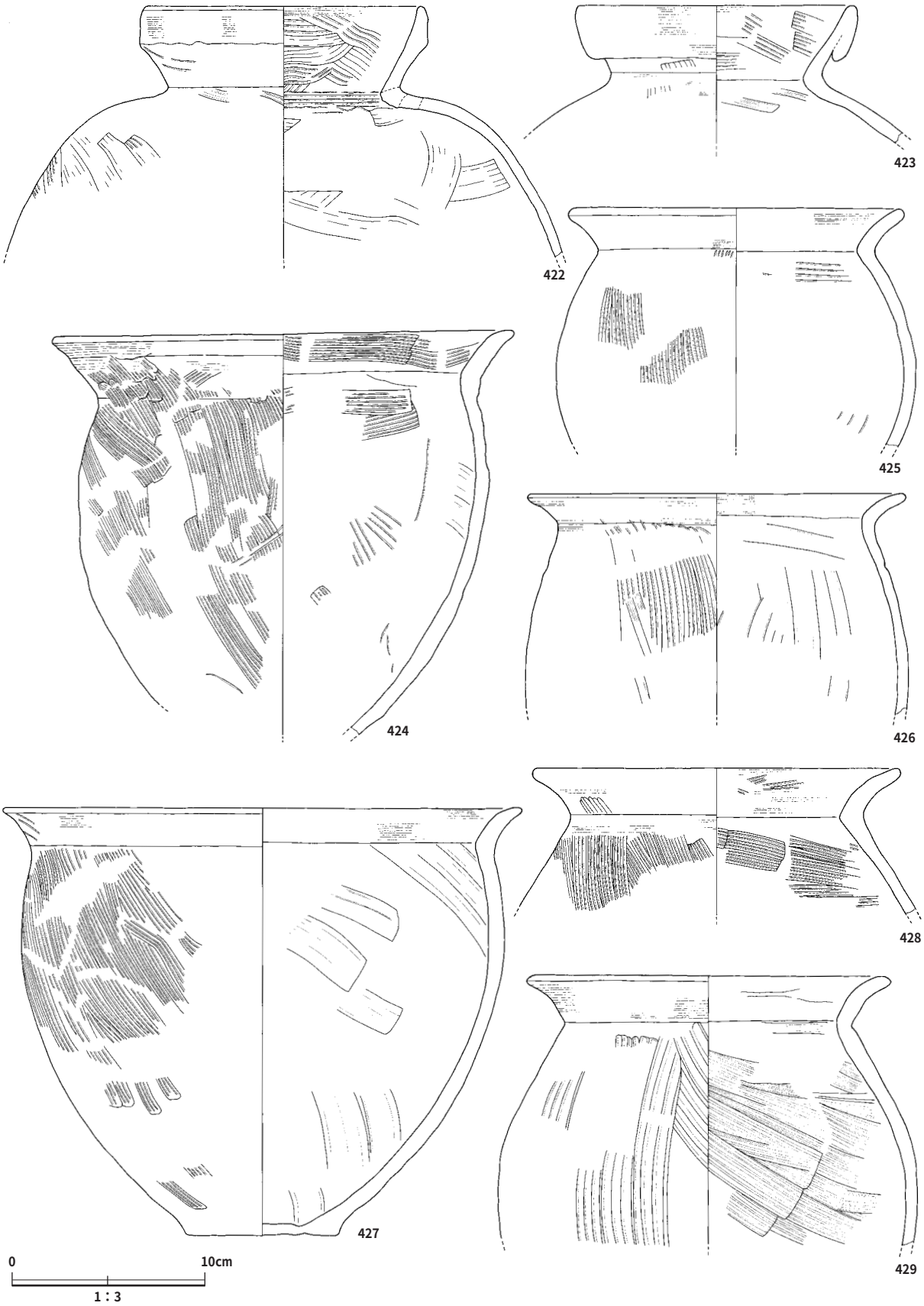
第106図　ＳＴ4006出土遺物・ＳＣ5001出土遺物・ＳＣ5002出土遺物



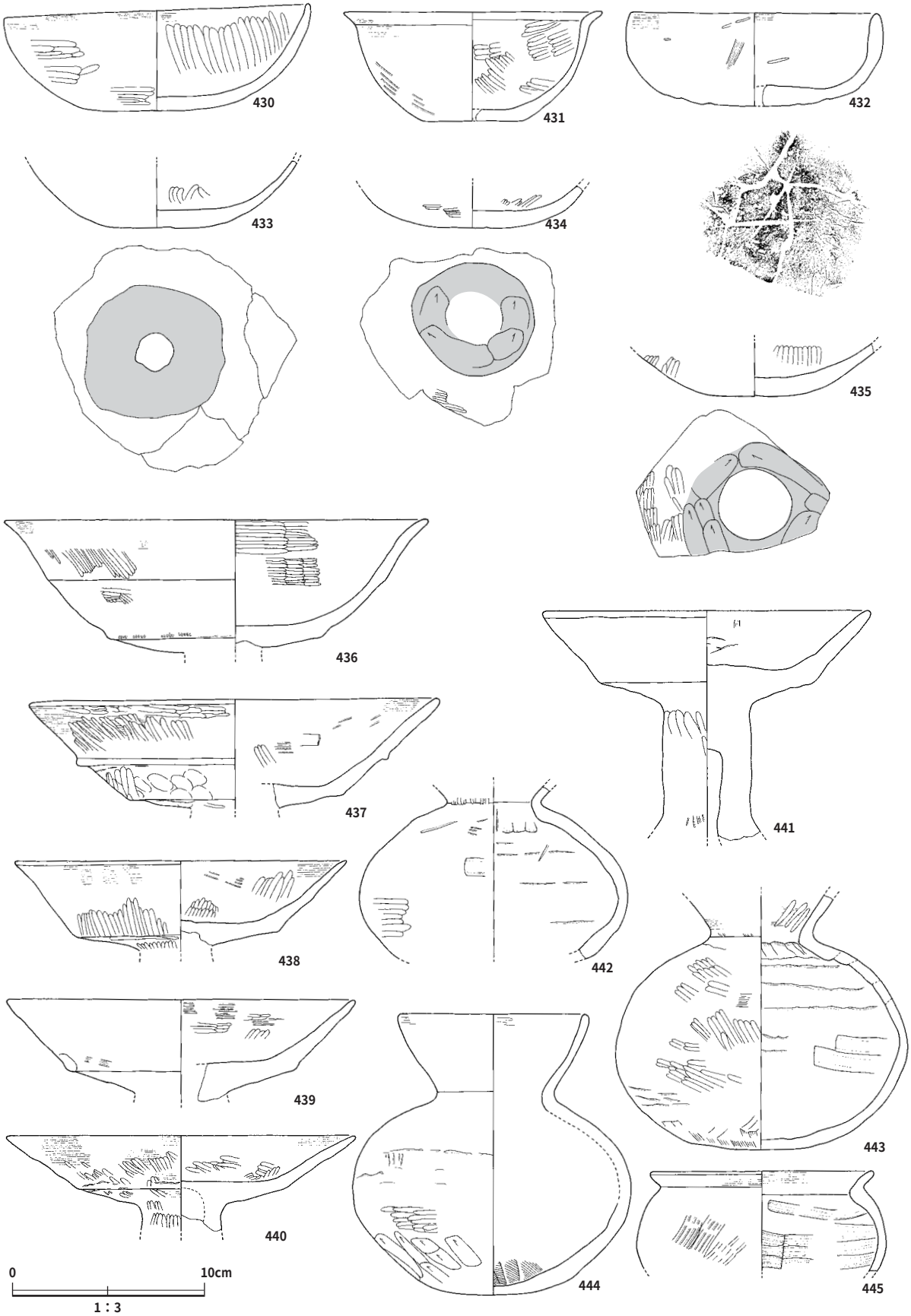
第107図　ＳＫ2182出土遺物



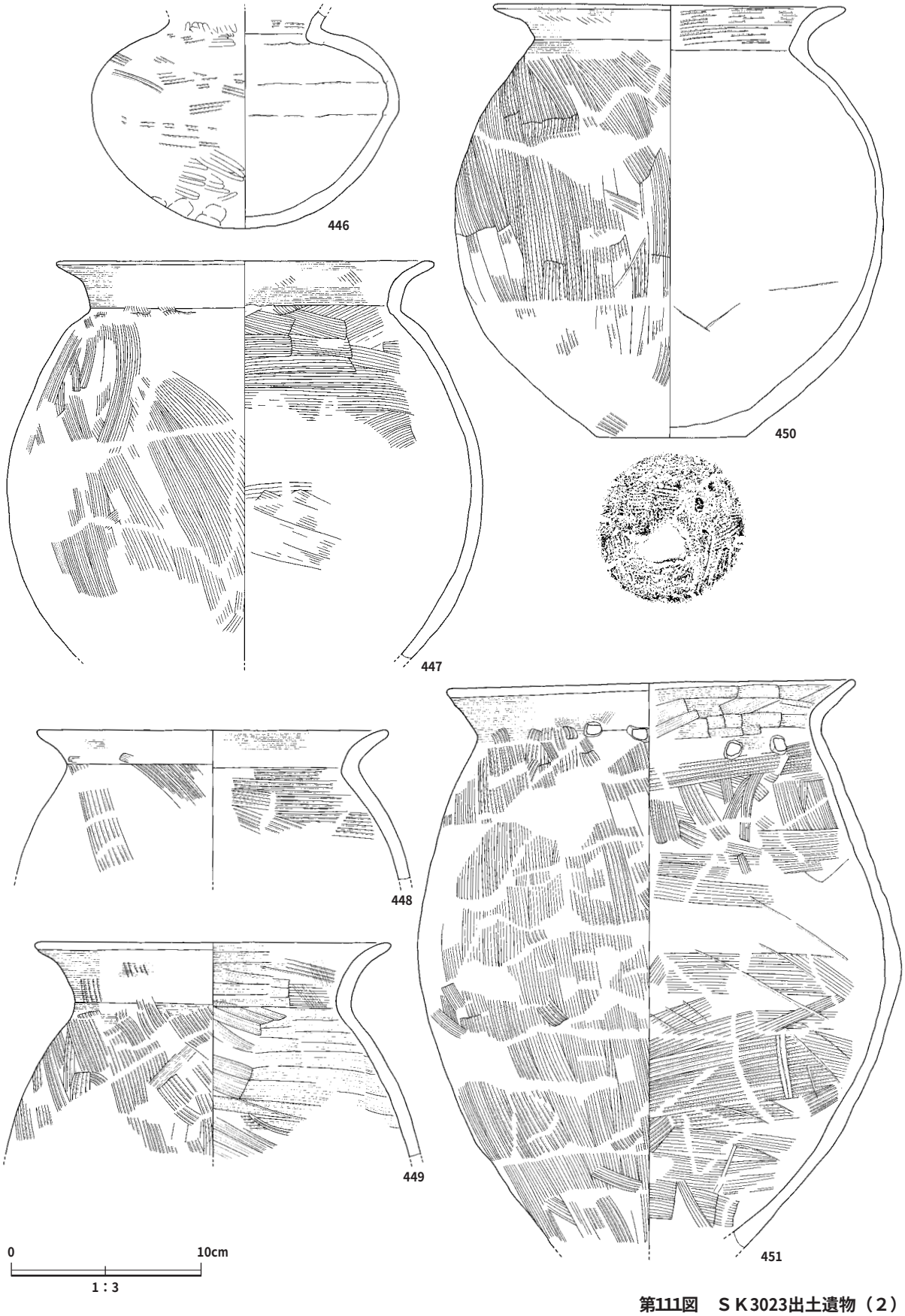
第108図　ＳＫ3665出土遺物・ＳＫ3030出土遺物（１）



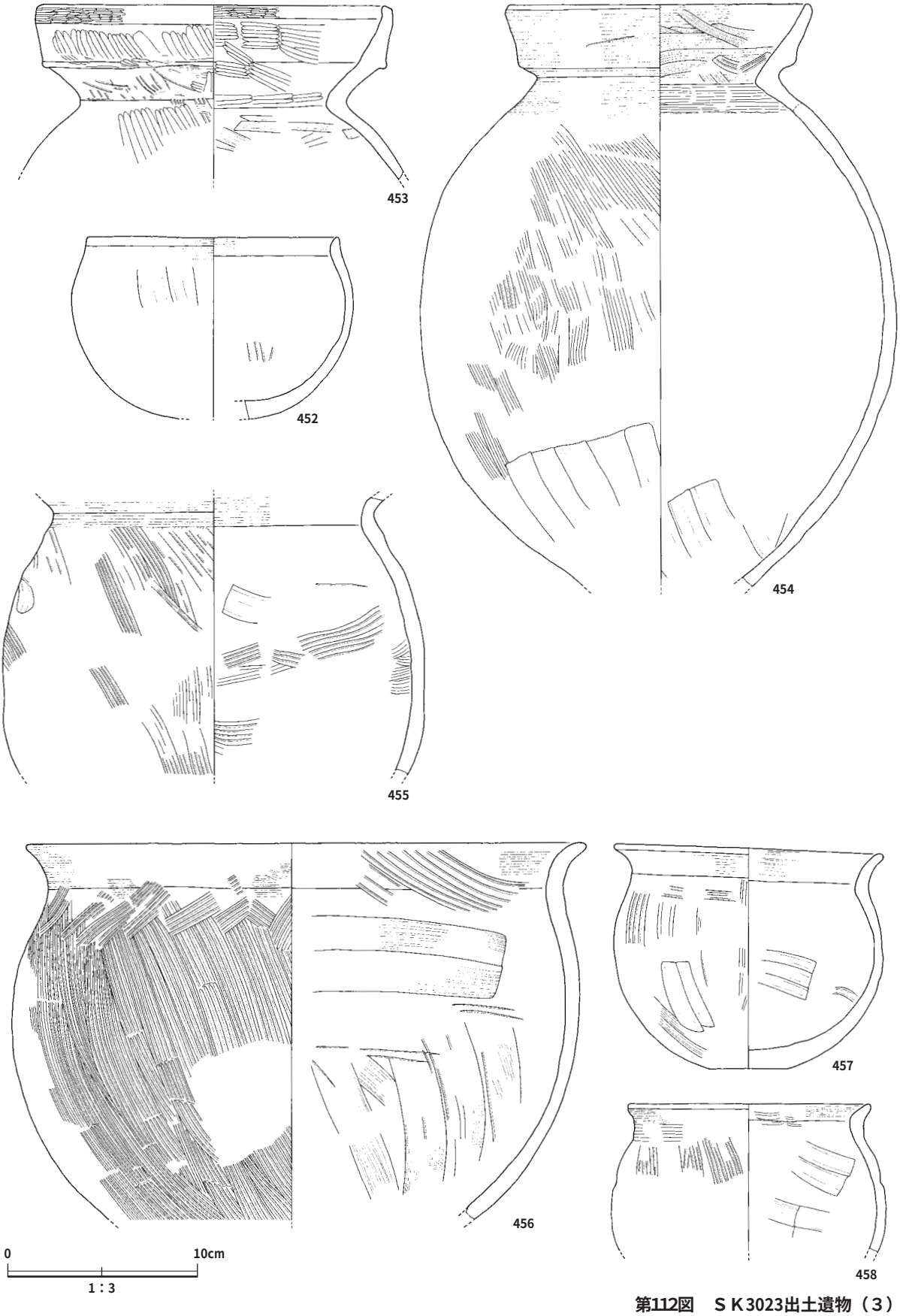
第109図　ＳＫ3030出土遺物（２）



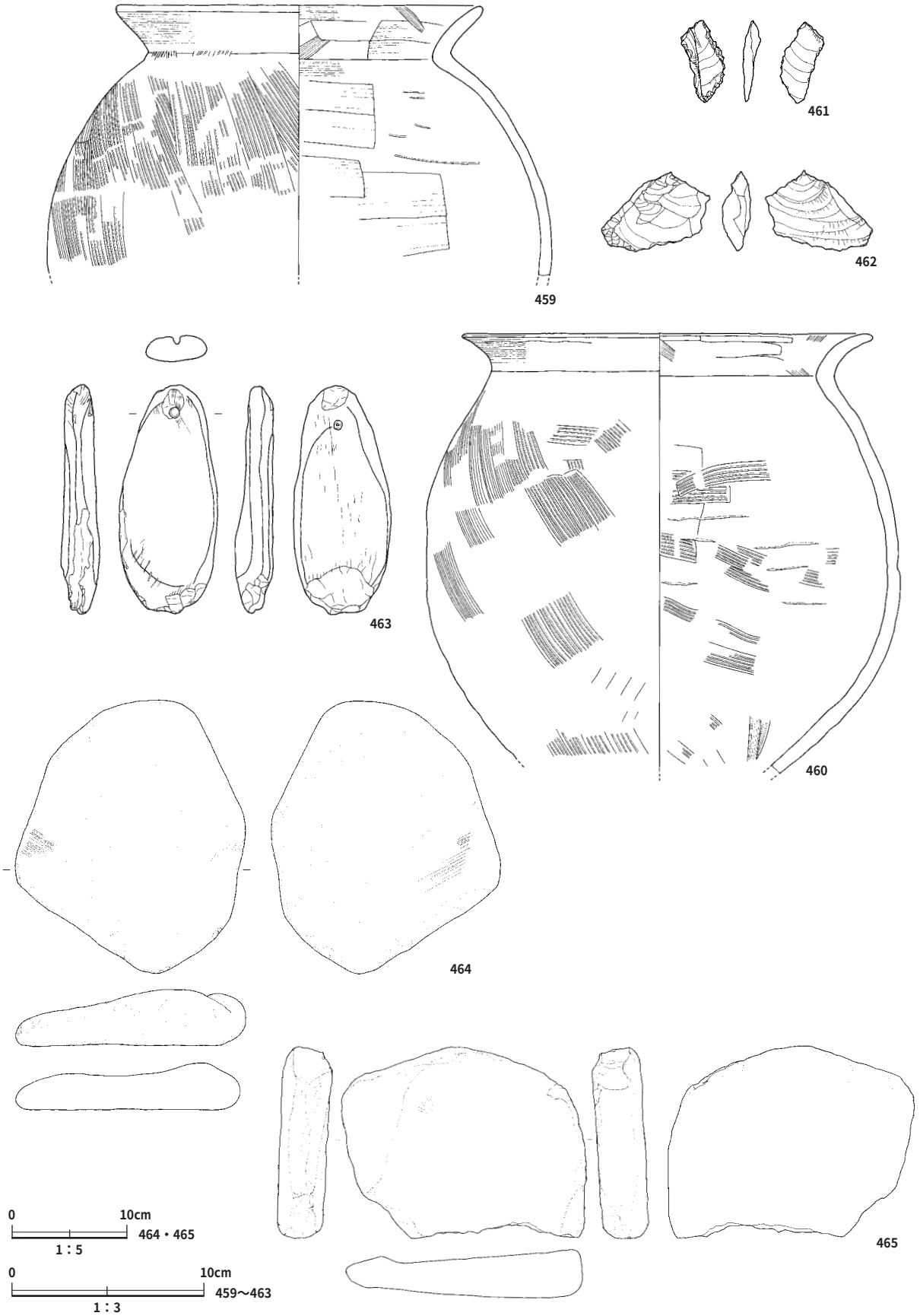
第110図　ＳＫ3023出土遺物（１）



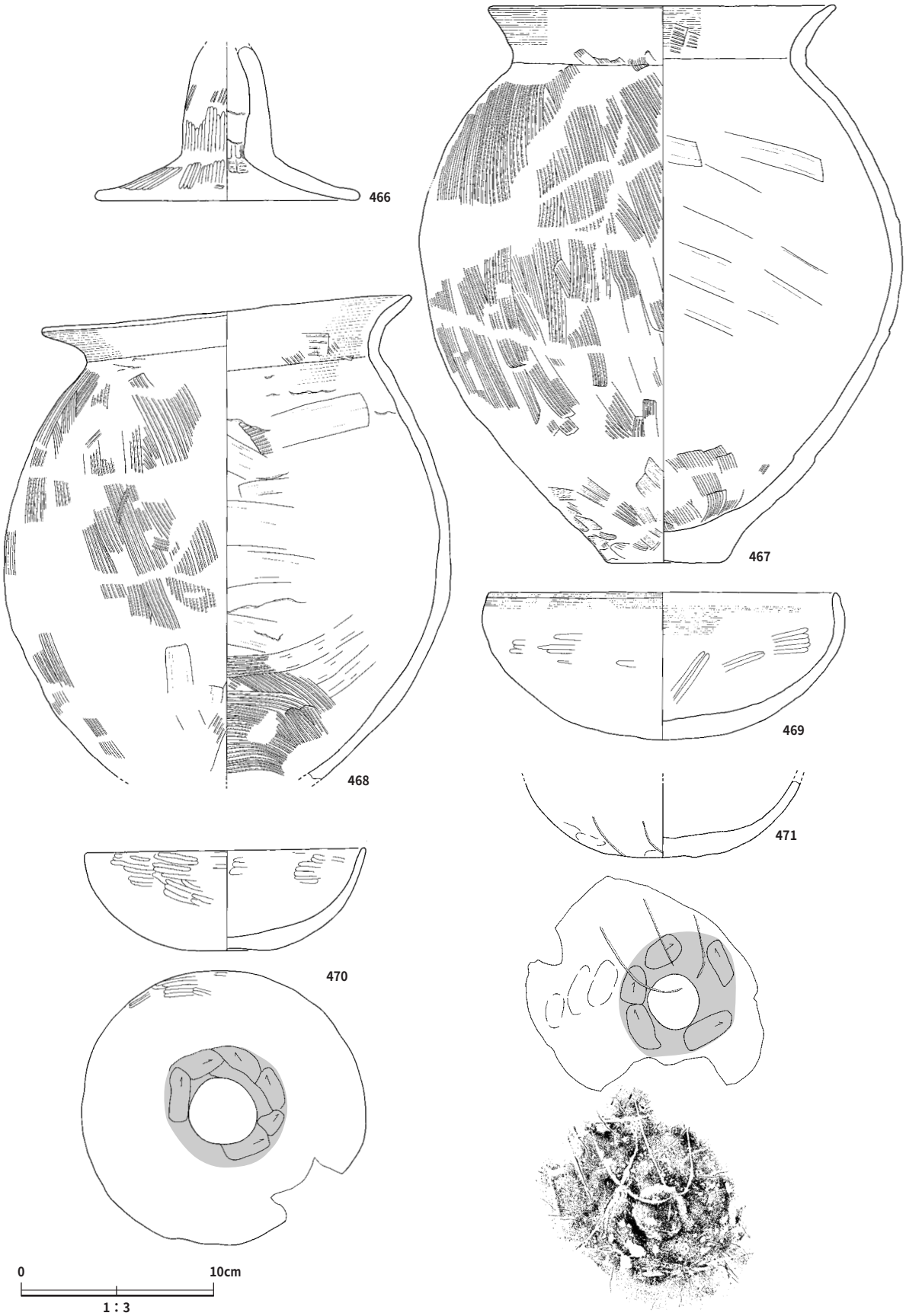
第111図　ＳＫ3023出土遺物（２）



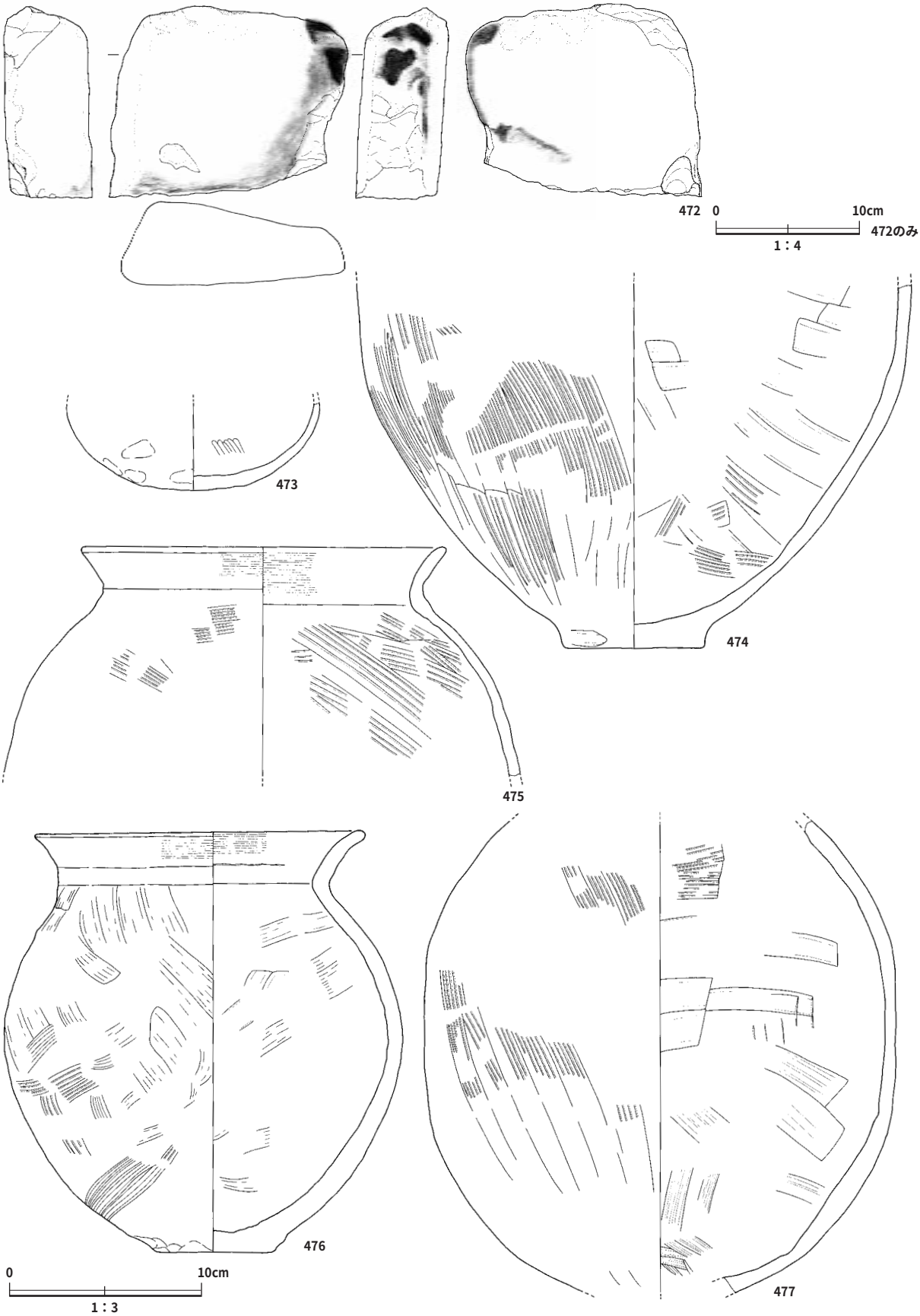
第112図　ＳＫ3023出土遺物（３）



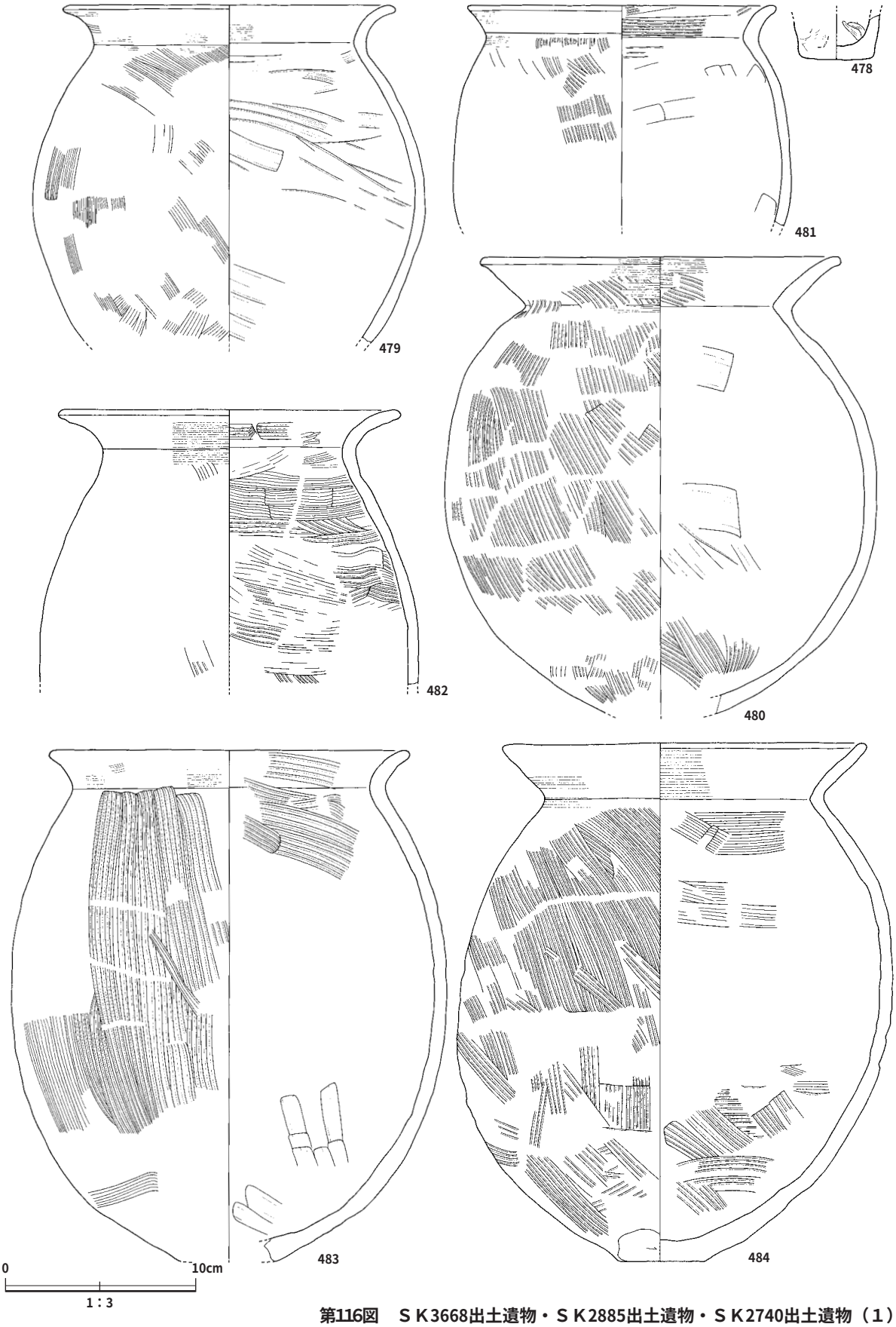
第113図　ＳＫ3023出土遺物（４）



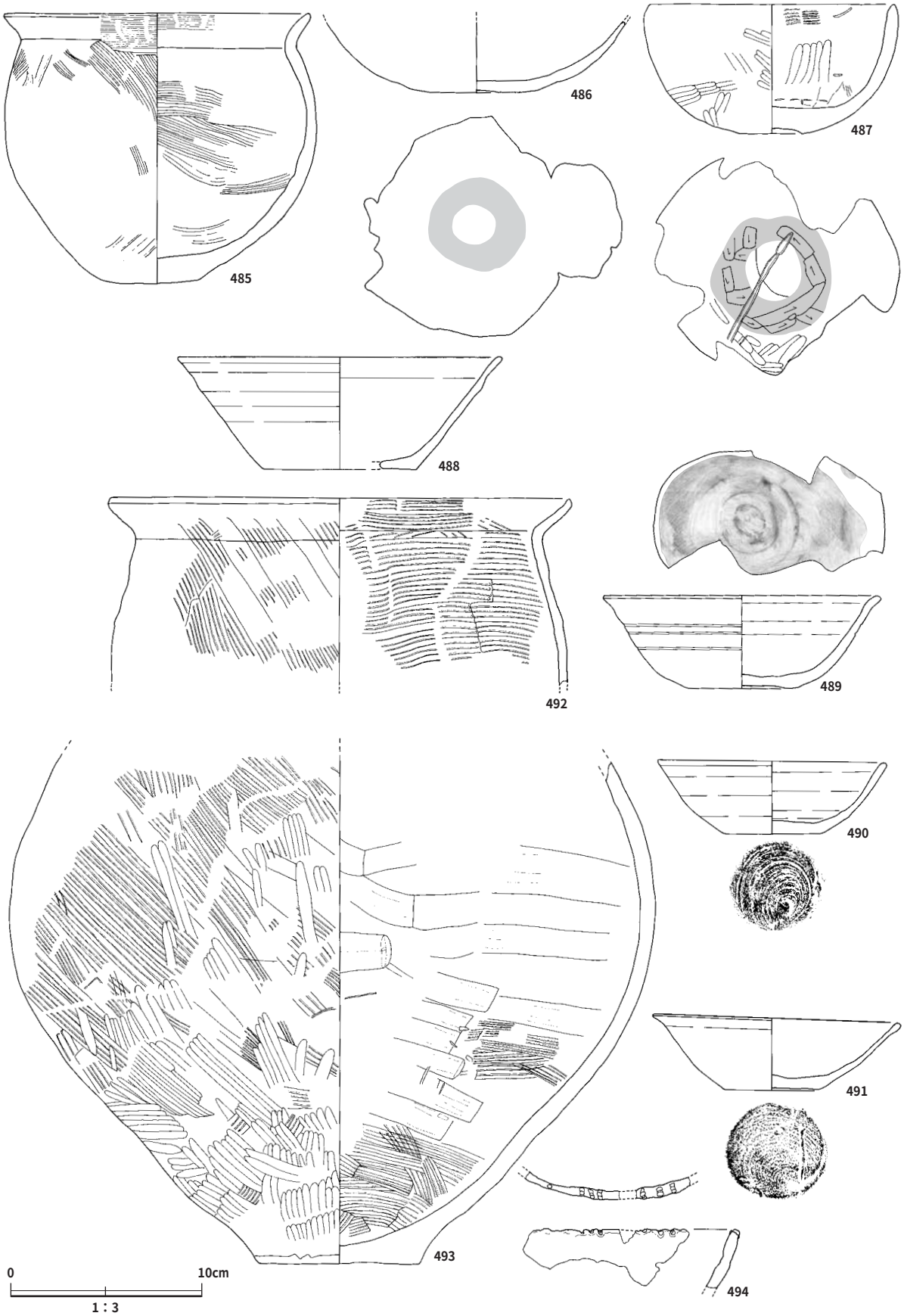
第114図　ＳＫ3032出土遺物（１）



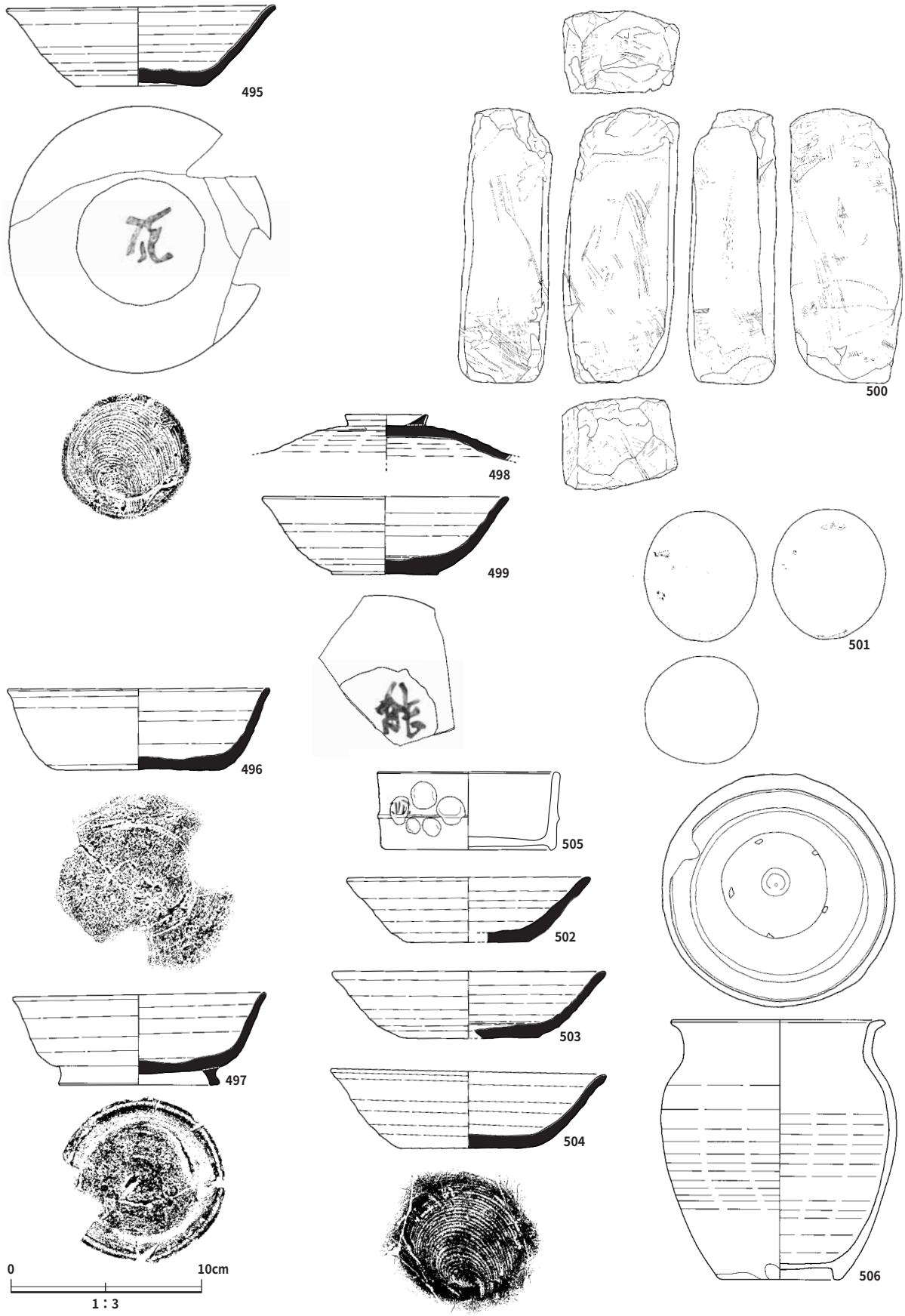
第115図　ＳＫ3032出土遺物（２）・ＳＫ2184出土遺物



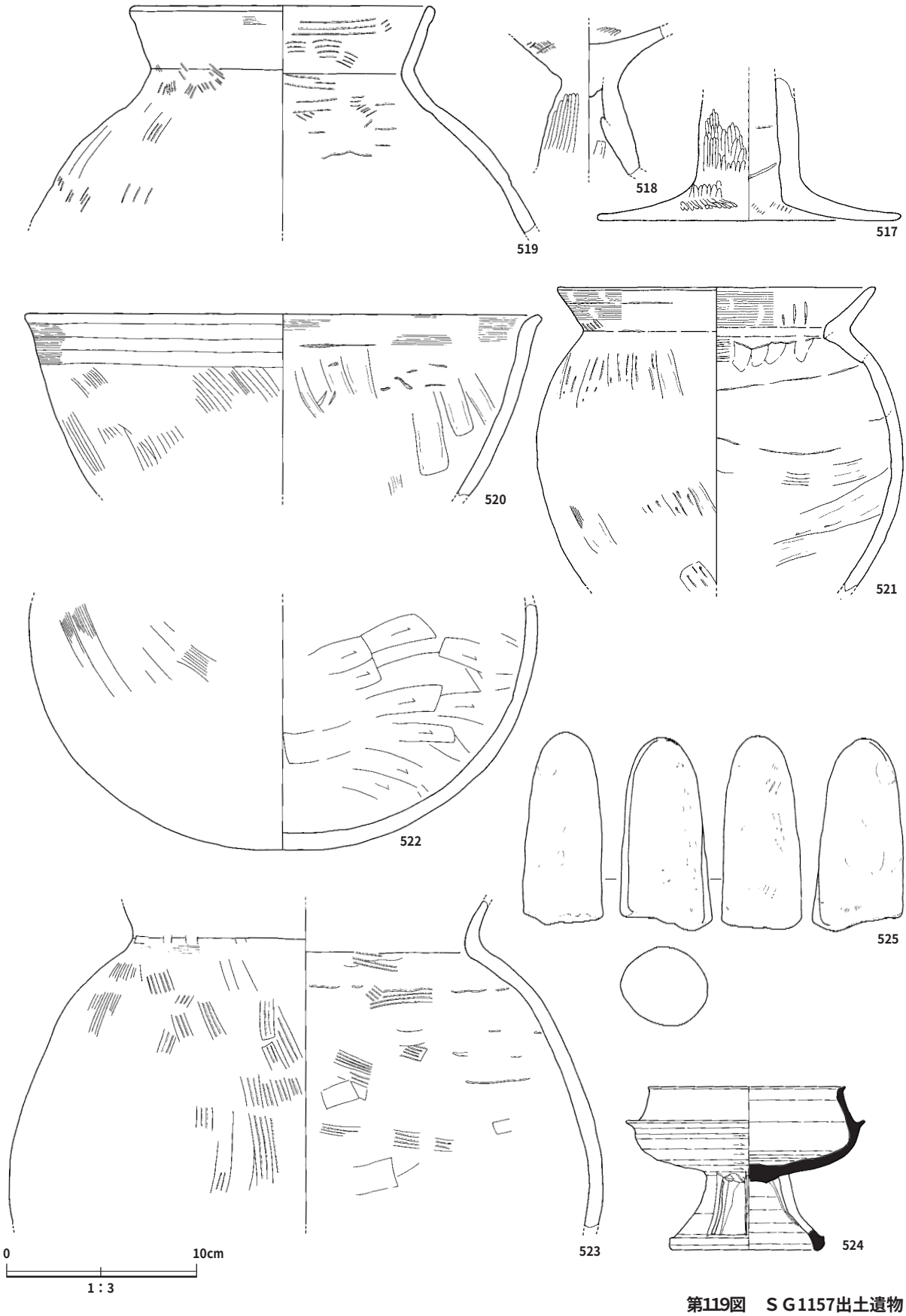
第116図　ＳＫ3668出土遺物・ＳＫ2885出土遺物・ＳＫ2740出土遺物（１）



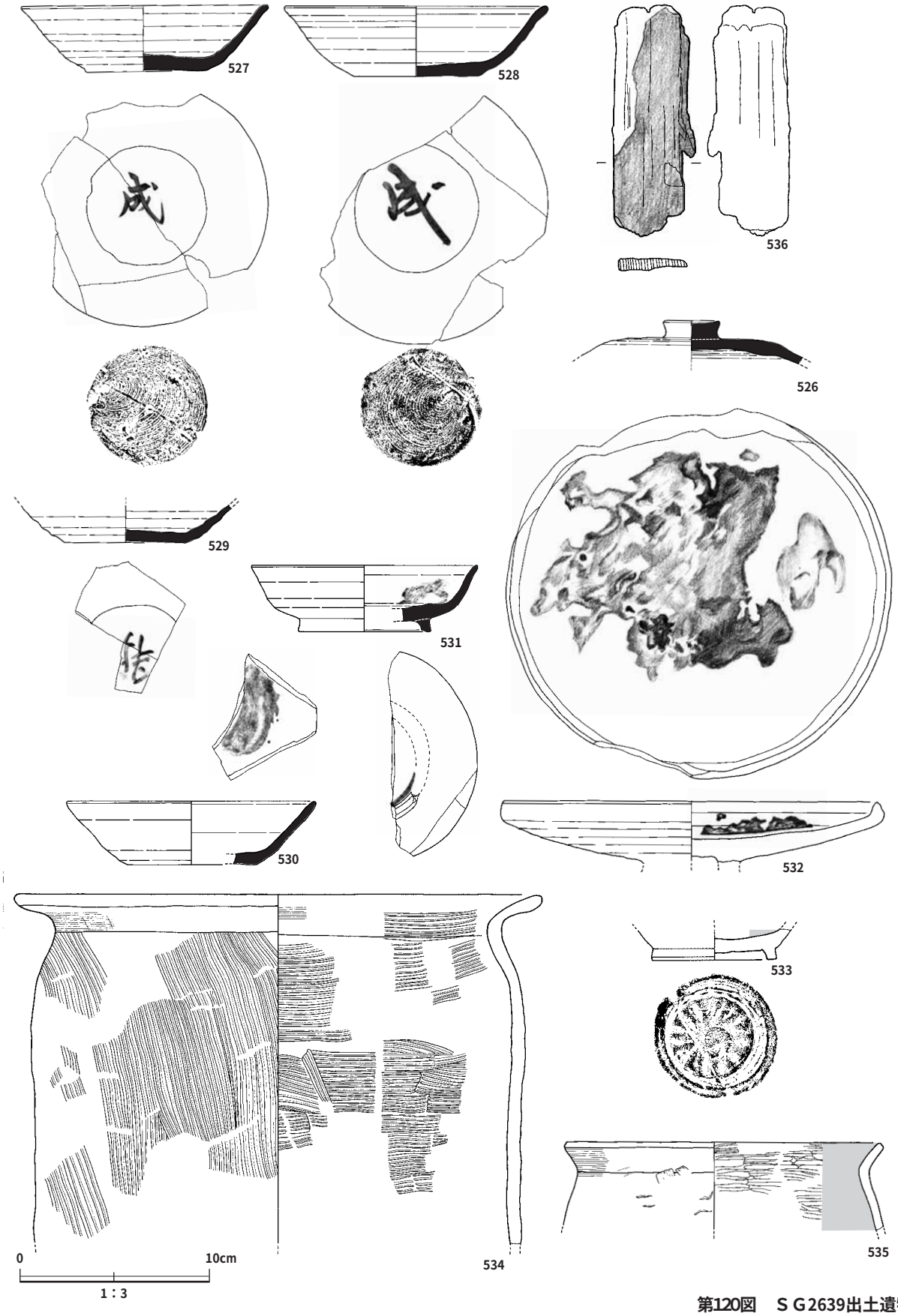
第117図　ＳＫ2740出土遺物（２）・ＳＫ902・ＳＫ2188・ＳＫ2294・ＳＫ2895・ＳＫ3031出土遺物



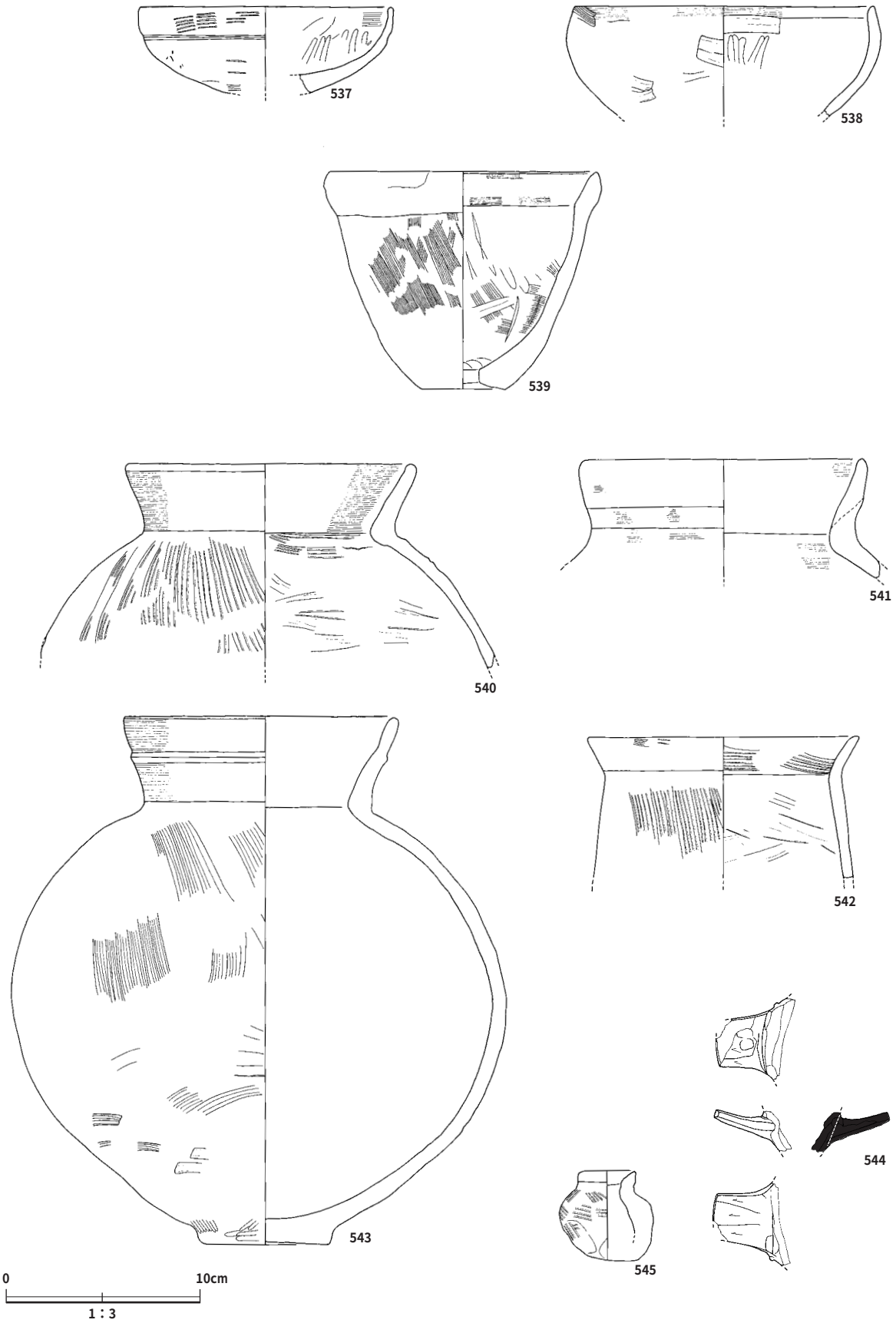
第118図　ＳＫ出土遺物・ＳＥ出土遺物



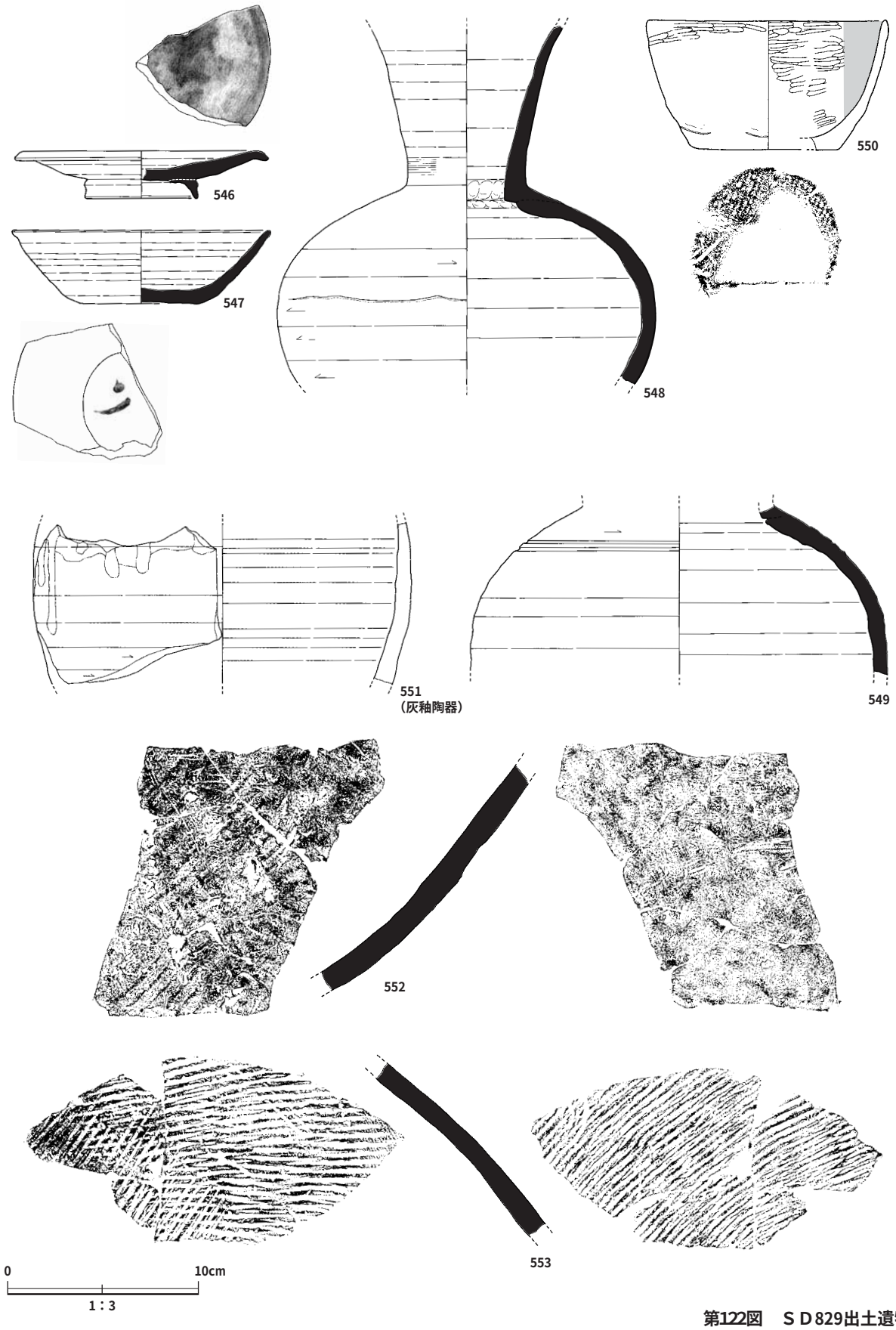
第119図　ＳＧ1157出土遺物



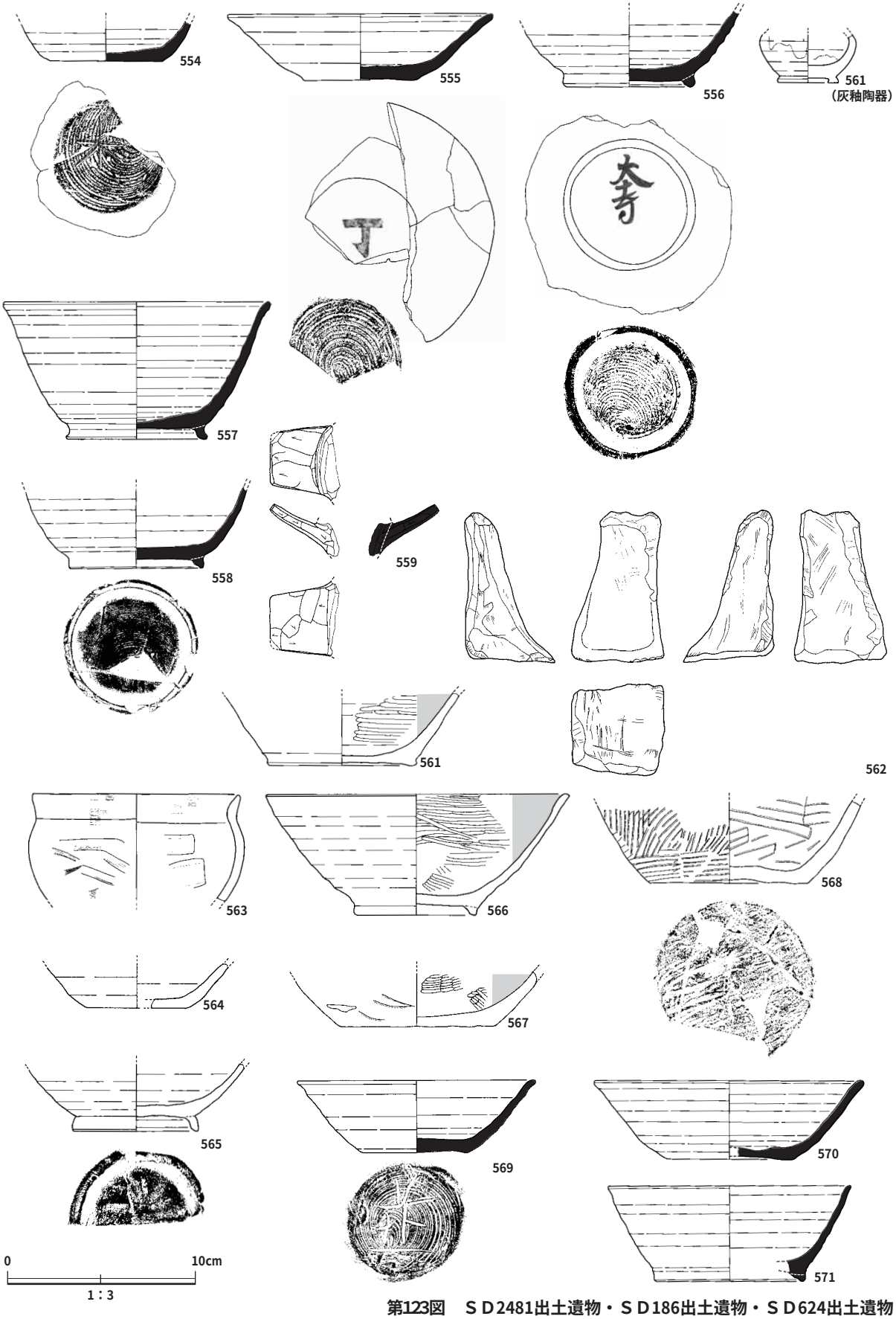
第120図　ＳＧ2639出土遺物



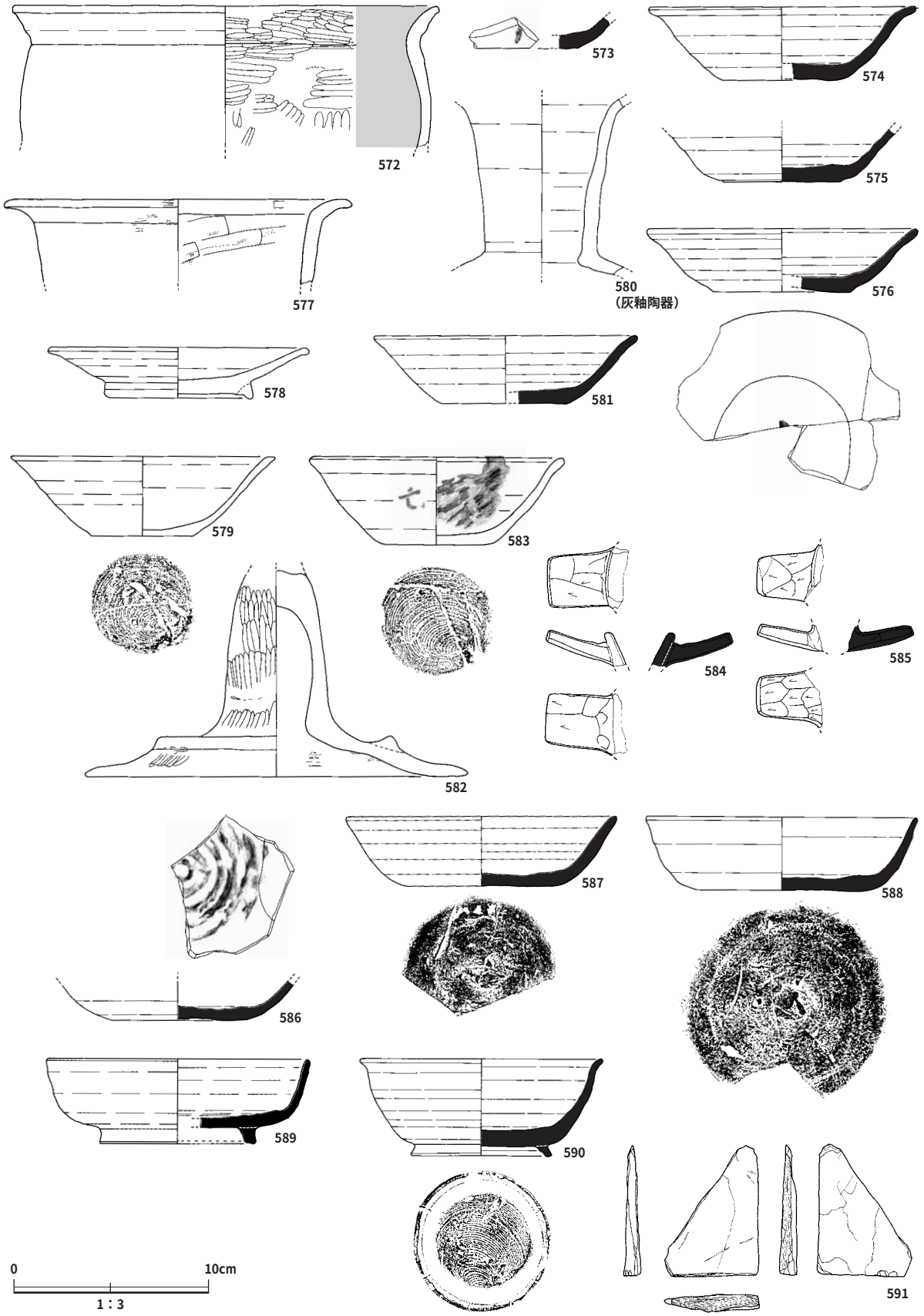
第121図　ＳＧ3000出土遺物



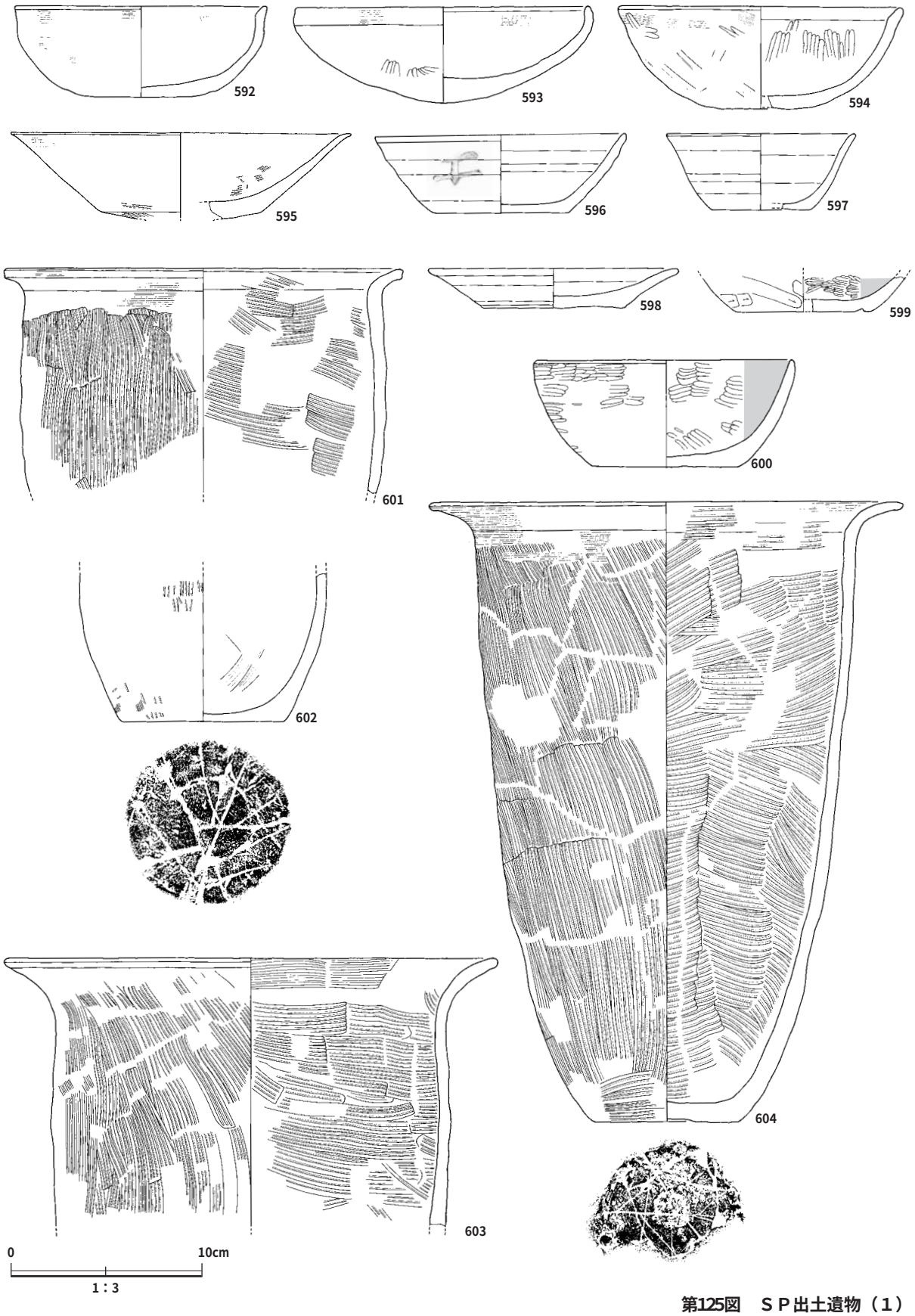
第122図　ＳＤ829出土遺物



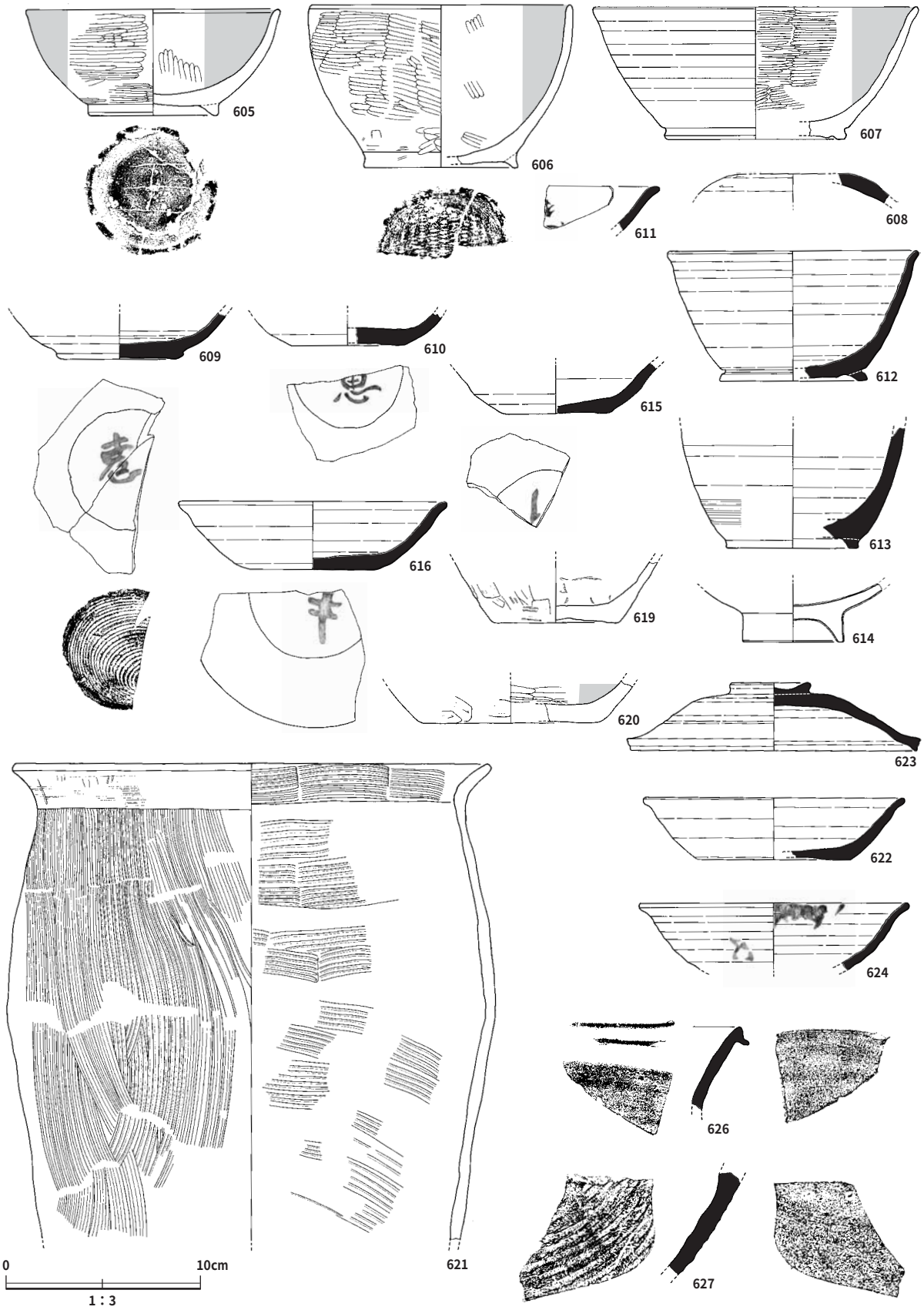
第123図　ＳＤ2481出土遺物・ＳＤ186出土遺物・ＳＤ624出土遺物



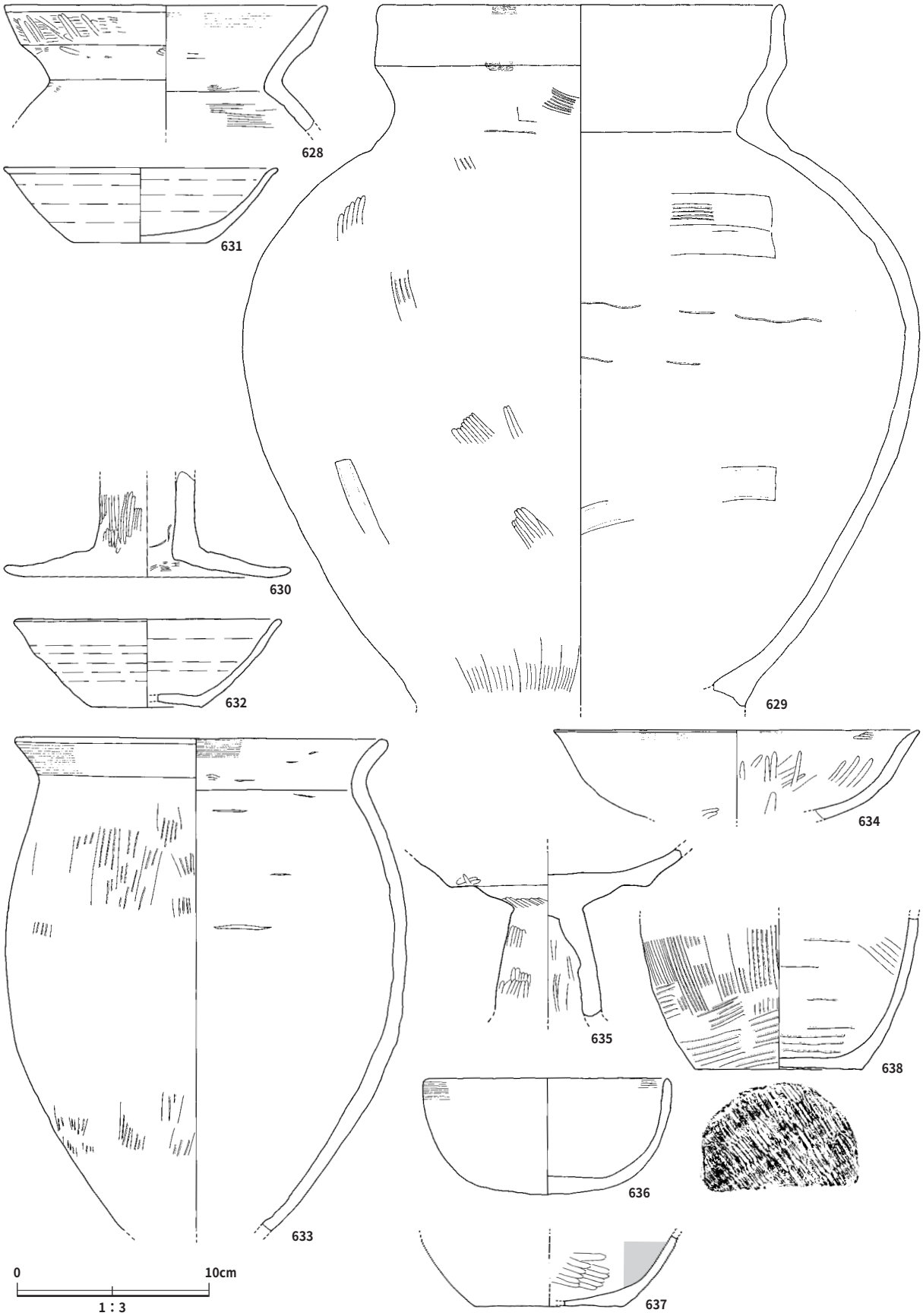
第124図　ＳＤ6025出土遺物・ＳＤ出土遺物



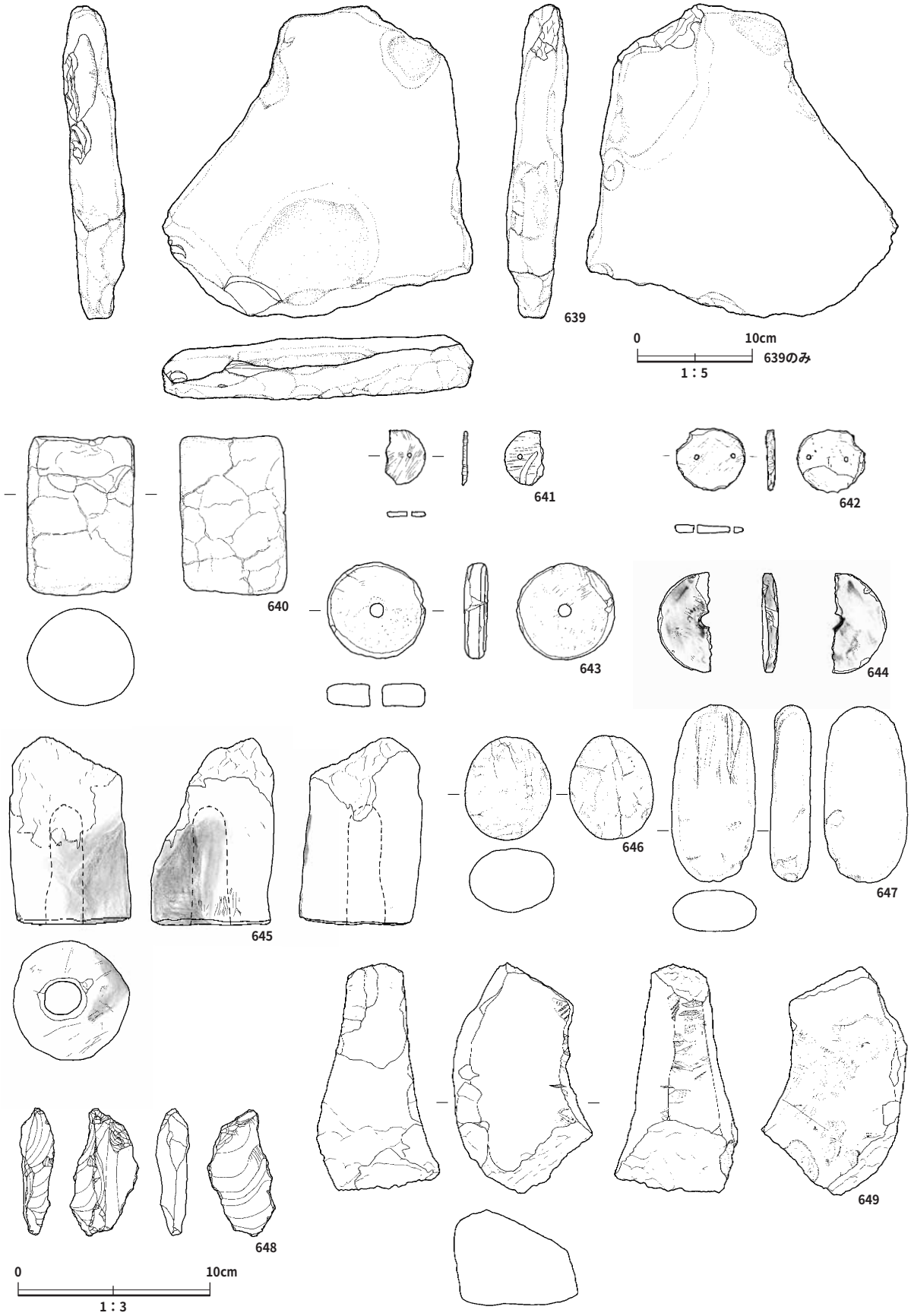
第125図　ＳＰ出土遺物（１）



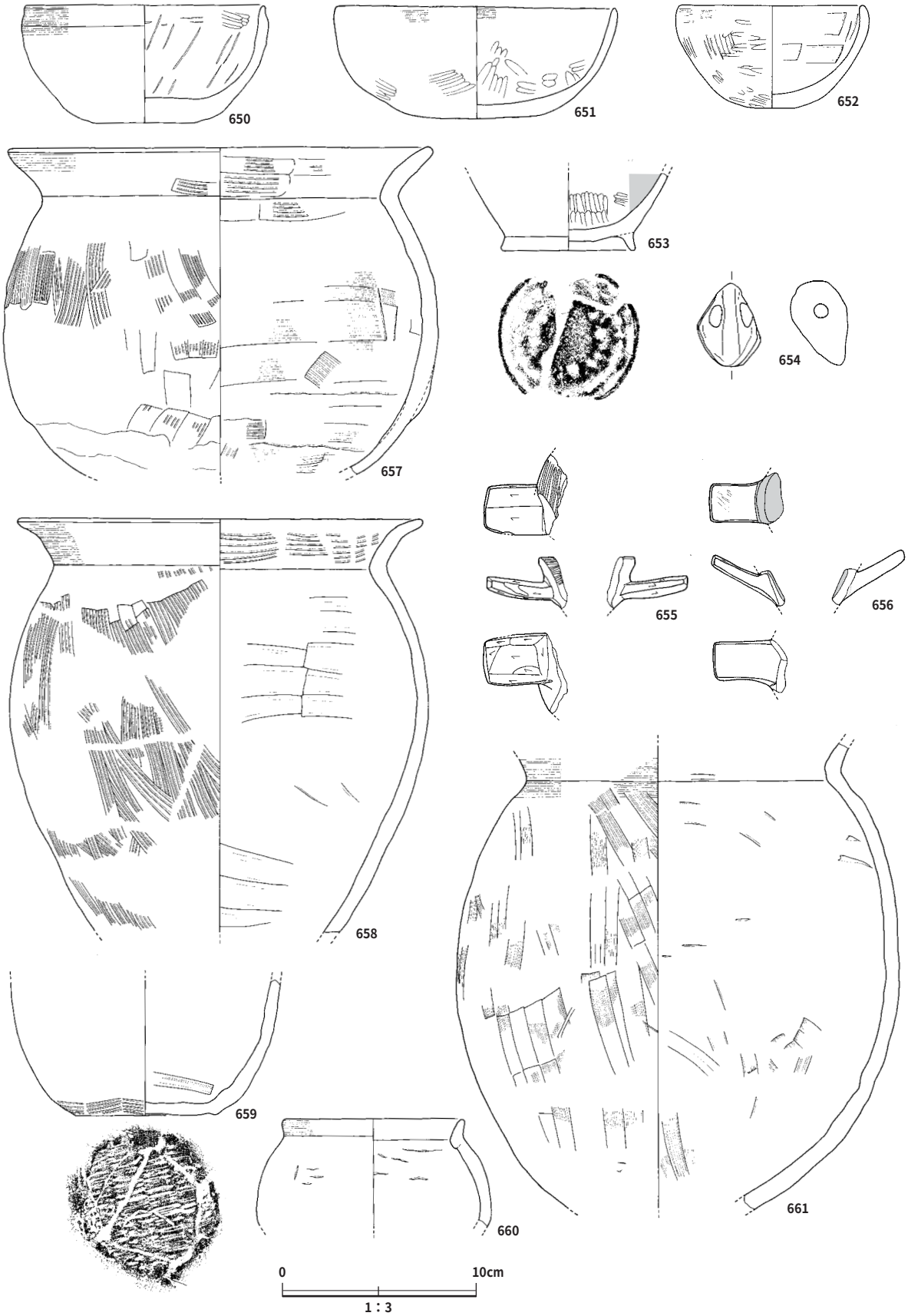
第126図　ＳＰ出土遺物（２）・ＳＸ出土遺物（１）



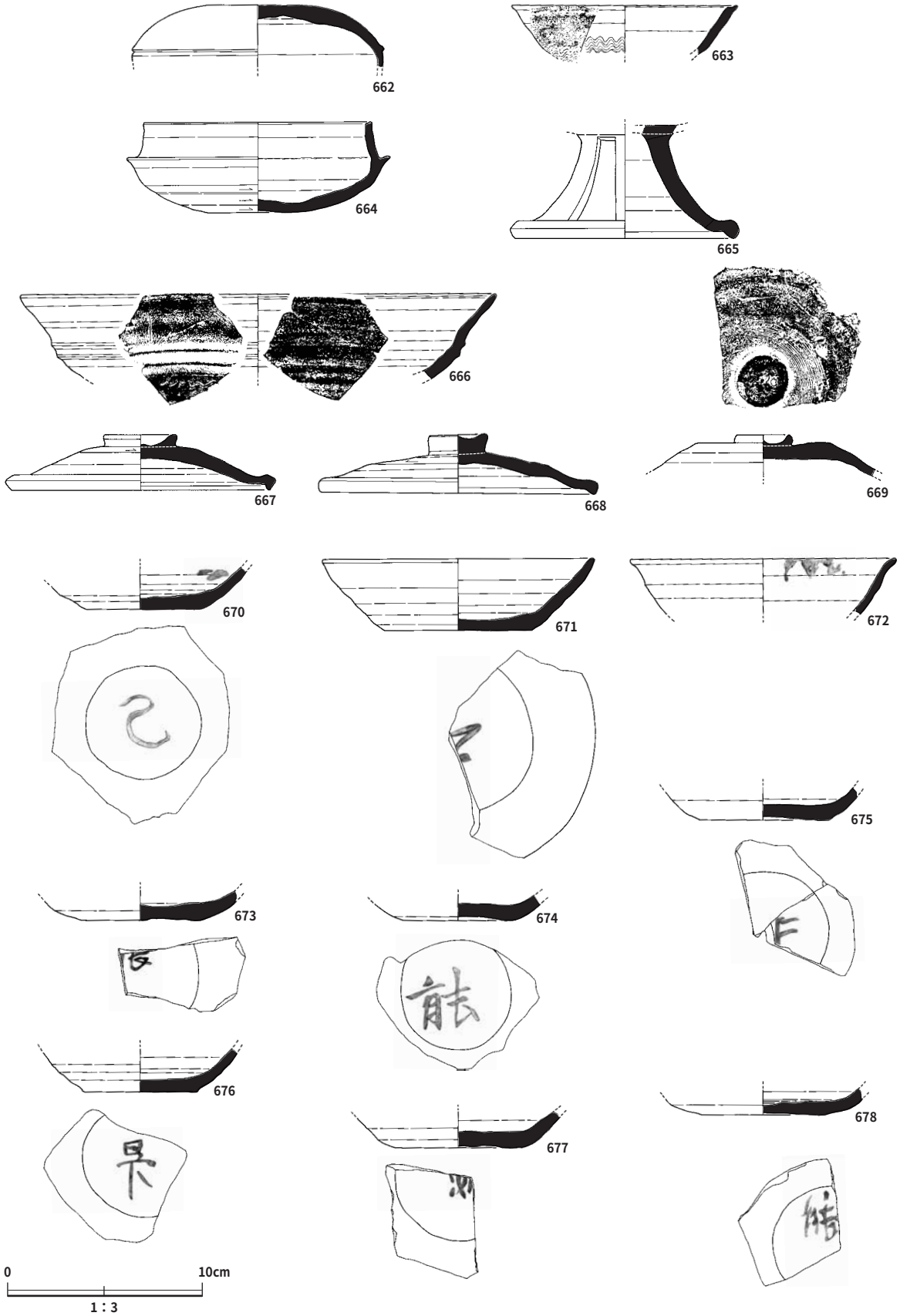
第127図　ＳＸ出土遺物（２）



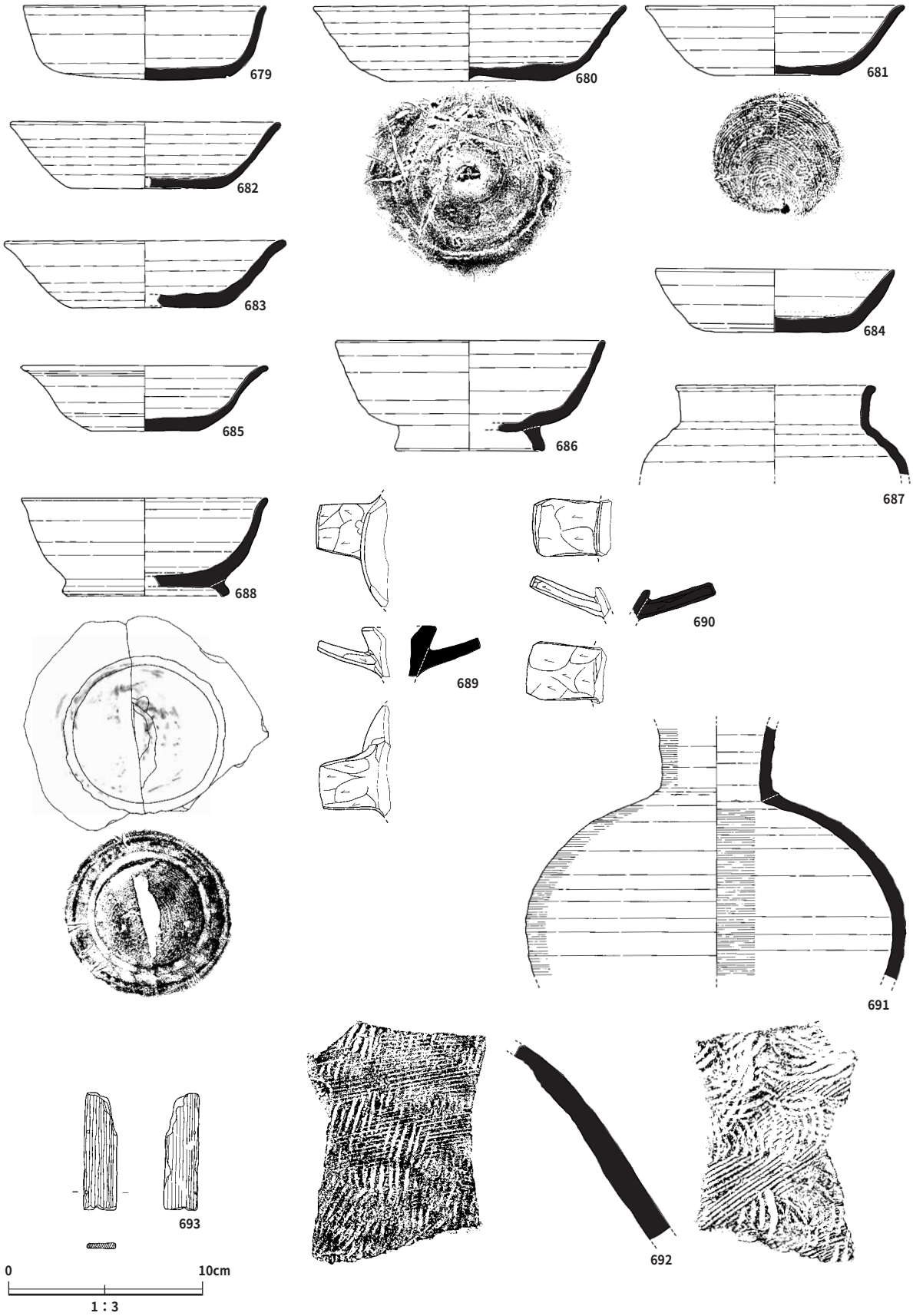
第128図　ＳＸ出土遺物（３）・遺構外出土遺物（１）



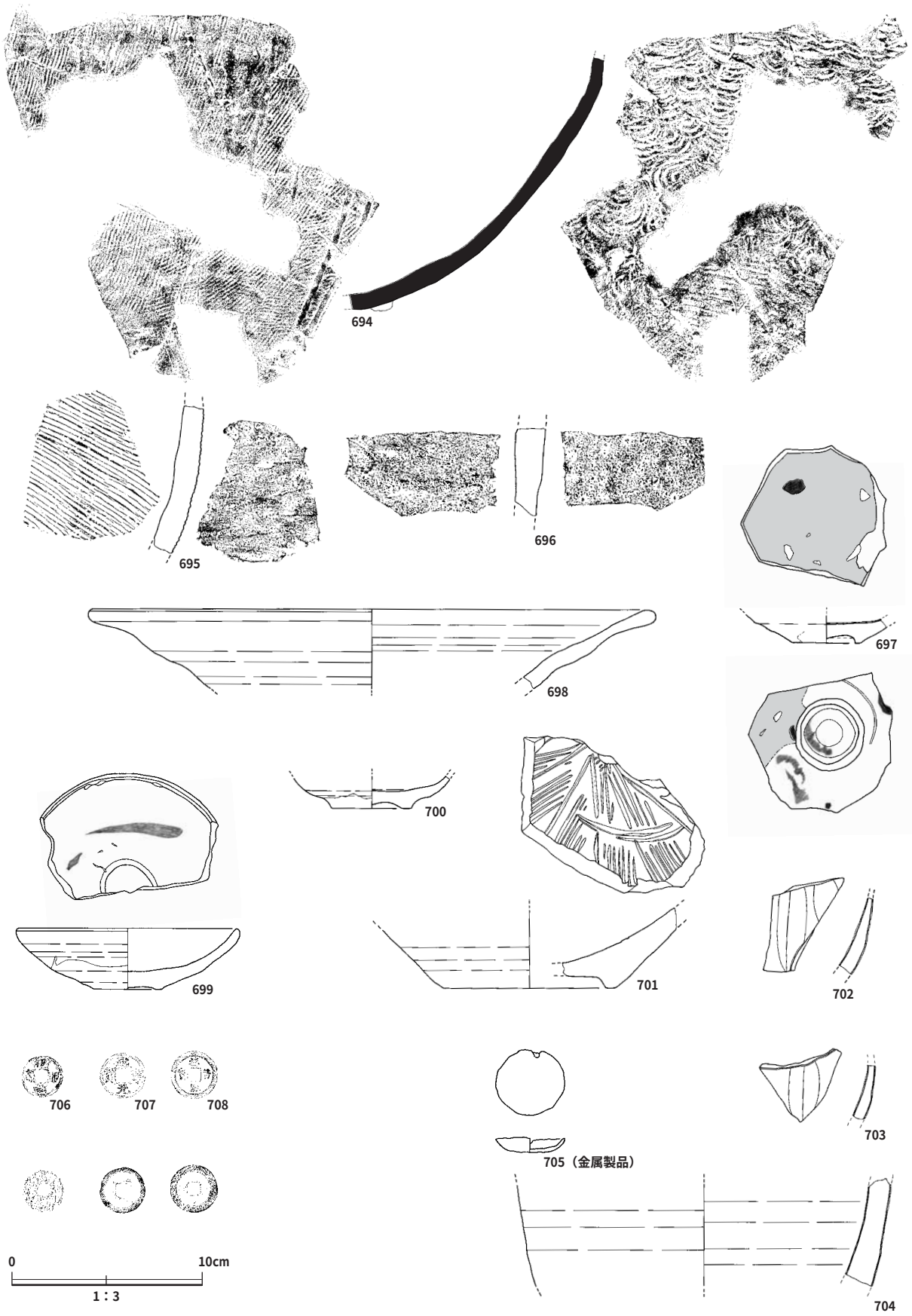
第129図　遺構外出土遺物（２）



第130図　遺構外出土遺物（３）



第131図　遺構外出土遺物（４）



第132図　遺構外出土遺物（５）

写真図版

ＳＢ107　掘立柱建物跡（西から）

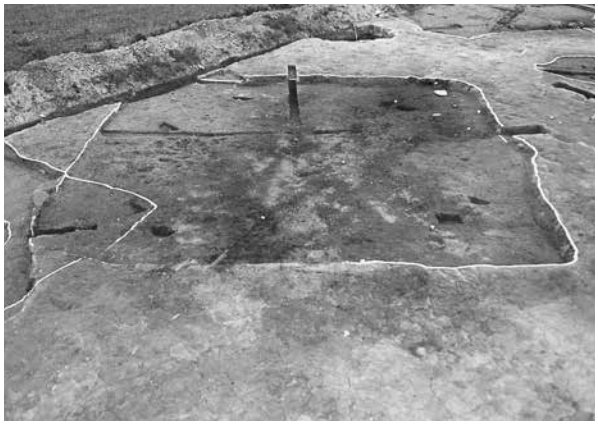
第２次調査区（東側道部南から）

第３次調査区（南から）

ＳＴ687（東から）

ＳＴ716（東から）

ＳＴ735（東から）

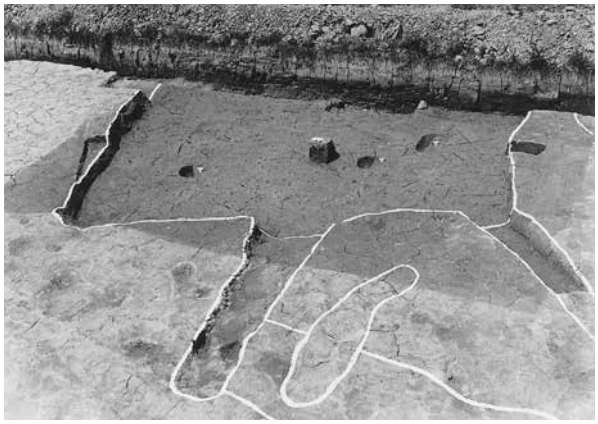


ＳＴ777（南東から）

ＳＴ789，ＳＴ792（南から）

ＳＴ1110　遺物出土状況

ＳＴ1110（西から）



ＳＴ1112（東から）

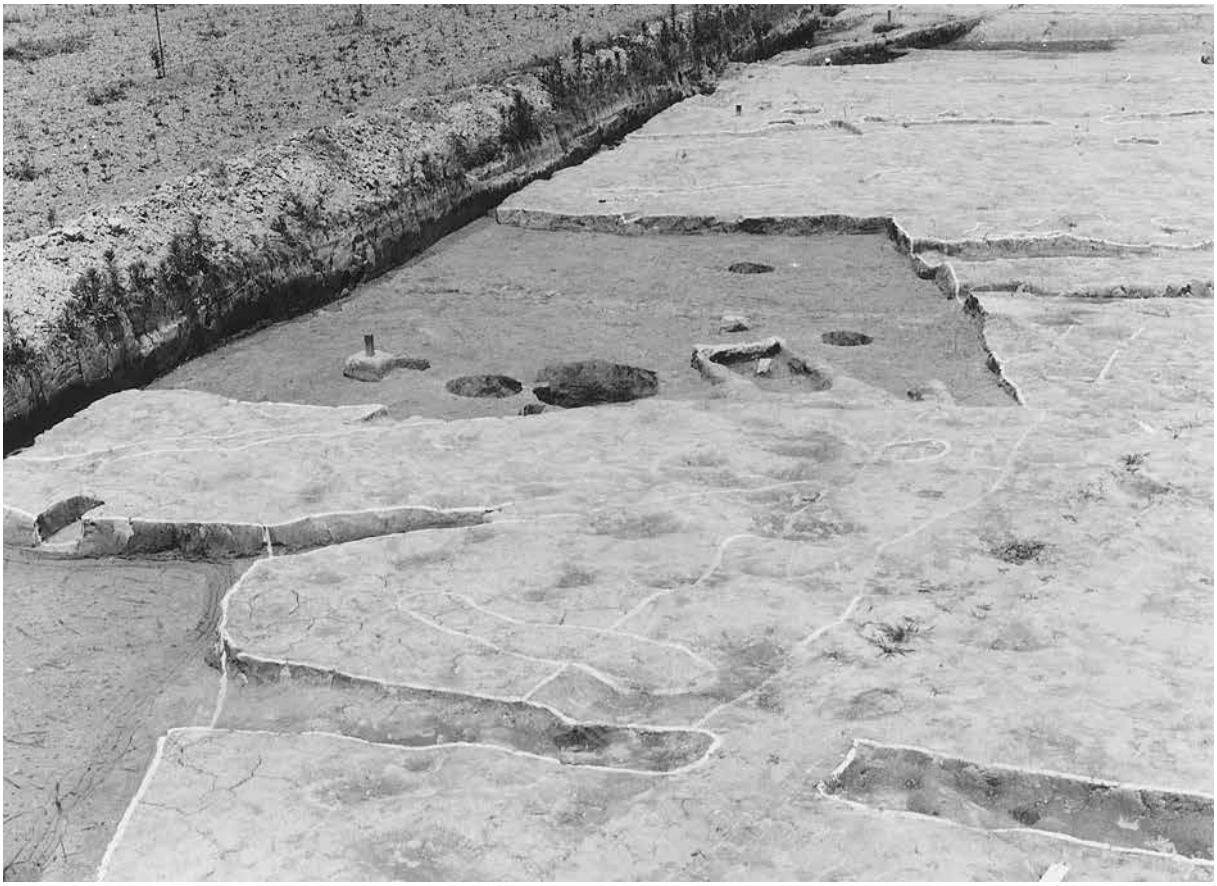
ＳＴ751　カマド（北から）

ＳＴ751（南東から）

ＳＴ795　カマド（西から）

ＳＴ795（西から）

ＳＴ1127　カマド（南東から）



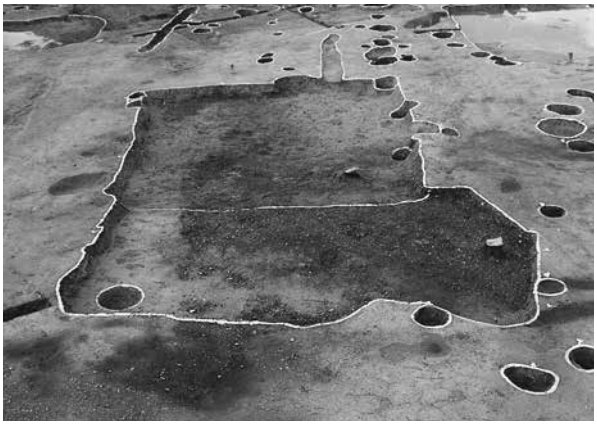
ＳＴ1127（南東から）

ＳＴ2002　カマド（北から）

ＳＴ2002（南から）

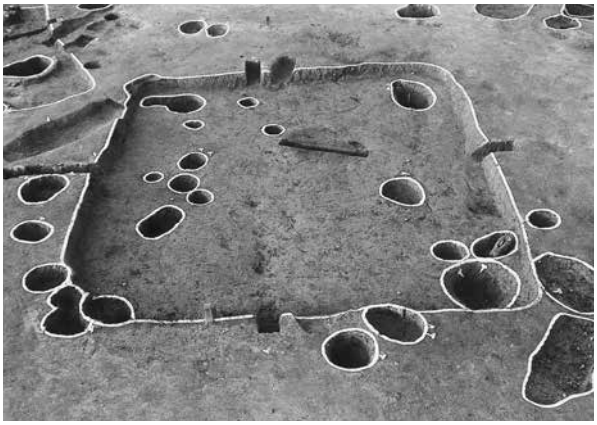
ＳＴ2004　炭化材出土状況（南から）

ＳＴ2004　完掘状況（西から）

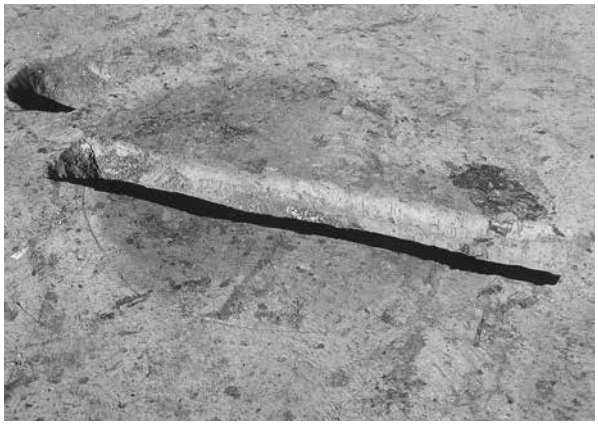


ＳＴ2006・2007（南東から）

ＳＴ2010・2011（南東から）

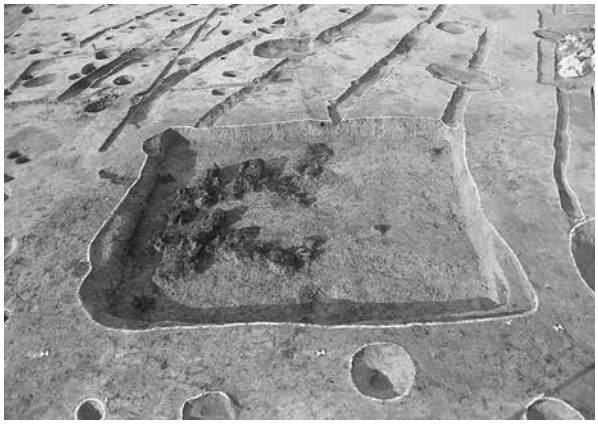


ＳＴ2012（南から）

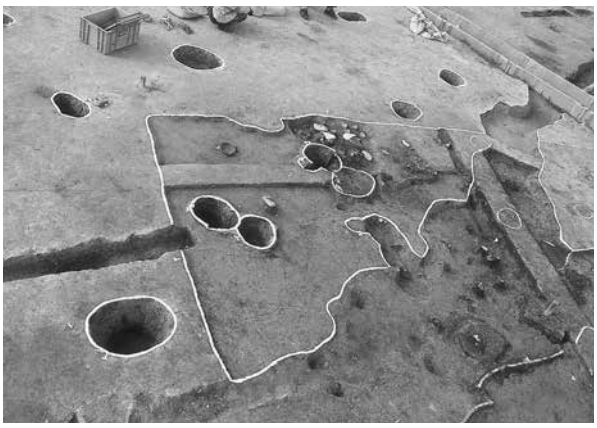


ＳＴ2012　地床炉（南から）

ＳＴ2014（南から）



ＳＴ2019（南から）



ＳＴ2020（南東から）

ＳＴ4002（西から）

ＳＴ4002　炉（東から）

ＳＴ4003（南東から）

ＳＴ4003　石組炉（南から）

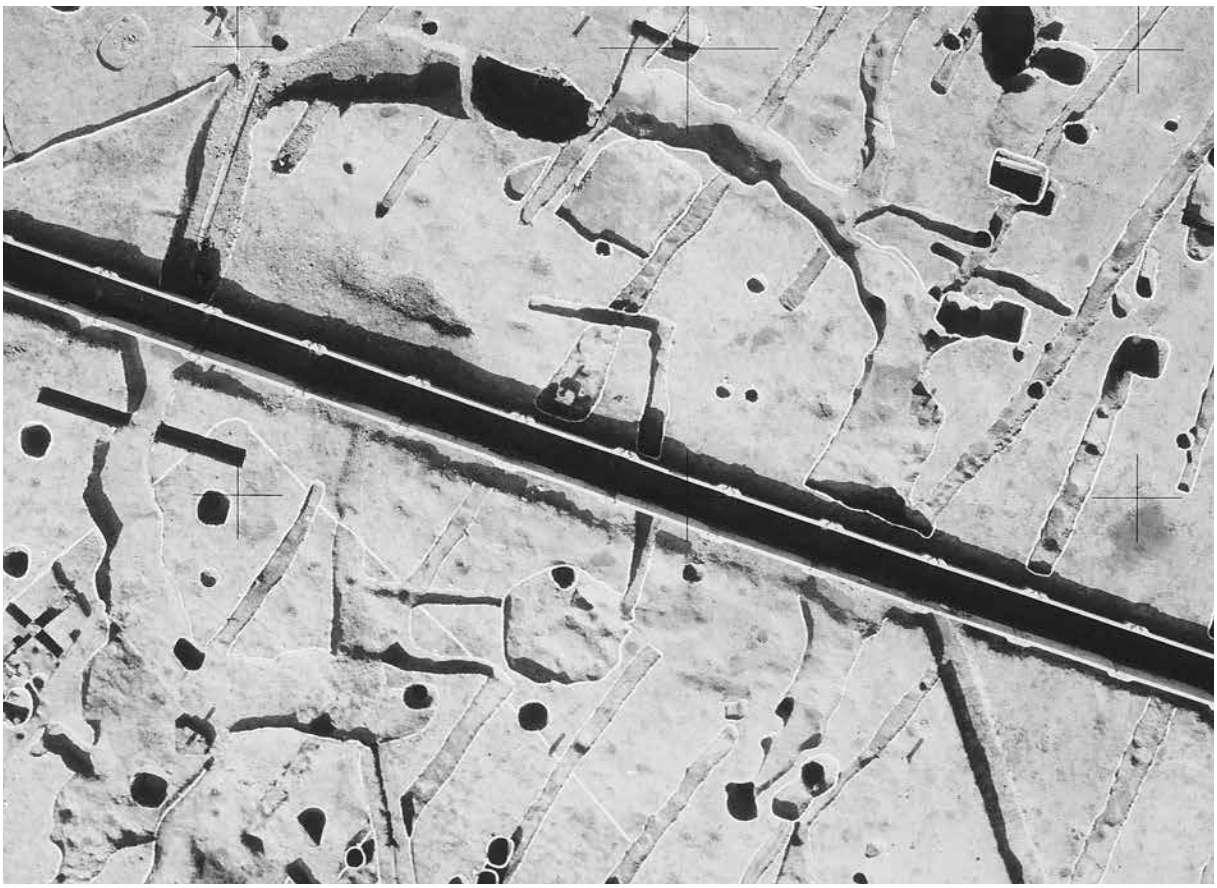
ＳＴ4004（南から）

ＳＴ4005・4006（南から）

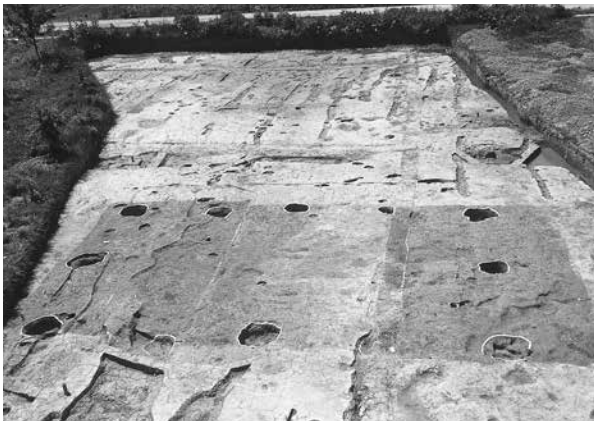
ＳＴ4005　カマド（南から）

ＳＣ5001（上空から、画面上が北）

ＳＣ5001　完掘状況（南から）

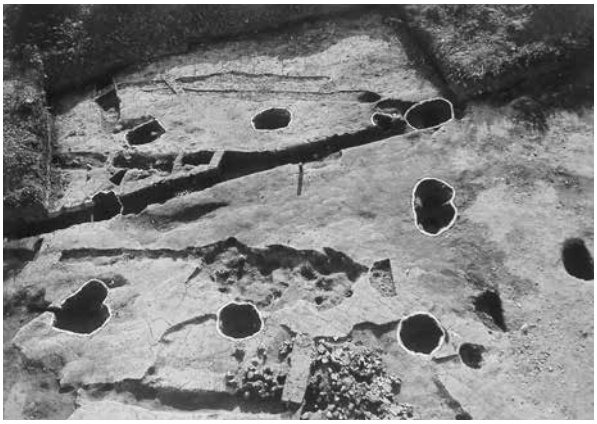


ＳＣ5002（上空から、画面上が北）



ＳＢ107（北から）

ＳＢ457（西から）



ＳＢ672（東から）

ＳＢ1601（西から）

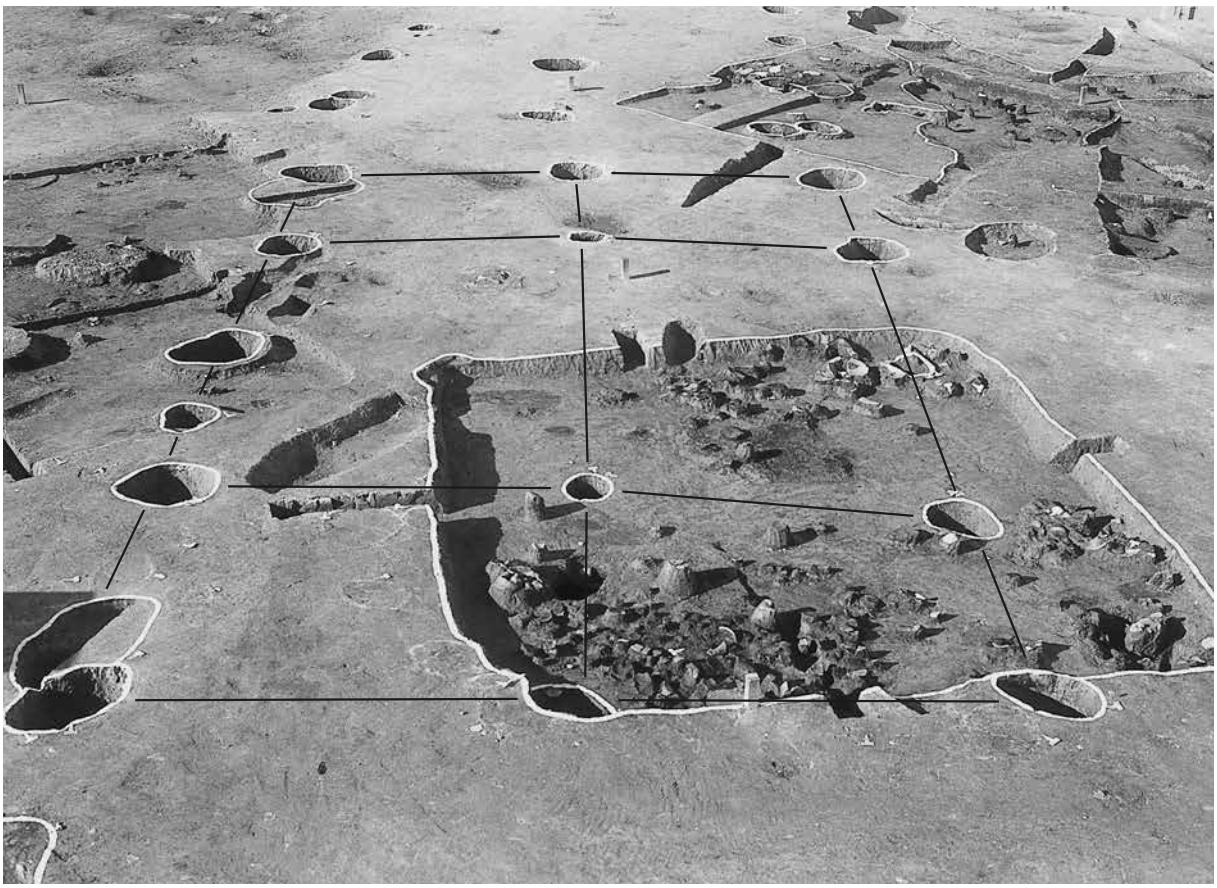
ＳＢ1601　ＥＢ３　柱痕検出状況

ＳＢ3501　ＥＢ10　柱痕検出状況

ＳＢ3502　完掘状況（南から）

ＳＢ3505　完掘状況（南から）

ＳＢ3501・ＳＢ3507・ＳＡ3508　完掘状況（西から）



ＳＢ3503　完掘状況（南から）

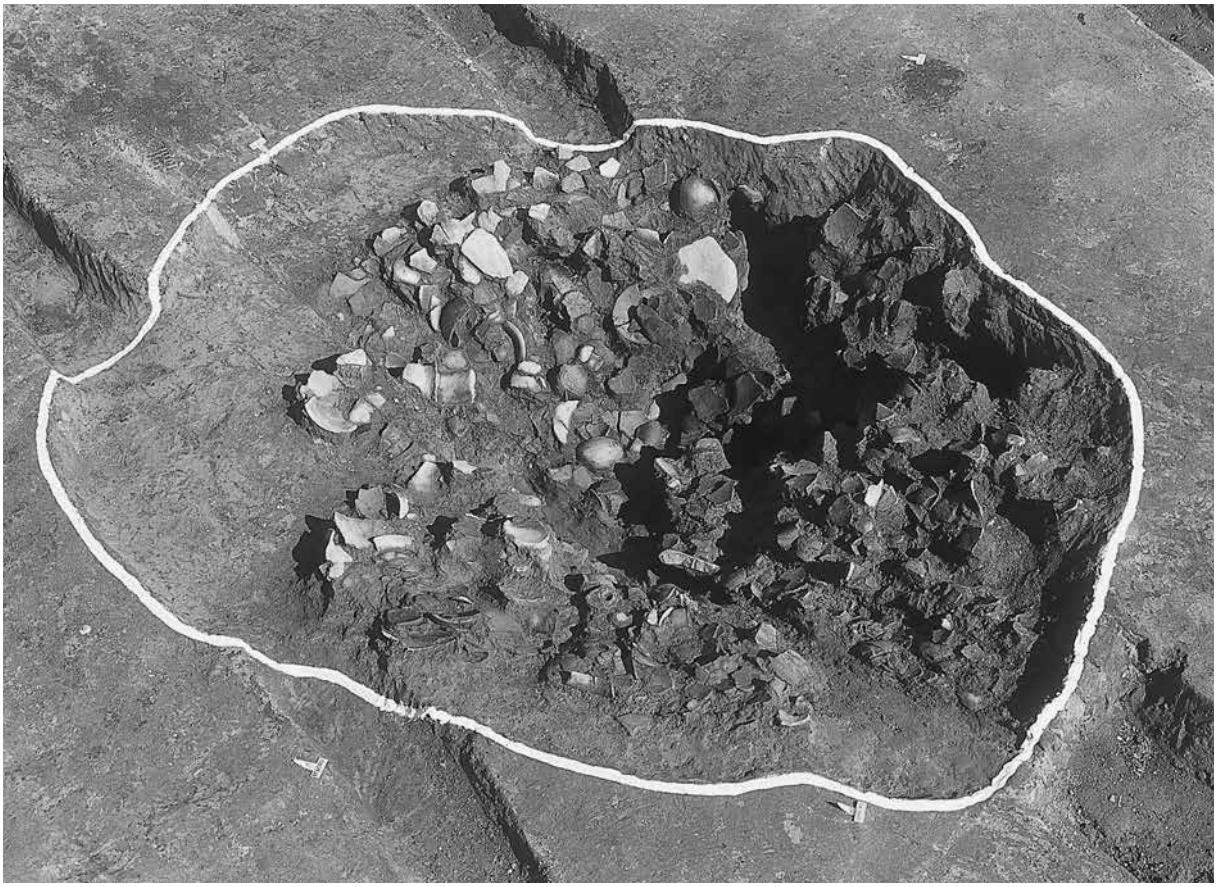
ＳＢ3506　完掘状況（西から）

ＳＫ1097　完掘状況（東から）

ＳＸ149　遺物出土状況（南から）

ＳＧ1157　遺物出土状況（北から）

ＳＧ3000　検出状況（北から）



ＳＫ3023　遺物出土状況（西から）

ＳＫ3030　遺物出土状況（南から）

ＳＫ3665　遺物出土状況（南から）

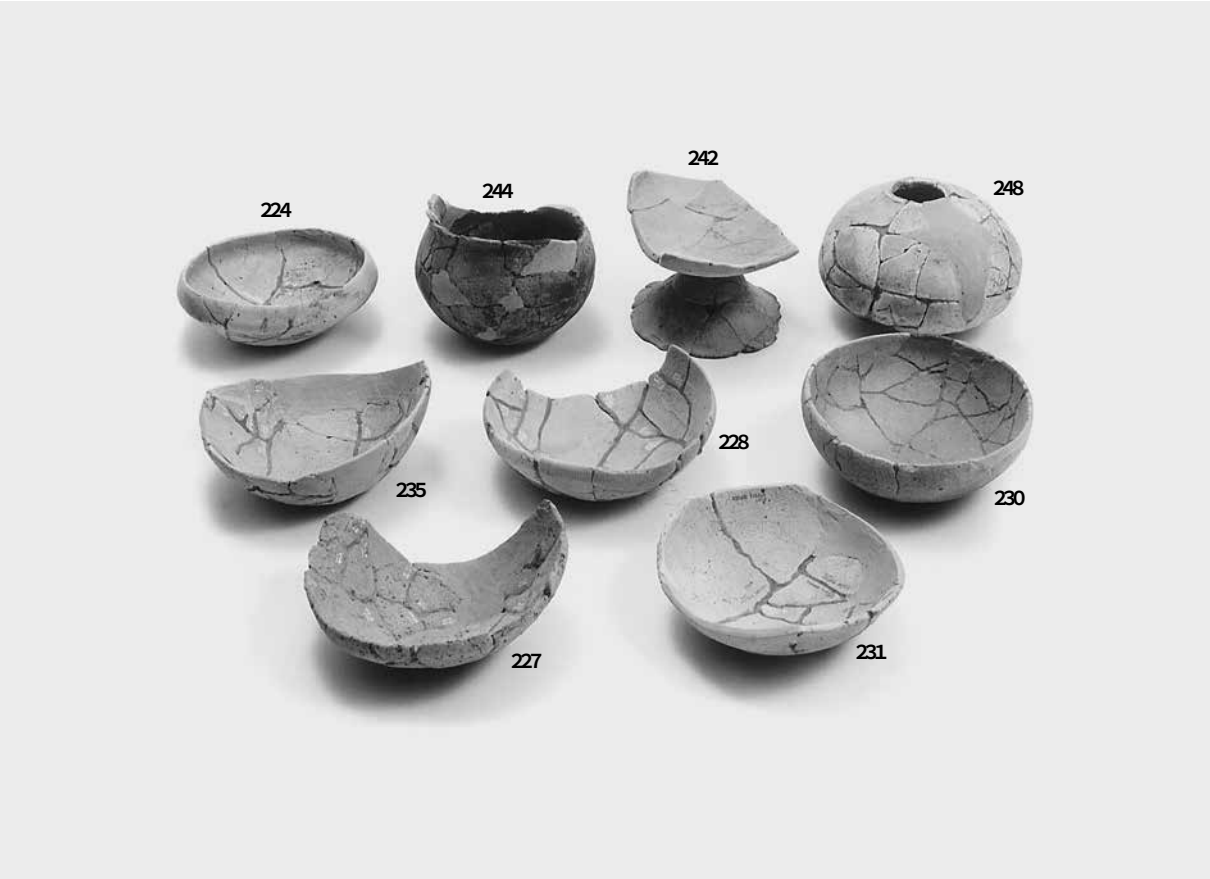
ＳＫ3668　遺物出土状況（東から）

ＳＥ2419　完掘状況（東から）

ＳＥ2871　曲物出土状況（南から）

ＳＥ2420　木製品検出状況（北から）

ＳＥ2420　完掘状況（東から）



ＳＴ2014　出土遺物

ＳＫ3023　出土遺物

1

2

29

46

47

56

58

59

古墳時代　土師器　坏（1）

60

78

79

81

82

83

84

110

古墳時代　土師器　坏（２）

111

124

156

162

163

212

213

216

古墳時代　土師器　坏（３）

218

224

226

228

232

235

284

298

古墳時代　土師器　坏（４）

299

326

328

351

366

397

399

409

古墳時代　土師器　坏（５）

412

430

469

592

600

650

651

652

古墳時代　土師器　坏（６）

古墳時代　土師器　坏（７）

8

35

36

37

50

214

242

401

古墳時代　土師器　高坏（1）

372

436

437

438

31

66

300

40

古墳時代　土師器　高坏（２）　坏（大型）　壷（１）

86

89

248

302

304

368

443

444

古墳時代　土師器　坏（大型）　壷（２）

446

51

116

132

138

151

208

216

古墳時代　土師器　壷（3）　甕（1）

220

333

370

375

456

457

485

476

古墳時代　土師器　甕（２）

11

16

23

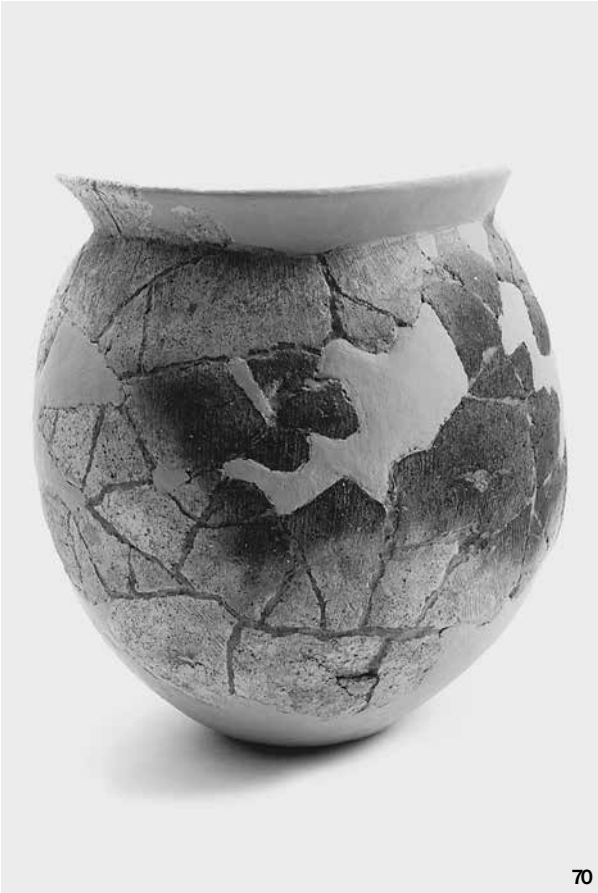
45

古墳時代　土師器　甕（３）

55

62

69


70

古墳時代　土師器　甕（４）

97

98

134

150

古墳時代　土師器　甕（５）

152

364

272

277

古墳時代　土師器　甕（６）

280

348

450

451

古墳時代　土師器　甕（７）

454

460

467

480

古墳時代　土師器　甕（８）

483

484

543

629

古墳時代　土師器　甕（9）

古墳時代　土師器　甕（10）・甑（１）

633

9

68

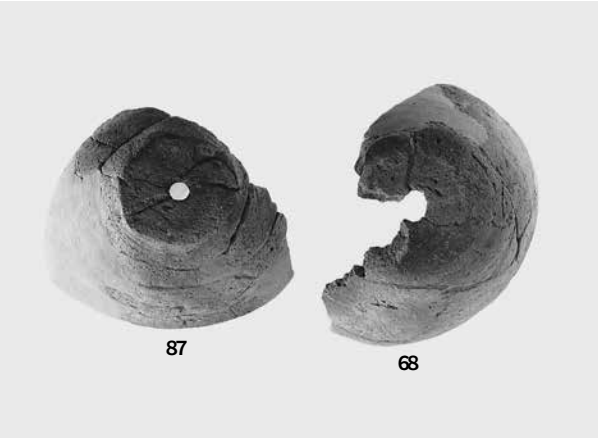
87

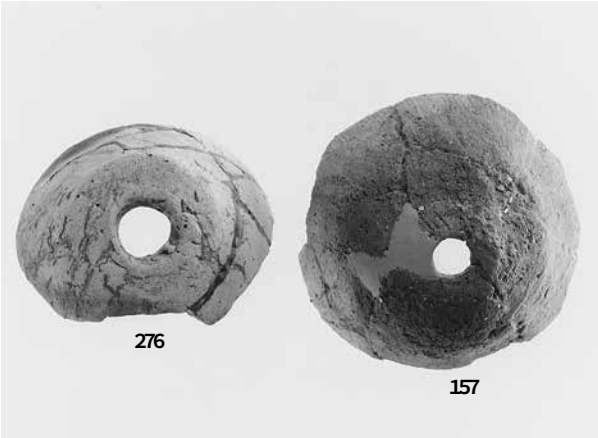
113

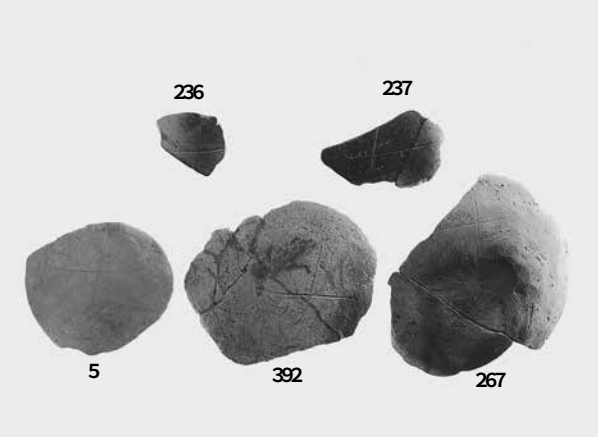
88

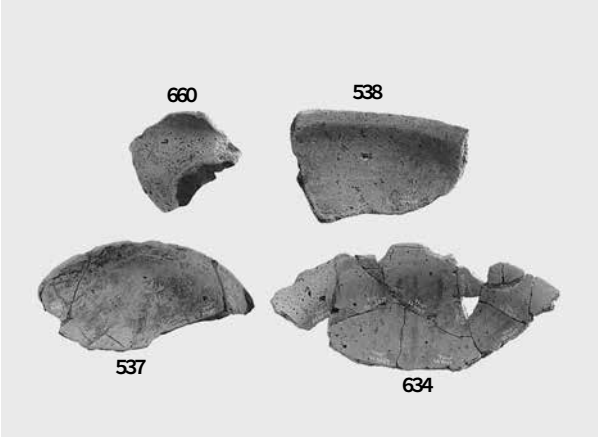
539

古墳時代　土師器　甑（2）・有孔鉢（1）









古墳時代　土師器　有孔鉢（２）・坏破片資料・手づくね土器等

150

398

285

433

244

355

古墳時代　土師器　坏・甕（底部輪台ケズリ飛ばし、等）

71

145

146

238

239

524

664

662

古墳時代　須恵器（1）坏・蓋・高坏等

626

666

377

665

143

115

144

27

336

338

古墳時代　須恵器（2）破片資料・平安時代　土師器（1）坏

495

496

504

587

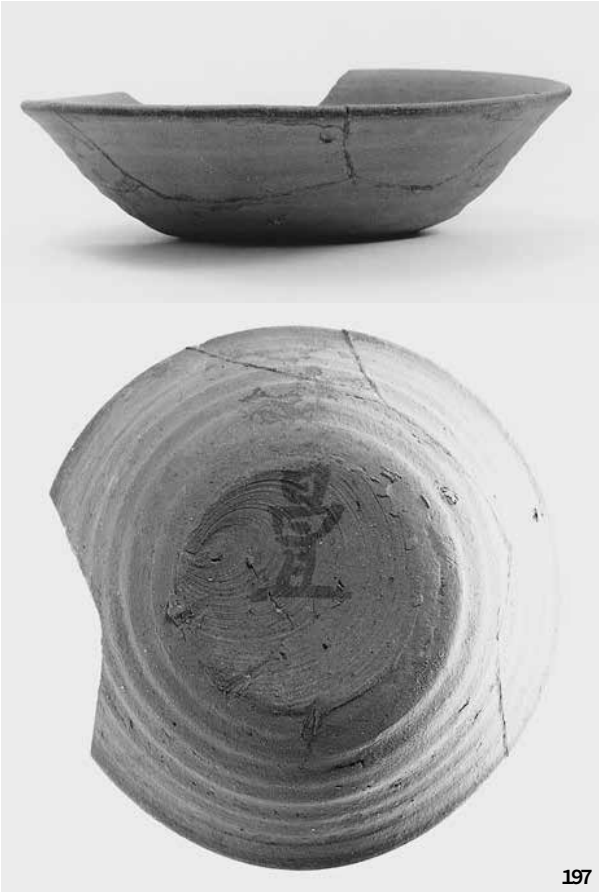
632

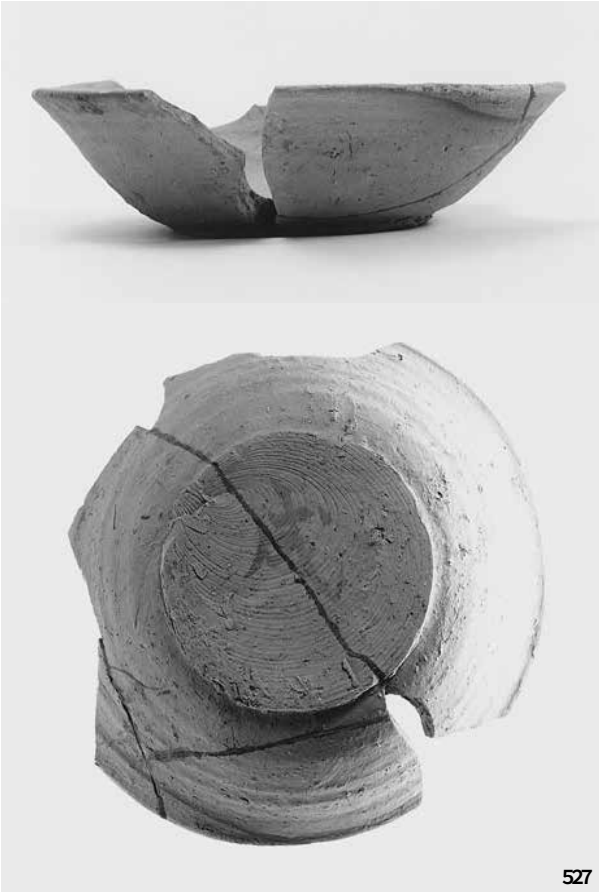
679

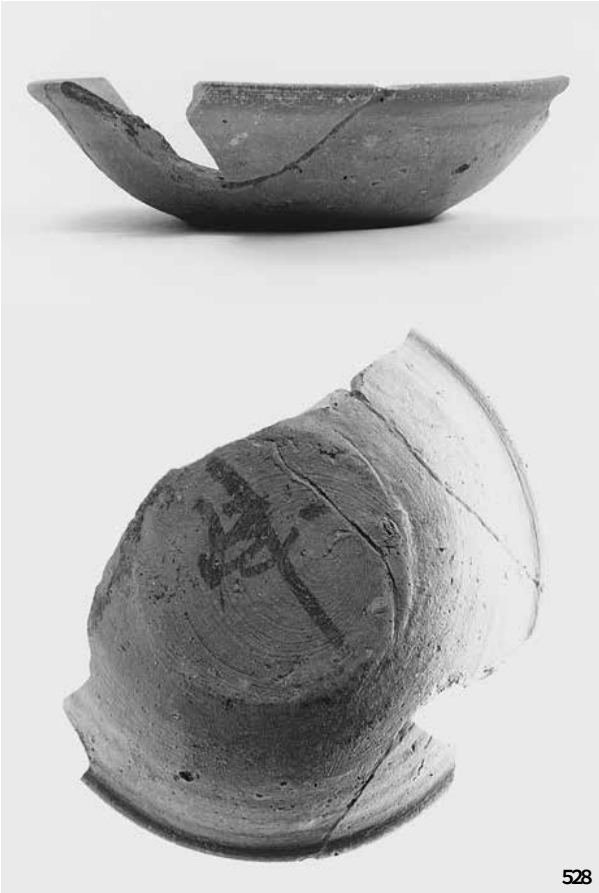
680

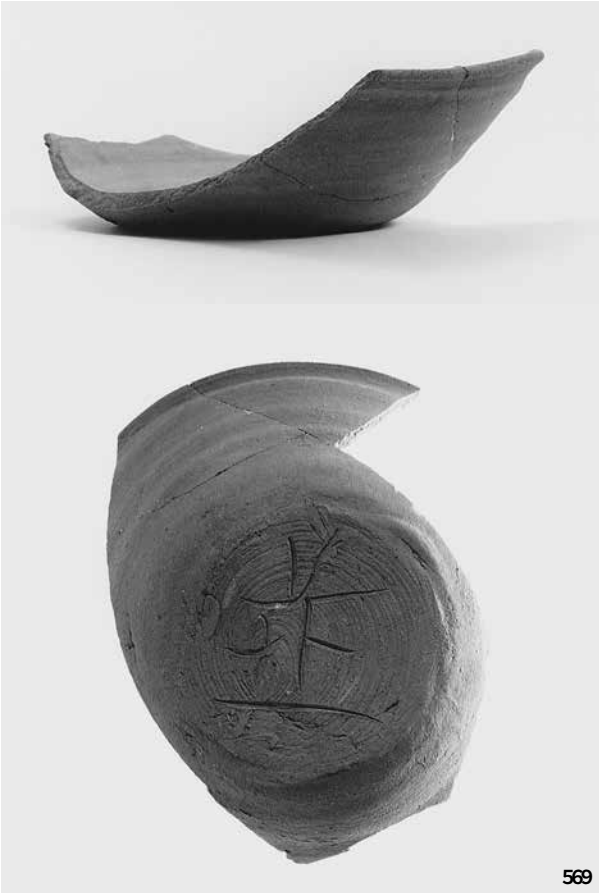
681

平安時代　土師器（2）坏・須恵器（1）坏

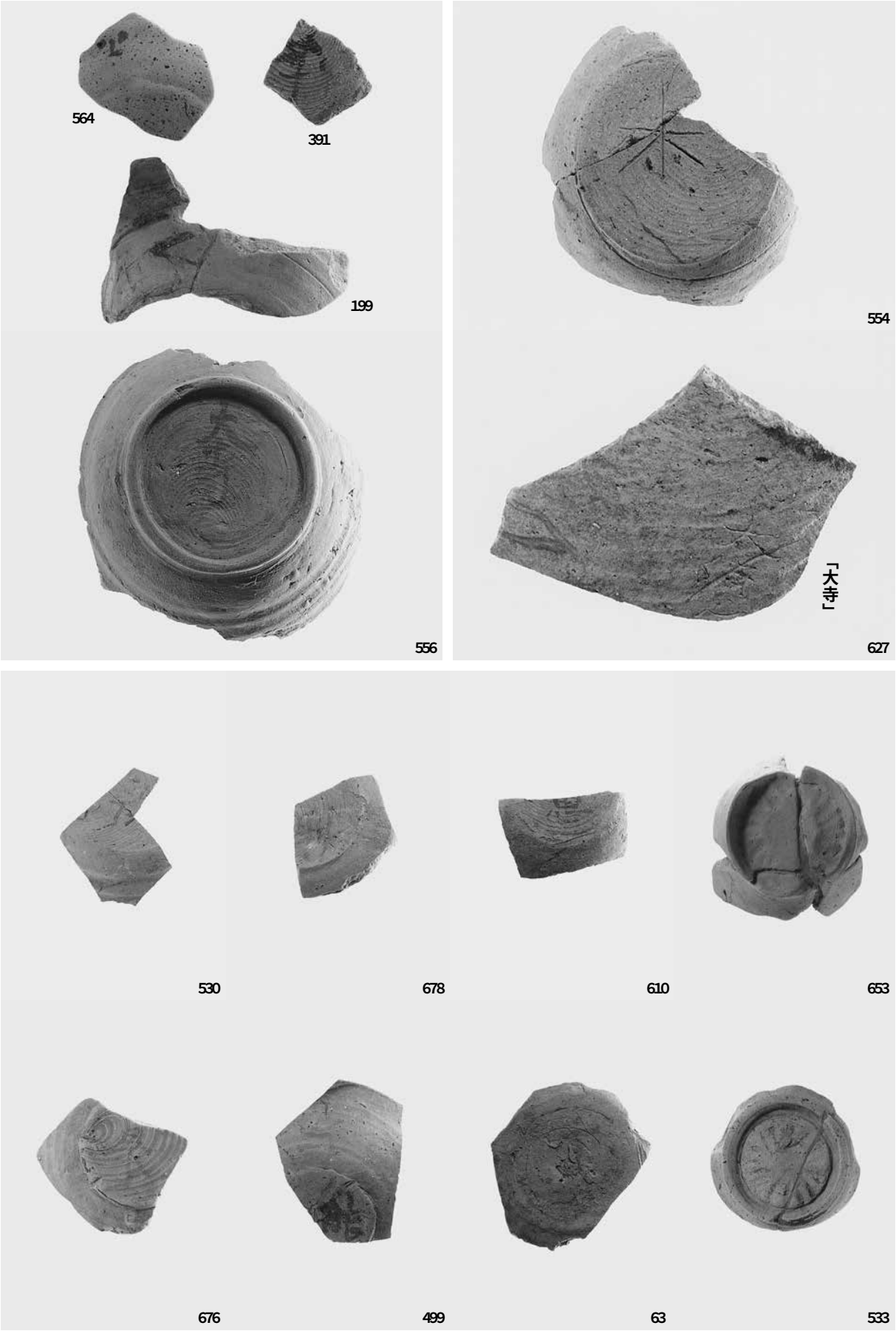

197


527

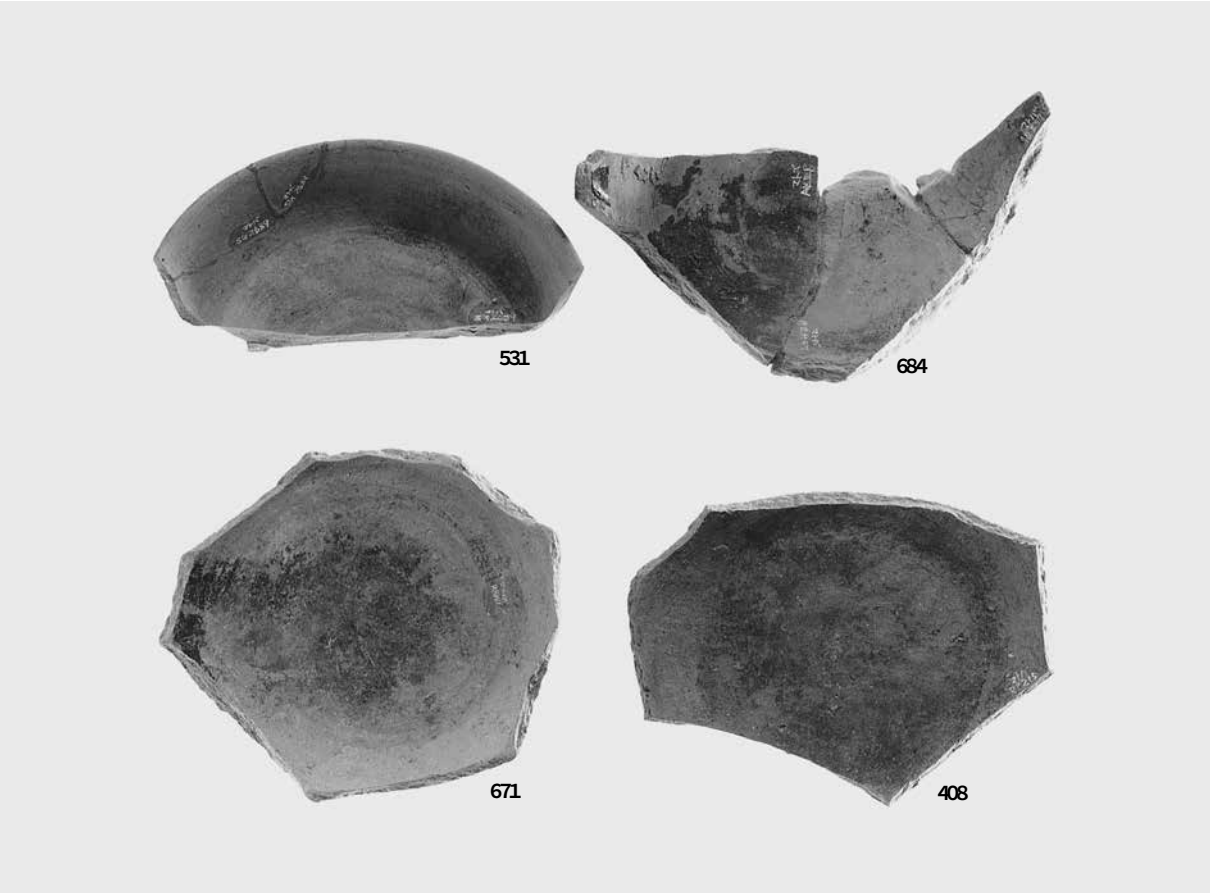

528


569

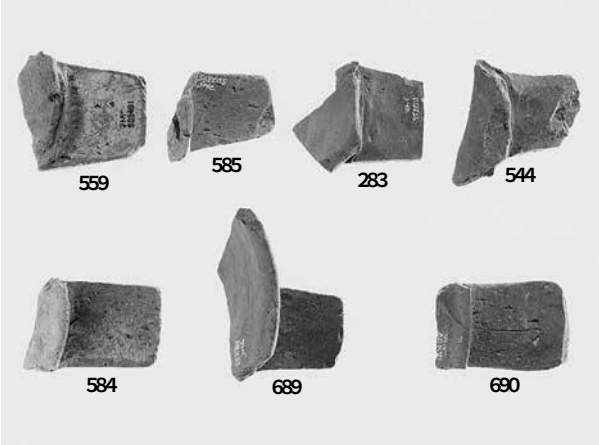
平安時代　須恵器（２）墨書土器等

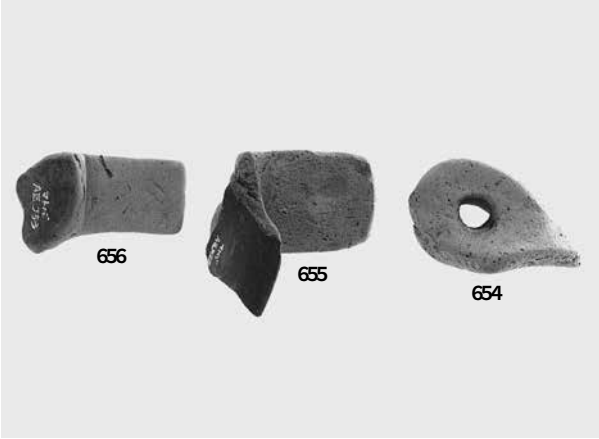


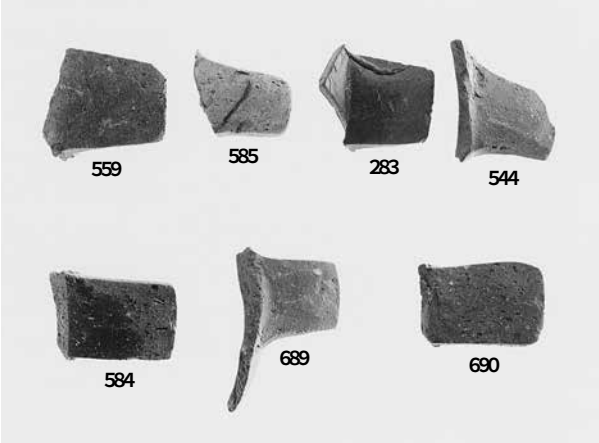
平安時代　土師器（３）菊花状ナデ・須恵器（３）墨書土器等

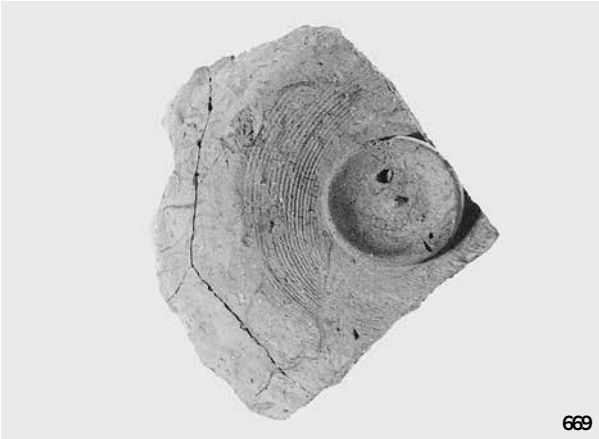


平安時代　土師器（4）高坏・須恵器（4）転用硯・灯明皿等









平安時代　土師器（5）双耳坏片等・須恵器（5）双耳坏片・高台付坏等

490

491

596

583

579

605

平安時代　土師器（６）箆書文字等

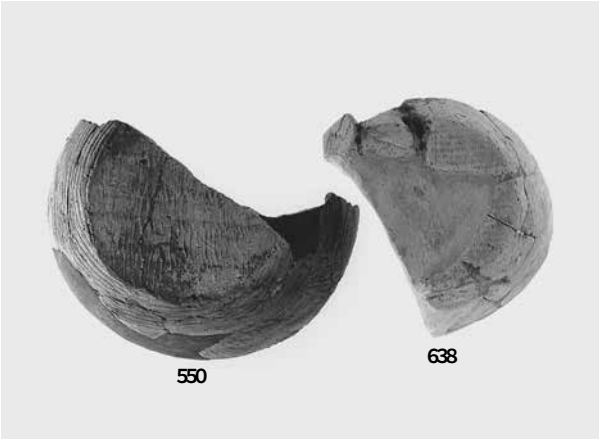
393

561

578

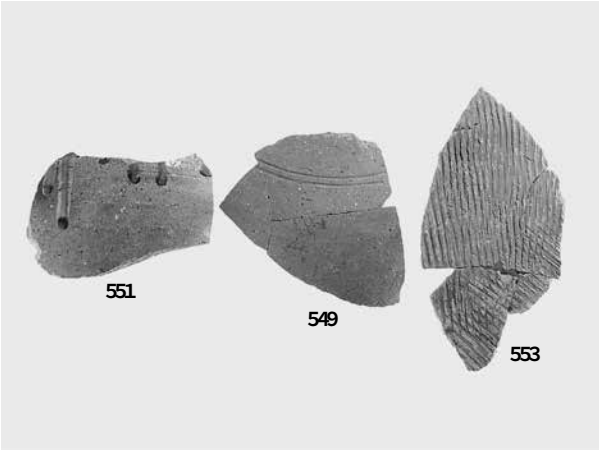
580

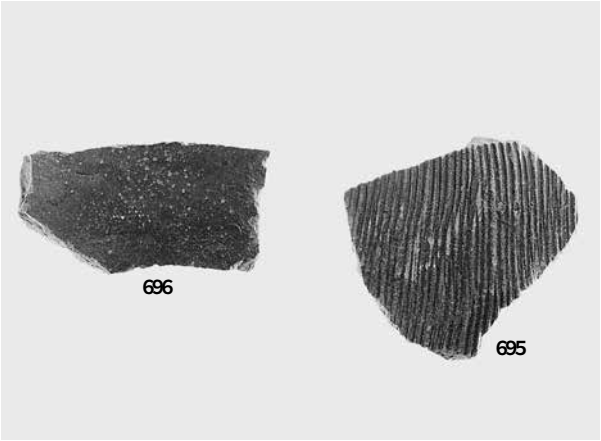
550

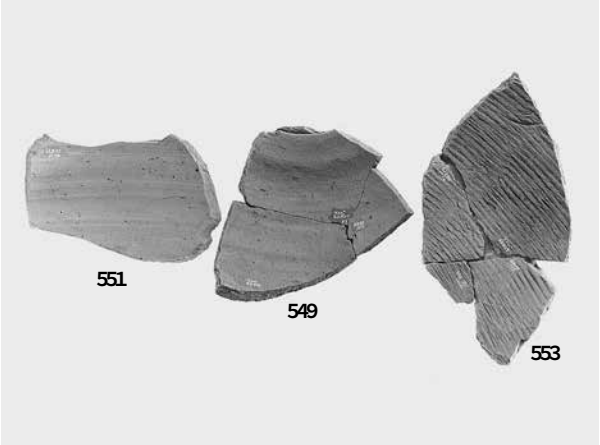

550 638

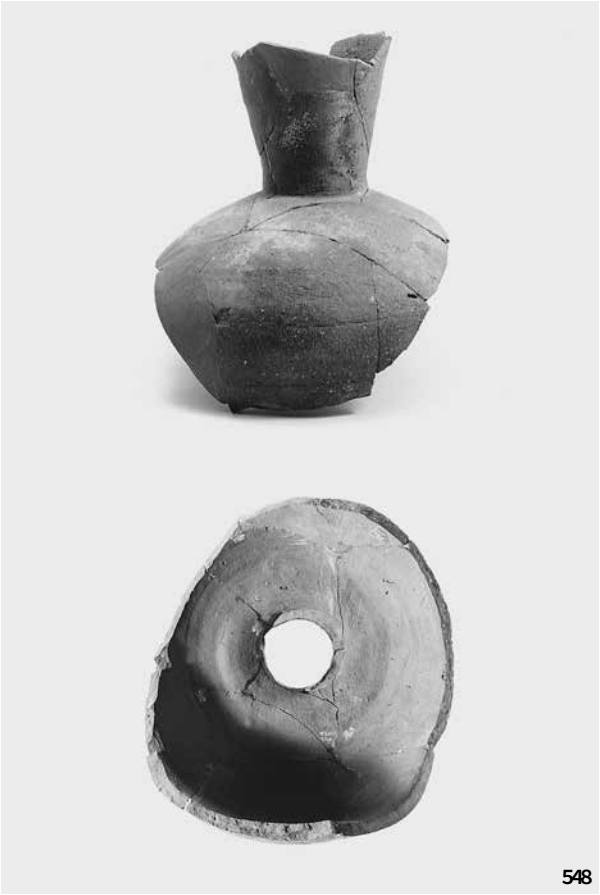
604

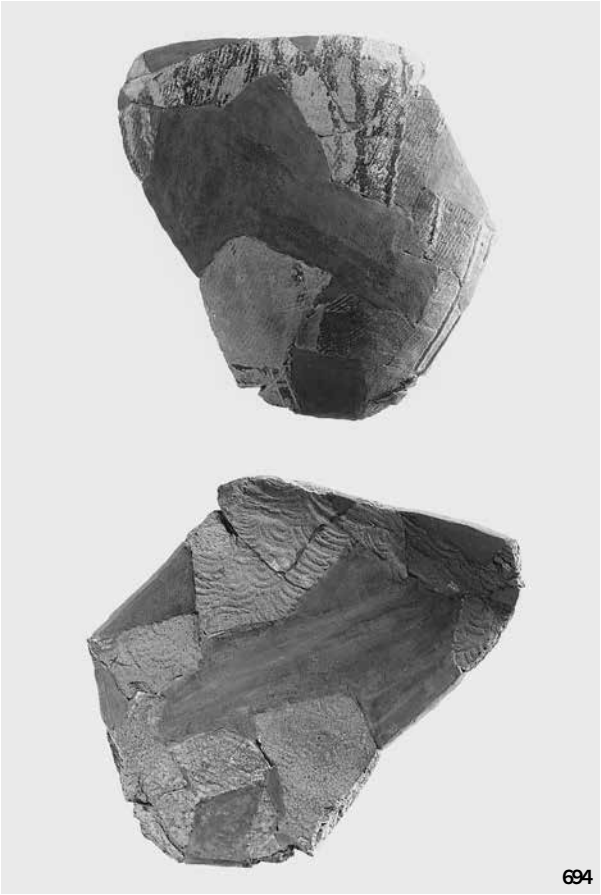
平安時代　土師器（7）甕等　灰釉陶器（1）壷等



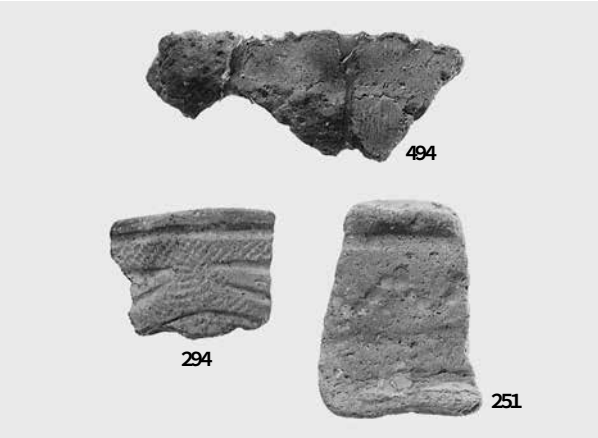


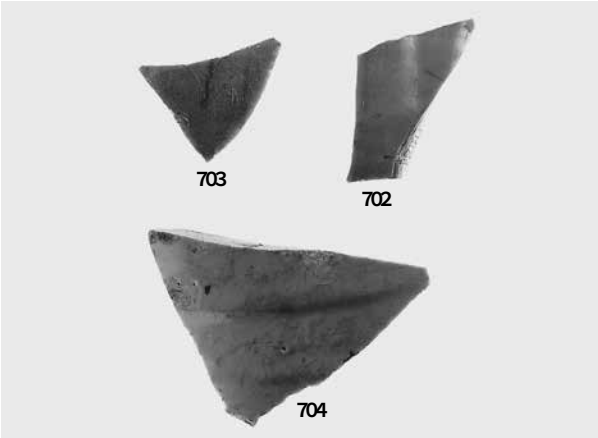


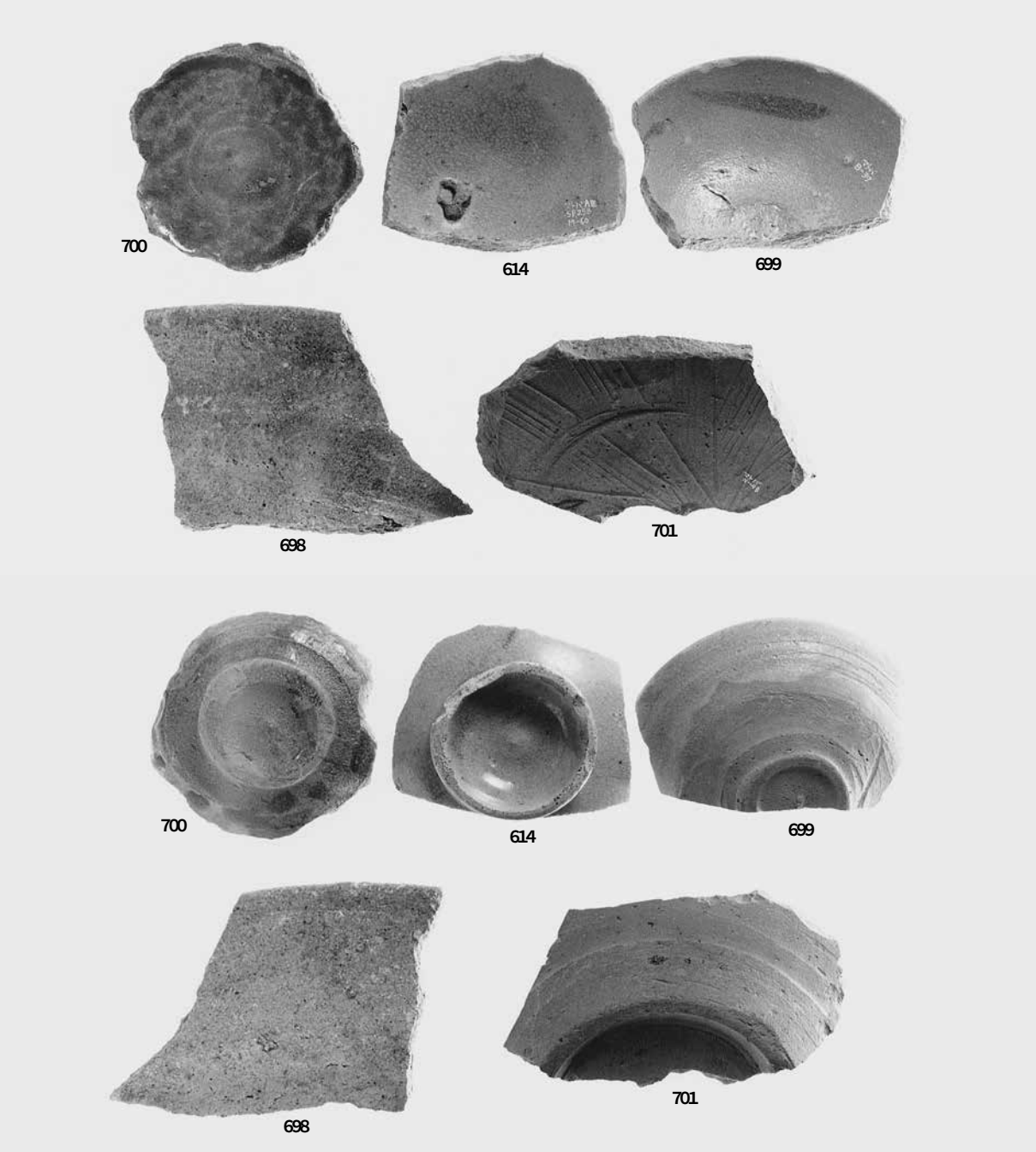




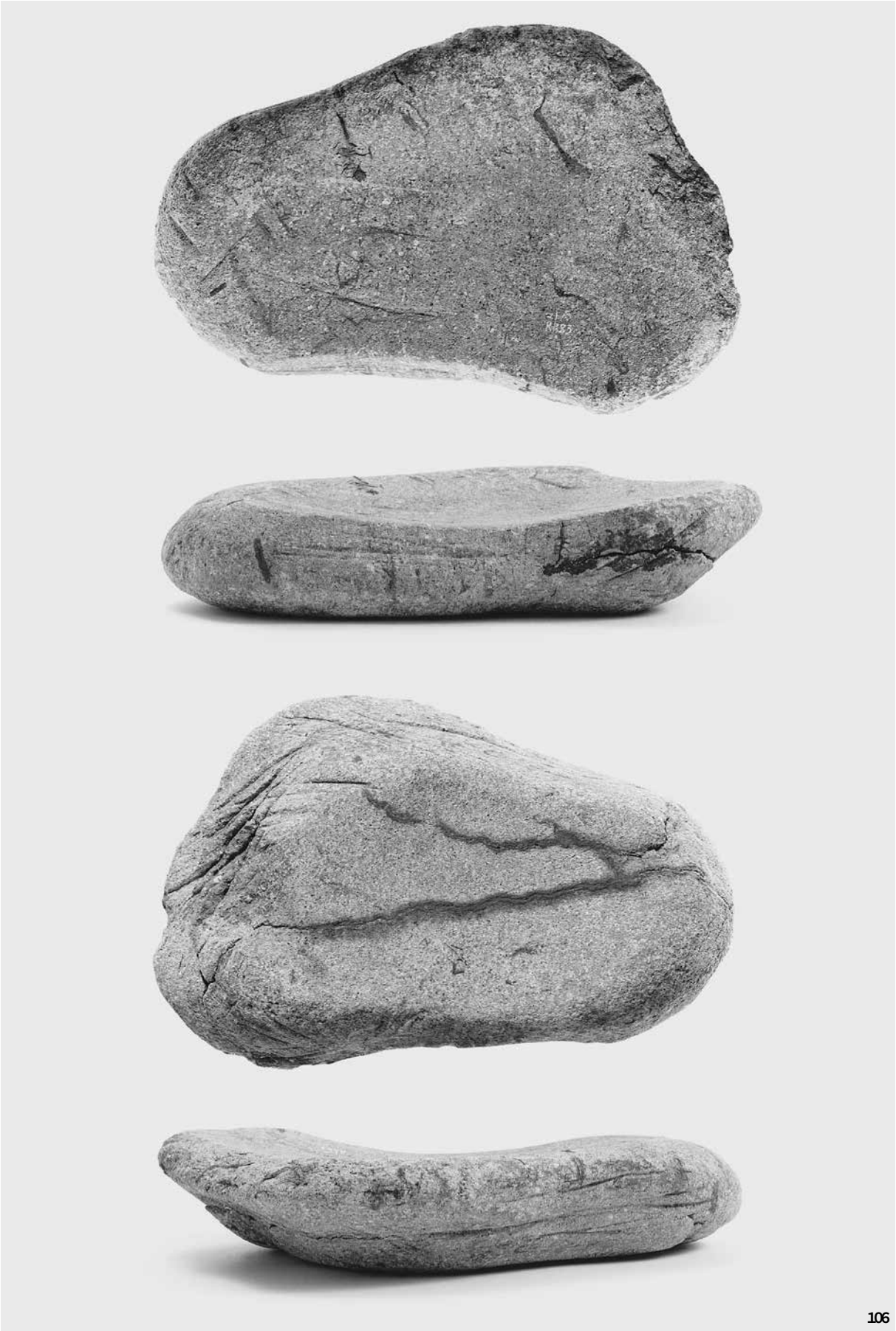
平安時代　須恵器（6）壷・甕・灰釉陶器（2）







縄文土器・中世の磁器・近世・近代の陶器



106

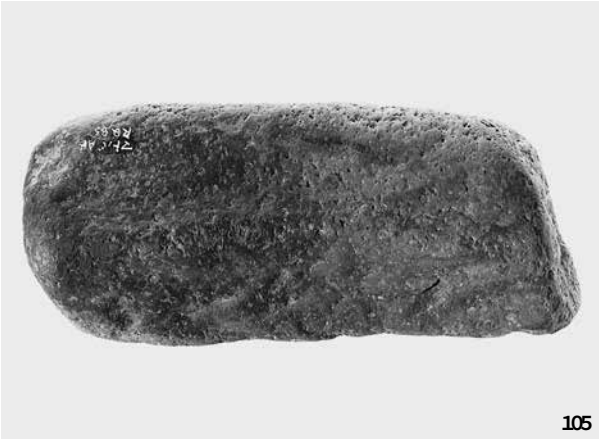
石製品（1）

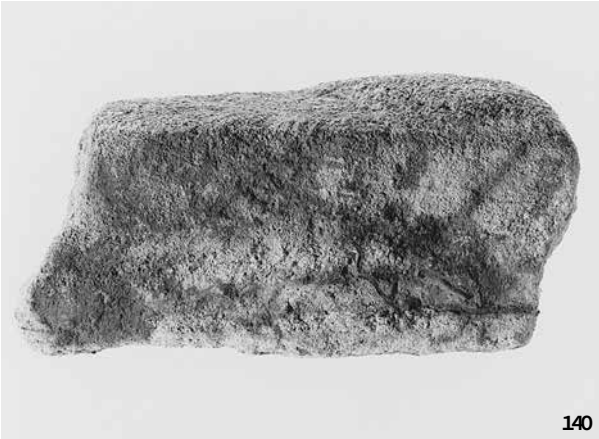
122

464

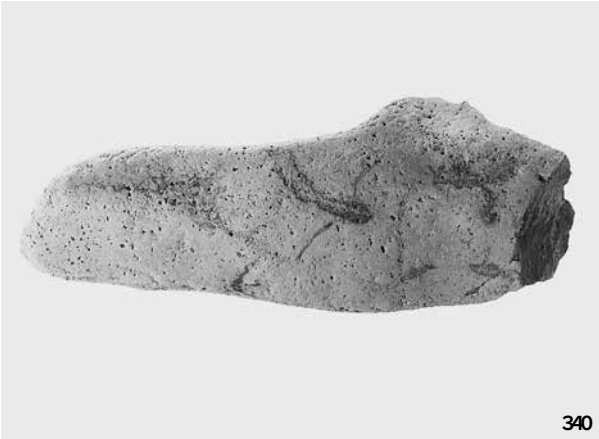
465

639

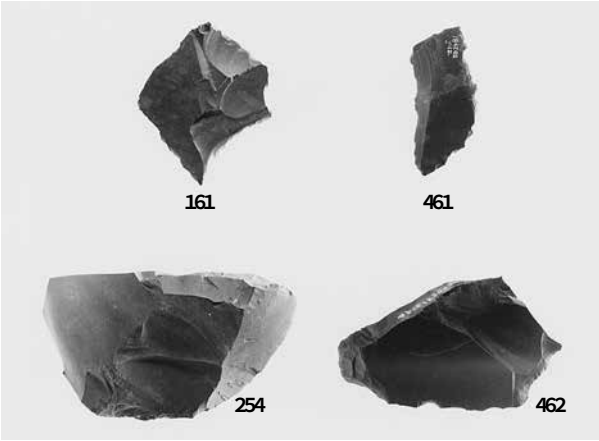

105


140

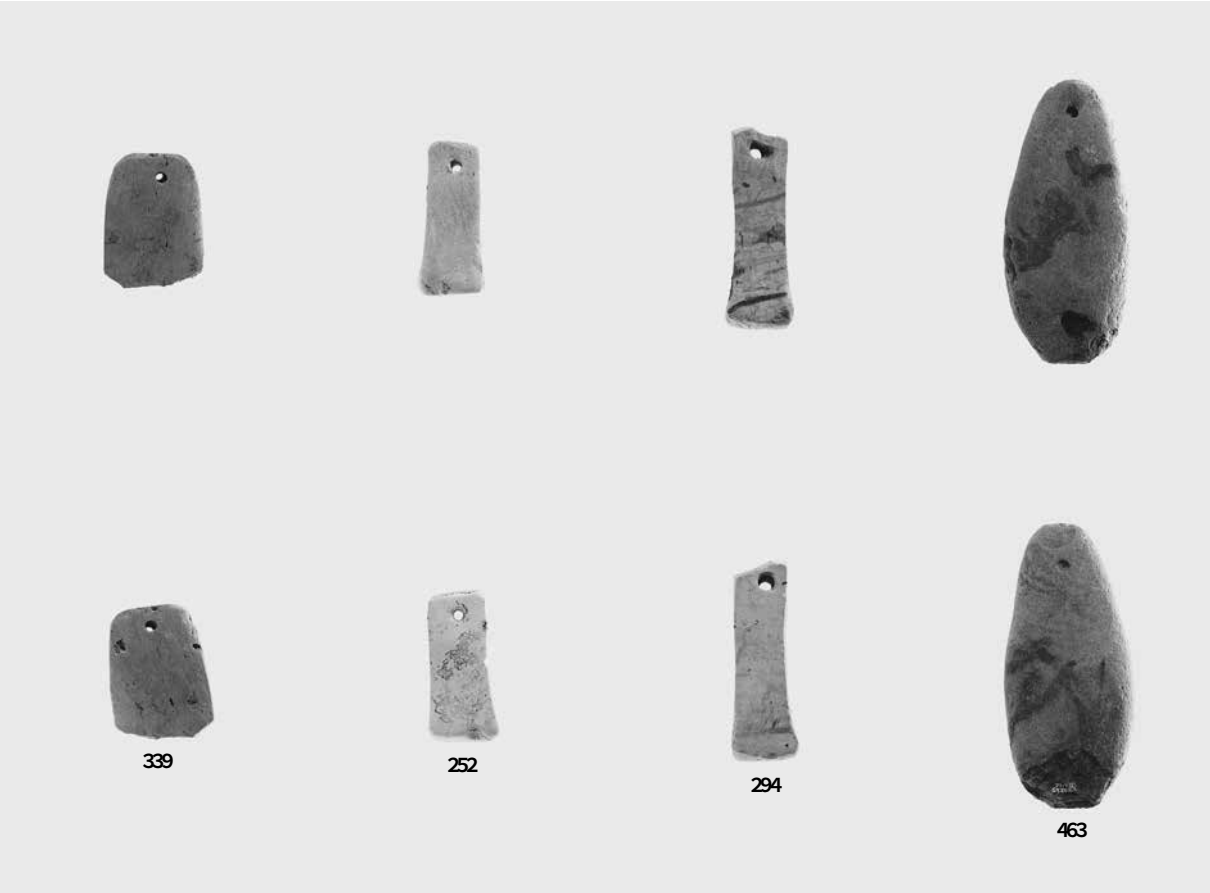
141


340

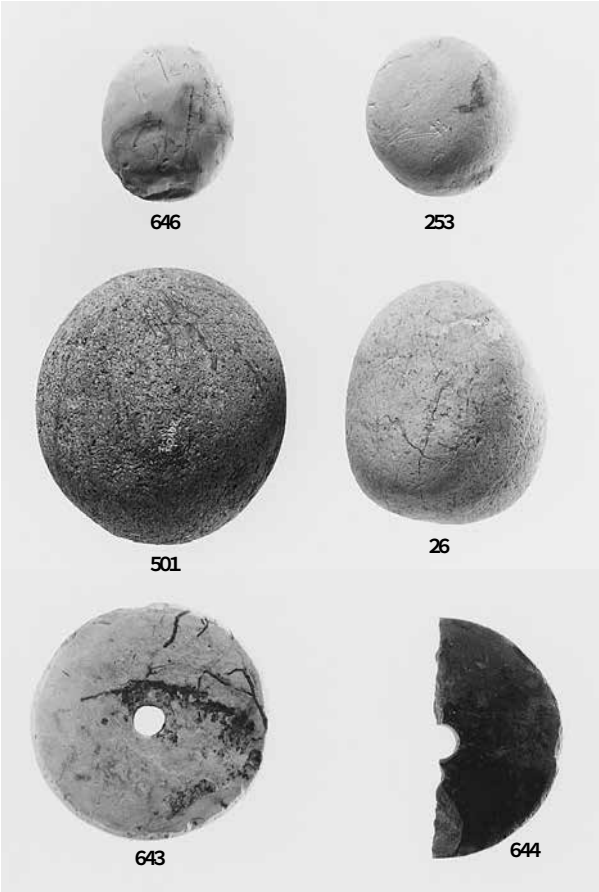
石製品（2）

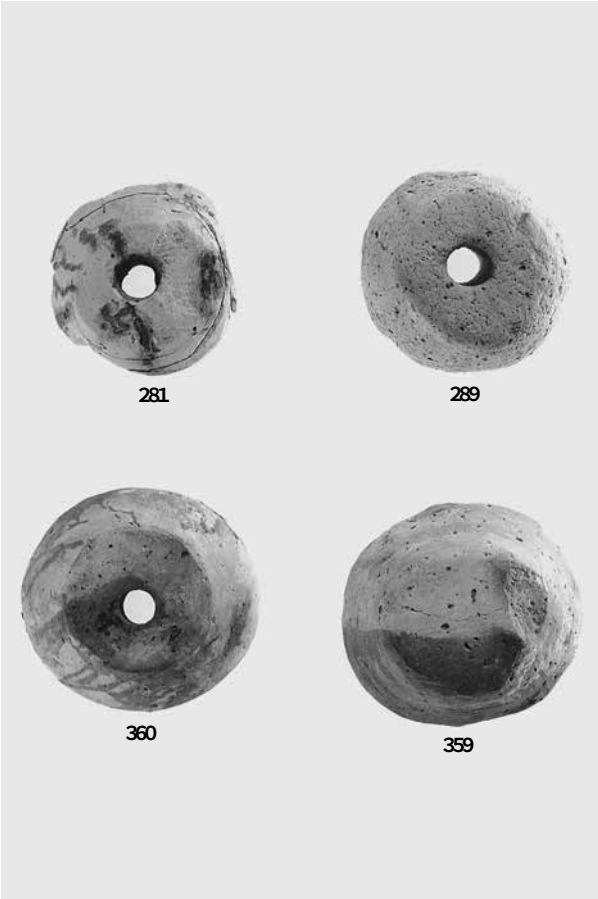


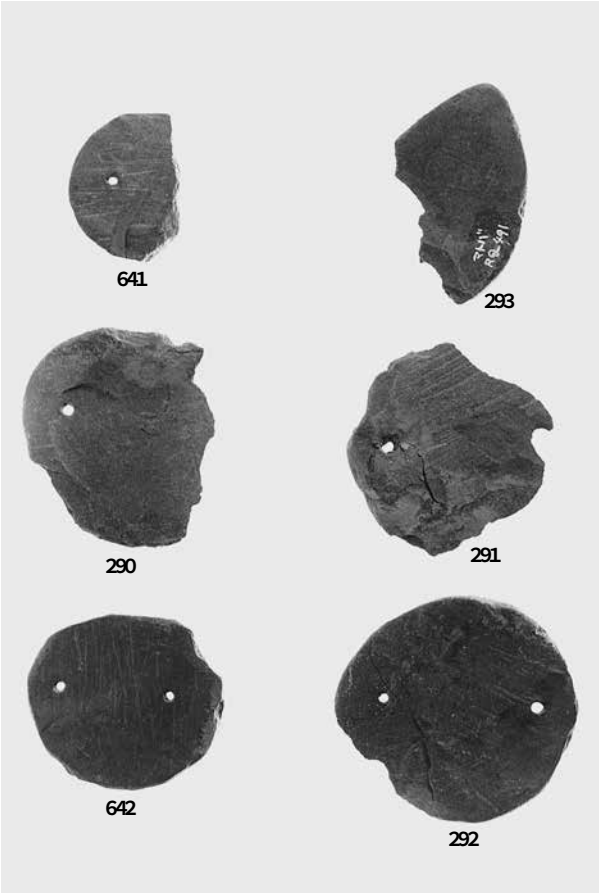
石製品（３）・石器

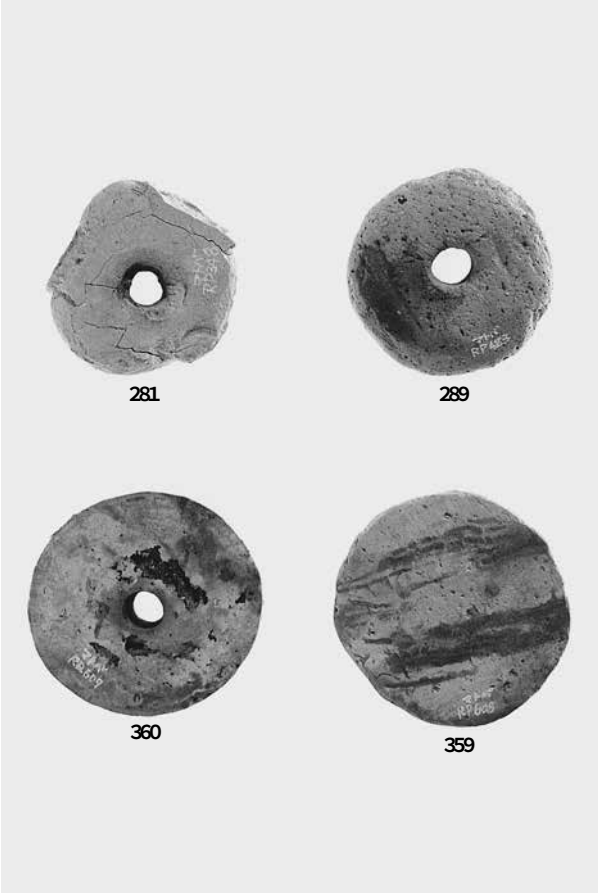


石製品（4）


646
253
501
26
643
644


281
289
360
359


641
293
290
291
642
292


281
289
360
359

石製品（5）・土製品

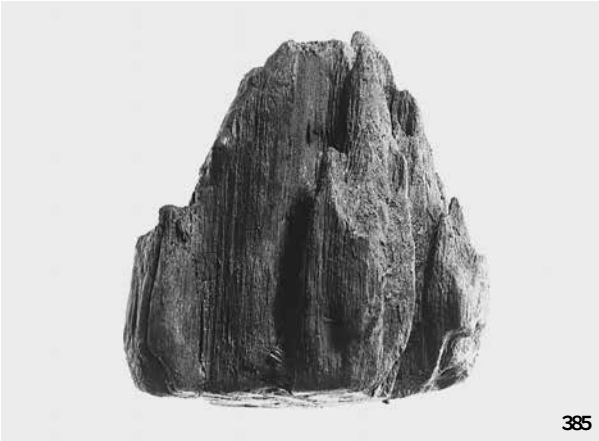
木製品（１）曲物等

511

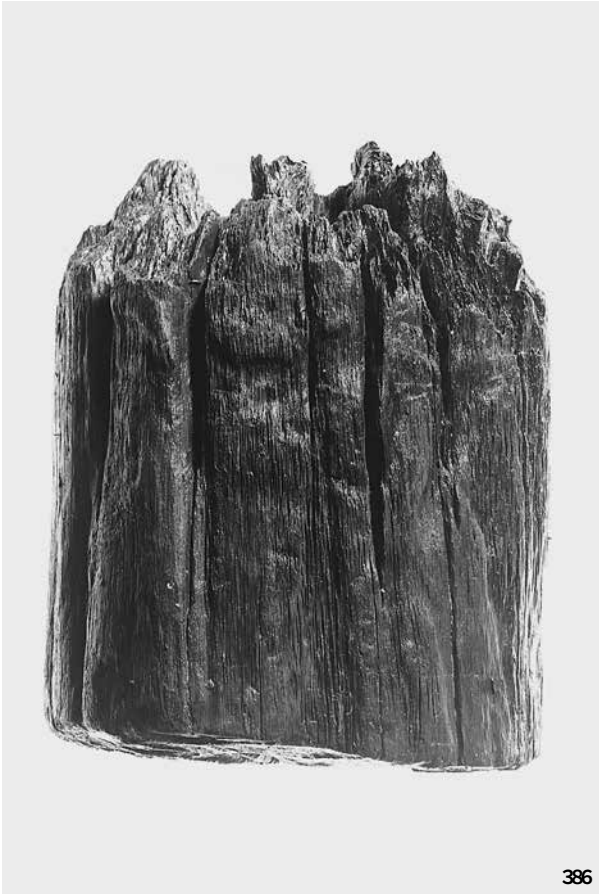
509

382

383


385

387


386

木製品（2）柱痕等

388

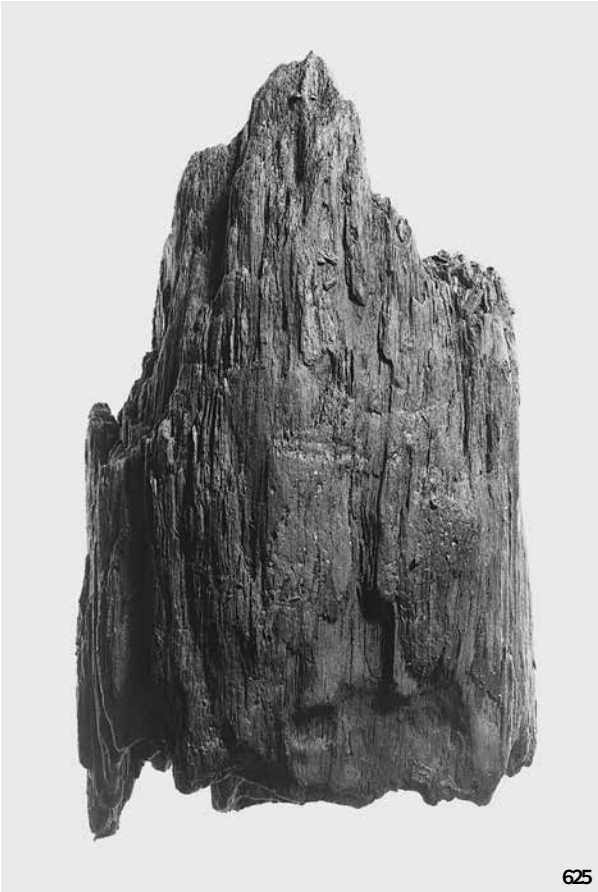
389

390

394

木製品（３）柱痕等

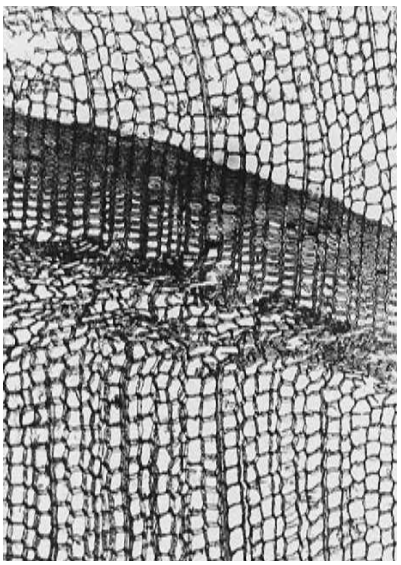
395


625

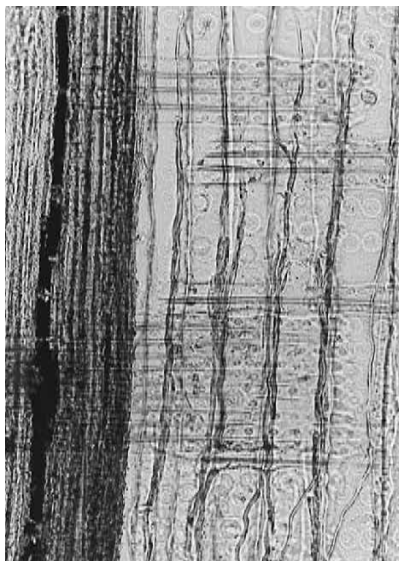
617

618

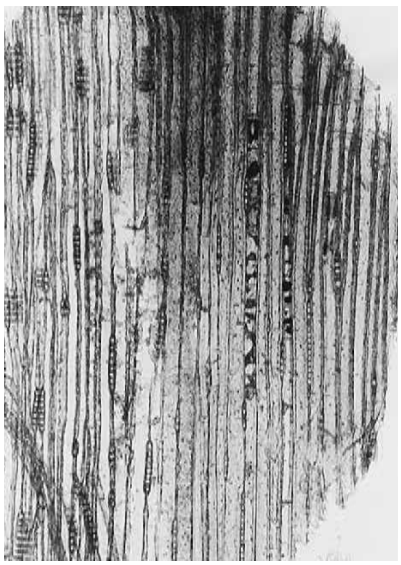
木製品（４）柱痕等



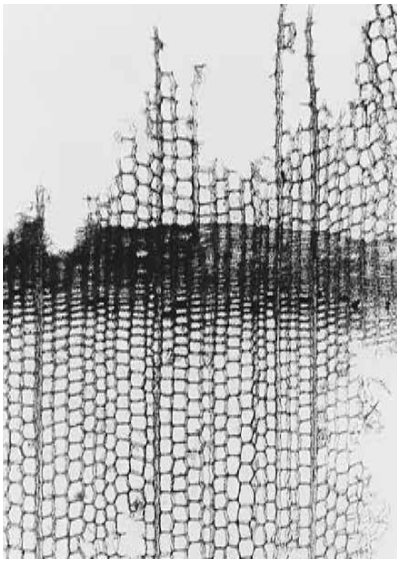
516（スギ）　木口



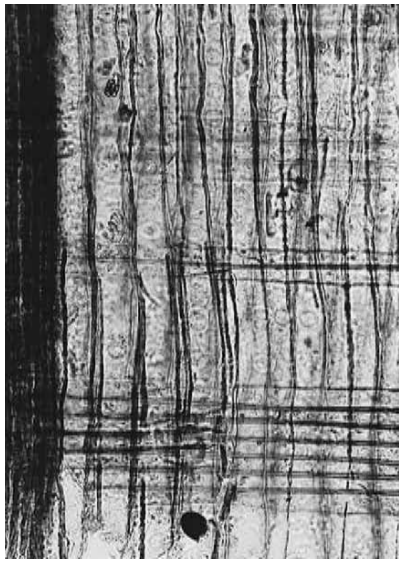
516　柾目



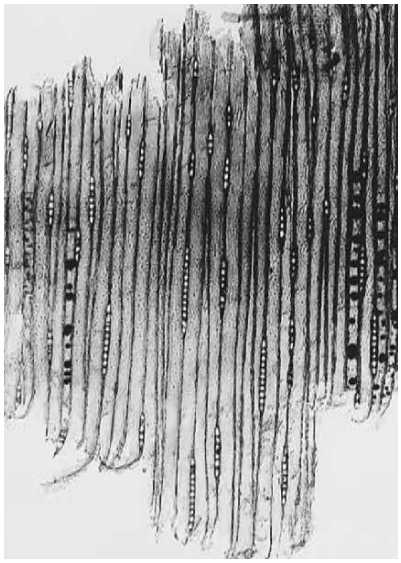
516　板目



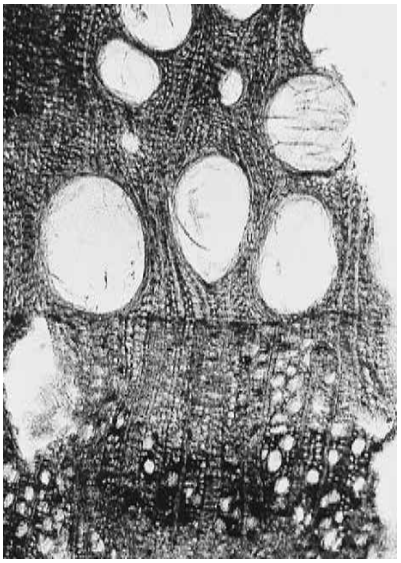
203（スギ）　木口



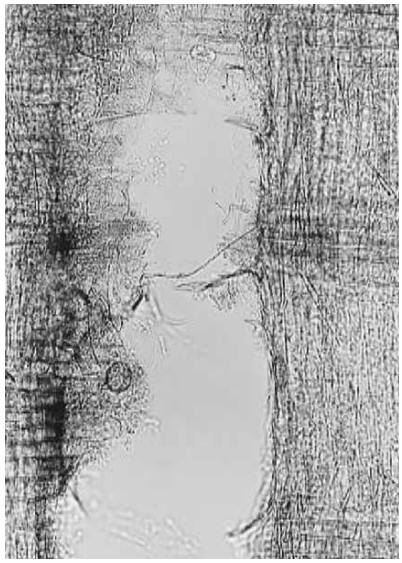
203　柾目



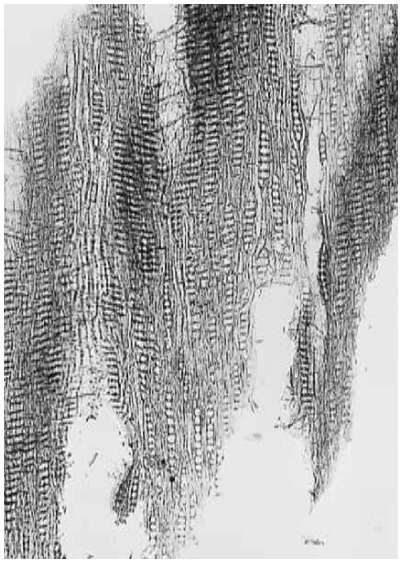
203　板目



396（クリ）　木口

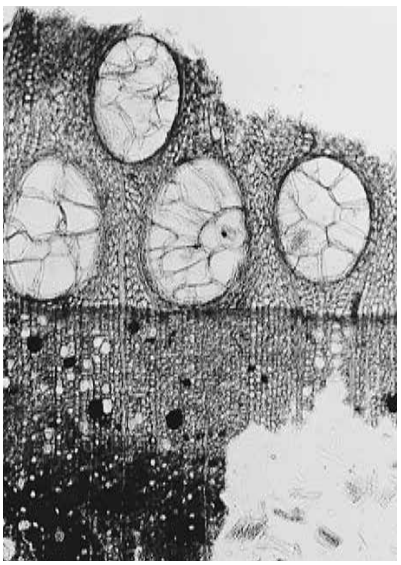


396　柾目

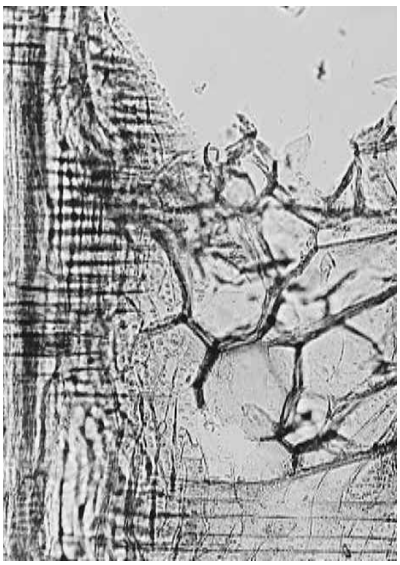


396　板目

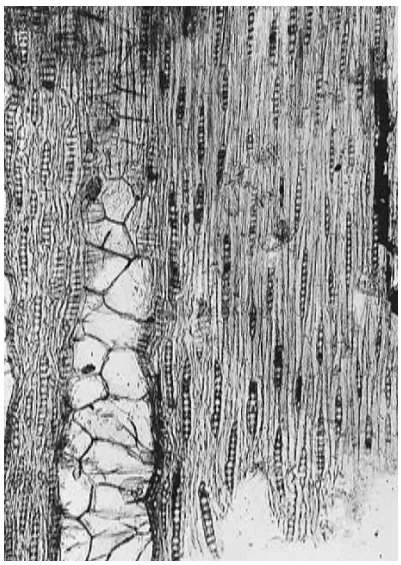
木製品　顕微鏡写真（１）



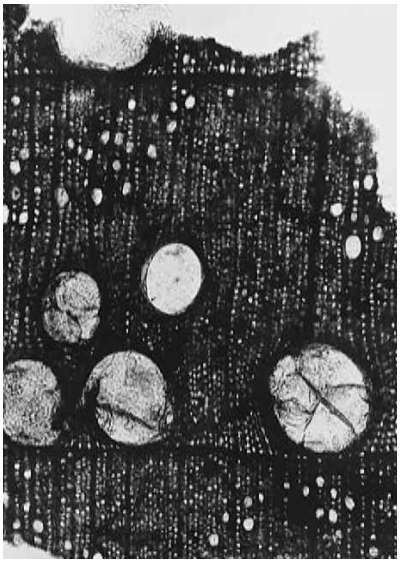
380（クリ）　木口



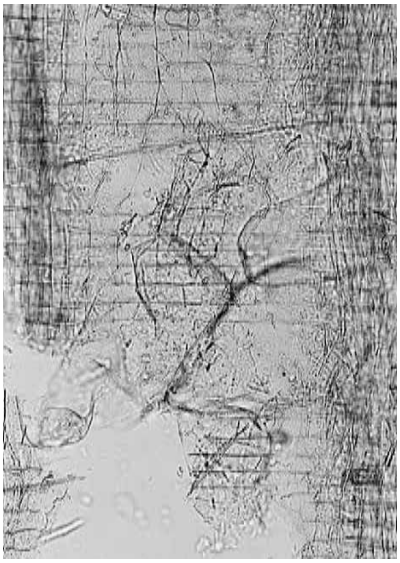
380　柾目



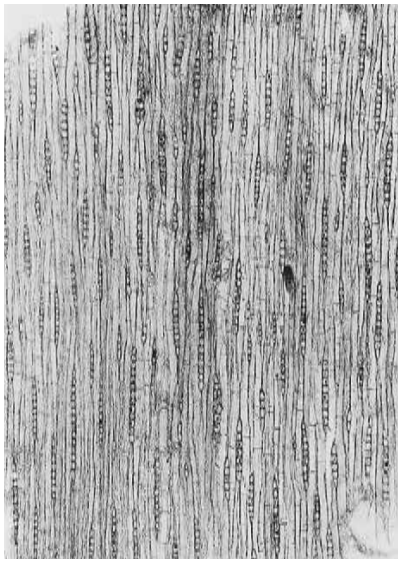
380　板目



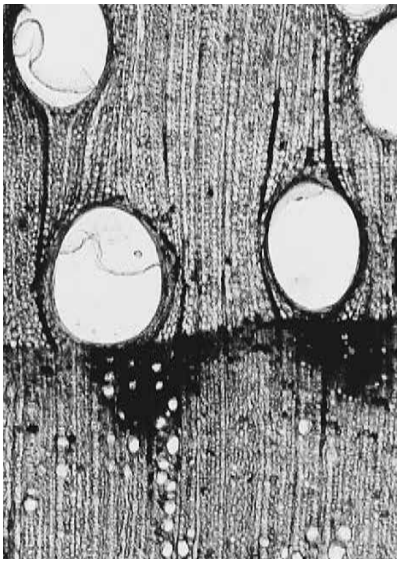
387（クリ）　木口



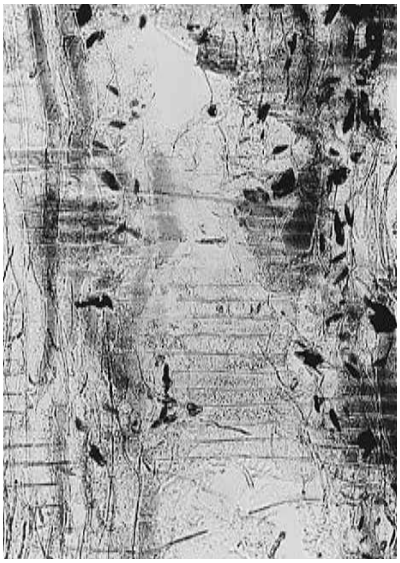
387　柾目



387　板目



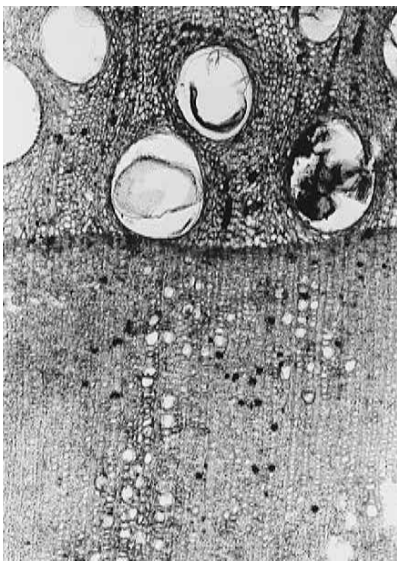
385（クリ）　木口



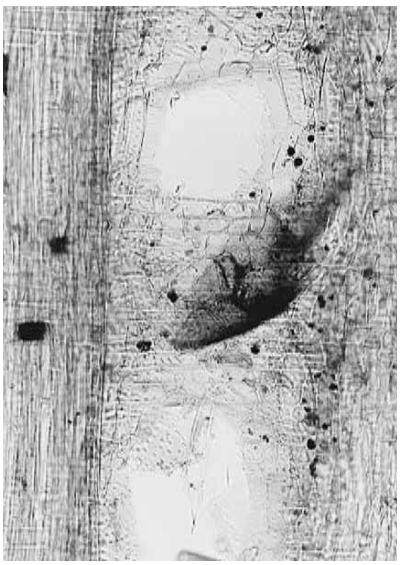
385　柾目

385　板目

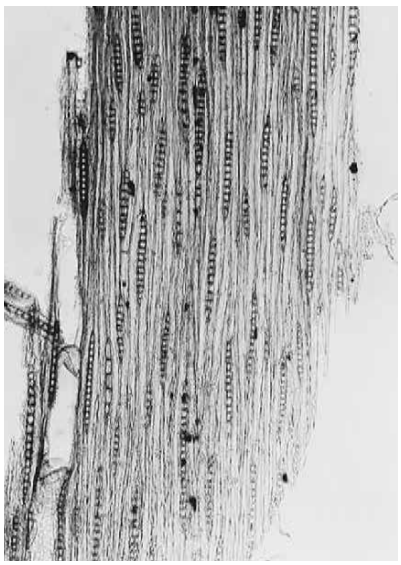
木製品　顕微鏡写真（２）



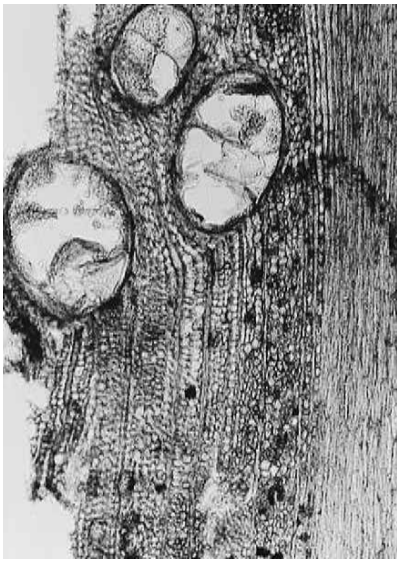
394（クリ）　木口



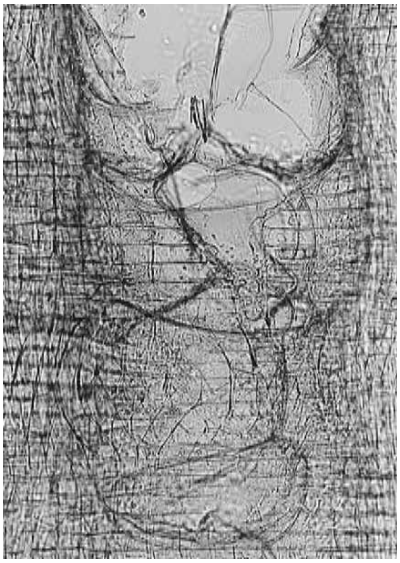
394　柾目



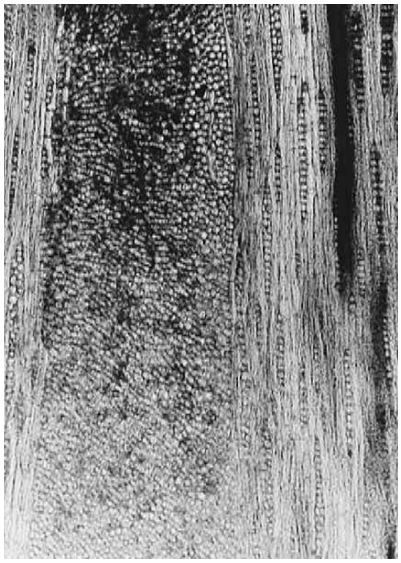
394　板目



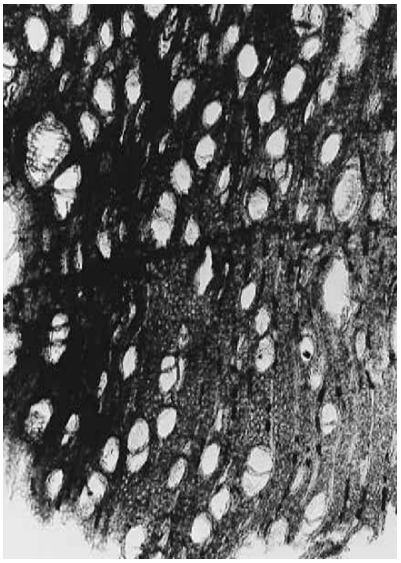
386（コナラ）　木口



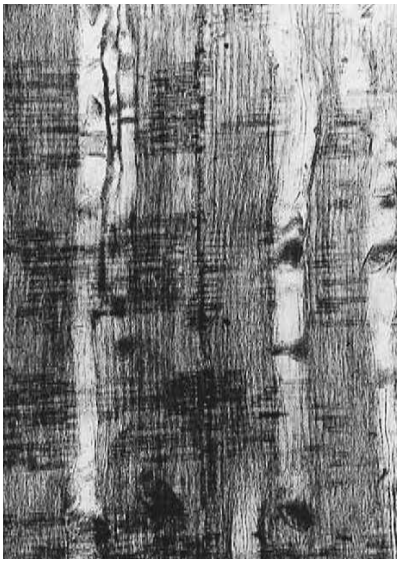
386　柾目



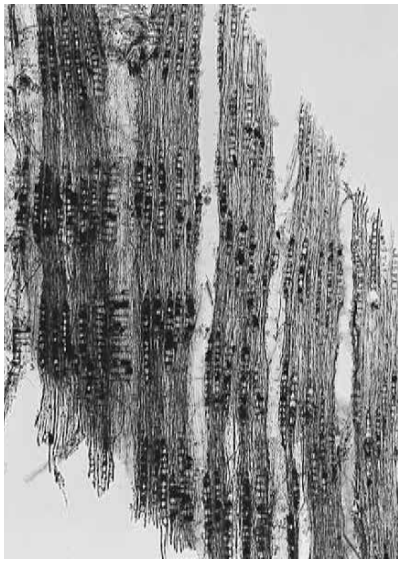
386　板目



507（トチノキ）　木口

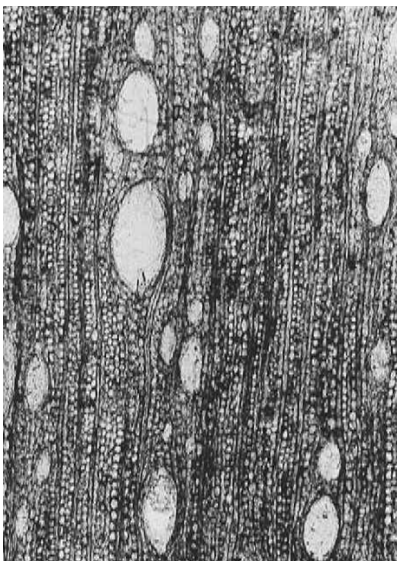


507　柾目

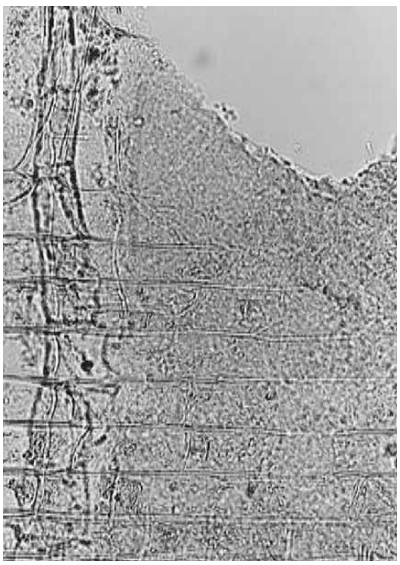


507　板目

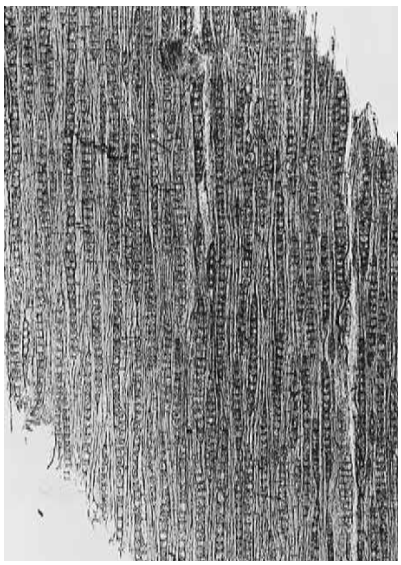
木製品　顕微鏡写真（３）



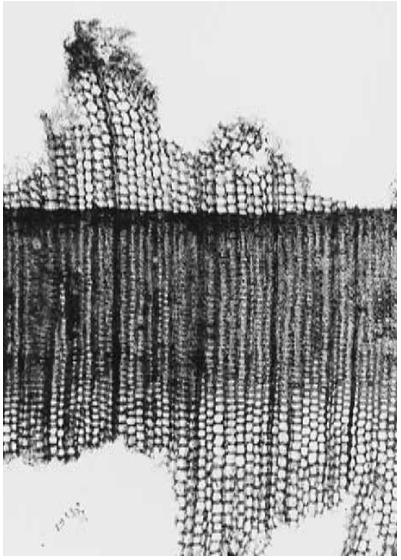
617（クリ）　木口



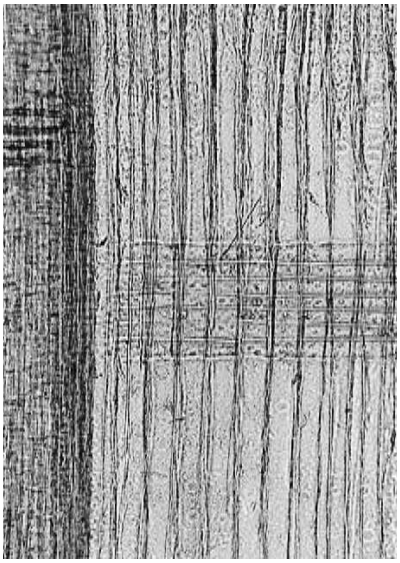
617　柾目



617　板目

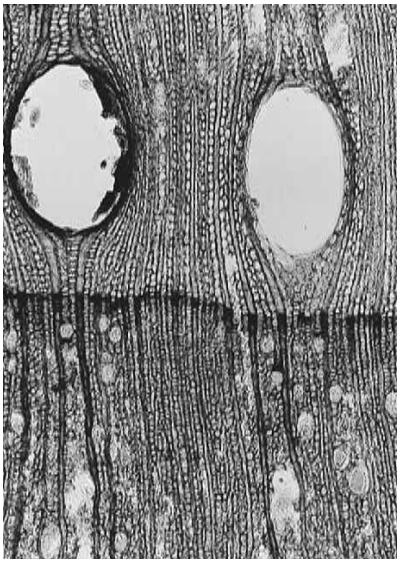


618（アスナロ）　木口



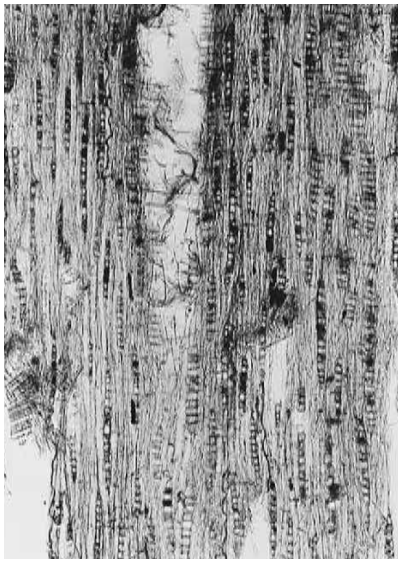
618　板目

618　板目



625（クリ）　木口

625　柾目



625　板目

木製品　顕微鏡写真（４）

報告書抄録

ふ り が な	まとばいせきだいに・さんじはっくつちょうさほうこくしょ
書　　名	的場遺跡第２・３次発掘調査報告書
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	山形県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第126集
編 集 者 名	犬飼　透　齋藤　健　黒坂広美
編 集 機 関	財団法人山形県埋蔵文化財センター
所　在　地	〒999-3161　山形県上山市弁天二丁目15番１号　TEL　023-672-5301
発行年月日	2004年３月26日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 （㎡）	調査原因
		市町村	遺跡番号					
的場遺跡（まとばいせき）	山形県（やまがたけん） 天童市（てんどうし） 大字成生（おおあざなりう） 字的場（あざまとば）ほか	06210	295 （山形県 遺跡番号）	38度 22分 57秒	140度 20分 44秒	19980413 ～ 19991130	17,700	東北中央自動車道相馬・尾花沢線建設工事（上山～東根間）

種別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項
集落跡	古墳時代 中期	竪穴建物跡 平地式建物跡 土坑 河川跡	土師器 須恵器 石製品	古墳時代中期の土師器を多量に伴う竪穴建物跡が多数検出された。一部はカマドを有し、同時代の須恵器も出土している。そのほか古墳時代の平地式建物跡や、平安時代前期の遺構が検出され、墨書土器も出土した。 （総出土箱数：309）
	平安時代 前期	竪穴建物跡 掘立柱建物跡 井戸跡 畝跡	土師器 須恵器 木製品	
	中世～近世	井戸跡	陶器・磁器	

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第126集

的場遺跡第２・３次発掘調査報告書

2004年３月26日発行

発行　財団法人　山形県埋蔵文化財センター
〒999-3161　山形県上山市弁天二丁目15番１号
電話　023-672-5301
印刷　中央印刷株式会社
〒990-0051　山形市銅町一丁目１番５号
電話　023-631-5533